２０２５年度

シ ラ バ ス

聖 靈 女 子 短 期 大 学

生活文化科生活文化専攻《２０２５年度生　１年次開講科目》

科　目　名	頁	科　目　名	頁
[教養教育科目全学共通]		日本文化史Ａ	61
キリスト教学Ⅰ	1	日本文化史Ｂ	62
情報と社会	2	スポーツ科学Ａ	63
体験学習※	3	スポーツ科学Ｂ	64
キャリアデザインⅠ（就職コース）	4	アメリカ文化Ａ	65
キャリアデザインⅠ（進学コース）	5	ドイツ語圏文化Ｂ	66
職場体験学習※	6	地域リーダーシップ論	67
情報システム論	7	市民生活論	68
国語表現Ⅰ	8	**[専門教育科目　食を中心とする生活文化分野]**	
[専門教育科目　語学文学分野]		食生活論	69
サービスラーニング	17	食品と調理	70
海外語学研修	18	調理演習Ａ	本年度開講せず
Basic English Skills Ⅰ	19	調理演習Ｂ	71
Basic English Skills Ⅱ	20	**[専門教育科目　デザイン分野]**	
Listening Ⅰ	21	基礎デザイン論	72
Listening Ⅱ	22	色彩デザイン演習	73
Oral Communication Ⅰ	23	コンピュータグラフィックス	74
Oral Communication Ⅱ	25	グラフィックデザイン演習	76
Writing	26	**[専門教育科目　ビジネス分野]**	
TOEFL Ⅰ※	27	基礎経済論	77
TOEIC L&R A※	28	時事経済	78
TOEIC L&R B※	29	食料経済	79
Global Issues Ⅰ	30	秘書学概論	81
ドイツ語Ⅰ	31	秘書実務Ⅰ	82
ドイツ語Ⅱ	32	ビジネス実務総論	83
韓国語Ⅰ	33	ビジネス実務演習Ⅰ	84
韓国語Ⅱ	34	国際開発ビジネス	85
中国語Ⅰ	35		
中国語Ⅱ	36		
[専門教育科目　情報文化分野]			
Webプログラミング	37		
表計算活用	38		
ワードプロセッサ活用学Ａ	39		
ＩＣＴ基礎	40		
情報科学入門	41		
Python Ⅰ	42		
[専門教育科目　教養文化分野]			
心理学Ａ	43		
心理学Ｂ	45		
哲学Ａ	47		
哲学Ｂ	48		
日本文学Ａ	49		
日本文学Ｂ	51		
日本国憲法	53		
法学	54		
人間関係論	55		
リーダーシップのコーチングＡ	56		
リーダーシップのコーチングＢ	57		
比較文化Ａ	58		
比較文化Ｂ	59		
グローバル世界と地域文化Ｂ	60		

注）※印が付いている科目は、実務経験のある教員が担当する授業科目である。

生活文化科生活文化専攻《２０２４年度生　２年次開講科目》

科　目　名	頁	科　目　名	頁
[教養教育科目全学共通]			
キリスト教学Ⅱ	10		
リーダーシップ論	11		
キャリアデザインⅡ（就職コース）	12		
キャリアデザインⅡ（進学コース）	13		
国語表現Ⅱ	15		
職場体験学習※	6 頁参照		
[専門教育科目必修]			
卒業研究	86		
[専門教育科目　語学文学分野]			
Basic English Skills Ⅲ	95		
Basic English Skills Ⅳ	96		
Oral Communication Ⅲ	97		
Oral Communication Ⅳ	98		
TOEFL Ⅱ※	99		
Essay and Speech※	100		
ドイツ語Ⅲ	101		
ドイツ語Ⅳ	102		
韓国語Ⅲ	103		
韓国語Ⅳ	104		
[専門教育科目　情報文化分野]			
データベース活用	105		
データサイエンス入門※	106		
ワードプロセッサ活用学Ｂ	107		
Web ページ作成Ⅰ	108		
Web ページ作成Ⅱ	109		
Python Ⅱ	110		
[専門教育科目　教養文化分野]			
グローバル世界と地域文化Ａ	111		
アメリカ文化Ｂ	112		
ドイツ語圏文化Ａ	66 頁参照		
国内インターンシップ	113		
海外インターンシップ	114		
アジア海外演習	本年度開講せず		
[専門教育科目　食を中心とする生活文化分野]			
現代家族論※	115		
保育学	117		
[専門教育科目　ビジネス分野]			
秘書実務Ⅱ	118		
ビジネス実務演習Ⅱ	119		
アメリカビジネス文化	本年度開講せず		
韓国ビジネス文化	本年度開講せず		

注）※印が付いている科目は、実務経験のある教員が担当する授業科目である。

生活文化科生活こども専攻《２０２５年度生　１年次開講科目》

科　目　名	頁	科　目　名	頁
[教養教育科目必修]			
キリスト教学Ⅰ	1 頁参照		
情報と社会	2 頁参照		
体験学習※	3 頁参照		
キャリアデザインⅠ（就職コース）	4 頁参照		
キャリアデザインⅠ（進学コース）	5 頁参照		
情報システム論	7 頁参照		
国語表現Ⅰ	8 頁参照		
[外国語科目]			
英語Ａ	120		
英語Ｂ	121		
[体育科目]			
体育講義	122		
体育実技	123		
[教養教育科目選択]			
サービスラーニング	17 頁参照		
日本国憲法	53 頁参照		
海外語学研修	18 頁参照		
[専門教育科目　必修]			
保育原理	124		
社会的養護Ⅰ	125		
教育原理※	126		
教育心理学	128		
こどもの保健	130		
[専門教育科目　選択]			
こどもの健康と安全	131		
保育内容総論	132		
保育内容・人間関係	133		
保育内容・言葉Ａ	135		
保育内容・表現（音楽Ａ）	137		
乳児保育Ⅰ	138		
乳児保育Ⅱ	139		
社会的養護Ⅱ	140		
保育内容・表現（身体Ａ）	141		
保育内容・表現（身体Ｂ）	142		
保育内容・表現（造形Ａ）	143		
保育内容・表現（造形Ｂ）	144		
こどもの音楽Ａ	145		
こどもの音楽Ｂ	146		
保育実習指導Ⅰ※	147		
保育実習ⅠＡ※	148		
教職概論(幼稚園･保育所)	149		
幼稚園教育実習指導※	150		
幼稚園教育実習※	151		
人間関係論	55 頁参照		

注）※印が付いている科目は、実務経験のある教員が担当する授業科目である。

生活文化科生活こども専攻《２０２４年度生　２年次開講科目》

科　目　名	頁	科　目　名	頁
[教養教育科目全学共通]		ＩＣＴ教育演習	192
キリスト教学Ⅱ	10 頁参照	海外保育実習	193
リーダーシップ論	11 頁参照	インクルーシブ保育	194
キャリアデザインⅡ（就職コース）	12 頁参照	ＳＤＧｓ実践演習※	195
キャリアデザインⅡ（進学コース）	13 頁参照		
[教養教育科目選択]			
情報処理演習	152		
データサイエンス入門※	106 頁参照		
国語表現Ⅱ	15 頁参照		
哲学Ａ	47 頁参照		
哲学Ｂ	48 頁参照		
法学	54 頁参照		
比較文化Ａ	58 頁参照		
比較文化Ｂ	59 頁参照		
日本文化史Ａ	61 頁参照		
日本文化史Ｂ	62 頁参照		
リーダーシップのコーチング	153		
クローバル教養	154		
[専門教育科目　必修]			
社会福祉※	155		
こども家庭福祉※	156		
こども家庭支援論	158		
[専門教育科目　選択]			
こども家庭支援の心理学	160		
こどもの理解と援助	162		
こどもの食と栄養	164		
保育指導法	165		
保育内容・健康	166		
保育内容・環境Ａ	167		
保育内容・環境Ｂ	168		
保育内容・言葉Ｂ	169		
保育内容・表現（音楽Ｂ）	171		
特別支援教育	172		
子育て支援	175		
こどもの英語	176		
鍵盤楽器奏法Ａ	本年度開講せず		
鍵盤楽器奏法Ｂ	本年度開講せず		
教職実践演習(幼稚園･保育所)	177		
保育実習ＩＢ※	178		
保育実習指導ⅡＡ※	179		
保育実習指導ⅡＢ※	180		
保育実習ⅡＡ※	181		
保育実習ⅡＢ※	182		
教育制度論※	183		
教育課程総論	184		
教育方法論	186		
幼児理解	188		
教育相談	189		
幼稚園教育実習指導※	190		
幼稚園教育実習※	151 頁参照		
地域・遊び実践演習	191		

注）※印が付いている科目は、実務経験のある教員が担当する授業科目である。

生活文化科健康栄養専攻《２０２５年度生　１年次開講科目》

科　目　名	頁	科　目　名	頁
[教養教育科目　必修]		栄養学総論	204
キリスト教学Ⅰ	1 頁参照	ライフステージ栄養学	205
情報と社会	2 頁参照	給食管理	206
体験学習※	3 頁参照	調理学	207
キャリアデザインⅠ（就職コース）	4 頁参照	**[専門教育科目　選択]**	
キャリアデザインⅠ（進学コース）	5 頁参照	食品学実験	208
情報システム論	7 頁参照	食品加工衛生学実験	209
国語表現Ⅰ	8 頁参照	基礎調理実習	210
[教養教育科目　選択]		応用調理実習	211
職場体験学習※	6 頁参照	食生活論	69 頁参照
Web プログラミング	37 頁参照	学校栄養教育論	212
表計算活用	38 頁参照	**[卒業所要単位に含まれない科目]**	
ＩＣＴ基礎	40 頁参照	教職概論	235
情報科学入門	41 頁参照	教育原理※	236
ワードプロセッサ活用学Ａ	39 頁参照	教育制度論	238
サービスラーニング	17 頁参照	教育心理学	239
心理学Ａ	43 頁参照	特別支援教育※	240
心理学Ｂ	45 頁参照	教育課程総論	242
哲学Ａ	47 頁参照	教育方法論	243
哲学Ｂ	48 頁参照	道徳・特別活動及び総合的な学習	244
日本文学Ａ	49 頁参照		
日本文学Ｂ	51 頁参照		
基礎経済論	77 頁参照		
時事経済	78 頁参照		
日本国憲法	53 頁参照		
法学	54 頁参照		
人間関係論	55 頁参照		
リーダーシップのコーチングＡ	56 頁参照		
リーダーシップのコーチングＢ	57 頁参照		
比較文化Ａ	58 頁参照		
比較文化Ｂ	59 頁参照		
グローバル世界と地域文化Ｂ	60 頁参照		
日本文化史Ａ	61 頁参照		
日本文化史Ｂ	62 頁参照		
秘書学概論	81 頁参照		
秘書実務Ⅰ	82 頁参照		
ビジネス実務総論	83 頁参照		
ビジネス実務演習Ⅰ	84 頁参照		
総合基礎（教職）Ａ	本年度開講せず		
スポーツ科学Ａ	63 頁参照		
スポーツ科学Ｂ	64 頁参照		
[外国語科目]			
英語Ａ	196		
英語Ｂ	197		
[専門教育科目　必修]			
解剖生理学Ⅰ	198		
解剖生理学Ⅱ	199		
生化学	200		
食品学総論	201		
食品学各論	202		
食品衛生学	203		

注）※印が付いている科目は、実務経験のある教員が担当する授業科目である。

生活文化科健康栄養専攻《２０２４年度生　２年次開講科目》

科　目　名	頁	科　目　名	頁
[教養教育科目全学共通]			
キリスト教学Ⅱ	10 頁参照		
リーダーシップ論	11 頁参照		
キャリアデザインⅡ（就職コース）	12 頁参照		
キャリアデザインⅡ（進学コース）	13 頁参照		
[教養教育科目　選択]			
食と栄養の実践演習	213		
職場体験学習	6 頁参照		
データベース活用	105 頁参照		
データサイエンス入門※	106 頁参照		
ワードプロセッサ活用学B	107 頁参照		
国語表現Ⅱ	15 頁参照		
クローバル社会と地域文化A	111 頁参照		
秘書実務Ⅱ	118 頁参照		
ビジネス実務演習Ⅱ	119 頁参照		
総合基礎（教職） B	本年度開講せず		
[外国語科目]			
英語C	本年度開講せず		
英語D	本年度開講せず		
[専門教育科目　必修]			
社会福祉概論	214		
公衆衛生学	215		
運動生理学	216		
臨床栄養学Ⅰ	217		
臨床栄養学Ⅱ	218		
スポーツ栄養学	219		
公衆栄養学	220		
栄養指導論	221		
ライフステージ栄養指導論	222		
[専門教育科目　選択]			
解剖生理学実験※	223		
生化学実験	224		
栄養学実習	225		
ライフステージ栄養学実習	226		
臨床栄養学実習※	227		
栄養指導実習※	228		
ライフステージ栄養指導実習※	229		
給食管理実習Ⅰ※	230		
給食管理実習Ⅱ※	231		
食料経済	79 頁参照		
調理学実験	232		
フードコーディネート論	233		
食品の官能評価・鑑別演習	234		
簿記	80 頁参照		
[卒業所要単位に含まれない科目]			
生徒指導	245		
教育相談	246		
栄養教育実習指導	247		
栄養教育実習※	248		
教職実践演習（栄養教諭）	249		

注）※印が付いている科目は、実務経験のある教員が担当する授業科目である。

＜シラバスの到達目標におけるディプロマポリシー（DP）の表記について＞

ディプロマポリシー（DP：Diploma Policy）とは、学科・専攻が、学生のみなさんに卒業時に身につけてほしい能力と、学位授与の基準を示す基本的な方針です。本講義・演習では、学力の 3 要素に基づき、以下の 3 つの能力の育成を目標としています。各講義項目の到達目標の末尾に、関連する DP を（DP1)、(DP2)、(DP3）のように記載しています。これらの DP は、みなさんが授業でどのような能力を身につけることを求められているのかを把握するための参考になります。

○DP1：基礎的な知識・技能の習得
- ・専門分野における基本的な概念や理論の理解
- ・必要な知識や技能の習得

○DP2：思考力・判断力・表現力の育成
- ・論理的思考力、批判的思考力、創造的思考力の育成
- ・課題発見、問題解決、意思決定などの能力の習得
- ・文章、口頭、プレゼンテーションなどによる表現力の向上

○DP3：主体性・多様性・協働性の涵養
- ・主体的な学習態度の育成
- ・多様な価値観や文化の理解
- ・他者と協力し、チームで課題を解決する能力の習得

科　目　名	キリスト教学Ⅰ	担当者	Mathew Philip
区　分　等	１年次・後期［講義］２単位　必修／全学		
評価基準	受講態度（20%）、中間レポート（20%）、毎授業のリアクションペーパー（20%）、学期末試験（記述式）（40%）		
課題に対するフィードバック	毎授業のリアクションペーパー等を随時授業で取り上げコメントする。		
目　　的	・宗教そのものの深い理解を目指し、宗教の定義、キリスト教とはいかなる宗教であるか、発展とその特徴、神の存在の意義を通して考えを深める。 ・人間とは何か、人としてどう生きるべきか、をキリスト教思想において考え、真に大切なものへの価値観を深める。		
到達目標	・宗教の概念を理解している。(DP1,DP2) ・キリスト教について、聖書を中心にイエス・キリストの生涯、教え、今日までの成立過程を理解している。(DP1,DP2) ・現代でキリスト教の精神を生きるとはどのようなことなのかを理解している。(DP1,DP2)		
履修上の注意	なし		
オフィスアワー	毎週火曜日 13:00～15:00		

授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	ガイダンス、宗教とは	・自分と宗教、宗教について知っていること、自分の考えをまとめる。(1時間) ・配布資料を復習し、重要語句を確認し，内容を整理する。(0.5時間)
2	キリスト教とは	・キリスト教について知っていることを考え、キリスト教に持っている自分のイメージをまとめる。(1時間) ・配布資料を通覧し，疑問点や意見等をメモしておく。(0.5時間) 間
3	聖書という書物Ⅰ（旧約聖書）	・聖書全般について知っていること、自分の考えをまとめておく。（1時間） ・配布資料を通覧し，疑問点や意見等をメモしておく。（0.5時間）
4	聖書という書物II（新約聖書）	・新約聖書について知っていること、自分の考えをまとめておく。(1時間) ・配布資料を通覧し、疑問点や意見等をメモしておく。(0.5時間)
5	イエス・キリストの生き方I―受肉と誕生	・指定した聖書箇所を読んで疑問点や感じたことをまとめる。(1時間)
6	イエス・キリストの生き方II―使命と活動	・指定した聖書箇所を読んで疑問点や感じたことをまとめる。(1時間)
7	イエス・キリストの生き方III―愛といのち 中間レポート（授業内で実施）	・キリスト教における愛といのちとは何か自分の考えをまとめておく。(1時間) ・中間レポートのテーマを調べ、学習して自分の考えをまとめておく。(1時間)
8	イエス・キリストの生き方IV-死と復活	・指定した聖書箇所を読んで疑問点や感じたことをまとめる。(0.5時間) ・キリスト教における死と復活とは何か自分の考えをまとめておく。（1時間）
9	キリスト教の広まり、使徒の活躍	・配布資料を復習し、重要語句を確認し，内容を整理する。(1時間)
10	キリスト教の生き方	・配布資料を復習し、重要語句を確認し，内容を整理する。(1時間)
11	キリスト教と信仰I―キリスト教を生きた人々	・信仰を生きるとは何か自分の考えをまとめておく。(1時間) ・配布資料を復習し、重要語句を確認し，内容を整理する。(0.5時間)
12	キリスト教と信仰II ―現代のキリスト教	・現代世界で見られるキリスト教について知っていること、自分の考えをまとめておく。(1時間)
13	日本におけるキリスト教	・日本のキリスト教や歴史について知っていること、自分の考えをまとめておく。(1時間)
14	キリスト教とわたしたち キリスト教芸術	・キリスト教の芸術（美術、音楽)、今の社会とキリスト教の繋がりについて知っていること、自分の考えをまとめておく。(1時間)
15	まとめ	・これまでの配布資料を復習し、重要語句を確認し、疑問点、内容を整理する。(1時間) ・事前に出されるテーマから学期末試験（記述式）の準備。(1時間)

テキスト	授業ごとに資料を配布する。授業内で参考文献を適宜紹介する。
指定図書	なし

科　目　名	**情報と社会**	担当者	米山修司
区　分　等	1年次・後期［講義］1単位　必修／全学		
評価基準	① 確認問題(40%)　② リアクションペーパー(40%) ③ グループワークへの取り組み姿勢(10%)　④ プレゼンテーション(10%)		
課題に対するフィードバック	提出物については、採点を行った上でGoogle Classroom を用いて返却する。		
目　　的	① 社会の変化をデジタル化の視点から考え、ビッグデータやAIの利活用により社会システムが大きく変わりつつあることを理解する。 ② データ駆動型社会のリスクについて正しく理解する。 ③ 情報倫理、個人情報保護、情報セキュリティ等の知識を身につけ、情報化社会の中で責任をもって正しく判断する力を養う。		
到達目標	① 情報化社会の中で、データやAIがどのように活用されているか実例を挙げ、その有用性とリスクについて考え、説明することができる。(DP1) ② データ・AIを利活用する際に生ずる課題を理解し、これらを扱うときに求められるモラル・倫理について説明できる。(DP1) ③ 情報セキュリティや個人情報保護に関する基礎的な知識を身につける。(DP1)		
履修上の注意	① 授業の一部に外部講師による講演が含まれる予定。 ② 本科目は全8回のため、単位取得のためには、7回以上の出席が必要。 ③ 事例調査のグループワークでは、協調性のある行動が求められる。		
オフィスアワー	金曜日　14:45～16:15		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	● 第4次産業革命とSociety5.0 ● DX ● IoT ● データ駆動型社会の特徴 ● 社会で収集・活用されているデータ	予習：不要 （本科目は予習が不要。第2回以降も同様で記載を省略。） 復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2時間) テキスト該当箇所：P.04～07(ICT分野の動向) P.10～11(ソーシャルメディアの活用) P.22～23(位置情報システムの活用) P.34～35(キャッシュレス決済) P.46～47(個人データの活用) P.72～73(個人情報と知的財産) P.82～83(DX)
2	● AI(人口知能)が社会に与える影響 ● 生成AI	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2時間) テキスト該当箇所：P.18～19(情報の信ぴょう性) P.46～47(個人データの活用)
3	● 社会におけるデータ・AIの利活用の事例	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2時間) テキスト該当箇所：P.46～47(個人データの活用) P.82～83(DX)
4	● 「SDGsの開発目標の課題解決に寄与する情報技術」の事例調査 (グループワーク)	復習：事例調査と発表資料の作成(2時間)
5	● ELSI ● 情報倫理 ● データ駆動型社会のリスクと課題 ● 人間中心のAI社会原則	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2時間) テキスト該当箇所：P.10～11(ソーシャルメディアの活用) P.14～15(ネット上のコミュニケーション) P.16～17(情報の選択と活用) P.46～47(個人データの活用) P.68～69(ネット社会のモラルとマナー) P.82～83(DX)
6	● 情報セキュリティ	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2時間) テキスト該当箇所：P.18～19(情報の信ぴょう性) P.36～37(不当請求・オンライン詐欺) P.40～41(個人情報と情報提供) P.60～61(コンピュータウイルス) P.62～63(アクセス制御と不正アクセス)
7	● 個人情報保護 ● 個人情報を利用した技術 ● 著作権とライセンス ● AIと著作権の関係 ● オープンデータ	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2時間) テキスト該当箇所：P.44～45(個人情報の保護) P.46～47(個人データの活用) P.48～49(文章や画像の利用) P.54～55(個人認証)
8	● 調査結果の発表とまとめ	復習：講義の総復習(2時間)

テキスト	佐藤万寿美　ほか『超スマート社会を生きるための情報倫理&セキュリティ』(実教出版)
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	**体験学習**	担当者	大曽基宣
区　分　等	１年次・通年［演習］１単位　必修／全学		
評価基準	①　受講・参加態度、特に地域や施設活動における主体性、積極性（80%）。 ②　活動報告書[２回提出]（20%）。		
課題に対するフィードバック	随時、コメントをする。		
目　　的	建学の精神が目指す隣人愛を体験に基づいて理解する。他者と関わり、生まれながら与えられているリーダーシップの能力に気づき、地域ネットワークや活動プラットフォームの立ち上げ方を学ぶ。今、重要視される情報発信と地域活性化スキルを学び、助けを必要とする地元の事業や人々と接することを通して、共生社会実現への関心を深め、地域問題の解決に自己の役割に気づく。		
到達目標	1.援助を必要とする事業や人と接するとき、助けの手を惜しまない者になる。(DP3) 2.共生社会がどれほど実現しているか、地域社会の現状についての知見を得、困難にある人との連帯の可能性を知る。(DP1,DP2) 3.地域の事業者や困っている人と住民を情報で繋ぐことが出来るようになる。(DP2,DP3) 4.活動プラットフォームの立ち上げが出来るようになる。(DP2,DP3) 5.挨拶、礼儀など社会生活上求められることを実行できるようになる。(DP2,DP3)		
履修上の注意	1.単位取得には１回のイベントの実施が必要であり、学外イベントや所定の活動を欠課した場合、その分を補う奉仕活動を行う。 2.木曜午後に授業および活動を１４回実施。それに加え１２月「クリスマスの日」に地域貢献活動を行う。		
オフィスアワー	金曜日　１６時２０分～１６時５０分		

授業計画　※木曜午後「年間計画」参照。		**準備学習（予習・復習）の内容および、時間**
1	オリエンテーション －プロジェクト説明、グループ作成-	復習：プロジェクト実施スケジュールの素案作成個人ワーク（2h）
2	プラットフォーム構築の理論	予習：プラットフォーム構築の概念調査（1h） 復習：プラットフォーム構築の事例調査（1h）
3	プラットフォーム構築の計画立案	予習：プラットフォーム構築計画個人ワーク（1h） 復習：プラットフォーム構築計画（1h）
4	プロジェクト活動の計画立案	予習：プロジェクト活動計画個人ワーク（1h） 復習：プロジェクト活動計画再考（1h）
5	プロジェクト活動準備 －進捗状況確認、資料収集－	予習：プロジェクト活動資料収集個人ワーク（1h） 復習：プロジェクト活動資料収集個人ワーク（1h）
6	プロジェクト活動準備 －進捗状況確認、資料分析－	予習：プロジェクト活動資料分析個人ワーク（1h） 復習：プロジェクト活動資料分析個人ワーク（1h）
7	プロジェクト活動準備 －進捗状況確認、教材研究、ブース内容作成－	予習：プロジェクト活動教材考案班ワーク（1h） 復習：プロジェクト活動教材再考班ワーク（1h）
8	プロジェクト活動準備 －進捗状況確認、教材やブース内容の修正－	予習：プロジェクト活動ブース案再考班ワーク（1h） 復習：プロジェクト活動購入物品再考班ワーク（1h）
9	プロジェクト活動準備 －進捗状況確認、事前打ち合わせ－	予習：プロジェクト活動修正個人ワーク（1h） 復習：プロジェクト活動修正班ワーク（1h）
10	プロジェクト活動準備 －進捗状況確認、会場設営－	予習：活動レイアウト修正個人ワーク（1h） 復習：活動調査票再考班ワーク（1h）
11	プロジェクト活動 －実践：学内外－	予習：役割分担と活動に必要な準備班ワーク（1h） 復習：活動の片付け班ワーク（1h）
12	プロジェクト活動 －実践と振り返り：学内外－	予習：活動調査票・記録入力班ワーク（1h） 復習：活動報告まとめ班ワーク（1h）
13	地域貢献活動 －地域の子どもへのクリスマスカード作成-	予習：クリスマスカードレイアウト作成（1h） 復習：クリスマスカード提出日程調整・連絡班ワーク（1h）
14	プロジェクト活動の報告	予習：活動報告まとめ班ワーク（1h） 復習：他グループの活動考察個人ワーク（1h）
15	プロジェクト活動の省察	予習：活動・発表内容振り返り個人ワーク（1h） 復習：今後の展望まとめ個人ワーク（1h）

テキスト	なし
指定図書	なし

※実務経験のある教員による授業科目の教育内容
地域活動での実践的学習を通して、ネットワークの立ち上げや助けを必要とする人々と接して、共生社会実現への関心を深め、自己の役割に気づく。

科　目　名	**キャリアデザインⅠ（就職コース）**	担当者	佐藤　恵
区　分　等	１年次・通年［講義］１単位　必修／全学		
評 価 基 準	①レポート(70%) ②取組姿勢(30%)		
課題に対するフィードバック	空き時間に進路支援室で個別に指導する。		
目　　的	卒業後の進路や職業選択に向けて、いま自分自身で知っておかなければならないこと、社会人として準備しておかなければならないことを学び、行動するきっかけをつくる。		
到 達 目 標	キャリアおよびキャリアデザインの意味を理解する。(DP1,2) 近い将来の就職、自分が志望する職種、社会人像に向かうことができる。(DP3)		
履修上の注意	①就職希望と進学希望とでクラス分けする。 ②課題のレポート 100%提出を要す。		
オフィスアワー	前期：金曜日 13:00～16:30／　後期：月曜日 13:00～16:30		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	キャリアを考える	テキストを読んでキャリアについて考える（１時間)。
2	自己を考える	自分自身を表現する言葉や小さいころから興味関心のあることを書き出す（1 時間）
3	ＯＧ講演会（各専攻）	自分のロールモデルを見つけるため、多くの情報に接するように努める（1 時間）
4	自己理解のための就職模試・適性検査	結果を熟読し、適性を理解する（1 時間）
5	グループディスカッション	テキストを読んで、グループディスカッションのための準備をする（1 時間）就職活動の現状を理解し、自分の活動の軸について考える（1 時間）
6	就職戦線へ向けて(マイナビ)	就職活動の流れを確認し、説明会に参加する準備をする（１時間）
7	面接対策(マイナビ)	就職活動の現状を理解し、自分の活動の軸について考える（１時間）
8	就職活動体験発表	２年生の就職活動体験を聞き、今自分が準備すべきことを考える。

テキスト	水原道子編著『キャリアデザイン』(樹村房)
指定図書	なし

科　目　名	キャリアデザインⅠ（進学コース・英語）	担当者	近藤清兄
区　分　等	1年次・通年［講義］1単位　必修／全学		
評価基準	①　出席、授業態度等(80%) ②　まとめの教場小テスト(20%)		
課題に対するフィードバック	課題はコメントを付けた上で返却する。随時助言・提案を行う。		
目　的	四年制大学編入学に必要な英語力を身につける。		
到達目標	①編入学試験に必要な英語力を身につける。(DP1) ②文法の復習をしながら、構文を正しく把握できる力を身につける。(DP1)		
履修上の注意	①授業に英和辞書を持参すること。 ②毎回の授業に臨む前に、わからない単語は辞書で調べ、例文をあらかじめ訳してくること。		
オフィスアワー	火曜日 9 時～10 時 35 分、金曜日 14 時 45 分～16 時 15 分		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	Noodles[動名詞]	Unit1(2 時間)
2	Mysterious Object[受動態]	Unit2(2 時間)
3	Baskin-Robbins[不定詞]	Unit3(2 時間)
4	Dealing with “Claimers”[形容詞]	Unit4(2 時間)
5	Haunted Campus? [副詞]	Unit5(2 時間)
6	Solo Artists Are More Popular[比較級]	Unit6(2 時間)
7	Headphones[接続詞]	Unit7(2 時間)
8	まとめ(小テスト)	これまでの重要文法項目・語彙の復習(2 時間)

テキスト	Jonathan Lynch 他:”Read On, Think On [Basic Level]”(三修社)
指定図書	あり(巻末参照)

科　目　名	**職場体験学習**	担当者	伊藤雅子
区　分　等	１年次・不定期・集中［実習］１単位　選択／生活文化専攻、健康栄養専攻 ２年次・不定期・集中［実習］１単位　選択／生活文化専攻、健康栄養専攻		
評価基準	事前・事後指導を含んだ 45 時間以上の活動を対象とする。 活動証明書の指導責任者の所見、活動報告書などから総合評価する。		
課題に対するフィードバック	提出物（レポート）については、随時コメントを付けて返却する。		
目　　的	学生が実社会で必要となる専門知識および技術を職場で体験することにより学習し、自らが適応する職域を見つけ、問題意識・意欲の向上につなげる。		
到達目標	①事前学習により、職場体験学習の目的を理解し、個人の目標を明確にすることができる。 ②職場体験学習を通して実社会の現状を把握することができる。 ③職場体験学習を通して職場での職員間の連携の大切さを理解できる。 ④職場体験学習により、学習意欲の向上や職業観を身に付けることができる。 ⑤職場体験学習終了後、自らの経験や今後の学生生活の取組方針についてまとめることができる。		
履修上の注意	①活動証明書は事前に事務局から受け取り、活動場所で証明を受ける。 ②就業体験中は各施設の諸規定や規則を厳守し、指導者の指示に従う。 ③白衣または施設が指示した着衣を身に付け、身だしなみ、態度、言葉づかい等に注意する。 ④施設で知り得た情報を口外してはならない。 ⑤開始時間は厳重に守る。 やむを得ず欠席あるいは遅刻する場合には、指導者に必ず連絡する。 ⑥健康管理に注意する。 ⑦提出物の期限を厳守する。 ⑧インフルエンザ流行期に就業体験に臨む場合は事前に予防接種をする。		
オフィスアワー	月曜日 16 時～17 時		

授業計画	**準備学習（予習・復習）の内容および、時間**
実施の流れ 1. 職場体験学習の説明 2. 希望調査 3. 事前指導 4. 施設での事前面接 5. 就業体験 6. 報告書作成 7. 事後指導	健康栄養専攻の学生については就業活動に際し、食中毒予防のための食品の衛生、就業先の給食を提供する対象者の年代を踏まえた栄養的な特徴について理解する。

テキスト	なし
指定図書	なし

※実務経験のある教員による授業科目の教育内容
実務経験：管理栄養士として病院・福祉施設で勤務
教育内容：学生が実社会で必要となる専門知識および技術を職場で体験することにより学習し、自らが適応する職域を見つけ、問題意識・意欲の向上につなげる。

科　目　名	**情報システム論**	担当者	米山修司
区　分　等	１年次・前期［講義］２単位　必修／全学		
評 価 基 準	① 課題提出(60%)　② 定期試験(30%)　③ プレゼンテーション(10%)		
課題に対するフィードバック	提出物については、採点を行った上で Google Classroom を用いて返却する。また、Google Classroom のルーブリック機能を用いて、詳細なフィードバックを行う。		
目　　的	① オフィススイートを構成する基本的なアプリケーションソフトウェアであるワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトを利用する能力を養う。 ② 情報を適切に整理・加工し、発信するための能力を養う。 ③ インターネットを利用したコミュニケーションツールを扱う能力を養う。		
到 達 目 標	① レポート作成のための文書作成技術を身につける。(DP1, DP2) ② 目的に応じてデータを加工・集計する技術を身につける。(DP1, DP2) ③ プレゼンテーションのためのスライド作成技術を学び、豊かな表現力を身につける。(DP1, DP2, DP3) ④ インターネットを利用したビジネスコミュニケーションの技術を身につける。(DP1, DP2)		
履修上の注意	① この授業は複数のコマで開講されているが、学生ごとに受講するコマが指定されているので注意すること。 ② 新入生オリエンテーションで配布された Windows および Google の ID・パスワードの用紙を必ず持参すること。 ③ 第 11 回以降は、グループ演習を行う。グループ演習では、協調性のある行動が求められる。		
オフィスアワー	金曜日　14:45～16:15		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	● ガイダンス ● コンピュータの基本操作 ● ファイルシステムと拡張子 ● テキストエディタ(メモ帳) ● ラーニングマネジメントシステム(Google Classroom)	予習：不要 (本科目は予習が不要。第 2 回以降も同様で記載を省略。) 復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：第 1 章(Windows の基本操作)
2	● Web ブラウザ ● 電子メール(Gmail) ● ビジネスチャットツール(Google Chat) ● タッチタイピング	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：第 4 章(インターネット)
3	● 文書作成(Word)① ・書式設定 / 画像の挿入 ● オンラインストレージ(Google Drive) ● PDF	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：第 2 章(ワードプロセッサ)
4	● 文書作成(Word)② ・表の挿入 / 段組み	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：第 2 章(ワードプロセッサ)
5	● 表計算(Excel)① ・数式の入力	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：第 3 章(表計算)
6	● 表計算(Excel)② ・絶対参照 / 相対参照 / 複合参照	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：第 3 章(表計算)
7	● 表計算(Excel)③ ・関数：基本的な計算処理	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：第 3 章(表計算)
8	● 表計算(Excel)④ ・関数：条件分岐とカウント	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：第 3 章(表計算)
9	● 表計算(Excel)⑤ ・関数：表検索と端数処理	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：第 3 章(表計算)
10	● 表計算(Excel)⑥ ・グラフの作成 ・データベース機能	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：第 3 章(表計算)
11	● プレゼンテーション(PowerPoint)① ・スライド作成の基礎	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：第 6 章(プレゼンテーション)
12	● プレゼンテーション(PowerPoint)② ・グループディスカッション： テーマと構成の検討	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：第 6 章(プレゼンテーション)
13	● プレゼンテーション(PowerPoint)③ ・発表者ツール	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：第 6 章(プレゼンテーション)
14	● Web 会議システム(Zoom)	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：第 6 章(プレゼンテーション)
15	● オンラインプレゼンテーションの実践	復習：講義の総復習（2 時間）

テキスト	小野目如快『Office2019 で学ぶコンピュータリテラシー』(実教出版)
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	**国語表現Ⅰ**	担当者	栗森　貢
区　分　等	１年次・後期［講義］２単位　必修／全学		
評 価 基 準	到達目標１：小テスト(20%) 到達目標２：定期テスト(50%)、授業内提出物（10%） 到達目標３：グループワーク及び授業に取り組む姿勢（20%）		
課題に対するフィードバック	机間指導の折に学生に応じたアドバイスをし、提出した学習シートに必要なコメントを付して返却する。		
目　　的	○文章表現をするための基礎となる語彙力（漢字力と言葉を吟味する力）及び文章を推敲する力を高める。 ○テーマに沿った情報等を選択し、適切な言葉遣いで論理的な文章表現ができる力を養う。 ○効果的な表現構成の仕方を身に付け、分かりやすい文章を書く力を高める。		
到 達 目 標	1. 正確かつ多様な表現ができるよう漢字力を中心とした語彙力を高めるための小テストを毎時間実施し、8割以上を目指すことができる。(DP1) 2. 自己や社会全般を見つめて、自らの考えや意見を論理的かつ説得力のある文章で表現することができる。(DP2) 3. 自作の小論文等をグループワークを通して相互評価を行い、多様なものの考え方や自らの捉え方を振り返ることができる。(DP3)		
履修上の注意	・毎回行われる基礎的な漢字小テストで合格できるよう、事前学習をして授業に臨むこと。 ・優れた表現から学び、積極的に自分の表現に生かすことに努めること。		
オフィスアワー	金曜日：5・6限		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	ガイダンス、全体計画等 1 基礎レッスン―ことばと情報の操作 第1章 ことばに変える	予習：テキストP12～P17（ことばに変える）を読んでおく。(1時間) 復習：授業内で配付した資料に沿って演習問題を解いてみる。(0.5時間)
2	第2章 情報を要約する	予習：テキストP18～P25（情報を要約する）を読んでおく。(1時間) 復習：授業内で配付した資料に沿って演習問題を解いてみる。(0.5時間)
3	第3章 情報の探し方(パソコン室や図書室)	予習：テキストP26～P35（情報の探し方）を読んでおく。(1時間) 復習：授業内で配付した資料に沿って演習問題を解いてみる。(0.5時間)
4	2 アカデミックライティング―「正確な表現」 第1章 ウオーミングアップ―「何を書くか」	予習：テキストP38～P43（「何を書くか」）を読んでおく。(1時間) 復習：授業内で配付した資料に沿って演習問題を解いてみる。(0.5時間)
5	第2章 論理力トレーニング	予習：テキストP44～P47（論理力トレーニング）を読んでおく。(1時間) 復習：授業内で配付した資料に沿って演習問題を解いてみる。(0.5時間)
6	第3章 文章を書く技法	予習：テキストP48～P55（文章を書く技法）を読んでおく。(1時間) 復習：授業内で配付した資料に沿って演習問題を解いてみる。(0.5時間)
7	第4章 レポートから論文へ ［小論文作成 ①］	予習：テキストP56～P68（レポートから論文へ）を読んでおく。(1時間) 復習：授業内で配付した資料に沿って演習問題を解いてみる。(0.5時間)
8	3 テクニカルライティング―「わかりやすい表現」 第1章 わかりやすい表現の基礎	予習：テキストP70～P73（わかりやすい表現の基礎）を読んでおく。(1時間) 復習：授業内で配付した資料に沿って演習問題を解いてみる。(0.5時間)
9	第2章 ライティング技法 ［小論文作成 ②］	予習：テキストP74～P77（ライティング技法）を読んでおく。(1時間) 復習：授業内で配付した資料に沿って演習問題を解いてみる。(0.5時間)
10	第3章 わかりやすいマニュアルを制作する	予習：テキストP78～P90（わかりやすいマニュアルを制作する)を読んでおく。(1時間) 復習：授業内で配付した資料に沿って演習問題を解いてみる。(0.5時間)

11	4 クリエイティブライティング―「創造的な表現」― 第 1 章 新聞づくりを通して、ものの見方と簡潔な表現を身に付ける ① ・新聞の目的 ・新聞づくりのノウハウ	予習：自作資料（新聞づくりガイドブック）を読んでおく。(1 時間) 復習：授業内で配付した資料に沿って、新聞記事の構想メモや割り付け表を作成する。(0.5 時間)
12	新聞づくりを通して、ものの見方と簡潔な表現を身に付ける ② ・取材の仕方 ・新聞の構成法 ・表現の特徴 ・グループワークによる相互評価及び意見交換	予習：自作資料（新聞づくりガイドブック）を読んでおく。(1 時間) 復習：自分の作成した新聞記事とグループワークで学んだことを感想用紙にまとめる。(0.5 時間)
13	第 2 章 モノ語り―モノを通して自分を表現する① ・エッセイの例示 ・モノに対する考え方 ・構成の例示	予習：テキスト P97～P101（モノ語り）を読んでおく。(1 時間) 復習：授業内で配付した資料に沿って、モノ語りのエッセイの形で書くための構想メモや下書きを書く。(0.5 時間)
14	モノ語り―モノを通して自分を表現する② ・グループワークによる相互評価及び意見交換	予習：テキスト P97～P101（モノ語り）を読んでおく。(1 時間) 復習：自分の作成したエッセイとグループワークで学んだことを感想用紙にまとめる。(0.5 時間)
15	5 豊かな日本語表現のために 本科目で学んだことを振り返り、豊かな日本語表現をするために大事なことは何かについて、自分自身が身に付けた成果を意見文として書く。	予習：テキスト P184～P190（豊かな日本語表現のために）を読んでおく。(1 時間) 復習：自らの学びを振り返り、学習プリントや小論文などを読み直す。(0.5 時間)

テキスト	長沼行太郎、青嶋康文 他著『日本語表現のレッスン』(教育出版) 松村明 校閲『表記の手引き』(第八版)（教育出版編集部）
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	**キリスト教学Ⅱ**	担当者	Mathew Philip
区　分　等	２年次・前期［講義］２単位　必修／全学		
評 価 基 準	①受講態度(20%) ②授業ごとの提出ノート・感想文（30%） ③定期試験[筆記](50%)		
課題に対するフィードバック	毎回学生が提出した感想文を評価し、コメントを書く。		
目　　的	キリスト教思想における人間観およびそれに関連付けられる歴史的、社会的問題について学ぶことを通して、人間の尊厳や人生の意義に対する考えを深め、人間らしく豊かに生きるための指針を得る。		
到 達 目 標	1．キリスト教思想に関する基礎知識、教養を習得し、それについて説明できるようになる。(DP1) 2．習得した知識、教養を活かして、人生の課題に主体的に取り組めるようになる。(DP1,DP2)		
履修上の注意	1．授業中にパワーポイント用意、ＤＶＤを見ての討議に積極的に参加する。 2．毎回講義内容や８回の感想文をノートに記録する。講義終了時に提出する。 3．積極的にグループディスカッションに参加する。(第 12 回と第 15 回の授業)		
オフィスアワー	授業料後、10 分程度。事前に予約してください。		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	ガイダンス「キリスト教による３つの美徳（信仰、希望、愛)」	１コリント 13：13 を読んで、今学期の各自の目標や期待などを考えておく。【1 時間】
2	愛に生きる①“Pay it Forward”の意味①	積極的に DVD を見ながら“Pay it forward”の意味を理解し、自分の生きがいを考えておく。【1 時間】
3	愛に生きる②“Pay it Forward”の精神②	積極的に DVD を見ながら“Pay it forward”の精神を学び、今学期の自分の目標を考えておく。配った資料を読んでおく。【1 時間】感想文【10 分】
4	愛に生きる③―生命の尊さ	動画を観察しながら、生命の大切さに気付き、疑問や学んだことを感想文に書く。創世記 2：7 を読んでおく。【1 時間】感想文【10 分】
5	愛に生きる④―貧困と国際共同体	DVD を見ながら、地球家族の一員として広い心を持つ大切さに気付き、関連ある記事やマタイ 25：40 を読んでおく。【1 時間】感想文【10 分】
6	愛に生きる⑤―エコスピリチュアル	動画を観察しながら、キリスト教の教えにおける環境問題を意識し、疑問や学んだことを感想文に書く。創世記１：1～11 を読んでおく。【1 時間】感想文【10 分】
7	神の国の福音――愛の教え	内容を深めていく為、ヨハネ 15：１～17 を読んでおく。【1 時間】
8	神の国の福音（イエス・キリストの言葉と行い）隣人愛について	内容を深めていく為、ルカ 10：25～37 を読んでおく。【1 時間】感想文【10 分】
9	神の国の福音（イエス・キリストの言葉と行い）「赦しあい」	内容を深めていく為、マタイ 18：21～22 を読んでおく。【1 時間】感想文【10 分】
10	生と死について①	「モリー先生との火曜日」の DVD を観察しながら、気付いたことや疑問や学んだことなどを記録する。【1 時間】
11	生と死について②	DVD の続き、「キリスト教と私」ｐ．255～263 を読んでおく。【1 時間】感想文【10 分】
12	聖書における幸福	授業で指示してある聖句、特にマタイ 5：1～12 や「キリスト教と私」ｐ．30～38 を読んでおく。【1 時間】
13	幸せの力①	DVD を観察しながらこれからの人生の幸せな力を考えておく。マタイ 5：1～12 を読んでおく。【1 時間】
14	幸せの力②	DVD の続き、自分の幸せについて反省し、第 15 回目の課題として考えて置く。【1 時間】感想文【10 分】
15	まとめ	１．授業の目的と到達目標を確認しながら、各自の目標や期待することなどを振り返ってみる。 ２．自分の幸せの妨げになる課題を見つめ、それに対応できる次のステップを考えておく。 ３．Ａ５サイズのレポートを作成する。【1 時間】

テキスト	なし
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	**リーダーシップ論**	担当者	Mathew Philip
区　分　等	２年次・通年［講義］１単位・必修／全学		
評 価 基 準	①レポート（50%）　②授業ごとのワークシート（30%）　③課題レポート（20%）		
課題に対するフィードバック	授業時に提出されたワークシート等は授業内で解説し返却する。 必要に応じて地域特性や課題にあったソリューションの提案やプロジェクトの作成。		
目　　的	①自分自身のリーダーシップ（誰かを幸せにする力）に気づき、養う。 ②地域特性や課題にあったソリューションの提案やプロジェクトの作成のスキルを養う。 ③グローバル・地域・自己リーダーシップ力を養う。 ④人間としての尊厳に気づき、 考え、 実行できる力を養う。 ⑤聖霊学園建学の精神について考え、 実行できる力を養う。		
到 達 目 標	①　目標を掲げて、その達成に向けた計画を、周囲を巻き込みながら立てて、周囲の模範となって計画を実行・管理することができるようになる。」(DP2,DP3) ②　命を守るために自分にできる行動を深く考え、命を守ることができるようになる。(DP1,DP2) ③　世界・地域・自分自身を幸せにすることができるようになる。(DP1,DP2,DP3)		
履修上の注意	学内、学外の講師の講話を主体とする。		
オフィスアワー	月曜日曜日　16 時～17 時		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	「誰かをしあわせにする力」リーダーシップ	マザーテレサに活動について調べる（1 時間）
2	私たちを取り巻く現代社会とリーダーシップの役割	ノートの整理と確認（１時間）
3	自己リーダーシップ	ノートの整理と確認（１時間）
4	地域リーダーシップ	ノートの整理と確認（1 時間）
5	グローバルリーダーシップ	ノートの整理と確認（1 時間）
6	自分の隣人・地域・世界を幸せにする力キマイャリア	ノートの整理と確認（1 時間）
7	ビジネスリーダーシップ・コーチング	ノートの整理と確認（１時間）
8	ゲストスピーカー(企業経営者・起業家など）による講演とディスカッションからキャリアやビジネスについて学ぶ	ノートの整理と確認（１時間）

テキスト	平和のリレー（平和構築ワークショップ参考書）聖霊短大出版
指定図書	沖　守弘　『マザー・テレサ～あふれる愛～』(講談社青い鳥文庫)

科　目　名	**キャリアデザインⅡ（就職コース）**	担当者	佐藤　恵
区　分　等	２年次・通年［講義］１単位　必修／全学		
評価基準	①レポート(70%) ②取組姿勢(30%)		
課題に対するフィードバック	空き時間に進路支援室で個別に指導する。		
目　　的	就職意欲の向上、実際の就職活動の実践など、初期キャリアの獲得に向けて行動することと基礎的社会人力等の養成を目指す。		
到達目標	企業の具体的内容、自分が志望する仕事、働く意義などを理解する。(DP1,2) 新たな発見のもと目標に向けてチャレンジする意欲が育まれる。(DP3)		
履修上の注意	①就職希望と進学希望とクラス分けする。 ②課題のレポート 100%提出を要す。		
オフィスアワー	前期：金曜日 13:00～16:30／　後期：月曜日 13:00～16:30		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	就職活動の進め方（各専攻）	テキストを再読し、就職活動の点検をして授業に参加する（１時間）
2	レジリエンス（折れない心の作り方）	学修した内容を日常生活において実践する（1 時間）
3	講演「働く時に必要な法知識」	テキストを熟読し、学修した内容と照らし合わせる。（1 時間）
4	ＯＧ講演会（各専攻）	自分のロールモデルを見つけるため、多くの情報に接するように努める（1 時間）
5	講演「新社会人のためのマネー講座」	学修した内容を日常生活において実践する（1 時間）
6	講演「秋田で働くということ」	学修した内容を整理する（1 時間）
7	講演「職場で求められる人になるために」	社会人としてスタートするにあたり、身につけるべきことを考える（１時間）。
8	今年度の振り返り	社会人としてスタートするにあたり、今しなければならないことを考える（１時間）。

テキスト	水原道子編著『キャリアデザイン』（樹村房）
指定図書	なし

科　目　名	キャリアデザインⅡ（進学コース・英語）	担当者	近藤清兄
区　分　等	２年次・通年［講義］１単位　必修／生活文化専攻、生活こども専攻		
評価基準	①出席、授業態度等（80%） ②まとめの教場小テスト(20%)		
課題に対するフィードバック	課題はコメントを付けた上で返却する。随時助言・提案を行う。		
目　的	四年制大学編入学に必要な英語力を身につける。		
到達目標	①英文を正しく読み取ることができるよう、特殊構文の読み方を身につける。(DP1) ②長文問題を正しく読む技術を身につける。(DP1)		
履修上の注意	①授業に英和辞書を持参すること。 ②毎回の授業に臨む前に、わからない単語は辞書で調べ、例文をあらかじめ訳してくること。 ③編入学試験に英語以外の専門科目が必要な者については、別途、専門科目内容、また論文作成についても指導を受けることができる。		
オフィスアワー	火曜日 9 時～10 時 35 分、金曜日 14 時 45 分～16 時 15 分		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	Where Did the Moon Come From? [分詞]	Unit8(2 時間)
2	Road Rage[前置詞句]	Unit9(2 時間)
3	Irritating Things on the Train[分詞形容詞]	Unit10(2 時間)
4	Live Action Versions[例示]	Unit11(2 時間)
5	Tapioca and Bubble Tea[前置詞]	Unit12(2 時間)
6	Animal Beauty Contests[as]	Unit13(2 時間)
7	Energy Drinks [used to]	Unit14(2 時間)
8	まとめ(小テスト)	これまでの重要文法項目・語彙の復習(2 時間)

テキスト	Jonathan Lynch 他:”Read On, Think On [Basic Level]”（三修社）
指定図書	あり(巻末参照)

科　目　名	キャリアデザインⅡ（進学コース・栄養学）	担当者	浅野純平
区　分　等	２年次・通年［講義］１単位　必修／健康栄養専攻		
評 価 基 準	中間まとめの試験、定期試験で評価する(中間まとめの試験 50%、定期試験 50%)。		
課題に対するフィードバック	授業の中で中間まとめの試験に関する解説を行う。		
目　　的	進学に必要な栄養学領域の知識を身に付ける。		
到 達 目 標	「社会生活と健康」「人体の構造と機能」「食品と衛生」「栄養と健康」「栄養の指導」「給食の運営」の各領域の繋がりを捉え知識を深める。(DP1,DP2,DP3)		
履修上の注意	1.限られた時間では要点のみを扱うに留まるので、自主自学が基本である。 2.「栄養士実力認定試験過去問題集(建帛社)」を持参すること。 3.必要に応じてオフィスアワーの時間帯に補習を実施する。		
オフィスアワー	月曜日～金曜日 16:30 以降		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	人体の構造と機能	日頃から教科書を読み自学すること(2 時間)
2	栄養と健康	〃
3	食品と衛生	〃
4	中間まとめの試験と解説	〃
5	社会生活と健康	〃
6	栄養の指導	〃
7	給食の運営	〃
8	中間まとめの試験と解説	〃

テキスト	栄養士実力認定試験過去問題集(建帛社)
指定図書	なし

科　目　名	**国語表現Ⅱ**	担当者	栗森　貢
区　分　等	２年次・前期［講義］２単位　選択／全学		
評価基準	到達目標１：小テスト（10%） 到達目標２：定期テスト(50%)、授業内提出物(20%) 到達目標３：グループワーク及び授業に取り組む姿勢（20%）		
課題に対するフィードバック	机間指導しながら、個々に応じてアドバイスをし、回収した学習シートに必要に応じたコメントを書いて返却する。		
目　　的	テーマに沿った具体的な事例等を根拠に、効果的な文章構成や言葉遣いで説得力のある文章を書く力を養う。		
到達目標	1．基本的な漢字の知識や日本語の知識を身に付け、豊かな言語表現ができる。(DP1) 2．文章構成や言葉遣いを工夫して、自分の意見や感想を読み手に分かりやすく伝えることができる。(DP2) 3．興味を引く根拠をもとに、テーマを掘り下げた文章を書くことができる。(DP3) 4．音声を通した自己表現や朗読劇で、作品のよさを味わう。(DP2・DP3)		
履修上の注意	優れた文章表現を書き留め、その表現を目的に応じて使おうとする習慣を身に付けること		
オフィスアワー	金曜日：5・6限		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	ガイダンス、全体計画等 ［レッスン①］自分をみつめて 自己紹介を工夫したり、自分の良さを観点ごとに整理したりして、自分を見つめる方法を理解する。	予習：本科目の全体計画を読んでおく。(0.5時間) 復習：授業内で配付した資料に沿って、自分の良さや弱点を客観的に見つめて書き留める。(1時間)
2	［レッスン②］効果的な自己ＰＲとは 自己ＰＲ文を書き、相互批評し合う。	予習：テキストP52～P55（推敲のしかた）を読んでおく。(1時間) 復習：授業内で配付した資料に沿って、自己ＰＲの原稿を推敲する。(0.5時間)
3	［レッスン③］将来の自分を考えよう 職業選択や職種について自分の思いや考えをまとめ、「自己推薦書」を書く。	予習：自己ＰＲの原稿を完成させる（1時間） 復習：仕事内容や職場を想定し、「自己推薦書」を推敲する。(0.5時間)
4	［レッスン④］志望動機をまとめよう 職種に応じた自分の長所を取り入れ、簡潔な志望動機を書く。	予習：就職先や進学先を想定して、志望動機を書いてくる。(1時間) 復習：想定した職種や進学先を対象にして、制限時数内で下書きを推敲し、完成させる。(0.5時間)
5	［レッスン⑤］小論文を書くための基本的な書き方を学ぶ ［論題］「社会人になるにあたって」仕事に関する文章を自分の経験や社会で求められている姿とつながる事例等を取り入れて書く。	予習：自作の資料を読み構想を考えてくる。(1時間) 復習：同じ班員の小論文を読み、次回相互批評し合うための意見をまとめる。(0.5時間)
6	［レッスン⑥］反論を想定して書く 説得力のある文章を書くために、反論を想定して文章に盛り込む手法を身に付ける。	予習：自作資料（企業に求めること）を読み、文章表現の優れているところをマークする。(1時間) 復習：授業内で配付した資料に沿って、反論を想定した文章にリライトしてみる。(0.5時間)
7	［レッスン⑦］資料を読み取って書く ＳＤＧｓに関するコラムを要約する。	予習：二つのコラムを事前に読んで内容を把握する。（１時間） 復習：授業内で配付した資料に沿って、キーワードを落とさずに要約する力が付いたか確認する。 (0.5時間)
8	［レッスン⑧］発想を広げて書く 社会問題を表す一つの単語から、イメージや関連する語句をふくらませて、小論文を作成する。	予習：３日間新聞を読んでくる。(すべての記事に目を通し、注目した記事をメモしてくる)(1時間) 復習：授業内で配付した資料に沿って、書き上げた小論文を推敲する。(0.5時間)
9	［レッスン⑨］多様な出題例を想定して、小論文を克服しよう 様々な出題例を知るとともに、評価のポイントについて知る。	予習：テキストP60～P65（論文のスタイル）を読んでおく。(1時間) 復習：「『思考』のカタチ」(P64～P65)を読んで感想をまとめる。(0.5時間)
10	［レッスン⑩］言葉のストレッチ体操をしよう	予習：テキストP60～P65（論文のスタイル）を読んでおく。(1時間) 復習：授業内で配付した資料に沿って、様々な伝え合う方法があることを理解する。(0.5時間)

11	［レッスン⑪］リーダーズシアターを開こう① ～朗読劇の楽しみ～	予習：『羅生門』（芥川龍之介）を読み、どんな朗読の工夫ができるか読んでおく。（1時間） 復習：授業内で配付した資料に沿って、一人で三人分（下人、老婆、語り手）の役割を担って読んでおく。（0.5時間）
12	［レッスン⑫］リーダーズシアターを開こう② ～作品を選択して朗読劇を演じよう～	予習：事前に六作品から一作品を選んで、個人又はグループで演じるために下読みをしておく。（1時間） 復習：授業内で演じた朗読劇以外の作品を一つ選んで読んでおく。（0.5時間）
13	［レッスン⑬］ショートスピーチをしよう テーマに沿ったスピーチメモを作り、スピーチを聞き合い互いに批評し合う。	予習：ショートスピーチのテーマを事前に知らせ、話す内容を準備しておく。（0.5時間） 復習：授業内で配付した資料に沿って、自分のスピーチのよさや相手のよさを客観的に見つめて記録する。（1時間）
14	［レッスン⑭］「秋田の未来のために」という題で小論文を書こう 郷土秋田を文章でアピールする方法、伝えるテーマに応じた事例を数点取り上げ、構成を考える。	予習：論題は事前に告知し、構想は事前に書いておく。（1時間） 復習：授業内で書いた小論文をリライトしてみる。（0.5時間）
15	［レッスン⑮］電子ツールを用いたプレゼンテーション ①プレゼンテーションの基本 ②スライドのデザインと制作 ③効果的な発表法	予習：テキストP162～P182を読んでおく。（1時間） 復習：授業内で配付した資料に沿って、プレゼンテーションのポイントをまとめておく。（0.5時間）

テキスト	長沼行太郎、青嶋康文 他著『日本語表現のレッスン』（教育出版） 松村明 校閲『表記の手引き』（第七版）（教育出版編集部）【いずれも1年次で購入したもの】
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	サービスラーニング	担当者	寺谷直輝
区　分　等	１年次・不定期［実習］２単位　選択／全学		
評価基準	**［重要］学生が主体的に活動するアクティブ・ラーニング型の授業運営を行います。フィールドワークを１回実施し、このフィールドワークに参加することが単位認定の前提です。** 到達目標①：授業内課題や活動報告に関する感想文の提出状況［５０％］ 到達目標②：活動への参加状況［５０％］		
課題に対するフィードバック	適宜、活動へのサポートを行います。 何よりも「やってみる！」「伝えたい！」という気持ちを大事にして、楽しく参加してください!!		
目的	**【今年度のテーマ】＝身体表現活動（ダンス）から地域コミュニティを作る＝** サービスラーニングとは、「社会活動を通して市民性を育む学習」のことです。サービスラーニングに取り組むことで、他者と共に社会を創る力やネットワークを作る力を高めることができます。 秋田県の現状と課題の１つに、若者の県外流出（人口減少）が挙げられています。この課題に対して、秋田県は若者の県内定着・回帰の促進を方向性に掲げています。本授業は、秋田県で過ごしてみたいと思えるコミュニティをどのように作るのか、専攻・学年、さらに、学校を越えて、学生たちで主体的にイベントを創る中で考える、新たな学びの機会を提供する科目です。 ダンスをすることに興味関心のある方、ダンスの価値を考えてみたい方、地域に飛び出して何か活動してみたい方、ぜひ参加してみませんか。		
到達目標	①秋田県における地域コミュニティの現状と課題を把握できている。(DP2) ②他者と協働しながら、主体的に地域コミュニティに関わる取り組みに参画している。(DP2,DP3)		
履修上の注意	**①授業時間内（通年木曜日午後と長期休暇期間で計 15 コマ行う）の活動と授業時間外の活動**を組み合わせて 45 時間に相当する学習を行います。授業計画の詳細は遅くとも４月下旬までに案内します。 ②専攻・学年・学校の垣根を越えて協働する場面が多い科目で、秋田工業高等専門学校の学生が本学に来校して一緒に取り組む時間があったり、夏休み期間中に秋田工業高等専門学校で授業を行ったりする予定です。このように他校と連携する授業は本学では稀ですので、貴重な経験になると考えています。 ③フィールドワークに関わる費用（会場までの交通費等）は、受講生の負担となります。 ④2025 年度後期については、専攻ごとで開講日を分ける可能性があります（生活こども専攻の実習期間と重複する可能性があるため)。		
オフィスアワー	火曜日昼休み　E-Mail：teratani[at]gml.akita-seirei.ac.jp　※[at]を@に変えてください。		

授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	授業全体のガイダンス（聖霊女子短期大学：講義室） ・受講生と担当教員の自己紹介 ・サービスラーニングとは？ ・授業目的の共有 ・半期の授業スケジュールの確認・調整	復習：秋田県のコミュニティに関する現状をホームページ等で調べること。(1.5 時間)
2	秋田高専とのコラボイベントの目的と意義 ・コラボイベントの概要説明 ・秋田県のコミュニティに関する現状と課題	復習：秋田工業高等専門学校のホームページを見て、学校のイメージをつかむこと。（１時間）
3	コミュニティづくりにおける身体表現活動の価値と可能性 ・秋田県以外の地域における身体表現活動の取り組み	復習：秋田県外における身体表現活動と地域コミュニティをつなげた取り組みを調査・整理すること。(1.5 時間)
4	コラボイベントの企画作成 ・イベントの企画内容の検討 ・イベントの運営や広報手段の確認（ポスター作成等）	復習：コラボイベントの企画を検討・完成させること（３時間）
5	表現活動の練習（聖霊女子短期大学：体育館） ・地域コミュニティを意識して選曲 ・振付やステージ発表の構成の検討	復習：メンバー同士で曲に合った振付を考えること。（３時間）
6 7 8	**★夏休み期間に秋田工業高等専門学校で実施予定★** コラボイベントに向けた話し合いと身体表現活動の練習	予習：メンバー同士で身体表現活動の練習を行うこと。（３時間）
9	・コラボイベントに向けた身体表現活動の練習	復習：メンバー同士で身体表現活動の練習を行うこと。（３時間）
10	コラボイベントのリハーサル ・コラボイベントを想定した最終確認	復習：コラボイベントに必要な準備を行うこと。(10 時間)
11 12 13	秋田高専とのコラボイベントへの参加 （詳細は後日案内します）　★学外で実施★	予習：フィールドワークに参加できるよう身体表現の最終確認を行うこと。（３時間） 復習：フィールドワークの感想をメモしておくこと。（２時間）
14	コラボイベントの振り返り ・イベントで学んだことの共有 ・来年度に向けた課題の整理	復習：コラボイベントを想定したリハーサルで得た課題を共有できるように準備すること。（２時間）
15	「サービスラーニング」で学んだことの振り返り ・自己評価アンケートへの回答・提出	復習：コラボイベントを想定したリハーサルで得た課題を共有できるように準備すること。（２時間）

テキスト	なし。適宜、資料を配付します。
指定図書	あり（巻末参照）

※実務経験のある教員による授業科目の担当教員の実務経験および、教育内容

実務経験：障害者総合支援法による障害福祉サービス事業や地域生活支援事業を活用して運営されているフリースクールで、主に発達障害や知的障害のある特別支援学校高等部段階に相当する生徒や大学生に相当する青年に対する学習支援や学習支援の在り方に関わる研究と実践に携わりました。また、文部科学省による「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究」で、NPO 法人や社会福祉法人が行政と連携協働しながら障害者の生涯学習プログラムを構想・開発する事業にも携わりました。

教育内容：担当教員が行ってきた経験を活かして、学生の教育的ニーズや理解度を丁寧に汲み取りつつ、学生自身が当事者として地域コミュニティを創ることへのやりがいや意義を発見したり、その経験を他の場面に活かしたりできるように指導します。

科　目　名	**海外語学研修**	担当者	菅野　薫
区　分　等	１年次・集中［実習］２単位　選択／生活文化専攻 ２年次・集中［実習］２単位　選択／生活文化専攻		
評価基準	①セミナーへの参加態度　50% ②事前準備に対する取り組み方と事後の報告書作成など　50%		
課題に対するフィードバック	随時、提出課題へフィードバックをし、返却する。		
目　　的	英語力を総合的に高めると同時に、英語圏の国での生活を通じてその国の文化や社会問題について体験的に学ぶ。		
到達目標	英語レッスンやその他体験をとおして、実践的な英語でのコミュニケーションができるようになる。 英語圏の文化や社会問題について基礎的な知識を身につける。 英語圏の国と日本との違いを考察し、地球家族の一員であることを自覚して、国際的視野を持つようになる。 （DP1, DP2, DP3）		
履修上の注意	・文化の１つとも言える英語に興味関心があり、語学はもとより人との交流を通して学ぶ意識の高い学生の参加が望ましいです。 ・必要最低限の英語の知識を身につけてもらう必要がありますので、積極的に英語の科目を受講するか、自分で英語学習をすることをお勧めします。 ・参加者確定後は空き時間や放課後、昼休みの時間を利用して事前指導を行いますので、単位取得のためには事前、事後の集まりへの出席も必要となります。 ・セミナー参加費には、航空券代金、現地滞在費、語学学校プログラム費が含まれます。パスポート申請費用、海外旅行傷害保険料金、その他現地活動費等は含まれませんのでご注意ください。 ※実施時期については確定し次第お知らせしますが、冬期休暇前後に実施の予定です。 ただし、社会情勢等により、実施時期や内容の変更、やむを得ない中止の場合があります。（昨年度は国内英語研修施設での研修となっています。）		
オフィスアワー	木曜日　11 時～13 時 05 分		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	事前指導（日本） オリエンテーション 事前準備：パスポート申請・入国審査等 渡航に関する説明 英会話練習 現地学生との交流準備　等	現地で最低限の意思疎通ができるよう自分で英語学習を続ける。事前学習時に学んだことの復習・確認を随時行う。
2	・受講者は、引率教員と共に語学研修プログラムに参加する。 ・主に平日は語学学校にて英語レッスンを実施し、現地学生との交流、近隣へのエクスカーションが予定されている。 ・現地では各家庭に 2～3 名ずつホームステイもしくは寮での滞在となる。	滞在中は毎日の予習・復習が必要。 また、報告書作成のため、その日 1 日の振り返りと記録をつける。
3	事後指導（日本） 反省会、報告書作成	事前指導と同様、放課後や休み時間、週末などに主に学内外での作業が必要。

テキスト	適宜プリントを配付します。
指定図書	なし

科目名	Basic English Skills Ⅰ	担当者	近藤清兒
区分等	1年次・前期［演習］1単位　選択／生活文化専攻		
評価基準	(1)定期試験(70%) (2) 授業態度(30%)		
課題に対するフィードバック	課題はコメントを付けた上で返却する。随時助言・提案を行う。		
目的	読み、書き、話し、聞くための基本的な英語力：(1)「辞書があればまあまあ読める」程度の読解力・文法力 (2)「言いたいことを箇条書きに分解」して簡潔に正しく伝え、誤解や失礼のないように配慮するコミュニケーション能力 (3)「自分の日常のものごと」を大体英語に置き換えられる程度の単語力(高卒・2500語+α程度)、を養成します。漫画 *Peanuts* と関連するテーマの文章を読み、練習問題を考えます。また、英語圏の文化的背景についても解説します。		
到達目標	各課の重要単語と文法テーマを理解し、それを用いた日常的表現に習熟し、実際に運用できるようになる。(DP1)		
履修上の注意	(1) 毎回かなりの量の予習が必要ですから、基礎コースとはいえ、いささかきついですが、がんばって学習しましょう。 (2) Listening Ⅰを併せて履修することを推奨します。		
オフィスアワー	火曜日9時～10時35分、金曜日14時45分～16時15分		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション	(1)[予習]Words,Expressions,Grammar and Usageを調べる。 (2)[予習]Let's try(練習問題):Words,Expressions,Grammar and Usageで見たことをヒントに解いてみましょう。 (3)[復習]Wordsと4択問題は重要です。
2	Unit 1 品詞	上記以外に指定図書、教室で指示する文献等を読む。
3	Unit 2 動詞	
4	Unit 3 句動詞	
5	Unit 4 基本時制	
6	Unit 5進行形・完了形	
7	Unit 6 名詞・冠詞	
8	Unit 7 代名詞	
9	Unit 8 形容詞	
10	Unit 9 副詞	
11	Lesson 10 助動詞	
12	復習(Unit 1-3)	
13	復習(Unit 4-6)	
14	復習(unit 7-8)	
15	復習(Unit 9-10)	

テキスト	Hidehiko Konaka:“*Happy Days with Snoopy*”(Asahi Press)
指定図書	あり(巻末参照)

科目名	Basic English Skills Ⅱ	担当者	近藤清兒
区分等	1年次・後期［演習］1単位　選択／生活文化専攻		
評価基準	(1)定期試験(70%) (2) 授業態度(30%)		
課題に対するフィードバック	課題はコメントを付けた上で返却する。随時助言・提案を行う。		
目的	読み、書き、話し、聞くための基本的な英語力：(1)「辞書があればまあまあ読める」程度の読解力・文法力　(2)「言いたいことを箇条書きに分解」して簡潔に正しく伝え、誤解や失礼のないように配慮するコミュニケーション能力　(3)「自分の日常のものごと」を大体英語に置き換えられる程度の単語力(高卒・2500語+α程度)、を養成します。漫画 *Peanuts* と関連するテーマの文章を読み、練習問題を考えます。また、英語圏の文化的背景についても解説します。		
到達目標	各課の重要単語と文法テーマを理解し、それを用いた日常的表現に習熟し、実際に運用できるようになる。(DP1)		
履修上の注意	毎回かなりの量の予習が必要ですから、基礎コースとはいえ、いささかきついですが、がんばって学習しましょう。		
オフィスアワー	火曜日9時～10時35分、金曜日14時45分～16時15分		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	Unit 11 主語と動詞の一致	(1)[予習]Words,Expressions,Grammar and Usageを調べる。 (2)[予習]Let's try(練習問題):Words,Expressions,Grammar and Usageで見たことをヒントに解いてみましょう。 (3)[復習]Wordsと4択問題は重要です。
2	Unit 12 受動態	上記以外に指定図書、教室で指示する文献等を読む。
3	Unit 13 不定詞	
4	Unit 14 動名詞	
5	Unit 15 分詞	
6	Unit 16 前置詞	
7	Unit 17 接続詞	
8	Unit 18 関係詞	
9	Unit 19 比較	
10	Unit 20 否定	
11	復習(Unit11-12)	
12	復習(Unit13-14)	
13	復習(Unit15-16)	
14	復習(Unit17-18)	
15	復習(Unit19-20)	

テキスト	Hidehiko Konaka:“*Eappy Days with Snoopy*”　(Asahi Press)
指定図書	あり(巻末参照)

科　目　名	Listening Ⅰ	担当者	近藤清兄
区　分　等	1年次・前期［演習］1単位　選択／生活文化専攻		
評価基準	(1)定期試験(70%) (2)授業態度(30%)		
課題に対するフィードバック	課題はコメントを付けた上で返却する。随時助言・提案を行う。		
目　的	英語の音声の基礎を身に付けることにより、英語のリスニングとスピーキングの力の向上をめざす。つづりと発音の複雑な関係の理由を歴史的観点からも理解する。		
到達目標	英語の母音の発音の基礎を学習し、実際に運用できるようになる。(DP1)		
履修上の注意	(1)反復練習は時に単調で退屈に思えるかもしれませんが、基礎は大切です。がんばって学習しましょう。 (2)Basic English Skills Ⅰを併せて履修することを推奨します。		
オフィスアワー	火曜日 9 時～10 時 35 分、金曜日 14 時 45 分～16 時 15 分		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション	(1)学生用共有ドライブに音声ファイルがあります。各自で反復練習してください。 (2)「SENTENCE」の各例文はしっかりと復習してください。
2	母音 1. ［ i: ］　2. ［ i ］	上記以外に指定図書、教室で指示する文献等を読む。
3	3. ［ e ］　4. ［ æ ］　5. ［ ɑ ］	
4	6. ［ ɑ:］　7. ［ ɑ:r ］ 8. ［ ʌ ］	
5	9. ［ ə］　10. ［ ə:r ］	
6	11. ［ ɔ］　12. ［ ɔ: ］ 13. ［ ɔ:r ］	
7	14. ［ u ］　15. ［ u: ］	
8	16. ［ ei ］ 17. ［ ɑi ］	
9	18. ［ ɑu ］ 19. ［ ɔi ］	
10	20. ［ ou ］ 21. ［ iə ］[i ər]	
11	22. ［ɛ ə　］[ɛ ə r ］ 23. ［uə　］[uər　］ 24. ［ aiə ］[aiər ］	
12	復習(1-6)	
13	復習(7-12)	
14	復習(13-18)	
15	復習(19-24)	

テキスト	杉野健太郎、ジョゼフ・ラウアー著『増補改訂版　英語発音・聴き取りの基礎』(朝日出版社)
指定図書	必要に応じ教室で指示する

科目名	Listening Ⅱ	担当者	近藤清兄
区分等	1年次・後期［演習］1単位　選択／生活文化専攻		
評価基準	(1)定期試験(70%) (2)授業態度(30%)		
課題に対するフィードバック	課題はコメントを付けた上で返却する。随時助言・提案を行う。		
目的	英語の音声の基礎を身に付けることにより、英語のリスニングとスピーキングの力の向上をめざす。つづりと発音の複雑な関係の理由を歴史的観点からも理解する。		
到達目標	英語の子音の発音の基礎を学習し、実際に運用できるようになる。(DP1)		
履修上の注意	反復練習は時に単調で退屈に思えるかもしれませんが、基礎は大切です。がんばって学習しましょう。		
オフィスアワー	火曜日 9 時～10 時 35 分、金曜日 14 時 45 分～16 時 15 分		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	子音　1. ［ p ］［ b ］	(1)学生用共有ドライブに音声ファイルがあります。各自で反復練習してください。 (2)「SENTENCE」の各例文はしっかりと復習してください。
2	2. ［ t ］［ d ］ 3. ［ k ］［ g］	上記以外に指定図書、教室で指示する文献等を読む。
3	4. ［ f ］［ v ］ 5. ［ θ ］［ ð ］	
4	6. ［ s ］［ z ］ 7. ［ ʃ］［ ʒ ］	
5	8. ［ t ʃ］［ dʒ］ 9. ［ ts ］［ dz ］	
6	10. ［ m ］ 11. ［ n ］	
7	12. ［ ŋ ］	
8	13. ［ l ］ 14. ［ r ］	
9	15. ［ h ］ 16. ［ j ］	
10	17. ［ w ］ 18. ［ hw ］	
11	19. ［ pl ］［ tr ］［ st ］	
12	復習(1-5)	
13	復習(6-10)	
14	復習(11-15)	
15	復習(16-19)	

テキスト	杉野健太郎、ジョゼフ・ラウアー著『増補改訂版　英語発音・聴き取りの基礎』 (朝日出版社)
指定図書	必要に応じ教室で指示する

科　目　名	Oral Communication Ⅰ	担当者	Rachel Youngblood
区　分　等	１年次・前期［演習］２単位　選択／生活文化専攻		
評価基準	Classroom participation (50%)、Assessment (30%) Final Project/Presentation (10%)、Homework (10%)		
課題に対するフィードバック	Comments, suggestions, and feedback will be given vocally during class or commented as needed on homework.		
目　　的	The aim of this course is to build students' confidence and skills using English in everyday situations, particularly with asking questions and sharing information.		
到達目標	Students will be able to use listening and speaking skills to communicate needs, ideas, or important information using English.		
履修上の注意	None		
オフィスアワー	Monday-Wednesday 9:00-12:15		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	Introduction to the Course, Unit 1: It's good to meet you.	Unit 1 + Englich Central(EC) & Audio Report 復習 (30 minutes), World Interview 1 予習 (30 minutes)
2	World Interview 1	World Interview Audio Report 復習 (1 hour) Unit 2 予習 (30 minutes)
3	Unit 2: What are you into?	Unit 2 + EC & Audio Report 復習 (1 hour) World Interview 2 予習 (30 minutes)
4	World Interview 2	World Interview Audio Report 復習 (1 hour) Unit 3 予習 (30 minutes)
5	Unit 3: Who're they?	Unit 3 + EC & Audio Report 復習 (1 hour) World Interview 3 予習 (30 minutes)
6	World Interview 3	World Interview Audio Report 復習 (1 hour) Unit 4 予習 (30 minutes)
7	Unit 4: What shall we watch?	Unit 4 + EC & Audio Report 復習 (1 hour) World Interview 4 予習 (30 minutes)
8	World Interivew 4	World Interview Audio Report 復習 (1 hour) Unit 4 予習 (30 minutes)
9	Unit 5: What are you listenting to?	Unit 5 + EC & Audio Report 復習 (1 hour) World Interview 5 予習 (30 minutes)
10	World Interview 5	World Interview Audio Report 復習 (1 hour) Unit 6 予習 (30 minutes)
11	Assessment	Unit 1-5 & World Interviews 復習
12	Unit 6: What are you reading?	Unit 6 + EC & Audio Report 復習 (1 hour) World Interview 6 予習 (30 minutes)
13	World Interview 6	World Interview Audio Report 復習 (1 hour) Unit 7 予習 (30 minutes)
14	Unit 7: I'm hungry!	Unit 7 + EC & Audio Report 復習 (1 hour) World Interview 7 予習 (30 minutes)
15	World Interview 7	World Interview Audio Report 復習 (1 hour) Unit 8 予習 (30 minutes)
16	Unit 8: How do you stay fit?	Unit 8 + EC & Audio Report 復習 (1 hour) World Interview 8 予習 (30 minutes)
17	World Interview 8	World Interview Audio Report 復習 (1 hour) Unit 9 予習 (30 minutes)
18	Unit 9: I don't feel so good.	Unit 9 + EC & Audio Report 復習 (1 hour) World Interview 9 予習 (30 minutes)
19	World Interview 9	World Interview Audio Report 復習 (1 hour) Unit 10 予習 (30 minutes)
20	Unit 10: Why do you do that?	Unit 10 + EC & Audio Report 復習 (1 hour) World Interview 10 予習 (30 minutes)
21	World Interview 10	World Interview Audio Report 復習 (1 hour) Unit 11 予習 (30 minutes)
22	Assessment	Unit 6-10 & World Interviews 復習
23	Unit 11: It's a special day.	Unit 11 + EC & Audio Report 復習 (1 hour) World Interview 11 予習 (30 minutes)
24	World Interview 11	World Interview Audio Report 復習 (1 hour) Unit 12 予習 (30 minutes)

25	Unit 12: Are you going anywhere?	Unit 12 + EC & Audio Report 復習 (1 hour) World Interview 12 予習 (30 minutes)
26	World Interview 12	World Interview Audio Report 復習 (1 hour) Unit 13 予習 (30 minutes)
27	Unit 13:I’ve never done that before.	Unit 13 + EC & Audio Report 復習 (1 hour) World Interview 13 予習 (30 minutes)
28	World Interview 13	World Interview Audio Report 復習 (1 hour)
29	Interview Preparation	Unit 1-13 & World Interviews 復習
30	Interview & Final Assessment Preparation	Unit 1-13 & World Interviews 復習

テキスト	(1) J. Bury, A. Sellick, & K. Horiuchi “Complete Communication” *Book 2* (Seibido) (2) Miles Craven “World Interviews” (Seibido)
指定図書	なし

科　目　名	Oral Communication Ⅱ	担当者	Rachel Youngblood
区　分　等	１年次・後期［演習］１単位　選択／生活文化専攻		
評価基準	Classroom participation (50%) Homework (20%) Assessment (30%)		
課題に対するフィードバック	Comments, suggestions, and feedback will be given vocally during class or commented as needed on homework.		
目　　的	The aim of this course is to continue building students' confidence and expertise using English, while specifically focusing on discussion strategies and skills.		
到達目標	Students will be able to use listening, speaking, and reading skills to more deeply develop and communicate ideas and information in English.		
履修上の注意	Student's must have previously completed "Oral Communication I".		
オフィスアワー	Monday-Wednesday 9:00-12:15		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	Introduction to the course, Unit 1: The Cashless Society	Unit 1 復習, Unit 2 予習 (1 hour)
2	Unit 2: Fast Fashion	Unit 2 復習, Unit 3 予習 (1 hour)
3	Unit 3: Plastic Packaging	Unit 3 復習, Unit 4 予習 (1 hour)
4	Unit 4: Cell Phone Etiquette	Unit 4 復習, Unit 5 予習 (1 hour)
5	Unit 5: Vegetarianism, Assessment	Unit 5 復習, Unit 6 予習 + Assessment 予習 (2.5 hours)
6	Unit 6: Social Media	Unit 6 復習, Unit 7 予習 (1 hour)
7	Unit 7: The Soda Tax	Unit 7 復習, Unit 8 予習 (1 hour)
8	Unit 8: Overtourism	Unit 8 復習, Unit 9 予習 (1 hour)
9	Unit 9: Improving Education	Unit 9 復習, Unit 10 予習 (1 hour)
10	Unit 10: Voting Age, Assessment	Unit 10 復習, Unit 11 + Assessment 予習 (2.5 hours)
11	Unit 11: Rethinking Zoos	Unit 11 復習, Unit 12 予習 (1 hour)
12	Unit 12: Alternative Energy	Unit 12 復習, Unit 13 予習 (1 hour)
13	Unit 13: Equal Pay in Sports	Unit 13 復習, Unit 14 予習 (1 hour)
14	Unit 14: Gamining Addiction	Unit 14 復習, Unit 15 予習 (1 hour)
15	Unit 15: Britian's Royal Family, Assessment	Assessment 予習 (2.5 hours)

テキスト	G. Pearson, G. Skerritt, A. Francis, & H. Yoshizuka "Global Issues" (Seibido)
指定図書	None

科　目　名	**Writing**	担当者	Rachel Youngblood
区　分　等	１年次・後期［演習］１単位　選択／生活文化専攻		
評価基準	Classroom Participation (40%) Writing Review/Re-write (40%) Assessment (20%)		
課題に対するフィードバック	Feedback will be given on writing homework. Feedback, comments, and suggestions will also be given vocally during class time.		
目　　的	The aim of this course is to build students' English writing skills across a variety of common situations.		
到達目標	Students will be able to utilize writing and reading skills in English to clearly express ideas and information using Western structures.		
履修上の注意	None		
オフィスアワー	To be announced		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	Introduction to the course, Unit 1: Self-Introduction	Unit 1 復習, Unit 2 予習 Writing Review/Re-write 復習 (1.5 hours)
2	Unit 2: Apologies	Unit 2 復習, Unit 3 予習 Writing Review/Re-write 復習 (1.5 hours)
3	Unit 3: Reports	Unit 3 復習, Unit 4 予習 Writing Review/Re-write 復習 (1.5 hours)
4	Unit 4: Requests	Unit 4 復習, Unit 5 予習 Writing Review/Re-write 復習 (1.5 hours)
5	Unit 5: Declining/Refusals	Unit 5 復習, Unit 6 予習 Writing Review/Re-write 復習 (1.5 hours)
6	Unit 6: Proposals	Unit 6 復習, Unit 7 予習 Writing Review/Re-write 復習 (1.5 hours)
7	Unit 7: Recommendations/Personal Statements	Unit 7 復習, Unit 8 予習 Writing Review/Re-write 復習 (1.5 hours)
8	Unit 8: Opinions	Unit 8 復習, Unit 9 予習 Writing Review/Re-write 復習 (1.5 hours)
9	Unit 9: Asking for Advice	Unit 9 復習, Unit 10 予習 Writing Review/Re-write 復習 (1.5 hours)
10	Unit 10: Narrating Past Events	Unit 10 復習, Unit 11 予習 Writing Review/Re-write 復習 (1.5 hours)
11	Unit 11: Gratitude	Unit 11 復習, Unit 12 予習 Writing Review/Re-write 復習 (1.5 hours)
12	Unit 12: Cover Letters	Unit 12 復習, Unit 13 予習 Writing Review/Re-write 復習 (1.5 hours)
13	Unit 13: Abstracts & Academic Papers	Unit 13 復習 Writing Review/Re-write 復習 (1.5 hours)
14	Unit 14: Acknowlegments	Unit 14 復習 Writing Review/Re-write 復習 (1.5 hours)
15	Assessment	Units 1-14 復習 Assessment 予習 (3 hours)

テキスト	H. Yagihashi, Y. Nomura, N. Tatara, & A.L. Spreadbury "English Template Writing" (Kinseido)
指定図書	None

科　目　名	TOEFL Ⅰ	担当者	菅野　薫
区　分　等	１年次・後期［演習］１単位　選択／生活文化専攻		
評価基準	学習態度（30%）、宿題（30%）、レポート（20%）、スピーチ（20%）。		
課題に対するフィードバック	随時、提出課題へはフィードバックをし返却をする。		
目　　的	TOEFL（Test of English as a Foreign Language）は海外の大学への留学や国内の編入学に必要な試験である。リスニング、リーディングのみならず、自分の意見を論じる技術も必要とされることから授業を通じて世界的な問題に目を向け、それに対する自分の意見をまとめで伝える力を養成することを目標とする。まずは母国語で意見を論理的にまとめる力を身につけていく。		
到達目標	リスニング：フレーズごとの発音が聞き取れるようになる。 リーディング：意味のまとまり毎に日本語の語順に訳さず大意を取れるようになる。 ライティング：アウトラインをもとに分かりやすい文章を書くことができるようになる。（主に日本語）・英語と日本語の語順の違いに気づき、分かりやすく伝える方法を身に付ける。 スピーキング：考えを他者に分かりやすく伝えられるようになる。（主に日本語） 上の技能を通じて社会に出てからも役に立つであろうコミュニケーション力を身に付ける。また、ニュースや社会問題を題材に自分の意見を分かりやすく伝えるコツをつかむことを目標とする。 （DP1, DP2, DP3）		
履修上の注意	主に日本語での発信力を身につけるための科目となります。英語の不得意な学生もどんどん履修してください。自分の意見をまとめる方法の指導が中心となります。		
オフィスアワー	木曜日　11 時～13 時 05 分		

授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション・エッセイライティング	エッセイライティングについて復習（1 時間）
2	自分の意見を述べるということ、意見のまとめ方、エッセイライティング確認	Topic 1 予習(0.5 時間)、エッセイライティングのふりかえり(0.5 時間)
3	Topic 1	Topic 1 復習(0.4 時間)・Topic 2 予習(0.6 時間)
4	Topic 1 続き・Topic 2	Topic 2 復習(0.4 時間)・Topic 3 予習(0.6 時間)
5	Topic 2 続き・Topic 3	Topic 3 復習（1 時間）
6	Topic 3 続き・ディスカッション	ディスカッション発表準備（1 時間）
7	ディスカッション、発表	発表振り返り(0.4 時間)、Topic４予習(0.6 時間)
8	Topic 4	Topic 4 復習(0.4 時間)・Topic 5 予習(0.6 時間)
9	Topic 5	Topic 5 復習(0.4 時間)・洋画鑑賞準備プリント(0.6 時間)
10	洋画鑑賞プリント確認・洋画鑑賞(文化学習・リスニング・ディクテーション練習)	エッセイの取組（1 時間）
11	洋画鑑賞(文化学習・リスニング・ディクテーション練習)	エッセイの取組（1 時間）
12	洋画鑑賞(文化学習・リスニング・ディクテーション練習)・感想発表・エッセイ提出	洋画鑑賞感想のまとめ(0.4 時間)・Topic 6 予習(0.4 時間)
13	Topic 6・スピーチ原稿準備	Topic 6 復習(0.2 時間)・Topic 7 予習(0.4 時間)・スピーチ準備(0.4 時間)
14	Topic 7・スピーチ準備	Topic 7 復習(0.4 時間)・スピーチ準備(0.6 時間)
15	スピーチ発表・講評	これまでの反省と復習（1 時間）

テキスト	Paul Underwood, Miyako Nakaya『CLIL Writing about Global Relations』（三修社） 必要に応じてプリント配付やオンライン上で資料を提供します。
指定図書	あり（巻末参照）。 授業中に紹介します。

※実務経験のある教員による授業科目の担当教員の実務経験および、教育内容
実務経験：行政機関にて通訳･翻訳業務に携わる。
教育内容：英語でのディスカッションやスピーチを通して分かりやすく伝える力を身につける。
自分の考えを伝えられる語彙力を鍛え、論理的にまとめる力を実践的に学ぶ。

科　目　名	TOEIC L&R A	担当者	菅野　薫
区　分　等	１年次・前期［演習］２単位　選択／生活文化専攻		
評価基準	学習態度（40%）、宿題（50%）、テスト（団体用 TOEIC 受験者対象）（10%）。		
課題に対するフィードバック	随時、提出課題へはフィードバックをし返却をする。		
目　　的	TOEIC（Test of English for International Communication）は英語によるコミュニケーション能力を評価するためのもので就職や国内の編入学の際、多くの企業や大学が評価基準として示すようになってきている。準備学習を通して文法の基礎を踏まえた日常の様々な場面で使える英語能力を養成する。		
到達目標	リーディング：基本的な英文法・語彙を身につける。英文中にある主語、述語を的確に見つけ、大意を捉えられるようになる。 リスニング：会話からシーンを想像できるようになる。 実際の TOEIC で 350 点以上のスコアをとれるようになることが望まれる。 学生が自発的に学んでいく姿勢を身につけることも望まれる。 （DP1, DP2）		
履修上の注意	受験技能の習得というよりもむしろ、TOEIC の教材を使いながら勉強法を学び、基本的な英語力を高めるという心構えで受講してください。受講希望者は評価にも加味されますので、長期休暇明け実施予定の団体用 TOEIC（4,230 円）の受験をできるだけ希望してください。 また、宿題はほぼ毎回、長期休暇中も出ます。確実に解き、提出することが望まれます。		
オフィスアワー	木曜日　11 時～13 時 05 分		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	TOEIC 概要説明・実力診断テスト・目標設定	TOEIC 概要確認(0.3 時間)・文法プリント(0.7 時間)
2	実力診断テスト解説 1	英文法プリント（1 時間）
3	実力診断テスト解説 2	文法確認トレーニング(0.5 時間)・Unit1(0.5 時間)
4	品詞・時制等基本事項解説	Unit 1(0.4 時間)
5	前回の復習・宿題丸付け、解説	文法確認トレーニング(0.4 時間)・Unit2,3(0.6 時間)
6	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit 2.3（1 時間）
7	前回の復習・宿題丸付け、解説	文法確認トレーニング(0.4 時間)・Unit4,5(0.6 時間)
8	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit 4.5（1 時間）
9	前回の復習・宿題丸付け、解説	前回の復習(0.4 時間)・Unit6(0.6 時間)
10	前回の復習・宿題丸付け、解説	Word Review Unit 1-5（1 時間）
11	前回の復習・宿題丸付け、解説	文法確認トレーニング(0.4 時間)・Unit7,8(0.6 時間)
12	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit 6.7（1 時間）
13	前回の復習・宿題丸付け、解説	文法確認トレーニング(0.4 時間)・Unit9,10(0.6 時間)
14	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit 8.9（1 時間）
15	前回の復習・宿題丸付け、解説	文法確認トレーニング(0.4 時間)・Unit11(0.5 時間)
16	前回の復習・宿題丸付け、解説	Word Review Unit 6-9（1 時間）
17	前回の復習・宿題丸付け、解説	文法確認トレーニング(0.4 時間)・Unit12(0.6 時間)
18	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit 10.11（1 時間）
19	前回の復習・宿題丸付け、解説	文法確認トレーニング(0.4 時間)・Unit13(0.6 時間)
20	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit 12.13（1 時間）
21	前回の復習・宿題丸付け、解説	文法確認トレーニング(0.4 時間)・Unit14,15(0.6 時間)
22	前回の復習・宿題丸付け、解説	Word Review Unit 10-13（1 時間）
23	前回の復習・宿題丸付け、解説	文法確認トレーニング(0.4 時間)・Unit16,17(0.6 時間)
24	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit14.15（1 時間）
25	前回の復習・宿題丸付け、解説	文法確認トレーニング(0.4 時間)・Unit18(0.6 時間)
26	前回の復習・宿題丸付け、解説	Word Review Unit 14-15（1 時間）
27	前回の復習・宿題丸付け、解説	文法確認トレーニング(0.4 時間)・Unit19,20(0.6 時間)
28	前回の復習・宿題丸付け、解説	英文法確認プリント（1 時間）
29	前回の復習・宿題丸付け、解説・実践演習	TOEIC Part 1～4 総復習（1 時間）
30	まとめ・振り返り	TOEIC Part 5～7 総復習（1 時間）

テキスト	佐藤誠司著『5 分間 基本英文法確認トレーニング』(南雲堂) Mark D. Stafford 著『Successful Keys to the TOEIC Listening and Reading Test Intro 2nd Edition』(桐原書店) 主に教科書と補足プリントを配付して進めていきます。
指定図書	あり（巻末参照）。 授業中に紹介します。

※実務経験のある教員による授業科目の担当教員の実務経験および、教育内容

実務経験：行政機関にて通訳･翻訳業務に携わる。

教育内容：英語でのディスカッションやスピーチを通して分かりやすく伝える力を身につける。
自分の考えを伝えられる語彙力を鍛え、論理的にまとめる力を実践的に学ぶ。

科　目　名	TOEIC L&R B	担当者	菅野　薫
区　分　等	１年次・後期［演習］２単位　選択／生活文化専攻		
評価基準	学習態度（40%）、宿題（40%）、テスト（団体用 TOEIC 受験者対象）（20%）。		
課題に対するフィードバック	随時、提出課題へはフィードバックをし返却をする。		
目　　的	TOEIC（Test of English for International Communication）は英語によるコミュニケーション能力を評価するためのもので就職や国内の編入学の際、多くの企業や大学が評価基準として示すようになってきている。準備学習を通して身につけたスキルを日常生活でも使えるよう応用力を身に付ける。		
到達目標	リーディング：英文法・語彙の知識を身につけ、キーワードを見つけながらテンポよく読解できるようになる。 リスニング：フレーズ単位にキーワードを聞き取り、大意を理解できるようになる。 実際の TOEIC で 380 点以上のスコアをとれることが望まれる。 また、学生が自発的に学んでいく姿勢を身につけることも望まれる。 （DP1, DP2）		
履修上の注意	受験技能の習得というよりもむしろ、TOEIC の教材を使いながら勉強法を学び、基本的な英語力を高めるという心構えで受講してください。受講希望者は評価にも加味されますので、長期休暇明け実施予定の団体用 TOEIC（4,230 円）の受験をできるだけ希望してください。 また、宿題はほぼ毎回、長期休暇中も出ます。確実に解き、提出することが望まれます。		
オフィスアワー	木曜日　11 時～13 時 05 分		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	実力診断・目標設定	TOEIC Part 1～7 見直し（1 時間）
2	実力診断テスト解説 1	実力診断見直し（1 時間）
3	実力診断テスト解説 2	名言に学ぶ動詞構文 Unit1, 2（1 時間）
4	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit1,2（1 時間）
5	前回の復習・宿題丸付け、解説	名言に学ぶ動詞構文 Unit3（1 時間）
6	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit3（1 時間）
7	前回の復習・宿題丸付け、解説	名言に学ぶ動詞構文 Unit4（1 時間）
8	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit4（1 時間）
9	前回の復習・宿題丸付け、解説	名言に学ぶ動詞構文 Unit5（1 時間）
10	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit5（1 時間）
11	前回の復習・宿題丸付け、解説	名言に学ぶ動詞構文 Unit6（1 時間）
12	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit6.7（1 時間）
13	前回の復習・宿題丸付け、解説	名言に学ぶ動詞構文 Unit7（1 時間）
14	前回の復習・宿題丸付け、解説	Word Review Unit 1-7（1 時間）
15	前回の復習・宿題丸付け、解説	名言に学ぶ動詞構文 Unit 8・9（1 時間）
16	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit8（1 時間）
17	前回の復習・宿題丸付け、解説	名言に学ぶ動詞構文 Unit10（1 時間）
18	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit9.10（1 時間）
19	前回の復習・宿題丸付け、解説	名言に学ぶ動詞構文 Unit11, 12（1 時間）
20	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit11.12（1 時間）
21	前回の復習・宿題丸付け、解説	名言に学ぶ動詞構文 Unit13（1 時間）
22	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit13.14（1 時間）
23	前回の復習・宿題丸付け、解説	名言に学ぶ動詞構文 Unit14, 1（1 時間）
24	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit15（1 時間）
25	前回の復習・宿題丸付け、解説	名言に学ぶ動詞構文 Unit16（1 時間）
26	前回の復習・宿題丸付け、解説	Word Review Unit 8-15（1 時間）
27	前回の復習・宿題丸付け、解説	名言に学ぶ動詞構文 Unit17, 18（1 時間）
28	前回の復習・宿題丸付け、解説	TOEIC Part 1～4 総復習（1 時間）
29	前回の復習・実践演習	名言に学ぶ動詞構文 Unit19, 20（1 時間）
30	まとめ・振り返り	今までの総復習（1 時間）

テキスト	小中秀彦著『5 分間 名言に学ぶ動詞構文』（南雲堂） Mark D. Stafford 著『Successful Keys to the TOEIC Listening and Reading Test Goal → 500 4nd Edition』（桐原書店） 主に教科書とプリントを配付して進めていきます。
指定図書	あり（巻末参照）。授業中に紹介します。

※実務経験のある教員による授業科目の担当教員の実務経験および、教育内容

実務経験：行政機関にて通訳･翻訳業務に携わる。

教育内容：英語でのディスカッションやスピーチを通して分かりやすく伝える力を身につける。
自分の考えを伝えられる語彙力を鍛え、論理的にまとめる力を実践的に学ぶ。

科　目　名	Global Issues I	担当者	菅野　薫、近藤清兄、Rachel Youngblood
区　分　等	1年次・後期　［演習］1単位　選択／生活文化専攻		
評価基準	①　授業態度　50% ②　リフレクションペーパー（近藤先生の講義3回分）15% ③　レポート　35%		
課題に対するフィードバック	適宜、提出課題へはフィードバックをし、返却をする。		
目　　的	様々な角度から物事を考える方法を学ぶ 自分の考え英語と日本語を使って他者に伝える 他者との違いを理解する To learn about how to think critically To share your viewpoints on a variety of topics while using English and Japanese To develop an awareness of individual differences		
到達目標	東アジアの文化や世界で起きていることに関心を持ち、そのことについて自分自身の考えを表現できるようになる。 You will be able to express your thoughts and opinions on East Asian culture as well as various global topics. （DP1, DP2, DP3）		
履修上の注意	授業は英語でのディスカッションがメインとなります。		
オフィスアワー	月曜日　13時05分～15時00分		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション／菅野　薫 The Outline of the SDGs	習った項目の復習（0.4時間）・次回項目の予習 0.6時間）
2	Unit 1 SDG 4, 10／菅野　薫	習った項目の復習（0.4時間）・次回項目の予習 0.6時間）
3	Unit 2 SDG 16 ／菅野　薫	習った項目のレポート（0.5時間）・次回項目の予習0.5時間）
4	Culture Talk／近藤　清兄	習った項目の復習（0.4時間）・次回項目の予習 0.6時間）
5	Unit 3 SDG 2 ／Rachel Youngblood	習った項目の復習（0.4時間）・次回項目の予習 0.6時間）
6	SDG 2 , Unit 6 SDG 14／Rachel Youngblood	習った項目の復習（0.4時間）・次回項目の予習 0.6時間）
7	Unit 6 SDG 12, Unit 13 SDG 12／Rachel Youngblood	習った項目の復習（0.4時間）・次回項目の予習 0.6時間）
8	Unit 12 SDG 13／ Rachel Youngblood	習った項目の復習（0.4時間）・次回項目の予習 0.6時間）
9	Culture Talk／近藤　清兄	習った項目の復習（0.4時間）・次回項目の予習 0.6時間）
10	Unit 7 SDG 15／ 菅野　薫	習った項目の復習（0.4時間）・次回項目の予習 0.6時間）
11	Unit 8 SDG 8, 17／菅野　薫	習った項目のレポート(0.5時間)・次回項目の予習(0.5時間)
12	Unit 9 SDG 7／Rachel Youngblood	習った項目の復習（0.4時間）・次回項目の予習 0.6時間）
13	Culture Talk／近藤　清兄	習った項目の復習（0.4時間）・次回項目の予習 0.6時間）
14	Unit 13 SDG 12, 13／Rachel Youngblood	習った項目の復習（0.4時間）・次回項目の予習 0.6時間）
15	Unit 5　SDG 6　／菅野　薫	習った項目のレポート（0.5時間）・次回項目の予習0.5時間）

テキスト	Shigeru Sasajima, et al “CLIL Primary SDGｓ” (Sanshusha)
指定図書	あり（巻末参照）。 授業中に紹介します。

科目名	ドイツ語Ⅰ	担当者	横溝眞理
区分等	１年次・前期［演習］４単位　選択／生活文化専攻		
評価基準	①授業中の小テスト(75%)　②定期試験(25%)		
目的	ドイツ語の基礎力を身につけること。		
到達目標	①綴りと発音の関係を理解する。(DP1) ②動詞の現在人称変化をマスターする。(DP1) ③名詞・代名詞の格変化を理解する。(DP1) ④話法の助動詞の用法をマスターする。(DP1) ⑤英語以外の外国語を学ぶことによって、日本語や英語を別の角度から見直すことができるようになる。(DP3)		
履修上の注意	①独和辞典が必要。初回の授業時に説明する。 ②上記の教科書以外にも、プリント等で練習問題を補う予定。 ③授業時間の一部を使って、前期中に小テストを６回行う。出題範囲と形式はそのつど事前にプリントで知らせる。 ④授業外学習として教科書やプリントのわからない単語の意味をあらかじめ独和辞典で調べてくること。		
オフィスアワー	毎週火曜日 14:45～16:15		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	アルファベートと発音の規則(1)	教科書i～iiページをよく読んでくること。(2時間)
2	アルファベートと発音の規則(2)	教科書iii～vページをよく読んでくること。(2時間)
3	挨拶表現と自己紹介、数詞1～10	教科書1ページの音声を聴いてくること。(2時間)
4	動詞の現在人称変化(1)	教科書2～3ページの練習。(2時間)
5	動詞の現在人称変化(2)seinとhaben	教科書4～6ページの練習。(2時間)
6	平叙文と疑問文	教科書4～6ページの練習。(2時間)
7	名詞の性と冠詞	教科書7～12ページの練習。(2時間)
8	100までの数字	教科書7～12ページの練習。(2時間)
9	1格と4格	教科書7～12ページの練習。(2時間)
10	値段の言い方	教科書7～12ページの練習。(2時間)
11	所有冠詞	教科書7～12ページの練習。(2時間)
12	動詞の現在人称変化(3)	教科書13～18ページの練習。(2時間)
13	名詞の複数形	教科書13～18ページの練習。(2時間)
14	101以上の数字	教科書13～18ページの練習。(2時間)
15	趣味と余暇に関する会話	教科書13～18ページの練習。(2時間)
16	名詞の3格	教科書19～24ページの練習。(2時間)
17	3格支配の前置詞	教科書19～24ページの練習。(2時間)
18	4格支配の前置詞	教科書19～24ページの練習。(2時間)
19	方向の表現in/nach/auf	教科書19～24ページの練習。(2時間)
20	人気の旅行先とお土産	教科書19～24ページの練習。(2時間)
21	人称代名詞の3格と4格	教科書25～30ページの練習。(2時間)
22	時刻の表現	教科書25～30ページの練習。(2時間)
23	分離動詞	教科書25～30ページの練習。(2時間)
24	非分離動詞	教科書25～30ページの練習。(2時間)
25	体調と健康の表現	教科書25～30ページの練習。(2時間)
26	話法の助動詞(1)	教科書31～36ページの練習。(2時間)
27	話法の助動詞(2)	教科書31～36ページの練習。(2時間)
28	命令文	教科書31～36ページの練習。(2時間)
29	買物に関する会話	教科書31～36ページの練習。(2時間)
30	補充問題	プリントの予習・復習。(2時間)

テキスト	清野智昭/時田伊津子/牛山さおり『ドイツ語の時間〈ときめきミュンヘン〉』（朝日出版社）
指定図書	あり（巻末参照）

科目名	ドイツ語Ⅱ	担当者	横溝眞理
区分等	１年次・後期［演習］４単位　選択／生活文化専攻		
評価基準	①授業中の小テスト(75%)　②定期試験(25%)		
目的	ドイツ語の基礎力を身につけること。		
到達目標	①動詞の過去人称変化をマスターする。(DP1) ②現在完了時制の文が言えるようになる。(DP1) ③形容詞の活用や比較表現を理解する。(DP1) ④受動態や関係詞、接続法について、その用法を理解する。(DP1) ⑤英語以外の外国語を学ぶことによって、日本語や英語を別の角度から見直すことができるようになる。(DP3)		
履修上の注意	①「ドイツ語Ⅰ」(4単位)を履修済みであること。 ②教科書以外にも、プリント等で練習問題を補う予定。 ③授業時間の一部を使って、後期中に小テストを６回行う。出題範囲と形式はそのつど事前にプリントで知らせる。 ④授業外学習として教科書やプリントのわからない単語の意味をあらかじめ独和辞典で調べてくること。		
オフィスアワー	毎週火曜日14:45～16:15		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	3・4格支配の前置詞	教科書37～42ページの練習。(2時間)
2	前置詞と定冠詞の融合形	教科書37～42ページの練習。(2時間)
3	並列接続詞	教科書37～42ページの練習。(2時間)
4	相関接続詞	教科書37～42ページの練習。(2時間)
5	道順の表現	教科書37～42ページの練習。(2時間)
6	過去分詞にge-のつかない動詞	教科書43～48ページの練習。(2時間)
7	分離動詞の過去分詞	教科書43～48ページの練習。(2時間)
8	現在完了形	教科書43～48ページの練習。(2時間)
9	過去形	教科書43～48ページの練習。(2時間)
10	日付の言い方	教科書43～48ページの練習。(2時間)
11	定冠詞類dieser/welcher	教科書49～54ページの練習。(2時間)
12	従属接続詞と副文(1)	教科書49～54ページの練習。(2時間)
13	従属接続詞と副文(2)	教科書49～54ページの練習。(2時間)
14	飲食店での注文	教科書49～54ページの練習。(2時間)
15	比較級と最上級(1)	教科書55～60ページの練習。(2時間)
16	比較級と最上級(2)	教科書55～60ページの練習。(2時間)
17	再帰動詞と再帰代名詞(1)	教科書55～60ページの練習。(2時間)
18	再帰動詞と再帰代名詞(2)	教科書55～60ページの練習。(2時間)
19	クリスマスに関する表現	教科書55～60ページの練習。(2時間)
20	形容詞の格変化(1)	教科書61～66ページの練習。(2時間)
21	形容詞の格変化(2)	教科書61～66ページの練習。(2時間)
22	非人称表現	教科書61～66ページの練習。(2時間)
23	ファッションに関する表現	教科書61～66ページの練習。(2時間)
24	接続法第Ⅱ式(1)	教科書67～72ページの練習。(2時間)
25	接続法第Ⅱ式(2)	教科書67～72ページの練習。(2時間)
26	接続法第Ⅰ式	教科書67～72ページの練習。(2時間)
27	不定詞句	教科書67～72ページの練習。(2時間)
28	関係代名詞と関係副詞	補充プリントの練習。(2時間)
29	受動態	補充プリントの練習。(2時間)
30	補充問題	補充プリントの練習。(2時間)

テキスト	清野智昭/時田伊津子/牛山さおり『ドイツ語の時間〈ときめきミュンヘン〉』（朝日出版社）
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	**韓国語Ⅰ**	担当者	John Thurlow
区　分　等	１年次・前期［演習］２単位　選択／生活文化専攻		
評価基準	①　授業態度・小テスト（60%） ②　予習・復習(20%) ③　定期試験（20%）		
課題に対するフィードバック	各課の理解できなかった点を復習する。随時アドバイスや提案をする。		
目　　的	韓国語の文字と発音を習得し、単語と文法を覚えて、簡単な会話ができるようになる。		
到達目標	学生は次のことができるようになる。 ①　韓国語の発音を練習しながら、ハングルの読み書きを覚える。(DP1) ②　よく使う単語や文法を学ぶ。(DP1, DP2) ③　自己紹介や簡単な会話できる。(DP2, DP3)		
履修上の注意	新しい文字の習得には強い意思と根気が必要です。ハングルに慣れるまでは時間がかかります。授業の進行状況等によってシラバスと異なる場合があります。		
オフィスアワー	授業の前後		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション・外国語習得について 韓国語の系統・ハングルの歴史	シラバスを確認する（30 分） 韓国語・ハングルについて自由に調べる（30 分）
2	第 1 課　ハングルの構造　（母音）	母音を復習する（1 時間）
3	第 2 課　ハングルの構造　（子音）	子音を復習する（1 時間）
4	第 3 課　ハングルの構造　（終声）	文字を復習する（30 分）第 4 課の単語を予習する(30 分)
5	第 4 課　挨拶　単語・文法	学んだ内容を復習する（1 時間）
6	第 4 課　挨拶　会話	学んだ内容を確認する(30 分)第 5 課を予習する(30 分)
7	第 5 課　家族　単語・文法	学んだ内容を復習する　（1 時間）
8	第 5 課　家族　会話	学んだ内容を確認する(30 分)　第 6 課を予習する(30 分)
9	第 6 課　場所　単語・文法	学んだ内容を復習する（1 時間）
10	第 6 課　場所　会話	学んだ内容を確認する(30 分)　第 7 課を予習する(30 分)
11	第 7 課　固有数詞　単語・文法	学んだ内容を復習する　（1 時間）
12	第 7 課　固有数詞　会話	学んだ内容を確認する　(30 分)大 8 課を予習する(30 分)
13	第 8 課　曜日　単語・文法	学んだ内容を復習する　（1 時間）
14	第 8 課　曜日　会話	学んだ内容を確認する　(30 分)　総合的な復習　(30 分)
15	復習、質疑応答	韓国語Ⅰの総合的な復習する　（1 時間）

テキスト	李順蓮　他『トクトク韓国語１』(朝日出版社)
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	**韓国語Ⅱ**	担当者	John Thurlow
区　分　等	１年次・後期［演習］２単位　選択／生活文化専攻		
評価基準	①　授業態度（60%） ②　予習・復習・小テスト（40%）		
課題に対するフィードバック	小テスト後に解答と説明を行う。随時アドバイスや提案をする。		
目　　的	新しい文法を学んで、単語や表現を増やし、簡単な日常会話を目指す。		
到達目標	学生は次のことができるようになる。 新しい単語・文法を覚える。　(DP1, DP2) 日常的な会話ができる。　(DP2, DP3)		
履修上の注意	文字の読み書きは一通りマスターしていることを前提とする。 授業の進行状況等によってシラバスと異なる場合があります。		
オフィスアワー	授業の前後		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション　韓国語Ⅰの復習・確認	前期のノートを確認して、第9回を予習する。(1時間)
2	第９課　日常生活　単語・文法	学んだ内容を復習する。(1時間)
3	第９課　日常生活　会話	学んだ内容を確認して、第10課を予習する（1時間)
4	第10課　漢数詞　単語・文法	学んだ内容を復習する。(1時間)
5	第10課　漢数詞　会話	学んだ内容を確認して、第11課を予習する。(1時間)
6	第11課　買い物　単語・文法	学んだ内容を復習する。(1時間)
7	第11課　買い物　会話	学んだ内容を確認して、第12課を予習する。(1時間)
8	第12課　趣味　単語・文法	学んだ内容を復習する。(1時間)
9	第12課　趣味　会話	学んだ内容を確認して、第13課を予習する。(1時間)
10	第13課　日付　単語・文法	学んだ内容を復習する。(1時間)
11	第13課　日付　会話	学んだ内容を確認して、第14課を予習する。(1時間)
12	第14課　食事　単語・文法	学んだ内容を復習する。(1時間)
13	第14課　食事　会話	学んだ内容を確認して、第15課を予習する1時間)
14	第15課　季節・気候　単語・文法	学んだ内容を復習する。(1時間)
15	第15課　季節・気候　会話	総合的な復習を行う。(1時間)

テキスト	李順蓮　他『トクトク韓国語１』(朝日出版社)
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	**中国語Ⅰ**	担当者	周　業欣
区　分　等	1年次・前期[演習]2単位・選択／生活文化専攻		
評価基準	①授業内小テスト(30%)　②筆記試験(70%)		
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスや提案をするなど、学生にフィードバックする。		
目　　的	中国語の発音記号(ピンイン)を始め、中国語の日常的な挨拶、自己紹介の表現、及び基本文型を学習することによって、入門中国語の基礎能力を養う。		
到達目標	1) 中国語のアクセントや発音記号を聴き分けしたり、正しく発音したりすることができる。(DP1) 2)日常的な挨拶や自己紹介をすることができる。(DP1) 3)基本文型を理解し、簡単な文章が書ける。(DP1) 4)日々の学習を通じて、中国の生活や文化を理解する。(DP2)		
履修上の注意	特になし		
オフィスアワー	授業の前後 10 分間		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	発音①(声調、単母音)	教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1時間) テキストP2
2	発音②(複母音)	教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1時間) テキストP3
3	発音③(子音)	教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1時間) テキストP3
4	発音④(鼻母音、声調の変化)	教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1時間) テキストP3～6
5	会話「こんにちは」；文法「挨拶、苗字や名前の言い方、人称代名詞」	教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1時間) テキストP10～11
6	会話「私は日本人です」；文法「動詞“是~”の文:A は B です」	教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1時間) テキストP10～11
7	会話「これは辞書ですか」； 文法「指示代名詞；“~吗”を使う疑問文」	教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1時間) テキストP14～15
8	会話「夏は暑い」； 文法「形容詞述語文;副词“也”，～も」	教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1時間) テキストP14～15
9	会話「何を買いますか」； 文法「動詞述語文；疑問詞を使った疑問文」	教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1時間) テキストP18～19
10	会話「メニューがありますか」；文法「存在を表す“有”と“在”；場所代名詞」	教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1時間) テキストP18～19
11	会話「今日は何月何日ですか」；文法「数字に関連する表現、日付、曜日の言い方」	教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1時間) テキストP22～23
12	会話「いま何時ですか」； 文法「時刻の言い方」	教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1時間) テキストP22～23
13	会話「テーブルの上に何がありますか」；文法「方位詞，~の上；量詞，ものの数え方」	教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1時間) テキストP26～27
14	会話「あなたの家は学校まで遠いですか」； 文法「所有、所属を表す“~的”；前置詞」	教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1時間) テキストP26～27
15	まとめ	前期で勉強した内容を復習し、定着させる。(2時間)

テキスト	山下輝彦著『入門中国語の小窓』(同学社)
指定図書	あり(巻末参照)

科　目　名	**中国語Ⅱ**	担当者	周　業欣
区　分　等	1年次・後期[演習]2単位・選択／生活文化専攻		
評 価 基 準	①授業内小テスト(30%)　②筆記試験(70%)		
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスや提案をするなど、学生にフィードバックする。		
目　　的	初級中国語の基礎表現や文法ポイントを学習することによって、中国語の基礎能力を養う。		
到 達 目 標	1)発音記号(ピンイン)に慣れ、自分で綴りを読んだり、聴き分けしたりすることができる。(DP1) 2)勉強した日常会話や表現を応用することができる。 (DP2) 3)初級中国語の文法について理解し、基本文を聴いたり、読んだり、書いたり、話したりすることができる。 (DP2) 4)日々の学習を通じて、中国の生活や文化を理解する。 (DP2)		
履修上の注意	「中国語Ⅰ」を履修済みであること。		
オフィスアワー	授業の前後 10 分間		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	会話「コーヒー、それとも紅茶を飲みますか、」；文法「選択疑問文；助動詞その①、～がしたい」	教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1時間) テキストP30～31
2	会話「あなたは中国に行ったことがありますか」；文法「過去の経験を表す；接続詞、～と」	教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1時間) テキストP30～31
3	会話「王さんは来ましたか」；文法「動作の完了を表す；助動詞その2、～できる」	教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1時間) テキストP34～35
4	会話「明日、一緒にスキーに行きましょう」；文法「語気助詞、～でしょう；二重主語」	教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1時間) テキストP34～35
5	会話「二か月間中国語を勉強しました」；文法「動作の量を表す；語気助詞、~は」	教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1時間) テキストP38～39
6	会話「彼は卓球をやっています」；文法「動詞の進行形；様態補語」	教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1時間) テキストP38～39
7	会話「私たちは映画を見に行きたい」；文法「目的を表す連動式；手段を表す連動式」	教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1時間) テキストP42～43
8	会話「彼女にボーイフレンドがいますか」；文法「動詞の重ね型；反復疑問文」	教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1時間) テキストP42～43
9	会話「張さんはまもなく結婚します」；文法「“まもなく～”；方向補語」	教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1時間) テキストP46～47
10	会話「先生は王さんを行かせます」；文法「副詞の“都”；兼語(使役)式、～させる」	教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1時間) テキストP46～47
11	会話「私の話、あなたは聞いてわかりましたか」；文法「結果補語；形容詞＋“一点儿、少し～」	教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1時間) テキストP50～51
12	会話「あなたはどこから来たのですか」；文法「“～したのです”」	教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1時間) テキストP50～51
13	会話「私の自転車は彼に借りて行かれた」；文法「受け身の表現；存現文」	教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1時間) テキストP54～55
14	会話「中国語は英語より難しい」；文法「比較の表現；やはり～」	教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1時間) テキストP54～55
15	まとめ	後期で勉強した内容を復習し、定着させる。(2時間)

テキスト	山下輝彦著『入門中国語の小窓』(同学社)
指定図書	あり(巻末参照)

科　目　名	Webプログラミング	担当者	米山修司
区　分　等	１年次・後期［演習］２単位　選択／生活文化専攻、健康栄養専攻		
評価基準	①　課題提出(70%) ②　定期試験(30%)		
課題に対するフィードバック	提出物については、採点を行った上でGoogle Classroom を用いて返却する。また、Google Classroomのルーブリック機能を用いて、詳細なフィードバックを行う。		
目　　的	①　簡単なWebページを作成することを通して、Webページの動作の基本を理解する。 ②　動的なWebページを作成するための技術として、JavaScriptの基礎的な知識を身につけ、プログラミングの考え方の基礎を習得する。		
到達目標	①　Webページの仕組みを理解し、説明することができる。(DP1) ②　HTML言語とCSSの基礎を理解し、簡単なWebページを作成できる。(DP1, DP2) ③　JavaScriptの基礎を習得し、簡単なプログラムを読んで理解することができ、必要に応じて変更することができる。(DP1, DP2)		
履修上の注意	①　PCの基本的な操作ができることが必要。		
オフィスアワー	金曜日　14:45～16:15		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	● ガイダンス ● Webの仕組み ● GAS(Google Apps Script)を利用したWebページの作成方法	予習：不要 (本科目は予習が不要。第2回以降も同様で記載を省略。) 復習：講義資料で復習を行い、GASの使い方を再確認しておく(2時間)
2	● HTML① ・HTMLの基本構文	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2時間) テキスト該当箇所：Chapter1(HTMLによるWebページ作成)
3	● HTML② ・HTMLによる画像の表示と表の作成	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2時間) テキスト該当箇所：Chapter1(HTMLによるWebページ作成)
4	● CSSによる装飾とレイアウト	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2時間) テキスト該当箇所：Chapter2(CSSによる装飾とレイアウト)
5	● JavaScript① ・変数宣言と代入 ・データ型 ・条件分岐	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2時間) テキスト該当箇所：Chapter4(JavaScriptの基本)
6	● JavaScript② ・繰り返し処理(for文 / while文)	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2時間) テキスト該当箇所：Chapter4(JavaScriptの基本)
7	● JavaScript③ ・関数	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2時間) テキスト該当箇所：Chapter4(JavaScriptの基本)
8	● JavaScript④ ・日付オブジェクト	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2時間) テキスト該当箇所：Chapter4(JavaScriptの基本)
9	● JavaScript⑤ ・配列	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2時間) テキスト該当箇所：Chapter5(JavaScriptによるデータ処理)
10	● JavaScript⑥ ・連想配列	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2時間) テキスト該当箇所：Chapter5(JavaScriptによるデータ処理)
11	● DOMとイベント処理	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2時間) テキスト該当箇所：Chapter6(DOM、Form、jQuery)
12	● 総合演習① ・時計アプリの作成	復習：講義の総復習を行い、総合演習の課題に取り組む(2時間)
13	● Form	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2時間) テキスト該当箇所：Chapter6(DOM、Form、jQuery)
14	● 総合演習② ・カレンダーアプリの作成	復習：講義の総復習を行い、総合演習の課題に取り組む(2時間)
15	● Canvasによるグラフィックス描画	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2時間) テキスト該当箇所：Chapter9(グラフィックス描画)

テキスト	村上祐治『はじめてのWebデザイン&プログラミング: HTML、CSS、JavaScript、PHPの基本』（森北出版）
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	**表計算活用**	担当者	佐藤　恵
区　分　等	１年次・後期［演習］２単位　選択／生活文化専攻、健康栄養専攻		
評価基準	課題提出(30%)、授業内小テスト(70%)。		
課題に対するフィードバック	課題や授業内小テストについては、評価を付けて返却する。		
目　　的	Excel の基本的利用技術を習得する。 Excel の活用法ならびに関数の利用法を学ぶ。		
到達目標	①情報処理技能検定（表計算）３級から１級までの問題を解析しながら Excel での処理方法を学び、処理ができるようになること。(DP1,2) ②情報処理技能検定(表計算)準１級合格。(DP1,3)		
履修上の注意	授業内容は段階を経て進めていくので、欠課した場合は担当者から内容を聞き、できるようにしておくこと。復習が必要。		
オフィスアワー	金曜日 13:00～16:30		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	情報処理技能検定(表計算)３級問題（１） 統計関数、端数処理、論理関数	授業の復習（1 時間）
2	情報処理技能検定(表計算)３級問題（２） 統計関数、端数処理、論理関数	授業の復習（1 時間）
3	情報処理技能検定(表計算)準２級問題（１） 論理関数、表検索、並べ替え、セル証明、グラフ	授業の復習（1 時間）
4	情報処理技能検定(表計算)準２級問題（２） 論理関数、表検索、並べ替え、セル証明、グラフ	授業の復習（1 時間）
5	情報処理技能検定(表計算)準２級問題（３） 論理関数、表検索、並べ替え、セル証明、グラフ	授業の復習と小テストのための練習（1.5 時間）
6	情報処理技能検定(表計算)２級問題（１） 論理関数、表検索、並べ替え、セル証明、グラフ	授業の復習（1 時間）。
7	情報処理技能検定(表計算)２級問題（２） 論理関数、表検索、並べ替え、セル証明、グラフ	授業の復習（1 時間）
8	情報処理技能検定(表計算)２級問題（３） 論理関数、表検索、並べ替え、セル証明、グラフ	授業の復習と小テストのための練習（1.5 時間）
9	情報処理技能検定(表計算)準１級問題（１） データベース関数、文字列操作、端数処理	授業の復習（1 時間）
10	情報処理技能検定(表計算)準１級問題（２） データベース関数、文字列操作、端数処理	授業の復習（1 時間）。
11	情報処理技能検定(表計算)準１級問題（３） データベース関数、文字列操作、端数処理	授業の復習と小テストのための練習（1.5 時間）
12	情報処理技能検定(表計算)１級（１） データベース関数、抽出、並べ替え	授業の復習（1 時間）
13	情報処理技能検定(表計算)１級問題（２） データベース関数、抽出、並べ替え	授業の復習（1 時間）
14	情報処理技能検定(表計算)１級問題（３） データベース関数、抽出、並べ替え	授業の復習と小テストのための練習（2 時間）
15	小テスト	授業の復習（1 時間）

テキスト	日本情報検定協会編・発行「情報処理技能絵検定試験表計算模擬問題集 2 級・準 2 級編」、同「1 級・準 1 級編」
指定図書	なし

科　目　名	ワードプロセッサ活用学A	担当者	佐藤　恵
区　分　等	１年次・後期［演習］２単位　選択／生活文化専攻、健康栄養専攻		
評価基準	課題提出(30%)、小テスト(70%)。		
課題に対するフィードバック	課題や小テストについては、評価を付けて返却する。		
目　　的	①Microsoft Office Word の基本操作を学ぶ。 ②ビジネス文書に必要な、話しことばと口語体の書きことば、手紙文のことばなどについて学ぶ。 ③ビジネス文書を理解するために、多くの基本文例に触れる。また、的確で分かりやすいビジネス文書を理解するために、メモをもとにした、ビジネス文書の作成方法を学ぶ。 ④ワープロ検定試験２級程度の実力を身につける。		
到達目標	①タッチタイピングの習得を通して、自らのタイピングの問題点に気づき、課題を解決することで速度アップすることができる。(DP1,3) ②正しい書きことば(口語体)で表現できる。(DP2) ③ビジネス文書の種類を判断し、それに応じた文書作成ができる。(DP1,2,3) ④ワープロ検定試験２級問題を制限時間内に完成できる。(DP3)		
履修上の注意	授業開始時にログオンが完了していること。課題は期限内に提出し、教員のチェックを受けること。		
オフィスアワー	月曜日 13:00～16:30		

授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	文書の基礎知識： 文の成り立ち、文章の構成、配置と基準	タッチタイピング練習。整理と確認。(1 時間)
2	社外文書：日本語ワープロ検定問題準２級 ページ設定、段落設定	タッチタイピング練習。準２級練習問題。(1 時間)
3	社外文書：日本語ワープロ検定問題準２級 タブ設定、罫線（表・レイアウト・デザイン)	タッチタイピング練習。準２級練習問題。(1 時間)
4	社外文書：日本語ワープロ検定問題準２級 1～3 回目までの復習	タッチタイピング練習。準２級練習問題。(1 時間)
5	社外文書：日本語ワープロ検定問題２級 段落設定応用	タッチタイピング練習。２級練習問題。(1 時間)
6	社外文書：日本語ワープロ検定問題２級 罫線応用（表・レイアウト・デザイン)	タッチタイピング練習。２級練習問題。(1 時間)
7	社外文書：日本語ワープロ検定問題２級 5～7 回目までの復習	タッチタイピング練習。２級練習問題。(1 時間)
8	社外文書：日本語ワープロ検定問題２級 小テスト２	タッチタイピング練習。準１級練習問題。(1 時間)
9	社外文書：日本語ワープロ検定問題準１級 ページ設定応用(グリッド線)、図形の挿入①	タッチタイピング練習。準１級練習問題。(1 時間)
10	社外文書：日本語ワープロ検定問題準１級 フォント応用、図形の挿入②	タッチタイピング練習。準１級練習問題。(1 時間)
11	社外文書：日本語ワープロ検定問題準１級 図形描画③	タッチタイピング練習。準１級練習問題。(1 時間)
12	社外文書：日本語ワープロ検定問題１級 図形の挿入④	タッチタイピング練習。１級練習問題。(1 時間)
13	社外文書：日本語ワープロ検定問題１級 図形の挿入⑤	タッチタイピング練習。１級練習問題。(1 時間)
14	社外文書：日本語ワープロ検定問題１級 9～13 回までの復習	タッチタイピング練習。１級練習問題。(1 時間)
15	文書の表現技能（表題、文体)	タッチタイピング練習。確認とまとめ。

テキスト	講座でプリントを作成・配付
指定図書	なし

科　目　名	ＩＣＴ基礎	担当者	米山修司
区　分　等	１年次・後期［講義］２単位　選択／生活文化専攻、健康栄養専攻		
評価基準	① 課題提出(50%)　② 定期試験(50%)		
課題に対するフィードバック	提出物については、採点を行った上で Google Classroom を用いて返却する。		
目　　的	①　ネットワークとセキュリティに関する基本的な知識を養う。 ②　IT パスポート試験のテクノロジ系の試験範囲のうち、ネットワークとセキュリティの範囲を理解することが出来る程度の知識を養う。		
到達目標	①　ネットワークに関する基本的な知識を身につける。(DP1) ②　セキュリティに関する基本的な知識を身につける。(DP1)		
履修上の注意	①　この科目は、コンピュータを用いた演習科目ではなく、座学の科目である。それを理解した上で履修すること。 ②　前期開講の「情報科学入門」とセットで履修することが望ましい。		
オフィスアワー	金曜日　14:45～16:15		

授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	● ガイダンス ● ネットワーク① ・ネットワークの構成 ・LAN と WAN ・ネットワークと標準化	予習：不要 (本科目は予習が不要。第 2 回以降も同様で記載を省略。) 復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：4-01(ネットワークの構成) 4-02(無線 LAN) 9-08(標準化)
2	● ネットワーク② ・通信プロトコル ・ＷＥＢページ ・電子メール	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：3-01(コンピュータの形態) 4-03(通信プロトコル) 4-06(Web ページ) 4-07(電子メール)
3	● ネットワーク④ ・インターネットの仕組み	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：1-09(基数変換) 4-04(インターネットの仕組み)
4	● ネットワーク⑤ ・通信サービス	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：1-01(情報に関する理論) 4-05(通信サービス)
5	● ネットワーク⑤ ・IoT	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：3-05(IoT システムと組み込みシステム)
6	● セキュリティ① ・情報資産と脅威	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：5-01(情報資産と脅威)
7	● セキュリティ② ・サイバー攻撃	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：5-02(サイバー攻撃)
8	● セキュリティ③ ・情報セキュリティマネジメント	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：5-03(情報セキュリティマネジメント)
9	● セキュリティ④ ・リスクマネジメント	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：5-04(リスクマネジメント) 10-05(情報システム戦略と業務プロセス)
10	● セキュリティ⑤ ・利用者認証	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：5-05(利用者認証)
11	● セキュリティ⑥ ・ネットワークセキュリティ	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：5-06(ネットワークセキュリティ)
12	● セキュリティ⑦ ・暗号化技術	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：5-07(暗号化技術)
13	● セキュリティ⑧ ・デジタル署名と認証局	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：5-08(デジタル署名と認証局)
14	● セキュリティ⑨ ・セキュリティ関連法規 ・個人情報関連法規	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：9-04(セキュリティ関連・個人情報関連法規)
15	● 演習問題による総復習	復習：講義の総復習(2 時間)

テキスト	栢木厚『令和 07 年　イメージ&クレバー方式でよくわかる　栢木先生の IT パスポート教室』(技術評論社) ※　テキストは前期開講の「情報科学入門」と共通。昨年度「情報科学入門」を履修しており、令和 06 年度版を所有している場合は、令和 07 年度版を買い直す必要はない。 ※　シラバスに記載の「テキスト該当箇所」は、令和 07 年度版に準拠した記載である。
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	**情報科学入門**	担当者	米山修司
区　分　等	１年次・前期［講義］２単位　選択／生活文化専攻、健康栄養専攻		
評価基準	① 課題提出(50%)　② 定期試験(50%)		
課題に対するフィードバック	提出物については、採点を行った上で Google Classroom を用いて返却する。		
目　　的	① コンピュータに関する基本的な知識を養う。 ② IT パスポート試験のテクノロジ系の試験範囲のうち、半分程度を理解することが出来る程度の知識を養う。		
到達目標	① 情報の表現方法に関する基本的な知識を身につける。(DP1) ② コンピュータの構成や動作に関する基本的な知識を身につける。(DP1)		
履修上の注意	① この科目は、コンピュータを用いた演習科目ではなく、座学の科目である。それを理解した上で履修すること。 ② 後期開講の「ＩＣＴ基礎」とセットで履修することが望ましい。 ③ 計算問題を扱うため、基本的な計算能力を持ち合わせていることが望ましい。		
オフィスアワー	金曜日　14:45～16:15		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	● ガイダンス ● Ｎ進数の考え方	予習：不要 (本科目は予習が不要。第 2 回以降も同様で記載を省略。) 復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：1-09(基数変換)
2	● プログラミング言語 ● 言語処理系 ● 情報量の単位 ● 基数変換(１０進数→Ｎ進数)	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：1-01(情報に関する理論) 1-08(基数変換) 7-03(プログラム言語とマークアップ言語)
3	● 文字コード ● 基数変換(Ｎ進数→１０進数) ● Ｎ進数の加減乗除	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：1-01(情報に関する理論)、1-08(基数変換)
4	● アナログとデジタル ● デジタル音声とデジタル画像	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：2-08(マルチメディア)
5	● コンピュータの５大装置① ・制御装置 ・演算装置	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：1-02(コンピュータの構成と CPU)
6	● コンピュータの５大装置② ・記憶装置	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：1-03(主記憶と補助記憶)、1-04(半導体メモリ)
7	● コンピュータの５大装置③ ・入力装置 ・出力装置	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：1-05(入出力装置)、1-06(入出力インタフェース)
8	● アプリケーションソフトウェア ● ユーザインタフェース ● オープンソースソフトウェア	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：2-01(ソフトウェア) 2-07(ユーザインタフェース) 9-03(知的財産権)
9	● オペレーティングシステム	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：2-01(ソフトウェア)
10	● ファイルシステム	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：2-02(ファイル管理)、2-03(ファイルのバックアップ)
11	● コンピュータの形態 ● システムの構成	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：3-01(コンピュータの形態)、3-02(システム構成)
12	● システムの評価指標 ● システムの信頼性設計	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：3-03(システムの信頼性)、3-04(システムの評価)
13	● ビジネスにおける情報技術の活用	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：3-06(ソリューションビジネスとシステム活用促進) 10-09(ビジネスシステムとエンジニアリング) 10-10(e-ビジネス)
14	● AI(人工知能) ● ビッグデータ	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：1-07(AI)、10-01(第 4 次産業革命とビッグデータ)
15	● 演習問題による総復習	復習：講義の総復習(2 時間)

テキスト	栢木厚『令和 07 年　イメージ＆クレバー方式でよくわかる　栢木先生の IT パスポート教室』(技術評論社) ※ テキストは後期開講の「ＩＣＴ基礎」と共通。昨年度「ＩＣＴ基礎」を履修しており、令和 06 年度版を所有している場合は、令和 07 年度版を買い直す必要はない。 ※ シラバスに記載の「テキスト該当箇所」は、令和 07 年度版に準拠した記載である。
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	Python Ⅰ	担当者	米山修司
区　分　等	１年次・後期［演習］２単位　選択／生活文化専攻		
評 価 基 準	① 課題提出(60%)　② 定期試験(30%)　③ プレゼンテーション(10%)		
課題に対するフィードバック	提出物については、採点を行った上で Google Classroom を用いて返却する。		
目　　的	① プログラミング言語 Python を用いた基本的なプログラミングを行う能力を養う。		
到 達 目 標	① 基本的な Python のプログラミングの問題を解く能力を身に着ける。(DP1, DP2)		
履修上の注意	① この科目は、プログラミングの演習科目である。それを理解した上で履修すること。 ② PC の基本的な操作ができることが必要。 ③ 授業の後半で行うグループ演習では、協調性のある行動が求められる。		
オフィスアワー	金曜日　14:45～16:15		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	● ガイダンス ● 環境構築 ● Hello World プログラムの実行	予習：不要(本科目は予習が不要。第２回以降も同様で記載を省略。) 復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：第１章(値の入出力／変数)
2	● 指定された値の表示 ● 変数 ● キーボードからの値の入力	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：第１章(値の入出力／変数)
3	● データ型① ・整数型 ・浮動小数点型 ・文字列型 ● 算術演算子 ● 型変換 ● 数値の文字列への埋め込み	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：第２章(データ型)
4	● データ型② ・論理型 ● 条件分岐① ・if 文 ● コメントの記述 ● 比較演算子	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：第３章(単純な条件分岐)
5	● 条件分岐② ・else 節 ・elif 節 ● 論理演算子	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：第４章(複雑な条件分岐)
6	● 組み込み関数 ● ユーザ定義関数	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：第５章(関数)
7	● 関数のモジュール化 ● 標準ライブラリ① ・math モジュール	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：第６章(モジュール)
8	● 繰り返し処理① ・for 文 ● 複合代入演算子	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：第７章(繰り返し処理Ⅰ)
9	● 繰り返し処理② ・while 文 ● 変数の初期化 ● pass 文 ● 繰り返しの制御 (break 文 / continue 文) ● 無限ループ	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：第８章(繰り返し処理Ⅱ)
10	● リスト(list) ● 標準ライブラリ② ・random モジュール	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：第９章(コレクションⅠ)
11	● 総合演習	復習：ここまでの講義の総復習を行い、演習問題を解く(2 時間)
12	● グループによるプログラミング演習 (カレンダーアプリの作成)①	復習：ここまでの講義の総復習を行い、グループで演習問題を解く (2 時間)
13	● グループによるプログラミング演習 (カレンダーアプリの作成)②	復習：ここまでの講義の総復習を行い、グループで演習問題を解く (2 時間)
14	● グループによるプログラミング演習 (カレンダーアプリの作成)③	復習：ここまでの講義の総復習を行い、グループで演習問題を解く (2 時間)
15	● グループ演習の成果発表とまとめ	復習：講義の総復習(2 時間)

テキスト	米山修司『初歩からはじめる Python プログラミング』(デザインエッグ)
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	**心理学Ａ**	担当者	織田栄子
区　分　等	１年次・前期［講義］２単位　選択／生活文化専攻、健康栄養専攻		
評価基準	到達目標１　定期試験でのテスト(40%)、中間まとめ（30%)、 到達目標２　受講カードの提出と内容（20%)、受講取り組み態度(10%)。		
課題に対するフィードバック	１　提出物（ワークシート等）は、随時、コメントを付けて返却する。 ２　提出物、中間まとめやテストは、随時、アドバイスなど学生にフィードバックする。		
目　　的	人間関係や集団の特徴、性格の成り立ちや心の持ち方、心の問題、行動から捉える人間の特徴などを学ぶことにより、人間の心のしくみを理解し、日常生活に応用できる力を身に付ける。		
到達目標	１　心的機能、心的過程を学ぶことにより、人間を理解できる。(DP1,DP2,DP3) ２　自己理解、他者理解を深めることができる。(DP1,DP3)		
履修上の注意	授業内でワークや心理テストを体験してもらいます。ＤＶＤや動画を適宜使います。		
オフィスアワー	火曜日昼休み		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション ・心理学とは何か	・予習：教科書 p1～4「0 心理学とは」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
2	社会的行動（社会心理学）１ ・自己形成 ・対人認知	・予習：教科書 p5～12「1 社会的行動(社会心理学)1・1 社会的存在としての自己、1・2 社会的行動の個人基盤」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
3	社会的行動（社会心理学）２ ・非言語的コミュニケーション ・説得的コミュニケーション	・予習：教科書 p12～18「1・3 個人間の社会的影響」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
4	社会的行動（社会心理学）３ ・対人魅力 ・恋愛のスタイル	・予習：教科書 p18～22「1・4 対人関係の形成と親密化」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
5	社会的行動（社会心理学）４ ・リーダーシップ ・群集行動 ・普及と流行	・予習：教科書 p22～33「1・5 集団構造化、1・6 集団内の社会的影響、1・7 集合現象」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
6	パーソナリティと適応（臨床心理学）１ ・パーソナリティ ・心理テスト、知能検査	・予習：教科書 p35～50「2 パーソナリティと適応(臨床心理学)、2・1 パーソナリティ、2・2 心理アセスメント」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
7	パーソナリティと適応（臨床心理学）２ ・ストレスやフラストレーションと反応 ・防衛機制 ・コンフリクト（葛藤）	・予習：教科書 p50～55「2・3 適応」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
8	パーソナリティと適応（臨床心理学）３ ・不適応や様々な心理的問題１ 知的、発達、精神、パーソナリティの問題	・予習：教科書 p56～61「2・4 不適応の問題」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
9	パーソナリティと適応（臨床心理学）４ ・不適応や様々な心理的問題２ ・中間まとめと解説	・予習：教科書 p35～61、第 6～8 回授業時配付資料を読み直しながら、インターネットや書籍で「不適応」について調べ、要点をまとめる（7.5 時間） ・復習：中間まとめで課されたテーマを、教科書 p35～61、6～8 回授業時配付資料を読み、要点をまとめる。
10	パーソナリティと適応（臨床心理学）５ ・心理的援助（心理的介入） ・様々な心理療法 （精神分析療法、行動療法、クライエント中心療法等）	・予習：教科書 p61～65「2・5 心理的援助（心理的介入）」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
11	パーソナリティと適応（臨床心理学）６ ・非行・犯罪 ・ダークトライアド	・予習：教科書 p65～67「2・6 非行・犯罪」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
12	学習と動機づけ・情動（行動心理学）１ ・様々な学習と応用	・予習：教科書 p101～114「4 学習と動機づけ・情動（行動心理学)、4・1 学習」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
13	学習と動機づけ・情動（行動心理学）２ ・情動と動機づけ	・予習：教科書 p114～118「4・2・2 動機づけの種類、4・2・3 動機づけの理論」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)

14	学習と動機づけ・情動（行動心理学） 3 ・動機づけの阻害	・予習：教科書 p118～121「4・2・4 動機づけの阻害～4・2・7・動機付けの種類と表出」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
15	学習と動機づけ・情動（行動心理学） 4 ・情動動機づけと健康（学習性無力感）	・予習：教科書 p121～123「4・8 動機づけと健康情動・動機づけ」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
テキスト	金城辰夫監修、藤岡新治・山上精次編『図説現代心理学入門　四訂版』(培風館)	
指定図書	あり（巻末参照)。適宜、参考図書等を紹介します。	

科　目　名	心理学B	担当者	織田栄子
区　分　等	１年次・後期［講義］２単位　選択／生活文化専攻、健康栄養専攻		
評価基準	到達目標１　定期試験でのテスト(40%)、中間まとめ(30%)、 到達目標２　受講カードの提出と内容（20%)、受講取り組み態度(10%)。		
課題に対するフィードバック	１　提出物（ワークシート等）は、随時、コメントを付けて返却する。 ２　提出物、中間まとめやテストは、随時、アドバイスなど学生にフィードバックする。		
目　　的	人間の成長に伴う心身の特徴、人間の物の見方や捉え方の特徴、記憶や思考、脳のしくみ等身体の特徴と心の働きの関係などを学ぶことにより、人間のこころのしくみを理解し、日常生活に応用できる力を身に付ける。		
到達目標	１　心的機能、心的過程を学ぶことにより、人間を理解できる。(DP1,DP2,DP3) ２　自己理解、他者理解を深めることができる。(DP1,DP3)		
履修上の注意	授業内でワークや心理テストを体験してもらいます。ＤＶＤや動画を適宜使います。		
オフィスアワー	火曜日昼休み		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション ・心理学とは何か	・予習：教科書 p1～4「0 心理学とは」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
2	成熟と成長（発達心理学）１ ・発達とは何か	・予習：教科書 p71～74「3 成熟と成長、3・1 発達とは何か」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
3	成熟と成長（発達心理学）２ ・遺伝と環境	・予習：教科書 p74～82「3・2 遺伝と環境」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
4	成熟と成長（発達心理学）３ ・認知・言語・知能の発達 ・社会的発達	・予習：教科書 p82～99「3・3 認知の発達、3・4 言語と知能の発達、3・5 社会的発達」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
5	成熟と成長（発達心理学）４ ・発達段階と発達課題 ピアジェ、エリクソン、フロイトの理論	・予習：教科書 p90～93「3・4・2 知能発達」p96～99「3・5・4 エリクソンの発達説」、ｐ35～37「2・1・1 パーソナリティの理解」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
6	成熟と成長（発達心理学）５ ・中間まとめと解説	・予習：教科書 p71～99、第 2～6 回授業時配付資料を読み直しながら、インターネットや書籍で「青年期に起こりやすい問題」について調べ、要点をまとめる（7.5 時間） ・復習：中間まとめで課されたテーマを、教科書 p71～99、第 2～5 回授業時配付資料を読み、要点をまとめる。
7	感覚と知覚（認知心理学Ⅰ）１ ・感覚と知覚	・予習：教科書 p153～161「6 感覚・知覚（認知心理学 2、6・1 感覚と知覚、6・2 感覚的機能」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
8	感覚と知覚（認知心理学Ⅰ）２ ・錯覚・空間知覚	・予習：教科書 p160～161「6・2・3 感覚の時間的変化～6・3・4 幾何学的錯視」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
9	感覚と知覚（認知心理学Ⅰ）３ ・日常生活における錯覚１	・予習：教科書 p166～178「6・3・5 主観的知覚～6・6 脳塔的な知覚」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
10	感覚と知覚（認知心理学Ⅰ）４ ・アニメーションや映像における応用１	・予習：教科書 p153～178「6 感覚・知覚」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む（0.75 時間）
11	記憶・思考・言語（認知心理学Ⅰ）５ ・アニメーションや映像における応用 2	・予習：教科書 p153～178「6 感覚・知覚（認知心理学 2」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
12	記憶・思考・言語（認知心理学Ⅰ）６ ・色彩心理学と日常生活における応用	・予習：教科書 p156～159「6・2・2 刺激次元と感覚の次元」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
13	記憶・思考・言語（認知心理学Ⅱ） ・記憶と忘却のしくみ ・心的イメージ ・言語のしくみ ・思考のしくみ	・予習：教科書 p125～145「5・1 記憶、5・2 言語、5・3 試行刺激次元と感覚の次元」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)

14	心的活動の生理学的基礎（生理心理学）１ ・脳のしくみ	・予習：教科書 p179～199「心的活動の生理学的基礎（生理心理学)」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
15	心的活動の生理学的基礎（生理心理学）２ ・睡眠・夢のしくみ・夢分析について	・予習：教科書 p194～196「7・8 睡眠」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
テキスト	金城辰夫監修、藤岡新治・山上精次編『図説現代心理学入門　四訂版』(培風館)	
指定図書	あり（巻末参照)。適宜、参考図書等を紹介します。	

科　目　名	**哲学A**	担当者	Mathew Philip
区　分　等	１年次・前期［講義］２単位　選択／生活文化専攻、健康栄養専攻 ２年次・前期［講義］２単位　選択／生活こども専攻		
評価基準	1. 研究レポート(80%) 2. リアクションペーパー(20%)		
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーの意見や感想をできる限り授業に反映する。		
目　　的	人間は「考える」生き物である。「哲学」は「考え方」を学ぶ学問であり、それによって「人間」や人生について考える学問である。ジブリアニメ『おもひでぽろぽろ』と映画『あん』を通して「哲学」を試みる。		
到達目標	「レポートの作成」によって上記の目的を自己評価する。(DP2)		
履修上の注意	この科目は英語と日本語で開講します。英語と日本語の講義内容は同じです。		
オフィスアワー	授業紹介		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	ガイダンスと総論 Guidance and Introduction to Philosophy	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。
2	「考える」ということ Philosophy of Thinking	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。
3	「考える」ということ Philosophy of Thinking	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。
4	「考える」ということ Philosophy of Thinking	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。
5	「人生」について Philosophy of Life	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。
6	「人生」について Philosophy of Life	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。
7	「文明」と「歴史」について Philosophy of Culture and History	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。
8	「文明」と「歴史」について Philosophy of Culture and History	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。
9	ジブリアニメ『おもひでぽろぽろ』を観る Ghibli Anime 「Only Yesterday」	前半８回までの講義資料をチェックしておく。
10	ジブリアニメ『おもひでぽろぽろ』を観る Ghibli Anime 「Only Yesterday」	前半８回までの講義資料をチェックしておく。
11	『おもひでぽろぽろ』を哲学する Philosophizing Movie「Only Yesterday」	前半８回までの講義資料をチェックしておく。
12	映画『あん』を観る Movie 「Ann」	前半８回までの講義資料をチェックしておく。
13	映画『あん』を観る Movie 「ANN」	前半８回までの講義資料をチェックしておく。
14	『あん』を哲学する Philosophizing Movie 「Ann」	前半８回までの講義資料をチェックしておく。
15	世界の主な哲学 Various Philosophies of the World	研究レポートのテーマに関連する資料を読む。レポートを書く。

テキスト	なし（テーマごとに講義レジュメ、プリント資料を配付する）
指定図書	なし

科　目　名	哲学B	担当者	Mathew Philip
区　分　等	１年次・後期［講義］２単位　選択／生活文化専攻、健康栄養専攻 ２年次・後期［講義］２単位　選択／生活こども専攻		
評価基準	1. 研究レポート(80%) 1. リアクションペーパー(20%)		
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーの感想や意見をできる限り授業に反映する。		
目　　的	「人がそれなしで生きていけないものについて考えるのが哲学である」という定義に基づいてそれぞれの思いを深める。		
到達目標	1. 「それなしで生きられないもの」とは何か、自分なりの答えを得る。(DP2) 2. 人として、自分として・・・２つの視点に立つということ。(DP2)		
履修上の注意	授業テーマのなかから各自選んで研究レポートをまとめる（１２００字以上)。		
オフィスアワー	毎週水曜日 12:15～14:40		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	ガイダンスと総論	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。
2	「食べる」について（1） Philosophy of Eating	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。
3	「食べる」について（2） Philosophy of Eating	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。
4	「住む」について（1） Philosophy of Living	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。
5	「住む」について（2） Philosophy of Living	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。
6	「着る」について（1） Philosophy of Wearing	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。
7	「着る」について（2） Philosophy of Wearing	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。
8	「家族」について（1） Philosophy of Family	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。
9	「家族」について（2） Philosophy of Family	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。
10	人間を考える Philosophy of Human Beings	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。
11	個人としての人間 Man as Person	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。
12	青年期と人間の目覚め Adolescence and Human Awakening	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。
13	意識・思考の世界の人間Human Beings in the World of Consciousness and Thinking	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。
14	存在と命に対する基本的姿勢Basic attitude towards existence and life	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。
15	誠の愛を求めて In Search of True love	研究レポートのテーマに関連する資料を読む。レポートを書く。

テキスト	なし（テーマごとに講義レジュメ、プリント資料を配付する）
指定図書	なし

科　目　名	日本文学A	担当者	栗森　貢
区　分　等	１年次・前期［講義］２単位　選択／生活文化・健康栄養専攻		
評価基準	到達目標１：小テスト（10%） 到達目標２：定期テスト(50%)、授業内提出物(20%) 到達目標３：グループワーク及び授業に取り組む姿勢（20%）		
課題に対するフィードバック	学生の進度に応じて個々にアドバイスをし、提出した学習シートにコメントを付して返却する。		
目　　的	古代から近世までの物語や日記、随筆などの解釈や音読を通して、当時の人々の考え方や日本人固有の情緒を感じ取るなどして、優れた作品を鑑賞する。		
到達目標	１．古文の歴史的仮名遣いを理解するとともに、古語の意味を理解することができる。(DP1) ２．作品に展開されている自然観や人間観などを捉えることができる。(DP1・DP2) ３．作中に織り込まれている心情や情景描写を味わったり、好きな表現箇所を積極的に自己の表現の中に取り入れようとしたりすることができる。(DP3)		
履修上の注意	古語の意味確認や音読を積極的に行い、楽しみながら古文を読み味わうことに努めること。		
オフィスアワー	木曜日：5・6限		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	ガイダンス、全体計画等 「竹取物語」を概観し、作品のよさに触れる。	予習：本科目の全体計画を読み、「冒頭」と「蓬莱の玉の枝」を読んでおく。（１時間） 復習：授業内で配付した資料を読み、口語訳で意味を確認する。(0.5時間)
2	「竹取物語」の作中の人物の言葉から、現代との相違点を考える。	予習：「天の羽衣」を読んでおく。（１時間） 復習：授業内で配付した資料を読み、現代に通じる感性や奇抜な発想についてまとめる。(0.5時間)
3	「土佐日記」は男性による仮名の日記という設定だが、その意図を考える。	予習：「冒頭・馬のはなむけ」、「大津出立」を読んでおく。（１時間） 復習：授業内で配付した資料を読み、口語訳で意味を確認する。(0.5時間)
4	「土佐日記」に込められた叙情性を探る。	予習：「渚の院」と「帰京」を読んでおく。（１時間） 復習：授業内で配付した資料を読み、「土佐日記」の感想をまとめる。(0.5時間)
5	「枕草子」が「をかし」の文学といわれる由縁を考える。	予習：「春はあけぼの」、「すさまじきもの」を読んでおく。（１時間） 復習：授業内で配付した資料を読み、口語訳で意味を確認する。(0.5時間)
6	「枕草子」を読み、清少納言の感性を味わう。	予習：「文ことばなめき人こそ」、「うれしきもの」、「雪のいと高う降りたるを」を読んでおく。（１時間） 復習：授業内で配付した資料を読み、当時の「魅力的な男性・女性」の特色をまとめる。(0.5時間)
7	「源氏物語」の概要を捉え、「もののあはれ」の文学といわれる由縁を考える。 ～「桐壺」～	予習：「桐壺」を読んでおく。（１時間） 復習：授業内で配付した資料を読み、口語訳で意味を確認する。(0.5時間)
8	「源氏物語」を読み、人物相互の関係や歌物語の叙情性を味わう。 ～「紫の上」と「明石の君」の比較～	予習：「若紫」、「萩の上露」を読んでおく。（１時間） 復習：授業内で配付した資料を読み、二人の女性を比較し、人間模様を探る。(0.5時間)
9	「源氏物語」の第三部「匂宮三帖」と「宇治十帖」は、なぜ書く意味があったのだろうか。	予習：を読んでおく。（１時間） 復習：授業内で配付した資料を読み、光源氏没後の末裔達の特色をまとめる。(0.5時間)
10	「徒然草」を読み、簡潔な和漢混合文や和文の美しさを感じ、平易で説得力のある文章を味わう。	予習：「書き出し」、「九月二十日のころ」、「牛を売る者」を読んでおく。（１時間） 復習：授業内で配付した資料を読み、口語訳で意味を確認する。(0.5時間)
11	「徒然草」を読み、兼好法師のものの見方や人生観、無常観を探る。	予習：「悲田院の堯蓮上人は」、「世に従はん人は」を読んでおく。（１時間） 復習：授業内で配付した資料を読み、徒然草に表されている無常観や人間観などの特色をまとめる（0.5時間）

12	「奥の細道」の概要を理解し、芭蕉にとって「旅とは何か」を考える。	予習：「冒頭部」、「旅立ち」を読んでおく。（１時間） 復習：授業内で配付した資料を読み、口語訳で意味を確認し暗唱する。（0.5 時間）
13	「奥の細道」の中で風光明媚な「松島」と「象潟」を読み比べて、違いについて話し合う。	予習：「松島」、「平泉」、「象潟」を読んでおく。（１時間） 復習：授業内で配付した資料を読み、松島と象潟について、地図や雑誌等から見えるそれぞれの特色や美しさを調べる。（0.5 時間）
14	「奥の細道」の新潟以南を読み、「芭蕉と俳諧」について考える。	予習：「市振」、「大垣」を読んでおく。（１時間） 復習：授業内で配付した資料を読み、芭蕉の人生観と芭蕉と俳諧について感想をまとめる。（0.5 時間）
15	これまでの古典学習を振り返り、現代の日本人に深く通じる感性を中心にまとめる。	予習：今まで学習した資料を読んでおく。（１時間） 復習：授業内で配付した資料を読み、古典文学のおもしろさや当時の日本人の生き方を現代人のそれと比較する。（0.5 時間）
テキスト	授業時に文学に関する資料や記録のための用紙を配付。	
指定図書	あり（巻末参照）	

科　目　名	日本文学B	担当者	栗森　貢
区　分　等	１年次・後期［講義］２単位　選択／生活文化・健康栄養専攻		
評価基準	到達目標１：小テスト（10%） 到達目標２：定期テスト(50%)、授業内提出物(20%) 到達目標３：グループワーク及び授業に取り組む姿勢（20%）		
課題に対するフィードバック	机間巡視の折に個々に応じたアドバイスをし、提出された学習シートに必要なコメントを付して返却する。		
目　　的	古代から近代までの詩歌、および近代の小説の鑑賞を通して、日本文学の特質を理解する。		
到達目標	１．古代から近代までの詩歌を読み、作品の特色を理解し味わうことができる。(DP1・DP2) ２．近代の優れた小説を鑑賞するとともに、作家の特色をまとめることで、近代日本文学の特質の一端を理解する。(DP2) ３．自ら進んで和歌や詩歌及び近代小説に親しみ、オリジナルアンソロジーを作ることができる。(DP3)		
履修上の注意	多くの詩歌を詠じたり、作品集を編集したりすることを通して、日本文学の良さを体感的に味わうように努める。		
オフィスアワー	木曜日：5・6限		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	ガイダンス、全体計画の把握、「万葉集」を概観する。 ［資料］約4,500首の内38首所収	予習：本科目の全体計画を読み、「万葉集」について調べてくる。（1時間） 復習：授業内で配付した資料を読み、自分の好きな和歌を数首選び鑑賞を深める。。(0.5時間)
2	「万葉集」の歌人の「柿本人麻呂」、「額田王」にスポットを当て、表現されている情景や心情を味わう	予習：天皇や貴族の歌を中心に読みを深めてくる。（1時間） 復習：授業内で配付した資料を読み、素朴さや雄大さの感じられる作品を取り上げて声に出して読む。(0.5時間)
3	「万葉集」の個性のある歌人の「山部赤人」、「大伴旅人」、「山上憶良」、「大伴家持」、東歌や防人歌にスポットを当て、読み継がれてきた理由を解き明かす。	予習：四人の歌と東歌や防人歌を読んでくる。（1時間） 復習：映像資料で鑑賞したことを中心に、天皇、貴族から庶民の歌まで収めている「万葉集」の特色をまとめる。(0.5時間)
4	「古今和歌集」の調子や修辞の特徴を感じ取り、繊細で優美な作品のよさを味わう。 ［資料］約1,100首の内38首所収	予習：「古今和歌集」の概要について調べてくる。（1時間） 復習：古今和歌集から好きな作品を取り上げ、朗読したり暗唱したりして理解を深める。(0.5時間)
5	「古今和歌集」と「万葉集」との歌風の違いに注目し特徴をまとめる。	予習：「古今和歌集」と「万葉集」の歌風の違いについて考えてくる。（1時間） 復習：古今和歌集の「古今調」と言われる特色をまとめておく。(0.5時間)
6	「新古今和歌集」の和歌を鑑賞し、独特な歌風を味わう。 ［資料］約4,500首の内38首所収	予習：「新古今和歌集」の概要について調べてくる。（1時間） 復習：新古今和歌集から好きな作品を取り上げ、朗読したり暗唱したりして楽しむ。(0.5時間)
7	「小倉百人一首」を朗読し、情景や心情等の作品の特色を味わう。 ［資料］100首所収、五色百人一首（20首×5）	予習：「小倉百人一首」について調べてくる。（1時間） 復習：授業内で配付した資料を読み、百人一首を「かるた」で楽しむために必要な基本的な知識や技法を身に付ける。(0.5時間)
8	「小倉百人一首」をかるた遊びとして、対戦形式で百人一首を楽しむ。 ～第2回学長杯百人一首大会開催～	予習：「五色百人一首」のA・Bグループの歌を暗唱し、百人一首大会に出場する準備をする。（1時間） 復習：百人一首大会に出場して、感想をまとめる。(0.5時間)
9	松尾芭蕉、与謝蕪村、小林一茶の江戸時代の俳諧を読み味わう。	予習：江戸時代の俳諧を読み、季節や情景を調べてくる。（1時間） 復習：自分の好きな俳諧を数句選び鑑賞を深める。。(0.5時間)
10	明治以降の近代短歌や正岡子規にはじまる俳句を読み味わう。	予習：近代短歌や俳句を読み、好きな和歌や俳句を選んでくる。（1時間） 復習：自分の好きな和歌や俳句を選び、鑑賞を深める。(0.5時間)

11	今まで学んだ和歌や短歌、俳句の中からテーマを決め、オリジナルアンソロジー（詩歌集）を作る　①	予習：既習事項の和歌や俳句から、お気に入りのアンソロジーを作るためにいくつか選んでおく。（１時間） 復習：アンソロジーを作るために、選歌や選句をした理由やお気に入りの事柄をまとめておく。(0.5 時間)
12	オリジナルアンソロジー（詩歌集）を作る　②	予習：アンソロジーを作るために、選歌や選句をした理由やお気に入りの事柄をまとめておく。（１時間） 復習：アンソロジーを体裁よくするために、用紙や表紙を工夫して作成する。(0.5 時間)
13	「芥川龍之介」の「羅生門」、「トロッコ」を読み、心理描写の鮮やかな手法に関して感想をまとめる。	予習：「羅生門」、「トロッコ」を読んでおく。（１時間） 復習：授業内で配付した資料を読み、二つの作品の心情描写の優れたところについてまとめる。(0.5 時間)
14	「宮沢賢治」の「銀河鉄道の夜」を読み、賢治の「生と死」に対する考え方を探る。	予習：「銀河鉄道の夜」を読んでおく。（１時間） 復習：授業内で配付した資料を読み、「銀河鉄道の夜」は何を表すのかについて感想をもつ。(0.5 時間)
15	「宮沢賢治」の「銀河鉄道の夜」、「永訣の朝」を読み、「ほんとうの幸いとは何か」を中心に話し合い、作品に対する感想をまとめる。	予習：「銀河鉄道の夜」、「永訣の朝」を読んでおく。（１時間） 復習：授業内で配付した資料を読み、「ほんとうの幸いとは何か」について自分なりの考えをまとめる。(0.5 時間)

テキスト	授業時に文学に関する資料や記録のための用紙を配付。
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	**日本国憲法**	担当者	山本隆弘
区　分　等	１年次・前期［講義］２単位　選択／全学		
評価基準	①　定期試験(80%)、②授業ごとの提出書類（20%）		
課題に対するフィードバック	意見や質問に対し、随時助言や解説をする。		
目　　的	日本国憲法の条文解釈を通じて、人権感覚を養い、統治機構に関する知識を身に付けさせる。		
到達目標	どのような目的で憲法が制定されているのか、日常生活の中で憲法がどのように活きているのかを理解し、日本国憲法の存在理由を知ることができる（DP2）		
履修上の注意	特になし。		
オフィスアワー	水曜日 16 時 15 分～16 時 30 分		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	憲法とは何か	日本国憲法の条文に目を通しておく（2 時間）
2	新しい人権と公共の福祉	講義資料の整理と確認（2 時間）
3	表現の自由	講義資料の整理と確認（2 時間）
4	精神的自由権と経済的自由権	講義資料の整理と確認（2 時間）
5	自由権と社会権	講義資料の整理と確認（2 時間）
6	労働と貧困	講義資料の整理と確認（2 時間）
7	外国人の人権	講義資料の整理と確認（2 時間）
8	人権と統治	講義資料の整理と確認（2 時間）
9	日本国憲法成立の経緯	講義資料の整理と確認（2 時間）
10	三権分立と法の支配	講義資料の整理と確認（2 時間）
11	国民主権と国会の役割	講義資料の整理と確認（2 時間）
12	裁判所の役割	講義資料の整理と確認（2 時間）
13	国際法と国内法	講義資料の整理と確認（2 時間）
14	日本国憲法の全体像	講義資料の整理と確認（2 時間）
15	まとめ	これまでの復習（2 時間）

テキスト	なし
指定図書	なし

科　目　名	法学	担当者	山本隆弘
区　分　等	１年次・後期［講義］２単位　選択／生活文化専攻、健康栄養専攻 ２年次・後期［講義］２単位　選択／生活こども専攻		
評 価 基 準	①　定期試験(80%)、②授業ごとの提出書類（20%）		
課題に対するフィードバック	意見や質問に対し、随時助言や解説をする。		
目　　的	社会生活において役立つ法に関する基礎知識を身に付けさせる。		
到 達 目 標	日常生活の中で起こり得る種々の法律問題について理解し、解決するための基礎的能力を修得する（DP2）		
履修上の注意	特になし		
オフィスアワー	水曜日 16 時 15 分～16 時 30 分		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	法とは何か	講義に関連した文献を読んでおく（2 時間）
2	家族と法Ⅰ　夫婦	講義資料の整理と確認（2 時間）
3	家族と法Ⅱ　親子	講義資料の整理と確認（2 時間）
4	家族と法Ⅲ　相続	講義資料の整理と確認（2 時間）
5	契約について（契約責任）	講義資料の整理と確認（2 時間）
6	交通事故と保険（不法行為責任）	講義資料の整理と確認（2 時間）
7	労働と法	講義資料の整理と確認（2 時間）
8	性的被害に巻き込まれたら	講義資料の整理と確認（2 時間）
9	若年者の消費者被害	講義資料の整理と確認（2 時間）
10	クレーマー対応・民事介入暴力	講義資料の整理と確認（2 時間）
11	企業・会社と法	講義資料の整理と確認（2 時間）
12	犯罪と刑罰	講義資料の整理と確認（2 時間）
13	少年事件	講義資料の整理と確認（2 時間）
14	自己実現と自己統治	講義資料の整理と確認（2 時間）
15	まとめ	これまでの復習（2 時間）

テキスト	なし
指定図書	なし

科　目　名	**人間関係論**	担当者	佐藤邦子
区　分　等	１年次・後期［講義］２単位　選択／全学		
評価基準	到達目標１・２：レポートおよびシャトルカードにより評価する。(80%) 到達目標３：授業中の取り組み姿勢により評価する。(20%)		
課題に対するフィードバック	レポートおよびシャトルカードは、添削後に返却する。		
目　　的	人間関係構築に関わる知識と技術、集団における人間関係のあり方についての基本的知識の習得および対人関係能力の向上を目的とする。		
到達目標	１．人間関係の基本的な理論（対人コミュニケーション論）を理解する。(DP1) ２．自己理解を深め、円滑なコミュニケーションを行う方法を学ぶ。(DP1) ３．職場や家庭、友人関係において適切な人間関係を構築する力を身につける。(DP2) ４．ストレスや対立を適切に処理するスキルを習得する。(DP3)		
履修上の注意	１．授業中に意見交換をする機会を多数設ける。他者の意見を肯定的に受け入れ、自身の考えを広げる姿勢で授業に臨むこと。 ２．グループワークでの最低限のコミュニケーション能力が備わっていること。 ３．コミュニケーション等において合理的配慮が必要な場合は、第１回目に担当教員へ必ず相談をすること。		
オフィスアワー	月曜日７・８限		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	自己理解：自己概念の確認	第１回の学習内容の振り返り（2時間）
2	他者理解：多様な価値観の受容	第２回の学習内容の振り返り（1時間） 第３回で学習予定の配付資料内容の確認（１時間）
3	他者理解と自己理解	第３回の学習内容の振り返り（1時間） 第４回で学習予定の配付資料内容の確認（１時間）
4	ストレス・マネジメントの概要	第４回の学習内容の振り返り（1時間） 第５回で学習予定の配付資料内容の確認（1時間）
5	ストレス・マネジメントの実践	第５回の学習内容の振り返り（1時間） ストレス・マネジメントの実践・記録（１時間）
6	言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション	第６回の学習内容の振り返り（1時間） 第７回で学習予定の配付資料内容の確認（１時間）
7	共感と思いやりを意識したコミュニケーション	第７回の学習内容の振り返り（1時間） 第８回で学習予定の配付資料内容の確認（１時間）
8	傾聴を意識したコミュニケーション	第８回の学習内容の振り返り（1時間） 第９回で学習予定の配付資料内容の確認（１時間）
9	アサーションを意識したコミュニケーション	第９回の学習内容の振り返り（1時間） 第10回で学習予定の配付資料内容の確認（１時間）
10	合意形成のプロセスとワーク	第10回の学習内容の振り返り（1時間） 第11回で学習予定の配付資料内容の確認（１時間）
11	職場における人間関係	第11回の学習内容の振り返り（1時間） 第12回で学習予定の配付資料内容の確認（１時間）
12	多文化理解と共生	第12回の学習内容の振り返り（1時間） 第13回で学習予定の配付資料内容の確認（１時間）
13	異文化コミュニケーション（１）	第13回の学習内容の振り返り（1時間） 第14回で学習予定の配付資料内容の確認（１時間）
14	異文化コミュニケーション（２）	第14回の学習内容の振り返り（1時間） 第15回で学習予定の配付資料内容の確認（１時間）
15	人間関係に関する視聴覚映画 「川の底からこんにちは」	第15回の学習内容の振り返り（２時間）

テキスト	授業時に資料を配布するとともに、適宜、テキストを指示します。
指定図書	なし

科　目　名	リーダーシップのコーチング A セルフ・リーダーシップ (Self-Leadership)	担当者	Mathew Philip
区　分　等	１年次・前期［講義］２単位　選択／生活文化専攻、健康栄養専攻		
評価基準	① 授業内での活動における達成度や参加姿勢（20%） ② リアクションペーパーによるミニレポート（30%） ③ 仲間の自分を幸せにする力（セルフ・リーダーシップ）スキルの評価（50%）		
課題に対するフィードバック	提出物等について、適宜コメントする。		
目　　的	① リーダーシップ・コーチングは、ロジャースの「人は誰でも自らの内部に、自己を成長させ、実現させる力を持っている」という考え方に基づいている。人には誰でも自分が望んでいる目標があり、その目標を自ら達成することができるように、自分が持っている個人的な特性と強みを活かして、自分がその能力と可能性を最大限に発揮し、自分で自分を幸せにするスキルを養成する。 ② 優しさと強さを兼ね備えた心を育成する。		
到達目標	① 高い自己認識・高い人格・夢・目標を持ち、主体的になりたい自分を実現させる力を感じる。(DP2,DP3) ② キャリア教育的視点を踏まえ、各々の夢を磨き、実現に向け目標の設定を行う。(DP2)		
履修上の注意	リーダーシップ・コーチングは英語と日本語で開講しています。英語と日本語の内容は同じです。授業はコーチング形式で行います。		
オフィスアワー	授業内で紹介。		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	ガイダンスと自己リーダーシップ論 授業概要と進め方、成績評価説明、注意事項	
2	自己リーダーシップって何・・・・「自分を幸せにする力」What is Self-Leadership)	「Leadership」という英語の単語の日本語の意味を調べる　予習（３０分）
3	自分を幸せにする力（Self-Leadership) 私ってだれ(Who am I)	自分の事はどう思っているか家族に聞いてみる。 予習（20 分）
4	①　人に私たちがどう見られていますか (How others see me)	「私ってだれ」というタイトルで 10 行の詩を書く。 予習（30 分）
5	②　人間の意思決定の過程(How do I make decisions)	自分の価値観のリストを作成する。予習（30 分）
6	③　リーダーシップと関係性 (Relating to others) ジョハリの窓 自己開示　・フィードバック	弱い立場に置かれている女性の話をテレビや新聞で収集する。　予習（40 分）
7	④　私の家族の事を知る(Knowing my family)	自分が思っている家族の良いところと嫌いなところのリストの作成。　予習（20 分）
8	⑤　自分が置かれている状況の確認 (Know your　world)	「忘れられない友情」というタイトルで自分の友だちの話を 200 字で書く。　予習（20 分）
9	⑥　大切な私の使命（Your mission)	自分が出来ることのリストを作成する。 予習(20 分)
10	⑦　どうやって自分のキャリアを選ぶのか。 (How do I choose my career)	自分が良いなと思うことのリストを作成する。 予習（20 分）
11	⑧　自分で自分を励ます能力 (Ability to encourage oneself)	自分のために自分が買った物のリストを作成する。予習（20 分）
12	⑨　自分のモチベーションを意識する才能 (Motivation awareness)	授業内で紹介（予習 40 分）
13	⑩　自分が変えられるものと変えられないものを区別する能力 Talent to find　what can be changed and cannot be changed	自分が変えられない自分のもののリストを作成する。 予習（30 分）
14	⑪　【リーダーシップに関するスキル】 「聴く」スキル・「伝える」スキル 実習「聴くスキル・伝えるスキルのトレーニング」Listening, Hearing, and Speaking Skill	家でママの話を聞いてあげましょう。 予習（40 分）
15	仲間のリーダーシップスキルを評価するリーダーシップ評価表の作成　How to Give Feedback	授業内で紹介 予習（40 分）

テキスト	授業内で適宜資料配布または紹介。
指定図書	授業内で紹介。

科　目　名	リーダーシップのコーチングB サーバントとグローバル・リーダーシップ(Servant and Global Leadership)	担当者	Mathew Philip
区　分　等	１年次・後期［講義］２単位　選択／生活文化専攻、健康栄養専攻		
評価基準	① 授業内での活動における達成度や参加姿勢（20%） ② リアクションペーパーによるミニレポート（30%） ③ 仲間の（サーバントとグローバル・リーダーシップ）スキルの評価（50%）		
課題に対するフィードバック	提出物等について、適宜コメントする。		
目　　的	① 私たちは誰でも生まれながら、人の成長を支え、幸せにする力を持っている。自分の人を幸せにする力（サーバント・リーダーシップ）を認識し、日常生活の中で出会う人を幸せにし、会社や世界の舞台で活躍するスキルを育む。 ② 自ら規範を示し、周りや組織に奉仕しながら目標を成し遂げる力を身につける。 ③ 世界を幸せにする力を育成する。		
到達目標	① 社会の一員としての自覚を持ち、貢献する精神の自体験を行う。(DP2,DP3) ② 広い教養・国際性をもって異なる世界の文化や価値観を受容し、自らの考えをしっかりと伝え、グローバル舞台で活躍し世界を幸せにする。(DP1,DP2,DP3) ③ 他者、会社、地域社会のために活躍する。(DP1,DP2,DP3) ④ 人を考えさせ、行動を促し、取るべき手段を引き出す。(DP1,DP2,DP3)		
履修上の注意	リーダーシップ・コーチングは英語と日本語で開講しています。英語と日本語の内容は同じです。授業はコーチング形式で行います。		
オフィスアワー	授業内で紹介。		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	ガイダンスとグローバル地域リーダーシップ論 （Orientation）Global and Local Leadership) 授業概要と進め方、成績評価説明、注意事項	世界の有名なリーダーについて調べ、自分ロールモデルを探す。（１時間）
2	Ⅰ.人を幸せにする力　「サーバント・リーダーシップ」(Servant Leadership）って何。	人を幸せにした経験を200字で書く。(30分)
3	①　自分と関わり合う人々を心得る (The people in my life)	最近自分と関わりのあるリストを作成する。 予習（40分）
4	②　友情（Friendship)	聖書の良いサマリア人の話を読む。準備（20分）
5	③　人間関係構築スキル(Some skills for relationship)	協力で成長した企業についての新聞記事を見つける。 予習（50分）
6	④　自分が関わる組織や人を知る能力（Getting to know your group）①	自分が今秋田でしたいと思うことのリストを作成する。予習（40分）
7	⑤　会社や仲間を理解する能力（Getting to know your group）② ・交流分析・構造分析・ライフポディション	最近関わっている団体での自分の一つの経験を200字で書く。予習（40分）
8	⑥　役割分担能力（Sharing responsibility)	家族内での役割分担について100字で書く。 予習（40分）
9	⑦　情報収集能力(Understanding how the groups work)	学校の自分の部活動の経験を100字で書く。 予習（40分）
10	⑧　問題解決能力(Dealing with problems in the group)	新聞の戦争についての記事を読む。 予習（20分）
11	⑨　行動を起こす能力(Doing actions)	Zoomを使って海外のNGOと交流 予習（30分）
12	Ⅱ.世界を幸せにする力（Global Leadership）（グローバル・リーダーシップ） 情報分析能力（How to look up information)	自分が世界のためにできることのリストを作成する。 予習（20分）
13	①　グローバルに友情を育む才能 Ability to foster global friendship	外国に住んでいる友だちのリストを作成する。 予習（20分）
14	②　世界的な経験とリスクマネジメント能力 Global experience and risk management ability	自分のグローバル・リーダーシップの評価表を作る。 予習（30分）
15	③　仲間の①（①グローバル②サーバント・リーダーシップ）評価表の作成　How to Give Feedback	自分のサーバント・リーダーシップの評価表を作る。 予習（40分）

テキスト	授業内で適宜資料配布または紹介。
指定図書	授業内で紹介。

科　目　名	比較文化A	担当者	横溝眞理
区　分　等	１年次・前期［講義］２単位　選択／生活文化専攻、健康栄養専攻 ２年次・前期［講義］２単位　選択／生活こども専攻		
評 価 基 準	前期講義の内容に関するレポート。		
課題に対するフィードバック	提出されたレポートについては、学生の要望に応じて、添削箇所を開示し、教科内容についての理解をいっそう深められるようにする。		
目　　的	広い視野から紹介される日本・海外の様々な文化の特色について理解を深める。		
到 達 目 標	①日本においては当たり前のことが海外では必ずしも当たり前でないことを知る。(DP1) ②海外の様々な文化について学ぶことにより、視野を広げる。(DP1) ③日本の文化を、今までとは異なった視点から見ることができるようになる。(DP3)		
履修上の注意	前期講義の中で２人の担当講師にレポートを提出する。課題の内容・分量は各担当講師が指示する。なお、レポートを作成するためには、その担当講師の授業に３回とも出席していることが条件である。座席は受講者が決定次第指定する。		
オフィスアワー	毎週火曜日 14:45～16:15(横溝眞理)		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	４月１６日　アジアと米 講師：佐藤光咲	事前：米や稲とは何かなど、その特色を、図書やネットで調べる。(1 時間) 事後：授業の内容をまとめ、要点を確認する。(1 時間)
2	４月２３日　ヨーロッパと牧畜(肉食) 講師：佐藤光咲	事前：米を主食としない理由やヨーロッパの食事情について、図書やネットで調べる。(1 時間) 事後：授業の内容をまとめ、要点を確認する。(1 時間)
3	４月３０日　世界を救ったジャガイモ 講師：佐藤光咲	事前：ジャガイモやその料理について、図書やネットで調べる。(1 時間) 事後：授業の内容をまとめ、要点を確認する。(1 時間)
4	５月　７日　「横浜」における”郷土愛教育” 講師：米山修司	講義で紹介した地域・文化について、自らが住んでいる地域との違いを調査する。(2 時間)
5	５月１４日　「横浜」の視点からみる日本の”鉄道文化”　講師：米山修司	講義で紹介した地域・文化について、自らが住んでいる地域との違いを調査する。(2 時間)
6	５月２１日　「横浜」の中の”外国” ――横浜中華街と米軍基地問題を中心に―― 講師：米山修司	講義で紹介した地域・文化について、自らが住んでいる地域との違いを調査する。(2 時間)
7	５月２８日　比較言語学への招待(1) 講師：近藤清兄	教室で指示された参考書籍を読んでおく(2 時間)。
8	６月　４日　比較言語学への招待(2) 講師：近藤清兄	教室で指示された参考書籍を読んでおく(2 時間)。
9	６月１１日　比較言語学への招待(3) 講師：近藤清兄	教室で指示された参考書籍を読んでおく(2 時間)。
10	６月１８日　中国の製紙文化と日本和紙 講師：周　業欣	教室で指示された参考書籍を読んでおく(2 時間)。
11	６月２５日　中国の庭園と日本の枯山水 講師：周　業欣	教室で指示された参考書籍を読んでおく(2 時間)。
12	７月　２日　中国の食文化 講師：周　業欣	講義で紹介したドキュメンタリー映像や番組を見る(2 時間)。
13	７月　９日　アジアの貧困と現状の特徴 講師：佐藤邦子	事前：インド、フィリピン、カンボジアなど貧困の実態をインターネットで調べる（1 時間） 事後：授業内容のまとめ、要点を確認する（1 時間）
14	８月２７日　貧困の背景と要因 講師：佐藤邦子	事前：児童労働や劣悪な教育などの貧困事例についてインターネットで調べる（1 時間） 事後：授業内容のまとめ、要点を確認する（1 時間）
15	９月　３日　貧困解決の取り組み 講師：佐藤邦子	事前：フェアトレードなど身近なものを調べる（1 時間） 事後：授業内容のまとめ、要点を確認する（1 時間）

テキスト	なし
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	比較文化Ｂ	担当者	横溝眞理
区　分　等	１年次・後期［講義］２単位　選択／生活文化専攻、健康栄養専攻 ２年次・後期［講義］２単位　選択／生活こども専攻		
評価基準	後期講義の内容に関するレポート。		
課題に対するフィードバック	提出されたレポートについては、学生の要望に応じて、添削箇所を開示し、教科内容についての理解をいっそう深められるようにする。		
目　　的	広い視野から紹介される日本・海外の様々な文化の特色について理解を深める。		
到達目標	①日本においては当たり前のことが海外では必ずしも当たり前でないことを知る。(DP1) ②海外の様々な文化について学ぶことにより、視野を広げる。(DP1) ③日本の文化を、今までとは異なった視点から見ることができるようになる。(DP3)		
履修上の注意	後期講義の中で２人の担当講師にレポートを提出する。課題の内容・分量は各担当講師が指示する。なお、レポートを作成するためには、その担当講師の授業にすべて出席していることが条件である。座席は受講者が決定次第指定する。		
オフィスアワー	毎週火曜日 14:45～16:15(横溝眞理)		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	９月２４日　文化とは何か　－　文化のバリエーションを知る　講師：菅野　薫	講義の復習・日本とその他の国の文化の比較(2 時間)
2	１０月　１日　言語からみる文化　－　日本語と英語の比較　講師：菅野　薫	講義の復習・日本語と英語の比較(2 時間)
3	１０月　８日　国際語としての英語　－　世界で話される英語の比較　講師：菅野　薫	講義の復習・国際語としての英語と英語圏で話される英語の比較(2 時間)
4	１１月　５日　長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産　講師：大曽基宣	事前：長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産の中で、興味のある教会や集落ひとつについてインターネットを用いて調べる(1 時間)。 事後：授業の内容をまとめ、要点を確認する。(1 時間)
5	１１月１２日　健康増進事業と生活習慣の国際比較　講師：大曽基宣	事前：中国、ソロモン諸島、タイ王国、日本の４ヵ国のうち、興味のあるひとつの国の生活習慣について書籍やインターネットを用いて調べる(1 時間)。 事後：授業の内容をまとめ、要点を確認する。(1 時間)
6	１１月１９日　保育・幼児教育の国際比較 講師：大曽基宣	事前：アイスランド、韓国、ドイツ、日本の４ヵ国のうち、興味のあるひとつの国の保育・幼児教育の特徴について書籍やインターネットを用いて調べる(1 時間)。 事後：授業の内容をまとめ、要点を確認する。(1 時間)
7	１０月１５日　異文化理解とアメリカ合衆国 講師：佐藤光咲	事前：アメリカ合衆国について知っていること、イメージをまとめる。(1 時間) 事後：授業の内容をまとめ、要点を確認する。(1 時間)
8	１０月２２日　世界の学校・日本の学校 講師：佐藤光咲	事前：外国の学校について、その特色を図書やネットで調べる。(1 時間) 事後：授業の内容をまとめ、要点を確認する。(1 時間)
9	１０月２９日　ヨーロッパ文化の成立と歴史 講師：佐藤光咲	事前：ヨーロッパ文化の特色について、図書やネットで調べる。(1 時間) 事後：授業の内容をまとめ、要点を確認する。(1 時間)
10	１１月２６日　教会暦とクリスマス 講師：横溝眞理	教会暦に関する参考書籍を授業中に指示するので、目を通しておくこと(2 時間)。
11	１２月　３日　ドイツのクリスマスで飾るもの 講師：横溝眞理	ドイツ語圏のクリスマスに関する参考書籍を授業中に指示するので、目を通しておくこと(2 時間)。
12	１２月１０日　ドイツのクリスマスで食べるもの　講師：横溝眞理	３回分の講義に基づいて、ドイツにおける祝祭日の特徴を考察し、文章にまとめる(2 時間)。
13	１２月１７日　各国のインターネット利用状況 講師：佐藤　恵	(事前) インターネットの歴史を調べる。 (事後) まとめと確認(2 時間)
14	１月２１日　インターネットショッピング 講師：佐藤　恵	(事前) ネットショッピングサイトを閲覧し、利便性を比較する。 (事後) まとめと確認(2 時間)
15	１月２８日　ネットコミュニティ 講師：佐藤　恵	(事前) ネットを利用したコミュニケーションについて、自分の考えをまとめておく。 (事後) まとめと確認(2 時間)

テキスト	なし
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	グローバル世界と地域文化B Global World and Local Culture B	担当者	Mathew PHILIP
区　分　等	１年次・後期［講義］２単位　選択／生活文化専攻、健康栄養専攻		
評価基準	① 授業への参加姿勢：20% ② 授業のテーマへのコメントペーパー：20% ③ プロジェクト作成：60%		
課題に対するフィードバック	提出物等について、適宜コメントする。		
目　　的	講義の目的およびねらいは以下の３点です。 ① 地域と世界の文化・習慣・政治・経済を学び、日本にいる世界の人々と楽しく働き、暮らすスキルの取得。 ② 海外で日本企業や現地の企業で働き、生活を楽しむことや、国際公務員のキャリアに興味を持ち、必要なスキルを身につける。 ③ グローバル社会と日本(社会)との関係について、具体的な現象とその背景を知り、さらに考えるヒントを得る。		
到達目標	講義の到達目標は以下の５点です。 ① 国際機関や日本の海外企業で働く意欲を示す。(DP1,DP2,DP3) ② 世界で自分が出来るプロジェクトについてグループでディスカッションし、作成する。(DP2,DP3) ③ 世界各地や日本国内で実践されているグローバル化の取り組みを知る。グロ―バル化によって各地がどのような課題を抱えているのかを理解し、わたしたちの身の回りの出来事に対して、グローバル精神の視点から考える。(DP1,DP2) ④ 表面化されていない秋田のグローバル化を調査して浮き彫りにし、コメントを新聞やネットに投稿ができる。(DP1,DP2) ⑤ グローバル精神の基礎知識をもって、グローバル化の日本社会の現状を論じる。人権を基調としたグローバル感覚やメディア・リテラシー情報を読み解く。(DP1,DP2)		
履修上の注意	グローバル世界と地域文化Ｂは英語と日本語で開講しています。英語と日本語の内容は同じです。授業はコーチング形式で行います。		
オフィスアワー	授業内で紹介。		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション（Orientation）	
2	グローバル化によって繋がる地域文化 Globlization and Local Culture	日本で人気がある世界のお祝いごとを調べる。 予習（40分）
3	グローバル化による世界の女性の意識変化 Globalization and Women	最近自分が感じた自分自身の意識の変化を50字で書く。 予習（40分）
4	グローバル化がもたらした地域の働き方の変化 Globalization and Working Habit	最近自分が感じた自分自身の働き方の変化を50字で書く。 予習（40分）
5	グローバル化の中の人々の生き方 Human living and Globalization	アフリカのグローバル化の現状について新聞の記事を読む。予習（30分）
6	グローバル宗教文化 Global Religious Culture	授業内で紹介。予習（40分）
7	地域のもの作りと企業のグローバル化 Globalization of Local Busness	グローバル化による日本企業のメリットをネットで調べる。予習（40分）
8	グローバルマナー（Global Manners）	Zoomでイ宗教的習慣についてイスラム教徒の家族のインタビュー予定　予習（40分）
9	グローバル文化（Global Culture）	ネットで世界の最近の流行りごとを調べる。予習（30分）
10	世界の食文化のグローバル化	授業内で紹介。予習（40分）
11	グローバル化による世界の人の移動と課題	学生のブラジルに住んでいる日本人の家族とzoomインタビュー。予習（30分）
12	グローバル化の中で広がる子どもの可能性	日本にいる留学生についての新聞の記事を読む。
13	Global Business グローバルビジネス企画方法	グル―バル化について自分の考えを100字で書く。 予習（20分）
14	Global Migration and Women（グローバル移住労働者と女性	外国から日本に来た宗教についてネットで調べる。 予習（20分）
15	グローバル・コミュニケション・スキル Global Communication	英語で自己紹介。予習（40分）
テキスト	授業内で適宜資料配布または紹介。	
指定図書	授業内で紹介。	

科　目　名	日本文化史Ａ	担当者	渡部育子
区　分　等	１年次・前期［講義］２単位　選択／生活文化専攻、健康栄養専攻 ２年次・前期［講義］２単位　選択／生活こども専攻		
評価基準	授業中に提出するミニレポート 40 点、期末に提出するレポート 60 点、合計 100 点。合計 100 点の 60 点以上を合格とする。		
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスや提案をする等、学生にフィードバックする。		
目　　的	秋田に展開した生活・文化の歴史を中心に、歴史学の基礎的教養を修得する。		
到達目標	1. 秋田の文化史について自分自身の言葉で説明することができる。(DP1) 2. 古代国際社会のなかの秋田について理解することができる。(DP1、DP2) 3. 学舎が隣接する国指定史跡・秋田城跡の価値を理解できる。(DP3)		
履修上の注意	1. 高校で日本史・世界史を履修していなくてもさしつかえない。 2. 授業中、復習のポイント（重要な点）と次回の内容（予習の方法）について指示する。 3. レポート作成に際しては必要に応じて個別指導も行い、目標達成に向けて努力する。		
オフィスアワー	水曜日 14:15～14:45　左記以外の時間帯は要アポイントメント		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	秋田のルーツを探る	ノートの整理。分からないことはなかったか、新たな発見があったかどうか確認する。(2 時間)
2	日本文化と東アジア	ノートの整理。分からないことはなかったか、新たな発見があったかどうか確認する。東アジアから伝来した日本文化について考える。(2 時間)
3	日本古代国家の国際化	ノートの整理。分からないことはなかったか、新たな発見があったかどうか確認する。当時の国際世界である東アジアとの外交における秋田の位置づけについて考える。(2 時間)
4	「あきた」の史書デビュー（『日本書紀』に見える「あきた」）	配付プリントの復習。7 世紀半ばに秋田が歴史書に登場したことの意味について考える。(2 時間)
5	出羽国の成立	学歌の「出羽の国のおとめ吾」という歌詞を読んでみる。古代の出羽国の成立について授業の内容を復習する。(2 時間)
6	出羽柵の「秋田村高清水岡」への移転と秋田城東門の造営（学舎から見える奈良時代の建物です）	「秋田村高清水岡」の地名は 733 年、『続日本紀』に記される。復習としてノートの整理。分からないことはなかったか、新たな発見があったかどうか確認する。(2 時間)
7	秋田城下の多様な人びと	指定図書『図説秋田市の歴史』を利用して予習、復習をする。(2 時間)
8	天長の秋田大地震（830 年にマグニチュード 7.5）	配付プリントをチェックする。分からなかったこと、新たに発見したことをメモする。(2 時間)
9	史跡・秋田城跡について	指定図書『図説秋田市の歴史』を利用して予習。秋田城跡の史跡としての価値を考える。(2 時間)
10	自分で興味をもつ秋田の文化に関するテーマを探す（テーマ設定）	現代の秋田がかかえる諸問題、秋田の文化の特質について考え、授業中に質問したいことをメモする。(2 時間)
11	インクルーシブをキーワードに日本文化を考える	ノートの整理。分からないことはなかったか、新たな発見があったかどうか確認する。(2 時間)
12	日本古代の社会に生きる人々	これまでの授業を振り返り、分からなかったこと、新たに発見したことをメモする。古代の人びとの「生きる力」を想像してみる。(2 時間)
13	古代国家の北の玄関口（北方外交）・秋田の人びとの仕事と暮らし	ノートとこれまでの配付プリントの整理。秋田城が古代国家最北の行政機関であり、北方外交の拠点であったことから、古代の秋田について考える。(2 時間)
14	日本列島のなかでみる秋田の文化 レポート、学術論文の書き方について	レポート作成内容について予測を立ててみる。分からないことについて質問をメモしておく。レポート作成のため図書館の蔵書を検索する。(2 時間)
15	まとめ	自分で興味を持つテーマを発展させる。(2 時間)

テキスト	授業中に参考文献を紹介する。
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	日本文化史Ｂ	担当者	渡部育子
区　分　等	１年次・後期［講義］２単位　選択／生活文化専攻、健康栄養専攻 ２年次・後期［講義］２単位　選択／生活こども専攻		
評価基準	授業中に提出するミニレポート 40 点、期末に提出するレポート 60 点、合計 100 点。合計 100 点の 60 点以上を合格とする。		
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスや提案をする等、学生にフィードバックする。		
目　　的	日本文化・日本社会の歴史的特質について理解し、21 世紀において歴史学が果たすべき役割について考察する力を養う。		
到達目標	1. 日本古代に生きた人々の生活・文化について理解し、説明することができる。(DP1) 2. 日本列島に展開した文化の特徴について説明できる。(DP1、DP2) 3. 自分自身が興味をもっているテーマについて、簡単なレポートを作成することができる。(DP3)		
履修上の注意	1. 高校で日本史・世界史を履修していなくてもさしつかえない。 2. 授業中、復習のポイント（重要な点）と次回の内容（予習の方法）について指示する。 3. レポート作成に際しては必要に応じて個別指導も行い、目標達成に向けて努力する。		
オフィスアワー	水曜日 14:15～14:45　左記以外の時間帯は要アポイントメント		

授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	日本文化のルーツを探る	ノートの整理。分からないことはなかったか、新たな発見があったかどうか確認する。(2 時間)
2	歴史を読み直して分かること	中学校や高等学校で学んだ歴史についてわからないことはなかったか、思いかえしてみる。何のために歴史を学ぶのか、考えてみる。新たな発見があったかどうか、確認する。(2 時間)
3	奈良の都に住む多様な人々	ノートの整理。分からないことはなかったか、新たな発見があったかどうか確認する。近代・現代の都市と古代都市の共通点について考える。(2 時間)
4	古代の人びとの暮らしと文化	ノートの整理。分からないことはなかったか、新たな発見があったかどうか確認する。(2 時間)
5	古代の女性たちの生き方に見るインクルーシブ	ノートの整理。分からないことはなかったか、新たな発見があったかどうか確認する。古代の女性の生き方と政治・社会について考える。(2 時間)
6	女性天皇について考える。初めての女帝・推古天皇	「女帝」は律令の法律用語です。ノートの整理。分からないことはなかったか、新たな発見があったかどうか確認する。(2 時間)
7	秋田に注目した斉明天皇	ノートの整理。分からないことはなかったか、新たな発見があったかどうか確認する。指定図書『図説秋田市の歴史』を見る。(2 時間)
8	激動の時代を生きた持統天皇	ノートの整理。分からないことはなかったか、新たな発見があったかどうか確認する。皇位継承についてプリントを確認する。(2 時間)
9	奈良時代は女帝の世紀。平城京遷都をなしとげた元明天皇	ノートの整理。分からないことはなかったか、新たな発見があったかどうか確認する。指定図書『元明天皇・元正天皇』(2 時間)
10	自分で興味をもてる日本文化に関するテーマを探す(テーマ設定)	現代の日本がかかえる諸問題、日本の文化の特質について考え、授業中に質問したいことをメモする。図書館の蔵書を検索する。(2 時間)
11	母から娘への皇位継承。元正天皇	ノートの整理。分からないことはなかったか、新たな発見があったかどうか確認する。指定図書『元明天皇・元正天皇』(2 時間)
12	古代最後の女帝・称徳天皇とその時代	ノートの整理。天平文化の時代の政治・社会について復習する。文化財については、図書館の図録が参考になる。(2 時間)
13	女性と政治について考える	これまでの授業を振り返り、分からなかったこと、新たに発見したことをメモする。(2 時間)
14	世界史的にみる日本文化 レポート、学術論文の書き方について	レポート作成内容について予測を立ててみる。分からないことについて質問をメモしておく。 レポート作成のため図書館の蔵書を検索する。(2 時間)
15	まとめ	自分で興味をもつテーマを発展させる（2 時間）

テキスト	授業中に参考文献を紹介する。
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	スポーツ科学A	担当者	大貫葉子
区　分　等	１年次・前期［講義・実技］１単位・選択／生活文化専攻、健康栄養専攻		
評価基準	スキルテスト、レポートおよび、学習態度などを総合して評価する。		
課題に対するフィードバック	授業内で、個別に対応する。		
目　　的	健康を保持増進するためには、日常生活において身体活動・運動を取り込んだライフスタイルの形成が重要である。この時間では、積極的に身体活動・運動に取り組み、生涯を通してスポーツに関わることができる資質や能力を養う。		
到達目標	実技では、心と体を一体としてとらえ、身体活動・運動についての理解と実践を通して、明るく豊かで活力ある生活を営むことができる資質や能力を育てることを目標とする。 （DP3）ゴール型球技では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防を展開することができるようになる。ネット型球技では、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開することができるようになる。ベースボール型球技では、「蹴る」「投げる」「捕る」などの基本的なボール操作技能に加え，ゲーム状況に応じた戦術的な行動判断を展開することができるようになる。(DP1、DP2) 講義では、豊かなスポーツライフを送る上で必要となるスポーツに関する科学的知識を中心に、スポーツの歴史と文化的特性や現代のスポーツの特徴、女性アスリートのコンディショニングについて知識を習得する。(DP1、DP2)		
履修上の注意	スポーツシューズ、季節に見合ったトレーニングウェアを着用してください。(内履きでの受講は禁止です。）怪我防止のため、アクセサリー類は外してください。各自筆記用具を持参してください。 諸事情により欠席、もしくは見学する場合は、事前に担当教員に連絡してください。 ※受講者数により、開設種目について変更する場合もあります。		
オフィスアワー	16：20～16：30		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション・ストレッチ	予習：種目の基本動作やルールを確認しておく。(1.5h)
2	バスケットボール パス・ドリブルの基本練習①、ミニゲーム	復習：技術のポイントを反省し、まとめておく。(0.5h)
3	バスケットボール パス・ドリブルの基本練習②、ミニゲーム	復習：技術のポイントを反省し、まとめておく。(0.5h)
4	バスケットボール 総合練習、トーナメント・リーグの進め方	復習：ゲームのポイントを反省し、まとめておく。(0.5h)
5	バスケットボール まとめ	復習：技術のポイントを反省し、まとめておく。(1.5h)
6	卓球 フォアハンド・バックハンドストロークの技術	復習：技術のポイントを反省し、まとめておく。(0.5h)
7	卓球 サーブ・スマッシュの技術	復習：技術のポイントを反省し、まとめておく。(0.5h)
8	卓球 総合練習　ダブルスゲームの進め方	復習：ゲームのポイントを反省し、まとめておく。(0.5h)
9	フットサル パス・ドリブルの基本練習①、ミニゲーム	復習：技術のポイントを反省し、まとめておく。(0.5h)
10	フットサル パス・ドリブルの基本練習②、ミニゲーム	復習：技術のポイントを反省し、まとめておく。(0.5h)
11	フットサル 総合練習、トーナメント・リーグの進め方	復習：ゲームのポイントを反省し、まとめておく。(0.5h)
12	卓球・フットサル まとめ	復習：技術のポイントを反省し、まとめておく。(1.5h)
13	室内キックベース （※受講者数により種目に変更あり）	復習：技術のポイントを反省し、まとめておく。(2h)
14	スポーツの歴史と変遷・オリンピックと国際理解	復習：講義ノートを整理しておく。(2h)
15	女性アスリートのコンディショニングプログラム	復習：講義ノートを整理しておく。(2h)

テキスト	プリントを配付する。
指定図書	なし

科　目　名	スポーツ科学B	担当者	渡邊和仁
区　分　等	１年次・後期［講義・実技］１単位　選択／生活文化専攻、健康栄養専攻		
評価基準	スキルテスト、レポートおよび学習態度などを総合して評価する。		
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスや提案を行うことにより受講者へフィードバックする。		
目　　的	各種スポーツのルール・技術・戦術などを学習しながら、生涯に渡ってスポーツを実践できる能力や態度を身につける。また、現代社会におけるスポーツの意義や運動に関する科学的知識などを学び、心身ともに健康で豊かな生活を送るための基礎を培う。		
到達目標	実技では、打ち返し型のボールゲーム（バドミントン・バレーボール）の技術・戦術上の基本的な動きおよび他者と協調したゲーム実践ができること。(DP1, DP3) 講義では、スポーツの意義や運動が心身に及ぼす効果に関する知識を習得し、自らの健康について考えることができること。(DP1, DP2)		
履修上の注意	体育館シューズとスポーツウェアを準備してください。やむを得ない事情により見学または欠席する場合は、担当教員に連絡してください。 ＊受講者数などを考慮し、実施するスポーツ種目について変更する場合があります。		
オフィスアワー	授業前後の時間　※随時メールによる質問・相談等も可（k.watanabe@ed.akita-u.ac.jp）		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および時間
1	オリエンテーション	種目のルールを確認しておく(1.5時間)
2	バドミントン　オーバーアームストロークの技術説明	技術ポイントを反省し、まとめておく(0.5時間)
3	バドミントン　サイドアームストロークの技術説明	技術ポイントを反省し、まとめておく(0.5時間)
4	バドミントン　サーブ・クリア・ドライブ・スマッシュの技術説明	技術ポイントを反省し、まとめておく(0.5時間)
5	バドミントン　総合練習　ダブルスゲームの進め方	簡易ゲームのポイントを反省し、まとめておく(1時間)
6	バドミントン　総合練習　トーナメントの進め方・リーグの進め方	トーナメントやリーグの仕方を反省し、まとめておく(1時間)
7	バレーボール　オーバーハンドパスの技術説明	技術ポイントを反省し、まとめておく(0.5時間)
8	バレーボール　アンダーハンドパスの技術説明	技術ポイントを反省し、まとめておく(0.5時間)
9	バレーボール　サーブ・アタックの技術説明	技術ポイントを反省し、まとめておく(0.5時間)
10	バレーボール　グループ戦術の基本	戦術ポイントを反省し、まとめておく(1時間)
11	バレーボール　チーム戦術の基本 トーナメントの進め方・リーグの進め方	戦術ポイントを反省するとともに、トーナメントやリーグの仕方を反省し、まとめておく(1時間)
12	現代におけるスポーツの意義	プリントを用いて講義内容を復習する(1.5時間)
13	運動による肥満の予防・改善	プリントを用いて講義内容を復習する(1.5時間)
14	運動による身体諸機能の向上	プリントを用いて講義内容を復習する(1.5時間)
15	まとめ	これまでの実技と講義の内容を整理する(2時間)

テキスト	プリントを配付する
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	アメリカ文化A	担当者	Rachel Youngblood
区　分　等	１年次・後期［講義］２単位　選択／生活文化専攻		
評価基準	Classroom participation (30%) Homework (30%) Interview (10%) Final Presentation (30%)		
課題に対するフィードバック	Classroom discussions and activities will expand on topics through encouraging students to utilize their own knowledge of Japanese culture, supported by teacher feedback and comments.		
目　　的	The aim of this course is to introduce students to important aspects of American culture and society through a variety of topics.		
到達目標	Students will be able to utilize critical thinking skills and expand their perspectives through comparisons of Japanese and American culture.		
履修上の注意	This course is taught in English.		
オフィスアワー	To be announced		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	Introduction to the course, What is culture? / Associations & Impressions	Vocabulary & PowerPoint 復習, Chapter 1 予習 (1.5 hours)
2	American History I: Discovery & Settlement	Chapter 1 & PowerPoint 復習 (1 hour)
3	American History II: Revolution, Independence, & Early Equality	Vocabulary & PowerPoint 復習, Chapter 5 予習 (1.5 hours)
4	American History III: Women's Rights	Chapter 5 & PowerPoint 復習 (1 hour)
5	Viewing: *A League of Their Own*	Vocabulary & PowerPoint 復習 (1 hour)
6	Viewing: *A League of Their Own*	Comparison Writing 復習 (1 hour)
7	Holiday Culture I	Vocabulary & PowerPoint 復習, Chapter 4 予習 (1.5 hours)
8	American Society I: Immigration & The American Dream	Chapter 4 & PowerPoint 復習 (1 hour)
9	American Society II: American Families	Vocabulary & PowerPoint 復習, Chapter 14 予習 (1.5 hours)
10	American Society III: Food, Customs, Traditions, & Recipes	Chapter 14 & PowerPoint 復習 (1 hour)
11	Holiday Culture II	Vocabulary & PowerPoint 復習, Chapter 12 予習 (1.5 hours)
12	American Society VI: Tourism	Chapter 12 & PowerPoint 復習 (1 hour)
13	What about America? Interview & Questions	Chapters 1, 4, 5, 12, 14 & PowerPoints 復習
14	Presentation Preparation	Chapters 1, 4, 5, 12, 14 & PowerPoints 復習
15	Final Presentations	

テキスト	Todd Rucynski & Yoko Nakagawa "American Vibes" (Kinseido)
指定図書	None

科　目　名	ドイツ語圏文化Ｂ	担当者	横溝眞理
区　分　等	１年次・後期［講義］２単位　選択／生活文化専攻 ２年次・後期［講義］２単位　選択／生活文化専攻		
評価基準	①レポート(80%)　②授業毎の課題(20%)		
課題に対するフィードバック	課題は添削し、講評をつけて返却する。		
目　的	ドイツ語圏についての理解を深めること。		
到達目標	①ドイツ語圏に住む人々の文化・歴史・社会・生活習慣について知識を得る。(DP1) ②ドイツ語圏と日本との違いを考える。(DP3)		
履修上の注意	①「ドイツ語Ⅰ・Ⅱ」を履修していること。 ②冬休み前に提示されるテーマから一つを選んでレポート(2000 字以上)を作成してもらう。		
オフィスアワー	毎週火曜日 14:45～16:15		

授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および時間
1	ドイツの城	ドイツ語圏の城や宮殿について調べる。 Burg/Schloss/Residenz/Palais といった語の使い分けについて調べる（2 時間）
2	ドイツ語圏の都市（１） 都市の成立	ドイツ語Ⅰ/Ⅱの教科書に掲載されている地図でドイツ語圏の都市における地名の特徴について考える。地名に使われる接尾辞について調べる。授業中に紹介された文献を読む。(2 時間)
3	ドイツ語圏の都市（２） 自治権の確立	帝国自由都市、宮廷都市、司教都市の違いについて調べる。市民による自治権の確立と Rathaus について調べる。授業中に紹介された文献を読む。(2 時間)
4	建築・美術の様式（１） 古代～ロマネスク	教会建築の歴史について調べる。「～esque」という接尾辞について調べる。授業中に紹介された文献を読む。
5	建築・美術の様式（２） ゴシック	ゴシックという言葉の由来と意味について調べる。授業中に紹介された文献を読む。
6	建築・美術の様式（３） ルネサンス	イタリアで始まったルネサンス様式が北方にどのように伝わったのかを調べる。授業中に紹介された文献を読む。
7	建築・美術の様式（４） バロック	カトリック教会による反宗教改革と絶対王権、バロック様式の文化の関連について調べる。授業中に紹介された文献を読む。
8	建築・美術の様式（５） ロココと１９世紀	バロック様式とロココ様式の違いについて調べる。授業中に紹介された文献を読む。
9	建築・美術の様式（６） アールヌーヴォー	１９世紀末に独自の文化が花開いたオーストリアのウィーンについて調べる。授業中に紹介された文献を読む。
10	ドイツ語圏の食文化（１） パンの国ドイツの朝食	ドイツは世界でもっともパンの種類が豊富と言われる。その背景について調べる。授業中に紹介された文献を読む。
11	ドイツ語圏の食文化（２） 多彩な肉料理、ソーセージとハム	なぜドイツ語圏ではソーセージやハムが多種多様なのか調べる。授業中に紹介された文献を読む。
12	ドイツ語圏の食文化（３） ドイツ人とジャガイモ	ジャガイモがヨーロッパに伝わった経緯とドイツ語圏で主食に準ずる食材として食べられるようになった背景について調べる。授業中に紹介された文献を読む。
13	ドイツ語圏の食文化（４） コーヒーとスイーツ	ドイツ語圏はヨーロッパにおけるコーヒー文化が最初に生まれた地域と言われる。コーヒーがヨーロッパに伝わった背景について調べる。授業中に紹介された文献を読む。
14	ドイツ語圏の食文化（５） ワインとビール	ドイツにおけるワインとビールに関する法律について調べる。授業中に紹介された文献を読む。
15	ドイツ語圏の食文化（６） ドイツならではの食材	ドイツならではの食材について調べる。授業中に紹介された文献を読む。

テキスト	なし
指定図書	あり(巻末参照)

科　目　名	**地域リーダーシップ論**	担当者	Mathew Philip
区　分　等	１年次・前期［講義］２単位　選択／生活文化専攻		
評価基準	1. 研究レポート(80%) 2. リアクションペーパー(20%)		
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーの感想や意見をできる限り授業に反映する。		
目　　的	「人がそれなしで生きていけないものについて考えるのが哲学である」という定義に基づいてそれぞれの思いを深める。		
到達目標	1. 「それなしで生きられないもの」とは何か、自分なりの答えを得る。(DP2) 2. 人として、自分として・・・２つの視点に立つということ。(DP2)		
履修上の注意	講義は英語で行います。 授業テーマのなかから各自選んで研究レポートをまとめる（１２００字以上)。		
オフィスアワー	授業で紹介		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	Guidance and Theories of Local Leadership	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。
2	Leadership Styles as Determinant of Community Organization Effectiveness in a Local Community	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。
3	Skills to Adaptable to Situations	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。
4	Being Alert to Social Environment	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。
5	Skills to be Ambitious and achievement-oriented	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。
6	Skills to be Kind and Assertive	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。
7	Skills to be Cooperative	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。
8	Need to be Decisive and Giving	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。
9	Skills to Become Dependable	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。
10	Being Dominant (Human Desire to Influence Others)	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。
11	Skills to be Energetic (High Activity Level)	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。
12	Goal and Persistence for Local Community Building	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。
13	Self-confidence	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。
14	Tolerant of Stress	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。
15	Willing to assume Responsibility	研究レポートのテーマに関連する資料を読む。レポートを書く。

テキスト	なし（テーマごとに講義レジュメ、プリント資料を配付する）
指定図書	なし

科　目　名	市民社会論	担当者	Mathew Philip
区　分　等	１年次・後期［講義］２単位　選択／生活文化専攻		
評価基準	1. 研究レポート(80%) 2. リアクションペーパー(20%)		
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーの感想や意見をできる限り授業に反映する。		
目　　的	1. 市民社会は、私たちが公益のために行動する場として、貧しい人々や社会から取り残された人々を、支援を動員できるグループと結びつける方法を学ぶ。 2. NPO や NGO の立ち上げ方法を学ぶ		
到達目標	1. 貧しい人々や疎外された人々を、支援できるようになる。(DP1,DP2) 2. 地域の困っている人を助けるために仲間と一緒に NGO を立ち上げることが出来るようになる。(DP1,DP2,DP3)		
履修上の注意	講義は英語で行います。 授業テーマのなかから各自選んで研究レポートをまとめる（1000 字以上)。		
オフィスアワー	授業で紹介		

授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	Guidence and The Concept of Civil Society	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。
2	Theories and Definition of Civil Society	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。
3	Causes of Civil Society	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。
4	Philosophy of Civil Society	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。
5	Early History of Civil Society	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。
6	Modern History of Civil Society	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。
7	Natute of Civil Society Organizations	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。
8	Local Civil Society Organizations	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。
9	Global Civil Society Organizations	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。
10	Social enterprises Social Movement Organizations	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。
11	Support groups, Trade Unions, Voluntary Associations	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。
12	Cooperatives Foundations	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。
13	Non-governmental Organizations (NGOs) Non-profit Organizations (NPOs) Private Voluntary Organizations (PVOs)	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。
14	Academia Activist Groups and Charities	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。
15	Japanese Civil Society	研究レポートのテーマに関連する資料を読む。レポートを書く。

テキスト	なし（テーマごとに講義レジュメ、プリント資料を配付する）
指定図書	なし

科　目　名	**食生活論**	担当者	熊谷昌則
区　分　等	1年次・前期［講義］2単位　選択／生活文化専攻、健康栄養専攻		
評価基準	小テスト(50%)、定期試験(50%)で評価。		
課題に対するフィードバック	小テストの結果にコメントをつけて返却する。		
目　　的	食の歴史や現代の食生活・食文化等について論じ、専門職であるフードスペシャリストとしての知識と心構えを身につけさせると同時に、食生活のあり方等についても考察させる。		
到達目標	生活文化専攻の学習成果の一つである、食に関する知的理解と実践的な力が身につく。健康栄養専攻の学習成果である、栄養士としての基本的知識を身につけることに関連し、次の到達目標を掲げる。 1.食の歴史や現代の食生活・食文化等について習得する。(DP1) 2.フードスペシャリストの概念、責務等を理解し、その特徴を正しく説明できる。(DP1,DP2) 3.フードスペシャリストとして必要な食に関わる専門知識が身につき、その特徴を正しく説明できる。(DP1,DP3)		
履修上の注意	1.フードスペシャリスト資格取得を目指す者は、必ず履修すること。 2.予習と復習をしっかりと行うこと。 3.毎回、前週の内容について、理解度確認のための小テストを実施する。 4.健康栄養専攻の学生は特に、食品学総論、食品学各論、食品衛生学など、他の授業・実習科目とのつながりを意識して学習すること。		
オフィスアワー	12:30-13:00、16:30-17:00		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション 人類と食物（Ⅰ） 人類の歩みと食物	テキスト 27～ 35頁の予習（2時間）
2	人類と食物（Ⅱ） 食品加工・保存技術史	小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 36～44頁の予習（2時間）
3	世界の食 食作法、食の禁忌と忌避、世界各地の食事情	小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 45～60頁の予習（2時間）
4	日本の食（Ⅰ） 日本食物史	小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 61～71頁の予習（2時間）
5	日本の食（Ⅱ） 食の地域差	小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 71～78頁の予習（2時間）
6	現代日本の食生活（Ⅰ） 食生活の変化	小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 79～93頁の予習（2時間）
7	現代日本の食生活（Ⅱ） 食料自給率	小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 94～102頁の予習（2時間）
8	食品産業の役割 フードシステムと食品産業	小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 103～122頁の予習（2時間）
9	食品の品質規格と表示（Ⅰ） ＪＡＳ	小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 123～135頁の予習（2時間）
10	食品の品質規格と表示（Ⅱ） 食品表示法	小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 135～149頁の予習（2時間）
11	食品の品質規格と表示（Ⅲ） 食品添加物	小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 149～156頁の予習（2時間）
12	食品の品質規格と表示（Ⅳ） 健康や栄養に関する表示制度	小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 156～172頁の予習（2時間）
13	食情報 発信と受容、濫用、情報管理	小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 173～180頁の予習（2時間）
14	消費者保護 食品の安全と安心	小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 180～189頁の予習（2時間）
15	フードスペシャリストとは	テキスト　1～ 26頁の予習（2時間）

テキスト	『四訂フードスペシャリスト論　第7版』(建帛社)
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	**食品と調理**	担当者	豊嶋瑠美子
区　分　等	１年次・後期［講義］２単位　選択／生活文化専攻		
評 価 基 準	定期試験（40%）、小テスト（30%）、提出物(20%)、受講態度（10%）		
課題に対するフィードバック	授業時に提出された課題は適宜返却する。		
目　　的	健康な食生活を送るために必要な食品と調理理論を習得するとともにアクティブラーニング等を通し、身近な食品や食文化について理解を深める。		
到 達 目 標	1.　食品の調理特性、調理操作の特徴を総合的に学び、食事設計の基本について理解できる。(DP1) 2.　テーブルをコーディネートし、自らの考えを表現することができる。(DP2) 3.グループワークに参加し、自らの意見を発言できるとともに、他者の意見への傾聴をすることができ、メンバーと円滑な合意形成を図ることができる。(DP3)		
履修上の注意	特になし		
オフィスアワー	月曜日 15：00～16：00		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	調理の概念	予習：日本人の平均寿命、健康寿命について調べる（1 時間） 復習：講義のスライドを参考に授業内容を復習する。(1 時間)
2	基礎調理操作 (1) 調理と温度 (2) 加熱方式・伝熱・熱媒体 (3) 食品の保存	予習：加熱調理操作について調べる（1 時間） 復習：講義のスライドを参考に授業内容を復習する。(1 時間)
3	基礎調理操作：加熱調理	予習：加熱調理操作について調べる（1 時間） 復習：講義のスライドを参考に授業内容を復習する。(1 時間)
4	基礎調理操作：非加熱調理	予習：電子レンジ、IH の操作について調べる（1 時間） 復習：講義のスライドを参考に授業内容を復習する。(1 時間)
5	食品の調理特性と調理 植物性食品　米、日本料理	予習：日本料理・米について指定図書を用いて調べる（1 時間） 復習：講義のスライドを参考に授業内容を復習する。(1 時間)
6	日本料理のマナー・箸の使い方	予習：日本料理・食文化について指定図書を用いて調べる（1 時間） 復習：講義のスライドを参考に授業内容を復習する。(1 時間)
7	アクティブラーニング（1） 中間まとめ等	予習：中間まとめテストのために、講義スライドを参考に内容を振り返る（1 時間） 復習：オリジナル箸袋を作製する。(1 時間)
8	アクティブラーニング（2）	予習・復習：テーマに沿った内容を書籍やインターネット用いて調べる（2 時間）
9	正月料理　箸袋作製	予習・復習：テーマに沿った内容を書籍やインターネット用いて調べる（2 時間）
10	アクティブラーニング（3）	予習・復習：テーマに沿った内容を書籍やインターネット用いて調べる（2 時間）
11	アクティブラーニング（4）	予習・復習：テーマに沿った内容を書籍やインターネット用いて調べる（2 時間）
12	フードコーディネート （盛り付けの基本）	予習：指定図書を用いて授業内容を調べる。(1 時間) 復習：講義のスライドを参考に授業内容を復習する。(1 時間)
13	フードコーディネート （皿の形、構図、濃淡）	予習：指定図書を用いて授業内容を調べる。(1 時間) 復習：講義のスライドを参考に授業内容を復習する。(1 時間)
14	テーブルコーディネート	予習：指定図書を用いて授業内容を調べる。(1 時間) 復習：講義のスライドを参考に授業内容を復習する。(1 時間)
15	テーブルコーディネート発表	予習：指定図書を用いて授業内容を調べる。(1 時間) 復習：発表した内容をレポート作成する。（2 時間）

テキスト	なし
指定図書	あり（巻末参照）

科目名	**調理演習Ｂ**	担当者	松田律子
区分等	１年次・後期［演習］１単位　選択／生活文化専攻		
評価基準	演習記録(60%)、レポート課題(40%)。		
課題に対するフィードバック	提出物は、コメントをつけて返却する。		
目的	調理理論に基づいた調理技術および手法を学ぶ。		
到達目標	基本的な調理操作を使い、日本料理・西洋料理・中国料理・韓国料理の日常食と行事食を作ることができる。(DP1) (DP2)		
履修上の注意	材料費は別途で徴収する。 「調理演習Ａ」の履修、または同等の調理技術を必要とする。 調理に適した服装で授業に臨むこと（エプロン・三角巾など着用)。		
オフィスアワー	水曜日 13 時～14 時		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション 調理の基本操作　実習計画	授業内容の記録（0.5 時間）
2	[日本料理]秋刀魚の蒲焼丼、里いもと舞茸の味噌汁、白和え	演習した調理のふり返りと記録（0.5 時間）
3	[西洋料理]スパゲッティミートソース、シーザーサラダ	演習した調理のふり返りと記録（0.5 時間）
4	[中国料理]棒棒鶏、エビチリ、卵のスープ	演習した調理のふり返りと記録（0.5 時間）
5	[日本料理]だまこ鍋、とんぶりの月見、茶巾しぼり	演習した調理のふり返りと記録（0.5 時間）
6	[西洋料理]ピッツァ・マルゲリータ、鶏のマスタードパン粉焼き、イタリアンサラダ	演習した調理のふり返りと記録（0.5 時間）
7	[中国料理]涼拌三絲、酢豚、豆腐皮湯	演習した調理のふり返りと記録（0.5 時間）
8	[菓子]フルーツケーキ、クッキー	演習した調理のふり返りと記録（0.5 時間）
9	[韓国料理]キンパ、プルコギ、チヂミ	演習した調理のふり返りと記録（0.5 時間）
10	[中国料理]あんかけ焼きそば、ワンタン	演習した調理のふり返りと記録（0.5 時間）
11	[行事食]クリスマス料理 フライドチキン、カボチャのポタージュ、カナッペ、ロールケーキ	演習した調理のふり返りと記録（0.5 時間）
12	[自由献立]弁当の献立作成	献立の確認と次回の予習（0.5 時間）
13	[自由献立]行事食の献立作成	献立の確認と次回の予習（0.5 時間）
14	[自由献立]弁当の調理	演習した調理のふり返りと記録（0.5 時間）
15	[自由献立]行事食の調理	演習した調理のふり返りと記録（0.5 時間）

テキスト	資料を配付する。
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	**基礎デザイン論**	担当者	周　業欣
区　分　等	１年次・前期［講義］２単位　選択／生活文化専攻		
評 価 基 準	①　授業ごとの提出課題（50%）　②課題レポート（30%）　③授業の取り組み姿勢（20%）		
課題に対するフィードバック	授業時のレポートは適宜返却し、授業内で講評する。		
目　　的	観点別のデザインとその試みを理解する力を養う。 黄金比、人体や自然界、建築のプロポーションなどを理解する力を養う。 デザインの目的、用途、成果を観点別にみる能力を身につける。		
到 達 目 標	1）デザインの目的、用途、成果の概要を理解できる。(DP1) 2）生活の中のデザインに興味関心を持ち、生活に生かせることができる。(DP2) 3）平面における基礎的な造形・構成ができる。(DP1) 4）目的・テーマに応じたアイデアを出す事ができる。(DP2)		
履修上の注意	特になし		
オフィスアワー	授業の前後 10 分間		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	デザインとは、デザインの起源と発展	授業で使われた用語等を調べておく。（１時間）
2	情報を視覚化するデザイン	授業で使われた用語等を調べておく。（１時間）
3	「デザインの原型」プロジェクト（1） 問題解決ためのデザイン	授業で使われた用語等を調べておく。（１時間）
4	「デザインの原型」プロジェクト（2） 紙の可能性	授業で使われた用語等を調べておく。（１時間）
5	建築デザイン（1） 西洋建築史	授業で使われた用語等を調べておく。（１時間）
6	建築デザイン（2） 日本建築様式の流変	授業で使われた用語等を調べておく。（１時間）
7	景観・ガーデンデザイン（1） 景観形成と都市計画	授業で使われた用語等を調べておく。（１時間）
8	景観・ガーデンデザイン（2） 枯山水から	授業で使われた用語等を調べておく。（１時間）
9	椅子のデザイン	授業で使われた用語等を調べておく。（１時間）
10	紋様に関するデザイン	授業で使われた用語等を調べておく。（１時間）
11	パッケージデザイン	授業で使われた用語等を調べておく。（１時間）
12	陶磁器デザイン	授業で使われた用語等を調べておく。（１時間）
13	平面構成の基礎（1）	授業内容の復習と練習課題の完成。(1 時間)
14	平面構成の基礎（2）	授業内容の復習と練習課題の完成。(1 時間)
15	平面構成の基礎（3）	授業内容の復習と練習課題の完成。(1 時間)

テキスト	なし（授業時に資料プリントファイルを配布する）
指定図書	あり(巻末参照

科　目　名	**色彩デザイン演習**	担当者	周　業欣
区　分　等	１年次・後期［演習］１単位・選択／生活文化専攻		
評 価 基 準	授業ごとの提出課題（50%）　②課題レポート（30%）　③授業の取り組み姿勢（20%）		
課題に対するフィードバック	提出された課題は採点し、適宜コメントをつけて返却する。		
目　　的	この授業は色について講義と制作をとおして、色の有する性質を体験的に理解することを目標とする。つまり、色がもつ標準的な側面（物理的な性質）および、体験と相対的にうつろう側面（現象的・心理的な性質）の両方の性質を有することを主題とする。色彩の現象性について探求しながら、グラフィックデザインに必要な色彩の基本について学ぶ。		
到 達 目 標	1)　上記に関する色の基本的な知識を体験すること、色彩に関しての基本的な知識を習得。デザイン系ソフトを使用した基本的な配色方法の演習。また、シンプルな図形や文字、写真を用いたグラフィックデザインの演習。(DP1、DP2) 2)　道具・材料を手際良く扱い、美しい直線や曲線、色彩を使って作品を仕上げることができる。(DP2) 3)　美しい色彩の現象を表現するだけではなく、私たちの脳が色彩と形、対象物の属性との関係をどのように捉え、今後のデザインを展開する力を獲得する。(DP2)		
履修上の注意	Adobe Illustrator、Photoshop などの基本的なスキルは必須		
オフィスアワー	授業の前後 10 分間		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	色彩構成の基礎（1）	授業内容のまとめと確認(1 時間)
2	色彩構成の基礎（2）	授業内容の復習（1 時間）
3	色相環、色共感覚	授業内容の復習（1 時間）
4	色の組み合わせ「関係」を考える（1）	授業内容の復習（1 時間）
5	色の組み合わせ「関係」を考える（2）	授業内容の復習（1 時間）
6	色彩の心理効果	授業内容の復習（1 時間）
7	配色のサンプリング	授業内容の復習（1 時間）
8	配色の考え方	授業内容の復習と練習課題の完成(1 時間)
9	視覚伝達表現「平面デザイン」	授業内容の復習と練習課題の完成(1 時間)
10	視覚伝達表現「文字」	まとめと振り返り（2 時間）
11	視覚伝達表現「比率、構図」	授業内容の復習（1 時間）
12	視覚伝達表現「写真における色彩」	授業内容の復習と練習課題の完成(1 時間)
13	視覚伝達表現 ポスター　(1)	授業内容の復習と練習課題の完成(1 時間)
14	視覚伝達表現 ポスター　(2)	授業内容の復習と練習課題の完成(1 時間)
15	作品展示、最終講評	まとめと振り返り（2 時間）

テキスト	適宜、資料を配布
指定図書	あり(巻末参照)

科　目　名	コンピュータグラフィックス	担当者	坂本憲信
区　分　等	１年次・前期［演習］１単位　選択／生活文化専攻		
評価基準	①授業への取り組み姿勢（40%） ②課題提出（60%）		
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスや提案をする等、学生にフィードバックする。		
目　　的	意図するイメージを適切に表現できるための基礎的な知識について理解し、考えを具現化するための技能を身につけることを目指す。		
到達目標	ＰＣツール（イラストレーター、フォトショップ）を用いて、意図するイメージをデザインし計画的に作成することができる。(DP1)		
履修上の注意	特になし		
オフィスアワー	授業終了後		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション イラストレーター（１～７回）基本機能について	復習：授業内で作業した内容について、テキストを読み返して理解を深める。(0.5時間)
2	「キャラクターマーク」の作図 （作図、トレース、描線、彩色、加工、文字入力等について学ぶ。）	予習：テキストを読み、作成の作業プロセスをあらかじめ把握しておく。(0.5時間) 復習：授業内で作業した内容について、テキストを読み返して理解を深める。(0.5時間)
3	「キャラクターマーク」の作図（継続）	予習：テキストを読み、作成の作業プロセスをあらかじめ把握しておく。(0.5時間) 復習：授業内で作業した内容について、テキストを読み返して理解を深める。(0.5時間)
4	「キャラクターマーク」の完成	予習：テキストを読み、作成の作業プロセスをあらかじめ把握しておく。(0.5時間) 復習：課題成果を振り返り、効果の高い点について理解すると共に、改善点を明らかにすることによって更に理解を深める。(0.5時間)
5	「地図」の作図 （より複雑な作図やオブジェクトの加工、整列等について学ぶ。）	復習：授業内で作業した内容について、テキストを読み返して理解を深める。(0.5時間)
6	「地図」の作図（継続）	予習：テキストを読み、作成の作業プロセスをあらかじめ把握しておく。(0.5時間) 復習：授業内で作業した内容について、テキストを読み返して理解を深める。(0.5時間)
7	「地図」の完成	予習：テキストを読み、作成の作業プロセスをあらかじめ把握しておく。(0.5時間) 復習：課題成果を振り返り、効果の高い点について理解すると共に、改善点を明らかにすることによって更に理解を深める。(0.5時間)
8	フォトショップ（８～１２回） 基本機能について	復習：授業内で作業した内容について、テキストを読み返して理解を深める。(0.5時間)
9	画像の切り抜き・合成のレッスンと応用	予習：テキストを読み、作成の作業プロセスをあらかじめ把握しておく。(0.5時間) 復習：授業内で作業した内容について、テキストを読み返して理解を深める。(0.5時間)
10	レタッチ・色調補正のレッスンと応用	予習：テキストを読み、作成の作業プロセスをあらかじめ把握しておく。(0.5時間) 復習：授業内で作業した内容について、テキストを読み返して理解を深める。(0.5時間)
11	コラージュのレッスン	予習：テキストを読み、作成の作業プロセスをあらかじめ把握しておく。(0.5時間) 復習：授業内で作業した内容について、テキストを読み返して理解を深める。(0.5時間)
12	コラージュの作成	予習：テキストを読み、作成の作業プロセスをあらかじめ把握しておく。(0.5時間) 復習：課題成果を振り返り、効果の高い点について理解すると共に、改善点を明らかにすることによって更に理解を深める。(0.5時間)

13	イラストレーターとフォトショップの複合操作（１３～１５回） 課題「１ヶ月カレンダー」のテンプレート作成	予習：テキストを読み、作成の作業プロセスをあらかじめ把握しておく。(0.5時間) 復習：授業内で作業した内容について、テキストを読み返して理解を深める。(0.5時間)
14	「１ヶ月カレンダー」の作成	予習：テキストを読み、作成の作業プロセスをあらかじめ把握しておく。(0.5時間) 復習：授業内で作業した内容について、テキストを読み返して理解を深める。(0.5時間)
15	「１ヶ月カレンダー」の完成および講評まとめ	復習：課題成果を振り返り、効果の高い点について理解すると共に、改善点を明らかにすることによって更に理解を深める。(0.5時間)

テキスト	授業時に資料を配付する。
指定図書	授業内で適宜紹介する。

科　目　名	グラフィックデザイン演習	担当者	坂本憲信
区　分　等	１年次・後期［演習］１単位　選択／生活文化専攻		
評価基準	①授業への取り組み姿勢（40%） ②課題提出（60%）		
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスや提案をする等、学生にフィードバックする。		
目　　的	意図するイメージを適切に表現できるための応用的な知識について理解し、考えを具現化するための技能について更に習熟することを目指す。		
到達目標	ＰＣツールを用いて画像をデザインし計画的かつ効果的に作成するための応用的な知識を獲得し、ツール操作技能について習熟することができる。(DP1)		
履修上の注意	ＰＣツール（イラストレーターおよびフォトショップ）の基本操作ができること。 「コンピュータグラフィックス」（前期）を履修していることが望ましい。		
オフィスアワー	授業終了後		

授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション 「名刺」の課題説明 課題作成に向けてのレッスン（ＰＣツール操作の振り返り）	復習：課題内容に基づきアイデアを検討し、作業に備える。(0.5時間)
2	名刺の作成（レッスンと試作）	予習：課題内容に基づきアイデアを検討し、作業に備える。(0.5時間) 復習：作成した内容について改善点を探る。(0.5時間)
3	名刺の作成	予習：検討したアイデアに基づき、必要な素材を準備する。(0.5時間) 復習：作成した内容について改善点を探る。(0.5時間)
4	「名刺」の講評 「カレンダー」の課題説明	復習：課題成果を振り返り、効果の高い点について理解すると共に、改善点を明らかにすることによって更に理解を深める。また、次の課題内容に基づきアイデアを検討する。(0.5時間)
5	「カレンダー」のテンプレート作成	予習：検討したアイデアを精査する。(0.5時間) 復習：作成した内容について改善点を探る。(0.5時間)
6	「カレンダー」の素材作成・加工	予習：検討したアイデアに基づき、必要な素材を準備する。(0.5時間) 復習：作成した内容について改善点を探る。(0.5時間)
7	「カレンダー」の作成	予習：検討した改善点に基づき必要な調査を行い、作業手順を明確にする。(0.5時間) 復習：作成した内容について改善点を探る。(0.5時間)
8	「カレンダー」の作成（継続）	予習：途中段階の作成内容を振り返り、改善点について検討する。(0.5時間) 復習：作成した内容について改善点を探る。(0.5時間)
9	「カレンダー」の完成データ提出	予習：完成イメージに基づき作業手順を確認する。(0.5時間)
10	「カレンダー」のプリントおよび製本	復習：課題成果を振り返り、効果の高い点と改善点について検証する。(0.5時間)
11	「カレンダー」の講評 「アニメーション」の課題説明	復習：課題成果を振り返り、効果の高い点について理解すると共に、改善点を明らかにすることによって更に理解を深める。(0.5時間)
12	「アニメーション」のレッスン	予習：課題内容に基づきアイデアを検討し、作業に備える。(0.5時間) 復習：授業内で作業した内容について振り返り、理解を深める。(0.5時間)
13	「アニメーション」の作成	予習：課題内容に基づきアイデアを検討し、必要な素材を準備する。(0.5時間) 復習：授業内で作業した内容について振り返り、理解を深める。(0.5時間)
14	「アニメーション」の作成（継続）	予習：課題内容に基づきアイデアを検討し、作業に備える。(0.5時間) 復習：作成内容について改善点を振り返り、更なる改善点について検討する。(0.5時間)
15	「アニメーション」の完成および講評 まとめ	復習：課題成果を振り返り、効果の高い点について理解すると共に、改善点を明らかにすることによって更に理解を深める。(0.5時間)

テキスト	授業時に資料を配付する。
指定図書	授業内で適宜紹介する。

科　目　名	**基礎経済論**	担当者	熊丸博隆
区　分　等	１年次・前期［講義］２単位　選択／生活文化専攻、健康栄養専攻		
評価基準	定期試験 70%、受講態度（小レポート課題含む）30%		
課題に対するフィードバック	講義中に課題に取り組み、質問の回答などを次の回の授業にてフィードバックを行う。		
目　　的	経済学の基礎的知識の取得を通して、経済学的な思考方法を身につける。		
到達目標	1.標準的な経済学が扱うトピックについて列挙できる。(DP1) 2.経済学的思考を身につけ、日々の新聞・ニュースで扱われる経済問題に対して、自分なりの見解を持つことができる。(DP2)		
履修上の注意	授業資料と板書を併用します。また予習・復習および日々のニュース・新聞記事等に関心を持って講義に臨んでください。		
オフィスアワー	講義終了後の時間		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	イントロダクション ———経済学的思考とは———	「経済学」に関わる雑誌記事やニュース記事等を少なくとも 1 つ探し、経済学に対する自分なりのイメージを固めて（再構築して）みる（1 時間）。
2	市場と均衡：モノの価格はどのようにして決まる？	「市場」について、指定図書を参考にしつつ自らの考えをまとめてみる（1 時間）。
3	余剰分析：モノの最適な配分とは	指定図書を参考にしつつ、練習問題を解いてみる（2 時間）。
4	需要の価格弾力性：価格が下がると物はさらに売れる？	需要の価格弾力性が現実でどのように活かされているかを調べる（1 時間）。
5	課税：酒税や消費税は社会にどのような影響を与える？	増税が現実でどのように活かされているかを調べる（1 時間）。
6	国際貿易：なぜ貿易を行うのか	指定図書を参考にしつつ、練習問題を解いてみる（2 時間）。
7	ゲーム理論：２人の行動はどのような結果を生み出すのか	「ゲーム理論」に関する状況を少なくとも 1 つ探し、自分なりに理解してみる（1 時間）。
8	国民所得：豊かさとは	「GDP」に関わるニュース記事を少なくとも 1 つ探し、自分なりに理解してみる（2 時間）。
9	45 度線分析（１）：有効需要の原理と均衡	指定図書を参考にしつつ、練習問題を解いてみる（2 時間）。
10	45 度線分析（２）：完全雇用国民所得と乗数	指定図書を参考にしつつ、練習問題を解いてみる（2 時間）。
11	貨幣市場とは	指定図書を参考にしつつ、練習問題を解いてみる（2 時間）。
12	IS-LM 分析	指定図書を参考にしつつ、練習問題を解いてみる（2 時間）。
13	政府と日本銀行の役割	政府や日本銀行に関わるニュース記事を少なくとも 1 つ探し、自分なりに理解してみる（2 時間）。
14	国際マクロ経済学：為替レートとは	「為替レート」に関わるニュース記事を少なくとも 1 つ探し、自分なりに理解してみる（2 時間）。
15	経済学の実際の数値例	これまでの経済学で学んだことが現実でどのように活かされているかを調べる（2 時間）。

テキスト	特に指定しない。適宜資料を配付する。
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	**時事経済**	担当者	熊丸博隆
区　分　等	１年次・後期［講義］２単位　選択／生活文化専攻、健康栄養専攻		
評価基準	定期試験 70%、受講態度（小レポート課題含む）30%		
課題に対するフィードバック	講義中に行う小レポート課題や質問の回答など次の回の授業にてフィードバックを行う。		
目　　的	1.現代社会が内包する多種多様な経済問題を適切に理解するためには、それらの歴史的な背景や内情をデータから知ることが非常に重要である。(DP1,DP2) 2.本講義では様々な公共問題や社会問題を経済学的な観点から概観し、現代の諸問題を自らの頭で考えていくための土台を築く。(DP3)		
到達目標	・日本経済の歩みの中で、社会問題の背景や状況を説明できる。 ・近年の日本経済に生じている変化について列挙できる。		
履修上の注意	予習・復習および、日々のニュース・新聞記事等に関心を持って講義に臨むこと。		
オフィスアワー	講義終了後の時間		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	イントロダクション ———経済学の復習———	「日本経済」に関わる雑誌記事やニュース記事等を少なくとも 1 つ探し、これからの日本経済の展望について自分なりに見解をまとめてみる（1 時間）。
2	人口・労働政策	秋田の人口減少に関して自分なりに調べてみる（2 時間）。
3	食料政策	「食品廃棄物」に関して調べてみる（1 時間）。
4	経済格差	経済格差の是正に関連して、授業で扱ったもの以外について自分なりに調べてみる（1 時間）。
5	金融（１）貨幣とは	「お金の役割」に関して自分なりに調べてみる（2 時間）。
6	金融（２）金融政策とは	「金融政策」に関わるニュース記事を少なくとも 1 つ探し、自分なりに理解してみる（2 時間）。
7	財政学（１）：財政とは	「財政政策」に関わるニュース記事を少なくとも 1 つ探し、自分なりに理解してみる（2 時間）。。
8	財政学（２）：国債とは	「債務残高」に関わるニュース記事を少なくとも 1 つ探し、自分なりに理解してみる（2 時間）。
9	公共事業	「公共財」に関して自分なりにまとめてみる（2 時間）。
10	公共福祉	「福祉」に関わるニュース記事を少なくとも 1 つ探し、自分なりに理解してみる（2 時間）。
11	国際（１）貿易政策	自由貿易と保護貿易の違いに関して自分なりにまとめてみる（2 時間）。
12	国際（２）為替レートの決定理論	「為替レート」の変動が与える影響について、自分なりにまとめてみる（2 時間）。
13	環境政策（１）：環境問題と外部性	「公害」に関わるニュース記事を少なくとも 1 つ探し、自分なりに理解してみる（2 時間）。
14	環境政策（２）：地球温暖化と廃棄物問題	現代の環境問題に関わるニュース記事を少なくとも 1 つ探し、自分なりに理解してみる（2 時間）。
15	エネルギー問題・生態系	「風力発電」に関わるニュース記事を少なくとも 1 つ探し、自分なりに理解してみる（2 時間）。

テキスト	特に指定しない。適宜資料を配付する。
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	**食料経済**	担当者	佐藤　了
区　分　等	１年次・後期［講義］２単位　選択／生活文化専攻 ２年次・後期［講義］２単位　選択／健康栄養専攻		
評 価 基 準	①定期試験・レポート（70%） ②受講態度（30%）		
課題に対するフィードバック	各講義終了時に全受講者に疑問や意見等を記した『コミュニケーション・カード』の提出を求め、次講義時に講義者のコメントを付して返却し、理解の正確化・深化・発展を図る。		
目　　的	私たちの食卓を見つめることを起点とし、そこからさかのぼって食料の生産・流通・消費・廃棄のつながりとその変遷、世界と日本の食料事情と安全性に関する課題などについて理解を深め、自覚的消費者としての主権と責任への理解深化と行動への動機づけを図る。		
到 達 目 標	１　『豊かな食卓』を支える仕組みの概要を理解する（DP1）。 ２　農場と食卓の距離拡大の実態と問題点の概要を理解し、コミュニケーション・カードへの理解・疑問・質問の記入等を通じてコミュニケーション能力の育成を図る（DP2）。 ３　『安全な食料の安定的確保』に向けて、自覚的消費者として自らで調べ、行動していく能力を身に付ける（DP3）。		
履修上の注意	講義の前後の時間		
オフィスアワー	講義の前後の時間		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	prologue 食料経済で何を学ぶか ―食卓からさかのぼってそのフードシステムのしくみをたずねる	テキストの「冒頭～ｐ13」　基本中の基本 予習：疑問点をチェックしておく（1時間） 復習：講義で配布した要約を手がかりに自らノートしながら正確な理解に努める（0.5時間） （予習・復習の要領は以下も同様なので略）
2	１編　“豊かな食卓”の解析 １章　食生活の変遷と特徴	テキストの「ｐ16～ｐ45」 予習1時間・復習0.5時間
3	２章　成熟期にきた食の需給	テキストの「ｐ46～ｐ66」 予習1時間・復習0.5時間
4	２編　農場から食卓を結ぶ食料・食品産業 ３章　農畜水産物の生産	テキストの「ｐ68～ｐ91」 予習1時間・復習0.5時間
5	４章　食品企業の役割と食品製造業の展開	テキストの「ｐ92～ｐ113」 予習1時間・復習0.5時間
6	５章　食品流通とマーケティング	テキストの「ｐ114～ｐ134」 予習1時間・復習0.5時間
7	６章　外食・中食産業の展開	テキストの「ｐ135～ｐ147」 予習1時間・復習0.5時間
8	食品の流通・消費知識：実践編１	フード・スペシャリスト資格認定試験過去問題集等を題材に多様な食料経済事象への実践力を養う 予習1時間・復習0.5時間
9	食品の流通・消費知識：実践編２	フード・スペシャリスト資格認定試験過去問題集等を題材に多様な食料経済事象への実践力を養う 予習1時間・復習0.5時間
10	７章　貿易自由化と食料・食品の輸出入	テキストの「ｐ148～ｐ164」 予習1時間・復習0.5時間
11	３編　食の安全・安定確保 ８章　世界の食料問題	テキストの「ｐ166～ｐ188」 予習1時間・復習0.5時間
12	９章　日本の食料政策	テキストの「ｐ189～ｐ216」 予習1時間・復習0.5時間
13	10章 食品の安全政策と消費者対応	テキストの「ｐ217～ｐ237」 予習1時間・復習0.5時間
14	epilogue　日本の食料問題を考える ―真の豊かさを求めて	テキストの「ｐ239～ｐ249」 予習1時間・復習0.5時間
15	真に豊かな食生活を営むために私たちができること（発表・討論会）	受講生は左記テーマのレポートをA4で1枚程度にまとめ、第14回講義時までに提出すること

テキスト	高橋正郎監修・清水みゆき編著『食料経済（第６版）』（オーム社、2022.3.24）
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	**簿記**	担当者	佐藤　恵
区　分　等	１年時・後期／生活文化専攻，２年次・後期／健康栄養専攻　　［講義］２単位　選択		
評 価 基 準	①定期試験(80%)、②課題(20%)を総合して評価する。		
課題に対するフィードバック	課題については、評価をつけて返却する。		
目　　的	企業の経営成績および財政状態を把握するためには、簿記の知識が要求される。業務を遂行するための基礎的な複式簿記を学ぶ。		
到 達 目 標	勘定科目や複式簿記の原理や実務が理解できる。(DP1,2)		
履修上の注意	①簿記初学者を対象に日商簿記検定３級の基礎的な内容とする。 ②復習をして次の授業に臨む。 ③講義・試験時に電卓を持参すること。		
オフィスアワー	月曜日 13:00～16:30		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	簿記の意義としくみ	計算書の種類と、基本的な勘定科目を覚える
2	仕分と転記	テキストの例題・練習問題の復習。(1 時間)
3	仕訳帳と元帳	テキストの例題・練習問題の復習。(1 時間)
4	決算	テキストの例題・練習問題の復習。(1 時間)
5	現金と預金	テキストの例題・練習問題の復習。(1 時間)
6	繰越商品･仕入･売上	テキストの例題・練習問題の復習。(1 時間)
7	仕入帳･売上帳	テキストの例題・練習問題の復習。(1 時間)
8	売掛金と買掛金	テキストの例題・練習問題の復習。(1 時間)
9	その他の債権と債務	テキストの例題・練習問題の復習。(1 時間)
10	受取手形と支払手形	テキストの例題・練習問題の復習。(1 時間)
11	有価証券	テキストの例題・練習問題の復習。(1 時間)
12	固定資産	テキストの例題・練習問題の復習。(1 時間)
13	貸倒損失と貸倒引当金・資本	テキストの例題・練習問題の復習。(1 時間)
14	収益と費用・税金	テキストの例題・練習問題の復習。(1 時間)
15	伝票	テキストの例題・練習問題の復習。(1 時間)

テキスト	渡部裕亘他著『検定簿記講義３級商業簿記』(中央経済社)
指定図書	なし

科　目　名	**秘書学概論**	担当者	佐藤　恵
区　分　等	１年次・前期［講義］２単位　選択／生活文化専攻、健康栄養専攻		
評価基準	・小テスト(80%) ・課題(20%)		
課題に対するフィードバック	提出物（レポート）については、随時コメントをつけて返却する。		
目　　的	秘書の仕事、組織での秘書の存在、秘書に求められる資質や能力など、秘書の役割全般について学習すると共に、その業務を通して企業組織についても学ぶ。		
到達目標	秘書とは実際どういう仕事をするのか、秘書の業務や役割についてグローバルな視点で説明することができる。(DP1,2)		
履修上の注意	①秘書士課程の必修科目である。 ②秘書検定問題集の解説を授業の中に取り入れる。 ③科目の特性上、生活行動面を含めたマナーも求める。		
オフィスアワー	金曜日 13:00～16:30		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	秘書の定義と求められる基本能	ノートのまとめと確認（0.5時間）
2	職務知識と職務内容・心構え①	ノートのまとめと確認。(1時間)
3	職務知識と職務内容・心構え②	ノートのまとめと確認。(1時間)
4	秘書に求められる資質	ノートのまとめと確認。(1時間)
5	企業と経営①　組織	ノートのまとめと確認。(1時間)
6	企業と経営②　職能	ノートのまとめと確認。レポート作成（2時間）
7	企業活動と法律・税の知識①　企業会計	ノートのまとめと確認。(1時間)
8	企業活動と法律・税の知識②　法律用語	ノートのまとめと確認。レポート作成（2時間）
9	秘書と人間関係	ノートのまとめと確認。(1時間)
10	秘書とコミュニケーション①接遇用語	ノートのまとめと確認。(1時間)
11	秘書とコミュニケーション②話し方・聴き方	ノートのまとめと確認。(1時間)
12	秘書と情報管理	ノートのまとめと確認。(1時間)
13	秘書と国際化	ノートのまとめと確認。(1時間)
14	秘書と異文化理解	ノートのまとめと確認。(1時間)
15	秘書とプロトコール	ノートのまとめと確認。(1時間)

テキスト	実務技能検定協会『秘書検定２級集中講義』(早稲田教育出版)
指定図書	なし

科　目　名	**秘書実務Ⅰ**	担当者	小林紀子
区　分　等	１年次・後期［演習］１単位　選択／生活文化専攻、健康栄養専攻		
評価基準	①授業内演習５割 ②授業内まとめテスト５割		
課題に対するフィードバック	①提出課題については、随時解説し返却する。 ②模擬試験などは、個別に添削指導する。		
目　　的	秘書士として職務を果たすのに必要な基礎的知識・技術を学び、円滑な人間関係を作れる資質やセンスのある人格育成、並びに、状況判断、問題解決、表現などの職能開発をする。		
到達目標	実務課題に対する知識を理解し、基礎的演習ができる。(DP1)		
履修上の注意	特になし。		
オフィスアワー	月曜日　10 時～10 時 45 分		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション オフィスワーカーの能力開発の方向づけ	秘書検定２級以上の合格を推奨しています。各自計画的に学習すること。(2 時間以上)
2	マナー・接遇Ⅰ　敬語、接遇用語基礎演習	問題集　(2 時間以上) 言葉づかい記述対策
3	マナー・接遇Ⅱ　慶弔業務の知識と演習	問題集　(2 時間以上) 上書き学習
4	技能Ⅰ　ビジネス文書の作成	問題集　(2 時間以上) 文書用語学習
5	技能Ⅱ　通信業務と文書取扱い業務演習	問題集　(2 時間以上) 一般知識用語学習
6	ファシリティ・マネジメント オフィス環境とバーチカルファイリング	技能領域テキスト見直し（1 時間）
7	話し方　人間関係をつくる話し方演習	マナー・接遇領域テキスト見直し（1 時間）
8	来客応対Ⅰ 基本要領とパターントレーニング	振り返り（1 時間）
9	来客応対Ⅱ 状況に応じたロールプレイング	振り返り（1 時間）
10	サービスと接遇 ホスピタリティの理解と模擬演習	振り返り（1 時間）
11	電話応対Ⅰ 基本要領を知るためのケース・スタディ	振り返り（1 時間）
12	電話応対Ⅱ 状況に応じたロールプレイング	振り返り（1 時間）
13	電話応対Ⅲ 異なるオフィス形態でのロールプレイング	振り返り（1 時間）
14	検定対策　秘書検定２級対応	模擬試験（2 時間）
15	まとめ　デスクワークと実技	テキスト・問題集の見直し（2 時間）

テキスト	『秘書検定集中講義２級』(早稲田教育出版) 『秘書検定実問題集２級』(早稲田教育出版)
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	**ビジネス実務総論**	担当者	佐藤　恵
区　分　等	１年次・前期［講義］２単位　選択／生活文化専攻、健康栄養専攻		
評価基準	定期試験(60%)、レポート(20%)、課題(20%)を総合して評価する		
課題に対するフィードバック	提出物（課題・レポート）については、随時コメントをつけて返却する。		
目　　的	将来社会人となり仕事（ビジネス）に就いたとき、仕事（ビジネス）にはどのような知識や能力が求められるかを学ぶ。 ビジネス実務マナー検定問題を通して、基本的なビジネス実務マナーについて学ぶ。		
到達目標	グローバルな視点でビジネス実務の概念、個人業務、協働業務、ビジネスの変化について説明することができる。(DP1,2) ビジネスの基本的なマナーを知ることができる。(DP1,2)		
履修上の注意	ビジネス実務士課程の必修科目である。 遅刻・欠席の場合、事前に連絡をする。課題の提出期限を守る。		
オフィスアワー	金曜日 13:00～16:30		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション	「あいさつ」はなぜ必要か、自分の考えをまとめる。(1 時間)
2	ビジネス実務の定義	「仕事の責任」について、自分の考えをまとめる。ノートの整理と確認。(1 時間)
3	ビジネス社会とは①　ビジネスと経営資源	ふりかえり(1)。関心のある３業種×３社の「企業理念」を調べる。(2 時間)
4	ビジネス社会とは②　社会と企業	ふりかえり(2)。ノートの整理と確認（1 時間)
5	企業とは①　企業の目的・経営理念	ふりかえり(3)。関心のある３業種×３社の「社会貢献活動」を調べる。(2 時間)
6	企業とは②　企業の会計	ふりかえり(4)。関心のある３業種×３社の「財務諸表」を調べる。(2 時間)
7	経済の動きと日常生活①　経済主体と経済現象	ふりかえり(5)。市場価格調査。(2 時間)
8	経済の動きと日常生活②　貧困・格差社会	ふりかえり(6)。市場価格調査。(2 時間)
9	グローバル社会とビジネス グローバリゼーションと新興国	ふりかえり(7)。普段使用している物の原材料、や製品の輸出入先を調べる（2 時間)。
10	さまざまな働き方 働く意義と働き方の変化	ふりかえり(8)。理想の働き方を考える。(2 時間)
11	税と社会保険 税の役割と社会保険	ふりかえり(9)(10)。税金について調べる。(2 時間)
12	地域連携とボランティア ボランティアの意義と地域連携の背景	ふりかえり(11)。ボランティアの必要性について考えをまとめる。(2 時間)
13	現代社会における情報管理 情報管理・インターネットとビジネス	ふりかえり(12)。これまでに起きた情報に関する事件を調べる。(2 時間)
14	協働業務とマネジメント	プリントを読む。ノートの整理と確認。(1 時間)
15	まとめ	ノートの整理と確認。(1 時間)

テキスト	水原道子・大島武　編著『新版　ビジネス実務総論』(樹村房)
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	**ビジネス実務演習Ⅰ**	担当者	佐藤　恵
区　分　等	１年次・後期［演習］１単位　選択／生活文化専攻、健康栄養専攻		
評価基準	①プレゼンテーション・ロールプレイングなどの発表(70%) ②グループワークへの貢献(30%)		
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスや提案をして学生にフィードバックする。		
目　　的	職場で役立つビジネス実務を身につけるために、ビジネス実務マナーやオフィスワークの理論を学ぶ。また、理論を実践に移すためにトレーニング学習を通して、ビジネス実務を学ぶ。		
到達目標	ロールプレイングによる実務訓練により、社会人としての基本的なマナーと表現力・判断力が身につき、実践できるようになる。(DP2,3)		
履修上の注意	ビジネス実務士（全国大学実務教育協会）課程の必修科目である。 授業内の課題や演習問題は積極的に取り組むこと。		
オフィスアワー	月曜日 13:00～16:30		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	ビジネスパーソンとマナー	テキストを読み、予習と復習を行う。(1 時間)
2	自己表現：言語表現と非言語表現	まとめと確認。ポイント学習
3	ビジネスの言葉遣い：敬語（１）	まとめと確認。
4	ビジネスの言葉遣い：敬語（２）	まとめと確認。ポイント学習
5	電話応対：取り次ぎ①	まとめと確認。
6	電話応対：取り次ぎ②	まとめと確認。
7	電話応対：かけ方①	まとめと確認。
8	電話応対：かけ方②	まとめと確認。ポイント学習
9	来客応対：受付	まとめと確認。
10	来客応対：取り次ぎ・案内①	まとめと確認。
11	来客応対：取り次ぎ・案内②	まとめと確認。ポイント学習
12	クレーム対応：原因・心構え・対応	まとめと確認。ロールプレイ準備
13	クレーム対応：ロールプレイ	まとめと確認。ポイント学習
14	文書実務：ビジネス文書	まとめと確認。
15	文書実務：ファイリング	まとめと確認。

テキスト	宮田篤編著『新ビジネスとオフィスワーク』(樹村房)
指定図書	あり（巻末参照）

科目名	国際開発ビジネス	担当者	佐藤邦子
区分等	１年次・前期［講義］２単位　選択／生活文化専攻		
評価基準	授業参加・ディスカッション 20%、レポート 30%、グループプレゼンテーション 50%		
課題に対するフィードバック	随時。アドバイスや提案をする等、学生にフィードバックする。		
目的	国際開発ビジネスの基本概念と実践的なアプローチを学び、JICA 草の根技術協力やコミュニティー開発の事例を通じて、持続可能な開発の可能性を理解する。特に、住民主体の参加型開発の重要性を認識し、企業・NGO・国際機関がどのように協働して社会課題を解決しているかを考察する。		
到達目標	①国際開発ビジネスの基本概念を理解する。(DP1) ②コニュニティー開発の事例を分析し、課題を特定する。(DP2) ③自らの意見を論理的に整理し、レポートやプレゼンテーションで発表できる。(DP3)		
履修上の注意	特になし。		
オフィスアワー	金曜日 16 時 20 分～16 時 50 分		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	導入：国際開発ビジネスとは	事後学習：学習内容の振り返り（2 時間）
2	JICA 草の根技術協力とは	事前学習：JICA 草の根技術協力事例を調べておく（1 時間） 事後学習：事例の課題点をまとめる（1 時間）
3	コミュニティー開発と住民参加	事前学習：参加型開発の考えを調べておく（1 時間） 事後学習：学習の振り返り（1 時間）
4	村の女性による収入向上プログラム	事前学習：途上国の女性に関する記事を読む（1 時間） 事後学習：学習の振り返り（1 時間）
5	子どもの識字率向上プログラム	事前学習：識字率の低い国の教育事情を調べておく（1 時間） 事後学習：学習の振り返り（1 時間）
6	保健衛生プログラムと地域社会	事前学習：ヘルスプロモーションを調べておく（1 時間） 事後学習：学習の振り返り（1 時間）
7	企業の社会的責任と開発ビジネス	事前学習：CSR の事例を調べておく（1 時間） 事後学習：学習の振り返り（1 時間）
8	国際 NGO の役割と開発ビジネス	事前学習：主な国際 NGO を調べておく（1 時間） 事後学習：学習の振り返り（1 時間）
9	ソーシャルビジネスの可能性	事前学習：フェアトレードの事例を調べておく（1 時間） 事後学習：学習の振り返り（1 時間）
10	国際開発プロジェクトの設計①（ニーズ調査）	事前学習：関心のある社会課題を調べる（1 時間） 事後学習：学習の振り返り（1 時間）
11	国際開発プロジェクトの設計②（計画立案）	事前学習：前回のプロジェクトテーマを深堀する（1 時間） 事後学習：学習の振り返り（1 時間）
12	国際開発プロジェクトの評価とモニタリング	事前学習：プロジェクト評価の手法を調べる（1 時間） 事後学習：学習の振り返り（1 時間）
13	実務者による参加型プロジェクトの経験談	事後学習：学習の振り返り（1 時間）
14	グループワーク：プロジェクト発表準備	事前学習：グループでプレゼンを準備する（1 時間） 事後学習：学習の振り返り（1 時間）
15	プレゼンテーションと総括	事前学習：各グループの内容を確認し質問を考える（1 時間） 事後学習：学習の振り返り（1 時間）

テキスト	なし
指定図書	『ストーリーで学ぶ開発経済学 － 途上国の暮らしを考える』(山形辰史，有斐閣，2016 年)

科目名	卒業研究	担当者	佐藤光咲
区分等	２年次・通年［演習］４単位　必修／生活文化専攻		
評価基準	①論文（60%）②発表や研究に取り組む姿勢（30%）③履修カードの内容及び小レポートの提出（10%）		
課題に対するフィードバック	○毎時間の履修カードに記された課題や質問、感想について、コメントを付し返却し、必要に応じて授業で解説する。 ○課題レポートや発表等を課し、発表の成果やレポートの返却時に評価を付し解説する。		
目的	世界の主な食べ物について、そのルーツや食生活の特色を風土や歴史との関連で研究を行い、論文を完成させることができるようにする。		
到達目標	①世界の主な食べ物について、そのルーツや食生活の特色を風土や歴史などとの関連で考察し、説明できる。（DP1） ②グループ学習の中で他者の考えに耳を傾け、協力して課題を解決しようとする。学習に取り組む。。（DP2） ③食べ物や食文化に関心をもち、生活を豊かなものにしていこうという態度を身に付けるとともに、小論文をまとめ、発表できるようにする。（DP2、DP3）		
履修上の注意	３時間の学習内容から各自小テーマを決め、発表、ディスカッションを行う。（前期３回）		
オフィスアワー	（前期）火曜日 15 時～16 時、（後期）金曜日 15 時～16 時		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	「世界の食文化」ガイダンス、稲作（米）のルーツを探る（新たな発見）	稲作のルーツを調べ、まとめる。（1 時間） 授業内容のまとめと確認（1 時間）
2	我が国への伝播と広がり、稲作（米）と日本人ー年中行事、祭り	日本への稲作の伝播の様子を調べる。（1 時間） 授業のまとめと確認（1 時間）
3	米と秋田ーふるさと秋田の文化と祭り	「米の秋田」の由縁を調べる。（1 時間） 授業のまとめと確認（1 時間）
4	小テーマの設定と研究	これまでの授業内容から小テーマを設定し、研究を進める。（2 時間）
5	研究のまとめとディスカッション	研究のまとめと発表の準備（2 時間）
6	麦（パン）と西ヨーロッパ	ヨーロッパで、麦が作られた理由を調べる。（1 時間）授業のまとめと確認（1 時間）
7	牧畜（肉）と西ヨーロッパ	ヨーロッパで牧畜（肉食）が普及した背景を調べてる。（1 時間）授業のまとめと確認（1 時間）
8	香辛料と西ヨーロッパ（大航海時代の背景）	なぜ大航海時代がの背景を調べておく。（1 時間） 授業のまとめと確認（1 時間）
9	小テーマの設定と研究	これまでの授業内容から小テーマを設定し、研究を進める（2 時間）
10	研究のまとめとディスカッション	研究のまとめと発表の準備（2 時間）
11	ジャガイモとヨーロッパ	ジャガイモのルーツや料理についてを調べる。 （1 時間）授業のまとめと確認（1 時間）
12	トマト、パスタとイタリア トウガラシと東アジア	トマトのルーツやイタリアンについてを調べる。（1 時間）授業のまとめと確認（1 時間）
13	小テーマの設定と研究	これまでの授業内容から小テーマを設定し、研究を進める。（2 時間）
14	研究のまとめとディスカッション	研究のまとめと発表の準備（2 時間）
15	後期ガイダンス、卒業研究及びテーマの設定	卒業研究のテーマについて考えておく。（2 時間）
16	テーマの設定（1）	授業のまとめとテーマの絞込み（1 時間）
17	テーマの設定（2）	研究のまとめとテーマの設定（1 時間）
18	研究方法と進め方（1）	研究のまとめと研究計画（1 時間）
19	研究方法と進め方（2）	研究のまとめと執筆（2 時間）
20	論文・参考文献の書き方	研究のまとめと執筆（2 時間）
21	執筆作業と論文指導（1）	研究のまとめと執筆（2 時間）
22	執筆作業と論文指導（2）	研究のまとめと執筆（2 時間）
23	執筆作業と論文指導（3）	研究のまとめと執筆（2 時間）
24	執筆作業と論文指導（4）	研究のまとめと中間発表会の準備（2 時間）
25	中間発表会	中間発表会の準備と研究のまとめ（2 時間）
26	執筆作業と論文指導（5）	研究のまとめと執筆（2 時間）
27	執筆作業と論文指導（6）	研究のまとめと執筆（2 時間）
28	執筆作業と論文指導（7）	研究のまとめと執筆（2 時間）
29	研究発表会	研究のまとめと最終発表会の準備（2 時間）
30	総括・評価	論文のまとめと提出の準備（2 時間）

テキスト	教室でプリント配付（毎時間）。
指定図書	あり（巻末参照）。

科　目　名	卒業研究	担当者	栗森　貢
区　分　等	２年次・通年［演習］４単位　必修／生活文化専攻		
評価基準	到達目標１：グループワーク及び授業に取り組む姿勢（10%） 到達目標２：企業訪問レポートやプレゼンテーションの出来映え(20%) 到達目標３：授業内における研究や発表に取り組む姿勢(20%) 到達目標４：卒業論文と卒業研究発表プレゼンテーション(50%)		
課題に対するフィードバック	提出物等について、適宜コメントして返却する。		
目的	①SDGs(SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALs)について身近なことから関心をもち、基礎知識を身に付ける。 （オリエンテーションを通して、１７の目標と１６９のターゲットを探る） ②秋田県内で「SDGs 達成目標に挑む企業」を数社訪問し、SDG s 目標の進捗状況と成果及び課題を調査し、レポートやプレゼンテーションにまとめてミニ発表会を実施する。 ③世界の国々の深刻な問題に目を向け、グローバルな視点で社会情勢を把握する。 ④「SDGs の認知度を高め、国際貢献や企業経営のためには何が必要か。」を共通テーマとして自分なりに課題を設定し、論文作成やプレゼンテーション資料を作成する。		
到達目標	①SDGs(SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALs)について身近な問題に関心をもち、理解する。(DP1) ②民間企業や行政を取材するために基本的な訪問準備を整え訪問することができる。(DP2・DP3) ③秋田から日本、そして世界へとグローバルな視点で物事を俯瞰して見ることができる。(DP3) ④研究テーマを卒業論文にまとめ上げる過程を大事にし、仮説の立て方、検証データや資料の収集の仕方などを身に付けることができる。(DP2・DP3)		
履修上の注意	特になし		
オフィスアワー	木曜日：5・6限、金曜日：5・6限		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション、授業計画の概要	予習：SDGs(SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALs)についてアンケートに答える。(1時間) 復習：授業計画の説明を聞き、今後の授業の見通しをもつ。(1時間)
2	基礎学習１「10年後、20年後にどんな社会で暮らしていきたいか？」	予習：本時の課題について、自分なりの回答と理由を考えてくる。(1時間) 復習：「2030年の未来を作るのは自分たちだ」という当事者意識をもち、17 の目標が関わり合い、繋がり合うことから、パートナーシップを取り合うことの重要性について考えをまとめる。(1時間)
3	基礎学習２「私たちの身近にどんな課題があるか？（SDGs と関連させて）」①	予習：身近な社会問題や時事問題について考えてくる。(1時間) 復習：貧困、食料問題、温暖化対策、超高齢化社会など、私たちの社会を取り巻く身近な問題について考える。(1時間)
4	基礎学習３「私たちの身近にどんな課題があるか？(SDGs と関連させて)」②【講話①】 ～「3分間意見発表会」開催～ 〈グループワーク〉	予習：3分間意見発表会の準備をする。(1時間) 復習：意見発表会及び講話を聞いて、印象に残ったことをまとめる。(1時間)
5	基礎学習を通して見えてきた課題① ～企業訪問のために～ 〈アポイントメントの取り方指導と実際〉	予習：どんな課題が見えてきたかを考えてくる。(1時間) 復習：企業訪問のための企業選定のきっかけになることを考え、焦点を絞っていく。(1時間)
6	基礎学習を通して見えてきた課題② ～企業訪問のために～ 〈アポイントメントの取り方指導と実際〉	予習：県内の先進的に取り組んでいる企業をリサーチする。(1時間) 復習：訪問企業の選定の目処を付け、アポイントメントを取ってみる。(1時間)
7	秋田県内の「SDGs 達成目標に挑む企業」をチェック＆リサーチをする。①　【講話②】〈グループワーク〉	予習：県内の先進的に取り組んでいる企業をリサーチする。(1時間) 復習：訪問企業の選定の目処を付け、アポイントメントを取る。(1時間)
8	秋田県内の「SDGs 達成目標に挑む企業」をチェック＆リサーチをする。②	予習：県内の先進的に取り組んでいる企業をリサーチする。(1時間) 復習：訪問企業の選定の目処を付け、アポイントメントを取る。(1時間)
9	企業訪問の準備 ～訪問時間や交通手段の確認、質問事項の吟味を行う～	予習：訪問依頼を含めた、訪問の諸準備を整える。(1時間) 復習：訪問計画が万全か確認する。(1時間)
10	企業訪問取材①	予習：訪問取材のために、訪問時間や交通手段、質問事項の確認など万全を期して臨む。(1時間) 復習：訪問時の様子や訪問での質疑応答など忘れないうちに記録にまとめておく。(1時間)

11	企業訪問取材②	予習：訪問取材のために、訪問時間や交通手段、質問事項の確認など万全を期して臨む。(1 時間) 復習：訪問時の様子や訪問での質疑応答など忘れないうちに記録にまとめておく。(1 時間)
12	企業訪問等取材のまとめ① ～訪問記録のまとめとお礼状の作成～	予習：訪問先からの資料や記録などをとりまとめて授業に臨む。(1 時間) 復習：取材を通して得た訪問記録をまとめるとともに、お礼状を書いて発送する準備を行う。(1 時間)
13	企業訪問等取材のまとめ② ～訪問記録のまとめとお礼状の作成～ ～レポート及びプレゼン作成～	予習：訪問先からの資料や記録などをとりまとめて授業に臨む。(1 時間) 復習：お礼状を発送するとともに、レポートやプレゼン方式での発表の目処を立てる。(1 時間)
14	企業訪問等取材のまとめ③ ～レポート及びプレゼン作成～	予習：訪問記録をレポートにまとめるとともに、プレゼン方式の発表会の準備をする。(1 時間) 復習：訪問記録をレポートにまとめるとともに、プレゼン方式の発表会の準備をする。(1 時間)
15	企業訪問発表会を開催する	予習：レポートの提出とプレゼン方式の発表会の準備をする。(1 時間) 復習：企業訪問発表会の感想をまとめ、レポートを提出して前期を終了する。(1 時間)
16	研究テーマの設定① ～後期の授業計画の概要～	予習：後期の授業計画の見通しをもつ。(1 時間) 復習：研究テーマの候補をいくつか準備をする。(1 時間)
17	研究テーマの設定②　【講話③】 〈グループワーク〉	予習：最も関心のあるテーマとその理由を述べられるよう準備する。(1 時間) 復習：講話を聞いた感想やグループワークで考えさせられたことをまとめておく。(1 時間)
18	研究論文作成の構想案①〔構想シートの作成〕	予習：論文の構想案を構想シートに書いて持参する。(1 時間) 復習：研究主題、研究の動機、目的、仮説を検証しておく。(1 時間)
19	研究論文作成の構想案②　〔構想案の決定〕	予習：論文の構想を決定出来るよう準備しておく。(1 時間) 復習：記入出来なかった箇所について検討し完成させておく。(1 時間)
20	手引きを基に論文の書き方を理解する。 ～「論文を書くための手引き」参照～	予習：下書きノートを準備して、論文の構想や下書きを書いておく。(1 時間) 復習：論文作成の手引きを参考に書いてくる。(1 時間)
21	研究論文指導とプレゼンテーション作成指導①	予習：下書きノートを準備して、論文とプレゼンの構想や下書きを書いておく。(1 時間) 復習：研究手段や情報収集の方法を振り返る。(1 時間)
22	研究論文指導とプレゼンテーション作成指導②	予習：下書きノートを準備して、論文とプレゼンの構想や下書きを書いておく。(1 時間) 復習：研究手段や情報収集の方法を振り返る。(1 時間)
23	研究論文指導とプレゼンテーション作成指導③	予習：下書きノートを準備して、論文とプレゼンの構想や下書きを書いておく。(1 時間) 復習：研究手段や情報収集の方法を振り返る。(1 時間)
24	研究論文指導とプレゼンテーション作成指導④	予習：下書きノートを準備して、論文とプレゼンの構想や下書きを書いておく。(1 時間) 復習：研究手段や情報収集の方法振り返る。(1 時間)
25	中間発表会・・・相互批評 〈グループワーク〉	予習：中間発表会の準備を整える。(1 時間) 復習：自分の研究内容や方法を反省し改善する。(1 時間)
26	研究論文指導とプレゼンテーション作成指導⑤	予習：論文を執筆するポイントを確認する。(1 時間) 復習：論文とプレゼンの未完成部分を補足する。(1 時間)
27	研究論文指導とプレゼンテーション作成指導⑥	予習：論文を執筆するポイントを確認する。(1 時間) 復習：論文とプレゼンの未完成部分を補足する。(1 時間)
28	研究論文指導とプレゼンテーション作成指導⑦	予習：論文を執筆するポイントを確認する。(1 時間) 復習：論文とプレゼンの未完成部分を補足する。(1 時間)
29	学内卒業研究発表会リハーサルと卒論・プレゼン資料作成最終段階	予習：論文やプレゼンの完成を目前に、改善点や補足する点を確認する。(1 時間) 復習：(1 時間) 研究論文のまとめと研究発表会の準備
30	ゼミ内卒業研究研究発表会 〈グループワーク〉	予習：研究論文の提出とプレゼン発表の内容を確認する。(1 時間) 復習：研究発表した内容を振り返る。(1 時間)
テキスト	教室でプリント配布（毎時間）	
指定図書	あり（巻末参照）	

科目名	卒業研究	担当者	佐藤邦子
区分等	２年次・通年［演習］４単位　必修／生活文化専攻		
評価基準	①論文（60%）②発表や研究に取り組む姿勢（30%）③グループ討議の参加度合（10%）		
課題に対するフィードバック	課題レポートや発表等を課し、発表の成果やレポートの返却時に評価を付し解説する。		
目的	① 多文化共生社会における生活習慣の違いを理解し、適応のための課題や工夫を学ぶ。 ②フィールドワークや調査を通じて、多文化共生の現場を体験し、卒業研究に活かす。 ③生活文化の専門性を活かし、文化的多様性を尊重した生活支援の方法を考える。		
到達目標	①外国人移住者の現状と課題を理解し、多文化共生の意義を考察できる。(DP1) ②秋田県の生活文化（食・住・地域社会）と外国人移住者の適応の課題を具体的に分析し、解決策を提案できる。(DP2) ③秋田県の行政・地域コミュニティ・企業による多文化共生の取り組みを調査し、地域社会との共生に向けた具体的なアクションプランを立案できる。(DP3)		
履修上の注意	理論学習＋実践（フィールドワーク・インタビュー）＋卒業研究準備を組み合わせ、多文化共生の理解を深めながら研究につなげることを目指す。		
オフィスアワー	（前期）火曜日 15 時～16 時、（後期）金曜日 15 時～16 時		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	導入 - 多文化共生とは何か？	日本の多文化共生に関するニュース記事を読んでおく。(1 時間) 授業のまとめと確認（1 時間）
2	日本における外国人居住者の現状	関連ニュース記事を読んでおく。(1 時間) 授業のまとめと確認（1 時間）
3	多文化共生と生活習慣の違い（1）- 食文化の違い	関連ニュース記事を読んでおく。(1 時間) 授業のまとめと確認（1 時間）
4	多文化共生と生活習慣の違い（2）- 住文化の違い	関連ニュース記事を読んでおく。(1 時間) 授業のまとめと確認（1 時間）
5	多文化共生と生活習慣の違い（3）- コミュニケーションの違い	関連ニュース記事を読んでおく。(1 時間) 授業のまとめと確認（1 時間）
6	多文化共生と子育て・教育	関連ニュース記事を読んでおく。(1 時間) 授業のまとめと確認（1 時間）
7	多文化共生と労働環境	関連ニュース記事を読んでおく。(1 時間) 授業のまとめと確認（1 時間）
8	フィールドワーク準備	フォールドワークにける調査方法を調べておく。(2 時間)
9	フィールドワーク（実施）	関連機関や外国人を調査訪問する（2 時間）
10	フィールドワークの振り返り	フィールドワークの気づきと整理をする（2 時間）
11	多文化共生のための支援策（行政・NPO の事例）	関連ニュース記事を読んでおく。(1 時間) 授業のまとめと確認（1 時間）
12	多文化共生と防災	関連ニュース記事を読んでおく。(1 時間) 授業のまとめと確認（1 時間）
13	小テーマの設定と研究（個人ワーク）	これまでの授業内容から小テーマを設定し、研究を進める。(2 時間)
14	卒業研究計画の発表（グループワーク）	具体的な調査方法と発表の準備（2 時間）
15	後期ガイダンス、卒業研究及びテーマの設定	授業のまとめと研究の見通し（2 時間）
16	テーマの設定（1）	授業のまとめとテーマの絞込み（1 時間）
17	テーマの設定（2）	研究のまとめとテーマの設定（1 時間）
18	研究方法と進め方（1）	研究のまとめと研究計画（1 時間）
19	研究方法と進め方（2）	研究のまとめと執筆（2 時間）
20	論文・参考文献の書き方	研究のまとめと執筆（2 時間）
21	執筆作業と論文指導（1）	研究のまとめと執筆（2 時間）
22	執筆作業と論文指導（2）	研究のまとめと執筆（2 時間）
23	執筆作業と論文指導（3）	研究のまとめと執筆（2 時間）
24	執筆作業と論文指導（4）	研究のまとめと中間発表会の準備（2 時間）
25	中間発表会	中間発表会の準備と研究のまとめ（2 時間）
26	執筆作業と論文指導（5）	研究のまとめと執筆（2 時間）
27	執筆作業と論文指導（6）	研究のまとめと執筆（2 時間）
28	執筆作業と論文指導（7）	研究のまとめと執筆（2 時間）
29	研究発表会	研究のまとめと最終発表会の準備（2 時間）
30	総括・評価	論文のまとめと提出の準備（2 時間）

テキスト	教室でプリント配付（毎時間）。
指定図書	なし

科　目　名	**卒業研究**	担当者	近藤清兄
区　分　等	２年次・通年［演習］４単位　必修／生活文化専攻		
評価基準	(1) 小論文(前期は評価なし)(70%) (2) 授業態度(20%) (3) 提出物等(10%)		
課題に対するフィードバック	課題はコメントを付けた上で返却する。また随時助言・提案を行う。		
目　　的	「方言の調査と記録」を通じて、ことばの科学を追求する。		
到達目標	秋田の方言をローマ字(近藤式「無補助記号型」で表記することを学び(DP1)、それによる記録資料(ローマ字本文・標準語訳・解説)を作成できるようになる。(DP2)		
履修上の注意	②　電子メールでのレポート・草稿等の提出を求めることがある。 ③　小論文の要旨を別途指示する〆切までに提出すること(『要旨集』掲載用原稿)。 ④　卒業研究発表会のための発表原稿を別途作成し、口頭発表する。		
オフィスアワー	火 12 時限、金 78 時限		

	授業計画	**準備学習（予習・復習）の内容および、時間**
1	ローマ字と音韻(1)母音と子音	方言ローマ字表記法に、プリントの練習問題を通じてよく習熟すること。
2	ローマ字と音韻(2)アクセント	
3	ローマ字と音韻(3)	上記以外に指定図書、教室で指示する文献等を読む。
4	ローマ字と音韻(4)	
5	動詞(1) Ｉ類(1)イテ系・イデ系	
6	動詞(2) Ｉ類(2)ッテ系	
7	動詞(3) Ｉ類(3)ンデ系・シテ系	
8	動詞(4) II 類{2}・{3+}/不規則動詞	
9	動詞(5) 助動詞(1)使役・受身	
10	動詞(6) 助動詞(2)否定・完了	
11	終助詞構造とその外側	
12	『日本言語地図』の中の秋田(1)	
13	『日本言語地図』の中の秋田(2)	
14	『日本言語地図』の中の秋田(3)	
15	執筆のガイドライン	
16	テーマ選定について(1)	
17	テーマ選定について(2)	
18	テーマ選定について(3)	
19	執筆作業(1)	
20	執筆作業(2)	
21	執筆作業(3)	
22	執筆作業(4)	
23	執筆作業(5)	
24	執筆作業(6)	
25	執筆作業(7)	
26	執筆作業(8)	
27	中間発表会	
28	執筆作業(9)	
29	執筆作業(10)	
30	卒業研究発表会	

テキスト	教室でプリント配付
指定図書	あり(巻末参照)

科目名	卒業研究	担当者	米山修司
区分等	２年次・通年［演習］４単位　必修／生活文化専攻		
評価基準	① 調べ学習の成果発表(30%)　② 研究進捗報告(30%)　③ 成果物作成(40%)		
課題に対するフィードバック	授業時に直接フィードバックを行う。		
目的	①　自然言語（日本語など、人間が日常的に使用している言語）をコンピュータ上で処理する技術である「自然言語処理」について、理解を深める。 ②　自らの学習成果・研究成果を論理的に報告・発表する能力を養う。 ③　自らが興味のある研究テーマを設定し、教員の指導のもと、その成果をまとめる。		
到達目標	①　基本的な「自然言語処理」に関する知識を身に着ける。(DP1) ②　進捗報告や研究発表を通して、自らの学習成果・研究成果を説明する能力を身に着ける。(DP2) ③　研究を通して、研究テーマに関する課題を見つけ、それを解決する能力を身に着ける。(DP3)		
履修上の注意	①　「Python Ⅰ」の単位を取得済みであることが必要。「Python Ⅰ」を履修していない場合でも、それと同程度のプログラミングを自主的に学習可能と認められる学生については、本卒業研究の選択を特別に認める場合がある。その際は、配属希望調査の提出前に担当教員への事前相談が必要。 ②　「Python Ⅱ」を履修することが望ましい。 ③　グループ活動が多く存在する。グループ活動では、協調性のある行動が求められる。 ④　授業外で多くの活動を必要とする。授業終了後にも活動することが想定されるため、「卒業研究」の直後のコマは、特段の事情が無い限り空きコマにしておくことが望ましい。 ⑤　年に一度、オープンキャンパスにおける高校生向け体験授業に学生スタッフとして参加することを求める。ただし、やむを得ない事情により出席できない場合は、この限りではない。		
オフィスアワー	金曜日　14:45～16:15		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション、「自然言語処理」とは	予習：不要　　復習：講義の復習(2時間)
2	調べ学習の成果発表：かな漢字変換・情報検索 DVD視聴：かな漢字変換の歴史	予習：調べ学習 復習：講義の復習(2時間)
3	調べ学習の成果発表：機械翻訳・対話システム プログラミング演習：Google Colaboratory・文字列の操作	予習：調べ学習 復習：講義の復習(2時間)
4	調べ学習の成果発表：正規表現・コーパス プログラミング演習：ファイル処理	予習：調べ学習 復習：講義の復習(2時間)
5	調べ学習の成果発表：オントロジー・シソーラス プログラミング演習：オントロジー・シソーラス	予習：調べ学習 復習：講義の復習(2時間)
6	調べ学習の成果発表：形態素解析・係り受け解析 プログラミング演習：形態素解析・係り受け解析	予習：調べ学習 復習：講義の復習(2時間)
7	調べ学習の成果発表：ワードクラウド・単語分散表現 プログラミング演習：ワードクラウド・単語分散表現	予習：調べ学習 復習：講義の復習(2時間)
8	調べ学習の成果発表：大規模言語モデル・生成AI プログラミング演習：大規模言語モデル・生成AI	予習：調べ学習 復習：講義の復習(2時間)
9	グループディスカッション：研究テーマ検討①	予習・復習：研究テーマの検討(2時間)
10	グループディスカッション：研究テーマ検討②	予習・復習：研究テーマの検討(2時間)
11	研究テーマ案発表	予習：研究テーマの検討(2時間)　　復習：不要
12	研究進捗報告(1)	予習・復習：調査 / 研究 / 成果物作成(2時間)
13	研究進捗報告(2)	予習・復習：調査 / 研究 / 成果物作成(2時間)
14	研究進捗報告(3)	予習・復習：調査 / 研究 / 成果物作成(2時間)
15	研究進捗報告(4)	予習・復習：調査 / 研究 / 成果物作成(2時間)
16	研究進捗報告(5)	予習・復習：調査 / 研究 / 成果物作成(2時間)
17	研究進捗報告(6)	予習・復習：調査 / 研究 / 成果物作成(2時間)
18	研究進捗報告(7)	予習・復習：調査 / 研究 / 成果物作成(2時間)
19	研究進捗報告(8)	予習・復習：調査 / 研究 / 成果物作成(2時間)
20	研究進捗報告(9)	予習・復習：調査 / 研究 / 成果物作成(2時間)
21	研究進捗報告(10)	予習・復習：調査 / 研究 / 成果物作成(2時間)
22	研究進捗報告(11)	予習・復習：調査 / 研究 / 成果物作成(2時間)
23	研究進捗報告(12)	予習・復習：調査 / 研究 / 成果物作成(2時間)
24	研究進捗報告(13)	予習・復習：調査 / 研究 / 成果物作成(2時間)
25	研究進捗報告(14)	予習・復習：調査 / 研究 / 成果物作成(2時間)
26	研究進捗報告(15)	予習・復習：調査 / 研究 / 成果物作成(2時間)
27	研究進捗報告(16)	予習・復習：調査 / 研究 / 成果物作成(2時間)
28	研究進捗報告(17)	予習・復習：調査 / 研究 / 成果物作成(2時間)
29	研究進捗報告(18)	予習・復習：調査 / 研究 / 成果物作成(2時間)
30	研究進捗報告(19)	予習：調査 / 研究 / 成果物作成(1時間) 復習：卒業研究発表会に向けた最終調整(1時間)

テキスト	森重湧太『一生使える　見やすい資料のデザイン入門　完全版』(インプレス)
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	**卒業研究**	担当者	Rachel Youngblood
区　分　等	２年次・通年［演習］４単位　必修／生活文化専攻		
評価基準	Classroom Discussion (30%) Research & Analysis (20%) Interviews (20%) Instagram (10%) Blog (20%)		
課題に対するフィードバック	Discussion comments and feedback during class will support students as they explore different topics. Feedback will also be given on work as needed.		
目　　的	This course aims to disseminate Akita's food culture to global audiences through highlighting, researching, and analyzing important aspects of food culture from a variety of perspectives, such as first person narratives, and utilizing popular online platforms.		
到達目標	Students will utilize critical thinking skills to discuss and analyze Japanese food through local and national focuses on customs, family, gender, memory, media and marketing, global fusion, and cultural exchange.		
履修上の注意	None		
オフィスアワー	"OPEN" sign or by appointment		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	Introduction to course & Food Culture	Materials 復習, Research & Analysis 予習 (2 hours)
2	Japanese Food & World/Washoku	Materials 復習, Research & Analysis 予習 (2 hours)
3	Japanese Food & Regions I	Materials 復習, Research & Analysis 予習 (2 hours)
4	Japanese Food & Regions II	Materials 復習, Research & Analysis 予習 (2 hours)
5	Japanese Food & Memory I	Materials 復習, Research & Analysis 予習 (2 hours)
6	Japanese Food & Memory II, Interview 1 (Family)	Materials 復習, Interview & Analysis 予習 (2 hours)
7	Blog Introduction & Preparation	Review & Preparation (2 hours)
8	Japanese Food & Community	Materials 復習, Research & Analysis 予習 (2 hours)
9	Japanese Food & Gender	Materials 復習, Research & Analysis 予習 (2 hours)
10	Japanese Food & Industry I	Materials 復習, Research & Analysis 予習 (2 hours)
11	Japanese Food & Industry II	Materials 復習, Research & Analysis 予習 (2 hours)
12	Interview II (Restaurant)	Materials 復習, Interview & Analysis 予習 (2 hours)
13	Japanese Food & Industry III	Materials 復習, Research & Analysis 予習 (2 hours)
14	Interiew III (Peer Festival)	Materials 復習, Interview & Analysis 予習 (2 hours)
15	Blog Preparation & Instagram	Review & Preparation (2 hours)
16	Blog Preparation & Instragram	Review & Preparation (2 hours)
17	Japanese Food & Customs I	Materials 復習, Research & Analysis 予習 (2 hours)
18	Japanese Food & Customs II	Materials 復習, Research & Analysis 予習 (2 hours)
19	Interview VI (Food Specialist)	Materials 復習, Interview & Analysis 予習 (2 hours)
20	Blog & Instagram Preparation	Review & Preparation (2 hours)
21	Japanese Food & Globalization I	Materials 復習, Research & Analysis 予習 (2 hours)
22	Japanese Food & Globalization II	Materials 復習, Research & Analysis 予習 (2 hours)
23	Japanese Food & Globalization III	Materials 復習, Research & Analysis 予習 (2 hours)
24	Interview IV (Foreigners)	Materials 復習, Interview & Analysis 予習 (2 hours)
25	Blog & Instagram Preparation	Review & Preparation (2 hours)
26	Blog & Instagram Preparation	Review & Preparation (2 hours)
27	Presenataion Preparation	Review & Preparation (2 hours)
28	Presentation Preparation	Review & Preparation (2 hours)
29	Presentation Preparation	Review & Preparation (2 hours)
30	Blog & Instagram Final Review	Final Analysis 予習 (2 hours)

テキスト	Materials will be provided in class.
指定図書	None

目　　名	**卒業研究**	担当者	周　業欣
区　分　等	２年次・通年［演習］４単位・必修／生活文化専攻		
評価基準	①平常点(20%)、②授業中のプレゼンテーション(40%)、③卒業作品（40%)		
課題に対するフィードバック	研究の進行に応じて、適宜アドバイスを行う。 制作された作品や発表資料に対して評価を行い、それを返却する。		
目　　的	本授業では、映像制作を通じて、表現力や技術力を磨きながら、自己の創造性を発揮することを目的とする。学生は、企画、撮影、編集の一連のプロセスを実践的に学び、映像表現に必要な基礎知識とスキルを習得する。また、テーマの設定や物語の構成を通じて、映像作品における伝達力や説得力を向上させる。さらに、映像を制作する中で課題を発見し解決する力を養い、個人としての創造性の発展に加え、グループワークを通じたコミュニケーション力や協働力も育む。卒業研究として、自身の研究テーマに基づくオリジナル映像作品を完成させ、最終的にプレゼンテーションを行うことで、実践的なスキルと発信力を身につけることを目指す。これにより、映像を通じて自己の考えを形にする力を育むとともに、社会で活躍するための実践的能力を養成する。		
到達目標	1）映像制作の基礎的な技術（企画、撮影、編集）を習得し、映像表現を実践的に活用できる。自ら設定したテーマに基づき、映像作品を構想・制作する力を身につける。また、映像表現を通じて、効果的にメッセージを伝える構成力や説得力を養う。（DP1、DP2） 2）制作プロセスを通じて、自己の創造性を発揮し、課題解決力やチームワーク力を高める。制作した映像作品を発表し、批評を受けることで、表現内容や技術を客観的に評価・改善する力を身につける。（DP2、DP3） 3）学生の個性と社会性の両立を実現し、創造性豊かな思想や表現力を確立する。（DP3）		
履修上の注意	卒業制作研究前期成果の提出、およびプレゼンてテンションに参加しない場合は、評価の対象とならない。 卒業制作の提出、プレゼンテーションがない場合は、評価の対象とならない。 書類や作品の提出期限は厳守。		
オフィスアワー	授業の前後 10 分間		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション、授業計画の概要	授業内容のまとめと確認(1時間)
2	映像の基礎（1） カメラ、映像技術の仕組み	授業内容の復習（1 時間）
3	映像の基礎（2） フレーミング、コマの構成、カメラの動き	授業内容の復習（1 時間）
4	撮影の基礎（1） カメラの基礎知識、撮影の基本手順、撮影のコツ	授業内容の復習（1 時間）
5	撮影の基礎（2） ドローンによる撮影	授業内容の復習（1 時間）
6	撮影の基礎（3） ジンバルの使い方	授業内容の復習（1 時間）
7	映画の構成と表現技法について（1） カメラワーク、ライティング、色彩	授業内容の復習（1 時間）
8	映画の構成と表現技法について（2） 三幕構成、視覚効果	授業内容の復習（1 時間）
9	編集の基礎（1） 動画編集ソフトの使い方、編集の基本工程	授業内容の復習（1 時間）
10	編集の基礎（2） テキストとグラフィック、音声編集の基礎	授業内容の復習（1 時間）
11	絵コンテンと字コンテンの作成	授業内容の復習（1 時間）
12	練習課題（ショートムービーの制作実習1)	授業内容の復習と練習課題の完成(1時間)
13	練習課題（ショートムービーの制作実習 2)	授業内容の復習と練習課題の完成(1 時間)

14	練習課題（ショートムービーの制作実習3)	授業内容の復習と練習課題の完成(1時間)
15	前期の研究成果をまとめ、口頭発表を行う。	研究テーマを決定する準備をする（1時間)
16	後期ガイダンス、卒業研究及びテーマの設定	進め方の説明に沿った計画準備（2時間)
17	卒制展展示計画書	テーマに関する調べ学習（2時間)
18	進捗状況の確認と発表(1)	テーマに関する調べ学習（2時間)
19	作品制作	テーマに関する調べ学習（2時間)
20	作品制作	テーマに関する調べ学習・作品制作（2時間)
21	作品制作	テーマに関する調べ学習・作品制作（2時間)
22	進捗状況の確認（2)	テーマに関する調べ学習・作品制作（2時間)
23	作品制作	テーマに関する調べ学習・作品制作（2時間)
24	作品制作	テーマに関する調べ学習・作品制作（2時間)
25	作品制作	テーマに関する調べ学習・作品制作（2時間)
26	進捗状況の確認（3)	テーマに関する調べ学習・作品制作（2時間)
27	作品制作	テーマに関する調べ学習・作品制作（2時間)
28	作品制作	テーマに関する調べ学習・作品制作（2時間)
29	作品制作	研究発表準備（2時間)
30	総括・評価、研究発表	まとめと振り返り（2時間)

テキスト	適宜、資料を配布
指定図書	あり(巻末参照)

科　目　名	Basic English Skills Ⅲ	担当者	近藤清兄
区　分　等	２年次・前期［演習］１単位　選択／生活文化専攻		
評価基準	(1)定期試験(70%) (2)授業態度(30%)		
課題に対するフィードバック	課題はコメントを付けた上で返却する。随時助言・提案を行う。		
目　的	読み、書き、話し、聞くための基本的な英語力：(1)「辞書があればまあまあ読める」程度の読解力・文法力　(2)「言いたいことを箇条書きに分解」して簡潔に正しく伝え、誤解や失礼のないように配慮するコミュニケーション能力　(3)「自分の日常のものごと」を大体英語に置き換えられる程度の単語力(高卒・2500語+α程度)、を養成します。漫画 *Peanuts* と関連するテーマの文章を読み、練習問題を考えます。また、英語圏の文化的背景についても解説します。		
到達目標	各課のテーマ動詞(make、give、run、come、get、take)の基本的意味を理解し、それを用いた日常的表現に習熟し、実際に運用できるようになる。(DP1)		
履修上の注意	毎回かなりの量の予習が必要ですから、いささかきついですが、がんばって学習しましょう。		
オフィスアワー	火曜日９時～10時35分、金曜日14時45分～16時15分		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション	(1)[予習]Guess the words, Everyday Expressionsを調べる。 (2)[予習]Reading(長文):1語ずつ頭から訳したりせず、必ず「句単位」「節単位」のかたまりで捉えてください。文中の動詞にすべてマーカーを引いてみましょう。文の流れがよくわかります。 (3)[復習]Listen and Repeat,Listen and Writeは最も重要です。
2	Lesson 1 Body Language(1) 【make】	上記以外に指定図書、教室で指示する文献等を読む。
3	Lesson 1 Body Language(2) 【make】	
4	Lesson 2 Psychiatry Stand(1) 【give】	
5	Lesson 2 Psychiatry Stand(2) 【give】	
6	Lesson 3 Friends Forever(1) 【run】	
7	Lesson 3 Friends Forever(2) 【run】	
8	Lesson 4 Peanuts as a Social Group(1) 【come】	
9	Lesson 4 Peanuts as a Social Group(2) 【come】	
10	Lesson 5 Music Lover(1)【get】	
11	Lesson 5 Music Lover(2)【get】	
12	Lesson 6 Girls in Peanuts(1)【take】	
13	Lesson 6 Girls in Peanuts(2)【take】	
14	復習(Lesson 1-3)	
15	復習(Lesson 4-6)	

テキスト	Haruko Toyama:“*Enjoy English with Charlie Brown and Friends*”<Revised Edition>(Nan'un-do)
指定図書	あり(巻末参照)

科　目　名	Basic English Skills Ⅳ	担当者	近藤清兒
区　分　等	２年次・後期［演習］１単位　選択／生活文化専攻		
評価基準	(1)定期試験(70%) (2)授業態度(30%)		
課題に対するフィードバック	課題はコメントを付けた上で返却する。随時助言・提案を行う。		
目　的	読み、書き、話し、聞くための基本的な英語力：(1)「辞書があればまあまあ読める」程度の読解力・文法力　(2)「言いたいことを箇条書きに分解」して簡潔に正しく伝え、誤解や失礼のないように配慮するコミュニケーション能力　(3)「自分の日常のものごと」を大体英語に置き換えられる程度の単語力(高卒・2500 語+α程度)、を養成します。漫画 *Peanuts* と関連するテーマの文章を読み、練習問題を考えます。また、英語圏の文化的背景についても解説します。		
到達目標	各課のテーマ動詞(put、set、see、turn、do、go)の基本的意味を理解し、それを用いた日常的表現に習熟し、実際に運用できるようになる。(DP1)		
履修上の注意	毎回かなりの量の予習が必要ですから、いささかきついですが、がんばって学習しましょう。		
オフィスアワー	火曜日 9 時～10 時 35 分、金曜日 14 時 45 分～16 時 15 分		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	Lesson 7 Sally and her Legal Beagle(1)【put】	(1)[予習]Guess the words, Everyday Expressions を調べる。 (2)[予習]Reading(長文):1 語ずつ頭から訳したりせず、必ず「句単位」「節単位」のかたまりで捉えてください。文中の動詞にすべてマーカーを引いてみましょう。文の流れがよくわかります。 (3)[復習]Listen and Repeat,Listen and Write は最も重要です。
2	Lesson 7 Sally and her Legal Beagle(2)【put】	上記以外に指定図書、教室で指示する文献等を読む。
3	Lesson 8 Linus'Blanket(1)【set】	
4	Lesson 8 Linus'Blanket(2)【set】	
5	Lesson 9 Crabby Lucy(1)【see】	
6	Lesson 9 Crabby Lucy(2)【see】	
7	Lesson 10 Religion and Faith(1)【turn】	
8	Lesson 10 Religion and Faith(2)【turn】	
9	Lesson 11 Valentine's Day(1)【do】	
10	Lesson 11 Valentine's Day(2)【do】	
11	Lesson 13 The Life and Work of Charles Schulz(1)【go】	
12	Lesson 13 The Life and Work of Charles Schulz(2)【go】[完結]	
13	復習(Lesson7-8)	
14	復習(Lesson9-10)	
15	復習(Lesson11,13)	

テキスト	Haruko Toyama:“*Enjoy English with Charlie Brown and Friends*”<Revised Edition>(Nan'un-do)
指定図書	あり(巻末参照)

科　目　名	Oral Communication Ⅲ	担当者	Rachel Youngblood
区　分　等	２年次・前期［演習］１単位　選択／生活文化専攻		
評価基準	Classroom participation (50%) Homework (Audio Reflection) (30%) Audio Essay (20%)		
課題に対するフィードバック	Comments, suggestions, and feedback will be given vocally during class or commented as needed on homework.		
目　　的	The aim of this course is to continue building and strengthening students' oral communication skills in English.		
到達目標	Students will utilize speaking, listening, reading, and writing skills in analyzing common situations and conversations towards developing, deepening, and sharing their own ideas and opinions,		
履修上の注意	Students must have previously completed "Oral Communication I and II".		
オフィスアワー	To be announced		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	Introdcution to the course, Scene 1: What made you who you are?	Unit 1 + Audio Reflection 復習, Unit 2 予習 (1.5 hours)
2	Scene 2: What is good about you?	Unit 2 + Audio Reflection 復習, Unit 3 予習 (1.5 hours)
3	Scene 3: Can you tell me about music?	Unit 3 + Audio Reflection 復習, Unit 4 予習 (1.5 hours)
4	Scene 4: When do you ask for advice?	Unit 4 + Audio Reflection 復習, Unit 5 予習 (1.5 hours)
5	Scene 5: Are you easy to live with?	Unit 5 + Audio Reflection 復習, Unit 6 予習 (1.5 hours)
6	Scene 6: What is your type?	Unit 6 + Audio Reflection 復習, Unit 7 予習 (1.5 hours)
7	Scene 7: How do you feel about compliments?	Unit 7 + Audio Reflection 復習, Unit 8 予習 (1.5 hours)
8	Scene 8: Do you like me?!	Unit 8 + Audio Reflection 復習, Unit 9 予習 (1.5 hours)
9	Scene 9: Can you guess?	Unit 9 + Audio Reflection 復習, Unit 10 予習 (1.5 hours)
10	Scene 10: Can we work it out?	Unit 10 + Audio Reflection 復習, Unit 11 予習 (1.5 hours)
11	Scene 11: How do you describe events?	Unit 11 + Audio Reflection 復習, Unit 12 予習 (1.5 hours)
12	Scene 12: What are you int?	Unit 12 + Audio Reflection 復習, Unit 13 予習 (1.5 hours)
13	Scene 13: How do you help a friend?	Unit 13 + Audio Reflection 復習, Unit 14 予習 (1.5 hours)
14	Scene 14: What are you talking about?	Unit 14 + Audio Reflection 復習
15	Scene 15: Can you tell me a story?, Audio Essay Preparation	Unit 1-15 復習

テキスト	Todd Rucynski "Finding Connections" (Kinseido)
指定図書	None

科　目　名	Oral Communication Ⅳ	担当者	Rachel Youngblood
区　分　等	２年次・後期［演習］１単位　選択／生活文化専攻		
評価基準	Classroom Participation (50%) Homework (15%) Discussions (20%) Final Discussion (15%)		
課題に対するフィードバック	Comments, suggestions, and feedback will be given vocally during class or commented as needed on homework.		
目　　的	The aim of this course is to continue to build and strengthen students' oral communication skills in English.		
到達目標	Students will be able to utilize critical thinking skills to clearly communicate a variety of ideas, with examples and information, in English.		
履修上の注意	Students must have previously taken "Oral Communication I, II, and Ⅲ".		
オフィスアワー	To be announced		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	Introduction to the course, Unit 1: The Last Chance for a First Impression	Previous Unit 復習, Upcoming Unit 予習 (2 hours)
2	Unit 2: Why Learn English?	Previous Unit 復習, Upcoming Unit 予習 (2 hours)
3	Unit 3: Focus on Photography, Mini Discussion 1	Previous Unit 復習, Upcoming Unit 予習 (2 hours)
4	Unit 4: Gender Inequality in Japan	Previous Unit 復習, Upcoming Unit 予習 (2 hours)
5	Unit 5: Social Media & the Internet	Previous Unit 復習, Upcoming Unit 予習 (2 hours)
6	Unit 6: Indigenous Peoples of the World, Mini Discussion 2	Previous Unit 復習, Upcoming Unit 予習 (2 hours)
7	Unit 7: Great People in History	Previous Unit 復習, Upcoming Unit 予習 (2 hours)
8	Unit 8: The Road Less (or More) Traveled	Previous Unit 復習, Upcoming Unit 予習 (2 hours)
9	Unit 9: The Culture of Food, Mini Discussion 3	Previous Unit 復習, Upcoming Unit 予習 (2 hours)
10	Unit 10: Freedom & Responsibility	Previous Unit 復習, Upcoming Unit 予習 (2 hours)
11	Unit 11: Love One, Love All	Previous Unit 復習, Upcoming Unit 予習 (2 hours)
12	Unit 12: Money, Finance, Dollars and Sense, Mini Discussion 4	Previous Unit 復習, Upcoming Unit 予習 (2 hours)
13	Unit 13: Careers: Nice Job!	Previous Unit 復習, Upcoming Unit 予習 (2 hours)
14	Unit 14: Across the Universe, Fianl Discussion Preparation	Previous Unit 復習, Upcoming Unit 予習 (2 hours)
15	Final Discussion	14 Units 復習

テキスト	Jono David "What's That You Say" (Nan'un-do)
指定図書	None

科　目　名	TOEFL Ⅱ	担当者	菅野　薫
区　分　等	２年次・前期［演習］１単位　選択／生活文化専攻		
評価基準	学習態度（30%）、宿題(30%)、レポート(20%)、スピーチ・ディスカッション（20%）。		
課題に対するフィードバック	随時、提出課題へはフィードバックをし返却をする。		
目　　的	TOEFL（Test of English as a Foreign Language）は海外の大学への留学や国内の編入学に必要な試験である。リスニング、リーディングのみならず、自分の意見を論じる技術も必要とされることから授業を通じて社会問題などの教養を育み、自分の意見をまとめ、述べる力を養成する。		
到達目標	リスニング　：シーンを思い浮かべて要旨を捉えられるようになる。 リーディング：英文を読んで歴史や社会情勢についての大意を掴められるようになる。 ライティング：自分の主張を論理的に書き表せるようになる。 （日本語、英語ともに） スピーキング：人前で話すときの立ち居振る舞いを身につける。 このような技能を通じて総合的な語学力を身に付ける。また、世の中で起きている出来事に関心を持ち、自分の意見を主張できるグローバル人材としてのスキルを身につけることを目標とする。 （DP1, DP2, DP3）		
履修上の注意	実際の TOEFL は非常にレベルの高い試験ですが、まずは科目としての英語ではなく、コミュニケーションツールとしての英語力を身に付けるような気持ちで受講してください。		
オフィスアワー	木曜日　11 時～13 時 05 分		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション・実力診断（日本語エッセイ）・目標設定	授業の振り返り（1 時間）
2	前回の振り返り、エッセイについてのディスカッション	日本語エッセイの文章の修正（1 時間）
3	AI 翻訳を利用した英訳の実践	エッセイの英訳（1 時間）
4	英訳エッセイの発表・Topic 6	授業の振り返り(0.4 時間)・次項目予習(0.6 時間)
5	Topic 7・映画鑑賞（戦争と平和について）	授業の振り返り（1 時間）
6	映画鑑賞（戦争と平和について）	レポート作成（1 時間）
7	平和な社会構築についてディスカッション	授業の振り返り(0.4 時間)・次項目予習(0.6 時間)
8	英文ニュース記事リーディング・ディスカッション Topic 8・9	授業の振り返り(0.4 時間)・次項目予習(0.6 時間)
9	Topic 10・11・洋画鑑賞前プリント	授業の振り返り（1 時間）
10	洋画鑑賞(文化学習・リスニング・ディクテーション練習)	鑑賞前プリントの復習（1 時間）
11	洋画鑑賞(文化学習・リスニング・ディクテーション練習)	授業の振り返り(0.4 時間)・次項目予習(0.6 時間)
12	洋画鑑賞(文化学習・リスニング・ディクテーション練習)・スピーチ項目の決定	鑑賞レポート(0.3 時間)・スピーチ原稿の作成（0.4 時間)・次項目予習(0.3 時間)
13	Topic 12・13、スピーチ準備	鑑賞レポート作成(0.3 時間)・スピーチ練習(0.3 時間)・次項目予習(0.4 時間)
14	Topic 14・15、スピーチ準備	鑑賞レポート作成(0.5 時間)・スピーチ練習(0.5 時間)
15	スピーチ発表・講評	これまでの反省と復習（1 時間）

テキスト	Paul Underwood, Miyako Nakaya『CLIL Writng about Global Relations』(三修社) TOEFL Ⅰと同じです。主に授業ではテキストやプリントを配付して進めていきます。必要に応じて授業中に数冊紹介し、受講生にとって最も使いやすいものを相談しながら選定することもあります。
指定図書	あり（巻末参照)。 授業中に紹介します。

※実務経験のある教員による授業科目の担当教員の実務経験および、教育内容

実務経験：行政機関にて通訳･翻訳業務に携わる。

教育内容：リスニングやリーディングのみならず、自分の意見を述べる力を身につける。
ディスカッションやスピーチを通して総合的な語学を実践的に学ぶ。

科　目　名	Essay and Speech	担当者	菅野　薫
区　分　等	２年次・後期［演習］１単位　選択／生活文化専攻		
評価基準	授業への参加態度（50%）、宿題(30%)、最終プレゼンテーション（20%）		
課題に対するフィードバック	随時、提出課題へはフィードバックをし返却をする。		
目　的	社会に出ると自分の考えを相手にわかりやすく伝える力―話す力、説明し、表現する力が必要不可欠である。英語で表現する力をつける際も母語のスキルを上達させることが大切であることから、プレゼンテーション法の学びを通して総合的な言葉の表現力を身に付ける。		
到達目標	英語でのコミュニケーションへ自信をつけてもらうことはもちろんだが、母語による考えの組み立て方の部分から指導していくので英語や母語の表現力が身につくことが望まれる。また身近な話題から社会問題まで幅広い題材を扱うことで社会人としての必要な知識と教養を養うことができる。当科目での最終目標は英語で自分の意見を書いたり伝えたりできるようになることだが、最低限、日本語でこのようなことができるスキルを身につける。さらに、自動翻訳機を利用した英訳の方法についても学んでいく。 （DP1, DP2, DP3）		
履修上の注意	履修する学生の英語レベルに応じた指導をしますが、英語でプレゼンテーションができるようになることを目標としていますので英語を話したい学生は受講して下さい。（TOEFL I・II を受講することが望まれます。）また、スライドを使ったプレゼンテーションを行う機会がありますので、パワーポイントの簡単な操作はできることが望まれます。 最終プレゼンテーションでは１人７分程度の英語のスピーチをしてもらう予定です。		
オフィスアワー	木曜日　11 時～13 時 05 分		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション・What Is a Presentation？・自動翻訳機を利用した英訳について	授業の復習(0.4 時間)・Pre-Unit・Phase 1-Unit 1 予習(0.6 時間)
2	Pre-Unit・Unit 1（プレゼンの構成）	授業の復習(0.4 時間)・Unit 2・3 予習(0.6 時間)
3	Unit 2・3、Mission 1（プレゼンの構成）	授業の復習(0.4 時間)・Misshon１準備(0.6 時間)
4	Mission 1・Unit 4・5（スライドの作り方）	授業の復習(0.4 時間)・Unit 6 予習(0.6 時間)
5	Unit4・5・6、Mission 2（スライドの作り方）	授業の復習(0.4 時間)・Unit 7・8 予習(0.6 時間)
6	Unit 7・8（話し方）	授業の復習(0.4 時間)・Unit 9・Mission 3 予習(0.6 時間)
7	Unit 9・Mission 3（話し方）	授業の復習（1 時間）
8	プレゼン構成・スライドの作り方・話し方総復習	授業の復習(0.4 時間)・Unit 10 予習(0.6 時間)
9	Unit 10・実践準備	授業の復習(0.4 時間)・プレゼン練習(0.6 時間)
10	プレゼンテーション発表・反省・Unit 11（どう修正するか）	授業の復習(0.4 時間)・原稿等修正・Unit 11(0.6 時間)
11	修正版プレゼンテーション発表・Q&A	授業の復習(0.4 時間)・Unit 12 予習(0.6 時間)
12	Unit 12・即興スピーチ・Q&A	授業の復習(0.4 時間)・プレゼン準備(0.6 時間)
13	プレゼンテーション発表・Q&A・フィードバック	プレゼンの振り返り(0.4 時間)・プレゼン修正(0.6 時間)
14	修正版プレゼンテーションの確認・Q&A	プレゼンの振り返り(0.4 時間)・最終プレゼン準備(0.6 時間)
15	総復習・最終プレゼンテーションの確認	最終プレゼン練習準備（1 時間）

テキスト	JACET 関西支部教材開発研究会著『新・英語でプレゼンテーション』（三修社） 必要に応じて適宜プリントを用意して進めます。
指定図書	あり（巻末参照）。 授業中に紹介します。

※実務経験のある教員による授業科目の担当教員の実務経験および、教育内容

実務経験：行政機関にて通訳･翻訳業務に携わる。

教育内容：英語での会話を中心に、決められたトピックに関して時間内で組み立てて話すディスカッションやスピーチ等による実践形式の学習内容で総合的な言葉の表現力を身につける。

科　目　名	**ドイツ語Ⅲ**	担当者	横溝眞理
区　分　等	２年次・前期［演習］２単位　選択／生活文化専攻		
評価基準	①定期試験(80%) ②授業毎の課題(20%)		
課題に対するフィードバック	課題は添削して返却する。		
目　　的	１年次で学習した大まかなドイツ語の知識を確認しながら、中級用の教科書を使用し、ドイツ語運用能力を向上させる。		
到達目標	①関係詞、完了時制、再帰表現、助動詞など、１年次で学習した文法項目を復習しながら、とくに副文の構造について理解を深める。(DP1) ②聴き取り練習を毎回行って、聴解力を向上させる。(DP1) ③観光案内所、ホテル、レストラン、デパートなどにおける会話の基本表現を身につける。(DP2) ④主人公が体験する異文化体験を通じて、日本とドイツの違いを考察する。(DP3)		
履修上の注意	①「ドイツ語Ⅰ・Ⅱ」を履修済みであること。 ②毎回、わからない単語を辞書で調べ、練習問題を授業前にやっておくこと。付録のＣＤを聴いてくること。		
オフィスアワー	毎週火曜日 14:45～16:15		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	「ドイツ人と知り合う」［会話の基本］	教科書 12～17 ページの予習・復習(2 時間)。
2	「到着」(1)［到着の挨拶表現］	教科書 12～17 ページの予習・復習(2 時間)。
3	「到着」(2)［関係代名詞・不規則人称変化］	教科書 12～17 ページの予習・復習(2 時間)。
4	「到着」(3)［完了の助動詞・再帰代名詞］	教科書 12～17 ページの予習・復習(2 時間)。
5	「ホテル探し」(1)［前置詞・話法の助動詞］	教科書 18～23 ページの予習・復習(2 時間)。
6	「ホテル探し」(2)［フロントでの会話］	教科書 18～23 ページの予習・復習(2 時間)。
7	「ホテルにて」(1)［zu 不定詞句］	教科書 24～29 ページの予習・復習(2 時間)。
8	「ホテルにて」(2)［指示代名詞］	教科書 24～29 ページの予習・復習(2 時間)。
9	「ホテルにて」(3)［朝食での表現］	教科書 24～29 ページの予習・復習(2 時間)。
10	「レストランで」(1)［比較］	教科書 36～41 ページの予習・復習(2 時間)。
11	「レストランで」(2)［現在分詞と過去分詞］	教科書 36～41 ページの予習・復習(2 時間)。
12	「レストランで」(3)［注文の仕方］	教科書 36～41 ページの予習・復習(2 時間)。
13	「買物」(1)［序数・完了形］	教科書 42～47 ページの予習・復習(2 時間)。
14	「買物」(2)［おみやげを買う］	教科書 42～47 ページの予習・復習(2 時間)。
15	まとめ	定期試験へ向けて、復習(2 時間)。

テキスト	大谷弘道、Ursula Otani 著『新　ドイツ語話し方教室』(三修社)
指定図書	あり(巻末参照)

科目名	ドイツ語Ⅳ	担当者	横溝眞理
区分等	２年次・後期［演習］２単位　選択／生活文化専攻		
評価基準	①定期試験(80%) ②授業毎の課題(20%)		
課題に対するフィードバック	課題は添削して返却する。		
目的	２年次前期までに学習したドイツ語の知識を確認しながら、ドイツ語運用能力をさらに向上させる。		
到達目標	①過去形、受動態、接続法など、１年次で学習した文法項目を復習しながら、とくに副文の構造について理解を深める。(DP1) ②聴き取り練習を毎回行って、聴解力をさらに向上させる。(DP1) ③食事や健康、人との交際の場面における会話の基本表現を身につける。(DP2) ④主人公が体験する異文化体験を通じて、日本とドイツの違いを考察する。(DP3)		
履修上の注意	①「ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修済みであること。 ②毎回、わからない単語を辞書で調べ、練習問題を授業前にやっておくこと。付録のＣＤを聴いてくること。		
オフィスアワー	毎週火曜日 14:45～16:15		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	「アパート探し」(1)[命令法・副文・前置詞]	教科書 42～47 ページの予習・復習(2 時間)。
2	「アパート探し」(2)[電話をかける]	教科書 42～47 ページの予習・復習(2 時間)。
3	「ハイキング」(1)[過去形]	教科書 48～53 ページの予習・復習(2 時間)。
4	「ハイキング」(2)[受動態]	教科書 48～53 ページの予習・復習(2 時間)。
5	「ハイキング」(3)[ハイキングに誘われて]	教科書 48～53 ページの予習・復習(2 時間)。
6	「招待される」(1)[接続法第Ⅱ式]	教科書 54～63 ページの予習・復習(2 時間)。
7	「招待される」(2)[前置詞と人称代名詞の融合形]	教科書 54～63 ページの予習・復習(2 時間)。
8	「招待される」(3)[訪問先での会話]	教科書 54～63 ページの予習・復習(2 時間)。
9	「医者にて」(1)[nicht と kein・間接話法]	教科書 64～71 ページの予習・復習(2 時間)。
10	「医者にて」(2)[過去分詞の形容詞化]	教科書 64～71 ページの予習・復習(2 時間)。
11	「医者にて」(3)[診察室／薬局にて]	教科書 64～71 ページの予習・復習(2 時間)。
12	「手紙」(1)[形容詞の名詞化]	教科書 72～79 ページの予習・復習(2 時間)。
13	「手紙」(2)[再帰動詞と前置詞の結びつき・方向を表す前置詞]	教科書 72～79 ページの予習・復習(2 時間)。
14	「手紙」(3)[手紙の書き方・カードの書き方]	教科書 72～79 ページの予習・復習(2 時間)。
15	まとめ	定期試験へ向けて、復習(2 時間)。

テキスト	大谷弘道、Ursula Otani 著『新　ドイツ語話し方教室』(三修社)
指定図書	あり(巻末参照)

科　目　名	**韓国語Ⅲ**	担当者	John Thurlow
区　分　等	２年次・前期［演習］２単位　選択／生活文化専攻		
評価基準	①　授業態度・予習と復習　（60%） ②　小テスト（40%）		
課題に対するフィードバック	小テスト後に解答と説明を行う。随時アドバイスや提案をする。		
目　　的	より高度の文法を学んで、単語・表現を増やし、自由に韓国語の運用を目指す。		
到達目標	学生は次のことができるようになる。 ハングルをより早く読むことができる。(DP1) 学んだ文法を自由自在に使える。(DP2) 日常的な会話ができる。(DP2, DP3)		
履修上の注意	発音することを恥ずかしがらないで、大きな声を出してください！		
オフィスアワー	授業の前後		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション　韓国語Ⅱの内容の確認	韓国語Ⅱの内容を復習する。(1 時間)
2	第 1 課　学校生活　単語・文法	学んだ内容を復習する。(1 時間)
3	第 1 課　学校生活　会話	学んだ内容を確認して、第 2 課を予習する。(1 時間)
4	第 2 課　衣類・アクセサリー　単語・文法	学んだ内容を復習する。(1 時間)
5	第 2 課　衣類・アクセサリー　会話	学んだ内容を確認して、第 3 課を予習する。(1 時間)
6	第 3 課　交通の手段　単語・文法	学んだ内容を復習する。(1 時間)
7	第 3 課　交通の手段　会話	学んだ内容を確認して。会話を予習する。(1 時間)
8	会話　　第 1 課～第 3 課の復習・確認	第 4 課を予習する。(1 時間)
9	第 4 課　様々な施設　単語・文法	学んだ内容を復習する。(1 時間)
10	第 4 課　様々な施設　会話	学んだ内容を確認して、第 5 課を予習する。(1 時間)
11	第 5 課　外食　単語・表現	学んだ内容を復習する。(1 時間)
12	第 5 課　外食　会話	学んだ内容を確認して、第 6 課を予習する。(1 時間)
13	第 6 課　敬語・尊敬語　単語・文法	学んだ内容を復習する。(1 時間)
14	第 6 課　目上の人に話す。	学んだ内容を確認する。(1 時間)
15	復習、質疑応答	総合的な復習を行う。(1 時間)

テキスト	朴珍姫　他　『トクトク韓国語２』(朝日出版社)
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	**韓国語Ⅳ**	担当者	John Thurlow
区　分　等	２年次・後期［演習］２単位　選択／生活文化専攻		
評価基準	①　授業態度・予習と復習　（60%） ②　小テスト（40%）		
課題に対するフィードバック	小テスト後に解答と説明を行う。随時アドバイスや提案をする。		
目　　的	より高度の文法を学んで、単語・表現を増やし、自由に韓国語の運用を目指す。		
到達目標	学生は次のことができるようになる。 日常会話に使う単語・表現・文法を知る。(DP1) いろんな場面を想像して、自分の意見を述べることができる。(DP2, DP3) 目上の人と会話ができるようになる。(DP3)		
履修上の注意	自信をもって、より高度な韓国語の会話に挑戦してください。		
オフィスアワー	授業の前後		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション　韓国語Ⅲの内容の復習	韓国語Ⅲの内容を復習する（1 時間）
2	第 7 課　旅行　単語・文法	学んだ内容を復習する。(1 時間)
3	第 7 課　旅行　会話	学んだ内容を確認する。第 8 課を予習する。(1 時間)
4	第 8 課　食事のマナー　単語・文法	学んだ内容を復習する。(1 時間)
5	第 8 課　食事のマナー　会話	学んだ内容を確認して、第 9 課を予習する。(1 時間)
6	第 9 課　感情と状態　単語・文法	学んだ内容を復習する。(1 時間)
7	第 9 課　感情と状態　会話	学んだ内容を確認して、次回の準備をする。(1 時間)
8	会話　　第 7 課～第 9 課の復習・確認	第 10 課を予習する。(1 時間)
9	第 10 課　公共施設を使う。単語・文法	学んだ内容を復習する。(1 時間)
10	第 10 課　公共施設を使う。会話	学んだ内容の確認・第 11 課の予習をする。(1 時間)
11	第 11 課　部屋を探す。単語・表現	学んだ内容を復習する。(1 時間)
12	第 11 課　部屋を探す　会話	学んだ内容の確認・第 12 課の予習をする。(1 時間)
13	第 12 課　予定と計画　単語・表現	第 12 課の内容を復習する。(1 時間)
14	第 12 課　予定と計画　会話	第 12 課の内容を確認する。(1 時間)
15	復習、質疑応答	総合的な復習を行う。(1 時間)

テキスト	朴珍姫『トクトク韓国語 2』（朝日出版社）
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	データベース活用（Microsoft Access）	担当者	周　業欣
区　分　等	２年次・前期[演習]２単位・選択／生活文化専攻・健康栄養専攻		
評価基準	・平常点(100 点) 【平常点等配点内訳】・授業振り返りシート(20 点) ・授業内課題３回（20 点・20 点・20 点） ・タッチタイプ(20 点)		
課題に対するフィードバック	提出された課題は採点し、適宜コメントをつけて返却する。		
目　　的	データベースソフト、Microsoft Access の操作方法と活用方法およびタッチタイプを修得する。		
到達目標	1）Microsoft Access の基本的な操作ができるようになることを目標とする。(DP1) 2）基本的なデータベースの概念が理解できることを目標とする。(DP1) 3）キーボードを見なくても正しい運指でタッチタイプができるようになることを目標とする。(DP1)		
履修上の注意	特になし		
オフィスアワー	授業の前後 10 分間		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	講座ガイダンス、Microsoft Access の基礎知識	テキストを読む。身近なところで使われているデータベースを調べる(1 時間) テキスト P1～5
2	テーブルの概要と作成（1）	授業内容の復習と練習課題の完成(1 時間) テキスト P6～23
3	テーブルの概要と作成（2）	授業内容の復習と練習課題の完成(1 時間) テキスト P24～56
4	フォームの機能（1）	授業内容の復習と練習課題の完成(1 時間) テキスト P62～63
5	フォームの作成（2）	授業内容の復習と練習課題の完成(1 時間) テキスト P64～74
6	中間まとめ【課題１】授業内実施課題	提出課題の完成(1 時間)
7	クエリの概要（1）	授業内容の復習と練習課題の完成(1 時間) テキスト P84～85
8	クエリの作成（2）	授業内容の復習と練習課題の完成(1 時間) テキスト P86～90
9	レポート機能	授業内容の復習と練習課題の完成(1 時間) テキスト P103～116
10	中間まとめ【課題 2】授業内実施課題	授業内容の復習と練習課題の完成(1 時間)
11	リレーションシップの概要と活用	授業内容の復習と練習課題の完成(1 時間) テキスト P121～134
12	クエリで計算する（1）	授業内容の復習と練習課題の完成(1 時間) テキスト P138～141
13	クエリで計算する（2）	授業内容の復習と練習課題の完成(1 時間) テキスト P146～158
14	総合演習	基本機能についての総復習(1 時間)
15	まとめと【課題 3】授業内実施課題	前期で勉強した内容を復習し、定着させる。提出課題の完成(1 時間)

テキスト	『誰でも使えるデータベース!Access』(noa 出版)
指定図書	あり(巻末参照)

科　目　名	データサイエンス入門	担当者	米山修司
区　分　等	２年次・前期［演習］２単位　選択／全学		
評 価 基 準	① 課題提出(60%)　② 定期試験(30%)　③ プレゼンテーション(10%)		
課題に対するフィードバック	提出物については、採点を行った上で Google Classroom を用いて返却する。また、Google Classroom のルーブリック機能を用いて、詳細なフィードバックを行う。		
目　　的	社会の中で生ずる様々な課題に対して，データを基に正しく状況を理解し，分析して，課題解決に向かうという姿勢を身につけることが大切である。本講義ではデータ分析に必要な基礎となる知識を習得するとともに，表計算ソフト EXCEL を利用してデータを加工し、分析して、その特徴を説明する能力を養う。		
到 達 目 標	①　分析に必要な形にデータを加工・整形することができる。(DP1, DP2) ②　データの基本的な特徴を調べ，説明することができる。(DP1) ③　分析の内容に応じてデータを視覚化して説明することができる。(DP1) ③　基礎的なデータ分析について理解し，EXCEL 等を利用して実践できる。(DP1, DP2)		
履修上の注意	①　PC の基本的な操作ができることが必要。 ②　基本的な EXCEL の知識・利用技術を身につけていることが望ましい。 ④　授業の後半で行うグループ演習では、協調性のある行動が求められる。		
オフィスアワー	金曜日　14:45～16:15		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	● ガイダンス ● 基本的な EXCEL の利用方法の復習 ● データの形と種類 ● データの前処理 (欠損・重複・異常値の検出) ● データの加工・整形 (フィルターによる抽出・並び替え)	予習：不要(本科目は予習が不要。第２回以降も同様で記載を省略。) 復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(２時間) テキスト該当箇所：第１章(データの分析をはじめる前に) 付録(分析に適したデータに整形しよう)
2	● データの可視化① ・クロス集計表の作成	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(２時間) テキスト該当箇所：第３章(データを可視化しよう)
3	● データの可視化② ・目的に応じたグラフの作成	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(２時間) テキスト該当箇所：第３章(データを可視化しよう)
4	● データの可視化③ ・度数分布表とヒストグラム	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(２時間) テキスト該当箇所：第３章(データを可視化しよう)
5	● 母集団と標本 ● データの傾向の把握 (基本統計量の算出) ● 分析ツールの使い方	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(２時間) テキスト該当箇所：第１章(データの分析をはじめる前に) 第２章 (データの傾向を把握するところからはじめよう)
6	● データの分析① ・相関係数と散布図 ・線形単回帰分析	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(２時間) テキスト該当箇所：第５章 (関係性を分析してビジネスヒントを見つけよう)
7	● データの分析② ・線形重回帰分析	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(２時間) テキスト該当箇所：第５章 (関係性を分析してビジネスヒントを見つけよう)
8	● データの分析③ ・仮説検定	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(２時間) テキスト該当箇所：第４章(仮説を立てて検証しよう)
9	● シミュレーションによる最適化 (ゴールシークとソルバーによる シミュレーション)	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(２時間) テキスト該当箇所：第６章(シミュレーションして最適な解を探ろう)
10	● CSV の取り扱い ● オープンデータの取得方法	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(２時間) テキスト該当箇所：第１章(データの分析をはじめる前に)
11	● グループによる実データの分析① (テーマの選択、分析の計画立案)	復習：ここまでの講義の総復習を行い、グループでデータ分析を行う(２時間)
12	● グループによる実データの分析② (データの収集、前処理、加工)	復習：ここまでの講義の総復習を行い、グループでデータ分析を行う(２時間)
13	● グループによる実データの分析③ (データの分析)	復習：ここまでの講義の総復習を行い、グループでデータ分析を行う(２時間)
14	● グループによる実データの分析④ (分析の続きと発表資料の作成)	復習：ここまでの講義の総復習を行い、グループでデータ分析を行う(２時間)
15	● グループ演習の成果発表とまとめ	復習：講義の総復習(２時間)

テキスト	富士通ラーニングメディア『Excel ではじめるデータ分析』(FOM 出版)
指定図書	あり（巻末参照）

※ 実務経験のある教員による授業科目の担当教員の実務経験および、教育内容
実務経験：民間の金融系シンクタンクにて、研究員としてデータ分析業務に携わる。
教育内容：オープンデータ等の実データを用いた演習により、実践的なデータ分析能力を養う。

科　目　名	ワードプロセッサ活用学B	担当者	佐藤　恵
区　分　等	２年次・前期［演習］２単位　選択／生活文化専攻、健康栄養専攻		
評価基準	タッチタイピング(20%)　…正確性、ワープロ検定試験基準による速度レベル 課題提出(40%)、授業内での小テスト(40%)		
課題に対するフィードバック	課題や授業内小テストについては、評価をつけて返却する。		
目　　的	①Microsoft Office Word 応用機能について学ぶ。 ②各種文書の基本文例を学ぶ。 ③目的を達成するために必要な Word の機能をあげ、効率的な方法を考える。 ④操作上のトラブルの原因を考え、その対処方法を学ぶ。		
到達目標	①タッチタイピングの習得を通して、自らのタイピングの問題点に気づき、課題を解決することで速度アップすることができる。(DP1,3) ②目的に応じた文書を的確で分かりやすくするための機能を提示することができる。また、その機能を十分に活用することができる。(DP2,3) ③文書の種類に応じた文書作成ができる。(DP1,2)		
履修上の注意	授業開始時にログオンが完了していること。課題は期限内に提出し、教員のチェックを受けること。		
オフィスアワー	金曜日 13:00～16:30		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション、文字書式	タッチタイピング練習。課題の復習。(1 時間)
2	受講申込書：表作成とページ罫線	タッチタイピング練習。課題の復習。(1 時間)
3	旅行行程表：レイアウトを重視した罫線	タッチタイピング練習。課題の復習。(1 時間)
4	タブとリーダーの効果的な利用（１）	タッチタイピング練習。課題の復習。(1 時間)
5	チラシ：タブとリーダーの効果的な利用（２）	タッチタイピング練習。課題の復習。(1 時間)
6	チラシ：段組み	タッチタイピング練習。課題の復習。(1 時間)
7	チラシ：段落スタイルの作成と変更	タッチタイピング練習。課題の復習。(1 時間)
8	チラシ:組み込みスタイルの利用とスタイルの変更・更新	タッチタイピング練習。課題の復習。(1 時間)
9	表紙の挿入：セクション区切り	タッチタイピング練習。課題の復習。(1 時間)
10	表紙の挿入：ヘッダー・フッター	タッチタイピング練習。課題の復習。(1 時間)
11	報告書：ＳｍａｒｔＡｒｔの作成	タッチタイピング練習。課題の復習。(1 時間)
12	チラシ：テキストボックスのリンク	タッチタイピング練習。課題の復習。(1 時間)
13	宛名ラベル：差し込み印刷	タッチタイピング練習。課題の復習。(1 時間)
14	表紙の挿入：目次作成	タッチタイピング練習。課題の復習。(1 時間)
15	報告書：ＥＸＣＥＬデータの貼り付け	タッチタイピング練習。課題の復習（１時間）

テキスト	Ｗｏｒｄ実習問題集―ステージアップ編―MicrosoftWord2019 対応(ムゲンダイ出版)
指定図書	なし

科　目　名	Web ページ作成 I	担当者	ベ　ジンソク
区　分　等	２年次・前期［演習］２単位　選択／生活文化専攻		
評 価 基 準	授業への取り組み姿勢（20%）、課題提出（80%）		
課題に対するフィードバック	課題については、授業内で行います。		
目　　的	この授業では、 グラフィックデザイン、インフォメーションデザイン、UI デザインによる正確な情報伝達の方法や、それら 3 つの要素を機能的、かつ効果的にサイトに取り込んでいく手法や考え方を習得し、ユーザーが WEB ブラウジングする際の快適な情報認識・理解を促すインターフェースデザインの制作を目指す。Web ユーザーインタフェースを想定した画面デザインの提案を課題とし、Adobe XD のデザインツールを利用しプロトタイプを作成する。		
到 達 目 標	・ Dreamweaver のソフトを利用し簡単な web サイトが制作できるようになる。(DP2) ・ Adobe XD のデザインツールを利用しプロトタイプの WEB サイトが制作できるようになる。(DP3)		
履修上の注意	コンピュータグラフィックス、グラフィックデザイン履修済みが望ましい。 Adobe Photoshop または Adobe Illustrator が使えること。 毎回行う授業の内容が異なるために欠席しないこと。		
オフィスアワー	未定		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	ガイダンス、および演習課題の説明	講義の復習と演習問題による確認（2 時間）
2	インターネットの仕組み、ウェブサイトの基本知識	講義の復習（1 時間）
3	Dreamweaver ソフトウエアの使い方	演習の復習（1 時間）
4	テキスト入力、リンク張り	演習の復習（1 時間）
5	画像の貼り付け	演習の復習（1 時間）
6	Top ページ画面デザイン	演習の復習と演習の画面制作（2 時間）
7	Sub ページ画面デザイン	演習の復習（1 時間）
8	GIF アニメーション制作	演習の復習（1 時間）
9	Adobe XD ソフトウエアの使い方	演習の復習（1 時間）
10	テキスト入力、リンク張り	演習の復習（1 時間）
11	画像の貼り付け	演習の復習（1 時間）
12	課題テーマ設定	演習の復習と演習の課題制作（2 時間）
13	プロトタイプサイト作成	演習の課題制作（2 時間）
14	課題制作	演習の課題制作（2 時間）
15	課題提出・講評	講評

テキスト	授業時に資料配付
指定図書	なし

科　目　名	Webページ作成Ⅱ	担当者	ベ　ジンソク
区　分　等	2年次・後期［演習］ 2単位　選択／生活文化専攻		
評価基準	授業への取り組み姿勢（20%）、課題提出（80%）		
課題に対するフィードバック	課題については、授業で行います。		
目　　的	Webページ作成1で学んだDreamweaverの基本操作やCSSとHTMLの仕組みに対する理解をもとに、Webサイトを制作する。		
到達目標	本授業は、自分でゼロからWebサイトを完成させられる技術を身につけることを目標とする。見る人に優しいデザイン、使いやすいデザインをテーマとし、これらを実現するために必要な要素技術を、演習を通して習得する。Webサイトのコンテンツの企画から設計、画面デザインとそれを実現するCSSやHTML作成、サイトの公開、評価までの一連のプロセスを演習による制作を通じてWebサイト制作を学ぶ。		
履修上の注意	Webページ作成Ⅰの履修をしていること		
オフィスアワー	未定		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	ガイダンス、および演習課題の説明	演習の復習（1時間）
2	CSSの仕組みやHTMLでサイト作成1	演習の復習（1時間）
3	CSSの仕組みやHTMLでサイト作成2	演習の復習（1時間）
4	CSSの仕組みやHTMLでサイト作成3	演習の復習（1時間）
5	CSSの仕組みやHTMLでサイト作成4	演習の復習（1時間）
6	CSSの応用や動きを実現する仕組み（JavaScript）1	演習の復習（1時間）
7	CSSの応用や動きを実現する仕組み（JavaScript）2	演習の復習（1時間）
8	課題のテーマ設定、調査、分析	演習の復習（1時間））
9	ページデザインの検討・制作	演習の復習（1時間）
10	ユーザーインタフェースデザイン	演習の復習（1時間）
11	サイトの全体設計	個人課題制作（2時間）
12	サイト制作	個人課題制作（2時間）
13	サイト制作	個人課題制作（2時間）
14	サイト制作	個人課題制作（2時間）
15	課題提出・講評	講評

テキスト	授業時に資料配付
指定図書	なし

科　目　名	Python Ⅱ	担当者	米山修司
区　分　等	２年次・前期［演習］２単位　選択／生活文化専攻		
評価基準	①　課題提出(60%) ②　定期試験(30%) ③　プレゼンテーション(10%)		
課題に対するフィードバック	提出物については、採点を行った上で Google Classroom を用いて返却する。		
目　　的	①　プログラミング言語 Python を用いた基本的なプログラミングを行う能力を養う。		
到達目標	①　Python に関する自らが必要とする情報を書籍やインターネット上から参照し、それを理解した上で、簡単なプログラムを作成する能力を身に着ける。(DP1, DP2, DP3)		
履修上の注意	①　「Python　Ⅰ」の単位を取得済みであることが必要。 ②　授業の後半で行うグループ演習では、協調性のある行動が求められる。		
オフィスアワー	金曜日　14:45～16:15		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	● ガイダンス ● 基本的な Python プログラミング	予習：不要 (本科目は予習が不要。第２回以降も同様で記載を省略。) 復習：講義資料で復習を行い、基本的な Python プログラミングについて再確認しておく(2 時間)
2	● 繰り返し処理の応用 (多重ループ / フラグ)	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：第 10 章(繰り返し処理Ⅱ)
3	● 例外処理 (try 文 / except 節 / finally 節 / else 節)	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：第 11 章(例外処理)
4	● 辞書(dict)	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：第 12 章(コレクションⅡ)
5	● JSON ● 標準ライブラリ① ・json モジュール	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：第 13 章(ファイル処理Ⅰ)
6	● リスト(list)の応用 (2 次元リスト / 内包表記) ● 標準ライブラリ② ・pprint モジュール	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：第 14 章(コレクションⅢ)
7	● CSV ● 標準ライブラリ③ ・csv モジュール	復習：講義資料とテキストで復習を行い、演習問題を解く(2 時間) テキスト該当箇所：第 15 章(ファイル処理Ⅱ)
8	● 標準ライブラリ④ ・Tkinter モジュール	復習：講義資料で復習を行い、演習問題を解く(2 時間)
9	● 総合演習	復習：ここまでの講義の総復習を行い、演習問題を解く(2 時間)
10	● グループによる プログラミング演習 (GUI アプリの作成)①	復習：ここまでの講義の総復習を行い、グループで演習問題を解く(2 時間)
11	● グループによる プログラミング演習 (GUI アプリの作成)②	復習：ここまでの講義の総復習を行い、グループで演習問題を解く(2 時間)
12	● グループ演習の中間発表 (プレゼンテーション)	復習：ここまでの講義の総復習を行い、グループで演習問題を解く(2 時間)
13	● グループによる プログラミング演習 (GUI アプリの作成)③	復習：ここまでの講義の総復習を行い、グループで演習問題を解く(2 時間)
14	● グループによる プログラミング演習 (GUI アプリの作成)④	復習：ここまでの講義の総復習を行い、グループで演習問題を解く(2 時間)
15	● グループ演習の成果発表とまとめ	復習：講義の総復習(2 時間)

テキスト	米山修司『初歩からはじめる Python プログラミング』(デザインエッグ) ※ テキストは１年後期開講の「Python　Ⅰ」と共通のため購入不要。
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	グローバル世界と地域文化A Global World and Local Culture A	担当者	Mathew Philip
区　分　等	２年次・前期［講義］２単位　選択／生活文化専攻、健康栄養専攻		
評価基準	① 授業への参加姿勢：20% ② 授業のテーマへのコメントペーパー：20% ③ 地域で自分が出来るプロジェクト作成：60%		
課題に対するフィードバック	提出物等について、適宜コメントする。		
目　　的	① 「地域文化」のグローバル化を学ぶ中で、日本に滞在をしている世界の人々を大切にし、一緒に働き地域で暮らす日本人の現状と課題を研究し、学ぶことで、「地域」と「グローバル」社会をさまざまな視角から考察する力を養い、世界の舞台で活躍するスキルを習得する。 ② 表面化されていない地域文化のグローバルな広がりや秋田のグローバル化を調査し、浮き彫りにして行く中で、調査能力を育む。 ③ 地域や世界のグローバル化への関心を高め、関連する新聞記事や資料を受講前よりも深く読めるようになる。 ④ グローバル化（および世の中の出来事）の分析能力を養う。 ⑤ グループ・ディスカッションに慣れる。		
到達目標	① 秋田で自分が出来るプロジェクトについてグループでディスカッションし、作成する。(DP2,DP3) ② グローバル社会と日本（社会）との関係について、具体的な現象とその背景を知り、さらに考えるヒントを得る。(DP1) ③ グローバル化や地域文化を評価し、グローバルマナーを身につけ、世界で活躍できるようになる。(DP1) ④ 地域社会においてもグローバル社会でも恥じないマナーをもってコミュニケーションを出来るようになる。(DP1,DP3)		
履修上の注意	グローバル世界と地域文化Aは英語と日本語で開講しています。英語と日本語の内容は同じです。授業はコーチング形式で行います。		
オフィスアワー	授業内で紹介		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション・グローバル世界論(Orientation) Theories of Globalization	
2	グローバル化って何 History of Globalization	Global と言う言葉の意味を辞書で調べてノートに書く。予習（20 分）
3	日本の可能性を広げるグローバル化 Globalization that expands the possibilities of Japan	外国で活躍している日本人についての新聞記事を読む。予習（30 分）
4	グローバル化によって広がる秋田地域の絆 Bonds in the Akita region that are expanding due to globalization	秋田市に住んでいる外国人の数と国籍を調べる。 予習（30 分）
5	秋田における教育のグローバル化	秋田でグローバルな教育をしている学校のリストを作る。予習（30 分）
6	近所付き合いや生活のグローバル化における変化 Globalization of life and Changes in neighborhood relationships	（Zoom 使用）在日外国人の話を聞く予習（30 分）
7	地域家庭生活のグローバル化 Globalization of local family life	（Zoom 使用）国際結婚について話を聞く（30 分）
8	グローバル化によって世界に広がる日本の文化 Globalization of Japanese Culture	外国で流行りの日本の文化についての新聞記事を読む。予習（30 分）
9	グローバル化による日本人とお金の移動変化 Changes in the movement of Japanese people and money in globalization	日本が外国でできる事業のリストを作成する。 予習（30 分）
10	世界政治にグローバル化がもたらした変化 Changes brought about by globalization in world politics	アメリカの大統領選挙について新聞記事を読む。
11	グローバル化を支える国際機関 International organizations that support globalization	ネットで国連について調べる。予習（30 分）
12	世界の地域文明を豊かにするグローバル化 Globalization that enriches the world's regional civilization	世界で人気のある日本料理のリストを作成する。
13	グローバル化の中で世界に広がる秋田 Akita that spreads around the world in the midst of globalization	秋田の世界に誇れる地域文化や食べ物を探し、リストを作成する。予習（30 分）
14	秋田の食習慣のグローバル化 Globalization of Akita's Culinary Traditions	秋田で人気のある外国料理や外国ツアーのリストを作成する。予習（30 分）
15	グローバル化の中で広がる人の夢 Growing Dreams of People in the midst of globalization	世界で行ってみたい国、やってみたいことのリストを作成する。予習（30 分）

テキスト	授業内で適宜資料配布または紹介。
指定図書	授業内で紹介。

科　目　名	アメリカ文化B	担当者	Rachel Youngblood
区　分　等	２年次・前期［講義］２単位　選択／生活文化専攻		
評価基準	Classroom participation (30%) Homework (30%) Interview (10%) Final Presentation (30%)		
課題に対するフィードバック	Classroom discussions and activities will expand on topics through encouraging students to utilize their own knowledge of Japanese culture, supported by teacher feedback and comments.		
目　的	The aim of this course is to introduce students to important aspects of American culture and society through a variety of topics.		
到達目標	Students will be able to utilize critical thinking skills and expand their perspectives through comparisons of Japanese and American culture.		
履修上の注意	This course is taught in English.		
オフィスアワー	Monday-Wednesday 9:00-12:15		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	Introduction to the course, Stereotypes / National Anthems	Vocabulary & PowerPoint 復習 (1 hour)
2	American History I: Native Americans & America’s Founding	Vocabulary & PowerPoint 復習, Chapter 10 予習 (1 hour)
3	American History II: Westward Expansion	Chapter 10 PowerPoint 復習, Chapter 6 予習 (1 hour)
4	American History III: Slavery & Civil War	Chapter 6 & PowerPoint 復習, Chapter 7 予習 (1 hour)
5	American History IV: Civil Rights Movement & BLM	Chapter 7 & PowerPoint 復習
6	Viewing: *Hidden Figures*	Vocabulary & PowerPoint 復習 (1 hour)
7	Viewing: *Hidden Figures*	Comparison Writing 復習 (1 hour)
8	American Education I: School Life	Vocabulary & PowerPoint 復習 (1 hour)
9	American Education II: University	Vocabulary & PowerPoint 復習 (1 hour)
10	American Education III: Bill of Rights & Gun Culture	Vocabulary & PowerPoint 復習 (1 hour)
11	American Music I: Music Roots	Vocabulary & PowerPoint 復習 (1 hour)
12	American Music II: Modern Music	Vocabulary & PowerPoint 復習 (1 hour)
13	What about America? Interview & Questions	Chapter 6, 7, 10, 12 & PowerPoints 復習
14	Presentation Preparation	Chapter 6, 7, 10, 12 & PowerPoints 復習
15	Final Presentations	

テキスト	Todd Rucynski & Yoko Nakagawa “American Vibes” (Kinseido)
指定図書	None

科　目　名	国内インターンシップ	担当者	佐藤邦子
区　分　等	２年次・後期［講義・実習］２単位　選択／生活文化専攻		
評価基準	実習記録（40%）　企業実習レポート（40%）　プレゼンテーション（20%）		
課題に対するフィードバック	提出物について、適宜コメントする。		
目　　的	国内における民間のインターンシップを通じて地域リーダーシップ、経営力を磨くことである。		
到達目標	インターンシップ体験を通じて『生産』、『販売』を企業の立場から理解し、自分の地域リーダーシップ力、経営力を磨くことを目標とする、また、短大の授業から学んだビジネス、経済、リーダーシップの『理論』などを現場体験によって『確認』することも、授業目標となる。(DP1.DP2.DP3)		
履修上の注意	・ 受講人数に制限がある（6 人）。 ・ 三回に分けて企業実習を行う。 ・ 事前授業で企業実習にとって最低限必要な業界研究・企業研究の仕方などを解説し、ワークショップ形式で実施する。 ・ 事後授業は、企業実習後の体験学習を通して気づき、体験を通じて得られた知見などを最終的にはプレゼンテーションできるよう指導していく。その一環として実習レポートの作成と提出がある。 ・ 70 時間以上のインターンシップができる。		
オフィスアワー			

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	ガイダンス:インターンシップとは何かを説明し、今後の授業の在り方、特に『企業体験』について説明する。	事前学習：インターンシップ、生産についてその意義を調べておく。(2 時間) 事後学習:『企業体験』の意義、特に労働、リーダーシップ、生産、販売の目的・意義・倫理に関して調べ、確認する。(2 時間)
2	業界研究と企業研究の仕方、インターンシップ企業の選定をする。	事前学習：インターンシップに関連する企業等の業界研究や企業研究の仕方を調べておく（2 時間） 事後学習：実習企業の事業内容や組織概要等に関して復習する。(2 時間)
3	インターンシップ企業を決定、販売・生産の理論	事前学習：実習企業に関する情報をできる限り詳しく調査し、また『自己 PR』の準備をする。(2 時間) 事後学習：自己 PR 活動に関わるリーダーシップ力、言葉遣いやマナーなどを復習する。(2 時間)
4	自己紹介書の作成、インターンシップに向けての諸注意、生産、販売についての理解を深める。	事前学習:『インターンシップ』に関わる契約の意義と就業上の倫理に関して調べ、理解する。(2 時間) 事後学習：インターンシップにおける『企業実習』期間中、実習企業のコンプライアンス(法令遵守や労働倫理等の遵守)販売、生産について理解し復習する。(2 時間)
5	『企業実習』の実施	実習企業の指示に従う。また、実習記録をまとめる。
6	実習企業の実習計画に従って学習する。	実習企業の指示に従う。また、実習記録をまとめる。
7	実習企業の実習計画に従って学習する。	実習企業の指示に従う。また、実習記録をまとめる。
8	企業実習のふりかえり	事前学習：企業実習(就業体験)を振り返り、文章化する。（2 時間） 事後学習：企業実習レポートの作成準備（2 時間）
9	企業実習レポートの作成の仕方を説明する。	事前学習：配布プリントを読み、企業実習レポートの作成の仕方を予習する。(2 時間) 事後学習：企業実習レポートの作成（2 時間）
10	『企業実習』の実施	実習企業の指示に従う。また、実習記録をまとめる。
11	実習企業の実習計画に従って学習する。	実習企業の指示に従う。また、実習記録をまとめる。
12	『企業実習』の実施	実習企業の指示に従う。また、実習記録をまとめる。
13	企業実習のふりかえり 各人の企業実習での体験を総括し、体験から学んだことを文章化できるようにする	事前学習：企業実習(実習体験)を振り返り、文章化する。（2 時間） 事後学習：企業実習レポートの作成準備（2 時間）
14	『就業体験』についてのプレゼンテーションの仕方	事前学習:『就業体験』に関する発表ができるよう必要な資料や体験記録をまとめておく。(2 時間) 事後学習：企業実習レポートの提出準備と発表用 PPT の作成。(2 時間)
15	企業実習レポートの提出とプレゼンテーション	事前学習：企業実習レポートの提出準備と発表用 PPT の作成。(2 時間) 事後学習：インターンシップで体験したことから、労働の意義と倫理を理解する。(2 時間)

テキスト	なし
指定図書	なし

科　目　名	**海外インターンシップ（シンガポール）**	担当者	佐藤邦子
区　分　等	２年次・後期［講義・実習］１単位　選択／生活文化専攻		
評価基準	実習記録（40%）　企業実習レポート（40%）　プレゼンテーション（20%）		
課題に対するフィードバック	提出物について、適宜コメントする。		
目　　的	シンガポールにおける民間のインターンシップを通じてグローバルリーダーシップ、グローバル教養、経営力を磨くことである。		
到達目標	海外のインターンシップ体験を通じてグローバル『生産』、『販売』を経営者の立場から理解し、自分のグローバルリーダーシップ力、グローバル教養、経営力を磨くことを目標とする、また、短大の授業から学んだグローバルビジネス、経済、リーダーシップの『理論』などを現場体験によって『確認』することも、授業目標となる。(DP1.DP2.DP3)		
履修上の注意	・ 受講人数に制限がある（４人）。 ・ 事前授業で海外企業実習にとって最低限必要な文化、言葉、業界研究・企業研究の仕方などを解説し、ワークショップ形式で実施する。 ・ 事後授業は、海外企業実習後の体験学習を通して気づき、体験を通じて得られた知見などを最終的にはプレゼンテーションできるよう指導していく。その一環として実習レポートの作成と提出がある。 ・ 45 時間のインターンシップができる。		
オフィスアワー	授業で紹介		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	ガイダンス：海外インターンシップとは何かを説明し、今後の授業の在り方、特に『海外の企業体験』について説明する。	事前学習：インターンシップ、生産についてその意義を調べておく。(2 時間) 事後学習：『企業体験』の意義、特に労働、リーダーシップ、生産、販売の目的・意義・倫理に関して調べ、確認する。(2 時間)
2	業界研究と企業研究の仕方、インターンシップ企業の選定をする。	事前学習：インターンシップに関連する企業等の業界研究や企業研究の仕方を調べておく（2 時間） 事後学習：実習企業の事業内容や組織概要等に関して復習する。(2 時間)
3	グローバル販売・生産の理論	事前学習：実習企業に関する情報をできる限り詳しく調査し、また『自己 PR』の準備をする。(2 時間) 事後学習：自己 PR 活動に関わるリーダーシップ力、言葉遣いやマナーなどを復習する。(2 時間)
4	自己紹介書の作成、海外インターンシップに向けての諸注意、グローバル生産、販売についての理解を深める。	事前学習：海外『インターンシップ』に関わる契約の意義と就業上の倫理に関して調べ、理解する。(2 時間) 事後学習：海外インターンシップにおける『企業実習』期間中、実習企業のコンプライアンス(法令遵守や労働倫理等の遵守)販売、生産について理解し復習する。(2 時間)
5	『海外企業実習』の実施	実習企業の指示に従う。また、実習記録をまとめる。
6	実習企業の実習計画に従って学習する。	実習企業の指示に従う。また、実習記録をまとめる。
7	実習企業の実習計画に従って学習する。	実習企業の指示に従う。また、実習記録をまとめる。
8	企業実習のふりかえり 海外企業実習レポートの提出とプレゼンテーション	事前学習：企業実習(就業体験)を振り返り、文章化する。（2 時間） 事後学習：企業実習レポートの作成準備（2 時間） 事前学習：企業実習レポートの提出準備と発表用 PPT の作成。(2 時間) 事後学習：海外インターンシップで体験したことから、グローバルに働くことの意義と倫理を理解する。(2 時間)

テキスト	なし
指定図書	なし

科　目　名	**現代家族論**	担当者	寺谷直輝
区　分　等	２年次・後期［講義］２単位　選択／生活文化専攻		

評価基準	**本科目は学生による発表とディスカッションを中心とした授業ですから、予習・復習・報告・討論のいずれも十分にできない受講生は、学期途中でも今後の受講を遠慮してもらいます。**あらかじめご承知おきください。 **①発表（プレゼンテーション）内容とディスカッションの参加度［５０％］（到達目標①と関連）** ●文献の指定範囲や各自の卒業研究の進捗状況を報告していただきます。 ●発表を全て行う・ディスカッションに参加することが単位認定の前提です。 **②予習課題の提出状況［５０％］（到達目標②と関連）** ●授業時間外で、テキストの指定範囲（各回の［準備学習の内容］で指示しています）を通読した意見・質問・疑問・反論等を 200 字以上で Google Form に記入していただきます。 ●予習課題は、（原則）授業日３日前を提出締切とします（授業準備上、締切後は受け取りません）。授業は皆さんが提出した課題のフィードバックを行う時間とします（反転授業）。 ●予習課題の遂行が授業参加の前提ですから、10 回のうち９回以上提出することを単位認定の前提とします。
課題に対するフィードバック	①発表内容については、授業中に予習課題の意見を関連づけてディスカッションします。 ②予習課題（200 字以上の感想文）は、匿名化処理した上で、全員の記述をまとめた用紙を配付します。次回の授業時間を使って予習課題で書かれた内容をフィードバックします。
目　　的	現代家族に関わる領域の１つである「児童家庭福祉」に関わる基本文献の講読・議論や、受講生の卒業研究の進捗状況報告を、学生が主体となって行うことにより、生活全般に関わる学問分野の諸課題に対応する際に求められる、科学的・論理的思考を基礎とした思考力・判断力・表現力を獲得することを目的とします。
到達目標	①保育・子ども家庭福祉・文化・社会状況等の観点を関連づけながら、子ども家庭福祉に関わる基礎知識を理解した上で、論点に対する意見を発表できる **(DP1,DP2)**。 ②子ども家庭福祉に関わる基礎知識を、積極的に獲得しようと努めている **(DP3)**。
履修上の注意	①卒業必修科目でも資格取得科目でもありませんので、よほどの関心や意欲がないと継続して受講することは難しいかと思います。必ず、シラバスを読んだ上で履修登録してください。 ②レポーターを分担を行うため、受講希望者は第１回の授業から必ず出席すること。 ③下記［準備学習の内容］（テキストの通読と予習課題の提出）を取り組む時間を確保すること。 ④毎回、「赤・青・緑」のフリクションボールペンを持参すること。 ⑤卒研のプレゼンテーション準備も怠らないこと。短大２年生レベルの質を期待しています。
オフィスアワー	火曜日昼休み　★左記の時間以外の場合は、必ず事前に Google chat で連絡してください。

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	**授業全体のガイダンス** ●担当教員の授業方針について ●期末レポートの概要説明 ●レポーター分担 ●予習課題の内容と提出方法 ●「３色ボールペン読書法」の説明と試行	復習：毎回、「赤・青・緑」の３色ボールペン（フリクションタイプが望ましい）を購入して、「３色ボールペン読書法」の方法を振り返ること（１時間）。
2	受講生の卒研の進捗状況報告(1)	予習：受講生全員、**プレゼンテーションの準備をすること**（４時間）。
3	社会情勢と子ども家庭福祉の理念と概念	予習：全員、**テキスト第１章**を読み、レポーターは文献の要点と論点を報告する準備を行い、レポーター以外は指定した期日までに予習課題を 200 字以上で提出すること（４時間）。
4	子ども家庭福祉の歴史的変遷	予習：全員、**テキスト第２章**を読み、レポーターは文献の要点と論点を報告する準備を行い、レポーター以外は指定した期日までに予習課題を 200 字以上で提出すること（４時間）。
5	子どもの人権擁護と現代社会における課題	予習：全員、**テキスト第３章**を読み、レポーターは文献の要点と論点を報告する準備を行い、レポーター以外は指定した期日までに予習課題を 200 字以上で提出すること（４時間）。

6	母子保健と乳幼児期の地域支援	予習：全員、**テキスト第７章**を読み、レポーターは文献の要点と論点を報告する準備を行い、レポーター以外は指定した期日までに予習課題を 200 字以上で提出すること（４時間)。
7	受講生の卒研の進捗状況報告(2)	予習:受講生全員、**プレゼンテーションの準備をすること**（４時間)。
8	児童の健全育成と児童生徒期の支援	予習：全員、**テキスト第８章**を読み、レポーターは文献の要点と論点を報告する準備を行い、レポーター以外は指定した期日までに予習課題を 200 字以上で提出すること（４時間)。
9	発達課題や障害のある子どもへの対応	予習：全員、**テキスト第 10 章**を読み、レポーターは文献の要点と論点を報告する準備を行い、レポーター以外は指定した期日までに予習課題を 200 字以上で提出すること（４時間)。
10	少年非行の理解と支援	予習：全員、**テキスト第 11 章**を読み、レポーターは文献の要点と論点を報告する準備を行い、レポーター以外は指定した期日までに予習課題を 200 字以上で提出すること（４時間)。
11	受講生の卒研の進捗状況報告(3)	予習:受講生全員、**プレゼンテーションの準備をすること**（４時間)。
12	児童虐待・ＤＶの防止と社会的養護	予習：全員、**テキスト第 13 章**を読み、レポーターは文献の要点と論点を報告する準備を行い、レポーター以外は指定した期日までに予習課題を 200 字以上で提出すること（４時間)。
13	ひとり親家庭や貧困家庭への支援	予習：全員、**テキスト第９章**を読み、レポーターは文献の要点と論点を報告する準備を行い、レポーター以外は指定した期日までに予習課題を 200 字以上で提出すること（４時間)。
14	地域連携・協働とネットワーク	予習：全員、**テキスト第 14 章**を読み、レポーターは文献の要点と論点を報告する準備を行い、レポーター以外は指定した期日までに予習課題を 200 字以上で提出すること（４時間)。
15	受講生の卒研の成果報告	予習:受講生全員、**プレゼンテーションの準備をすること**（４時間)。
テキスト	**今年度は 立花直樹ほか編『子ども家庭福祉』（ミネルヴァ書房） を指定します。**	
指定図書	なし。講読する論文や文献に記されている参考文献を読んでみてください。	

※実務経験のある教員による授業科目の担当教員の実務経験および、教育内容

実務経験：障害者総合支援法による障害福祉サービス事業や地域生活支援事業を活用して運営されているフリースクールで、主に発達障害や知的障害のある特別支援学校高等部段階に相当する生徒や大学生に相当する青年に対する学習支援や学習支援の在り方に関わる研究と実践に携わりました。また、文部科学省による「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究」で、NPO 法人や社会福祉法人が行政と連携協働しながら障害者の生涯学習プログラムを構想・開発する事業にも携わりました。

教育内容：フリースクールでの実務経験をもとに、学生の教育的ニーズや理解度を丁寧に汲み取りつつ、子ども家庭福祉だけでなく、教育・保育や障害児・者福祉との関連も重視した授業を行います。

科　目　名	**保育学**	担当者	石井美和子
区　分　等	２年次・後期 [講義] ２単位　選択／生活文化専攻		
評価基準	①　課題提出（40%） ②　レポート提出・発表（50%） ③　授業への取り組み姿勢（10%）		
課題に対するフィードバック	提出物（レポート）については、随時コメントをつけて返却する。		
目　　的	核家族化、少子化、ライフスタイルの多様化、幼児教育、新たな子育てが求められる時代に、育つ子どもを理解し、子どもを育てる大人や親になるとはどういうことなのかを理解できるようにする。		
到達目標	・乳幼児を取り巻く社会情勢の変化の中で、どんな子育てが求められているのかを知ることができる。(DP1、DP2) ・子どもを健やかに産み、心身ともに健康に成長させるために必要な知識や技術を知ることができる。(DP1、DP2)		
履修上の注意	・妊娠・出産・育児についての知識を学び、自分なりの考え方をきちんと持てるように、積極的な態度で授業に臨むこと。 ・欠席した場合には授業の内容を確認する。 ・連絡は Google Classroom 経由で行うこともあるため、確認できるようにしておくこと。		
オフィスアワー	木曜日 16 時 30 分～17 時 30 分		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション 保育学とは	予習：新聞などに掲載されている保育に関する記事に積極的に目を通し、コピーまたは書き出しておく。（１時間）
2	赤ちゃん学を学ぶ① 妊娠と出産 DVD（生まれる）	予習：配布資料を読み重要なポイントをおさえて授業に臨む。（1 時間） 復習：課題に取り組む。（１時間）
3	赤ちゃん学を学ぶ②	予習：配布資料を読み重要なポイントをおさえて授業に臨む。（1 時間） 復習：課題に取り組む。（１時間）
4	赤ちゃん学を学ぶ③	予習：配布資料を読み重要なポイントをおさえて授業に臨む。（1 時間） 復習：課題に取り組む。（１時間）
5	赤ちゃん学を学ぶ④	予習：配布資料を読み重要なポイントをおさえて授業に臨む。（1 時間） 復習：課題に取り組む。（１時間）
6	赤ちゃん学を学ぶ⑤	予習：配布資料を読み重要なポイントをおさえて授業に臨む。（1 時間） 復習：課題に取り組む。（１時間）
7	赤ちゃん学を学ぶ⑥	予習：配布資料を読み重要なポイントをおさえて授業に臨む。（1 時間） 復習：課題に取り組む。（１時間）
7	ライフスタイルを考える	復習：自分のライフスタイルについて考え、課題に取り組む。（１時間）
8	子どもの養育の意義・目標	予習：育児雑誌について調べる。（１時間）
9	子育てとは①	予習：配布資料を読み重要なポイントをおさえて授業に臨む。（1 時間） 復習：育児雑誌を調べてまとめる（グループ）。（１時間）
10	子育てとは②	予習：配布資料を読み重要なポイントをおさえて授業に臨む。（1 時間） 復習：育児雑誌を調べて発表の準備をする。（１時間）
11	子育てとは③	予習：配布資料を読み重要なポイントをおさえて授業に臨む。（1 時間） 復習：育児雑誌のメリット・デメリットを考える。（１時間）
12	具体的な育児方法① 子育てに必要な用品の選択と準備	予習：配布資料を読み重要なポイントをおさえて授業に臨む。（1 時間） 復習：おもちゃについて調べる・作成する。（２時間）
13	具体的な育児の方法　② DVD（抱っこの仕方・赤ちゃんのお風呂の入れ方・安全な調乳）	予習：配布資料を読み重要なポイントをおさえて授業に臨む。（1 時間） 復習：体験したことのポイントを捉えてまとめる。（１時間）
14	保育学についてのレポート作成	予習：レポート作成（自分の課題を持ってまとめる）（３時間）
15	乳幼児を取り巻く社会情勢を知り、妊娠出産、育児についてまとめ、課題などについて考える。	復習：これまでの学習の復習（２時間）

テキスト	なし
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	**秘書実務Ⅱ**	担当者	小林紀子
区　分　等	２年次・前期［演習］１単位　選択／生活文化専攻、健康栄養専攻		
評価基準	①授業内演習５割 ②授業内まとめテスト５割		
課題に対するフィードバック	①提出課題は、随時解説をつけ返却する。 ②秘書検定面接試験については個別指導をする。		
目　的	秘書士として職務を果たすのに必要な実践的知識・技術を学び、円滑な人間関係を作れる資質やセンスのある人格育成、並びに、コミュニケーション能力、状況判断、問題解決などの職能開発をする。		
到達目標	①説得力のあるプレゼンテーションができる。(DP2、DP3) ②ビジネスタスクをシミュレーションできる。(DP2、DP3) ③自分で考え、スキルを使って仕事を処理することができる。(DP2、DP3)		
履修上の注意	特になし		
オフィスアワー	月曜日　12 時 15 分～13 時 05 分		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	プレゼンテーション 聴き手に判断や意思決定させるための実践	企画シート作成と自己評価（1 時間）
2	タスク・ベース・シミュレーション オフィスコミュニケーション	話し方と人間関係復習（1 時間）
3	タスク・ベース・シミュレーション 受付（午前）	来客応対・電話応対復習（1 時間）
4	タスク・ベース・シミュレーション 受付（午後）	秘書英語復習（1 時間）
5	タスク・ベース・シミュレーション スケジューリング（午前）	言葉づかい復習（1 時間）
6	タスク・ベース・シミュレーション スケジューリング（午後）	言葉づかい復習（1 時間）
7	タスク・ベース・シミュレーション 出張準備	時刻表の見方復習（1 時間）
8	タスク・ベース・シミュレーション 出張後の仕事	伝票の復習（1 時間）
9	タスク・ベース・シミュレーション 会議（取締役会）	文書の復習（1 時間）
10	タスク・ベース・シミュレーション ビジネスメール	電子メール復習（１時間）
11	総合演習　　イン・バスケットⅠ オフィスの仕事（第１回）	演習ふりかえり（1 時間）
12	総合演習　　イン・バスケットⅡ オフィスの仕事（第２回）	演習ふりかえり（1 時間）
13	総合演習　　イン・バスケットⅢ オフィスの仕事（第３回）	演習ふりかえり（1 時間）
14	検定対策　秘書検定準１級対応	秘書検定準１級合格を目指す学習を継続すること。（2 時間以上）
15	まとめ　　イン・バスケットと実技	これまでの復習（1 時間）

テキスト	自作教材使用
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	**ビジネス実務演習Ⅱ**	担当者	佐藤　恵
区　分　等	２年次・前期［演習］１単位　選択／生活文化専攻、健康栄養専攻		
評価基準	①プレゼンテーション・ロールプレイングなどの発表(70%) ②グループワークへの貢献(30%)		
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスや提案をして学生にフィードバックする。		
目　　的	職場で役立つビジネス実務を身につけるために、ビジネス実務マナーやオフィスワークの理論を学ぶ。また、理論を実践に移すためにトレーニング学習を通して、ビジネス実務を学ぶ。		
到達目標	ロールプレイングによる実務訓練により、社会人としての基本的なマナーと表現力・判断力が身につき、実践できるようになる。(DP1,2,3)		
履修上の注意	ビジネス実務士（全国大学実務教育協会）課程の必修科目である。 授業内の課題や演習問題は積極的に取り組むこと。		
オフィスアワー	金曜日 13:00～16:30		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション：ビジネスゲームで考える「チームワーク」	(事前)自分の経験からチームワークを高める方法をまとめておく。 （事後）気づきのまとめる
2	報告・連絡・相談①	授業の復習とロールプレイの練習（1 時間）
3	報告・連絡・相談②	授業の復習とロールプレイの練習（1 時間）
4	ビジネスゲームで考える「調整と交渉」	（事前）伝達方法について調べる。(1 時間)
5	コミュニケーショントレーニング アサーション①　理論・基礎	自分のコミュニケーション・考え方の癖を確認する
6	コミュニケーショントレーニング アサーション②　交渉	「交渉方法」についてまとめる。(1 時間)
7	コミュニケーショントレーニング アサーション③　批判	「批判への対処」についてまとめる（1 時間）
8	会議の技術：準備と心構え・意見の述べ方	授業の復習とロールプレイの練習（1 時間）
9	会議の技術：司会進行	授業の復習とロールプレイの練習（1 時間）
10	総合演習：会議の実際（1）	「会議のテーマ」について自分の考えをまとめておく。(1 時間)
11	総合演習：会議の実際（2）	(事前)「会議のテーマ」について自分の考えをまとめておく。(1 時間)
12	情報収集：データの読み方、まとめ方	(事前)新聞・ネットから、現在話題になっていること、自身が気になっているニュースを集め、発表準備をする。(2 時間)
13	発表の仕方：資料作成と立ち居振る舞い	発表準備（2 時間）
14	総合演習：プレゼンテーション（1）	（事前）プレゼンテーション準備 （事後）プレゼンテーションの振り返り（1 時間）
15	総合演習：プレゼンテーション（2）	（事前）プレゼンテーション準備 （事後）プレゼンテーションの振り返り

テキスト	『新ビジネスとオフィスワーク』(樹村房)
指定図書	なし

科　目　名	**英語Ａ**	担当者	菅野　薫
区　分　等	１年次・前期［演習］２単位　選択／生活こども専攻		
評価基準	学習態度（20%）、課題発表（20%）、宿題(30%)、定期試験（30%）		
課題に対するフィードバック	随時、提出課題へはフィードバックをし、返却をする。		
目　　的	英語教育低年齢化に伴い、保育現場でも活かせる実用的な英会話や最低限の英語のルールを身につけることを目指す。英語のアクティビティを学び、活かせるようになることを目指す。		
到達目標	英語圏の文化や文法なども学びながら、現場で英語の絵本の読み聞かせなどができるようになる。 現場で外国籍の子どもと話すための基本的な英会話力を身につける。 （DP1, DP2, DP3）		
履修上の注意	予習・復習は確実に行うこと。英会話が中心の授業もあるため、授業中は積極的に取り組むこと。		
オフィスアワー	水・金曜日 12 時 15 分～13 時		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション・自己紹介	（S.C.）Unit 1 予習（１時間）
2	（S.C.） Unit 1	（S.C.）Unit1 復習(0.4 時間)・Unit2 予習(0.6 時間)
3	（S.C.） Unit 1 振り返り、Unit2	（S.C.）Unit2 復習(0.4 時間)・文法 Unit 1 予習(0.6 時間)
4	文法 Unit1	品詞の復習(0.4 時間)・文法 Unit 2・3 予習(0.6 時間)
5	文法 Unit 2・3（be 動詞）	文法 Unit 2・3 復習(0.3 時間)・文法 Unit 4・5 予習(0.3 時間)・課題への取り組み(0.4 時間)
6	文法 Unit 4・5（be 動詞・There 構文）	文法 Unit 4・5 復習(0.3 時間)・文法 Unit 7・8 予習(0.3 時間) ・課題への取り組み(0.4 時間)
7	文法 Unit 7・8（一般動詞 1）	文法 Unit 7・8 復習(0.3 時間)・文法 Unit 9・10 予習(0.3 時間)・課題への取り組み(0.4 時間)
8	文法 Unit 9・10（一般動詞 2）	文法復習(0.5 時間)・課題への取り組み(0.5 時間)
9	文法総復習・課題の発表	（S.C.） Unit 3・4 予習（１時間）
10	（S.C.） Unit 3・4	（S.C.） Unit 3・4 復習(0.4 時間)・Unit 5 予習(0.6 時間)
11	（S.C.） Unit 5	（S.C.） Unit 5 復習(0.4 時間)・Unit 6 予習(0.6 時間)
12	（S.C.） Unit 6	（S.C.） Unit 6 復習(0.4 時間)・Unit 7 予習(0.6 時間)
13	（S.C.） Unit 7	（S.C.） Unit 7 復習（１時間）
14	文法を活用した会話練習	授業内容の復習（１時間）
15	英文法・語彙・表現等の振り返り	文法と英会話復習（１時間）

テキスト	Peter Vincent『Speaking Of Childcare』南雲堂 佐藤誠司　『5 分間　基本英文法確認トレーニング』　南雲堂
指定図書	あり（巻末参照）。 授業中に紹介します。

科　目　名	英語B	担当者	菅野　薫
区　分　等	１年次・後期［演習］２単位　選択／生活こども専攻		
評価基準	学習態度（20%）、課題発表（20%）、宿題(30%)、定期試験（30%）		
課題に対するフィードバック	随時、提出課題へはフィードバックをし、返却をする。		
目　　的	英語教育低年齢化に伴い、保育現場でも活かせる実用的な英会話や最低限の英語のルールを身につけることを目指す。英語のアクティビティを学び、活かせるようになることを目指す。		
到達目標	英語圏の文化や文法なども学びながら、現場で英語の絵本の読み聞かせなどができるようになる。 現場で外国籍の子どもと話すための実践的な英会話力を身につける。 （DP1, DP2, DP3）		
履修上の注意	予習・復習は確実に行うこと。英会話が中心の授業もあるため、授業中は積極的に取り組むこと。		
オフィスアワー	水・金曜日 12 時 15 分～13 時		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	文法・英会話の確認	（S.C.）Unit 8 予習（１時間）
2	（S.C.） Unit 8	（S.C.）Unit8 復習(0.4 時間)・Unit 9 予習(0.6 時間)
3	（S.C.） Unit 8　振り返り、Unit 9	（S.C.）Unit9 復習(0.4 時間)・文法 Unit 11 予習(0.6 時間)
4	（S.C.） Unit 9　振り返り、文法 Unit 11	品詞の復習(0.4 時間)・文法 Unit 14・15 予習
5	文法 Unit 14・15（疑問詞）	文法 Unit 14・15 復習・文法 Unit 16・17 予習（１時間）・課題への取り組み
6	文法 Unit 16・17（助動詞１）	文法 Unit16・17 復習(0.3 時間)・文法 Unit 18 予習(0.4 時間)・課題への取り組み(0.3 時間)
7	文法 Unit 18（助動詞２）	文法 Unit18 復習(0.3 時間)・文法 Unit 19・20 予習(0.4 時間)・課題への取り組み(0.3 時間)
8	文法 Unit 19・20（不定詞・動名詞）	文法復習(0.5 時間)・課題への取り組み(0.5 時間)
9	文法総復習・課題発表	（S.C.） Unit 10・11 の予習(1 時間)
10	（S.C.） Unit 10・11	（S.C.） Unit10・11 復習(0.3 時間)・Unit 12・13 予習(0.4 時間)・課題への取り組み(0.3 時間)
11	（S.C.） Unit 12・13	（S.C.） Unit 12・13 復習(0.3 時間)・Unit 14 予習(0.4 時間)・課題への取り組み(0.3 時間)
12	（S.C.） Unit 14	（S.C.） Unit 14 復習(0.3 時間)・Unit 15 予習(0.4 時間)・課題への取り組み(0.3 時間)
13	（S.C.） Unit 15	（S.C.）Unit 15 復習(0.3 時間)・会話練習(0.3 時間)・課題への取り組み(0.4 時間)
14	文法を活用した会話練習	授業内容の復習(0.5 時間)・課題への取り組み(0.5 時間)
15	総まとめ・課題発表	文法と英会話復習（１時間）

テキスト	Peter Vincent『Speaking Of Childcare』南雲堂 佐藤誠司　『5 分間　基本英文法確認トレーニング』　南雲堂
指定図書	あり（巻末参照）。 授業中に紹介します。

科　目　名	**体育講義**	担当者	松本奈緒
区　分　等	１年次・後期［講義］１単位　必修／生活こども専攻		
評価基準	定期試験、学習態度などを総合して評価する。６０点以上を合格とする。		
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスや提案をする等、学生にフィードバックする。		
目　的	生涯スポーツの視点から人間の一生と健康な生活、運動について理解する。		
到達目標	１．健康な生活と運動、運動の行い方、人間の発達段階と運動についての知識を得る。(DP1) ２．これらに関連する用語を覚え、また、資料やＶＴＲから自分の考えをまとめ表現することができる。(DP2) ３．講義内容を自主的に復習し、試験のための自習を実施できる。(DP3)		
履修上の注意	特になし		
オフィスアワー	授業の前後		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション 講義１「子どもの発達と運動１」	プリントを用いて講義内容を復習する。(30 分)
2	講義２「子どもの発達と運動２」	プリントを用いて講義内容を復習する。(30 分)
3	講義３「運動のしくみと技能」	プリントを用いて講義内容を復習する。(30 分)
4	講義４「高齢者と運動」	プリントを用いて講義内容を復習する。(30 分)
5	講義５「薬物乱用、飲酒、喫煙と健康」	プリントを用いて講義内容を復習する。(30 分)
6	講義６「運動の重要性と体力トレーニング、運動処方」	プリントを用いて講義内容を復習する。(30 分)
7	講義７「戦後スポーツ史」	プリントを用いて講義内容を復習する。(30 分)
8	講義のまとめ	プリントを用いて講義内容を復習する。(30 分)

テキスト	なし
指定図書	なし

科　目　名	**体育実技**	担当者	松本奈緒
区　分　等	１年次・前期、後期［実技］１単位　必修／生活こども専攻		
評 価 基 準	スキルテスト、学習態度などを総合して評価する。６０点以上を合格とする。		
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスや提案をする等、学生にフィードバックする。		
目　　的	運動に親しみ、スポーツに必要なスキルを身につける。		
到 達 目 標	１．運動に親しむ態度、スキル、ルール、マナー、運動に関する知識を身につける。(((DP1) ２．バスケットボール、バドミントン、バレーボールの基本的な技術・マナーを身につけ、主体的に運営を行いながら簡易なルールで協力して試合を行うことができる。(DP3) ３．技術向上のポイントや、グループで運動を実施する際の作戦を考え、自分の考えを表現できる。(DP2)		
履修上の注意	運動にふさわしい服装（ジャージ、体育館シューズ等）着用。		
オフィスアワー	授業の前後		

授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション、グルーピング	授業で取り上げる各スポーツのルールについて調べる。(30分)
2	バスケットボール１	授業で取り上げる各スポーツのルールについて調べる。(30分)
3	バスケットボール２	授業で取り上げる各スポーツの技能について調べる（30分）
4	バスケットボール３	授業で取り上げる各スポーツの技能について調べる（30分）
5	バスケットボール４	試合内容を振り返り自分の強化する練習方法について考える。（30分）
6	バスケットボール５	試合内容を振り返り自分の強化する練習方法について考える。（30分）
7	バスケットボール６	試合内容を振り返り自分の強化する練習方法について考える。（30分）
8	バスケットボール７	試合内容を振り返り自分の強化する練習方法について考える。（30分）
9	バドミントン１	授業で取り上げる各スポーツのルールについて調べる。(30分)
10	バドミントン２	授業で取り上げる各スポーツのルールについて調べる。(30分)
11	バドミントン３	授業で取り上げる各スポーツの技能について調べる（30分）
12	バドミントン４	授業で取り上げる各スポーツの技能について調べる（30分）
13	バドミントン５	試合内容を振り返り自分の強化する練習方法について考える。（30分）
14	バドミントン６	試合内容を振り返り自分の強化する練習方法について考える。（30分）
15	バドミントン７	試合内容を振り返り自分の強化する練習方法について考える。（30分）
16	バドミントン８	試合内容を振り返り自分の強化する練習方法について考える。（30分）
17	バレーボール１	授業で取り上げる各スポーツのルールについて調べる。(30分)
18	バレーボール２	授業で取り上げる各スポーツのルールについて調べる。(30分)
19	バレーボール３	授業で取り上げる各スポーツの技能について調べる（30分）
20	バレーボール４	授業で取り上げる各スポーツの技能について調べる（30分）
21	バレーボール５	試合内容を振り返り自分の強化する練習方法について考える。（30分）
22	バレーボール６	試合内容を振り返り自分の強化する練習方法について考える。（30分）
23	バレーボール７	試合内容を振り返り自分の強化する練習方法について考える。（30分）

テキスト	なし
指定図書	なし

科　目　名	**保育原理**	担当者	大曽基宣
区　分　等	１年次・前期［講義］２単位　必修／生活こども専攻		
評価基準	到達目標１・２・３：定期試験およびレポートにより評価する。(70%) 到達目標４：シャトルカードにより評価する。(30%)		
課題に対するフィードバック	定期試験、レポートおよびシャトルカードは、添削後に返却する。		
目　　的	保育の考え方や方法の基礎を知ることを目的とする。		
到達目標	１．保育の理念、思想、歴史的変遷を理解し、保育の基礎となる子ども観、保育観を自身の言葉で説明できる。(DP1, DP2) ２．保育所保育指針等における保育に関する基礎知識を身につける。(DP1) ３．保育の現状と課題について理解し、保育者としての役割と専門性を説明できる。(DP1) ４．保育の現状や保育観などについて自身の考えをまとめるにあたり、他者の考えを取り入れて改善することができる。(DP3)		
履修上の注意	１．授業中に確認テストを行う。基礎知識をしっかりと理解すること。 ２．授業中に意見交換をする機会を多数設ける。他者の意見を肯定的に受け入れ、自身の考えを広げる姿勢で授業に臨むこと。		
オフィスアワー	金曜日　１６時２０分～１６時５０分		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	保育の理念と意義	予習：テキスト pp1～16[保育とは何か]を読む(1h) 復習：目指す保育者像に照らし、配付資料再読(1h)
2	保育の基盤としての子ども観	予習：テキスト pp19～33[子ども観とは何か]を読む(1h) 復習：子ども観の形成過程に照らし、配付資料再読(1h)
3	保育における子ども理解	予習：テキスト pp37～52[子ども理解から出発する保育]を読む(1h) 復習：子ども理解と自身の育ちに照らし配付資料再読(1h)
4	子どもが育つ環境の理解	予習：テキスト pp55～67[子どもが育つ環境の理解]を読む(1h) 復習：自身の育ちに照らし、人的環境・物的環境の視点から配付資料再読(1h)
5	保育内容・方法の原理	予習：テキスト pp71～87[保育内容・方法の原理]を読む(1h) 復習：幼児期に遊びが大切にされる理由を考察する視点から、配付資料再読(1h)
6	保育の計画と実践の原理	予習：テキスト pp91～107[保育の計画と実践の原理]を読む(1h) 復習：配付資料を再読し、指導計画の様式考案(1h)
7	保育における健康・安全の原理	予習：テキスト pp111～126[保育における健康・安全の原理]を読む(1h) 復習：配付資料を再読し、アレルギーのある子どもの気持ちに寄り添う環境と方法を考えてまとめる(1h)
8	多様な子どもと共に育つ保育	予習：テキスト pp129～142[多様な子どもと共に育つ保育]を読む(1h) 復習：配付資料の再読と、指定した動画視聴(1h)
9	子どもを中心とする保育を導いた思想家	予習：テキスト pp145～152[なぜ保育の歴史を学ぶのか]を読む(1h) 復習：自身が興味を持った思想家について調べる(1h)
10	日本における保育の歴史	予習：テキスト pp153～162[日本における保育制度の移り変わり]を読む(1h) 復習：配付資料を再読し、自身を育ててくれた家族に教育やしつけに関するインタビューをする(1h)
11	諸外国における保育の動向	予習：前回配付資料の[諸外国における保育の動向]を読む(1h) 復習：自身が興味を持った国における保育・幼児教育のナショナル・カリキュラムを調べる(1h)
12	保育者の専門性	予習：テキスト pp165～179[保育者に求められるもの]を読む(1h) 復習：自身が保護者だとして、自分の子どもを担当する保育者に求めるものを記述する(1h)
13	現代の子育てと子育て支援	予習：テキスト pp183～216[現代の子育てと子育て支援]を読む(1h) 復習：自身が住む自治体における子育て支援について調べる(1h)
14	保育の現状と課題	予習：前回配付資料[保育の現状と課題]を読む(1h) 復習：保育者の研修、保育者のキャリアパスについて調べる(1h)
15	「保育原理」の再考	予習：テキスト pp219～234[「保育原理」って何？]を読む(1h) 復習：育つとはどういうことか、自身の考えをまとめる(1h)

テキスト	渡邉英則ほか『保育原理』(ミネルヴァ書房)
指定図書	あり(巻末参照)

科　目　名	**社会的養護Ⅰ**	担当者	野内友規
区　分　等	１年次・前期［講義］２単位　必修／生活こども専攻		
評価基準	到達目標１：定期試験、授業内小テスト、授業内課題の内容に基づき評価する。(50%) 到達目標２：授業内提出物、授業態度、グループワークの活動状況に基づき評価する。(50%)		
課題に対するフィードバック	提出物（レポート）については、随時コメントをつけて返却する。		
目　　的	**子育て環境の著しい変化や子ども虐待の増加など、子どもの人権を擁護し保護するための社会的養護の重要性は増している。このような現状を理解するとともに、支援する保育者として、関わるための考え方や姿勢**を養う。		
到達目標	１．社会的養護を必要とする子どもたち及び取り巻く環境を理解するとともに社会的養護の制度について説明することができる(DP1) ２．社会的養護に関わる保者としての役割の重要性について理解し実践することができる。(DP2,DP3)		
履修上の注意	１．授業中に意見交換をする機会を多数設けるので最低限のコミュニケーション能力が備わっていること。他者の意見を肯定的に受け入れ、自身の考えを広げる姿勢で授業に臨むこと。 ２．授業において合理的配慮が必要な際は授業時に必ず担当教員に相談すること。		
オフィスアワー	月曜日７・８限		

授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	社会的養護の理念と定義	予習：テキストP1～P8（社会的養護の理念と定義）を読む。(1時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1時間)
2	社会的養護の歴史	予習：テキストP9～P18（社会的養護の歴史）を読む。（1時間） 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1時間)
3	児童家庭福祉の一分野としての社会的養護	予習：テキストP19～P28（児童家庭福祉の一分野としての社会的養護）を読む。(1時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1時間)
4	児童の権利擁護と社会的養護	予習：テキストP29～P36（児童の権利擁護と社会的養護）を読む。(1時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1時間)
5	社会的養護の制度と法体系	予習：テキストP37～P44（社会的養護の制度と法体系）を読む。（1時間） 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1時間)
6	社会的養護の仕組みと実施体系	予習：テキストP45～P54（社会的養護の仕組みと実施体系）を読む。(1時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1時間)
7	家庭養護と施設養護	予習：テキストP55～P64（家庭養護と施設養護）を読む。(1時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1時間)
8	社会的養護の専門職	予習：テキストP65～P74（社会的養護の専門職）を読む。(1時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1時間)
9	施設養護の基本原理 施設養護の実際	予習：テキストP75～P92（施設養護の基本原理）を読む。(1時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1時間)
10	施設養護とソーシャルワーク	予習：テキストP93～P100（施設養護とソーシャルワーク）を読む。(1時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1時間)
11	施設等の運営管理	予習：テキストP101～P108（施設等の運営管理）を読む。(1時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。（1時間）
12	専門職の倫理の確立	予習：テキストP109～P116（専門職の倫理の確立）を読む。（1時間） 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。（1時間）
13	被措置児童等の虐待防止	予習：テキストP117～P122（被措置児童等の虐待防止）を読む。(1時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。（1時間）
14	社会的養護と地域福祉	予習：テキストP123～P128（社会的養護と地域福祉）を読む。（1時間） 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。（1時間）
15	まとめと振り返り 社会的養護に関する補足説明とまとめ 授業内のレポート/試験のフィードバック	予習：テキストP1～P128に目を通す。（1時間） 復習：授業内で配布した問題をやり直す。（1時間）

テキスト	相澤譲治・今井慶宗編著『子どもと社会的養護の基本』ISBN：978-4-7620-2736-9（学文社）
指定図書	なし　※必要に応じて適宜推薦図書を紹介します。

科目名	**教育原理**	担当者	寺谷直輝
区分等	１年次・後期［講義］２単位　必修／生活こども専攻		
評価基準	**①学期内に３回実施する小テスト［３０％］(到達目標①と関連)** **②期末レポート「My Curriculum Report」［５０％］(到達目標②と関連)** **③予習課題の提出状況［±２０％］(到達目標③と関連)**		
課題に対するフィードバック	①小テストは、答案回収後に（授業時間中に）PowerPoint を用いて解説します。 ②期末レポートは、作成途中で適宜個別もしくは全体に共有して、フィードバックします。 ③予習課題は、次回の授業時間を使ってフィードバックします。		
目的	保育・子ども家庭福祉・文化・社会状況などの社会的観点を意識しながら、教育の歴史や思想において、教育学の基本的概念や教育の本質・目標がどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の制度や実践がどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解することが目的です。		
到達目標	①保育・子ども家庭福祉・文化・社会状況等の観点を関連づけながら、教育の概念・歴史・思想・制度・実践に関わる基礎知識を正確に理解できている **(DP1)**。 ②教育の概念・歴史・思想・制度・実践に関わる基礎知識を活用して、科学的・論理的思考に基づいた意見や教育的信条を記述できる **(DP2)**。 ③教育の概念・歴史・思想・制度・実践に関わる基礎知識を、積極的に獲得しようと努めている **(DP3)**。		
履修上の注意	①第１回の授業から必ず出席すること。 ②下記［準備学習の内容］(テキストの通読と予習課題の提出）を取り組む時間を確保すること。 ③毎回、「赤・青・緑」のフリクションボールペンを持参すること。		
オフィスアワー	火曜日昼休み　★左記以外の時間は事前にアポイントを取った上で来訪すること。		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	授業全体のガイダンス	復習：１年次前期の授業で行った演習科目・課外活動の概要と得られた資質能力について、配付資料（C列の素材）に整理すること。（１時間）
2	（第５章）学校教育制度の編成	予習：**テキスト第５章（PP.39-46）**を読み、指定した期日までに予習課題を 150 字以上で提出すること（３時間）。 復習：期末レポートのA列に活かせそうなキーワード（B列）と引用する理由を簡単にメモすること（１時間）。
3	（第６章）日本国憲法下の教育施策	予習：**テキスト第６章（PP.47-56）**を読み、指定した期日までに予習課題を 150 字以上で提出すること（３時間）。 復習：期末レポートのA列に活かせそうなキーワード（B列）と引用する理由を簡単にメモすること（１時間）。
4	（第７章）就学前のカリキュラム	予習：**テキスト第７章（PP.57-68）**を読み、指定した期日までに予習課題を 150 字以上で提出すること（３時間）。 復習：期末レポートのA列に活かせそうなキーワード（B列）と引用する理由を簡単にメモすること（１時間）。
5	第１回小テストの実施と解説 ●第１回から第４回の授業で学んだことの振り返り	予習：小テストに向けて、第１回から第４回までに学習した内容を整理すること（２時間）。 復習：小テストを通じて授業内容の理解度を自己評価した上で、期末レポートの作成を進めること（２時間）。
6	（第４章）教育思想の背景と系譜	予習：**テキスト第４章（PP.27-38）**を読み、指定した期日までに予習課題を 150 字以上で提出すること（３時間）。 復習：期末レポートのA列に活かせそうなキーワード（B列）と引用する理由を簡単にメモすること（１時間）。
7	（第 12 章）多文化と教育統治	予習：**テキスト第 12 章（PP.109-118）**を読み、指定した期日までに予習課題を 150 字以上で提出すること（３時間）。 復習：期末レポートのA列に活かせそうなキーワード（B列）と引用する理由を簡単にメモすること（１時間）。
8	（第 13 章）生涯発達と教育機会	予習：**テキスト第 13 章（PP.119-126）**を読み、指定した期日までに予習課題を 150 字以上で提出すること（３時間）。 復習：期末レポートのA列に活かせそうなキーワード（B列）と引用する理由を簡単にメモすること（１時間）。

9	（第 15 章）人間存在と近代社会	予習：**テキスト第 15 章（PP. 137–144）**を読み、指定した期日までに予習課題を 150 字以上で提出すること（３時間）。 復習：期末レポートのＡ列に活かせそうなキーワード（Ｂ列）と引用する理由を簡単にメモすること（１時間）。
10	第２回小テストの実施と解説 ●第６回から第９回の授業で学んだことの振り返り	予習：小テストに向けて、第６回から第９回までに学習した内容を整理すること（２時間）。 復習：期末レポートのＡ列に活かせそうなキーワード（Ｂ列）と引用する理由を簡単にメモすること（１時間）。
11	（第２章）人間形成の根源と価値	予習：**テキスト第２章（PP. 9–18）**を読み、指定した期日までに予習課題を 150 字以上で提出すること（３時間）。 復習：期末レポートのＡ列に活かせそうなキーワード（Ｂ列）と引用する理由を簡単にメモすること（１時間）。
12	（第３章）臨床的な理解の方法	予習：**テキスト第３章（PP. 19–26）**を読み、指定した期日までに予習課題を 150 字以上で提出すること（３時間）。 復習：期末レポートのＡ列に活かせそうなキーワード（Ｂ列）と引用する理由を簡単にメモすること（１時間）。
13	（第 10 章）教師のキャリア形成	予習：**テキスト第 10 章（PP. 89–98）**を読み、指定した期日までに予習課題を 150 字以上で提出すること（３時間）。 復習：期末レポートのＡ列に活かせそうなキーワード（Ｂ列）と引用する理由を簡単にメモすること（１時間）。
14	（第９章）臨床的な教育の実践	予習：**テキスト第９章（PP. 79–88）**を読み、指定した期日までに予習課題を 150 字以上で提出すること（３時間）。 復習：期末レポートのＡ列に活かせそうなキーワード（Ｂ列）と引用する理由を簡単にメモすること（１時間）。
15	第３回小テストの実施と解説 ●自己評価アンケートの実施 ●第 11 回から第 14 回の授業で学んだことの振り返り	予習：小テストに向けて、第 11 回から第 14 回までに学習した内容を整理すること（２時間）。 復習：期末レポートを指定した期日までに事務局窓口に提出すること（４時間）。
テキスト	今年度は **池田隆英ほか編『なぜからはじめる教育原理 第３版』（建帛社）** を指定します。	
指定図書	文部科学省『幼稚園教育要領解説 平成 30 年３月』（フレーベル館）　他（巻末参照）	

※実務経験のある教員による授業科目の担当教員の実務経験および、教育内容

実務経験：障害者総合支援法による障害福祉サービス事業や地域生活支援事業を活用して運営されているフリースクールで、主に発達障害や知的障害のある特別支援学校高等部段階に相当する生徒や大学生に相当する青年に対する学習支援や学習支援の在り方に関わる研究と実践に携わりました。また、文部科学省による「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究」で、NPO 法人や社会福祉法人が行政と連携協働しながら障害者の生涯学習プログラムを構想・開発する事業にも携わりました。

教育内容：フリースクールでの実務経験をもとに、学生が受けてきた学校教育等の経験や理解度を丁寧に汲み取りながら、教育と福祉の関連性や、自分自身が過ごしてきた学校・受けてきた教育の在り方について再考することを特に重視した授業を行います。

科　目　名	**教育心理学**	担当者	織田栄子
区　分　等	１年次・前期［講義］２単位　必修／生活こども専攻		
評価基準	到達目標１　定期試験でのテスト（40%）、中間まとめ（30%） 到達目標２　受講カードの提出と内容（20%）、受講取り組み態度（10%）。		
課題に対するフィードバック	１　提出物（ワークシート等）は、随時、コメントを付けて返却する。 ２　提出物、中間まとめやテストは、随時、アドバイスなど学生にフィードバックする。		
目　　的	子どもの学習過程を踏まえながら、子ども一人ひとりの特徴に応じた教育的対応を身に付ける。		
到達目標	１　子どもの心身や人間関係等、発達的特徴や個人差に応じた教育的対応方法がわかる。（DP1,DP2） ２　自己理解を通して、保育者としての心構えができ、子どもや保護者等への理解が深まる。（DP3）		
履修上の注意	授業内でワークや心理テストを体験してもらいます。ＤＶＤや動画を適宜使います。		
オフィスアワー	火曜日昼休み		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション 保育と教育心理学１ ・教育心理学とは何か	・予習：教科書 p1～5「第 1 章保育と教育心理学、1. 保育者の役割と教育心理学」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
2	保育と教育心理学２ ・教育心理学の研究法	・予習：教科書 p22「コラム 2 教育心理学の研究方法」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
3	保育と教育心理学３ ・様々な児童観と教育観	・予習：教科書 p10～15「第 1 章保育と教育心理学 3. さまざまな児童観と教育観」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
4	発達と教育１ ・発達を規定するもの ・発達段階と発達課題	・予習：教科書 p23～31「第 2 章発達と教育、1.発達を規定するもの、2.発達段階と発達課題」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
5	発達と教育２ ・思考の発達と教育 ・言葉の発達と教育	・予習：教科書 p31～48「2.発達段階と発達課題、3.思考の発達と教育、4.ことばの発達と教育」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
6	学習のしくみ１ ・条件づけ ・洞察学習 ・社会的学習	・予習：教科書 p49～61「第 3 章学習のしくみ、1.乳幼児と学習、2.さまざまな学習」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
7	学習のしくみ２ ・記憶 やる気を育てる１ ・内発的動機づけ、外発的動機づけ	・予習：教科書 p61～66「3.記憶」、教科書 p72～93「第 4 章やる気を育てる」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
8	やる気を育てる２ ・内からの「やる気」を育てる ・中間まとめと解説	・予習：教科書 p71～93、第 7 回授業時配付資料を読み直しながら、インターネットや書籍で「やる気」について調べ、要点をまとめる（7.5 時間） ・復習：中間まとめで課されたテーマを教科書 p72～93、第 7 回授業時配付資料を読み、要点をまとめる。
9	個人差の理解１ ・知能とは何か ・知能の測定	・予習：　教科書ｐ95～108「第 5 章個人差の理解、1.個人差と個性、2.知能とは何か」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
10	個人差の理解２ ・性格とは何か ・性格の測定・適応	・予習：教科書ｐ103～108「第 5 章個人差の理、3.性格とは何か」を読む（0.75 時間） ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
11	個人差の理解３ ・性格の捉え方	・予習：教科書ｐ103～108「第 5 章個人差の理解、3.性格とは何か」を読む（0.75 時間） ・復習：授業で配付した資料を読む（0.75 時間）
12	個人差の理解４ ・性格を捉えた子どもへの対応の仕方	・予習：　教科書ｐ103～108「第 5 章個人差の理解、3.性格とは何か」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む（0.75 時間）・
13	個人差の理解５ ・適応	・予習：　教科書ｐ108～114「第 5 章個人差の理解、4.子どものあり方の理解と適応」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)

14	人間関係と社会化 ・親子関係と友だち関係 ・道徳性	・予習： 教科書ｐ115～135「第6章人間関係と社会」を読む(0.75時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75時間)
15	特別な支援を要する子どもたち 親の理解と子育て支援	・予習： 教科書ｐ139～181、「第7章特別な支援を要する子どもたち、第8章親の理解と子育て支援」を読む(0.75時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75時間)

テキスト	石井正子、松尾直博編著『教育心理学－保育者をめざす人へ－』(樹村房)
指定図書	『幼稚園教育要領および解説』(最新版)(文部科学省著、フレーベル館) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領および解説』(最新版)(内閣府・文部科学省・厚生労働省著、フレーベル館) その他(巻末参照)。適宜、参考図書等を紹介します。

科　目　名	**こどもの保健**	担当者	佐々木澄子
区　分　等	１年次・前期［講義］２単位　必修／生活こども専攻		
評価基準	到達目標１：試験(70%) 到達目標２：課題レポート(20%) 到達目標３：受講態度(10%)		
目　的	子どもの心身の健康と保健の意義、子どもの身体発育や生理機能の特性・発達、子どもの健康状態とその把握、疾病とその予防・対応など保育における保健的対応に必要な基礎的事項を学ぶ。		
到達目標	子どもと家族を取り巻く環境について理解できる。(DP1・DP2) 子どもの発育・発達の理解が出来、子どもの生理機能を知ることができる。(DP1・DP2) 子どもの疾病や予防及び適切な対応等基礎的知識をもつことが出来る。(DP1・DP3) 現代社会における課題と問題を考え、理解できる。(DP1・DP2・DP3)		
履修上の注意	母子手帳を持参する 事前に家族から子ども時代の状況を収集する。		
オフィスアワー	授業終了後		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	子どもと家族を取り巻く社会 歴史と環境（世界・日本） 家族とは　親とは　母親(養育者)とは	4時間 予習：テキスト内：歴史的変遷と課題・子どもを取り巻く社会と変化の関連事項を読む 事前準備：自分の子ども時代の情報をまとめておく
2	子どもと家族を取り巻く社会 子どもの権利と法律・政策 社会保障制度	4時間 予習：テキスト内：子どもの権利と人権・倫理と法律の関連事項を読む
3	子どもの成長・発達 発達理論 遊びと教育	4時間 予習：テキスト内：愛着理論と発達理論・子どもの成長発達の関連事項を読む
4	子どもの成長・発達 成長・発達の原則	4時間 予習：テキスト内：子どもの成長発達の関連事項を読む
5	子どもの成長・発達 形態・機能的発達	4時間 予習：テキスト内：子どもの成長発達の関連事項を読む：自分の母子手帳を読んでおく
6	子どもの成長・発達 子どもの病気 成長・発達に影響を与える因子 成長・発達の評価	4時間 予習：テキスト内：子どもの成長発達の関連事項を読む
7	子どもの成長・発達 幼児期の発達	4時間 予習：テキスト内：子どもの成長発達の関連事項を読む
8	子どもの病気 健康問題:幼児期 先天的な病気	4時間 予習：テキスト内：幼児期に起こりやすい健康問題・先天的な病気の関連事項を読む
9	子どもの病気 感染性の病気	4時間 予習：テキスト内：よく見られる感染症と予防接種の関連事項を読む
10	子どもの病気 脱水になりやすい状況	4時間 予習：テキスト内：子どもの脱水の関連事項を読む
11	子どもの病気 心身障害について 発達障害について	4時間 予習：テキスト内：身体・精神の障害についての関連事項を読む
12 13	現代社会における課題と問題 虐待の現状とGW	8時間 事例を読んでの考えをまとめる GWにおいて、自分の意見を述べるとともに他者の意見を受けいれ、自分の考えを深める記述する
14 15	救急処置と受診 救急処置 子どもの受診の目安	8時間 デモンストレーション後の演習

テキスト	看護学テキストNiCE 小児看護学概論・小児看護技術改訂第4版　子どもと家族を理解し力を引き出す　(南江堂)
指定図書	なし

科目名	こどもの健康と安全	担当者	大曽基宣
区分等	１年次・後期［演習］１単位　選択／生活こども専攻		
評価基準	①課題レポート（50%） ②受講態度と演習におけるグループ活動（50%）		
課題に対するフィードバック	提出物（レポート）については、随時コメントをつけて返却する。		
目的	保健的観点に基づき、活動の計画及び評価、心身の保健に関する保健活動や環境、体調不良等に対する適切な対応、救急時の対応や事故防止、衛生管理並びに安全管理等について学ぶ。また、感染症の発生対策及び予防と適切な対応についてより実践的な力を身につける。		
到達目標	①子どもの心身の発育、発達、健康管理を促す健康活動について理解できる。(DP1) ②子どもの疾病と予防、緊急時の対応や事故防止、安全管理について知識と技術を習得できる。(DP1) ③子どもの養育環境、精神保健、地域活動について理解できる。(DP1, DP2, DP3)		
履修上の注意	１．授業中に確認テストを行う。基礎知識をしっかりと理解すること。 ２．授業中に意見交換をする機会を多数設ける。他者の意見を肯定的に受け入れ、自身の考えを広げる姿勢で授業に臨むこと。		
オフィスアワー	金曜日　１６時２０分～１６時５０分		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション（ルールから考える子どもの健康と安全）	予習：健康や安全に関わる中学校・高校における校則を調べる(1h) 復習：ヘルスプロモーションの概念について調べる(1h)
2	乳幼児の心身の発育発達	予習：前回配付資料[乳幼児の心身の発育発達]を読む(1h) 復習：母子健康手帳で自身の発育状況を調べる(1h)
3	乳幼児の基本的生活習慣	予習：前回配付資料[乳幼児の基本的生活習慣]を読む(1h) 復習：授業目標に照らして、配付資料を再読する(1h)
4	乳幼児の怪我や事故の特徴	予習：前回配付資料[乳幼児の怪我や事故の特徴]を読む(1h) 復習：授業目標に照らして、配付資料を再読する(1h)
5	園におけるリスクと安全管理	予習：前回配付資料[園におけるリスクと安全管理]を読む(1h) 復習：授業目標に照らして、配付資料を再読する(1h)
6	散歩と安全管理（散歩・発表準備）	予習：前回配付資料[散歩と安全管理]を読む(1h) 復習：散歩と安全管理の発表準備グループ活動(1h)
7	散歩と安全管理（発表・授業内レポート作成）	予習：散歩と安全管理の発表準備グループ活動(1h) 復習：他グループの発表を考察する(1h)
8	傷病時の応急手当	予習：前回配付資料[傷病時の応急手当]を読む(1h) 復習：授業目標に照らして、配付資料を再読する(1h)
9	個別な配慮を必要とする子どもへの対応	予習：前回配付資料[個別な配慮を必要とする子どもへの対応]を読む(1h) 復習：授業目標に照らして、配付資料を再読する(1h)
10	感染症予防と衛生管理	予習：前回配付資料[感染症予防と衛生管理]を読む(1h) 復習：授業目標に照らして、配付資料を再読する(1h)
11	感染症予防に関する掲示物作成	予習：前回配付資料[感染症予防に関する掲示物作成]を読む(1h) 復習：感染症予防に関する掲示物を完成させる（1h)
12	虐待への気づきと対応	予習：前回配付資料[虐待への気づきと対応]を読む(1h) 復習：授業目標に照らして、配付資料を再読する(1h)
13	子どもの保健における連携と協働	予習：前回配付資料[子どもの保健における連携と協働]を読む(1h) 復習：自身が住む自治体における子どもに関わる保健事業を調べる(1h)
14	保健だよりの作成	予習：前回配付資料[保健だよりの作成]を読む(1h) 復習：保健だよりを完成させる(1h)
15	保健だよりの共有と省察	予習：保健だよりを完成させる(1h) 復習：授業目標に照らして、配付資料を再読する(1h)

テキスト	なし
指定図書	なし

科　目　名	**保育内容総論**	担当者	石井美和子
区　分　等	１年次・後期［演習］１単位　選択／生活こども専攻		
評 価 基 準	定期試験(50%)、グループ討議・発表（30%）、課題レポート（20%）		
課題に対するフィードバック	授業時に提出された課題等は随時コメントをつけて返却する。		
目　　的	幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を理解し、具体的な幼児の姿と関連づけながら環境の構成や情報機器及び教材の児童文化材の活用及び実践に必要な知識や技能を身に付ける。 保育内容５領域について、幼児の生活や遊びを通して総合的にとらえる能力を養う。		
到 達 目 標	幼児教育は生活全体を通して総合的に指導するということを理解し、実践できるようになる。（DP1,DP2） 保育内容と具体的な幼児の姿を関連付けながら教材研究を行い、実践するために必要な知識や技能が身につく。（DP1,DP2,DP3）		
履修上の注意	授業中に意見交換をする機会を多数設ける。他者の意見を肯定的に受け入れ、自身の考えを広げる姿勢で授業に臨むこと。		
オフィスアワー	金曜日　１６時２０分～１６時５０分		

授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション 保育内容の意味	予習：テキスト①②③の保育内容に関する部分を読む（１時間） 復習：第１回の学習内容（プリント・テキスト）の振り返り（１時間）
2	保育内容の歴史的変遷	予習：配布プリント見直し、課題に取り組む。（１時間） 復習：第２回の学習内容（プリント）の振り返り（１時間）
3	保育内容と子どもの発達	予習：配布プリント見直し、課題に取り組む。（１時間） 復習：第３回の学習内容（プリント・テキスト）の振り返り（１時間）
4	乳幼児期の子どもにとっての遊びと学び	予習：配布プリント見直し、課題に取り組む。（１時間） 復習：第４回の学習内容（プリント・テキスト）の振り返り（１時間）
5	保育内容としての遊びや活動の具体的展開	予習：配布プリント見直し、課題に取り組む。（１時間） 復習：第５回の学習内容（プリント・テキスト）の振り返り（１時間）
6	保育内容と子どもの生活	予習：配布プリント見直し、課題に取り組む。（１時間） 復習：第６回の学習内容（プリント・テキスト）の振り返り（１時間）
7	幼児教育における５領域のねらいと内容のつながり	予習：配布プリント見直し、課題に取り組む。（１時間） 復習：第７回の学習内容（プリント・テキスト）の振り返り（１時間）
8	乳幼児期の発達と保育内容の実際①	予習：配布プリント見直し、課題に取り組む。（１時間） 復習：第８回の学習内容（プリント・テキスト）の振り返り（１時間）
9	乳幼児期の発達と保育内容の実際②	予習：配布プリント見直し、課題に取り組む。（１時間） 復習：第９回の学習内容（プリント・テキスト）の振り返り（１時間）
10	乳幼児期の保育環境と保育教材	予習：配布プリント見直し、課題に取り組む。（１時間） 復習：第 10 回の学習内容（プリント・テキスト）の振り返り（１時間）
11	幼児教育におけるカリキュラム・マネジメント	予習：配布プリント見直し、課題に取り組む。（１時間） 復習：第 11 回の学習内容（プリント・テキスト）の振り返り（１時間）
12	模擬保育に向けた指導計画の立案	予習：配布プリント見直し、課題に取り組む。（１時間） 復習：第 12 回の学習内容（プリント・テキスト）の振り返り（１時間）
13	模擬保育に向けた教材研究	予習：配布プリント見直し、課題に取り組む。（１時間） 復習：第 13 回の学習内容（プリント・テキスト）の振り返り（１時間）
14	模擬保育の実践と相互評価	予習：配布プリント見直し、課題に取り組む。（１時間） 復習：第 14 回の学習内容（プリント・テキスト）の振り返り（１時間）
15	模擬保育の省察	復習：第 15 回の学習内容（プリント・テキスト）の振り返り（１時間）

テキスト	①　文部科学省著『幼稚園教育要領および解説』（フレーベル館） ②　厚生労働省著『保育所保育指針および解説』（フレーベル館） ③　内閣府･文部科学省･厚生労働省著 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領および解説』（フレーベル館）
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	**保育内容・人間関係**	担当者	野内友規
区　分　等	１年次・前期［演習］１単位　選択／生活こども専攻		
評価基準	到達目標１：授業内小テスト、レポートの内容に基づき評価する。(20%) 到達目標２：実践発表および提出物（指導案）の内容に基づき評価する。(40%) 到達目標３：授業態度、グループワークの活動状況に基づき評価する。(40%)		
課題に対するフィードバック	提出物（レポート）については、随時コメントをつけて返却する。		
目　　的	人間関係を中心とした幼児の育ちを理解し、それを踏まえて自らの保育を構想・改善できる力を養う。		
到達目標	１．領域「人間関係」のねらい及び内容を理解し、人間関係を中心とした幼児の育ちに関する専門的事項について説明できる。(DP1) ２．人間関係に関わる幼児の育ちを理解し、遊びや生活のなかで育くまれる心情認識、思考および動き等を視野に入れた保育を構想し、具体的な指導案を作成することができる。(DP1,DP2) ３．主体的に自身の考えを述べ、他者の意見を取り入れながら、協働して取り組むことができる。（コミュニケーションにおいてコミュニケーション支援機器の使用は担当教員の許可のもと可とする。コミュニケーションにおける人的支援の配置は基本的に不可とする。）(DP3)		
履修上の注意	１．授業中に意見交換をする機会を多数設けるので最低限のコミュニケーション力を持ち合わせていること。他者の意見を肯定的に受け入れ、自身の考えを広げる姿勢で授業に臨むこと。 ２．授業において合理的配慮が必要な際は、授業時に必ず担当教員へ相談すること。		
オフィスアワー	月曜日７・８限		

授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	保育の基本	予習：テキストP1～P15（保育の基本）を読む。(1時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1時間)
2	領域「人間関係」	予習：テキストP15～P31（領域「人間関係」）を読む。(1時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1時間)
3	0歳以上3歳未満児の子どもの人間関係の発達	予習：テキストP32～P53（0歳以上3歳未満児の子どもの人間関係の発達）を読む。(1時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1時間)
4	3歳以上児の子どもの人間関係の発達	予習：テキストP54～P65（3歳以上児の子どもの人間関係の発達）を読む。(1時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1時間)
5	乳幼児の子どもの人とかかわる力を育む保育者のかかわり	予習：テキストP66～P77（乳幼児の子どもの人とかかわる力を育む保育者のかかわり）を読む。(1時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1時間)
6	自立心を育む	予習：テキストP78～P89（自立心を育む）を読む。(1時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1時間)
7	道徳性・規範意識の芽生え	予習：テキストP90～P103（道徳性・規範意識の芽生え）を読む。(1時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1時間)
8	協働して物事に取り組む	予習：テキストP104～P119（協働して物事に取り組む）を読む。(1時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1時間)
9	社会生活とのかかわり	予習：テキストP120～P131（社会生活とのかかわり）を読む。(1時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1時間)
10	遊びと人間関係の発達	予習：テキストP132～P145（遊びと人間関係の発達）を読む。(1時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1時間)
11	人とかかわる力を育む指導計画の作成	予習：テキストP146～P157（人とかかわる力を育む指導計画の作成）を読む。(1時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1時間)

12	特別な配慮を必要とする子どもの保育	予習：テキスト P158～P173（特別な配慮を必要とする子どもの保育）を読む。(1 時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1 時間)
13	子どもの育ちを支える保育者の人間関係	予習：テキスト P174～P189（子どもの育ちを支える保育者の人間関係）を読む。(1 時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1 時間)
14	ICT を活用した保育	予習：テキスト P190～P205（ICT を活用した保育）を読む。(1 時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1 時間)
15	人間関係における今日的課題	予習：テキスト P206～P218（人間関係における今日的課題）を読む。(1 時間) 復習：授業内で配布した問題をやり直す。（1時間）

テキスト	近喰晴子、小泉裕子編著『保育内容「人間関係」と指導法』ISBN：978-4-8058-8944-2（中央法規出版）
指定図書	あり

科　目　名	保育内容・言葉A	担当者	栗森　貢
区　分　等	１年次・前期［演習］１単位　選択／生活こども専攻		
評価基準	到達目標１：小テスト（10%） 到達目標２：授業内提出物(20%)、課題レポート(40%) 到達目標３：グループワーク及び授業に取り組む姿勢（30%）		
課題に対するフィードバック	学生の達成度に応じてアドバイスをし、回収した学習シートや課題レポートに必要なコメントを付して返却する。		
目的	話し言葉や書き言葉の意義と機能や、乳幼児期の言葉の獲得や発達の過程について、成長する子供の姿と合わせて理解できるようにする。		
到達目標	①乳幼児における言語の発達の概要を説明できる。(DP1) ②言葉の発達とそれを促進する具体的な方法を説明できる。(DP2) ③言語発達の促進要因や阻害要因を知ることができる。(DP3)		
履修上の注意	特になし		
オフィスアワー	月曜日～木曜日：放課後、金曜日：午後		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	ガイダンス 幼児の言葉の発達に関するおおよそを知る。	予習：学習計画を見通し、「幼稚園教育要領」の「言葉」について読んでおく。(1時間) 復習：次回の小テストのために法律に関する事項を学び直しておく。(1時間)
2	言葉の機能とコミュニケーションの関係を言葉の発達の側面から概観する。	予習：言葉をコミュニケーションの視点から調べる。（1時間） 復習：子どもの言葉の発達の特徴について確認する。(1時間)
3	０歳～２歳児前後の言葉の発達について、大人の乳幼児への関わりの仕方を中心に学ぶ。	予習：０歳～２歳児の喃語や乳幼児の身振りに関することを調べる。（1時間） 復習：０歳～２歳児の言葉の発達の特徴について確認する。(1時間)
4	０歳～２歳児前後の言葉の発達を促す保育の方法について、わらべ歌との関係から学ぶ。	予習：０歳～２歳児の保育の方法について調べる。（1時間） 復習：０歳～２歳児向けの保育の方法として「わらべ歌」を覚える。(1時間)
5	２歳～３歳児前後の言葉の発達について、大人との会話や幼児の文構造を中心に学ぶ。 〈グループワーク〉	予習：テキストで、2歳～3歳児前後の言葉の発達の特徴について調べてくる。(1.5時間) 復習：この時期の子どもへの関わり方をキーワードをもとにまとめる。(1時間)
6	２歳～３歳児前後の言葉の発達を促す保育の方法について、かぞえ歌を参考にして学ぶ。	予習：テキストで、2歳～3歳児前後の言葉の発達の特徴について調べてくる。(1.5時間) 復習：2歳～3歳児向けの保育の方法として「かぞえ歌」を覚える。(1時間)
7	３歳～４歳児前後の言葉の発達について、自我意識の成長との関係から学ぶ。 〈グループワーク〉	予習：仲間意識の芽生えや、この年代の人間関係の特徴を調べる。（1時間） 復習：グループワークで学んだことをまとめる。(1時間)
8	３歳～４歳児前後の言葉の発達を促す保育方法について、ことば遊びを例に実践的に学ぶ。	予習：３歳～４歳児前後にふさわしいことば遊びを調べる。（1時間） 復習：３歳～４歳児向けの保育の方法として、「言葉遊び」の方法を身に付ける。(1時間)
9	４歳～５歳児前後の言葉の発達について、因果関係に応じた言語表現の観点から学ぶ。	予習：テキストで、４歳～５歳児前後の言葉の発達の特徴について調べてくる。(1時間) 復習：子どもへの適切な言葉がけや言葉遊びとして早口言葉などを身に付ける。(1時間)
10	４歳～５歳児前後の言葉の発達を促す保育の仕方として、「楽しい読み聞かせのススメ」を学ぶ。 ［外部講師］　〈グループワーク〉	予習：楽しい読み聞かせのススメ」のために、自分なりに絵本の選書や読み方を練習する。（1時間） 復習：絵本の読み聞かせをするための基本的な姿勢を確認しておく。(1時間)
11	自分が選択した絵本や紙芝居をもとにして、読み聞かせの成果を披露する。 〈グループワーク〉	予習：グループ内で読み聞かせをするために、練習しておく。(1.5時間) 復習：読み聞かせの基本を身に付け、保育実習等で実践出来るようにする。(1時間)

12	５歳～６歳児前後の言葉の発達について、特徴的な生活場面を例に学ぶ。 〈グループワーク〉	予習：テキストで５歳～６歳児前後の言葉の発達について調べてくる。（１時間） 復習：５歳～６歳児前後の言葉の発達の特徴をキーワードを挙げてまとめておく。（1 時間）
13	５歳～６歳児前後の言葉の発達について、ひらがなを中心に具体的な方法を考える。	予習：この年代に即応した、ひらがなを使ったことば遊びを調べる。（1 時間） 復習：物語を作るプロセスを振り返り確実に記録しておく。（1 時間）
14	幼児期の言語障害の現れ方の特徴やメカニズムを理解する。	予習：言語障害に応じた現れ方の状況を調べる。（1 時間） 復習：言語障害と言語遅滞との違いについて確認する。（1 時間）
15	年齢に応じた言語発達の特徴をまとめ、その発達に応じた適切な保育の仕方を整理する。	予習：年齢に応じた言語発達の特徴について調べてくる。（1 時間） 復習：言語障害のいろいろをスピーチチェーンによる分類で確かめておく。（1 時間）

テキスト	文部科学省著『幼稚園教育要領および解説（最新版）』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省著『幼保連携型認定こども園教育・保育要領および解説（最新版）』（フレーベル館） 授業時に資料や記入用のプリントを配付する。
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	**保育内容・表現（音楽A）**	担当者	佐藤眞由子
区　分　等	１年次・後期［演習］１単位　選択／生活こども専攻		
評価基準	到達目標１：授業に対する姿勢(50%) 到達目標２：スケッチブックシアターの製作と発表(50%)		
課題に対するフィードバック	授業時に提出された表現活動記録用紙には随時コメントをつけて返却する。		
目　　的	・領域「表現（音楽)」について学習し、子どもの表現する姿やその発達を理解する。 ・保育現場での音楽活動に必要な基礎的な知識、技能を学ぶことによって、子どもの表現力を導き出す感性を豊かにし、子どもたちと一緒に表現を楽しめる保育者を育てるような授業を目指す。		
到達目標	１，ボディパーカッションやリズム遊びや合唱等を通して、リズム感、発声、音感等を身につけ、音楽表現の楽しさや喜び、アンサンブルの楽しさを味わう。(DP1,DP2,DP3) ２，スケッチブックシアターを製作することによって、既製絵本の読み聞かせとは違う独自のシアター発表を身につけることができる。(DP1,DP2,DP3)		
履修上の注意	「母とおさなごの歌」、「幼児のための音楽教育」、授業時に渡したプリント、筆記用具を持参する。		
オフィスアワー	金曜日 14 時 40 分～15 時 30 分		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	ガイダンス（科目内容、授業内容の紹介、子どもの表現とは何か)	領域「表現（音楽)」について
2	遊び歌・季節の歌・手遊び・わらべ歌 ①　スケッチブックシアターの製作	スケッチブックシアターの演目を決めるために楽曲を選ぶ。材料・道具をそろえる。
3	遊び歌・季節の歌・手遊び・わらべ歌 ②　スケッチブックシアターの製作	スケッチブックシアターの演目を決めるために楽曲を選ぶ。材料・道具をそろえる。
4	遊び歌・季節の歌・手遊び・わらべ歌 ③　スケッチブックシアターの製作	遊び歌・季節の歌・手遊び・わらべ歌（15 分） スケッチブックシアターの製作（70 分）
5	遊び歌・季節の歌・手遊び・わらべ歌 ④　スケッチブックシアターの製作と歌の練習と発表練習	遊び歌・季節の歌・手遊び・わらべ歌（15 分） スケッチブックシアターの製作（70 分）
6	遊び歌・季節の歌・手遊び・わらべ歌 ⑤　スケッチブックシアターの製作と歌の練習と発表練習	遊び歌・季節の歌・手遊び・わらべ歌（15 分） スケッチブックシアターの製作（70 分）
7	⑥　スケッチブックシアターの発表練習と発表	スケッチブックシアターの発表練習と発表
8	季節の歌・遊び歌・ボディパーカッション	・季節の歌・遊び歌・（２０分） ・ボディパーカッション（１時間）
9	季節の歌・遊び歌・ボディパーカッション	・季節の歌・遊び歌・（２０分） ・ボディパーカッション（１時間）
10	季節の歌・遊び歌・ボディパーカッション	・季節の歌・遊び歌・（２０分） ・ボディパーカッション（１時間）
11	季節の歌・遊び歌・ボディパーカッション	・季節の歌・遊び歌・（２０分） ・ボディパーカッション（１時間）
12	季節の歌・遊び歌・ボディパーカッション	・季節の歌・遊び歌・（２０分） ・ボディパーカッション（１時間）
13	季節の歌・遊び歌・ボディパーカッション	・季節の歌・遊び歌・（２０分） ・ボディパーカッション（１時間）
14	季節の歌・遊び歌・ボディパーカッション	・季節の歌・遊び歌・（２０分） ・ボディパーカッション（１時間）
15	まとめと創作ボディパーカッションの発表	・グループごとに創作したボディパーカッションの発表

テキスト	神原雅之・鈴木恵津子編著『幼児のための音楽教育』（教育芸術社） 全日本私立幼稚園連合会編『母とおさなごの歌』（全音楽譜出版社） 授業時に資料プリントを配付する。
指定図書	文部科学省著『幼稚園教育要領および解説（最新版)』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省著『幼保連携型認定こども園教育・保育要領および解説（最新版)』（フレーベル館）

科目名	乳児保育Ⅰ	担当者	石井美和子
区分等	１年次・前期 [講義] ２単位　選択／生活こども専攻		
評価基準	①　定期試験（40%） ②　課題提出（40%） ③　授業への取り組み姿勢（20%）。		
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスや提案等、学生にフィードバックする。		
目的	乳児保育は人格の基礎を作る時期であることを理解し、一人一人子どもの発達を保障する保育内容、乳児保育に関する現状や課題について理解を深める。そのうえで、3歳未満児の発達を踏まえた保育を理解するために必要な知識を身につける。また、職員間の連携･協働、及び保護者や地域の関係機関との連携を通して、保育に携わる意義を学ぶ力を養う。		
到達目標	１．乳児保育の意義・目的と歴史的変換及び役割などについて理解する。(DP1) ２．多様な保育の場における乳児保育の現状や課題について理解する。(DP1、DP2) ３．3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。(DP1、DP2) ４．乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。(DP1、DP2)		
履修上の注意	・欠席した場合には授業の内容を確認する。 ・連絡は Google Classroom 経由で行うこともあるため、確認できるようにしておくこと。		
オフィスアワー	金曜日 16 時 00 分～17 時 00 分		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション ―授業の進め方についての理解― ―乳児保育とは―	予習：保育所保育指針、保育所保育指針解説書の乳児保育の関連部分について熟読し、理解を深める。（１時間） 復習：配布プリント見直し、課題に取り組む。（１時間）
2	**乳児保育の意義・目的と役割** ―乳児保育の意義・目的と歴史― ―乳児保育の役割と機能―	予習：テキスト①の該当単元を読む（1時間） 復習：配布プリント見直し、課題に取り組む。（１時間）
3	―乳児保育における養護及び教育―	予習：テキスト①の該当単元を読む（1時間） 復習：配布プリント見直し、課題に取り組む。（１時間）
4	**乳児保育の現状と課題** ―保育所における乳児保育―	予習：テキスト①の該当単元を読む（1時間） 復習：配布プリント見直し、課題に取り組む。（１時間）
5	―乳児院等における乳児保育―	予習：テキスト①の該当単元を読む（1時間） 復習：配布プリント見直し、課題に取り組む。（１時間）
6	―家庭的保育等における乳児保育―	予習：テキスト①の該当単元を読む（1時間） 復習：配布プリント見直し、課題に取り組む。（１時間）
7	―乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題―	予習：テキスト①の該当単元を読む（1時間） 復習：配布プリント見直し、課題に取り組む。（１時間）
8	**3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育** ―3歳未満児の生活と環境―	予習：テキスト①②の該当単元を読む（1時間） 復習：配布プリント・テキスト①②の該当単元見直し、課題に取り組む。(1時間)
9	―3歳未満児の遊びと環境―	予習：テキスト①②の該当単元を読む（1時間） 復習：配布プリント・ホームページや指定図書などをしらべて、課題（遊びの教材研究）に取り組む。（２時間）
10	―3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり―	予習：テキスト①の該当単元を読む（1時間） 復習：配布プリント見直し、課題に取り組む。（１時間）
11	―3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮―	予習：テキスト①②の該当単元を読む（1時間） 復習：配布プリント・テキスト①②の該当単元見直し、課題に取り組む。(1時間)
12	―乳児保育おける計画・記録・評価とその意義―	予習：テキスト①②の該当単元を読む（1時間） 復習：配布プリント見直し、課題に取り組む。（１時間）
13	**乳児保育における連携・協働** ―職員間の連携・協働―	予習：テキスト①②の該当単元を読む（1時間） 復習：配布プリント見直し、課題に取り組む。（１時間）
14	―保護者、地域の関係者等との連携・協働―	予習：テキスト①②の該当単元を読む（1時間） 復習：配布プリント見直し、課題に取り組む。（１時間）
15	乳児保育を支える保育者の役割と乳児保育に携わる意義について考える	予習：授業内で作成した教材研究課題を整理する。 復習：これまでの復習・まとめ（２時間）

テキスト	①　講義で学ぶ乳児保育（わかば社） ②　演習で学ぶ乳児保育（わかば社） ③　厚生労働省編 『保育所保育指針』『保育所保育指針解説書』（フレーベル館）
指定図書	あり（巻末参照）

科目名	乳児保育Ⅱ	担当者	石井美和子
区分等	１年次・後期［演習］１単位　選択／生活こども専攻		
評価基準	①定期試験(40%)　②課題提出（40%）　③授業への取り組み姿勢(20%)。		
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスや提案等、学生にフィードバックする。		
目的	・３歳未満児の発育･発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解を深め、養護や教育の一体化を踏まえ、３歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境、配慮の実際ついて、具体的に理解する力を身につけること。 ・「乳児保育Ⅰ」で学んだ内容をもとに、実践的な知識と技術を身につけることを目指す。さらには、３歳未満児にかかわる保育者の役割、生活の環境などをどのように望ましいものにしていくべきか探求できるようにする。		
到達目標	１．３歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わり、基本的な考え方について理解する。(DP1) ２．養護や教育の一体性を踏まえ、３歳未満児の子どもの遊びと保育方法及び環境ついて、具体的に理解する。(DP1、DP2) ３．乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。(DP1、DP2) ４．上記の１～３を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。(DP1、DP2、DP3)		
履修上の注意	・欠席した場合には授業の内容を確認する。 ・連絡は Google Classroom 経由で行うこともあるため、確認できるようにしておくこと。		
オフィスアワー	火曜日 16 時 30 分～17 時 30 分		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	**乳児保育の基本** ―養護と教育が一体となって行われる乳児保育の意義について―事例を通して学ぶ	予習：事前にテキスト①②の該当単元を読む。(１時間) 復習：配布プリント見直し、課題に取り組む。(１時間)
2	―子どもと保育士等との関係の重要性― ―子どもの体験と学びの芽生え―	予習：事前にテキスト①②の該当単元を読む。(１時間) 復習：配布プリント見直し、課題に取り組む。(１時間)
3	**乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた遊びの実際①** ―子どもの一日の流れと保育環境―演習１	予習：事前にテキスト①②の該当単元を読む。(１時間) 復習：配布プリント見直し、課題に取り組む。(１時間)
4	―　一人ひとりに応じた適切な援助を行うための実践―演習２	予習：事前にテキスト①②の該当単元を読む。(１時間) 復習：配布プリント見直し、課題に取り組む。(１時間)
5	―発達の特性と望ましい保育― ・発達の特徴をまとめる	予習：事前にテキスト①②の該当単元を読む。(１時間) 復習：配布プリント見直し、課題に取り組む。(１時間)
6	**乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活の実際②**―食事の援助と環境―	予習：事前にテキスト①②の該当単元を読む。(１時間) 復習：配布プリント見直し、課題に取り組む。(１時間)
7	―排泄の援助と環境―	予習：事前にテキスト①②の該当単元を読む。(１時間) 復習：配布プリント見直し、課題に取り組む。(１時間)
8	―着脱・清潔の援助と環境―	予習：事前にテキスト①②の該当単元を読む。(１時間) 復習：配布プリント見直し、課題に取り組む。(１時間)
9	―睡眠・休息の関する援助と環境―	予習：事前にテキスト①②の該当単元を読む。(１時間) 復習：配布プリント見直し、課題に取り組む。(１時間)
10	**乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた遊びの実際** ―3 歳未満児の遊びを支える環境の構成―	予習：事前にテキスト①②の該当単元を読む。(１時間) 復習：配布プリント見直し、課題に取り組む。(１時間)
11	**乳児保育おける配慮の実際①** ―子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮―	予習：事前にテキスト①②の該当単元を読む。(１時間) 復習：配布プリント見直し、課題に取り組む。(１時間)
12	**乳児保育おける配慮の実際②** ―２歳児の発達に合わせた行事のあり方―	予習：２歳児の発達を踏まえた配慮についての事前学習をする。(２時間)
13	**乳児保育の計画の実際-グループワーク①** ―模擬保育の実践①―	予習：模擬保育の準備を行う。(指導案作成なども含む)(２時間)
14	**―グループワーク②―** ―模擬保育実践②―振り返り	予習：模擬保育の準備を行う。(指導案作成なども含む)(２時間) 復習：授業終了時に振り返りをまとめる（1時間）
15	**乳児保育を支える連携について考える**	予習：事前にテキストの該当単元を読む。(１時間) 復習：授業内で作成した教材研究課題を整理する。これまでの授業内容を復習する。(２時間)

テキスト	①　演習で学ぶ乳児保育（わかば社） ②　厚生労働省編『保育所保育指針』『保育所保育指針解説書』（フレーベル館）
指定図書	あり（巻末参照）

科目名	社会的養護Ⅱ	担当者	佐藤邦子
区分等	1年次・後期［演習］1単位　選択／生活こども専攻		
評価基準	授業内試験（30%）、レポート（50%）、グループワークの参加度（20%）。		
課題に対するフィードバック	随時。アドバイスや提案をする等、学生にフィードバックする。		
目的	社会的養護の制度や実践について深く理解し、子どもの権利保障の視点から、支援のあり方を学ぶ。特に、児童養護施設、里親制度、ファミリーホームなどの実際の支援現場を知り、保育・福祉の専門職として必要な知識と倫理観を養うことを目的とする。		
到達目標	①社会的養護の基礎知識を理解する(DP1) ②社会的養護の実践を学ぶ(DP1) ③子どもの権利擁護と支援者の役割を理解する(DP1)④実践的な支援のあり方を考え、意見を述べることができる(DP2.DP3)		
履修上の注意	特になし。		
オフィスアワー	木曜日 16 時 15 分～16 時 45 分		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション 子どもの権利擁護	予習：テキスト P2～P10 を読む（1 時間） 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す（1 時間）
2	社会的養護における子どもの理解	予習：テキスト P13～P22 を読む（1 時間） 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す（1 時間）
3	社会的養護の内容①　日常生活支援	予習：テキスト P26～P36 を読む（1 時間） 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す（1 時間）
4	社会的養護の内容②　心理的支援	予習：テキスト P38～P48 を読む（1 時間） 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す（1 時間）
5	社会的養護の内容③　自立支援	予習：テキスト P50～P60 を読む（1 時間） 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す（1 時間）
6	施設養護の生活特性および実際①　乳児院	予習：テキスト P62～P70 を読む（1 時間） 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す（1 時間）
7	施設養護の生活特性および実際②児童養護施設	予習：テキスト P74～P84 を読む（1 時間） 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す（1 時間）
8	家庭養護の生活特性および実際	予習：テキスト P86～P94 を読む（1 時間） 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す（1 時間）
9	アセスメントと個別支援計画の作成	予習：テキスト P98～P108 を読む（1 時間） 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1 時間)
10	記録および自己評価	予習：テキスト P110～P120 を読む（1 時間） 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す（1 時間）
11	保育の専門性に関わる知識・技術とその実践	予習：テキスト P122～P132 を読む（1 時間） 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す（1 時間）
12	相談援助の知識・技術とその実践	予習：テキスト P134～P143 を読む（1 時間） 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す（1 時間）
13	ソーシャルワーク（知識・技術とその応用）	予習：テキスト P146～P156 を読む（1 時間） 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1 時間)
14	家庭支援	予習：テキスト P158～P170 を読む（1 時間） 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す（1 時間）
15	今後の社会的養護の課題と展望（施設見学）	施設のホームページを事前に目を通しておく

テキスト	『社会的養護Ⅱ』新・基本保育シリーズ⑱』　中央法規出版
指定図書	なし

科目名	保育内容・表現(身体A)	担当者	藤田洋子
区分等	1年次・前期［演習］1単位　選択／生活こども専攻		
評価基準	課題(40%)、発表(40%)、創作過程における主体的な姿勢(20%)		
課題に対するフィードバック	随時アドバイスや提案するなど学生にフィードバックする。		
目的	・幼児の表現する具体的な姿から、子どもの「表現したい」の心が動き出す要因を多角的に見出し、十分に楽しめるような言葉かけや動機付けなどを理解する力を養う。 ・子どもの心と体の総合的な発達を知るとともに、見て、聴いて、感じて表現することの楽しさを共感する力を養う。		
到達目標	①身体表現をすることの楽しさを実感するとともに楽しさを生み出す要因について理解することができる。(DP1,DP2) ②幼児の総合的な身体表現を支えるための感性を豊かにすることができる。(DP2,DP3)		
履修上の注意	①運動にふさわしい服装(ジャージ、体育館シューズ等)を着用すること。 ②7月以降は体育館の室温が高くなるため、水分補給できるように準備すること。		
オフィスアワー	火曜日昼休み		

	授業計画	準備学習(予習・復習)の内容および、時間
1	はじめの1歩　(表現とは何か) 領域「表現」のねらい及び内容と幼児の具体的な姿	予習:幼稚園教育要領解説ねらい及び内容「表現」P223～P233を読む。(0.75時間) 復習：授業内で配布した資料を読み直す。(0.75時間)
2	表現の源に出会う 子どもの遊び心と身体表現が生まれる要因 (＊子どものためのダンス)	予習：アクティブ・ラーニング(主体的で・対話的で・深い学び)の実現のために、子どもの遊ぶ姿をイメージする。(0.75時間) 復習：授業内で配布した資料を読み直す。(0.75時間)
3	自然とともだち(協働・即興) 自然との関わりで生まれる身体表現　(＊)	予習：ねらい及び内容「表現」P234～P23と「環境」P183～P188を読む。(0.75時間) 復習：授業内で配布した資料を読み直す。(0.75時間)
4	自然とともだち 自然や素材から感じる「音」発見 音・オノマトペ・身体表現の響きあい　(＊)	予習:「音日記」をつける。(土・日)ICTで「オノマトペ」について調べる。(0.75時間) 復習：授業内で配布した資料を読み直す。(0.75時間)
5	素材とともだち①(協働・創作) 「素材の質感」を活かした身体表現遊び	予習：身近な素材(自然･もの･音･動き・質感)に関心を向ける。(0.75時間 アクティブ・ラーニングが可能となる準備) 復習：授業内で配布した資料を読み直す。(0.75時間)
6	素材とともだち②(発表・共有) 「素材の質感」を活かした身体表現遊びの共有　(＊)	予習:協働性が発揮された発表になるように役割に必要な準備をする。(0.75時間) 復習：授業内で配布した資料を読み直す。(0.75時間)
7	楽しみからの発展 手遊びから身体表現への発展(即興)　(＊)	予習：ICTや手遊びの本で身体表現に発展できそうな手遊びを調べる。(0.75時間) 復習：授業内で配布した資料を読み直す。(0.75時間)
8	ともだちと一緒①(協働・創作) 身体表現の楽しさを生み出す要因　(＊)	予習：ねらい及び内容「環境」P199～P200を読む。様々な環境から生まれる身体表現を想像してみる。(0.75時間 アクティブ・ラーニングが可能となる準備) 復習：授業内で配布した資料を読み直す。(0.75時間)
9	ともだちと一緒②(発表・共有) 身体表現の楽しさを生み出す要因の共有　(＊)	予習:協働性が発揮された発表になるように役割に必要な準備をする。(0.75時間) 復習：授業内で配布した資料を読み直す。(0.75時間)
10	ともだちと一緒 わらべうた遊びにおいて育まれる音楽的感性と身体表現　(△わらべうたあそび)	予習：ねらい及び内容「環境」P230を読む。ICTを活用して保育現場で楽しんでいるわらべうた遊びを調べる。(0.75時間) 復習：授業内で配布した資料を読み直す。(0.75時間)
11	乳幼児の身体表現から読み取る総合的な育ち 「育みたい資質・能力の3つの柱」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」　(＊、◇民謡、△)	予習：幼稚園教育要領解説第1章総説第2「育みたい資質・能力の3つの柱」「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」P45～P68を読む。(0.75時間) 復習：授業内で配布した資料を読み直す。(0.75時間)
12	身近な教材の活用(協働・即興創作・発表・共有) 絵本から身体表現への発展　(◇民謡、△)	予習:反対言葉を調べ､それらに沿った身体表現を想像する。(0.75時間) 復習：授業内で配布した資料を読み直す。(0.75時間)
13	郷土文化から見えてくる身体表現①(調べる) 郷土文化への愛着と身体表現の豊かさ（郷土の踊り）	予習:郷土文化に関心をむけ親しまれている踊りや身体表現に繋がる文化をICT等で調べる。(0.75時間) 復習：授業内で配布した資料を読み直す。(0.75時間)
14	郷土文化から見えてくる身体表現②(発表・共有) 郷土文化への愛着と身体表現の豊かさ 昔の遊び体験(まりつき、けん玉)	予習：発表に向けて準備をする(内容の分かり易さを重視した説明とスライドを振りかえる。0.75時間) 復習：授業内で配布した資料を読み直す。(0.75時間)
15	学びの振り返りとキーワードに沿ったまとめ(＊、△)	予習：これまでの学びを自分なりに整理する。(0.75時間) 復習：幼稚園教育要領「表現」を読む。(0.75時間)

テキスト	①文部科学省『幼稚園教育要領』･『幼稚園教育要領解説』 ②厚生労働省『保育所保育指針』･『保育所保育指針解説』 ③内閣府ほか『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』･『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』
指定図書	なし

科目名	保育内容・表現(身体B)	担当者	藤田洋子
区分等	1年次・後期［演習］1単位　選択／生活こども専攻		
評価基準	課題(40%)、発表(40%)、創作過程における主体的な姿勢(20%)		
課題に対するフィードバック	随時アドバイスや提案するなど学生にフィードバックする。		
目的	保育内容・表現(身体A)との連続性・系統性を重視させながら、保育者に求められる感性の豊かさや、知識・技能に支えられたより豊かな表現力・創造力を養う。		
到達目標	①幼児の総合的な身体表現を支えるための感性を豊かにすることができる。(DP1,DP2) ②協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、知識・技能に支えられた豊かな創造力や表現力を身につけることができる。(DP2,DP3)		
履修上の注意	運動にふさわしい服装(ジャージ、体育館シューズ等)を着用すること。		
オフィスアワー	水曜日昼休み		

	授業計画	準備学習(予習・復習)の内容および、時間
1	オリエンテーション 領域「表現」のねらい及び内容	予習：幼稚園教育要領解説ねらい及び内容「表現」P223～P233 を読む。(0.75 時間) 復習：授業内で配布した資料を読み直す。(0.75 時間)
2	幼児の身体表現の発達の理解　(共感) 幼児の表現の芽生えと発達 (＊子どものためのダンス△わらべうたあそび)	予習：身体表現発達過程を調べる。 ＊アクティブ・ラーニングが可能となる準備をする。(1 時間)
3	環境との出会い 身体表現が生まれる遊び環境 (＊、△)	予習：ICT などを活用して明治･大正･昭和中期の子どもの遊びを調べる。世界にも目を向けて調べる。(0.75 時間) 復習：授業内で配布した資料を読み直す。(0.75 時間)
4	豊かな身体表現のために①(協働・創作) ストーリー、オノマトペ、身体表現の組み合わせ (＊、△)	予習：絵本「ひよこがにげます」を読み子どもが喜ぶような登場する生き物を考える。(アクティブ･ラーニングが可能となる準備 0.75 時間) 復習：授業内で配布した資料を読み直す。(0.75 時間)
5	豊かな身体表現のために②(発表・共有) ストーリー、オノマトペ、身体表現の組み合わせ (＊、△)	予習：発表に向けて表現とオノマトペをシミュレーションをする。(0.75 時間) 復習：授業内で配布した資料を読み直す。(0.75 時間)
6	幼児のあそび心を感じて①　(協働・創作) じゃんけん・まねっこ・身体表現 (動作・隊形・オノマトペ)	予習：「アルプス一万尺」の拍感やフレーズ感を体感する。(0.75 時間) 復習：授業内で配布した資料を読み直す。(0.75 時間)
7	幼児のあそび心を感じて②　(発表・共有) じゃんけんとまねっこと身体表現 (動作・隊形・オノマトペ)	予習：発表に向けて身体表現を確認する。(0.75 時間) 復習：授業内で配布した資料を読み直す。(0.75 時間)
8	身体表現のおもしろさを感じて(協働・創作)	予習：「昆虫図鑑」を読み虫をイメージするポーズを考える。(アクティブ・ラーニングが可能となる準備　0.75 時間) 復習：授業内で配布した資料を読み直す。(0.75 時間)
9	身体表現のおもしろさを感じて(発表・共有) 拍の活用と動作の工夫	予習：発表に向けた滑らかな身体表現を確認する。(アクティブ・ラーニングが可能となる準備　0.75 時間) 復習：授業内で配布した資料を読み直す。(0.75 時間)
10	身体表現遊びと指導計画①(グループワーク) 身体表現遊びの立案	予習：「踊ってみたい」と思えるような保育者の言葉かけや援助について考える。(0.75 時間) 復習：授業内で配布した資料を読み直す。(0.75 時間)
11	身体表現遊びと指導計画②(発表・共有) 身体表現遊びの立案の共有	予習：前回の授業で作成した計画案を確認する(0.75 時間) 復習：授業内で配布した資料を読み直す。(0.75 時間)
12	身体表現のおもしろさを感じて(視聴・共有) 擬音・音楽・身体表現のハーモニー	予習：風・踏みしめる雪・乗り物・の音や様々な楽器の音、冬の街の雰囲気に関心を寄せる。(0.75 時間) 復習：授業内で配布した資料を読み直す。(0.75 時間)
13	未来につなぐ今　(小学校教育へのつながり) 身体表現･幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿・小学校教育につながる育ち	予習：幼稚園教育要領解説「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」P45～P68 を読む。(0.75 時間) 復習：授業内で配布した資料を読み直す。(0.75 時間)
14	身体表現のおもしろさを感じて(即興創作、発表) 歌遊びと身体表現 (オノマトペ・ボディーパーカッション)	予習：ICT などでボディーパーカッションとはどういうものかを調べる。(0.75 時間) 復習：授業内で配布した資料を読み直す。(0.75 時間)
15	今を未来につなげるために 学びの振り返りと自己肯定感や自己課題	予習：幼稚園教育要領解説ねらい及び内容「表現」P223～P233 を読む。(0.75 時間) 復習：これまでの配布した資料を整理する。(0.75 時間)

テキスト	①文部科学省『幼稚園教育要領』･『幼稚園教育要領解説』 ②厚生労働省『保育所保育指針』･『保育所保育指針解説』 ③内閣府ほか『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』･『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』
指定図書	なし

科　目　名	保育内容・表現（造形A）	担当者	周　業欣
区　分　等	1年次・前期［演習］1単位　選択／生活こども専攻		
評価基準	・コラージュでは自由な発想で表現できる。作品（30%） ・ステンシルでは手順を理解し、イメージ通りに制作することができる。作品（30%） ・色彩表現では基礎的な知識を理解し、課題の配色ができる。作品（30%） ・授業の取り組み姿勢、課題提出。（10%）		
課題に対するフィードバック	・授業課題を展示し、授業内で講評する。		
目的	本授業では、保育現場で活用できる造形活動を通じて、表現力や創造性を育むことを目的とする。色彩、素材、技法を活用した多様な造形表現を実践し、基礎的な造形スキルを習得するとともに、子どもの発達段階に応じた表現活動の意義や計画方法を学ぶ。また、造形活動を通じて子どもの感性や創造性を引き出す支援のあり方について理解を深める。		
到達目標	1）多様な造形技法（配色、紙を用いた表現、マーブリングなど）を習得し、保育現場で活用できる。素材の特性を理解し、それを活かした創造的な表現方法を提案・実践する力を身につける。(DP1) 2）色彩や構成の基礎を学び、平面・立体両面での造形活動を効果的に計画・実践できる。自然素材やリサイクル素材を用いた表現活動を通じて、環境への配慮や多様な表現の可能性を理解する。(DP2) 3）造形活動を通じて子どもの感性や興味を引き出す保育者としての支援方法を考える力を高める。(DP3)		
履修上の注意	特になし		
オフィスアワー	授業の前後 10 分間		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション、色彩表現について	色彩表現、色彩の効果資料調べ（1時間）
2	配色の考え方と練習（1）	色イメージの配色練習（1時間）
3	配色の考え方と練習（2）	色イメージの配色練習（1時間）
4	配色の考え方と練習（3）	色イメージの配色練習（1時間）
5	色の心理効果と色彩共感覚	共感覚と色彩の関係の資料調べ（1時間）
6	音との出会い：音をかく	音画の資料調べ（1時間）
7	絵の具で遊ぶ（1）（吹き絵）	吹き絵の資料調べ（1時間）
8	絵の具で遊ぶ（2）墨流し	マーブリングの資料調べ（1時間）
9	絵の具で遊ぶ（3）絵の具	マーブリングの資料調べ（1時間）
10	ちぎり絵と和紙工芸（1）色彩表現	コラージュ、ちぎり絵と和紙の資料調べ（1時間）
11	ちぎり絵と和紙工芸（2）平面構成	コラージュ、ちぎり絵と和紙の資料調べ（1時間）
12	ちぎり絵と和紙工芸（3）立体構成	コラージュ、ちぎり絵と和紙の資料調べ（1時間）
13	素材の特性を活かした表現（1）自然素材	材料の収集、動く工作の資料調べ（1時間）
14	素材の特性を活かした表現（2）リサイクル	材料の収集、動く工作の資料調べ（1時間）
15	まとめ・作品講評	表現活動の可能性について（1時間）

テキスト	なし（授業時に資料プリントを配付する）
指定図書	なし

科　目　名	保育内容・表現（造形Ｂ）	担当者	周　業欣
区　分　等	１年次・後期［演習］１単位　選択／生活こども専攻		
評価基準	・立体造形、視覚表現に関する基礎的な造形スキルを習得し、イメージ通りに制作することができる。作品（30%） ・生成 AI の知識を理解し、自由な発想で表現できる。作品（30%） ・授業の取り組み姿勢、課題提出。(40%)		
課題に対するフィードバック	・授業課題を展示し、授業内で講評する。		
目的	本授業では、保育現場で活用できる造形活動を通じて、子どもの表現力や創造性を育むことを目的とする。日常的に身近な素材や映像、写真、生成 AI などを活用した多様な造形表現を実践し、基礎的な造形スキルを習得する。また、子どもの発達段階に応じた表現活動の意義を理解し、それに基づいた計画方法を学ぶ。さらに、造形活動を通じて子どもの感性や創造性を引き出す支援の在り方についての理解を深めることを目指す。		
到達目標	1) 造形活動の実践力 身近な素材や映像、写真、生成 AI などを活用した多様な造形表現を実践し、保育現場で応用可能な基礎的な造形スキルを習得する。(DP1) 2) 発達段階に応じた計画力 子どもの発達段階に応じた表現活動の意義を理解し、それに基づいた具体的な造形活動の計画・立案ができる。(DP1、DP2) 3) 支援の理解と応用 造形活動を通じて子どもの感性や創造性を引き出す支援の在り方を理解し、保育の現場で実践的に応用できる力を身につける。(DP1、DP2) 4) 多様な表現の活用力 伝統的な造形手法と現代的な技術（生成 AI やデジタルツールなど）を組み合わせた新しい表現方法を試み、多角的なアプローチを身につける。(DP3)		
履修上の注意	特になし		
オフィスアワー	授業の前後 10 分間		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション、立体造形、視覚表現、生成 AI について	立体造形、視覚表現、生成 AI に関する資料調べ（１時間）
2	紙によるレリーフ表現（1）切り絵	ペーパーレリーフの作り方の資料調べ（１時間）
3	紙によるレリーフ表現（2）折り紙	ペーパーレリーフの作り方の資料調べ（１時間）
4	紙によるレリーフ表現（3）季節行事	ペーパーレリーフの作り方の資料調べ（１時間）
5	紙によるレリーフ表現（4）年間行事	ペーパーレリーフの作り方の資料調べ（１時間）
6	ダンボールでつくる立体アート（1）	材料の収集、動く工作の資料調べ（１時間）
7	ダンボールでつくる立体アート（2）	材料の収集、動く工作の資料調べ（１時間）
8	ダンボールでつくる立体アート（3）	材料の収集、動く工作の資料調べ（１時間）
9	「写る」との出会い	授業内容の復習と練習課題の完成(1 時間)
10	映像との出会い	授業内容の復習と練習課題の完成(1 時間)
11	生成 AI の活用（1）Runway	授業内容の復習と練習課題の完成(1 時間)
12	生成 AI の活用（2）ImageFX	授業内容の復習と練習課題の完成(1 時間)
13	生成 AI の活用（3）Recraft	授業内容の復習と練習課題の完成(1 時間)
14	生成 AI の活用（4）MusicFX	授業内容の復習と練習課題の完成(1 時間)
15	まとめ・作品講評	表現活動と生成 AI の可能性について（１時間）

テキスト	なし（授業時に資料プリントを配付する）
指定図書	なし

科目名	こどもの音楽A	担当者	佐藤眞由子、山田朗子、奈良絵理
区分等	１年次・前期［演習］１単位　選択／生活こども専攻		
評価基準	到達目標１：演奏技術と表現(50%)、 到達目標２：授業に対する姿勢(50%)		
課題に対するフィードバック	授業時に提出されたピアノレッスン活動記録用紙、講義活動記録用紙には随時コメントをつけて返却する。		
目的	・音楽を通じて保育現場で生かせる以下のような実践力を身につけることを目的とする。 ・音楽の基礎理論を理解し、楽譜を読めるようにする。 ・子どもの歌、季節の歌を歌うことによって、表現する楽しさを体験させる。 ・手遊び歌、手合わせ歌を覚え、子どもにわかりやすく表情豊かに歌う。 ・ミサ曲・合唱曲等の歌唱を通して、アンサンブルをする楽しさを味わう。 ・簡易楽器の奏法を習得し、様々な楽器の特徴を理解し合奏を楽しむ。 ・ミュージックベル・トーンチャイム・ハンドベルの奏法を習得し、子どもの歌や、クリスマスの曲等のアンサンブルを楽しむ。		
到達目標	・ピアノ初心者の人はテキスト『幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』のステップⅠまでと「２年間で必ず弾いてほしい曲」（一覧表）の中の曲１０曲は弾けることを目標にする。 それ以外の人は、ステップⅡまでと、「２年間で必ず弾いてほしい曲」（一覧表）の中の曲２０曲を弾けることを目標にする。(DP1,DP2,DP3) ・様々な楽器（簡易楽器やハンドベルなど）の特徴を理解し、奏法を習得し、楽しく演奏できる。(DP1,DP2,DP3) ・正しい音程・発声・発音・リズム・ハーモニーで、子どもの歌・季節の歌・ミサ曲・合唱曲を意欲的に楽しんで歌うことができる。(DP1,DP2,DP3) ・季節の歌や子どもの年齢に応じた手遊びを覚え、表情豊かに歌うことができる。(DP1,DP2,DP3)		
履修上の注意	予習、復習を必ず行う。		
オフィスアワー	月曜日の 14 時 40 分～15 時 30 分		

	授業計画 １クラスを半分に分け、個人レッスンと講義を 45 分ずつ受講する。	準備学習(予習･復習)の内容および､時間
1	ガイダンス　（授業内容、楽譜の説明、個々の練習曲の選択）クラス分け 季節の歌、手話ソング・手遊び	予習・復習：ピアノの練習を毎日３０分行う。 予習・復習：習った楽典・手遊び
2	ピアノ：個人レッスン 講義　：楽典①、リズム打ち・季節の歌・手話ソング・手遊び	予習・復習：ピアノの練習を毎日３０分行う。 予習・復習：習った楽典・手遊び
3	ピアノ：個人レッスン 講義　：楽典②・リズム打ち・季節の歌・手話ソング・手遊び	予習・復習：ピアノの練習を毎日３０分行う。 予習・復習：習った楽典・手遊び
4	ピアノ：個人レッスン 講義　：楽典③・リズム打ち・季節の歌・手話ソング・手遊び・合唱	予習・復習：ピアノの練習を毎日３０分行う。 予習・復習：習った楽典・手遊び
5	ピアノ：個人レッスン 講義　：楽典④・リズム打ち・季節の歌・手話ソング・手遊び・合唱	予習・復習：ピアノの練習を毎日３０分行う。 予習・復習：習った楽典・手遊び
6	ピアノ：個人レッスン 講義　：楽典⑤・リズム打ち・季節の歌・手話ソング・手遊び・合唱	予習・復習：ピアノの練習を毎日３０分行う。 予習・復習：習った楽典・手遊び
7	ピアノ：個人レッスン 講義　：楽典⑥・リズム打ち・季節の歌・手話ソング・手合わせ遊び	予習・復習：ピアノの練習を毎日３０分行う。 予習・復習：習った楽典・手遊び
8	ピアノ：個人レッスン 講義　：楽典⑦・リズム打ち・季節の歌・手話ソング・手合わせ遊び	予習・復習：ピアノの練習を毎日３０分行う。 予習・復習：習った楽典・手遊び
9	ピアノ：個人レッスン 講義　：楽典⑧・リズム打ち・季節の歌・手話ソング・手合わせ遊び	予習・復習：ピアノの練習を毎日３０分行う。 予習・復習：習った楽典・手遊び
10	ピアノ：個人レッスン 講義　：楽典⑨・リズム打ち・季節の歌・手話ソング・手合わせ遊び・簡易楽器の説明	予習・復習：ピアノの練習を毎日３０分行う。 予習・復習：習った楽典・手遊び
11	ピアノ：個人レッスン 講義　：楽典⑩・季節の歌・手遊び・手話ソング・合奏	予習・復習：ピアノの練習を毎日３０分行う。 予習・復習：習った楽典・手遊び
12	ピアノ：個人レッスン 講義　：楽典⑪・季節の歌・手遊び・手話ソング・合奏	予習・復習：ピアノの練習を毎日３０分行う。 予習・復習：習った楽典・手遊び
13	ピアノ：個人レッスン 講義　：楽典⑫・季節の歌・手遊び・手話ソング・トーンチャイム＆ミュージックベル・ハンドベルの合奏	予習・復習：ピアノの練習を毎日３０分行う。 予習・復習：習った楽典・手遊び
14	ピアノ：個人レッスン 講義　：楽典⑬「楽典まとめ」手遊び復習、手話ソング復習、ダンス トーンチャイム＆ミュージックベル・ハンドベルの合奏	予習・復習：ピアノの練習を毎日３０分行う。 予習・復習：習った楽典・手遊び
15	ピアノ試験	ピアノ試験

テキスト	『幼稚園教諭･保育士のためのピアノ入門』（ドレミ楽譜出版社)、『母とおさなごの歌』（全音楽譜出版社)、神原雅之・鈴木恵津子編著『幼児のための音楽教育』（教育芸術社)
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	こどもの音楽B	担当者	佐藤眞由子、山田朗子、奈良絵理
区　分　等	１年次・後期［演習］１単位　選択／生活こども専攻		

評価基準	到達目標１：演奏技術と表現(50%)、 到達目標２：授業に対する姿勢(50%)
課題に対するフィードバック	授業時に提出されたピアノレッスン活動記録用紙、講義活動記録用紙には随時コメントをつけて返却する。
目　的	・「こどもの音楽A」と同様に、音楽を通じて保育現場で生かせる以下のような実践力を身につけることを目的とする。 ・音楽の基礎理論を理解し、楽譜を読めるようにする。 ・子どもの歌、季節の歌を歌うことによって、表現する楽しさを体験させる。 ・手遊び歌、手合わせ歌を覚え、子どもにわかりやすく表情豊かに歌う。 ・ミサ曲・合唱曲等の歌唱を通して、アンサンブルをする楽しさを味わう。 ・簡易楽器の奏法を確実に習得し、様々な楽器の特徴を理解し合奏を楽しむ。 ・ミュージックベル・トーンチャイム・ハンドベルの奏法を習得し、子どもの歌や、クリスマスの曲などのアンサンブルを楽しむ。
到達目標	・初級の人はテキスト『幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』のステップⅡまでと、「２年間で必ず弾いてほしい曲」（一覧表）の中の曲を１０曲弾けることを目標とする。 それ以外の人は、ステップⅢまでと、「２年間で必ず弾いてほしい曲」（一覧表）の中の曲を２０曲弾けることを目標とする。(DP1,DP2,DP3) ・様々な楽器（簡易楽器やハンドベルなど）の特徴を理解し、奏法を習得し、楽しく演奏できる。(DP1,DP2,DP3) ・正しい音程・発声・発音・リズム・ハーモニーで、子どもの歌・季節の歌・ミサ曲・合唱曲を意欲的に楽しんで歌う。(DP1,DP2,DP3) ・季節の歌や子どもの年齢に応じた手遊びを覚え、表情豊かに歌うことができる。(DP1,DP2,DP3)
履修上の注意	予習、復習を必ず行う。
オフィスアワー	月曜日の 14 時 40 分～15 時 30 分

	授業計画 １クラスを半分に分け、個人レッスンと講義を 45 分ずつ受講する。	準備学習(予習･復習)の内容および､時間
1	ピアノ：個人レッスン 講義　：楽典⑭・季節の歌や遊び歌・手話ソング・手遊び	予習・復習：ピアノの練習を毎日３０分行う。 予習・復習：習った楽典・手遊び
2	ピアノ：個人レッスン 講義　：楽典⑮・季節の歌や遊び歌・手話ソング・手遊び	予習・復習：ピアノの練習を毎日３０分行う。 予習・復習：習った楽典・手遊び
3	ピアノ：個人レッスン 講義　：楽典⑯・季節の歌や遊び歌・手話ソング・手遊び	予習・復習：ピアノの練習を毎日３０分行う。 予習・復習：習った楽典・手遊び
4	ピアノ：個人レッスン 講義　：季節の歌や遊び歌・合奏・手遊び	予習・復習：ピアノの練習を毎日３０分行う。 予習・復習：習った楽典・手遊び
5	ピアノ：個人レッスン 講義　：楽典⑰・季節の歌や遊び歌・合奏・手遊び	予習・復習：ピアノの練習を毎日３０分行う。 予習・復習：習った楽典・手遊び
6	ピアノ：個人レッスン 講義　：楽典⑱・クリスマスの歌・手遊び・ミュージックベル合奏	予習・復習：ピアノの練習を毎日３０分行う。 予習・復習：習った楽典・手遊び
7	ピアノ：個人レッスン 講義　：楽典⑲・クリスマスの歌・手遊び・トーンチャイム合奏	予習・復習：ピアノの練習を毎日３０分行う。 予習・復習：習った楽典・手遊び
8	ピアノ：個人レッスン 講義　：楽典⑳・クリスマスの歌・手遊び・ハンドベル合奏	予習・復習：ピアノの練習を毎日３０分行う。 予習・復習：習った楽典・手遊び
9	ピアノ：個人レッスン 講義　：楽典㉑・クリスマスの歌・手遊び・ハンドベル合奏	予習・復習：ピアノの練習を毎日３０分行う。 予習・復習：習った楽典・手遊び
10	ピアノ：個人レッスン 講義　：楽典㉒・クリスマスの歌・手遊び・ハンドベル合奏	予習・復習：ピアノの練習を毎日３０分行う。 予習・復習：習った楽典・手遊び
11	ピアノ：個人レッスン 講義　：楽典㉓・コードについて・合唱	予習・復習：ピアノの練習を毎日３０分行う。 予習・復習：習った楽典・手遊び
12	ピアノ：個人レッスン 講義　：楽典㉔・コードの勉強・合唱	予習・復習：ピアノの練習を毎日３０分行う。 予習・復習：習った楽典・手遊び
13	ピアノ：個人レッスン 講義　：楽典㉕・コードの勉強・合唱	予習・復習：ピアノの練習を毎日３０分行う。 予習・復習：習った楽典・手遊び
14	ピアノ：個人レッスン 講義　：楽典㉖・コードの勉強・合唱	予習・復習：ピアノの練習を毎日３０分行う。 予習・復習：習った楽典・手遊び
15	ピアノの試験	ピアノの試験

テキスト	『幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』（ドレミ楽譜出版社)、『母とおさなごの歌』（全音楽譜出版社)、神原雅之・鈴木恵津子編著『幼児のための音楽教育』（教育芸術社）
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	保育実習指導Ⅰ	担当者	石井美和子　寺谷直輝
区　分　等	１年次・通年[演習]２単位　選択／生活こども専攻		
評価基準	指導内容の理解（50%）、課題（30%）、実習のまとめと発表（20%）。		
課題に対するフィードバック	課題については随時アドバイスをして学生にフィードバックする。		
目　的	1．保育実習の意義・目的・実習内容を学び自らの実習の課題を明確にする力を養う。 2．実習施設における子どもの生活を学び人権や子どもの最善の利益、プライバシーの保護、守秘義務の遵守を理解する力を養う。 3．事前指導では実習生として実習施設の保育活動に意欲的に参加する意識を持ち、事後指導では実習の成果と課題等を省察するとともに資格取得に向け習得すべき知識や技能等について理解する。これらを通して保育実習の意義を総合的に理解する。		
到達目標	1．保育実習の意義や目的・実習内容を理解している。(DP1) 2．授業に主体的に参加する中で、保育者としての使命感や倫理観を獲得している。(DP3) 3．子どもの人権や最善の利益、プライバシーの保護と守秘義務について理解している。(DP1) 4．保育実習で、保育や養護に関わる知識や技術を活かして実践する力を身につけている。(DP1,DP2)		
履修上の注意	・保育実習に関わる科目のため、特別な事情がない限りは欠課しないようにすること。 ・夏休み期間にエプロンシアターを作成する課題がある。 ・資料の配付や連絡は、Google Classroom 経由で行うこともあるため、確認できるようにすること。		
オフィスアワー	**授業全般や保育所実習に関する問い合わせは石井に、施設実習や欠課した授業回の配付資料に関する問い合わせは寺谷に行うこと。[石井] 木曜日 16 時 20 分～16 時 50 分　[寺谷] 火曜日昼休み**		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	**前期のオリエンテーション** ●前期の授業の進め方 ●実習購入用品や抗体検査の確認 ●エプロンシアターと自己紹介絵本に関する説明	復習：配付したファイルを用いて配付資料の整理をする。(0.5 時間)
2	**保育実習の概要と保育の内容** ●保育実習とは　●実習に向けての心構え	復習：テキスト①pp.8-9(実習とは何か)を読む。(0.5 時間)
3	●施設実習とは ●施設実習の基本的理解	復習：授業の配付資料と施設実習先一覧表を読み、希望する実習先の候補を２つ立てること。(1 時間)
4	●保育所・幼稚園・認定こども園の概要	復習：テキスト①pp.12-17(幼稚園・保育所・認定こども園)を読み、それぞれの特徴を整理する。(1 時間)
5	●『保育所保育指針』の総則 ●実習希望調査の提出	予習：県内の保育所実習先一覧表を読み、保育所実習先の候補を１年次・２年次で各２つ立てること。(0.5 時間)
6	●保育所の１日の流れ・生活について	復習：「子ども・子育て支援制度」に関する資料を読む。(1 時間)
7	**保育実技の実践と保育教材の作成** ●「保育実技」とは ●素話・絵本・紙芝居の概要	復習：授業で学習した内容を振り返り、保育実技の練習を行う。(1 時間)
8	●「保育実技」の練習・実践	復習：授業で行った保育実技の演じ方や読み方のポイントを整理する。(1 時間)
9	●グループワークで実践する際のポイントを整理	復習：他のグループで出たポイントも反映させて、授業資料を読み直す。(0.5 時間)
10	●保育教材とは ●エプロンシアターの概要	復習：1エプロンシアターの概要について、指定図書で調べる。(1 時間) 2エプロンシアターのテーマを決める。(0.25 時間)
11	●エプロンシアターの作り方（原案作成）	復習：エプロンシアターの作り方について、資料を読み理解を深める。(0.75 時間)
12	●エプロンシアターの作り方（シナリオ作り）	復習：エプロンシアターを行う際のシナリオについて、資料を読み理解を深める。(1 時間)
13	●エプロンシアターの演じ方	復習：エプロンシアターの演じ方について、資料を読み理解を深める。(0.5 時間) 復習：エプロンシアターを夏休み期間中に作成する。(4.0 時間)
14	●保育実習に関する質問の整理 ●自己紹介絵本制作（表紙作り）	予習：保育所実習・施設実習で気になることについて用紙に記入できるよう整理しておく。(0.25 時間) 復習：自己紹介絵本を作る際に必要な用品を用意する(0.25 時間)
15	●自己紹介絵本制作（表紙組み立て）	復習：先輩が書いたアドバイスを読み、実習へのイメージを膨らませる。(0.5 時間)
16	**後期のオリエンテーション** ●エプロンシアターと自己紹介絵本の発表等について ●おもちゃインストラクター養成講座について **実習の流れと１年次実習の概要** ●実習までの準備について ●書類記入	予習：実習に関する書類を作成する際に必要となる用品(印鑑など)を用意しておく。(0.25 時間) 復習：テキスト③の目次を読み、実習までの流れをイメージすること(0.25 時間)
17	●オリエンテーションの流れと概要	復習：1エプロンシアターの直しと練習を行う。(0.5 時間) 2自己紹介絵本を作成する。(0.5 時間)
18	●実習に向けての心構え ●教員への実習訪問依頼	予習：自己紹介絵本を完成・提出できるようにする。(1 時間)
19	●実習の課題について	復習：授業で配付した資料を読み、実習課題を立てる。(1 時間)
20	**エプロンシアターの発表**	予習：エプロンシアターの練習を行う(1 時間)
21	**自己紹介絵本の発表**	予習：自己紹介絵本を発表する準備を行う。(1 時間)
22	**実習日誌の内容の説明と書き方** ●「概要」　●「日課表」	復習：1テキスト③の「【別紙３】日誌の記入について」を読む。(0.5 時間) 2テキスト④の「実習園の概要」「日課表」を記入する。(0.5 時間)
23	●「発達の特徴」	復習：０歳から５歳までの年齢の発達を用紙にまとめる。(**3.5 時間**)
24	●「日の記録」 ●「所感」	予習：テキスト④の「実習クラスについて」を記入する (0.5 時間)
25	●「実習課題のまとめ」 ●「実習のまとめと反省」	復習：テキスト③の「【別紙３】日誌の記入について」を読む。(0.5 時間)
26	●実習日誌記入の確認	予習：実習に関する疑問点を整理し、授業で質問できるようにする。(0.5 時間)
27	●疑問点の消化	復習：実習に向けて、エプロンシアターや自己紹介絵本の練習をする。(1.5 時間)
28	**実習の振り返り** ●自己評価シートの記入 ●お礼状の作成と提出	予習： Classroom で配信された資料を読み、お礼状の下書きを完成させる。(1 時間)
29	**実習で学んだことの共有（グループワーク）**	予習：実習で学んだことを発表できるように内容を準備する。(0.5 時間)
30	**後期のまとめ** ●実習に関する個人面談について ●課題について	復習：担当教員からの振り返りを、２年次実習の準備に活かす。(1 時間)

テキスト	①小櫃智子ほか『改訂版　幼稚園・保育園・認定こども園実習パーフェクトガイド』(わかば社) ②小山朝子ほか『遊びの活動・遊びパーフェクトガイド』(わかば社) ③聖霊女子短期大学『保育実習の手引き』　④聖霊女子短期大学『保育実習日誌』
指定図書	あり（巻末参照）

※実務経験のある教員による授業科目の担当教員の実務経験および、教育内容

実務経験：保育士として保育園勤務、保育実習指導者認定証取得（石井美和子）

教育内容：実習の計画、観察、記録に関する指導や教材準備、保育実技等の知識や技術の指導を行い実践的な指導力を身につける。

科　目　名	**保育実習ＩＡ**	担当者	石井美和子　寺谷直輝
区　分　等	１年次・後期[実習]２単位　選択／生活こども専攻		
評価基準	実習評価（50%）、実習日誌の内容（40%）、実習のまとめ（10%）。		
課題に対するフィードバック	必要に応じて随時アドバイスをする。実習中は実習先の指示に従うこと。		
目　　的	１．保育所実習を通して、保育所の役割や保育士としての職務を理解する力を養う ２．子どものとのかかわりを通して、子どもの姿や発達を理解し実践力が身に付く。		
到達目標	１．保育所の役割や機能、保育士の職務内容について理解が深まる。（DP1） ２．保育所実習での実践を通して、子どもや保育についてより具体的に理解できるようになる。（DP1,DP3） ３．体験的学習を通して、部分指導計画案の作成の仕方がより理解でき、実践力が身に付く。（DP1,DP2）		
履修上の注意	１．事前指導の内容を繰り返し確認し身に付くようにする。 ２．連絡は Google Classroom 経由で行うこともあるため、確認できるようにしておくこと。		
オフィスアワー	**保育実習全般に関する質問は石井に照会すること。保育所実習に関する個別の質問・報告は、①石井・②寺谷の順番で照会すること。**［石井］木曜日 16：20～16：50 ［寺谷］火曜日昼休み		

授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
実習段階：観察・参加実習 実習期間：12 月中旬～下旬 10 日間（80 時間） 実習内容 ・配属クラスにおいて観察・参加実習を行う。 ・保育を通して子どもの発達や保育者の役割、援助の方法など、実践を通して学ぶ。 ・実習日誌（日の記録）を通して子ども理解を深める。 ＜１年次の保育所実習の内容＞ １．保育所の役割と機能 （１）保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり （２）保育所保育指針に基づく保育の展開 ２．子どもの理解 （１）子どもの観察とその記録による理解 （２）子どもの発達過程の理解 （３）子どもへの援助や関わり ３．保育内容・保育環境 （１）保育の計画に基づく保育内容 （２）子どもの発達過程に応じた保育内容 （３）子どもの生活や遊びと保育環境 （４）子どもの健康と安全 ４．保育の計画・観察・記録 （１）全体的な計画と指導計画及び評価の理解 （２）記録に基づく省察・自己評価 ５．専門職としての保育士の役割と職業倫理 （１）保育士の業務内容 （２）職員間の役割分担や連携・協働 （３）保育士の役割と職業倫理	・『保育実習の手引き』を読み、実習の心構えを持つ。 ・実習における自己課題をしっかり持つ。 ・実習開始までに子どもの発達を理解する。 ・健康的な生活を心がけ健康管理をしっかり行う。 ・学生間においては、特にマナーや言葉遣いに気をつけて生活をする。

テキスト	①小櫃智子ほか『【改訂版】幼稚園・保育園・認定こども園実習パーフェクトガイド』（わかば社） ②厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） ③厚生労働省編『保育所保育指針解説』（フレーベル館） ④聖霊女子短期大学『保育実習の手引き』　⑤聖霊女子短期大学『保育実習日誌』
指定図書	なし

※実務経験のある教員による授業科目の担当教員の実務経験および、教育内容
実務経験：保育士として保育園勤務、保育実習指導者認定証取得（石井美和子）
教育内容：実習の計画、観察、記録に関する指導や教材準備、保育実技などの知識や技術の指導を行い、実践的な指導力を身につける。

科目名	教職概論(幼稚園・保育所)	担当者	藤田洋子
区分等	1年次・前期［講義］2単位　選択／生活こども専攻		
評価基準	定期試験(50%)、授業内課題(50%)		
課題に対するフィードバック	随時アドバイスしたり授業で取りあげたりして、学生にフィードバックする。		
目的	教職の意義、幼稚園教諭及び保育者の役割、職務内容などの理解を図るとともに、職業への尊さを知り意欲の高まりに繋ぐ。また、学生一人一人の主体的・対話的な学びのもと、教職員の協働の必要性を認識するとともに、保護者・地域・小学校・専門家・専門機関との連携及びチーム対応における重要性と必要性について、実践と結びついた理解を深める。		
到達目標	①公教育の性質を有する幼児教育の目的や目標を認識するとともに、幼稚園教諭・保育士・保育教諭としての職務の普遍的な重要性を理解することができる。(DP1) ②教職員の協働や専門家及び専門機関等との連携及び必要性について理解する。(DP1,DP3) ③幼稚園教諭・保育士・保育教諭の専門性について理解することができる。(DP1,DP2) ④求められる資質能力について理解を深めるとともに、実践的指導力の基礎を学び、教職や保育職に対する意思や意欲を高めることができる。(DP2,DP3)		
履修上の注意	保育者(幼稚園教諭・保育教諭・保育士)への夢を強く持ち将来に向けて進むようにする。		
オフィスアワー	金曜日 16 時 25 分～16 時 50 分		

	授業計画	準備学習(予習・復習)の内容および、時間
1	オリエンテーション:「保育者への扉を開けよう」 ・保育者になるということ ・子どもの目から見る保育者	予習:保育者になりたいと思う理由を整理する。(0.75 時間) 復習:授業の学びを継続的に活かせるように記録を視覚的に分かりやすくまとめる。(0.75 時間)
2	乳幼児期の教育・保育の現状 ・幼稚園教諭・保育教諭・保育士の制度的位置づけ ・環境を通して行う教育・保育	予習:教育基本法第1条と第2条幼稚園教育要領解説 P20～P21、幼稚園教育要領解説第 1 章総説第 1 の 1･2 P23～P28 を読む。(0.75 時間) 復習:「全国保育士会倫理綱領」を読む。(0.75 時間)
3	保育者の仕事と役割 ・保育者の1日・1年と役割、行事における仕事 ・職員間の連携・協働	予習:ICT などで各園のホームページを調べる。幼稚園教育要領解説第 1 章第 4 節 3(8)P112 を読む。(0.75 時間) 復習:授業で配布した資料を読み直す。(0.75 時間)
4	保育者の仕事と役割 ・養護的・教育的なかかわり、保護者･家庭・地域との連携・協働	予習:幼稚園教育要領解説第 1 章総説第 3 節(1)P29 第 6 節 2 P126～P128、認定こども園教育保育要領第 1 章総説第 1(2)P24～P29 と第 3 の 5 P141 を読む。(0.75 時間) 復習:授業で配布した資料を読み直す。(0.75 時間)
5	保育者に求められる資質・能力 ・保育者に期待される資質・能力と学生時代に学ぶこと	予習:幼稚園教育要領解説第 1 章総説第 1 節 5P40、第 4 節 3(7)P109 を ICT などを活用して調べ読む。(0.75 時間) 復習:授業で配布した資料を読み直す。(0.75 時間)
6	子どもの内面や発達を理解する保育者(協働) ・子どもの思いや学びを感じる	予習:グループのメンバーで絵本「はけたよはけたよ」「はじめてのおつかい」「ちょっとだけ」、写真集「ひびわくわく」をよむ。(アクティブ・ラーニングが可能となる準備をする。0.75 時間) 復習:授業で配布した資料を読み直す。(0.75 時間)
7	遊びを援助する保育者(協働) ・子どもの興味や関心から次の姿の予想	予習:幼稚園教育要領解説第 1 章総説第 1 の 3(1)～(3)P29～P35 を熟読する。(アクティブ･ラーニングが可能となる準備をする。0.75 時間) 復習:授業で配布した資料を読み直す。(0.75 時間)
8	教材などを通して学びを深める保育者 ・教材研究の大切さと子どもの心を揺さぶる教材発見	予習:幼稚園教育要領第 1 章総則第 1 総説第 1 節(5)P40 を読む。(0.75時間) 復習:授業で配布した資料を読み直す。(0.75 時間)
9	保育者に求められる専門性 ・グループ活動 (保育を構想する力)	予習:課題となる絵本の内容を理解する。(0.5 時間) 復習:授業で配布した資料を読み直し役割や計画の見通しを持つ。(0.75 時間)
10	保育者に求められる専門性 ・グループ活動 (保育を構想する力)	予習:グループ間で共通理解を図る。(0.5 時間) 復習:創作内容においてグループ全員が協働して表現できるように振り返りを十分に行う(1 時間)
11	グループ活動 (発表:連携・協働) ・得意分野が生かされた教職員チームの協働のあり方と必要性	予習:ストーリーの全体における各自の役割をシミュレーションする。(0.75 時間) 復習:授業で配布した資料を読み直す。(0.75 時間)
12	幼児期に育成すべき資質・能力 ・幼児期の具体的な姿を通した資質･能力の育ち	予習:幼稚園教育要領第 1 章総説第 2 節 P3～P5 を読む。(0.75 時間) 復習:授業で配布した資料を読み直す。(0.75 時間)
13	保育者の専門性 ・子どもを見る眼、幼児理解と保育の展開 ・記録を通して気づく子どもの心もち	予習:幼稚園教育要領第 1 章総説第 4 節 2 P93～P97 を読む。(0.75 時間) 復習:授業で配布した資料を読み直す。(0.75 時間)
14	保育者の専門的成長 ・成長する保育者と豊かな同僚性 ・「こどもまんなか社会」の保育・教育	予習:幼稚園教育要領解説第 1 章総説第 1 節 5 P40～P44 と第 4 節 3(7)P112～P116 を読む。こども家庭庁による動画『こどもまんなかこども家庭庁』、『おしえて！こども基本法』を視聴する。(1 時間) 復習:授業で配布した資料を読み直す。(0.75 時間)
15	保育者になる人へのメッセージ ・先輩保育者からのメッセージを自分の力に ・目指す保育者に向けた自己課題や目標の明確化	予習:目指す保育者に向けた自己課題や目標を明確にする。(0.75 時間) 復習:これまでの授業で配布した資料を整理し、読み直す。(0.75 時間)

テキスト	①文部科学省『幼稚園教育要領』･『幼稚園教育要領解説』 ②厚生労働省『保育所保育指針』･『保育所保育指針解説』 ③内閣府ほか『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』･『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』
指定図書	なし

科　目　名	幼稚園教育実習指導（１年次）	担当者	藤田洋子
区　分　等	１年次・２年次　通年［演習］１単位　選択／生活こども専攻		
評価基準	授業内課題等(60%)、実習報告(30%)、授業態度(10%)		
課題に対するフィードバック	随時アドバイスや提案するなど学生にフィードバックする。		
目　　的	幼稚園教育実習に臨むにあたり必要とされる基本的事項を理解する力を養う。 実習日誌の書き方、求められる実践力について理解する力を養う。 今後の課題を見出しながら教育者・保育者として必要となる事柄を習得するための力を養う。 各自の体験を他の学生とも共有し合い、幼児教育にあたって必要な環境構成や援助のあり方について理解する力を養う。		
到達目標	１年次 ①教育実習の意義や目的をよく理解することができる。**(DP1)** ②実習日誌の意義や役割を理解し記録する力を身につける。**(DP1,DP2,DP3)** ③実習に参加するために必要な知識や技能の基礎を身につける。**(DP1)** ④実習の反省を踏まえて課題を明確にするとともに必要な知識・技能を身につける。**(DP1,DP2,DP3)** ２年次 ①教育実習の意義や目的をよく理解することができる。**(DP1,DP2)** ②実習日誌や指導案の意義や役割を理解し記録する力や作成する力を身につける。**(DP2,DP3)** ③実習に向け必要な実践力を身につける。**(DP2,DP3)** ④実習の反省を踏まえて課題を明確にするとともに必要な知識・技能を身につける。**(DP2,DP3)**		
履修上の注意	実習に向けて自ら学ぶ姿勢をしっかりと持つこと。幼稚園実習のための指導なので、欠課した場合は必ず担当者のところに行き、指導を受けること。		
オフィスアワー	金曜日 16 時 25 分～16 時 50 分		

授業計画		準備学習(予習・復習)の内容および、時間
1	幼稚園教育実習の意義や目的	予習：幼稚園教育要領 P3～P5 を読む。(0.75 時間) 復習：授業で配布した資料を読み直す。(0.75 時間)
2	教育実習の概要 幼稚園・認定こども園(幼保連携型、幼稚園型)	予習：ICT などで幼稚園・認定こども園のホームページを調べて概要を捉える。(0.75 時間) 復習：幼稚園教育要領 P11～P18 を読む。(0.75 時間)
3	教育実習の心構え、観察・参加実習	予習：本学の『幼稚園教育実習の手引き』P1～P2,P6～P7 を読む。(0.75 時間) 復習：授業で配布した資料を読み直す。(0.75 時間)
4	子どもの発達過程	予習：ICT や本学図書館の専門図書で 3 歳児～5 歳児の発達過程を調べる。(0.75 時間) 復習：授業で配布した資料を読み直す。(0.75 時間)
5	子どもの発達過程	予習：ICT や本学図書館の専門図書で 3 歳児～5 歳児の発達過程を調べる。(0.75 時間) 復習：授業で配布した資料を読み直す。(0.75 時間)
6	実習目標・方法	予習：本学シラバス『幼稚園教育実習』到達目標を読み実習目標及び目標達成のための方法を考える。(0.75 時間) 復習：授業で配布した資料を読み直す。(0.75 時間)
7	実習準備 実習オリエンテーション・必要書類	予習：『幼稚園教育実習の手引き』P3～P5 を読む。(0.75 時間) 復習：授業で配布した資料を読み直す。(0.75 時間)
8	実習日誌の書き方	予習：『幼稚園教育実習の手引き』P8 を読む。(0.75 時間) 復習：授業で配布した資料を読み直す。(0.75 時間)
9	実習日誌の書き方 実習日誌に沿って・エピソード記録	予習：『幼稚園教育実習の手引き』P8 を読む。 写真(子どもの遊びの様子)などから子ども・保育者・自分の視点で、いつ・どんな場面で・どうして・どんなことを・どのようにしていたか・その事実の意味をどう考えたか、の一連を予想して書く。(0.75 時間) 復習：授業で配布した資料を読み直す。(0.75 時間)
10	実習日誌の書き方を学ぶ 実習日誌に沿って・エピソード記録	
11	実習日誌の書き方を学ぶ 実習日誌に沿って・エピソード記録	
12	実習日誌の書き方を学ぶ 室内や園庭の環境・保育の１日の流れ	予習：実習園のホームページやパンフレットなどで園内・園庭を調べる。(0.75 時間) 復習：授業で配布した資料を読み直す。(0.75 時間)
13	実習の振り返り 実習目標に向けた成果と課題、他の学び	予習：実習について振り返り実習目標に向けた成果と課題や他の学びについてまとめる。(0.75 時間) 復習：授業で配布した資料を読み直す。(0.75 時間)
14	実習を振り返り(発表) 実習の評価・実習体験の共有	予習：実習について振り返り実習目標に向けた成果と課題や他の学びについてまとめる。(0.75 時間) 復習：他者からの学びを活かし今後の実習に関する課題を検討する。(0.75 時間)

テキスト	①文部科学省『幼稚園教育要領』・『幼稚園教育要領解説』 ②内閣府ほか『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 ③聖霊女子短期大学『幼稚園教育実習の手引き』・『実習日誌の書き方』
指定図書	なし

＊実務経験のある教員による授業科目の担当教員の実務経験および、教育内容

実務経験：幼稚園教諭を経て園長として保育園、幼保連携型認定こども園に勤務

教育内容：保育現場での経験を基に、実習の心構え、幼児の発達過程、保育者の援助、実習日誌の書き方など、保育の実際に即した指導を行い、実習への意欲を高める。

科　目　名	**幼稚園教育実習**	担当者	藤田洋子
区　分　等	１年次・後期、２年次・後期［実習］４単位　　選択／生活こども専攻		
評価基準	事前の書類提出、実習中の状況、実習先からの実習評価、実習日誌の記録内容など(100%)		
課題に対するフィードバック	随時アドバイスや提案するなど学生にフィードバックする。		
目　　的	幼稚園教諭、保育教諭としての職務を理解すること。 教育・保育現場での実践を通して必要な資質・能力及び実践力を身につけること。		
到達目標	**１年次の実習** ①幼児の遊びや生活及び教育や保育の実際を理解することができる。**(DP1,DP2)** ②学習で学んだ知識や技能を基盤に、意欲的に教育実習を行うことができる。**(DP2,DP3)** **２年次の実習** ①学習で学んだ知識や技能を活かしながら幼児の思いに沿った関わりができる。**(DP1,DP2,DP3)** ②教育や保育を試み、幼稚園教諭としての、資質・能力の基礎を体得することができる。**(DP2,DP3)**		
履修上の注意	・普段から品位ある行動とマナーを心がけること。 ・事前指導の内容を確認すること。 ・実習中の連絡はGoogle CIassroom経由で行うこともあるため、確認できるようにすること。		
オフィスアワー	金曜日 16 時 25 分～16 時 50 分		

	授業計画	準備学習(予習・復習)の内容及び展開
1年次実習	『１年次実習』 ①　実習期間 ９月中旬：２週間(80 時間) ②　実習計画 ・配属クラスにおいて、観察実習及び参加実習を行う。 ・実習において、子ども・保育者・自分の視点で、いつ・どんな場面で・どうして・どんなことを・どのようにしていたか・その事実の意味をどう考えたか、の一連を記録する。 ・教育や保育後の準備、清掃、園業務などを体験する。	・詳細について『教育実習の手引き』や授業配布資料を繰り返し読む。 ・絵本の読み聞かせや手遊びなどを練習する。 ・毎日の実習やクラス担任等との反省を振り返り実習日誌を記入する。 ・持参するものの確認を行い翌日の準備をする。
2年次実習	『２年次実習』 ①　実習期間 10 月中旬：2 週間(80 時間) ②　実習計画 ・配属クラスにおいて、教育や保育を行う。 ・指導案や教材等を作成し、それを基に教育や保育を試みる。(部分実習、責任実習) ・保育を振り返り、幼児観、保育観、教材観を理解する。	・詳細については『教育実習の手引き』や授業配布資料を繰り返し読む。 ・絵本の読み聞かせや手遊びなどを練習する。 ・教材研究を行う。 ・指導案を作成する。 ・毎日の実習やクラス担任等との反省を振り返り実習日誌を記入する。 ・持参するものの確認を行い翌日の準備をする。

テキスト	聖霊女子短期大学『幼稚園教育実習の手引き』、『実習日誌の書き方』
指定図書	なし

＊実務経験のある教員による授業科目の担当教員の実務経験および、教育内容

実務経験：幼稚園教諭を経て園長として保育園、幼保連携型認定こども園に勤務

教育内容：幼稚園、幼保連携型認定こども園、認定こども園(幼稚園型)における実習を通して、各自が立てた実習目標について学び得られるとともに、子どもの思いや発達理解に基づいた実践ができるように指導を行う。また、学生からの質問や不安に対する対応の充実を図り、主体的に実習に取り組めるようにする。

科　目　名	**情報処理演習**	担当者	周　業欣
区　分　等	2年次・後期[演習]2単位・選択/生活こども専攻		
評価基準	演習内容の達成度および課題の提出状況で総合的に判定します(100%)。 受験資格喪失の判定は欠席数または課題提出数で行う。		
課題に対するフィードバック	提出された課題は採点し、適宜コメントをつけて返却する。		
目　　的	この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけること、主要なアプリケーションの操作技能を習得することです。また、PCの映像編集アプリケーションを使用した編集の基礎技術も習得する。映像作品の計画、撮影、編集、公開といった一連のプロセスを課題を通して体験する。		
到達目標	1）大学の講義を受講するに際して、あるいは社会人として職務に就くときに困らない程度のアプリケーション操作技能習得を目標としている。Word、 Excel、PowerPointの基礎レベルを修了する。（DP1） 2）映像の仕組みを理解し、撮影方法や編集方法などの映像に関する基礎的な知識と技術を身につける。計画、撮達成目標影、編集、公開といった一連の制作プロセスを踏まえて、映像メディアを用いた表現の特性や可能性を知り、作品制作で活用できる表現力を身につける。（DP1、DP2）		
履修上の注意	身近にある映像表現に興味を持ち、積極的に作品鑑賞を行うこと。また、PCを使用して制作するため、PCの操作が問題なく行える程度のリテラシーは必要。		
オフィスアワー	授業の前後 10 分間		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション、授業計画の概要	授業内容のまとめと確認(1時間)
2	ワープロソフト基礎 文字の書式設定、段落の書式設定、グラフィックスの利用	課題に基づき，90分程度復習
3	表計算ソフト基礎 表作成の基礎、数式と関数、グラフの作成	課題に基づき，90分程度復習
4	パワーポイント基礎（1） プレゼンテーションを作成	課題に基づき，90分程度復習
5	パワーポイント基礎（2） プレゼンテーションを作成	課題に基づき，90分程度復習
6	撮影の基礎（1）光のコントロール	課題に基づき，90分程度復習
7	撮影の基礎（2）カメラの動き、アングルとポジション	課題に基づき，90分程度復習
8	撮影の基礎（3）構図とショットサイズ	課題に基づき，90分程度復習
9	映像作品の構成と表現手法	課題に基づき，90分程度復習
10	絵コンテンとショートムービーの制作実習	課題に基づき，90分程度復習
11	動画編集ソフトの使い方	課題に基づき，90分程度復習
12	課題の撮影を行う	授業内容の復習と練習課題の完成(1 時間)
13	課題の撮影を行う	授業内容の復習と練習課題の完成(1 時間)
14	課題の編集を行う	授業内容の復習と練習課題の完成(1 時間)
15	まとめ、プレゼンテーションを行う	全体の振り返り、90分程度事後学習

テキスト	なし
指定図書	なし

科　目　名	リーダーシップのコーチング	担当者	Mathew Philip
区　分　等	２年次・前期［講義］２単位　選択／生活こども専攻		
評価基準	①授業内での活動における達成度や参加姿勢（20%） ②リアクションペーパーによるミニレポート（30%） ③レポート（50%）		
課題に対するフィードバック	提出物等について、適宜コメントする。		
目　　的	①リーダーシップ・コーチングは、ロジャースの「人は誰でも自らの内部に、自己を成長させ、実現させる力を持っている」という考え方に基づいている。人には誰でも自分が望んでいる目標があり、その目標を自ら達成することができるように、自分が持っている個人的な特性と強みを活かして、自分がその能力と可能性を最大限に発揮し、自分で自分を幸せにするスキルを養成する。 ②優しさと強さを兼ね備えた心を育成する。 ③自己成長や気づきを促すことで、リーダーシップ能力を高める		
到達目標	①高い自己認識・高い人格・夢・目標を持ち、主体的になりたい自分を実現させる力を感じるようになる。(DP2) ②キャリア教育的視点を踏まえ、各々の夢を磨き、実現に向け目標の設定を行うことが出来るようになる。(DP2) ③自身を取り巻く人や環境からよい点や優れた点を見出すことが出来るようになる。(DP2) ④自分で自分自身を幸せにすることが出来るようになる。(DP1,DP2,DP3) ⑤隣人・仲間を愛することが出来るようになる。(DP2,DP3)		
履修上の注意	授業の形式はコーチング形式		
オフィスアワー	授業で紹介		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	ガイダンスと自己リーダーシップ論 授業概要と進め方、成績評価説明、注意事項	
2	「自分を幸せにする力」である自己リーダーシップについて	「Leadership」という英語の単語の日本語の意味を調べる　予習（30 分）
3	私ってだれ	「私ってだれ」というタイトルで 10 行の詩を書く。予習（30 分）
4	自分からみた自己・誰も知らない自己を知ることによる自己リーダーシップの開発	自分の事はどう思っているかを家族に聞いてみる。予習（20 分）
5	他人から見た自己と公開された自己を知ることによる自己リーダーシップの開発	仲間のリーダーシップスキルを評価するリーダーシップ評価表の作成。　（20 分）
6	自己超越による幸せの創造	自分の価値観のリストを作成する。予習（30 分）
7	与えることによる自己の幸せの創造	自分のボランティア活動について感想を書く。予習（20 分）
8	家族・隣人愛による自己の幸せの創造	自分が思っている家族の良いところと嫌いなところのリストの作成。　予習（20 分）
9	自己改善による自己の幸せの創造	「忘れられない友情」というタイトルで自分の友だちの話を 200 字で書く。　予習（20 分）
10	地域社会やグローバル世界と関ることによる自己の幸せの創造	自分の憧れの有名人について調べる。(40 分)
11	リーダーシップスキルによる自己の幸せの創造 「聴く」スキル・「伝える」スキル	家でママの話を聞いてあげましょう。 予習（40 分）
12	キャリア選択による自己幸せの創造	自分が良いなと思うことのリストを作成する。 予習（20 分）
13	自分で自分自身を励ますことによる自己幸せの創造	自分のために買った物のリストを作成する。予習（20 分）
14	自分のモチベーションを意識する才能	授業内で紹介（予習 40 分）
15	自分が変えられるものと変えられないものを区別する能力	自分が変えられないことのリストを作成する。予習（30 分）

テキスト	授業内で適宜資料配布または紹介。
指定図書	授業内で紹介。

科　目　名	**グローバル教養**	担当者	Mathew Philip
区　分　等	２年次・後期［講義］２単位　選択／生活こども専攻		
評価基準	①授業への参加姿勢：20% ②授業のテーマへのコメントペーパー：20% ③レポート：60%		
課題に対するフィードバック	提出物等について、適宜コメントする。		
目　　的	①「地域文化」のグローバル化を学ぶ中で、日本に滞在をしている世界の人々を大切にし、一緒に働き地域で暮らす日本人の現状と課題を研究し、学ぶことで、「地域」と「グローバル」社会をさまざまな視角から考察する力を養い、世界の舞台で活躍するスキルを習得する。 ②表面化されていない地域文化のグローバルな広がりや秋田のグローバル化を調査し、浮き彫りにして行く中で、調査能力を育む。 ③地域や世界のグローバル化への関心を高め、関連する新聞記事や資料を受講前よりも深く読めるようになる。 ④グローバル化（および世の中の出来事）の分析能力を養う。 ⑤世界のすべの人々自分の愛する精神を養う。		
到達目標	①秋田で自分が出来るプロジェクトについてグループでディスカッションし、作成する。(DP1,DP3) ②グローバル社会と日本（社会）との関係について、具体的な現象とその背景を知り、さらに考えるヒントを得ることが出来るようになる。(DP1,DP2) ③グローバル化や地域文化を評価し、グローバルマナーを身につけ、世界で活躍できるようになる。(DP1) ④地域社会においてもグローバル社会でも恥じないマナーをもってコミュニケーションを出来るようになる。(DP1,DP3)		
履修上の注意	なし		
オフィスアワー	授業で紹介		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション・グローバル世界論	
2	グローバル化って何	Global と言う言葉の意味を辞書で調べてノートに書く。予習（20 分）
3	自分の可能性を広げるグローバル化	外国で活躍している日本人についての新聞記事を読む。予習（30 分）
4	グローバル化によって広がる秋田地域の絆	秋田市に住んでいる外国人の数と国籍を調べる。 予習（30 分）
5	教育におけるグローバル化	秋田でグローバルな教育をしている学校のリストを作る。予習（30 分）
6	近所付き合いや生活のグローバル化における変化	外国人と話してみる。(30 分)
7	地域家庭生活のグローバル化	国際結婚について調べる。(30 分)
8	世界の地域文明を豊かにするグローバル化	世界で人気のある日本料理のリストを作成する。
9	グローバル化の中で広がる人の夢	世界で行ってみたい国、やってみたいことのリストを作成する。予習（30 分）
10	グローバル化の中の人々の生き方	アフリカ人の生き方について調べる。(40 分)
11	グローバル化の中で広がる子どもの可能性	アジアのこどもの生き方について調べる。(40 分)
12	超大国に成長する我が国日本	日本の国際協力について調べる。(40 分)
13	グローバル世界と地域ユーモア	日本のお笑い業界について調べる。(40 分)
14	グローバル化による女性の意識変化	日本の女性活動家について調べる。(40 分)
15	グローバルマナーと地域文化	レポートのテーマを決める。

テキスト	授業内で適宜資料配布または紹介。
指定図書	授業で紹介。

科　目　名	社会福祉	担当者	佐藤邦子
区　分　等	２年次・後期 [講義] ２単位　必修／生活こども専攻		
評 価 基 準	授業内試験（30%）、レポート（50%）、グループワークの参加度（20%）。		
課題に対するフィードバック	随時。アドバイスや提案をする等、学生にフィードバックする。		
目　　的	本授業では、社会福祉の基本理念や制度を学び、特に子どもや家庭を支える福祉制度・支援について理解を深める。保育の現場で求められる福祉的視点を養い、子どもとその家庭を包括的に支援できる力を身につけることを目的とする。		
到 達 目 標	①社会福祉の基本概念 を理解し、子どもや家庭を対象とした福祉の役割を説明できる。(DP1) ②児童福祉法や子ども家庭福祉制度 について概要を理解し、具体的な支援内容を説明できる。(DP2,DP3) ③保育士・幼稚園教諭としての役割 を踏まえ、福祉制度との連携の重要性を理解できる。(DP1)		
履修上の注意	特になし		
オフィスアワー	火曜日 15 時 00 分～16 時 00 分（ＣＢ０７研究室）		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション 社会福祉の理念と歴史的変遷	予習：テキスト P2～P12 を読む（1 時間） 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す（1 時間）
2	子ども家庭支援と社会福祉	予習：テキスト P14～P26 を読む（1 時間） 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す（1 時間）
3	社会福祉の制度と法体系	予習：テキスト P28～P38 を読む（1 時間） 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す（1 時間）
4	社会福祉行財政と実施機関、社会福祉施設等	予習：テキスト P40～P54 を読む（1 時間） 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す（1 時間）
5	社会福祉の専門職	予習：テキスト P56～P66 を読む（1 時間） 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す（1 時間）
6	社会保障および関連制度の概要	予習：テキスト P68～P78 を読む（1 時間） 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す（1 時間）
7	相談援助の理論	予習：テキスト P80～P90 を読む（1 時間） 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す（1 時間）
8	相談援助の意義と機能	予習：テキスト P92～P101 を読む（1 時間） 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す（1 時間）
9	相談援助の対象と課程	予習：テキスト P104～P114 を読む（1 時間） 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す（1 時間）
10	相談援助の方法と技術	予習：テキスト P116～P128 を読む（1 時間） 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す（1 時間）
11	社会福祉における利用者の保護にかかるしくみ	予習：テキスト P130～P140 を読む（1 時間） 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す（1 時間）
12	少子高齢化社会における子育て支援	予習：テキスト P142～P151 を読む（1 時間） 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す（1 時間）
13	共生社会の実現と障害者施策	予習：テキスト P154～P164 を読む（1 時間） 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す（1 時間）
14	在宅福祉・地域福祉の推進	予習：テキスト P166～P176 を読む（1 時間） 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す（1 時間）
15	諸外国の社会福祉の動向	予習：テキスト P178～P184 を読む（1 時間） 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す（1 時間）

テキスト	『社会福祉』新基本保育シリーズ④　中央法規出版
指定図書	なし

科目名	こども家庭福祉	担当者	寺谷直輝
区分等	２年次・前期 ［講義］２単位　必修／生活こども専攻		
評価基準	**①学期内に３回実施する小テスト［３０％］(到達目標①と関連)** **②期末レポート「My Curriculum Report」［５０％］(到達目標②と関連)** **③予習課題の提出状況［±２０％］(到達目標③と関連)**		
課題に対するフィードバック	①小テストは、答案回収後に（授業時間中に）PowerPoint を用いて解説します。 ②期末レポートは、作成途中で適宜個別もしくは全体に共有して、フィードバックします。 ③予習課題は、次回の授業時間を使ってフィードバックします。		
目的	【保育実習】を通じて得られる保育士の専門性（主に知識・技術・価値と倫理）と関連づけながら、①現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷、②子どもの人権擁護、③子ども家庭福祉の制度と実施体系、④子ども家庭福祉の現状と課題、⑤子ども家庭福祉の動向と展望を理解することが目的です。		
到達目標	①保育・子ども家庭福祉・文化・社会状況等の観点を関連づけながら、子ども家庭福祉に関わる基礎知識を正確に理解できている (DP1)。 ②子ども家庭福祉に関わる基礎知識を活用して、【保育実習】を通じて得られる保育者の専門性と関連づけながら、科学的・論理的思考に基づいた意見や教育的信条を記述できる (DP2)。 ③子ども家庭福祉に関わる基礎知識を、積極的に獲得しようと努めている (DP3)。		
履修上の注意	①第１回の授業から必ず出席すること。 ②下記［準備学習の内容］(テキストの通読と予習課題の提出) を取り組む時間を確保すること。 ③毎回、「赤・青・緑」のフリクションボールペンを持参すること。		
オフィスアワー	火曜日昼休み　★左記以外の時間は事前にアポイントを取った上で来訪すること。		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	授業全体のガイダンス	復習：1 １年次後期の授業で行った演習科目・課外活動の概要と得られた資質能力について配付資料（C列の素材）に整理すること（１時間)。 2 「３色ボールペン読書法」を用いて、**テキスト①Chapter.1「子ども家庭福祉の歴史」(PP.2-19)** を読むこと（１時間)。
2	(Chapter.8) 子ども虐待とドメスティック・バイオレンス	予習：**テキスト①Chapter.8 (PP.103-118)** を読み、指定した期日までに予習課題を 150 字以上で提出すること（３時間)。 復習：期末レポートのＡ列に活かせそうなキーワード（Ｂ列）と引用する理由を簡単にメモすること（１時間)。
3	(Chapter.6) 母子保健と子どもの健全育成	予習：**テキスト①Chapter.6 (PP.75-88)** を読み、指定した期日までに予習課題を 150 字以上で提出すること（３時間)。 復習：期末レポートのＡ列に活かせそうなキーワード（Ｂ列）と引用する理由を簡単にメモすること（１時間)。
4	(Chapter.13) 多様な保育ニーズのある子どもへの対応(1)	予習：**テキスト①Chapter.13 (PP.170-182)** を読み、指定した期日までに予習課題を 150 字以上で提出すること（３時間)。 復習：期末レポートのＡ列に活かせそうなキーワード（Ｂ列）と引用する理由を簡単にメモすること（１時間)。
5	第１回小テストの実施と解説 ●第１回から第４回の授業で学んだことの振り返り	予習：小テストに向けて、第１回から第４回までに学習した内容を整理すること（２時間)。 復習：小テストを通じて授業内容の理解度を自己評価した上で、期末レポートの作成を進めること（２時間)。
6	(Chapter.5) 子どもの貧困対策	予習：**テキスト①Chapter.5 (PP.60-74)** を読み、指定した期日までに予習課題を 150 字以上で提出すること（３時間)。 復習：期末レポートのＡ列に活かせそうなキーワード（Ｂ列）と引用する理由を簡単にメモすること（１時間)。
7	(Chapter.10) 障害のある子どもへの対応	予習：**テキスト①Chapter.10 (PP.131-142)** を読み、指定した期日までに予習課題を 150 字以上で提出すること（３時間)。 復習：期末レポートのＡ列に活かせそうなキーワード（Ｂ列）と引用する理由を簡単にメモすること（１時間)。
8	(Chapter.12) 多様な保育ニーズのある子どもへの対応(2)	予習：**テキスト①Chapter.12 (PP.183-197)** を読み、指定した期日までに予習課題を 150 字以上で提出すること（３時間)。 復習：期末レポートのＡ列に活かせそうなキーワード（Ｂ列）と引用する理由を簡単にメモすること（１時間)。
9	第２回小テストの実施と解説 ●第６回から第８回の授業で学んだことの振り返り	予習：小テストに向けて、第６回から第８回までに学習した内容を整理すること（２時間)。 復習：期末レポートのＡ列に活かせそうなキーワード（Ｂ列）と引用する理由を簡単にメモすること（１時間)。

10	(Chapter.2) 子どもの権利条約	予習：**テキスト①Chapter.2 (PP.22-30)** を読み、指定した期日までに予習課題を 150 字以上で提出すること（３時間)。 復習：期末レポートのＡ列に活かせそうなキーワード（Ｂ列）と引用する理由を簡単にメモすること（１時間)。
11	(Chapter.3) 子ども家庭福祉の制度と実施体系	予習：**テキスト①Chapter.3 (PP.31-44)** を読み、指定した期日までに予習課題を 150 字以上で提出すること（３時間)。 復習：期末レポートのＡ列に活かせそうなキーワード（Ｂ列）と引用する理由を簡単にメモすること（１時間)。
12	(Chapter.7) 次世代育成支援と地域との連携・協働	予習：**テキスト①Chapter.7 (PP.89-102)** を読み、指定した期日までに予習課題を 150 字以上で提出すること（３時間)。 復習：期末レポートのＡ列に活かせそうなキーワード（Ｂ列）と引用する理由を簡単にメモすること（１時間)。
13	(Chapter.12) 少子化と地域子育て支援	予習：**テキスト①Chapter.12 (PP.157-168)** を読み、指定した期日までに予習課題を 150 字以上で提出すること（３時間)。 復習：期末レポートのＡ列に活かせそうなキーワード（Ｂ列）と引用する理由を簡単にメモすること（１時間)。
14	(Chapter.11) 子どもの権利と福祉	予習：**テキスト①Chapter.11 (PP.143-156)** を読み、指定した期日までに予習課題を 150 字以上で提出すること（３時間)。 復習：期末レポートのＡ列に活かせそうなキーワード（Ｂ列）と引用する理由を簡単にメモすること（１時間)。
15	第３回小テストの実施と解説 ●自己評価アンケートの実施 ●第10回から第14回の授業で学んだことの振り返り	予習：小テストに向けて、第 10 回から第 14 回までに学習した内容を整理すること（２時間)。 復習：期末レポートを指定した期日までに事務局窓口に提出すること（４時間)。
テキスト	今年度は　**①新沼英明編『こどもまんなか福祉論』(中央法規出版)・②二本柳覚編『図解でわかる障害福祉サービス』(中央法規出版)・③厚生労働省編『保育所保育指針解説　平成 30 年３月』(フレーベル館)** の３冊を指定します。	
指定図書	守巧ほか『改訂版 施設実習パーフェクトガイド』(わかば社)　他（巻末参照）	

※実務経験のある教員による授業科目の担当教員の実務経験および、教育内容

実務経験：障害者総合支援法による障害福祉サービス事業や地域生活支援事業を活用して運営されているフリースクールで、主に発達障害や知的障害のある特別支援学校高等部段階に相当する生徒や大学生に相当する青年に対する学習支援や学習支援の在り方に関わる研究と実践に携わりました。また、文部科学省による「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究」で、NPO 法人や社会福祉法人が行政と連携協働しながら障害者の生涯学習プログラムを構想・開発する事業にも携わりました。また、保育実習指導者認定証を取得しています。

教育内容：フリースクールでの実務経験をもとに、学生のニーズや理解度を丁寧に汲み取りながら、【保育実習】との関連や、子ども家庭福祉と障害児・者福祉の関連、あるいは子ども家庭福祉と教育・保育との関連を意識できるよう指導を行い、保育士の専門性をより高める授業を展開します。

科　目　名	こども家庭支援論	担当者	野内友規
区　分　等	２年次・前期［講義］２単位　必修／生活こども専攻		
評価基準	到達目標１：定期試験、授業内小テスの内容に基づき評価する。(40%) 到達目標２：授業内提出物に基づき評価する。(40%) 到達目標３：グループワークの活動状況に基づき評価する。(20%)		
課題に対するフィードバック	提出物（レポート）については、随時コメントをつけて返却する。		
目　　的	現代の子育て家庭の現状を理解し、子育て家庭に対する支援の考え方、方法、課題について考察する力を養う。子どもの発達・成長を支援する専門職である保育者として期待されている家庭支援に関する専門性について学びを深め実践する力を養う。		
到達目標	１．子育て家庭に対して保育者が行う支援の意義や役割について説明することができる。(DP1,DP2) ２．受容的かつ共感的な態度と姿勢で模擬実践（ロールプレイ）を行うことができる。(DP2,DP3) ３．子育て支援に関するグループワークに参加し、自分の意見を伝えるとともに他者の意見を受容的に聞くことができる。(DP2,DP3)		
履修上の注意	１．グループワークには積極的に参加すること。保育現場を推定してグループ活動が行われるため、最低限のコミュニケーション能力を求めます。 ２．授業において合理的配慮が必要な際は、授業時に必ず担当教員へ相談すること。		
オフィスアワー	月曜日７・８限		

授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	子ども家庭支援の意義と必要性	予習：テキストP1～P13（子ども家庭支援の意義と必要性）を読む。(1時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1時間)
2	子ども家庭支援の目的と機能	予習：テキストP14～P25（子ども家庭支援の目的と機能）を読む。(1時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1時間)
3	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進	予習：テキストP26～P37（子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進）を読む。(1時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1時間)
4	子育て家庭の福祉を図るための社会資源	予習：テキストP38～P49（子育て家庭の福祉を図るための社会資源）を読む。(1時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1時間)
5	保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義	予習：テキストP50～P61（保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義）を読む。(1時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1時間)
6	子どもの育ちの喜びの共有	予習：テキストP62～P73（子どもの育ちの喜びの共有）を読む。(1時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1時間)
7	保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援	予習：テキストP74～P85（保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援）を読む。(1時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1時間)
8	保育士に求められる基本的態度	予習：テキストP86～P97（保育士に求められる基本的態度）を読む。(1時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1時間)
9	家庭の状況に応じた支援	予習：テキストP98～P109（家庭の状況に応じた支援）を読む。(1時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1時間)
10	地域の資源の活用と自治体・関係機関などとの連携・協力	予習：テキストP110～P121（遊びと人間関係の発達）を読む。(1時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1時間)
11	子ども家庭支援の内容と対象	予習：テキストP122～P133（地域の資源の活用と自治体・関係機関などとの連携・協力）を読む。(1時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1時間)

12	保育所などを利用する子どもの家庭への支援	予習：テキスト P134～P145（保育所などを利用する子どもの家庭への支援）を読む。(1 時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1 時間)
13	地域の子育て家庭への支援	予習：テキスト P146～P157（地域の子育て家庭への支援）を読む。(1 時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1 時間)
14	要保護児童及びその家庭に対する支援	予習：テキスト P158～P169（要保護児童及びその家庭に対する支援）を読む。(1 時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1 時間)
15	子育て支援に関する課題と展望	予習：テキスト P170～P180（子育て支援に関する課題と展望）を読む。(1 時間) 復習：授業内で配布した問題をやり直す。（1時間）
テキスト	村原康雄・村田典子・南野奈津子編集『子ども家庭支援論』ISBN：978-4-8058-5785-4（中央法規出版）	
指定図書	なし	

科　目　名	こども家庭支援の心理学	担当者	織田栄子
区　分　等	２年次・前期［講義］２単位　選択／生活こども専攻		
評価基準	到達目標１　定期試験でのテスト（40%）、中間まとめ（30%） 到達目標２　受講カードの提出と内容（20%）、受講取り組み態度（10%）。		
課題に対するフィードバック	１　提出物（ワークシート等）は、随時、コメントを付けて返却する。 ２　提出物、中間まとめやテストは、随時、アドバイスなど学生にフィードバックする。		
目　　的	人間の一生涯の発達的特徴を踏まえ、ライフコースを概観する。そのうえで、人間を取り巻く環境と個の特徴、特に、子どもと家族との関係性や子どもの心の問題についての理解を深めながら対応方法を身に付ける。		
到達目標	１　子どもと家族との関係性について、子どもの視点、家族の視点、それぞれから理解できる。(DP1,Dp2) ２　子どもと家族の発達的特徴を踏まえたライフコースという視点から、子どもの心の問題、家族の問題について理解し、対応方法を考えることができる。(DP1,DP2)		
履修上の注意	授業内でワークや心理テストを体験してもらいます。ＤＶＤや動画を適宜使います。		
オフィスアワー	火曜日昼休み		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション 乳幼児期から幼児期の発達の特徴	・予習：教科書 p1～8「第 1 章乳幼児期から学童期にかけての発達の特徴、1.乳児期の発達とその特徴、2.幼児期の発達とその特徴を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
2	学童期の発達の特徴	・予習：教科書 p8～11「第 1 章保育と教育心理学、3.学童期の発達とその特徴」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
3	思春期から青年期の発達の特徴	・予習：教科書 p12～24「第 2 思春期から青年期の発達の特徴を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
4	成人期から高齢期の発達の特徴	・予習：教科書 p25～36「第 3 章成人期から高齢期の発達の特徴」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
5	家族システムと家族発達	・予習：教科書 p37～48「第 4 章家族システムと家族発達」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
6	親としての養育スタイルの形成と世代間伝達	・予習：教科書 p49～61「第 5 章親としての養育スタイルの形成と世代間伝達」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
7	子育て環境の社会状況的変化 ・世帯とは、日本の世帯の変遷 ・ジェノグラムの読み方、書き方 ライフコースとワーク・ライフ・バランス	・予習：教科書 p62～71「第 6 章子育て環境の社会状況的変化」、p72～82「第 7 章ライフコースとワーク・ライフ・バランス」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
8	多様な子育て家庭への支援１ ・多様な家庭における子どもとは ・中間まとめと解説	・予習：教科書 p83～93「第 8 章多様な子育て家庭への支援」を読む(0.75 時間) ・復習：復習：中間まとめで課されたテーマについて、教科書 p83～93 を読み、要点をまとめる(0.75 時間)
9	多様な子育て家庭への支援２ ・多様な家庭における子どもへの対応	・予習：教科書 p83～93「第 8 章多様な子育て家庭への支援」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
10	特別な配慮を必要とする家庭への支援１ ・特別な配慮が必要な家庭とは	・予習：教科書ｐ94～102「第 9 章特別な配慮を必要とする家庭への支援」を読む（0.75 時間） ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
11	特別な配慮を必要とする家庭への支援２ ・背景や子どもと家庭の特徴を考える	・予習：教科書ｐ94～102「第 9 章特別な配慮を必要とする家庭への支援」を読む（0.75 時間） ・復習：授業で配付した資料を読む（0.75 時間）

12	特別な配慮を必要とする家庭への支援３ ・支援方法を考える	・予習：教科書ｐ94～102「第９章特別な配慮を必要とする家庭への支援」を読む（0.75 時間） ・復習：授業で配付した資料を読む（0.75 時間）
13	子どもを取り巻く生活環境と心身の健康 ・基本的生活習慣 ・事故防止と安全確保 ・事件、事故等予期せぬ事態における子どもと家族への対応（性犯罪、交通事故等） 災害と子ども ・災害と精神的健康 ・支援者である保育者に求められること（保育者のセルフケアなど）	・予習：教科書ｐ103～113「第 10 章子どもを取り巻く生活環境身の健康」、p136～146「第 13 災害と子ども」を読む（0.75 時間） ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
14	子どもの心と健康 ・子どもの心の健康の基礎知識 ・幼児期・学童期に見られる主な精神疾患 ・子どもの心の健康（メンタルヘルス）を保つために	・予習：教科書ｐ114～125「第 11 章子どもの心と健康」を読む（0.75 時間） ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
15	障害のある子どもの理解と対応	・予習：教科書ｐ126～135「第 12 章障害のある子どもの理解と対応」を読む（0.75 時間） ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)

テキスト	本郷一夫、神谷哲司編著『子ども家庭支援の心理学』（建帛社）
指定図書	あり（巻末参照）。適宜、参考図書等を紹介します。

科　目　名	こどもの理解と援助	担当者	織田栄子
区　分　等	２年次・後期［演習］１単位　選択／生活こども専攻		
評価基準	到達目標１　小テスト（30%）、中間まとめ(30%) 到達目標２　授業内提出物（30%）受講取り組み態度（10%）。		
課題に対するフィードバック	１　提出物（ワークシート等）は、随時、コメントを付けて返却する。 ２　提出物、中間まとめやテストは、随時、アドバイスなど学生にフィードバックする。		
目　　的	子どもの発達過程、及び学習過程を踏まえながら、子ども一人ひとりの特徴を把握する方法、また、教育的対応、及び養護的対応について、実践力を身に付ける。		
到達目標	１　ワークや事例検討等を通して、子どもと保護者の理解が深まることで、具体的援助方法が分かり、実践に結びつけることができる。(DP1、DP2) ２　子どもと保護者を理解する過程を通し、保育者となる自分自身を振り返ることで、保育者としての態度や基本的考え方が分かる。(DP3)		
履修上の注意	授業内でワークを行います。ＤＶＤや動画を適宜使います。		
オフィスアワー	火曜日昼休み		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション 保育における子ども理解の意義	・予習：これまでの実習を振り返り、子ども理解のために何が必要かついてまとめる。(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む。(0.75 時間)
2	子どもに対するかかわり方と共感的理解１ ・保育者となる自分自身の特徴を知る	・予習：理想の保育者像について考える(0.5 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
3	子どもに対するかかわり方と共感的理解２ ・共感的理解とは何か	・予習：共感的理解」について調べ、要点をまとめる（0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
4	子どもを理解する視点１ ・子どもの生活や遊び、保育の人的環境としての保育者と子どもの発達 ・子ども相互のかかわりと関係づくり ・集団における経験と育ち ・発達における葛藤やつまずき （グループワーク）	・予習：これまでの実習や自分の体験から、どのような遊びをしていたかまとめる。(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む。(0.75 時間)
5	子どもを理解する視点２ ・保育の環境の理解と構成１ ・環境の変化や移行	・予習：インターネットや書籍で「子どもが安全で安心できる保育環境」について調べ、要点をまとめる。(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む。(0.75 時間)
6	子どもを理解する視点３ ・保育の環境の理解と構成２ ・中間まとめと解説	・予習：第５回目授業で配付した統計資料等から、子どもの死亡事故や予防方法について、要点をまとめる。(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む。(0.75 時間)
7	子どもを理解する方法１ ・観察と記録１ ・省察と評価１	・予習：インターネットや書籍で「子どもの特徴をつかみ、記録する方法」について調べ、要点をまとめる。(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む（0.75 時間）
8	子どもを理解する方法２ ・保護者との情報共有１	・予習：インターネットや書籍で「保護者が子どもについて知りたいこと」について調べ、要点をまとめる。(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む（0.75 時間）
9	子どもを理解する方法３ ・観察と記録２ ・保護者との情報共有２ （グループワーク）	予習：第７・８回授業の要点を確認する。(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む（7.5 時間）
10	子どもを理解する方法４ ・職員間の対話（グループワーク）	・予習：インターネットや書籍で「コミュニケーションで大切なこと」について調べ、要点をまとめる。(0.75 時間) ・復習：グループワークを振り返り、職員間の対話に必要なことについてまとめる。(0.75 時間)
11	子ども理解に基づく発達援助１ ・発達課題に応じた援助とかかわり１	・予習：インターネットや書籍で「発達、発達段階、発達課題」について調べ、要点をまとめる。 ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)

12	子ども理解に基づく発達援助２ ・発達課題に応じた援助とかかわり２ 事例検討	・予習：これまでの実習を振り返り、子どもの理解のために何が必要かついてまとめる（0.75 時間） ・復習：グループワークを振り返り、発達課題に応じた援助と関わりについてまとめる（0.75 時間）
13	子ども理解に基づく発達援助３ ・特別な配慮を要する子どもの理解と援助 ・表現療法を用いた関わり（表現療法の体験）	・予習、インターネットや書籍で「特別な配慮を要する子ども」について調べ、要点をまとめる。（0.75 時間） ・復習：授業で配付した資料を読む。（0.75 時間）
14	発達の連続性と就学への支援 ・幼保でできること、小学校でできること ・幼保・小学校のつながり	・予習、インターネットや書籍で「幼保連携」について調べ、要点をまとめる。（0.75 時間） ・復習：授業で配付した資料を読む。（0.75 時間）
15	・まとめと小テスト ・解説	・予習：これまでの授業で配付した資料を読む（１時間） ・復習：まとめと小テストで出た課題について振り返り、要点をまとめる（0.5 時間）

テキスト	なし。
指定図書	あり（巻末参照）。適宜、参考図書等を紹介します。

科　目　名	こどもの食と栄養	担当者	松田律子
区　分　等	２年次・通年［演習］２単位 選択／生活こども専攻		
評価基準	課題（50%）、定期試験（50%）		
課題に対するフィードバック	課題はコメントをつけて返却する。		
目　　的	食を通しての健全な心身の発育と小児期における好ましい食習慣の意義と必要性を理解する。保育者として保育との関連の中で、小児期に適切な食事を提供することの意義、食生活が心の健康にも影響することを理解する。		
到達目標	①　子どもの発育・発達の特徴、摂食機能や摂食行動を理解できる。(DP1) ②　各発育段階における栄養、食生活の重要性を理解できる。(DP1) ③　食育の演習を通して食育を計画し、実践できる。(DP2)（DP3) ④　食生活指導及び食を通した保護者への支援について理解できる。(DP1)		
履修上の注意	調理の際は白衣またはエプロン、三角巾を着用のこと。 調理の食材料費を徴収する。		
オフィスアワー	火曜 13:00～14:00		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	子どもの健康と食生活の意義	テキストをよく読んでくる（1 時間）
2	子どもの食生活の現状と課題	テキストをよく読んでくる（1 時間）
3	子どもの心身の発達と食生活	テキストをよく読んでくる（1 時間）
4	栄養に関する基礎知識(1)	ワークシートをまとめて理解する（１時間）
5	栄養に関する基礎知識(2)	ワークシートをまとめて理解する（１時間）
6	乳幼児期の食と食生活	テキストをよく読んでくる（1 時間）
7	子どもの食事[調乳・授乳]理論・計画	ワークシートをまとめて理解する（１時間）
8	子どもの食事[調乳・授乳]演習	ワークシートをまとめて理解する（１時間）
9	子どもの食事[離乳初期]理論・計画	ワークシートをまとめて理解する（１時間）
10	子どもの食事[離乳初期]演習	演習内容をワークシートにまとめる（１時間）
11	子どもの食事[離乳中期～完了期]理論・計画	ワークシートをまとめて理解する（１時間）
12	子どもの食事[離乳中期～完了期]調理演習	演習内容をワークシートにまとめる（１時間）
13	食育に関する指針	テキストをよく読んでくる（1 時間）
14	食事環境の配慮[食育掲示物]理論・計画	ワークシートをまとめて理解する（１時間）
15	食事環境の配慮[食育掲示物]作成・前半のまとめ	演習内容をワークシートにまとめる（１時間）
16	子どもの食事[幼児食]理論・計画	ワークシートをまとめて理解する（１時間）
17	子どもの食事[幼児食・おやつ]調理演習	演習内容をワークシートにまとめる（１時間）
18	子どもの食事[幼児食・おやつ]調理演習	演習内容をワークシートにまとめる（１時間）
19	特別な配慮を必要とする子どもの食と栄養 [食物アレルギー]	テキストをよく読んでくる（1 時間）
20	特別な配慮を必要とする子どもの食と栄養 [食物アレルギー]演習と評価	ワークシートをまとめて理解する（１時間）
21	特別な配慮を必要とする子どもの食と栄養 [小児のやせ・肥満]	ワークシートをまとめて理解する（１時間）
22	保護者支援・地域支援	テキストをよく読んでくる（1 時間）
23	子どもの食事[幼児食]理論・計画	ワークシートをまとめて理解する（１時間）
24	子どもの食事[幼児食・1 食献立]調理演習	演習内容をワークシートにまとめる（１時間）
25	子どもの食事[幼児食・1 食献立]調理演習	演習内容をワークシートにまとめる（１時間）
26	健康危機管理・緊急時対応	テキストをよく読んでくる（1 時間）
27	食育[食育指導]理論・計画	ワークシートをまとめて理解する（１時間）
28	食育[食育指導]演習と評価	演習内容をワークシートにまとめる（１時間）
29	食育[食育指導]演習と評価	演習内容をワークシートにまとめる（１時間）
30	授業全体のまとめ	演習内容をワークシートにまとめる（１時間）

テキスト	太田百合子、堤 ちはる編『子どもの食と栄養 保育現場で活かせる食の基本』（羊土社）
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	**保育指導法**	担当者	石井美和子
区　分　等	２年次・前期 [講義] 2 単位　選択／生活こども専攻		
評 価 基 準	①定期試験（40%）　②課題提出・発表（40%）　③授業への取り組み姿勢（20%）。		
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスや提案等、学生にフィードバックする。		
目　　的	・幼稚園教育要領に基づき、幼稚園教育において育みたい資質能力を理解し、5 領域のねらい及び内容の関連について、情報機器及び教材の活用を実践的に学び、具体的な保育を想定した指導計画を作成する能力を身につけること。 ・幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて教材研究などを行い、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につけること。		
到 達 目 標	①　幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本を理解している。（DP1） ②　幼児期の発達をふまえ、幼稚園教育において育みたい資質能力を理解並びに全体構造を理解している。（DP1） ③　幼稚園教育要領の各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用を理解し保育構想に活用することができる。（DP1、DP2） ④　幼稚園教育の指導計画の構想を理解し、模擬保育を行い具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。（DP2、DP3） ⑤　幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を理解している。（DP1、DP2）		
履修上の注意	・欠席した場合には授業の内容を確認する。 ・連絡は Google Classroom 経由で行うこともあるため、確認できるようにしておくこと。		
オフィスアワー	月曜日 16 時 30 分～17 時 30 分		

授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション （授業の進め方） ―幼稚園教育とは― ―保育方法とは―	予習：指定図書などの実践記録の本を読んで、実践記録について学ぶ習慣をつける。（1 時間） 復習：自分で時間を作ってボランティアなどを行い、幼児の理解・保育方法について自ら探究する。教材研究について調べる。（2 時間）
2	「幼稚園教育要領」と保育内容 ①―保育内容に関する理解､具体的な教材を使って環境構成を考える	予習：幼稚園教育要領」第 1 章・第 2 章を読む。（1 時間） 復習：教材研究（遊びノート）作成する。（1 時間）
3	「幼稚園教育要領」と保育内容 ②―5 領域の趣旨や特質について	予習：「幼稚園教育要領」第 1 章・第 2 章を読む。（1 時間） 復習：配布された資料・プリントを見直し課題に取り組む（1 時間）
4	幼稚園教育の基盤となる幼児の理解	予習：テキスト第 2 章を読む。（1 時間）
5	環境を通しての教育① 環境を通しての学び	予習：テキスト第 5 章を読む。（1 時間） 復習：振り返り課題に取り組む。（1 時間） 教材研究（遊びノート）に関連事項を調べて記入する。（1 時間）
6	環境を通しての教育② 環境構成の実際	予習：テキスト第 5 章を読む（1 時間） 復習：振り返り課題に取り組む。（1 時間） 教材研究（遊びノート）に関連事項を調べて記入する。（1 時間）
7	遊びを通しての指導① 幼児期の発達と遊び	予習：テキスト第 6 章を読む。（1 時間） 復習：振り返り課題に取り組む。（1 時間） 教材研究（遊びノート）に関連事項を調べて記入する。（1 時間）
8	遊びを通しての指導② 幼児の遊びの展開	予習：テキスト第 6 章を読む。（1 時間） 復習：振り返り課題に取り組む。（1 時間） 教材研究（遊びノート）に関連事項を調べて記入する。（1 時間）
9	遊びを通しての指導② 幼児の遊びに対する援助	予習：テキスト第 6 章を読む。（1 時間） 復習：振り返り課題に取り組む。（1 時間） 教材研究（遊びノート）に関連事項を調べて記入する。（1 時間）
10	保育内容の指導法① 発達の時期に応じた指導のあり方	予習：テキスト第 8.9 章を読む。（1 時間） 復習：振り返り課題に取り組む。（1 時間） 教材研究（遊びノート）に関連事項を調べて記入する。（1 時間）
11	保育内容の指導法② 協同的遊びの展開と援助	予習：テキスト第 9 章を読む。（1 時間） 復習：振り返り課題に取り組む。（1 時間） 教材研究（遊びノート）に関連事項を調べて記入する。（1 時間）
12	保育内容の指導法③ 行事を生かした保育の展開	予習：テキスト第 7 章を読む。（1 時間） 復習：振り返り課題に取り組む。（1 時間） 教材研究（遊びノート）に関連事項を調べて記入する。（1 時間）
13	保育計画の実際 （アプローチカリキュラムとスタートカリキュラム）	予習：テキスト第 12 章を読む。（1 時間） 復習：振り返り課題に取り組む。（1 時間）
14	情報機器の活用と課題 （視聴覚教材の活用法）	予習：テキスト第 14 章を読む。（1 時間） 復習：教材研究（遊びノート）をまとめ、発表用の PowerPoint 作成（2 時間）
15	具体的な指導場面を想定した保育の構想を考える	予習：これまでの復習・課題をまとめる。（2 時間） 復習：発表に向けて準備する（3 時間）

テキスト	保育方法・指導(大豆生田啓友、渡辺英則、編著ミネルヴァ書房) フォトランゲージで学ぶ―子どもの育ちと実習日誌・指導計画―（萌文書林） 幼稚園教育要領および解説（最新版）（文部科学省著、フレーベル館） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領および解説（最新版）（内閣府・文部科学省・厚生労働省著、フレーベル館）
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	**保育内容・健康**	担当者	大曽基宣
区　分　等	２年次・前期［演習］１単位　選択／生活こども専攻		
評価基準	到達目標１：レポートの内容に基づき評価する。(30%) 到達目標２：グループワーク、実践発表および提出物の内容に基づき評価する。(50%) 到達目標３：シャトルカードの内容に基づき評価する。(20%)		
課題に対するフィードバック	レポートおよびシャトルカードは、添削後に返却する。		
目　　的	心身の発育・発達、基本的生活習慣の獲得、運動発達、安全などに関する幼児の育ちを理解し、それらを踏まえて自らの保育を構想・改善できるようになることを目的とする。		
到達目標	1．領域「健康」のねらい及び内容を理解し、幼児の心身の発育・発達、基本的生活習慣の獲得、運動発達、安全などに関する専門的事項について説明できる。(DP1) ２．領域「健康」に関わる幼児の育ちを理解し、遊びや生活のなかで育くまれる心情認識、思考および動き等を視野に入れた保育を構想し、具体的な指導案を作成することができる。(DP2) ３．主体的に自身の考えを述べ、他者の意見を取り入れながら、協働して取り組むことができる。(DP3)		
履修上の注意	授業中に意見交換をする機会を多数設ける。他者の意見を肯定的に受け入れ、自身の考えを広げる姿勢で授業に臨むこと。		
オフィスアワー	金曜日　１６時２０分～１６時５０分		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション（健康の定義）	予習：健康の定義を調べる(1h) 復習：授業目標に照らして、配付資料[健康の定義]を再読する(1h)
2	領域「健康」のねらい及び内容の理解 ー保護者の想いから考えるー [視聴覚教材：はなちゃんのみそ汁]	予習：領域「健康」のねらいと内容を読む(1h) 復習：授業目標に照らして、配付資料[領域「健康」のねらい及び内容の理解]を再読する(1h)
3	乳幼児の心身の発育発達	予習：出生体重などに関する家族へのインタビュー(1h) 復習：授業目標に照らして、配付資料[乳幼児の心身の発育発達]を再読する(1h)
4	基本的生活習慣の形成を支える環境構成と援助（生活リズム・睡眠） ー教材研究：生活リズムかるたー	予習：幼児期の睡眠習慣などに関する家族へのインタビュー(1h) 復習：授業目標に照らして、配付資料[基本的生活習慣の形成を支える環境構成と援助（生活リズム・睡眠）]を再読する(1h)
5	基本的生活習慣の形成を支える環境構成と援助（食習慣の形成・食育） ー教材研究：おはしゲーム、食べ物クイズー	予習：幼児期の食における困りごとなどに関する家族へのインタビュー(1h) 復習：授業目標に照らして、配付資料[基本的生活習慣の形成を支える環境構成と援助（食習慣の形成・食育）]を再読する(1h)
6	基本的生活習慣の形成を支える環境構成と援助（衣服着脱・衛生習慣・排泄） ー教材研究：生活習慣すごろくー	予習：幼児期の衣服着脱や衛生習慣における困りごとに関する家族へのインタビュー(1h) 復習：授業目標に照らして、配付資料[基本的生活習慣の形成を支える環境構成と援助（衣服着脱・衛生習慣・排泄）]を再読する(1h)
7	基本的生活習慣の形成に関する相談支援 ー事例検討・プレゼンテーションー	予習：保育者から保護者への子ども(自分自身)ついての会話内容に関する家族へのインタビュー(1h) 復習：ロールプレイと発表の振り返りをまとめる(1h)
8	多様な動きの経験を促す環境構成と援助 -新聞紙・タオルを使った運動遊び実践-	予習：幼児期のリスキープレイに関する家族へのインタビュー(1h) 復習：運動遊びで経験した感情や動きの分析結果をまとめる(1h)
9	多様な動きの経験を促す環境構成と援助 ーボールを使った運動遊び実践-	予習：ボールを使った運動遊びの考案(1h) 復習：運動遊びで経験した感情や動きの分析結果をまとめる(1h)
10	多様な動きの経験を促す環境構成と援助 ーサーキット遊びの考案と実践-	予習：サーキット遊びについて調べる(1h) 復習：運動遊びで経験した感情や動きの分析結果をまとめる(1h)
11	具体的な保育場面を想定した領域「健康」の指導計画	予習：保育場面を想定した領域「健康」の指導計画考案（1h) 復習：作成した指導計画の再考（1h)
12	多様な動きの経験を促す環境構成と援助 ー教材研究-	予習：作成した指導計画の再考（1h) 復習：多様な動きの経験を促す環境構成と援助の発表準備(1h)
13	多様な動きの経験を促す環境構成と援助 ー発表と相互評価：グループ１・２-	予習：多様な動きの経験を促す環境構成と援助の発表準備(1h) 復習：自身のグループ・他グループの発表考察個人ワーク(1h)
14	多様な動きの経験を促す環境構成と援助 ー発表と相互評価：グループ３・４-	予習：多様な動きの経験を促す環境構成と援助の発表準備(1h) 復習：自身のグループ・他グループの発表考察個人ワーク(1h)
15	多様な動きの経験を促す環境構成と援助 ー発表と相互評価：グループ５・６-	予習：多様な動きの経験を促す環境構成と援助の発表準備(1h) 復習：自身のグループ・他グループの発表考察個人ワーク(1h)

テキスト	文部科学省著『幼稚園教育要領および解説』(最新版)（フレーベル館） 厚生労働省著『保育所保育指針および解説』(最新版)（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省著『幼保連携型認定こども園教育・保育要領および解説』(最新版)（フレーベル館）
指定図書	あり(巻末参照)

科　目　名	**保育内容・環境A**	担当者	藤田洋子
区　分　等	２年次・前期［演習］１単位　選択／生活こども専攻		
評 価 基 準	観察記録（30%）、課題（レポートなど）（70%）		
課題に対するフィードバック	観察記録や課題については、適時アドバイスするなどフィードバックする。		
目　　的	①保育における「環境」の位置づけやねらい、内容、捉え方について『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』や事例、映像、体験を通して具体的、実践的に学ぶ。 ②幼児をとりまく様々な環境や、環境にかかわる力の発達について学びを深め実践力を養う。また、適切な指導について実践できる力を養う。		
到 達 目 標	①幼児期の特性を踏まえて、幼稚園教育の内容や方法を学び、実践力を身につけることができる。(DP1,DP2) ②幼稚園教育要領に示されている領域「環境」のねらい及び内容について理解を深め、子どもが興味や関心を持てるような保育を構想することができ、指導の方法を身につけることができる。(DP1,DP2,DP3)		
履修上の注意	自然の変化に興味や関心を持つ。植物の栽培など、グループで協力し合って行う。		
オフィスアワー	火曜日　１６時２０分～１６時５０分		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション －幼児教育の基本と保育内容「環境」－	予習：幼稚園教育要領 P17～P19 解説 P26～P35 を読む。(0.75 時間) 復習：授業で配付した資料を読み直す。(0.75 時間)
2	野外活動（光・影を感じる体験）を通した遊びと経験	予習：幼稚園教育要領解説 P193～P212 を読む。(0.75 時間) 復習：授業で配付した資料を読み直す。(0.75 時間)
3	野外活動・室内活動（風・音を感じる体験）を通した遊びと経験	予習：幼稚園教育要領解説 P193～P212 を読む。(0.75 時間) 復習：授業で配付した資料を読み直す。(0.75 時間)
4	野外活動（自然物の採集・比較）を通した遊びと経験	予習：幼稚園教育要領解説 P193～P212 を読む。(0.75 時間) 復習：授業で配付した資料を読み直す。(0.75 時間)
5	相互に関連し合う領域 －幼稚園教育要領・各領域に見る領域「環境」－	予習：幼稚園教育要領 P14～P21、解説 P34～P36 を読む。(0.75 時間) 復習：授業で配付した資料を読み直す。(0.75 時間)
6	環境にかかわりながら育つ子どもの姿 －「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」－	予習：幼稚園教育要領解説 P50～P72 を読む。(0.75 時間) 復習：授業で配付した資料を読み直す。(0.75 時間)
7	自然に親しみ、植物に触れる保育の実際 －継続的な野菜の栽培－	予習：幼稚園教育要領解説 P193～P212、P173～P186 を読む。(0.75 時間) 復習：授業で配付した資料を読み直す。(0.75 時間)
8	地域の文化や伝統への関心 －指導計画作成：子どもの姿、ねらい、環境構成、保育者の援助－	予習：幼稚園教育要領解説 P100～P104 を読む。(0.75 時間) 復習：授業で配付した資料を読み直す。(0.75 時間)
9	地域の文化や伝統への関心 －指導計画と保育の実践－	予習：グループで相談し必要な材料を準備する。(１時間) 復習：授業で配付した資料を読み直す。(0.75 時間)
10	領域「環境」のねらい、内容の展開の実際 －玩具・遊具を用いた遊び－	予習：幼稚園教育要領解説 P193～P202 を読む。(0.75 時間) 復習：授業で配付した資料を読み直す。(0.75 時間)
11	領域「環境」のねらい、内容の展開の実際 －教材研究：絵本の世界の表現－	予習：選んだ絵本の魅力を見出す。(0.75 時間) 復習：第 12 回で学習予定資料内容の確認 (0.75 時間))
12	領域「環境」のねらい、内容の展開の実際 －発表：絵本の世界の表現－	予習：第 12 回の発表内容を確認する。(0.75 時間) 復習：授業で配付した資料を読み直す。(0.75 時間)
13	領域「環境」と小学校教育との繋がり －領域「環境」と生活科等との関連－	予習：幼稚園教育要領解説 P50～P72 を読む。(0.75 時間) 復習：授業で配付した資料を読み直す。(0.75 時間)
14	子どもの成長を祝う日本文化の探求 －命の大切さについて考える調査研究－	予習：第 14 回の学習予定資料の確認をする。(0.75 時間) 復習：授業で配付した資料を読み直す。(0.75 時間)
15	子どもの成長を祝う日本文化の共有 －調査結果の発表・共有－	予習：調査内容の確認をする。(0.75 時間) 復習これまでの資料を読み直す。(0.75 時間)

テキスト	①文部科学省『幼稚園教育要領』・『幼稚園教育要領解説』 ②厚生労働省『保育所保育指針』・『保育所保育指針解説』 ③内閣府ほか『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	保育内容・環境B	担当者	大曽基宣
区　分　等	２年次・後期［演習］１単位　選択／生活こども専攻		
評価基準	定期試験（50%）、課題等提出（40%）、授業態度（10%）		
課題に対するフィードバック	レポートは随時コメントをつけて返却する。		
目　　的	子どもの発達の特性を理解して園や家庭での生活を理解し、より良い生活や育ちが保障される生活環境を総合的に学ぶ。特に人的環境と子どもの自主性や社会性の育ちを映像や事例を通してグループワークを中心に学び合う。また、自然環境、社会環境について目をむけ、子どもの興味や発見、地域とのかかわりを通して育つことの重要性を学ぶ。さらには自然物を利用して教材研究を行う力を養う。		
到達目標	子どもの生活と環境の重要性を理解し、実践力が身に付く。(DP1, DP2) 子どもの社会性や自立の課題を考えることが出来るようになる。(DP2, DP3) 子どもの発達の特性を理解し、遊びを豊かに展開できる力が身に付く。(DP1, DP2)		
履修上の注意	授業への積極的な参加を望む。		
オフィスアワー	金曜日　１６時２０分～１６時５０分		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション －仕組みや法則を探求する遊び体験－	予習：仕組みや法則を探求する遊びを考える（1h） 復習：配付資料[仕組みや法則を探求する遊び体験]再読（1h）
2	数量に関わる保育の実際 －遊びの中で数量への関心を豊かにする活動–	予習：数量への関心を豊かにする活動を考える（1h） 復習：配付資料[遊びの中で数量への関心を豊かにする活動]再読（1h）
3	図形に関わる保育の実際 －遊びの中で図形への関心を豊かにする活動:つながる迷路、ドット・トンネル–	予習：図形への関心を豊かにする活動を考える（1h） 復習：配付資料[遊びの中で図形への関心を豊かにする活動①]再読（1h）
4	図形に関わる保育の実際 －遊びの中で図形への関心を豊かにする活動:図形を使った生き物づくり、線のタイルづくり–	予習：図形への関心を豊かにする活動を考える（1h） 復習：配付資料[遊びの中で図形への関心を豊かにする活動②]再読（1h）
5	図形に関わる保育の実際 －遊びの中で図形への関心を豊かにする活動:ゆれる図形、図形スタンプ–	予習：図形への関心を豊かにする活動を考える（1h） 復習：配付資料[遊びの中で図形への関心を豊かにする活動③]再読（1h）
6	標識や国旗に親しむ保育の実際 －遊びの中で標識や国旗に触れる活動:クラスの標識づくり、つながる国旗–	予習：遊びの中で標識や国旗に触れる活動を考える（1h） 復習：配付資料[標識や国旗に親しむ保育の実際]再読（1h）
7	文字に関わる保育の実際 －遊びの中で文字や情報に触れる活動:文字の本づくり–	予習：遊びの中で文字や情報に触れる活動を考える（1h） 復習：配付資料[文字に関わる保育の実際①]再読（1h）
8	文字に関わる保育の実際 －遊びの中で文字や情報に触れる活動:文字の収集と再構成–	予習：遊びの中で文字や情報に触れる活動を考える（1h） 復習：配付資料[文字に関わる保育の実際②]再読（1h）
9	自然物を用いた教材研究 －野外での自然物採取–	予習：自然物を用いた遊びを考える（1h） 復習：表現活動に必要な自然物採取（1h）
10	自然物を用いた教材研究 －自然物を使った表現活動のための教材準備–	予習：表現活動に必要な自然物採取（1h） 復習：模擬保育の準備グループ活動（1h）
11	自然物を用いた模擬保育と相互評価（グループ１・２・３） －自然物を使った表現活動–	予習：模擬保育の準備グループ活動（1h） 復習：模擬保育の準備・省察グループ活動（1h）
12	自然物を用いた模擬保育と相互評価（グループ４・５・６） －自然物を使った表現活動–	予習：模擬保育の準備・省察グループ活動（1h） 復習：模擬保育の省察グループ活動（1h）
13	保育の中で子どもが楽しむ伝統行事 －グループによる調査研究–	予習：日本における伝統行事を調べる（1h） 復習：日本における伝統行事発表資料作成（1h）
14	保育の中で子どもが楽しむ伝統行事 －調査結果の発表・共有－	予習：日本における伝統行事発表資料作成（1h） 復習：他グループの日本における伝統行事発表資料再読（1h）
15	環境に関わる現代的課題 －ESD、インクルーシブ保育－	予習：前回配付資料[環境に関わる現代的課題]を読む（1h） 復習：ＥＳＤと保育環境についての考察をまとめる（1h）

テキスト	文部科学省著『幼稚園教育要領および解説』（最新版）（フレーベル館） 厚生労働省著『保育所保育指針および解説』（最新版）（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省著『幼保連携型認定こども園教育・保育要領および解説』（最新版）（フレーベル館）
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	保育内容・言葉Ｂ	担当者	栗森　貢
区　分　等	２年次・前期［演習］１単位　選択／生活こども専攻		
評価基準	到達目標１：小テスト（10%） 到達目標２：授業内提出物(30%)、課題レポート(40%) 到達目標３：グループワーク及び授業に取り組む姿勢（20%）		
課題に対するフィードバック	課題別の実演に応じてアドバイスをし、課題レポートに必要なコメントを付して返却する。		
目　的	ことば遊びのリズムや響き体感したり、幼児期における言葉の獲得方法を理解したりして、いくつかの基本的な言葉に関する保育技法等を身に付けるようにする。		
到達目標	①わらべ歌やことば遊びなど、日本語のもつリズムや響きのよさを理解することができる。(DP1) ②読み聞かせの基本的な知識や方法を理解し、実践的に行うことができる。(DP2) ③グループで協力してペープサートを制作し、意欲的かつ実践の場を意識して模擬保育をすることができる。(DP3)		
履修上の注意	保育現場で役立つように、様々な手法を実践的に学ぼうとすること。		
オフィスアワー	木曜日：7・8限		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション 「幼稚園教育要領」に示されている言葉の領域を言語発達の視点から理解する。	予習：全体計画を見通し、「幼稚園教育要領」の「言葉」に関する事項を読んでくる。(1時間) 復習：「幼稚園教育要領」の「言葉」の定義を確実に覚える。(1時間)
2	「言葉を豊かにする保育」の実践編① ～0歳児から2歳児の遊びと育ち～	予習：「幼稚園教育要領」の「言葉」の定義を参考に言葉の教育の大切さについて発表できる。(1時間) 復習：ヘレン・ケラーの体験談から、言葉の教育の重要なポイントをまとめる。(1時間)
3	「言葉を豊かにする保育」の実践編② ～2歳児から4歳児の遊びと育ち～	予習：前時の学習の重要語句を確認する。(1時間) 復習：演習問題で取り上げた事例のその後の展開がどうなったか書いてみる。(1時間)
4	「言葉を豊かにする保育」の実践編③ ～4歳児から5歳児の遊びと育ち～	予習：4～5 歳児の言葉の育ちの特徴について調べてくる。(1時間) 復習：演習問題やVTR視聴の感想をまとめてくる。(1時間)
5	「言葉を豊かにする保育」の実践編④ ～実際の保育の様々な場面で言葉を育てる～	予習：保育者の役割とは何か、について発表できるように準備する。(1時間) 復習：保育者は子どもにどう働きかけていくか、について、演習問題や VTR 視聴の感想をまとめてくる。(1時間)
6	「言葉の世界を楽しもう」 ～ペープサートでお話の楽しさを伝えよう①～ ○ペープサート制作の計画を立てる。	予習：お話の世界に誘うのにふさわしい、ペープサートはどんな効果があるかを考える。(1時間) 復習：対象年齢やストーリーなどを考え、計画を立てる。(1時間)
7	「言葉の世界を楽しもう」 ～ペープサートでお話の楽しさを伝えよう②～ ○ペープサートの効果を十分に生かせるように、グループで工夫しながら作成する	予習：よりよいペープサートについて、実物や資料を参考に調べる。(1時間) 復習：既製の絵本や童話だけでなく、オリジナルなストーリーで製作できることを確認する。(1時間)
8	「言葉の世界を楽しもう」 ～ペープサートでお話の楽しさを伝えよう③～ ○ペープサートの効果を十分に生かせるように、部分的に演示しながら作成する	予習：役割分担を明確にして、効率よく製作できるよう話し合っておく。(1時間) 復習：常に活動状況を振り返り、進捗具合を考慮しておく。(1時間)
9	「言葉の世界を楽しもう」 ～ペープサートでお話の楽しさを伝えよう④～ ○ストーリーに沿って台本を作り、人物や背景、台詞などを併せて演示をする	予習：製作時間や練習時間を考えて、発表に間に合わせるよう考える。(1時間) 復習：次回の発表のための打ち合わせを充分に行う。(1時間)
10	「言葉の世界を楽しもう」 ～ペープサートでお話の楽しさを伝えよう⑤～ ○ペープサートを模擬保育で演示して、相互に評価し合う	予習：ペープサートの効果を生かした模擬保育の練習をしてくる。(1時間) 復習：今日演示したことを振り返り、反省点や改善点をまとめておく。(1時間)
11	「お話の世界を楽しもう」 ～「読み聞かせ名人」をめざそう①～	予習：読み聞かせの基本的事項と絵本選びのポイントを確認しておく。(1時間) 復習：読み聞かせのポイントを確認し、選書に十分時間をかける。(1時間)

12	「お話の世界を楽しもう」 ～「読み聞かせ名人」をめざそう②～	予習：本時で読み聞かせる絵本について、十分によむ練習をしておく。(1 時間) 復習：グループ内の相互評価で評価されたことを生かして実習に役立てる。(1 時間)
13	「言葉遊びの世界を楽しもう」 ～「文字ビンゴ」と「絵かき歌」で保育を楽しもう～	予習：「文字ビンゴ」や「絵かき歌」について、どんな言葉遊びなのかを調べてくる。(１時間) 復習：子どもの注意力をひいたり、動物の名前とことばを同時に覚えたりすることのできるゲームであることを理解する。(1 時間)
14	保育者の言葉表現を考える	予習：事例を基にした保育者の言葉のかけ方や保育者の関わり方について回答を書いてくる。(1 時間) 復習：幼児が言葉を獲得する過程における、保育者の関わり方や言葉がけの大切さをまとめておく。(1 時間)
15	言語の発達に課題がある子どもについて考える	予習：幼児が言葉を獲得するプロセスを確認しておく。(1 時間) 復習：文部科学省における言語障害の定義と「言語障害と言語発達遅滞」との違いを確認しておく。(1 時間)

テキスト	幼稚園教育要領および解説（最新版）（文部科学省著、フレーベル館） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領および解説（最新版）（内閣府・文部科学省・厚生労働省著、フレーベル館） 授業時に資料プリントを配付する。
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	**保育内容・表現（音楽Ｂ）**	担当者	佐藤眞由子
区　分　等	２年次・前期［演習］１単位　選択／生活こども専攻		
評価基準	到達目標：授業に対する姿勢、態度		
課題に対するフィードバック	・授業時に提出された表現活動記録用紙には随時コメントをつけて返却する。		
目　　的	・音楽（合唱と合奏）を通して多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じとり、周りの人と分かち合いながら楽しんで表現する。 ・より美しい演奏を目指し、集中し、団結して練習する。		
到達目標	1,合唱を通して、音楽的な知識やスキルを身につけ、たくさんの声が重なることで生まれる音色の美しさを共有する。（DP1、DP2、DP3） 2,クラスで同じ気持ちを共有して一つのものを表現することによって、団結力、コミュニケーション能力を養い、感動体験、達成感を得ることが出来る。(DP2、DP3) 3,合奏を通してアンサンブルの楽しさを味わう。（DP1、DP2、DP3）		
履修上の注意	表現活動記録用紙、筆記用具、合唱、合奏の楽譜を忘れないこと。		
オフィスアワー	金曜日の 14 時 40 分～15 時 30 分		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	ガイダンス（授業内容について） 合唱曲、合奏曲について	・スケジュールと授業の流れの確認 ・今後の予定を立てて書き込む
2	合唱曲の歌詞の理解 合奏曲の楽器割り当て	・４５分ずつ、合唱と合奏の両方の練習をする。
3	発声練習・合唱・合奏	・４５分ずつ、合唱と合奏の両方の練習をする。
4	発声練習・合唱・合奏	・４５分ずつ、合唱と合奏の両方の練習をする。
5	発声練習・合唱・合奏	・４５分ずつ、合唱と合奏の両方の練習をする。
6	発声練習・合唱・合奏	・４５分ずつ、合唱と合奏の両方の練習をする。
7	発声練習・合唱・合奏	・４５分ずつ、合唱と合奏の両方の練習をする。
8	発声練習・合唱・合奏	・４５分ずつ、合唱と合奏の両方の練習をする。
9	発声練習・合唱・合奏	・４５分ずつ、合唱と合奏の両方の練習をする。
10	発声練習・合唱・合奏	・４５分ずつ、合唱と合奏の両方の練習をする。
11	発声練習・合唱・合奏	・４５分ずつ、合唱と合奏の両方の練習をする。
12	発声練習・合唱・合奏	・４５分ずつ、合唱と合奏の両方の練習をする。
13	発声練習・合唱・合奏	・４５分ずつ、合唱と合奏の両方の練習をする。
14	発声練習・合唱・合奏	・４５分ずつ、合唱と合奏の両方の練習をする。
15	まとめ	まとめ

テキスト	『幼児のための音楽教育』（教育芸術社） 『母とおさなごの歌』（全音楽譜出版社） 随時プリント配付
指定図書	なし

科　目　名	**特別支援教育**	担当者	野内友規
区　分　等	２年次・通年［演習］２単位　選択／生活こども専攻		
評価基準	到達目標１：定期試験、授業内小テスの内容に基づき評価する。(30%) 到達目標２：授業内提出物、グループワーク活動での発言内容に基づき評価する。(30%) 到達目標３：グループワークの活動状況に基づき評価する。(20%) 到達目標４：授業態度（動画視聴態度も含む）(20%)		
課題に対するフィードバック	提出物（レポート）については、随時コメントをつけて返却する。		
目　　的	保育・教育現場の現状を踏まえ、特別な支援を必要する子どもの多様なニーズに対する理解を深めるとともに、グループディスカッション等を通し、必要な支援の在り方を具体的に考える力を養う。		
到達目標	１．特別支援教育・保育に関する基礎的事項や理論について説明することができる。(DP1) ２．特別な支援を必要とする子どもの視点に立って、インクルーシブな保育教育の在り方について考え、表現することができる。(DP2) ３．グループワークに参加し、自らの意見の発言できるとともに、他者の意見への傾聴をすることができ、メンバーと円滑な合意形成を図ることができる。(DP3) ４．インクルーシブマインドをもって、他者を尊重しながら授業に参加することができる。(DP2,DP3)		
履修上の注意	１．授業中に意見交換をする機会を多数設けるため、最低限のコミュニケーションを求める。 ２．授業において合理的配慮が必要な際は、第１回目の授業時に必ず担当教員へ相談すること。		
オフィスアワー	月曜日 7・8 限		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	特別支援教育とは 特別支援教育の理念と歴史	予習：テキスト P1～P5（特別支援教育の理念と歴史）を読む。(1 時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1 時間)
2	特別支援教育とは ICF と ICIDH／合理的配慮と基礎的環境整備	予習：テキスト P6～P12（ICF と ICIDH／合理的配慮と基礎的環境整備）を読む。(1 時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1 時間)
3	障害の理解と支援 視覚障害の理解と支援	予習：テキスト P13～P17（視覚障害の理解と支援）を読む。(1 時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1 時間)
4	障害の理解と支援 聴覚障害の理解と支援	予習：テキスト P18～P21（聴覚障害の理解と支援）を読む。(1 時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1 時間)
5	障害の理解と支援 知的障害の理解と支援	予習：テキスト P22～P26（知的障害の理解と支援）を読む。(1 時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1 時間)
6	障害の理解と支援 肢体不自由の理解と支援	予習：テキスト P27～P30（肢体不自由の理解と支援）を読む。(1 時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1 時間)
7	障害の理解と支援 病弱・身体虚弱の理解と支援	予習：テキスト P31～P35（病弱・身体虚弱の理解と支援）を読む。(1 時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1 時間)
8	発達障害の理解と支援 発達障がいとは何か	予習：テキスト P36～P37（発達障がいとは何か）を読む。(1 時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1 時間)
9	発達障害の理解と支援 学習障害の理解と支援	予習：テキスト P38～P41（学習障害の理解と支援）を読む。(1 時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1 時間)
10	発達障害の理解と支援 注意欠如・多動症／注意欠如・多動性障害の理解と支援	予習：テキスト P42～P47（注意欠如・多動症／注意欠如・多動性障害の理解と支援）を読む。(1 時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1 時間)

11	発達障害の理解と支援 自閉スペクトラム症／自閉症スペクトラム障害の理解と支援	予習：テキスト P48～P51（自閉スペクトラム症／自閉症スペクトラム障害の理解と支援）を読む。(1 時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1 時間)
12	発達障害の理解と支援 発達性協調運動症／発達性協調運動障害の理解と支援	予習：テキスト P52～P57（発達性協調運動症／発達性協調運動障害の理解と支援）を読む。(1 時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1 時間)
13	多様な教育的ニーズの理解と支援 言語障害の理解と支援	予習：テキスト P58～P61（言語障害の理解と支援）を読む。(1 時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1 時間)
14	多様な教育的ニーズの理解と支援 情緒障害の理解と支援	予習：テキスト P62～P63（情緒障害の理解と支援）を読む。(1 時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1 時間)
15	多様な教育的ニーズの理解と支援 障害はないが多様なニーズのある子どもの理解と支援（外国にルーツを持つ子ども、貧困家庭や虐待環境下にある子ども）	予習：テキスト P64～P67（障害はないが多様なニーズのある子どもの理解と支援（外国にルーツを持つ子ども、貧困家庭や虐待環境下にある子ども））を読む。(1 時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1 時間)
16	多様な教育的ニーズの理解と支援 障害が重い子どもの理解と支援	予習：テキスト P68～P72（障害が重い子どもの理解と支援）を読む。(1 時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1 時間)
17	連続性のある多様な学びの場と特別支援教育 連続性のある多様な学びの場と教育課程 自立活動と各教科を合わせた指導 就学先決定の仕組み	予習：テキスト P73～P85（連続性のある多様な学びの場と特別支援教育）を読む。(1 時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1 時間)
18	通級による指導と特別支援学級 通級による指導の実際 特別支援学級における指導の実際 交流・共同学習の実際	予習：テキスト P86～P97（通級による指導と特別支援学級）を読む。(1 時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1 時間)
19	特別支援教育コーディネーターと園内支援体制 特別支援教育コーディネーターの役割	予習：テキスト P98～P100（特別支援教育コーディネーターの役割）を読む。(1 時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1 時間)
20	特別支援教育コーディネーターと園内支援体制 特別支援教育コーディネーターとセンター的機能 幼稚園・保育所における園内支援体制の構築	予習：テキスト P101～P107（特別支援教育コーディネーターとセンター的機能、幼稚園・保育所における園内支援体制の構築）を読む。(1 時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1 時間)
21	「個別の指導計画」・「個別の教育支援計画」の策定とアセスメント 気になる子の教育・保育とアセスメント 個別の指導計画の策定及び活用	予習：テキスト P108～P119（「個別の指導計画」・「個別の教育支援計画」の策定とアセスメント）を読む。(1 時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1 時間)
22	関係機関や保護者との連携 就学へ向けた関係機関や保護者との連携の必要性 保護者支援・子育て支援 関係機関との連携	予習：テキスト P120～P134（関係機関や保護者との連携）を読む。(1 時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1 時間)
23	気になる子の発達に応じた実際 各領域（健康　人間関係　環境　言葉　表現）における指導の留意点	予習：テキスト P135～P149（気になる子の発達に応じた実際）を読む。(1 時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1 時間)
24	子どもの遊びと感覚統合	予習：テキスト P150～P162（子どもの遊びと感覚統合）を読む。(1 時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1 時間)

25	子どもの発達と気になる行動	予習：テキスト P163～P174（子どもの発達と気になる行動）を読む。(1 時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1 時間)
26	子どもの教育的ニーズに応じた ICT 機器の意義と活用	予習：テキスト P175～P186（子どもの教育的⑨ニーズに応じた ICT 機器の意義と活用）を読む。(1 時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1 時間)
27	保育におけるアダプテッド	予習：テキスト P187～P199（保育におけるアダプテッド）を読む。(1 時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1 時間)
28	愛着障害	予習：愛着障害について、インターネットや書籍を使ってまとめる。(1 時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1 時間)
29	トラウマが発達に与える影響	予習：トラウマについて、インターネットや書籍を使ってまとめる。(1 時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1 時間)
30	まとめ	予習：テキスト P1～P199 に目を通す。(1 時間) 復習：授業内で配布した小テストをやり直す。(1 時間)
テキスト	野内友規・綿引清勝編著『気になる子のインクルーシブ教育・保育』（中央法規出版）	
指定図書	なし　※必要に応じて適宜推薦図書を紹介します。	

科　目　名	子育て支援	担当者	藤田洋子
区　分　等	２年次・後期　[演習]１単位　選択／生活こども専攻		
評価基準	定期試験・課題(90%)、授業態度(10%)		
課題に対するフィードバック	随時アドバイスをしたり授業で取りあげたりして学生にフィードバックする。		
目　　的	保育現場における子育て支援の具体的な事例を通して、保護者や家族とともに子どもの成長の喜びを共有することの意義や、保育者に求められる支援の内容と基本的な方法、関係機関との協働や専門職との連携等も視野に入れた支援の実際を学ぶことを目的とする。		
到達目標	①　保育の場や保育者に求められる支援の在り方を理解することができる。**(DP1,DP2)** ②　実際に保育現場で見られる相談内容をもとにして、子育て支援・相談支援の基礎知識及び技術を身に付けることができる。**(DP2,DP3)**		
履修上の注意	長期の休みを活用し、地域の子育て広場などにおいて自主的にボランティア活動を行うこと。		
オフィスアワー	金曜日 16 時 25 分～16 時 50 分		

	授業計画	準備学習(予習・復習)の内容および、時間
1	オリエンテーション 子育て支援が求められる背景と制度の概要	予習：子どもたちや子育て家庭についてニュースや新聞等で調べる。保育所保育指針第 4 章 P36～P37 を読む。(0.75 時間) 復習：授業で配布した資料を読み直す。(0.75 時間)
2	保育の場における子育て支援 ・保育所などが行う子育て支援	予習：保育所保育指針第 4 章 P36～P37 を読む。子どもの権利条約を読む。(0.75 時間) 復習：授業で配布した資料を読み直す。(0.75 時間)
3	保護者支援と子育て支援 ・日常における継続的なかかわりを通した保護者との信頼関係づくり	予習：保育所保育指針解説の第 4 章 P342～P353 を読む。(0.75 時間) 復習：授業で配布した資料を読み直す。(0.75 時間)
4	保育者に求められている子育て支援 ・地域に開かれた地域と共に取り組む子育て支援	予習：保育所保育指針解説第 4 章 P356～P360 を読む。(0.75 時間) 復習：授業で配布した資料を読み直す。(0.75 時間)
5	保護者に対する多面的な子育て支援① ・親子で楽しむ遊び発見	予習：ICT を活用して親子の遊びをべる。(0.75 時間) 復習：授業で配布した資料を読み直す。(0.75 時間)
6	保護者に対する多面的な子育て支援② ・親子で楽しむ遊びの発見と工夫	予習：考えた遊びをシミュレーションする。(0.75 時間) 復習：授業で配布した資料を読み直す。(0.75 時間)
7	保護者に対する多面的な子育て支援③ ・親子で楽しむ遊びの発表と共有	予習：主体的な発表を意識してプリントを振り返える。(0.75 時間) 復習：授業で配布した資料を読み直す。(0.75 時間)
8	子育て支援の展開 ・職員間及び専門機関や専門職との連携・協働	予習：保育所保育指針解説の第 4 章 P345～P347 を読む。(0.75 時間) 復習：授業で配布した資料を読み直す。(0.75 時間)
9	配慮を要する子ども及び家庭に対する支援 ・発達障害のある子どもと家庭への理解と支援 ・外国籍等の特別に配慮要する子どもと家庭への支援	予習：保育所保育指針解説 P351～P353 を読む。(0.75 時間) 復習：授業で配布した資料を読み直す。(0.75 時間)
10	子どもの虐待予防と対応 子ども虐待についての理解と組織的対応	予習：ICT などを活用して児童虐待の現状を調べる。保育所保育指針解説 P347～P348、P353 を読む(0.75 時間) 復習：授業で配布した資料を読み直す。(0.75 時間)
11	子どもの虐待予防と対応 ・子ども虐待についての理解と連携機関との協働	予習：保育所保育指針解説 P354～P358 を読む。(0.75 時間) 復習：授業で配布した資料を読み直す。(0.75 時間)
12	保護者に対する相談支援の実際 ・バイスティックの 7 原則・コミュニケーションスキル ・子どもや保護者の状態に基づいた相談技術のみがき	予習：ICT などでバイスティックの 7 原則について調べる。保育所保育指針解説 P346～P347 を読む。(0.75 時間) 復習：授業で配布した資料を読み直す。(0.75 時間)
13	保護者に対する相談支援の実際 ・子どもや保護者の状態に基づいた相談技術のみがき	予習：授業で配布した資料を読み直す。(0.75 時間) 復習：授業で配布した資料を読み直す。(0.75 時間)
14	保護者に対する相談支援の実際 ・相談技術の磨き　　・海外に学ぶ子育て支援	予習：授業で配布した資料を読み直し、ICT などで海外の子育て支援を調べる。(0.75 時間) 復習：授業で配布した資料を読み直す。(0.75 時間)
15	保育現場における子育て支援の課題と日常の保育との関連性	予習：子育て支援における自己目標とそこに向けた取組みについての考えをまとめる。(0.75 時間) 復習：全ての配布資料を読み直す。(0.75 時間)

テキスト	①厚生労働省『保育所保育指針』・『保育所保育指針解説』 ②文部科学省『幼稚園教育要領』・『幼稚園教育要領解説』 ③内閣府ほか『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』
指定図書	なし

目　　名	こどもの英語	担当者	Rachel Youngblood
区　分　等	２年次・後期［演習］２単位　選択／生活こども専攻		
評価基準	Class participation (30%) Readings (10%) Writing (10%) Assessment (20%) Final Exam (30%)		
課題に対するフィードバック	Feedback will be given orally during class and comments will be written on work as needed.		
目　　的	The aim of this course is to familiarize and strengthen students' English skills when working with international students and families in childcare settings.		
到達目標	Students will be able to utilize English speaking, writing, and reading skills to convey important information to both international students and parents.		
履修上の注意	None		
オフィスアワー	To be announced		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	Introduction to the course, Unit 1: Please Speak More Slowly	Unit 1 復習, Unit 2 予習（1 時間）
2	Unit 2: Hi, I'm Yuri Tanaka	Unit 2 復習, Unit 3 予習（1 時間）
3	Unit 3: Good Morning. How Are You Today?	Unit 3 復習, Unit 4 + Assessment 予習（2 時間）
4	Unit 4: What Color Do You Like?	Unit 4 復習, Unit 5 予習（1 時間）
5	Unit 5: There's a Ladybug on the Leaf	Unit 5 復習, Unit 6 予習（1 時間）
6	Unit 6: It's Time to Play Outside	Unit 6 復習, Unit 7 + Assessment 予習（2 時間）
7	Unit 7: She is Allergic to Eggs	Unit 7 復習, Unit 8 予習（1 時間）
8	Unit 8: You Should Go to the Bathroom	Unit 8 復習, Unit 9 予習（1 時間）
9	Unit 9: We Made Masks Today	Unit 9 復習, Unit 10 + Assessment 予習（2 時間）
10	Unit 10: If it Rains, What Happens?	Unit 10 復習, Unit 11 予習（1 時間）
11	Unit 11: What Shall We Do Today?	Unit 11 復習, Unit 12 予習（1 時間）
12	Unit 12: I Feel Feverish	Unit 12 復習, Unit 13 + Assessment 予習（2 時間）
13	Unit 13: This Is Yuri from Cosmos Day Care Center	Unit 13 復習, Unit 14 予習（1 時間）
14	Unit 14: Thank You Very Much for Everything	Unit 1-14 復習
15	Final Exam	

テキスト	Maiko Tsuchiya "Happy English for Childcare" (Kinseido)
指定図書	None

科目名	教職実践演習(幼稚園・保育所)	担当者	織田栄子　藤田洋子　寺谷直輝
区分等	２年次・後期［演習］２単位　選択／生活こども専攻		
評価基準	発表内容・提出物（40%）、授業への積極的な姿勢・取り組み(30%)、２回の課題（30%）。		
課題に対するフィードバック	①　提出物（ワークシート等)）については、随時、コメントを付けて返却する。 ②　課題作成については、随時、アドバイスや提案をし、学生にフィードバックする。		
目的	卒業後幼稚園教諭・保育士として活動できるように、保育･教育の実践例を数多く知るとともに、それぞれの実践の意義と方法について詳しく学ぶ。またグループ学習を通して保育・教育実践における保育者の連携の重要性を体得し、将来の保育・教育実践力を身に付ける。		
到達目標	①　学生を３グループに分け、各教員が順繰りで少人数指導を行う。各グループにおいて、指導案や教材作成のほか、ロールプレイングや模擬授業の発表・討論等を通して、現場での実践力を養うことを目標とする。（DP1,DP2） ②　学生個々の学習状況等を把握できる「履修カルテ」を作成することにより、学生が自己の学習状況を振り返り、目的を持って主体的に演習に取り組むことができる。(DP3)		
履修上の注意	①　初回の授業で詳しく説明するため、特別な事情がない限り初回の授業から出席すること。 ②　藤田・寺谷が単独で担当する授業での課題の作成・発表は、【情報システム論】で既習している程度の Excel（基本的な入力やグラフ作成）・PowerPoint の操作能力が必要です。		
オフィスアワー	**授業全体に関する質問は織田に、各教員の授業内容に関する質問は各教員に行うこと。** 火曜日昼休み（織田）　金曜日昼休み（藤田）　火曜日昼休み（寺谷）		

授業計画				準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1 (全学生)			**オリエンテーション（織田・藤田・寺谷）** ・授業の概要と進め方について ・「教職実践演習」のねらいについて ・求められる資質・能力について ・各担当教員が行う授業テーマの説明	・予習：「育みたい資質・能力」について『幼稚園教育要領』や『保育所保育指針』の記述を確認する(0.75 時間) ・復習：各教員の授業テーマに関する書籍や資料を読む(0.75 時間)
2 (全学生)			**これまでの学びの整理（織田・藤田・寺谷）** ・課題１の作成に関する説明 ・課題１の作成	・予習：本科目を履修する前までに参加した実習で何を学んだのか整理する(１時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.5 時間)
グループ別授業			**学生をＡ・Ｂ・Ｃの３グループに分け、各教員がそれぞれ４回ずつ授業を担当する。** Aグループは織田→寺谷→藤田、Bグループは藤田→織田→寺谷、Cグループは寺谷→藤田→織田の順番で少人数指導を行う。	
A	B	C		
3	7	11	**自己理解（織田）** 心理テストを用い、理想の保育者像を確認し目標設定をする	・予習：理想の保育者像について考える(0.5 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(1 時間)
4	8	12	**協力体験（織田）** グループワークを通し、事例検討の準備をする	・予習：初回授業で配付した資料を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
5	9	13	**事例検討（織田）** 子どもの心理を様々な視点から見て対応策を考える	・予習：初回授業で配付した資料を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
6	10	14	**実践（織田）** 表現療法の体験を通し、子どもへの関わり方を学ぶ	・予習：授業に関連した文献を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
11	3	7	**子ども理解１（藤田）** 絵本に登場する人物の内面を、グループワークを通じて見出す。	・予習：本学図書館に所蔵された指定された絵本をグループで読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読み直す(0.75 時間)
12	4	8	**子ども理解２（藤田）** 絵本に登場する人物の育ちつつある姿や５領域との関連性を、グループワークを通じて見出す。	・予習：『幼稚園教育要領』PP.5-8,14-21 を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読み直す(0.75 時間)
13	5	9	**子ども理解３（藤田）** 前回の授業をもとに、絵本の登場人物の内面、育ちつつある姿や５領域との関連性をグループごとでデータ化する。	・予習：授業で PC を用いてデータ化できるように準備する(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読み直す(0.75 時間)
14	6	10	**子ども理解４（藤田）** それぞれの分野で PowerPoint を用いてグループで発表し、４回の授業で得た学びを全体で共有する。	・予習：グループごとで PC を用いてプレゼンテーションできるよう準備する(0.75 時間) ・復習：これまでの授業で配付した資料を読み直す(0.75 時間)
7	11	3	**教育・保育の計画と評価１（寺谷）～週案の確認～** ・導入：計画と評価の意義と必要性 ・講義：指導計画における「週案」の位置 ・グループ演習：週案例の確認・日案との異同を比較	・復習：次回の授業に向けて、分析から週案作成のポイントを把握する（１時間）
8	12	4	**教育・保育の計画と評価２（寺谷）～週案の分析・作成～** ・講義：週案の分析・作成のポイント ・グループ演習：週案例の分析	・予習：次回の授業に向けて、分析から週案作成のポイントを把握する（１時間）
9	13	5	**教育・保育の計画と評価３（寺谷）～週案の検討・推敲～** ・提出様式(Excel)の確認 ・グループ演習：分析を踏まえて週案の検討・作成	・復習：グループ単位で役割(作成範囲)を決め、指定した年齢・月の週案を Excel 形式で作成を進める(２時間)
10	14	6	**教育・保育の計画と評価４（寺谷）～週案の提出～** ・グループ演習：検討した週案の推敲・提出	・予習：グループ単位で役割(作成範囲)を決め、授業時に指定した年齢・月の週案を Excel 形式で提出できるようにする(２時間)
15 (全学生)			**まとめ（織田・藤田・寺谷）** ・履修カルテ記入 ・課題２の作成「保育者に必要な力、身に付けたい力を卒業してからどのように取り組んでいくか。」	・予習：3～14 回目で配付した資料と課題作成に関連した文献を読む（0.75 時間） ・復習：1～15 回目の授業内容をまとめる（0.75 時間）
テキスト			藤田・寺谷が単独で担当する授業では、**①文部科学省『幼稚園教育要領』(フレーベル館)、②文部科学省『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館)、③厚生労働省『保育所保育指針』(フレーベル館)** の３冊を持参すること。	
指定図書			あり（巻末参照)。なお、藤田が単独で担当する授業で必要となる絵本は、事前に Google Classroom で案内する。	

科　目　名	**保育実習ＩＢ**	担当者	石井美和子　寺谷直輝
区　分　等	２年次・前期 [実習] 2 単位　選択／生活こども専攻		
評価基準	１．実習先からの『評価票』に基づく評価（５０%） ２．「振り返りレポート」（５０%）		
課題に対するフィードバック	１．実習中の取り組みは、実習先の担当職員をはじめとした方々からフィードバックがなされますので、それに従ってください。 ２．「振り返りレポート」は、適宜フィードバックします。		
目　　的	１．児童福祉施設の役割や機能を具体的に理解する。 ２．子どもや利用者の姿を観察したり関わったりする中で、子どもや利用者への理解を深める。 ３．これまでに習った教科目の内容を踏まえて、施設における子どもや利用者が過ごしている生活と環境を理解する。 ４．専門職としての施設保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ。		
到達目標	１．児童福祉施設の役割や機能を具体的に理解できている。(DP1) ２．観察や関わりを通して、子どもや利用者への理解を深めることができている。(DP1,DP2) ３．施設における子どもや利用者が過ごしている生活と環境を理解できている。(DP1) ４．専門職としての施設保育士の業務内容や職業倫理を身につけている。(DP1,DP3)		
履修上の注意	１．詳細は『保育実習の手引き（施設実習)』を参照すること。 ２．実習中の連絡は Google Classroom 経由で伝達します。通知設定を ON にすること。		
オフィスアワー	**保育実習全般に関する質問は石井に照会すること。施設実習に関する個別の質問・報告は、①寺谷・②石井の順番で照会すること。**［石井］木曜日 16：20～16：50 ［寺谷］火曜日昼休み		

授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
実習段階：観察・参加実習 実習期間： 第１回 ５月下旬から６月上旬（10 日間） 第２回 ７月下旬から８月上旬（10 日間） ＜実習のなかで修得する内容＞ １．施設の役割と機能 （１）施設の生活と流れ （２）施設の役割と機能 ２．子ども理解 （１）子どもの観察とその記録 （２）個々の状態に応じた援助やかかわり ３．養護内容・生活環境 （１）計画に基づく活動や援助 （２）子どもの心身の状態に応じた対応 （３）子どもの活動と生活の環境 （４）健康管理、安全対策の理解 ４．計画と記録 （１）支援計画の理解と活用 （２）記録に基づく省察・自己評価 ５．専門職としての保育士の役割と倫理 （１）保育士の業務内容 （２）職員間の役割分担や連携 （３）保育士の役割と職業倫理	＜事前準備　（「実習」に向けた予習＞ ●施設実習の目的と意義、実習への心構えやマナーについて理解する。 ●これまでの教科目で得た知見を整理しつつ、実習先のホームページ等で理念・養護方針や活動を参照する中で、明確な実習目標を設定する。 ●実習日誌の書き方を学ぶ。 ●部分実習・レクリエーションといった子どもや利用者と一緒に楽しく行う活動を、実際に試作・試演しながら構想を具体化する（部分実習指導案の作成)。 ＜事後学習　（「実習」が終わった後の復習）＞ ●自己評価シートを作成し、実習で印象に残ったことや学びになったことを整理する。 ●「振り返りレポート」を作成する。具体的には、①実習先の施設の概要を記す。②実習目標に対する成果を明示する。③その成果を挙げたと言える根拠となるエピソードを具体的に記述する。そして、④実習で学んだことを今後どのように活かしたいかを総括する。

テキスト	１．聖霊女子短期大学『保育実習の手引き（施設実習)』　※４月中旬に配付します。 ２．聖霊女子短期大学『保育実習日誌（施設実習)』　※４月中旬に配付します。
指定図書	あり（巻末参照)。【こども家庭福祉】の授業にも活用してください。

※実務経験のある教育による担当教員の実務経験、教育内容（寺谷直輝）

実務経験：障害者総合支援法による障害福祉サービス事業や地域生活支援事業を活用して運営されているフリースクールで、主に発達障害や知的障害のある特別支援学校高等部段階に相当する生徒や大学生に相当する青年に対する学習支援や学習支援の在り方に関わる研究と実践に携わりました。また、保育実習指導者認定証を取得しています。

教育内容：児童福祉施設等における実習を通じて、各自が立てた実習目標について学びが得られるように、同時に、子どもや利用者の理解に基づいた実践ができるように指導します。また、学生からの質問や不安に対する対応の充実を図り、主体的に実習に取り組めるようにサポートします。

科　目　名	**保育実習指導ⅡA**	担当者	石井美和子　寺谷直輝
区　分　等	２年次・前期[演習]１単位　選択／生活こども専攻		
評価基準	①指導案作成・提出（30%）、②実習日誌の内容（30%）、③実習のまとめ（10%）、④指導内容の理解（30%）。		
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスをするなど学生にフィードバックをする。		
目　　的	・２年次の保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学び実践力を養う。 ・既習の教科の内容や関連性を踏まえ、保育士の専門的知識と技術を身に付ける。 ・実習の事後指導を通して、自己評価を行い、保育士を目指すための課題を明確にする。		
到達目標	１．保育所などの理解を深め、目標を明確に持ち、積極的に実習に臨むことができる。(DP1,DP3) ２．子どもの姿を読み取り、指導案を作成する力が身につき実践できる。(DP2,DP3) ３．実習日誌の書き方や内容がより明確になり、観察力や表現力が身に付く。(DP2)		
履修上の注意	・<u>初回の授業から必ず出席すること。</u>本科目は欠課しないことを前提に授業を行います。万が一、欠課した場合には担当教員に授業内容を確認すること。 ・指導案の作成など実習準備に必要な時間を十分確保しておくこと。 ・連絡は Google Classroom 経由で行うこともあるため、確認できるようにしておくこと。		
オフィスアワー	**授業全般や保育所実習に関する問い合わせは石井に照会すること。** **［石井］木曜日 16 時 20 分～16 時 50 分　　［寺谷］火曜日昼休み**		

授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	実習の理解、実習先確認、発送書類の準備	復習：１年次の【保育実習指導Ⅰ】のテキスト『幼稚園・保育園・認定こども園実習パーフェクトガイド』を読み実習の概要を理解する。課題に取り組む。(1時間)
2	実習に関する心構えと諸注意	復習：実習を振り返り、実習課題を２つ設定する。(1時間)
3	保育指導計画立案の考え方	復習：テキスト①pp. 67-140（「実習指導案を立てよう」と「実習日誌から実習指導案を立てよう」）を読み、教材研究に取り組む。(1時間)
4	保育指導計画の立案	復習：教材研究に取り組む。部分実習指導案を作成する。(1時間)
5	保育指導計画の立案	復習：教材研究に取り組む。責任実習指導案を作成する。(1時間)
6	実習日誌の書き方	復習：テキスト①pp. 11-66（実習日誌を書こう）を読み、日の記録や所感の書き方を復習する。(1時間)
7	自己評価とまとめ、発送書類の準備	復習：自己評価シートを作成する。(1時間)
8	実習に関する心構えと諸注意	復習：１年次の【保育実習指導Ⅰ】のテキスト『幼稚園・保育園・認定こども園実習パーフェクトガイド』を読み実習の概要を理解する。課題に取り組む。(1時間)
9	保育指導計画立案の考え方	復習：実習を振り返り、実習課題を２つ設定する。(1時間)
10	保育指導計画の立案	復習：テキスト①pp. 67-140（「実習指導案を立てよう」と「実習日誌から実習指導案を立てよう」）を読み、教材研究に取り組む。(1時間)
11	保育指導計画の立案	復習：教材研究に取り組む。部分実習指導案を作成する。(1時間)
12	実習日誌の書き方	復習：教材研究に取り組む。責任実習指導案を作成する。(1時間)
13	保育指導計画立案	復習：テキスト①pp. 11-66（実習日誌を書こう）を読み、日の記録や所感の書き方を復習する。(1時間)
14	実習の振り返り、自己評価と課題の明確化	復習：自己評価シートを作成する。(1時間)
15	実習のまとめと共有	復習：実習のまとめと発表の準備をする。(1時間)

テキスト	**必要に応じて、１年次の【保育実習指導Ⅰ】で指定したテキストを使用することがあります。** ①小櫃智子編『改訂版　実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』(わかば社) ②神永直美『フォトランゲージで学ぶ―子どもの育ちと実習日誌・指導計画―』(萌文書林) ③厚生労働省『保育所保育指針』(フレーベル館) ④厚生労働省編『保育所保育指針解説』(フレーベル館) ⑤聖霊女子短期大学『保育実習の手引き（保育所)』　※４月中旬に配付します。 ⑥聖霊女子短期大学『保育実習日誌（保育所)』　※４月中旬に配付します。
指定図書	なし

※実務経験のある教員による授業科目の担当教員の実務経験および、教育内容

実務経験：保育士として保育園勤務、保育実習指導者認定証取得（石井美和子）

教育内容：保育士の専門性と職業倫理について指導し、実習や既習の教科の内容や関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。

科　目　名	**保育実習指導ⅡＢ**	担当者	石井美和子　寺谷直輝
区　分　等	２年次・前期[演習]１単位　選択／生活こども専攻		
評価基準	１．提出物作成の取り組みと提出状況（３０％） ２．実習における「基本的態度」と「実習記録の作成」（２０％） ３．「自己評価シート」と「振り返りレポート」の記述（５０％）		
課題に対するフィードバック	提出課題については適宜アドバイスをしてフィードバックする。		
目　　的	１．保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。 ２．実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 ３．保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 ４．児童厚生施設や児童発達支援センター等における保育士の専門性と職業倫理について理解する。 ５．実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。		
到達目標	１．保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。(DP1) ２．実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。(DP1,DP2) ３．保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。(DP2) ４．保育士の専門性と職業倫理について理解する。(DP1) ５．実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。(DP2,DP3)		
履修上の注意	**１．本科目は、就職希望先が保育所以外の児童福祉施設であることが明確な学生や、保育所以外の児童福祉施設における実習力をさらに高めようとする学生が履修するようにしてください。そのため、【保育実習指導ⅡＡ】を併修していないことが履修条件となります。** **２．履修希望者は、履修登録時に、担当教員（石井・寺谷）に必ず報告・相談すること。** ３．全ての連絡事項は Google Classroom 経由で伝達します。通知設定を ON にすること。		
オフィスアワー	**保育実習全般に関する質問は石井に照会すること。施設実習に関する個別の質問・報告は、①寺谷・②石井の順番で照会すること。**［石井］木曜日 16：20～16：50 ［寺谷］火曜日昼休み		

授　業　計　画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	前半のガイダンス	復習：テキスト③Part.１－①「施設実習とは何か」（pp.8-9）を読む（0.5時間）
2	実習目標の設定	復習：テキスト③Part.１－⑨「実習課題の設定」（pp.44-47）を読む（１時間）
3	実習先とのオリエンテーション	復習：テキスト③Part.１－⑩「実習先とのオリエンテーション」（pp.48-51）を読む（0.5時間）
4	実習日誌の作成方法	復習：テキスト③Part.２－③「実習日誌とは」（pp.90-101）、⑥「日々の振り返り」（pp.112-115）を読む（１時間）
5	指導計画の立案１―構想―	復習：テキスト③Part.２－④「指導計画案とは」(pp.102-105)、⑤「部分実習・責任実習・レクリエーション」（pp.106-111）を読み、指導計画を作成すること。（1.5時間）
6	指導計画の立案２―作成―	復習：担当教員から添削を受けた指導計画を加除修正して、指導計画を完成・提出できるようにすること（１時間）
7	実習に関する心構えと諸注意	復習：テキスト③Part.１－③「実習に対する不安」（pp.12-15）、④「実習までに身につけておくこと」（pp.16-17）、⑦「実習生に求められるもの」（pp.40-41）を読む（１時間）
8	実習の振り返り（自己評価・まとめ・反省）	復習：テキスト③Part.３－①「実習先へのお礼」（pp.124-125）、②「実習の振り返り」（pp.126-131）を読む（１時間）
9	後半のガイダンス（小括）	復習：テキスト③Part.１－⑤「施設の種類と概要」（pp.18-37）を読み、実習先の日課と比較して整理する（１時間）
10	実習目標の設定と見直し	復習：テキスト③Part.１－⑨「実習課題の設定」（pp.44-47）を読む（１時間）
11	自立支援計画の理解	復習：授業で配付する資料を読み、自立支援計画の意義と重要性を深める（0.5時間）
12	自立支援計画の作成１―計画の考え方・書き方―	復習：授業で配布する資料を読み、自立支援計画を作成して授業で添削できる準備を行う（１時間）
13	自立支援計画の作成２―作成と推敲―	復習：授業で添削を受けた自立支援計画を推敲して、改善点を踏まえ理解を深める（１時間）
14	実習の振り返りの共有	復習：振り返りレポートを PowerPoint を用いて作成する（２時間）
15	個別指導を通じた課題の明確化	復習：一度作成した振り返りレポートを推敲して提出する（１時間）

テキスト	テキスト①・②は初回授業時に配付します。 ①聖霊女子短期大学『保育実習の手引き（施設実習）』 ②聖霊女子短期大学『保育実習日誌（施設実習）』 ③守巧ほか『改訂版 施設実習パーフェクトガイド』(わかば社)
指定図書	なし。【保育実習ＩＢ】の指定図書を参考にしてみてください。

※実務経験のある教育による担当教員の実務経験、教育内容（寺谷直輝）

実務経験：障害者総合支援法による障害福祉サービス事業や地域生活支援事業を活用して運営されているフリースクールで、主に発達障害や知的障害のある特別支援学校高等部段階に相当する生徒や大学生に相当する青年に対する学習支援や学習支援の在り方に関わる研究と実践に携わりました。また、保育実習指導者認定証を取得しています。

教育内容：児童福祉施設等における実習を通じて、各自が立てた実習目標について学びが得られるように、同時に、子どもや利用者の理解に基づいた実践ができるように指導します。また、学生からの質問や不安に対する対応の充実を図り、主体的に実習に取り組めるようにサポートします。

科　目　名	**保育実習ⅡA**	担当者	石井美和子　寺谷直輝
区　分　等	２年次・前期[実習]２単位　選択／生活こども専攻		
評価基準	実習評価（50%）、実習日誌の内容（20%）、指導計画案の作成提出（30%）。		
課題に対するフィードバック	課題については随時アドバイスをするなど学生にフィードバックする。		
目　　的	１．子どもの観察やかかわりの視点を明確にして、実習日誌を的確に書くことができるようにする。子どもの日々の姿を読み取り、必要な環境構成ができる力を身に付けること。 ２．指導計画の作成の仕方を理解し実践できるようにする。 ３．保育士の業務内容や職業倫理について理解を深める。 ４．自己の課題を明確にして実習に臨むようにする。		
到達目標	１．子どもの理解が深まり子どもへのかかわり方が身につく。(DP1,DP2) ２．保育士としての職務や役割の理解が深まり意識をもって実習に臨む力が養われる。(DP1,DP3) ３．一日の指導案の作成の仕方を身に付け、実際の保育を体験することでより力が身に付く。(DP1,DP2)		
履修上の注意	・【保育実習指導ⅡA】での指導内容を復習すること。 ・連絡は Google Classroom 経由で行うこともあるため、確認できるようにしておくこと。		
オフィスアワー	**保育実習全般に関する質問は石井に照会すること。保育所実習に関する個別の質問・報告は、①石井・②寺谷の順番で照会すること。**［石井］木曜日 16：20～16：50 ［寺谷］火曜日昼休み		

授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
実習段階：参加実習 実習期間：第１回　５月中旬から６月下旬。(10 日間) 第２回　７月下旬から８月上旬。(10 日間) 実習施設において事前のオリエンテーションを行う。 実習施設において実習指導担当者の指導のもとで実習を行い、子どもとのかかわり、保育士の援助、職務などを学ぶ。 ＜内容＞ １．保育所の役割や機能の具体的展開 （１）養護と教育が一体となって行われる保育 （２）保育所の社会的役割と責任 ２．観察に基づく保育の理解 （１）子どもの心身の状態や活動の観察 （２）保育士等の援助や関わり （３）保育所の生活の流れや展開の把握 ３．子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 （１）環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育 （２）入所している子どもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者等に対する子育て支援 （３）関係機関や地域社会との連携・協働 ４．指導計画の作成・実践・観察・記録・評価 （１）全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 （２）作成した指導計画に基づく保育の実践と評価 ５．保育士の業務と職業倫理 （１）多様な保育の展開と保育士の業務 （２）多様な保育の展開と保育士の職業倫理 ６．自己の課題の明確化	・『保育実習の手引き』をしっかり読む。 ・教材研究や部分実習指導案・責任実習指導案を推敲し、実践力を高める。 ・健康的な生活をして実習中に体調を崩すことのないようにする。

テキスト	①小櫃智子編『改訂版　実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』(わかば社) ②神永直美『フォトランゲージで学ぶ―子どもの育ちと実習日誌・指導計画―』(萌文書林) ③厚生労働省『保育所保育指針』(フレーベル館) ④厚生労働省編『保育所保育指針解説』(フレーベル館) ⑤聖霊女子短期大学『保育実習の手引き（保育所)』　※４月中旬に配付します。 ⑥聖霊女子短期大学『保育実習日誌（保育所)』　※４月中旬に配付します。
指定図書	なし

※実務経験のある教員による授業科目の担当教員の実務経験および、教育内容
実務経験：保育士として保育園勤務、保育実習指導者認定証取得（石井美和子）
教育内容：実習の計画、観察、記録に関する指導や教材準備、保育実技などの知識や技術の指導を行い、実践的な指導力を身につける。

科　目　名	**保育実習ⅡＢ**	担当者	石井美和子　寺谷直輝
区　分　等	２年次・前期[実習]２単位　選択／生活こども専攻		
評価基準	１．実習先からの『評価票』に基づく評価（５０％） ２．「振り返りレポート」（５０％）		
課題に対するフィードバック	１．実習中の取り組みは、実習先の担当職員をはじめとした方々からフィードバックがなされますので、それに従ってください。 ２．「振り返りレポート」は、個別にフィードバックします。		
目　　的	１．児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能を学ぶ。 ２．施設における支援の実際を学ぶ。 ３．保育士の多様な業務と職業倫理を身につける。 ４．保育士としての自己課題を明確する。		
到達目標	１．既習の教科や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解できている。(DP1,DP3) ２．家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。(DP1,DP2,DP3) ３．保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。(DP1,DP3) ４．実習における自己の課題を理解する。(DP1,DP2)		
履修上の注意	**１．本科目は、就職希望先が保育所以外の児童福祉施設であることが明確な学生や、保育所以外の児童福祉施設における実習力をさらに高めようとする学生が履修するようにしてください。履修希望者は、履修登録時に、担当教員（石井・寺谷）に必ず報告・相談すること。** **２．【保育実習指導ⅡＢ】を履修していない場合は履修不可です。**		
オフィスアワー	**保育実習全般に関する質問は石井に照会すること。施設実習に関する個別の質問・報告は、①寺谷・②石井の順番で照会すること。**［石井］木曜日 16：20～16：50 ［寺谷］火曜日昼休み		

授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
実習時期：２年次 後期（10 日間／80 時間） 実習施設において事前のオリエンテーションを行う。 実習施設において指導担当者のもとで実習を行う。 実習期間中に授業担当教員が施設を訪問し指導する。 ＜実習段階＞指導実習（部分実習・責任実習） ＜実習のなかで修得する内容＞ １．児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能 ２．施設における支援の実際 （１）受容し、共感する態度 （２）個人差や生活環境に伴う子ども（利用者）のニーズの把握と子ども理解 （３）個別支援計画の作成と実践 （４）子ども（利用者）の家族への支援と対応 （５）各施設における多様な専門職との連携・協働 （６）地域社会との連携・協働 ３．保育士の多様な業務と職業倫理 ４．保育士としての自己課題の明確化	＜事前準備　（「実習」に向けた予習＞ ●施設実習の目的と意義、実習への心構えやマナーについて理解する。 ●これまでの教科目で得た知見を整理しつつ、実習先のホームページ等で理念・養護方針や活動を参照する中で、明確な実習目標を設定する。 ●個別支援計画の作成方法や実習日誌の書き方を学ぶ。 ●部分実習・レクリエーションといった子どもや利用者と一緒に楽しく行う活動を、実際に試作・試演しながら構想を具体化する（部分実習指導案の作成)。 ＜事後学習　（「実習」が終わった後の復習）＞ ●自己評価シートを作成し、実習で印象に残ったことや学びになったことを整理する。 ●振り返りレポートを作成する中で、①実習目標に対する成果を明示し、②その成果を挙げたと言える根拠をエピソードから明らかにする。そして、③実習で学んだことを今後どのように活かしたいかを総括する。

テキスト	以下２冊を【保育実習指導ⅡＢ】の初回授業時に配付します。 １．聖霊女子短期大学『保育実習の手引き（施設実習)』 ２．聖霊女子短期大学『保育実習日誌（施設実習)』
指定図書	なし。【こども家庭福祉】や【保育実習ＩＢ】の指定図書を参考にしてみてください。

※実務経験のある教育による担当教員の実務経験、教育内容（寺谷直輝）

実務経験：障害者総合支援法による障害福祉サービス事業や地域生活支援事業を活用して運営されているフリースクールで、主に発達障害や知的障害のある特別支援学校高等部段階に相当する生徒や大学生に相当する青年に対する学習支援や学習支援の在り方に関わる研究と実践に携わりました。また、保育実習指導者認定証を取得しています。

教育内容：児童福祉施設等における実習を通じて、各自が立てた実習目標について学びが得られるように、同時に、子どもや利用者の理解に基づいた実践ができるように指導します。また、学生からの質問や不安に対する対応の充実を図り、主体的に実習に取り組めるようにサポートします。

科目名	**教育制度論**	担当者	寺谷直輝
区分等	２年次・後期［講義］１単位　選択／生活こども専攻		

評価基準	**①学期内に実施する小テスト［３５％］（到達目標①と関連）** **②期末レポート「My Curriculum Report」［５０％］（到達目標②と関連）** **③予習課題の提出状況［±１５％］（到達目標③と関連）**
課題に対するフィードバック	①小テストは、答案回収後に（授業時間中に）PowerPoint を用いて解説します。 ②期末レポートは、作成途中で適宜個別もしくは全体に共有して、フィードバックします。 ③予習課題は、次回の授業時間を使ってフィードバックします。
目的	保育・子ども家庭福祉・文化・社会状況などの社会的観点を意識しながら、①現代の学校教育に関わる制度的事項や、②学校と地域との連携、③学校安全への対応を理解することが目的です。
到達目標	①現代の学校教育に関する制度的事項並びに学校と地域との連携及び学校安全への対応に関する基礎知識を正確に理解できている（DP1）。 ②現代の学校教育に関する制度的事項並びに学校と地域との連携及び学校安全への対応に関する基礎知識を活用して、科学的・論理的思考に基づいた意見や教育的信条を記述できる（DP2）。 ③現代の学校教育に関する制度的事項並びに学校と地域との連携及び学校安全への対応に関する基礎知識を、積極的に獲得しようと努めている（DP3）。
履修上の注意	①第１回の授業から必ず出席すること。 ②下記［準備学習の内容］（テキストの通読と予習課題の提出）を取り組む時間を確保すること。 ③毎回、「赤・青・緑」のフリクションボールペンを持参すること。
オフィスアワー	火曜日昼休み　★左記以外の時間は事前にアポイントを取った上で来訪すること。

授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	**授業全体のガイダンス**	復習：1 ２年次前期の授業で行った演習科目・課外活動の概要と得られた資質能力について配付資料（C列の素材）に整理すること。(0.5時間) 2 「３色ボールペン読書法」を用いて、**テキスト①第１章「教育制度とは何か」(PP.10-17)** を読むこと（１時間）。
2	**（第２章）現代の教育制度**	予習：**テキスト①第２章（PP.18-25）** を読み、指定した期日までに予習課題を 150 字以上で提出すること（１時間）。 復習：期末レポートのA列に活かせそうなキーワード（B列）と引用する理由を簡単にメモすること（0.5時間）。
3	**（第４章）幼児教育制度** **（第５章）保育所制度**	予習：**テキスト①第４章（PP.157-168）・第５章（PP.52-63）** を読み、指定した期日までに予習課題を 150 字以上で提出すること（1.5時間）。 復習：期末レポートのA列に活かせそうなキーワード（B列）と引用する理由を簡単にメモすること（0.5時間）。
4	**（第 13 章）教育行政と福祉行政の連携**	予習：**テキスト①第 13 章（PP.152-163）** を読み、指定した期日までに予習課題を 150 字以上で提出すること（１時間）。 復習：期末レポートのA列に活かせそうなキーワード（B列）と引用する理由を簡単にメモすること（0.5時間）。
5	**（第 15 章）子育て支援の制度**	予習：**テキスト①第 15 章（PP.176-188）** を読み、指定した期日までに予習課題を 150 字以上で提出すること（１時間）。 復習：期末レポートのA列に活かせそうなキーワード（B列）と引用する理由を簡単にメモすること（0.5時間）。
6	**（第 11 章）学校と地域との連携**	予習：**テキスト①第 11 章（PP.128-139）** を読み、指定した期日までに予習課題を 150 字以上で提出すること（１時間）。 復習：期末レポートのA列に活かせそうなキーワード（B列）と引用する理由を簡単にメモすること（0.5時間）。
7	**（第 14 章）学校安全と子どもの事故**	予習：**テキスト①第 14 章（PP.164-175）** を読み、指定した期日までに予習課題を 150 字以上で提出すること（１時間）。 復習：期末レポートのA列に活かせそうなキーワード（B列）と引用する理由を簡単にメモすること（0.5時間）。
8	**小テストの実施と解説** ●自己評価アンケートの実施	予習：小テストに向けて、第１回から第７回までに学習した内容を整理すること（１時間）。 復習：期末レポートを 12 月末日までに事務局窓口に提出すること（４時間）。

テキスト	**①内山絵美子ほか編『新訂版 保育者・小学校教員のための教育制度論』（教育開発研究所）** **②文部科学省編『幼稚園教育要領解説 平成 30 年３月』（フレーベル館）**
指定図書	あり（巻末参照）

※実務経験のある教員による授業科目の担当教員の実務経験および、教育内容

実務経験：障害者総合支援法による障害福祉サービス事業や地域生活支援事業を活用して運営されているフリースクールで、主に発達障害や知的障害のある特別支援学校高等部段階に相当する生徒や大学生に相当する青年に対する学習支援や学習支援の在り方に関わる研究と実践に携わりました。また、文部科学省による「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究」で、NPO 法人や社会福祉法人が行政と連携協働しながら障害者の生涯学習プログラムを構想・開発する事業にも携わりました。

教育内容：フリースクールでの実務経験をもとに、学生のニーズや理解度を丁寧に汲み取りながら、【幼稚園教育実習】や【保育実習】との関連、教育行政と福祉行政の連携・協働、あるいは子ども家庭福祉や教育・保育との関連を意識できるよう指導を行い、教育制度への理解をより深める授業を展開します。

科目名	**教育課程総論**	担当者	寺谷直輝
区分等	２年次・前期 ［講義］２単位　選択／生活こども専攻		

評価基準	**①学期内に３回実施する小テスト［３５％］(到達目標①と関連)** **②期末レポート「My Curriculum Report」［５０％］(到達目標②と関連)** **③予習課題の提出状況［±１５％］(到達目標③と関連)**
課題に対するフィードバック	①小テストは、答案回収後に（授業時間中に）PowerPoint を用いて解説します。 ②期末レポートは、作成途中で適宜個別もしくは全体に共有して、フィードバックします。 ③予習課題は、次回の授業時間を使ってフィードバックします。
目的	【幼稚園教育実習】や【保育所実習】との関連を意識しながら、①『幼稚園教育要領』や『保育所保育指針』等の位置づけと改訂内容、②幼稚園における教育課程や保育所における全体的な計画と指導計画の関係性、③指導計画の意義や作成方法、④「カリキュラム・マネジメント」の意義や重要性を理解することが目的です。
到達目標	①保育カリキュラム（教育課程や保育の計画と評価）に関わる基礎知識を正確に理解できている **(DP1)**。 ②保育カリキュラム（教育課程や保育の計画と評価）に関わる基礎知識を活用して、科学的・論理的思考に基づいた意見や教育的信条を記述できる **(DP2)**。 ③保育カリキュラム（教育課程や保育の計画と評価）に関わる基礎知識を、積極的に獲得しようと努めている **(DP3)**。
履修上の注意	①第１回の授業から必ず出席すること。 ②下記［準備学習の内容］(テキストの通読と予習課題の提出) を取り組む時間を確保すること。 ③毎回、「赤・青・緑」のフリクションボールペンを持参すること。
オフィスアワー	火曜日昼休み　★左記以外の時間は事前にアポイントを取った上で来訪すること。

授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	**授業全体のガイダンス** ●責任実習指導案や部分実習指導案の様式 ●「My Curriculum Report」の概要説明 ●予習課題の内容と提出方法 ●「３色ボールペン読書法」の説明と試行 **（第 12 章）幼稚園教育要領の改訂の変遷とその背景**	復習：1 １年次後期の授業で行った演習科目・課外活動の概要と得られた資質能力について配付資料（C列の素材）に整理すること。（１時間） 2 「３色ボールペン読書法」を用いて、**テキスト②「第 13 章　保育所保育指針の改定の変遷とその背景」**を読むこと（２時間）。 3 **テキスト①PP. 96-99 (指導計画の考え方)** を読み、基本的事項を復習すること（１時間）。
2	**指導計画作成の基本的事項と留意事項** **（日の指導計画の作成方法）** ●発達の理解（子どもの実態） ＊テキスト①P. 100（発達の理解）	復習：**テキスト①P. 100 (発達の理解)** を参照して、「日の指導計画」の作成を進めること（２時間）。
3	●具体的なねらい・内容の設定 ＊テキスト①PP. 101（具体的なねらいや内容の設定）・142-144（ねらい及び内容の考え方と領域の編成）	復習：**テキスト①PP. 101 (具体的なねらいや内容の設定)・142-144 (ねらい及び内容の考え方と領域の編成)** を参照して、「日の指導計画」の作成を進めること（２時間）。
4	●環境の構成と留意点 ＊テキスト①PP. 41-44（計画的な環境の構成）・102（環境の構成）・248-251（環境の構成の意味）	復習：**テキスト①PP. 41-44 (計画的な環境の構成)・102 (環境の構成)・248-251 (環境の構成の意味)** を参照して、「日の指導計画」の作成を進めること（２時間）。
5	●保育の展開 ＊テキスト①PP. 103（活動の展開と教師の援助）・252-259（保育の展開）	復習：**テキスト①PP. 103 (活動の展開と教師の援助)・252-259 (保育の展開)** を参照して、「日の指導計画」の作成を進めること（２時間）。
6	●教師の役割・援助 ＊テキスト①PP. 45-49（教師の役割）・103（活動の展開と教師の援助）・252-259（保育の展開）	復習：**テキスト①PP. 45-49 (教師の役割)・103 (活動の展開と教師の援助)・252-259 (保育の展開)** を参照して、「日の指導計画」の作成を進めること（２時間）。
7	第１回小テストの実施と解説 ●第１回から第６回の授業で学んだことの振り返り	予習：小テストに向けて、第１回から第６回までに学習した内容を整理すること（２時間）。 復習：小テストを通じて授業内容の理解度を自己評価した上で、期末レポートの作成を進めること（２時間）。

8	**（テキスト②第３章）幼稚園における教育課程の役割と編成** ＊テキスト①PP. 74-77（教育課程の役割）	予習：**テキスト②第３章**を読み、指定した期日までに予習課題を150字以上で提出すること（３時間）。 復習：1 期末レポートのＡ列に活かせそうなキーワード（Ｂ列）と引用する理由を簡単にメモすること（１時間）。 2 「３色ボールペン読書法」を用いて、**テキスト②「第４章保育所における全体的な計画」**を読むこと（２時間）。
9	**（テキスト②第２章）幼児教育の特質と幼児期に育みたい資質・能力** ＊テキスト①PP. 50-73（幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」）	予習：**テキスト②第２章**を読み、指定した期日までに予習課題を150字以上で提出すること（３時間）。 復習：期末レポートのＡ列に活かせそうなキーワード（Ｂ列）と引用する理由を簡単にメモすること（１時間）。
10	**（テキスト②第６章）長期の指導計画と短期の指導計画の実際** ＊テキスト①PP. 105-106（長期の指導計画と短期の指導計画）	予習：**テキスト②第６章**を読み、指定した期日までに予習課題を150字以上で提出すること（３時間）。 復習：期末レポートのＡ列に活かせそうなキーワード（Ｂ列）と引用する理由を簡単にメモすること（１時間）。
11	**（テキスト②第８章）カリキュラム・マネジメントの意義と実際** ＊テキスト①PP. 131-132（教育課程の改善と学校評価等）	予習：**テキスト②第８章**を読み、指定した期日までに予習課題を150字以上で提出すること（３時間）。 復習：期末レポートのＡ列に活かせそうなキーワード（Ｂ列）と引用する理由を簡単にメモすること（１時間）。
12	**（テキスト②第 10 章）幼児教育と小学校教育との円滑な接続** ＊テキスト①PP. 90-93（小学校教育との接続に当たっての留意事項）・305-318（小学校学習指導要領（抄））	予習：**テキスト②第 10 章**を読み、指定した期日までに予習課題を150字以上で提出すること（３時間）。 復習：期末レポートのＡ列に活かせそうなキーワード（Ｂ列）と引用する理由を簡単にメモすること（１時間）。
13	**（テキスト②第７章）幼児理解に基づいた評価の実際** ＊テキスト①PP. 104（評価を活かした指導計画の改善）・121-123（幼児理解に基づいた評価の実施）	予習：**テキスト②第７章**を読み、指定した期日までに予習課題を150字以上で提出すること（３時間）。 復習：期末レポートのＡ列に活かせそうなキーワード（Ｂ列）と引用する理由を簡単にメモすること（１時間）。
14	第２回小テストの実施と解説 ●第８回から第 13 回の授業で学んだことの振り返り	予習：小テストに向けて、第８回から第 13 回までに学習した内容を整理すること（２時間）。 復習：小テストを通じて授業内容の理解度を自己評価した上で、期末レポートの作成を進めること（２時間）。
15	第３回小テストの実施と解説 ●自己評価アンケートの実施 ●半期の授業で学んだことの振り返り	予習：小テストに向けて、半期の授業で学んだ内容を整理すること（２時間）。 復習：期末レポートを指定した期日までに事務局窓口に提出すること（５時間）。
テキスト	今年度は **①文部科学省編『幼稚園教育要領解説 平成 30 年３月』（フレーベル館）・②神長美津子か編『教育課程論』（中央法規出版）**の２冊を指定します。	
指定図書	①文部科学省『幼稚園教育要領 〈平成 29 年告示〉』（フレーベル館） ②内閣府ほか『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成 29 年告示〉』（フレーベル館） 他（巻末参照）	

※実務経験のある教員による授業科目の担当教員の実務経験および、教育内容

実務経験：障害者総合支援法による障害福祉サービス事業や地域生活支援事業を活用して運営されているフリースクールで、主に発達障害や知的障害のある特別支援学校高等部段階に相当する生徒や大学生に相当する青年に対する学習支援や学習支援の在り方に関わる研究と実践に携わりました。また、文部科学省による「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究」で、NPO 法人や社会福祉法人が行政と連携協働しながら障害者の生涯学習プログラムを構想・開発する事業にも携わりました。また、保育実習指導者認定証を取得しています。

教育内容：フリースクールでの実務経験をもとに、学生のニーズや理解度を丁寧に汲み取りながら、指導計画に関わる知識を伝え、保育の計画と評価に関する基本的事項や指導計画の作成に際して配慮すべき事項等、保育者の専門性や保育実践力をより高める授業を展開します。

科　目　名	**教育方法論**	担当者	栗森　貢、佐藤　恵
区　分　等	２年次・後期［講義］２単位　選択／生活こども専攻		
評価基準	到達目標１：小テスト（10%）、課題レポート（50%） 到達目標２：グループワーク(20%)、授業に取り組む姿勢（20%）		
課題に対するフィードバック	学生の達成度に応じてアドバイスをし、発表等については学生の感想や指導者の意見をその場で伝える。		
目　　的	○幼稚園教育要領に示されている保育理念を踏まえ、幼児の発達に応じた指導方法や、家庭や小学校と幼稚園との連携のあり方を身に付けること。 ○情報機器を活用して保育のねらいに合った教材を作成し、模擬保育を通して効果的な活用技術を身に付けること。		
到達目標	1.幼児教育における基本的な教育原理や方法を理解し、実践的に活用できるようになる。（DP1・DP2） 2.情報機器を用いて幼児の興味を引きつける「デジタル紙芝居（デジタル絵本)」を作成し、模擬保育を通して効果的な使い方ができるようになる。(DP2・DP3)		
履修上の注意	教材作成を通して、情報機器の具体的な活用に習熟すること。		
オフィスアワー	栗森：月曜日～木曜日は放課後、佐藤：金曜日の午前と放課後		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	【1～6回目担当：栗森貢】 ガイダンス　　幼児教育の概要を知る	予習：幼稚園教育要領を読み、概要を把握し不明な事項を整理する。(1時間) 復習：法令に見る幼児教育の重要性について確認する。(0.5時間)
2	幼児教育の基礎的理論① 育むべく資質や能力について理解を深める	予習：幼児教育における「主体的･対話的で深い学び」について考えをまとめる。(1時間) 復習：「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」について再確認する。(0.5時間)
3	幼児教育の基礎的理論② 多様な環境の中で育まれる幼児の成長を理解する ～「協同性」について～	予習：様々な環境が幼児の体験を豊かにし、成長を促している事例を考えてくる。(1時間) 復習：「協同性」が重視される理由を確認するとともに、協同性が発揮される「ごっこ遊び」を考える。(0.5時間)
4	幼児教育の基礎的理論③ 遊びの重要性を生かした保育を理解する ～「道徳性･規範意識」について～	予習：遊びや活動との関連から「規範意識」の育ちについての事例を考えてくる。(1時間) 復習：遊びの中でのトラブル要因となる「道徳性・規範意識」の欠如について考えをまとめる。(0.5時間)
5	情報機器を活用した教材作成の実際① 「デジタル紙芝居(デジタル絵本)づくり」 ねらいに即したテーマや手法を考え、ストーリーを決定する	予習：幼児教育における ICT 活用のメリットとデメリットについて考えておく。(1時間) 復習：情報機器の活用は、あくまでも子どもの直接的な体験を補完するだけであることを確認する。(0.5時間)
6	情報機器を活用した教材作成の実際② 「デジタル紙芝居(デジタル絵本)づくり」 目的に応じたストーリーや画面の基本形を作成する	予習：ねらいや展開に応じた複数の画面を簡単なスケッチで表す。(1時間) 復習：計画書を作成し、Power Point を使って基本画面やストーリーや背景、人物など手書きやイラストによって工夫する。(0.5時間)
7	【7～9回目担当：佐藤恵】 情報機器を活用した教材作成の実際③ 役割分担に応じて教材を作成する	予習：ペアで分担した作業を進める（1時間） 復習：配色やアニメーションの工夫や音声の挿入など細部にわたって作成した作品を検討し合う。(0.5時間)
8	情報機器を活用した教材作成の実際④ 役割分担に応じて教材を作成する	予習：ペアで分担した作業を進める（1時間） 復習：配色やアニメーションの工夫や音声の挿入など細部にわたって作成した作品を検討し合う。(0.5時間)
9	情報機器を活用した教材作成の実際⑤ 作成した教材を実演しながら修正等をする	予習：ペアで分担した作業を進める（1時間） 復習：配色やアニメーションの工夫や音声の挿入など細部にわたって作成した作品を検討し合う。(0.5時間)
10	【10～15回目担当：栗森貢】 自作教材を使用した模擬保育の実際① 「デジタル紙芝居」発表会のリハーサル	予習：保育のねらいを達成できるように、分担に応じて何度もリハーサルをする。(1時間) 復習：作品全体の流れと台詞を合わせて演示し、修正点などを検討する。(0.5時間)

11	自作教材を使用した模擬保育の実際② 「デジタル紙芝居」発表会、相互評価、感想交流	予習：模擬保育として、導入を入れて演示する練習をする。(1 時間) 復習：演示した結果を振り返るとともに、他のペアの人たちの発表に対する評価をまとめる。(0.5 時間)
12	「幼・保・小の接続」を考える	予習：小学校教育と幼稚園教育との類似点や相違点を整理する。(1 時間) 復習：「幼・保・小の接続」の重要性を知るとともに、アプローチ・キャリアとスタート・キャリアの課題について認識する。(0.5 時間)
13	幼児教育の評価の在り方を理解する	予習：個々の幼児のよさを伸ばす視点で評価のあり方を整理する。(1 時間) 復習：「評価は幼児教育に必要か」、「それはなぜか」、の問いに回答できるようにする。(0.5 時間)
14	幼児の評価を生かした保護者との連携や家庭教育支援の在り方を理解する	予習：具体的な場面を想定し、各家庭への支援に通じる方法を整理する。(1 時間) 復習：保護者と連携することのよさは何か、について明確な回答ができるように備える。(0.5 時間)
15	評価を生かした幼児の成長記録や指導要録の役割、記載方法の概要を理解する	予習：個々の幼児の具体的な園生活を想定し、成長の足跡となるように、仮定した記録を書く。(1 時間) 復習：既習の学習内容を振り返り、自分なりに重要なテーマを 2 点取り上げてまとめる。(0.5 時間)

テキスト	『幼稚園教育要領および解説』(最新版)(文部科学省著、フレーベル館) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領および解説』(最新版)(内閣府・文部科学省・厚生労働省著、フレーベル館) 授業に使用するプリントや学習資料を配付する。
指定図書	あり (巻末参照)

科　目　名	幼児理解	担当者	野内友規
区　分　等	２年次・後期［講義］１単位　選択／生活こども専攻		
評価基準	到達目標１：レポート、授業内小テスの内容に基づき評価する。(50%) 到達目標２：授業内提出物、グループワーク活動での参加態度に基づき評価する。(50%)		
課題に対するフィードバック	１．毎時間の履修カードに記された課題や質問、感想について、コメントを付し返却し、必要に応じて授業で解説する。 ２．レポートを課し、返却時に評価を付し解説する。		
目　　的	子どもの心身の発達的特徴や諸問題について理解する力を養うとともに、心理学、生理学、保育教育学を基盤とした発達の学びをもとに、子ども理解と支援する力を養う。		
到達目標	１．発達段階を見通した幼児理解と子どもの特性に応じた援助の重要性を説明できる。(DP1,DP2) ２．グループワークを通して、メンバーとともに「子どもの理解」について考えを深め、自分の意見を発表することができる。(コミュニケーションにおいてコミュニケーション支援機器の使用は担当教員の許可のもと可とする。コミュニケーションにおける人的支援の配置は基本的に不可とする。) (DP2,DP3)		
履修上の注意	１．必要に応じグループワークを取り入れるので、最低限のコミュニケーション能力は求めます。 ２．授業において合理的配慮が必要な際は、授業時に必ず担当教員へ相談すること		
オフィスアワー	月曜日 7・8 限		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	保育における子ども理解の意義 子どもに対するかかわりと共感的理解	予習：テキスト P1～P25（保育における子ども理解の意義/子どもに対するかかわりと共感的理解）を読む。(1 時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1 時間)
2	子どもの生活や遊び 保育の人的環境としての保育者と子どもの発達	予習：テキスト P26～P49（子どもの生活や遊び/保育の人的環境としての保育者と子どもの発達）を読む。(1 時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1 時間)
3	子ども相互のかかわりと関係づくり 集団における経験と育ち	予習：テキスト P50～P73（子ども相互のかかわりと関係づくり/集団における経験と育ち）を読む。(1 時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1 時間)
4	発達における葛藤やつまづき 保育の環境の理解と構成	予習：テキスト P74～P97（発達における葛藤やつまづき/保育の環境の理解と構成）を読む。(1 時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1 時間)
5	環境の変化や移行 子ども理解のための観察・記録と省察・評価	予習：テキスト P98～P121（環境の変化や移行/子ども理解のための観察・記録と省察・評価）を読む。(1 時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1 時間)
6	子ども理解のための職員間の対話 子ども理解のための保護者との情報共有	予習：テキスト P122～P145（子ども理解のための職員間の対話/子ども理解のための保護者との情報共有）を読む。(1 時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1 時間)
7	発達の課題に応じた援助とかかわり 特別な配慮を要する子どもの理解と援助	予習：テキスト P146～P169（発達の課題に応じた援助とかかわり/特別な配慮を要する子どもの理解と援助）を読む。(1 時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1 時間)
8	発達の連続性と就学の支援	予習：テキスト P170～P180（発達の連続性と就学の支援）を読む。(1 時間) 復習：授業内で配布した資料の「授業目標」に沿って該当箇所を読み直す。(1 時間)

テキスト	清水益治・森俊之編集『子どもの理解と援助』(ISBN：978-4-8058-5790-8)（中央法規出版）
指定図書	なし　※必要に応じて適宜推薦図書を紹介します。

科　目　名	**教育相談**	担当者	織田栄子
区　分　等	２年次・後期［講義］１単位　選択／生活こども専攻		
評価基準	到達目標１　　定期試験でのテスト(40%)、中間まとめ(30%) 到達目標２・３　受講カードの提出と内容（20%)、受講取り組み態度（10%)。		
課題に対するフィードバック	１　提出物（ワークシート等）は、随時、コメントを付けて返却する。 ２　提出物、中間まとめやテストは、随時、アドバイスなど学生にフィードバックする。		
目　　的	保育士・教員として子どもの心の問題等へ対応するために、心の問題等の捉え方、子どもや保護者への対応方法、教職員間や他機関等との連携方法等を身に付ける。		
到達目標	１　子どもの心の問題等について、発達段階、発達課題を踏まえた臨床心理学的な捉え方ができる。(DP1、DP2) ２　子どもの心の問題等に対する心理的支援方法を学び、子どもの自己理解を深め、好ましい人間関係を築き、自己成長を促す関わりができる。(DP3) ３　子どもの心の問題等に、教職員間や他機関等と連携ができる。(DP3)		
履修上の注意	授業内でワークを行います。ＤＶＤや動画を適宜使います。		
オフィスアワー	火曜日昼休み		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション ・教育相談とは何か ・子どもの心の問題の捉え方と臨床的なかかわりについて１	・予習：教科書 p50～66「第 4 章こどもと臨床的かかわり」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
2	教育相談に生かす心理学的基礎１ ・教育相談の実際と事例検討 ・人間観、性格論、関わり方１（精神分析理論）	・予習：教科書 p67～71「第 5 章心理療法の基礎理論、1.心理療法、2.精神分析理論」、p 78～81「第 6 章さまざまな心理療法、1.はじめに、2.精神分析療法」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
3	教育相談に生かす心理学的基礎２ ・人間観、性格論、関わり方２（行動理論、自己理論）	・予習：教科書 p71～77「第 5 章心理療法の基礎理論、3 行動理論.4.自己理論」、p 80～89「第 6 章さまざまな心理療法、3.クライエント中心療法、4.行動療法、5.認知行動療法」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
4	教育相談の技法１ ・カウンセリングとは（カウンセリングマインド、相談や心理療法との違い等） ・カウンセリングの領域と対象及び幼児期のカウンセリング ・中間まとめと解説	・予習：教科書 p93～97「第 6 章さまざまな心理療法、7.子どもの心理療法」、p98～101「第 7 章カウンセリングの基礎、1.カウンセリングとは、2.カウンセリングの領域と対象及び幼児期のカウンセリング」を読む(0.75 時間) ・復習：復習：中間まとめで課されたテーマについて、教科書 p93～101 を読み、要点をまとめる(0.75 時間)
5	教育相談の技法２ ・カウンセリングの基本（ラポール、共感的理解、自己一致、無条件の肯定的配慮、受容、面接の構造と契約等）	・予習：教科書 p102～110「第 7 章カウンセリングの基礎、3.カウンセリングの基本」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
6	教育相談の進め方 ・カウンセリングの過程（傾聴、主な技法、質問の仕方、転移と逆転移等）	・予習：教科書 p111～119「第 7 章カウンセリングの基礎、3.カウンセリングの過程」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
7	子ども臨床と心理アセスメント ・発達段階・発達課題と子どもの心の問題（登園拒否、虐待、発達障害等） ・子どもや保護者を客観的に理解する方法（面接、各種検査、行動観察等）	・予習：教科書 p121～137「第 8 章子ども臨床と心理アセスメント」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
8	子ども臨床と専門性 ・教職員間、園内体制の組織的整備、地域や他機関等との連携の仕方 ・相談を受ける保育者自身のメンタルヘルス	・予習：教科書 p204～224「第 12 章コミュニティと子ども臨床」、p225～241「第 13 章子ども臨床」と専門性読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)

テキスト	伊藤健次編著『子ども臨床とカウンセリング』(みらい)
指定図書	『幼稚園教育要領および解説』(最新版)（文部科学省著、フレーベル館） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領および解説』(最新版)（内閣府・文部科学省・厚生労働省著、フレーベル館） その他（巻末参照)。適宜、参考図書等を紹介します。

科　目　名	幼稚園教育実習指導(２年次)	担当者	藤田洋子
区　分　等	１年次・２年次　通年［演習］１単位　選択／生活こども専攻		
評価基準	課題(60%)、実習報告(40%)		
課題に対するフィードバック	随時アドバイスや提案するなど学生にフィードバックする。		
目　　的	幼稚園教育実習に臨むにあたり必要とされる基本的事項を理解する力を養う。 実習日誌の書き方、求められる実践力について理解する力を養う。 今後の課題を見出しながら教育者・保育者として必要となる事柄を習得するための力を養う。 各自の体験を他の学生とも共有し合い、幼児教育にあたって必要な環境構成や援助のあり方について理解する力を養う。		
到達目標	1年次 ①　教育実習の意義や目的をよく理解することができる。(DP1) ②　実習日誌の意義や役割を理解し記録する力を身につける。(DP1,DP2,DP3) ③　実習に参加するために必要な知識や技能の基礎を身につける。(DP1) ④　実習の反省を踏まえて課題を明確にするとともに必要な知識・技能を身につける。(DP1,DP2,DP3) 2年次 ①　教育実習の意義や目的をよく理解することができる。(DP1,DP2) ②　実習日誌及び指導案の意義や役割を理解し記録する力や作成する力を身につける。(DP2,DP3) ③　実習に向け必要な実践力を身につける。(DP2,DP3) ④　実習の反省を踏まえて課題を明確にするとともに必要な知識・技能を身につける。(DP2,DP3)		
履修上の注意	実習に向けて自ら学ぶ姿勢をしっかりと持つこと。幼稚園実習のための指導なので、欠課した場合は必ず担当者のところに行き、指導を受けること。		
オフィスアワー	金曜日 16 時 25 分～16 時 50 分		

	授業計画	準備学習(予習・復習)の内容および、時間
15	1年次の実習の振り返り 2 年次の教育実習の意義や目的についての理解	予習：1年次の実習課題を確認する。本学『幼稚園教育実習の手引き』P１～P2を読む。(0.75時間) 復習：授業で配布した資料を読み直す。(0.75時間)
16	幼児の発達過程・実習日誌の書き方	予習：ICTや専門図書で調べる。本学『幼稚園教育実習の手引き』P8頁を読む。１年次の④⑤回目の配布資料などを読み直す。(0.75時間) 復習：授業で配布した資料を読み直す。(0.75時間)
17	指導案の意義や内容、作成方法	予習：実習の手引きP2,P12を読む。1年次の保育内容・身体表現B⑩⑪の授業で配布した資料を読み直す。(0.75時間) 復習：授業で配布した資料を読み直す。(0.75時間)
18	実習時期の子どもの育ちの姿と遊びや教材	予習：専門図書などで実習時期の子どもの姿と遊び、必要な教材について調べる。(0.75時間) 復習：授業で配布した資料を読み直す。(0.75時間)
19	指導案の作成(部分実習・絵本の読み聞かせ)	予習：実践してみたい絵本を選ぶ。1年次の保育内容・身体表現B⑩⑪の授業で作成した指導案を読み直す。(0.75時間) 復習：授業で配布した資料を読み直す。(0.75時間)
20	製作遊びの体験	予習：ICTなどで子どもの“こままわし”について調べる。(0.75時間) 復習：授業で配布した資料を読み直す。(0.75時間)
21	グループワーク(指導計画の作成：活動のねらいと展開)	予習：本学図書館にある保育月刊誌や指導計画作成の専門図書を調べたり⑰⑲の授業で配布した資料を読み直して原案を考えるための資料を準備する。(0.75時間) 復習：授業で配布した資料を読み直す。(0.75時間)
22	グループワーク(指導計画の作成：保育者の援助)	予習：本学図書館にある保育月刊誌や指導計画作成の専門図書を調べて必要な知識を得て自分なりの考えを整理する。(0.75時間) 復習：授業で配布した資料を読み直す。(0.75時間)
23	グループワーク(保育の実践)	予習：実践に必要な資料や教材を準備して授業に臨む。(0.75時間) 復習：授業で配布した資料を読み直す。(0.75時間)
24	保育実践に対する反省	予習：保育実践の反省を行い共有した学びを明確にする。(0.75時間) 予習：授業で配布した資料を読み直す。(0.75時間)
25	指導計画案の作成　(責任実習：活動のねらいと展開)	予習：実践してみたい内容を決めて授業に臨む。(0.75時間) 復習：作成した指導案を読み直す。(0.75時間)
26	指導計画案の作成(責任実習:保育者の援助)	予習:実際に試み気づいたことを明確にする。必要な教材を準備する。(0.75時間) 復習：作成した指導案を読み直す。(0.75時間)
27	指導計画案の作成　(責任実習：環境構成)	予習:実際に試み気づいたことを明確にする。必要な教材を準備する。(0.75時間) 復習：作成した指導案を読み直す。(0.75時間)
28	実習確認(実習の手引き、指導案と教材)	予習：本学の『実習の手引き』を読む。(0.75時間) 復習：授業で配付した資料、実習の手引き、作成した指導案を見直す。(0.75時間
29	教育実習の振り返り 実習目標に対する自己評価、その他の学び	予習：実習を振りかえり実習目標に対する自己評価をまとめる。(0.75時間) 復習：授業で配布した資料を読み直す。(0.75時間)
30	グループワーク・教育実習の振り返り 実習体験の共有と今後に向けた学び	予習：実習を振り返り反省点を明確にする。(0.75時間) 復習：実習の成果や課題を今後活かせるよう検討する。(0.75時間)

テキスト	①文部科学省『幼稚園教育要領』・『幼稚園教育要領解説』 ②内閣府ほか『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 ③聖霊女子短期大学『幼稚園教育実習の手引き(２年次)』・『実習日誌の書き方』
指定図書	なし

＊実務経験のある教員による授業科目の担当教員の実務経験および、教育内容

実務経験：幼稚園教諭を経て園長として保育園、幼保連携型認定こども園に勤務

教育内容：保育現場での経験を活かし、保育者の援助、子ども主体の指導案作成等の指導を行い、実践的な力を身につける。

科　目　名	**地域・遊び実践演習**	担当者	大曽基宣、藤田洋子、石井美和子
区　分　等	２年次・前期［演習］１単位　選択／生活こども専攻		
評価基準	到達目標１：レポートの内容に基づき評価する。(30%) 到達目標２：遊び実践および提出物の内容に基づき評価する。(50%) 到達目標３：シャトルカードの内容に基づき評価する。(20%)		
課題に対するフィードバック	提出物ついては、随時コメントをつけて返却する。		
目　　的	様々な遊びの経験および地域の親子を対象とした遊びの計画・実践・評価を通して、子どもが主体的に関わり、自発的に遊び、居心地の良さを感じる環境について、学習することを目的とする。		
到達目標	1．子どもが主体的に関わり、自発的に遊び、居心地の良さを感じる環境構成について、自らの意見を踏まえて説明できる。(DP1) ２．子どもが主体的に関わり、自発的に遊び、居心地の良さを感じる環境について、具体的な計画を立案し、実践・評価・改善を行うことができる。(DP2) ３．主体的に自身の考えを述べ、他者の意見を取り入れながら、協働して取り組むことができる。(DP3)		
履修上の注意	第 13 回・第 14 回は、通常の時間割外で週末などの地域の親子が参加しやすい時間帯に実施する。日程は、授業の中で報告する。グループ活動を行う際は、協力して進めること。		
オフィスアワー	金曜日　１６時２０分～１６時５０分		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	遊びの定義と意義（大曽）	予習：遊びの定義を考える(1h) 復習：配付資料[遊びの定義と意義]再読(1h)
2	世界の遊び体験（大曽）	予習：世界の子どもの遊びについて調べる(1h) 復習：配付資料[世界の遊び体験]再読(1h)
3	科学遊び体験：空気・風（大曽）	予習：空気・風を楽しむ活動を考える(1h) 復習：配付資料[科学遊び体験：空気・風]再読(1h)
4	科学遊び体験：形態の変化（大曽）	予習：形態の変化を楽しむ活動を考える(1h) 復習：配付資料[科学遊び体験：形態の変化]再読(1h)
5	「子どもたちの 100 の言葉」からの遊び体感：色と音の風景（藤田）	予習：前回配付資料[「子どもたちの 100 の言葉」からの遊び体感①]を読む(1h) 復習：配付資料[「子どもたちの 100 の言葉」からの遊び体感①]再読(1h)
6	「子どもたちの 100 の言葉」からの遊び体感：素材の風景（藤田）	予習：前回配付資料[「子どもたちの 100 の言葉」からの遊び体感②]を読む(1h) 復習：配付資料[「子どもたちの 100 の言葉」からの遊び体感②]再読(1h)
7	「子どもたちの 100 の言葉」からの遊び体感：光の風景（藤田）	予習：前回配付資料[「子どもたちの 100 の言葉」からの遊び体感③]を読む(1h) 復習：配付資料[「子どもたちの 100 の言葉」からの遊び体感③]再読(1h)
8	「作って遊ぶ意義」 （石井）	予習： テキスト pp62～86[子どもの成長・発達に合わせて楽しめる手づくりおもちゃ集]を読む(1h) 復習：テキスト pp62～86[子どもの成長・発達に合わせて楽しめる手づくりおもちゃ集]再読(1h)
9	廃材遊び体験：素材そのものを生かして（石井）	予習： テキスト pp14～32[手づくりおもちゃのワークショップ]を読む(1h) 復習：テキスト pp14～32[手づくりおもちゃのワークショップ]再読(1h)
10	廃材遊び体験：変化を楽しむ（石井）	予習：テキスト pp48～60[おもちゃであそびを発展させよう]を読む(1h) 復習：テキスト pp48～60[おもちゃであそびを発展させよう]再読(1h)
11	地域の親子を対象とした遊び実践のための計画立案（大曽・藤田・石井）	予習：地域の親子を対象とした遊びの考案(1h) 復習：地域の親子を対象とした遊びの準備グループ活動(1h)
12	地域の親子を対象とした遊び実践のための教材研究（大曽・藤田・石井）	予習：地域の親子を対象とした遊びの準備グループ活動(1h) 復習：地域の親子を対象とした遊びの準備グループ活動(1h)
13	地域の親子を対象とした遊びの実践：遊具を用いた遊び（大曽・藤田・石井）	予習：活動調査票・記録入力グループワーク(1h) 復習：活動進捗共有グループワーク(1h)
14	地域の親子を対象とした遊びの実践：ワークショップ（大曽・藤田・石井）	予習：活動進捗共有グループワーク(1h) 復習：活動報告まとめグループワーク（1h)
15	遊び実践の振り返り（大曽）	予習：活動報告まとめグループワーク(1h) 復習：他グループの活動考察個人ワーク(1h)

テキスト	おもちゃインストラクター入門（１年次に購入済み）
指定図書	なし

科　目　名	ＩＣＴ教育演習	担当者	大曽基宣、野内友規、周業欣
区　分　等	２年次・後期［演習］１単位　選択／生活こども専攻		
評価基準	到達目標１：レポートの内容に基づき評価する。(30%) 到達目標２：授業における取組状況および提出物の内容に基づき評価する。(50%) 到達目標３：シャトルカードの内容に基づき評価する。(20%)		
課題に対するフィードバック	提出物ついては、随時コメントをつけて返却する。		
目　的	保育における ICT の活用に関わる知識と技術を習得し、自らの保育に生かすことができるようになることを目的とする。		
到達目標	１．保育における ICT の活用方法について説明できる。(DP1) ２．ICT を活用した保育を構想し、それを実践することができる。(DP2) ３．主体的に自身の考えを述べ、他者の意見を取り入れながら、協働して取り組むことができる。(DP3)		
履修上の注意	グループ活動を行う際は、協力して進めること。		
オフィスアワー	金曜日　１６時２０分～１６時５０分		

授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	保育における ICT 活用の可能性（事例紹介）(大曽)	予習：保育におけるＩＣＴの活用状況調査(1h) 復習：授業目標に照らして、配付資料[保育における ICT 活用の可能性]再読(1h)
2	タブレットを活用した保育：人間関係（大曽）	予習：タブレットを活用した保育実践（人間関係）考案(1h) 復習：授業目標に照らして、配付資料[タブレットを活用した保育：人間関係]を再読する(1h)
3	タブレットを活用した保育：環境（大曽）	予習：タブレットを活用した保育実践（環境）考案(1h) 復習：授業目標に照らして、配付資料[タブレットを活用した保育：環境]を再読する(1h)
4	Web 会議システムを用いたオンライン保育交流：計画（大曽）	予習：オンライン保育における遊び考案個人ワーク(1h) 復習：オンライン保育における遊び考案班ワーク(1h)
5	Web 会議システムを用いたオンライン保育交流：教材研究（大曽）	予習：オンライン保育における遊びの準備：班ワーク(1h) 復習：オンライン保育における遊びの準備：班ワーク(1h)
6	Web 会議システムを用いたオンライン保育交流(インド or ネパール)：実践・評価（大曽）	予習：オンライン保育における遊びの準備：班ワーク(1h) 復習：オンライン保育の省察レポート：個人ワーク(1h)
7	動画撮影の基礎：カメラの仕組み、映像技術の仕組みを理解する。コマ撮りの技法紹介、練習を行う（周）	予習：事前配付資料[動画撮影の基礎]を読む(1h) 復習：授業目標に照らして、配付資料[動画撮影の基礎]を再読する(1h)
8	動画編集の基礎：映像制作の流れを説明し、前回撮影したデータを編集する（周）	予習：事前配付資料[映像編集の基礎]を読む(1h) 復習：授業目標に照らして、配付資料[映像編集の基礎]を再読する(1h)
9	編集動画の共有方法：PC と移動端末のアプリケーションの説明、カット編集、書き出しを行う。(周)	予習：事前配付資料[編集動画の共有方法]を読む(1h) 復習：授業目標に照らして、配付資料[編集動画の共有方法]を再読する(1h)
10	保育における AR の活用：AR の概要（野内）	予習：ＡＲとは何かを調べる(1h) 復習：授業目標に照らして、配付資料[ＡＲの概要]を再読する(1h)
11	保育における AR の活用：AR 作成（野内）	予習：ＡＲの作成に用いるアプリケーションについて調べる(1h) 復習：授業目標に照らして、配付資料[ＡＲ作成]を再読する(1h)
12	保育における AR の活用：AR 体験（野内）	予習：ＡＲを活用した体験について調べる（1h) 復習：授業目標に照らして、配付資料[ＡＲ体験]を再読する(1h)
13	保育現場で用いられる ICT システム（大曽）	予習：保育・教育におけるＩＣＴシステムを開発している企業について調べる（1h) 復習：授業目標に照らして、配付資料[保育現場で用いられる ICT システム]を再読する(1h)
14	保育現場における ICT 活用の実際(大曽)	予習：保育現場におけるＩＣＴの活用事例を調べる（1h) 復習：授業目標に照らして、配付資料[保育現場における ICT 活用の実際]を再読する(1h)
15	保育における ICT 活用方法の考案(大曽)	予習：保育におけるＩＣＴ活用方法を発表資料としてまとめる（1h) 復習：授業目標に照らして、配付資料[保育における ICT 活用方法の考案]を再読する(1h)

テキスト	なし
指定図書	なし

科　目　名	**海外保育実習**	担当者	大曽基宣
区　分　等	２年次・前期［実習］２単位　選択／生活こども専攻		
評価基準	到達目標１：報告書の内容に基づき評価する。(30%) 到達目標２：報告書の内容に基づき評価する。(50%) 到達目標３：海外保育実習への取組状況に基づき評価する。(20%)		
課題に対するフィードバック	提出物ついては、随時コメントをつけて返却する。		
目的	海外保育実習の事前・事後活動および現地での実習を通して、訪問する国の保育・教育の制度や保育者の保育観について学び、自らの保育観を養うことを目的とする。		
到達目標	１．訪問する国の保育・教育の制度や実習で関わった保育者の保育観について説明できる。(DP1) ２．海外保育実習で学んだ多様な保育観を自らの保育構想に生かすことができる。(DP2) ３．多様な文化や価値観を受け入れながら、協働して取り組むことができる。(DP3)		
履修上の注意	・必要最低限の英語の知識を身につけてもらう必要がありますので、積極的に英語学習をすることをお勧めします。 ・海外保育実習参加費には、航空券代金、現地滞在費が含まれます。パスポート申請費用、海外旅行傷害保険料金、その他現地活動費等は含まれませんのでご注意ください。 ※実施時期については確定し次第お知らせします（夏季休暇中を予定しています)。ただし、社会情勢等により、実施時期や内容の変更、やむを得ない中止の場合があります。		
オフィスアワー	金曜日　１６時２０分～１６時５０分		

授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	海外保育実習の概要説明	予習：シンガポールについて調べる 復習：海外保育実習概要説明資料の再読
2	海外保育実習の参加に関する確認	予習：海外保育実習への参加検討 復習：海外保育実習にへの参加に関する保護者への説明
3	海外保育実習の日時・内容などの確認	復習：海外保育実習の日時・内容の資料再読
4	シンガポールの地理的特徴・政治的特徴について	復習：シンガポールの地理的特徴・政治的特徴資料再読
5	シンガポールの教育制度の特徴	復習：シンガポールの教育制度の特徴資料再読
6	昨年度の海外保育実習の概要説明	復習：昨年度の海外保育実習の概要説明資料再読
7	海外保育実習１日目スケジュール協議	復習：海外保育実習１日目スケジュール確認
8	海外保育実習２日目スケジュール協議	復習：海外保育実習２日目スケジュール確認
9	海外保育実習３日目スケジュール協議	復習：海外保育実習３日目スケジュール確認
10	海外保育実習４日目スケジュール協議	復習：海外保育実習４日目スケジュール確認
11	海外保育実習５日目スケジュール協議	復習：海外保育実習５日目スケジュール確認
12	パスポート申請・入国審査等についての説明	復習：パスポート申請
13	現地での自己紹介絵本準備	復習：自己紹介絵本作成
14	現地での自己紹介絵本準備	復習：自己紹介絵本作成
15	現地での責任実習準備	復習：責任実習の準備（物品・指導案・原稿など）
16	現地での責任実習準備	復習：責任実習の準備（物品・指導案・原稿など）
17	１週間の海外保育実習参加（シンガポール）	復習：日々活動日誌をつける
18	現地での活動の振り返り	復習：自他の活動のまとめ
19	現地での活動の振り返り	復習：自他の活動のまとめ
20	現地での活動の振り返りのまとめ	復習：発表資料作成
21	現地での活動の振り返りのまとめ	復習：発表資料作成
22	現地での活動の振り返りのまとめ	復習：発表資料作成
23	現地での活動の振り返りの発表	復習：発表後の省察
24	秋田県内における子どもと関わる多文化イベントなどのボランティア活動参加	復習：ボランティア活動の検索・申込・実施・省察

テキスト	なし
指定図書	なし

科　目　名	インクルーシブ保育	担当者	野内友規
区　分　等	２年次・前期［演習］１単位　選択／生活こども専攻		
評価基準	到達目標１・２：試験またはレポートおよびシャトルカードにより評価する。(50%) 到達目標３：授業中の取り組み姿勢により評価する。(50%)		
課題に対するフィードバック	試験・レポートおよびシャトルカードは、添削後に返却する。		
目　　的	インクルーシブ保育・教育の基盤となるインクルーシブマインドの獲得及びその基盤となる自己理解力の向上を目的とする。		
到達目標	１．インクルーシブマインドに関わる基本的知識を身につける。(DP1) ２．インクルーシブマインドの核となる自己理解を進め、他者を受け入れる肯定的な思考と感情を身に付ける。(DP2,DP3) ３．インクルーシブ保育・教育の具体的な保育・教育方法を作り出すことのできる考え方を身に付ける。(DP2)		
履修上の注意	１．授業中に意見交換をする機会を多数設ける。他者の意見を肯定的に受け入れ、自身の考えを広げる姿勢で授業に臨むこと。 ２．グループワークでの最低限のコミュニケーション能力が備わっていること。 ３．本授業は自己理解が核となるため、前提として「自己」に向き合う姿勢をもっていること。 ４．コミュニケーション等において合理的配慮が必要な場合は、第１回目に担当教員へ必ず相談をすること。		
オフィスアワー	月曜日 7・8 限		

授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	人間における学習　―顕在学習と潜在学習―	第１回の学習内容(人間における学習　―顕在学習と潜在学習―)の振り返り（２時間）
2	人間における感情と思考の獲得	第２回の学習内容(人間における感情と思考の獲得)の振り返り、第３回で学習予定の配付資料内容(人間におけるストレスの影響)の確認（２時間）
3	人間におけるストレスの影響	第３回の学習内容(人間におけるストレスの影響)の振り返り、第４回で学習予定の配付資料内容(インクルーシブ保育・教育とは)の確認（２時間）
4	インクルーシブ保育・教育とは	第４回の学習内容(インクルーシブ保育・教育とは)の振り返り、第５回で学習予定の配付資料内容(インクルーシブマインドとは)の確認（２時間）
5	インクルーシブマインドとは	第５回の学習内容(インクルーシブマインドとは)の振り返り、第６回で学習予定の配付資料内容(インクルーシブマインドを支える認知機能)の確認（２時間）
6	インクルーシブマインドを支える認知機能	第６回の学習内容(インクルーシブマインドを支える認知機能)の振り返り、第７回で学習予定の配付資料内容(インクルーシブマインドの生理心理学的解釈)の確認（２時間）
7	インクルーシブマインドの生理心理学的解釈	第７回の学習内容(インクルーシブマインドの生理心理学的解釈)の振り返り、第８回で学習予定の配付資料内容(インクルーシブマインドを獲得するために―認知神経心理学的視点から―)の確認（２時間）
8	インクルーシブマインドを獲得するために―認知神経心理学的視点から―	第８回の学習内容(インクルーシブマインドを獲得するために―認知神経心理学的視点から―)の振り返り、第９回で学習予定の配付資料内容(インクルーシブマインドの核「人間理解」―自己理解と他者理解―)の確認（２時間）
9	インクルーシブマインドの核「人間理解」―自己理解と他者理解―	第９回の学習内容(インクルーシブマインドの核「人間理解」―自己理解と他者理解―)の振り返り、第１０回で学習予定の配付資料内容(「人間理解」を阻害するトラウマティックメモリー)の確認（２時間）
10	「人間理解」を阻害するトラウマティックメモリー	第１０回の学習内容(「人間理解」を阻害するトラウマティックメモリー)の振り返り、第１１回で学習予定の配付資料内容の確認（２時間）
11	「人間理解」を支える認知機能「注意」	第１１回の学習内容(「人間理解」を支える認知機能「注意」)の振り返り、第１２回(インクルーシブ保育・教育―障がいの問題を中心に―)で学習予定の配付資料内容の確認（２時間）
12	インクルーシブ保育・教育―障がいの問題を中心に―	第１２回の学習内容(インクルーシブ保育・教育―障がいの問題を中心に―)の振り返り、第１３回で学習予定の配付資料内容の確認（２時間）
13	インクルーシブ保育・教育―多様な子どもたちへの保育・教育実践―	第１３回の学習内容(インクルーシブ保育・教育―多様な子どもたちへの保育・教育実践―)の振り返り、 第１４回で学習予定の配付資料内容(インクルーシブマインドが育つ保育・教育方法―意味・感情・意図の共有―)の確認（２時間）
14	インクルーシブマインドが育つ保育・教育方法―意味・感情・意図の共有―	第１４回の学習内容(インクルーシブマインドが育つ保育・教育方法―意味・感情・意図の共有―)の振り返り、第１５回で学習予定の配付資料内容(インクルーシブ社会をつくるために―環境と自己―)の確認（２時間）
15	インクルーシブ社会をつくるために―環境と自己―	第１５回の学習内容(インクルーシブ社会をつくるために―環境と自己―)の振り返り（２時間）

テキスト	野内友規・綿引清勝編著『気になる子のインクルーシブ教育・保育』(中央法規出版)
指定図書	適宜推薦図書を紹介します。

科目名	SDGs 実践演習	担当者	寺谷直輝
区分等	２年次・前期 ［演習］１単位　選択／生活こども専攻		
評価基準	到達目標①：プレゼンテーションの準備状況や研究報告内容［５０％］ 到達目標②：授業への参画状況（議論・調査・研究活動への貢献度等）［５０％］		
課題に対するフィードバック	個別に指導または全体に情報共有する形でアドバイスします。 ゼミメンバーで協働しながら、SDGs コースのゼミに参画してください。		
目的	「保育カリキュラム」に関心があることを前提に、共同研究活動を通じて、未来の社会を創っていく子どもたちが SDGs に関する興味や関心を深めるための保育内容や方法を構想・開発できる能力を高めることを目的とします。今年度は「SDGs への理解を深めることを意図した保育カリキュラムの構想・開発」をテーマに、ゼミメンバーで主体的にゼミ活動を行います。		
到達目標	①目的意識を持って授業に主体的に参加し、SDGs や保育カリキュラムに関わる諸学問領域の基礎的知識を理解した上で、SDGs に関する興味や関心を深めることをねらいとした保育カリキュラムを構想することができる。(DP1,DP2,DP3) ②ゼミメンバーと協力しながら、授業に主体的に参画することができる。(DP3)		
履修上の注意	①１年次後期の【教育原理】の授業内で説明したとおり、SDGs コースを選択した学生を履修対象者とします（本学のコース制の主旨に鑑みて、他コースに所属している学生の受講はご遠慮ください）。また、SDGs コースに所属している学生については、本科目の準備学習や実習準備・就職活動等と両立できる場合に限り、他のコースに関わる科目も履修することは差し支えありません。 ③補講については夏休み期間や定期試験期間に実施する可能性があります。 ④聖霊女子短期大学認定の「SDGs 保育サポーター」の資格取得には、本科目と後期に開講されている【グローバル教養】を修得する必要があります。 ※「SDGs 保育サポーター」とは、未来の社会を創っていく子どもたちが、SDGs に関する興味や関心を深めていこうとすることをサポートする人のことです。幼児教育及び保育の特性を理解し、園や地域で SDGs に関する興味や関心を深めるための保育内容や方法を考え、実施していくための専門的な知識を持つ学生に、この SDGs 保育サポーターの資格を認定しています。「誰一人取り残されない」社会を子どもたちと一緒に創るために、SDGs に関わる基礎知識と保育実践の専門性を複合的に活用することができる資格です。		
オフィスアワー	火曜日昼休み（ゼミ開始前も可です）		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	授業全体のガイダンス ①授業の目的の共有・授業計画の確認 ②ゼミの運営方法・連絡手段(Google Chat 等)の確認 ③実践記録の入手方法（図書館の利用）	予習：カリキュラムの基礎理論（カリキュラム概念の階層など）について、１年次後期の【教育原理】の授業資料を読み、復習する。（１時間）
2	部分実習指導案の様式と作成のポイント 指導案例の逐語検討（保育所・幼稚園）	予習：授業で取り上げる「日の指導計画」を各自で分析して、授業でディスカッションできるようにする（１時間）
3	責任実習指導案の様式と作成のポイント 指導案例の逐語検討（認定こども園）	予習：授業で取り上げる「日の指導計画」を各自で分析して、授業でディスカッションできるようにする（１時間）
4	SDGs と幼児教育・保育に関わる諸学問領域の概観とテーマ設定	予習：授業で取り上げる実践記録を各自で分析して、授業でディスカッションできるようにする（１時間）
5	SDGs に関わる保育実践記録の報告・議論(1)	予習：授業で取り上げる実践記録を各自で分析して、授業でディスカッションできるようにする（１時間）
6	SDGs に関わる保育実践記録の報告・議論(2)	予習：授業で取り上げる実践記録を各自で分析して、授業でディスカッションできるようにする（１時間）
7	SDGs に関する興味や関心を深める保育内容に関する議論	予習：授業で取り上げる実践記録を各自で分析して、授業でディスカッションできるようにする（１時間）
8	SDGs に関する興味や関心を深める活動・遊びに関する議論	予習：授業で取り上げる実践記録を各自で分析して、授業でディスカッションできるようにする（１時間）
9	SDGs に関する興味や関心を深める保育方法に関する議論	予習：授業で取り上げる実践記録を各自で分析して、授業でディスカッションできるようにする（１時間）
10	SDGs に関する興味や関心を深める保育教材に関する議論	予習：授業で取り上げる実践記録を各自で分析して、授業でディスカッションできるようにする（１時間）
11	メンバーが作成した部分実習指導案の検討会	予習：授業内で部分実習指導案を報告できるように、事前に作成・ゼミメンバー＋担当教員分を印刷する。（１時間）
12	SDGs に関わる保育実践記録の報告・議論(3)	予習：授業で取り上げる実践記録を各自で分析して、授業でディスカッションできるようにする（１時間）
13	SDGs に関わる保育実践記録の報告・議論(4)	予習：授業で取り上げる実践記録を各自で分析して、授業でディスカッションできるようにする（１時間）
14	メンバーが作成した責任実習指導案の検討会	予習：授業内で責任実習指導案を報告できるように、事前に作成・ゼミメンバー＋担当教員分を印刷する。（１時間）
15	まとめ：半期の授業で学んだ内容の振り返り	予習：授業で話題になった論文や指定図書を読むこと。（１時間）

テキスト	初回の授業で案内します（新たに購入するテキストはありません）。 また、分析・検討する実践記録は、授業の中でゼミメンバーを中心に決めていただきます。
指定図書	あり（巻末参照）。初回の授業で本科目の指定図書一覧を案内します。

※実務経験のある教員による授業科目の担当教員の実務経験および、教育内容

実務経験：障害者総合支援法による障害福祉サービス事業や地域生活支援事業を活用して運営されているフリースクールで、主に発達障害や知的障害のある特別支援学校高等部段階に相当する生徒や大学生に相当する青年に対する学習支援や学習支援の在り方に関わる研究と実践に携わりました。また、文部科学省による「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究」で、NPO 法人や社会福祉法人が行政と連携協働しながら障害者の生涯学習プログラムを構想・開発する事業にも携わりました。なお、保育実習指導者認定証を取得しています。

教育内容：担当者が関わってきた経験を活かして、学生の教育的ニーズや理解度を丁寧に汲み取りつつ、学生自身が SDGs に関わる保育カリキュラムを創る経験を通じて、保育カリキュラムの構想・開発に対するやりがいや意義を発見したり、その経験を卒業後の保育現場を中心とした様々なフィールドに活かしたりできるように指導します。

科目名	英語A	担当者	近藤清兄
区分等	1年次・前期［演習］2単位　必修／健康栄養専攻		
評価基準	(1)定期試験(70%) (2)授業態度(30%)		
課題に対するフィードバック	課題はコメントを付けた上で返却する。随時助言・提案を行う。		
目的	漫画 *Peanuts* を題材にして基礎的な表現や文法を学び、(1)「辞書があればまあまあ読める」程度の読解力・文法力(2)食品・健康・医療の英語を理解するための基礎力の再構築、を目指す。英語圏の文化的背景についても解説します。		
到達目標	常用表現 30、常用語 80 を習得し、実際に運用できるようになる。(DP1)		
履修上の注意	時に単調で退屈に思えるかもしれませんが、基礎は大切です。がんばって学習しましょう。英和辞書は必ず持参すること。		
オフィスアワー	火曜日 9 時～10 時 35 分、金曜日 14 時 45 分～16 時 15 分		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション	(1)[予習]漫画 3 本を読んでみた上で VOCABULARY の見当をつけましょう。 (2)[予習]GRAMMAR(文法)をざっと読み、EXERCISE をみておきましょう。 (3)[予習]余力があれば並べ替え作文をやっておきましょう。 (4)[復習]VOCABULARY は重要なのでよく定着させること。 (5)[復習]並べ替え作文の構成をよく見直しておくこと。 (6)学生用共有ドライブに音声ファイルがあるので利用してください。
2	UNIT 1/【品詞と句・節】	上記以外に指定図書、教室で指示する文献等を読む。
3	UNIT 2/【文と 5 文型】	
4	UNIT 3/【自動詞と他動詞】	
5	UNIT 4/【句動詞】	
6	UNIT 5/【基本時制】	
7	UNIT 6/【進行形】	
8	UNIT 7/【完了形】	
9	UNIT 8/【名詞】	
10	UNIT 9/【冠詞】	
11	UNIT 10/【代名詞】	
12	応用（UNIT 1～3　の復習）	
13	応用（UNIT 4～6　の復習）	
14	応用（UNIT 7～8　の復習）	
15	応用（UNIT 9～10　の復習）	

テキスト	Hidehiko Konaka, “ *Fun English with Snoopy* ”(CENGAGE Learning)
指定図書	あり（巻末参照）

科目名	英語B	担当者	近藤清兄
区分等	1年次・後期［演習］2単位　必修／健康栄養専攻		
評価基準	(1)定期試験(70%) (2)授業態度(30%)		
課題に対するフィードバック	課題はコメントを付けた上で返却する。随時助言・提案を行う。		
目的	(1)「辞書があればまあまあ読める」程度の読解力・文法力。 (2)食品・健康・医療の英語を理解するための基礎力の再構築。		
到達目標	常用表現 30、常用語 80(英語 A からの合計で常用表現 60、常用語 160)を習得し、実際に運用できるようになる。(DP1)		
履修上の注意	時に単調で退屈に思えるかもしれませんが、基礎は大切です。がんばって学習しましょう。英和辞書は必ず持参すること。		
オフィスアワー	火曜日 9 時～10 時 35 分、金曜日 14 時 45 分～16 時 15 分		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	UNIT 11/【助動詞】	(1)[予習]漫画 3 本を読んでみた上で VOCABULARY の見当をつけましょう。 (2)[予習]GRAMMAR(文法)をざっと読み、EXERCISE をみておきましょう。 (3)[予習]余力があれば並べ替え作文をやっておきましょう。 (4)[復習]VOCABULARY は重要なのでよく定着させること。 (5)[復習]並べ替え作文の構成をよく見直しておくこと。 (6)学生用共有ドライブに音声ファイルがあるので利用してください。
2	UNIT 12/【受動態】	上記以外に指定図書、教室で指示する文献等を読む。
3	UNIT 13/【不定詞】	
4	UNIT 14/【動名詞】	
5	UNIT 15/【分詞】	
6	UNIT 16/【形容詞・副詞】	
7	UNIT 17/【比較】	
8	UNIT 18/【否定】	
9	UNIT 19/【間接疑問・関係詞】	
10	UNIT 20/【接続詞】	
11	復習(Unit 11- Unit 12)	
12	復習(Unit 13- Unit 14)	
13	復習(Unit 15- Unit 16)	
14	復習(Unit 17- Unit 18)	
15	復習(Unit 19- Unit 20)	

テキスト	Hidehiko Konaka, “ *Fun English with Snoopy* ”(CENGAGE Learning)
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	**解剖生理学Ⅰ**	担当者	齋藤　謙
区　分　等	１年次・前期［講義］２単位　必修／健康栄養専攻		
評 価 基 準	試験（80%）、授業への取り組み・態度（20%）により評価する。		
課題に対するフィードバック	科目についての質問を随時受け付ける。学力が不足する学生に対しては、試験の間違い箇所の復習と訂正を指示する。復習後、個別に面談して訂正箇所を確認し、必要があれば補足の説明をする。		
目　　的	生命、健康維持についての理解を深めるために、人体の構造と機能を学ぶ。		
到 達 目 標	人体を構成する細胞、組織、器官を系統的に学習し、それらの働きについても理解できる。(DP1、DP2)		
履修上の注意	特になし		
オフィスアワー	水曜日 13 時～14 時		

	授業計画	授業外学習
1	学習の動機付け（栄養士・管理栄養士の役割）：ＤＶＤ「食べて治す」視聴。	感想文提出(1 時間)
2	細胞の構造と機能。	解剖 5-7，生理 13(図 2-2)，プリント(細胞膜:リン脂質二重膜構造)（1 時間）
3	生体の恒常性。体液の区分と組成	生理 5，156(図 9-4)，12-13(1 時間)
4	細胞膜の性質と働き。	プリント(半透膜、浸透圧、能動輸送・受動輸送)（1 時間）
5	毛細血管領域での体液の交流(スターリングの仮説)。血液の成分と血液量。	生理 12-3，病理 59-60，プリント(血圧勾配)。 生理 13-5，臨栄 93(図 5-16)，プリント(血漿タンパク質の分子量)(1 時間)．
6	上皮組織。	解剖 8-9，病理 16(図 2-2C)(1 時間)
7	中間のまとめ。結合組織、軟骨組織。	解剖 10-12(1 時間)
8	骨組織。血液細胞とその機能。	解剖 34-36，12-3，生理 15-20(1 時間)
9	血液細胞とその機能(続き)。筋組織。	生理 15-20．解剖 14-16(1 時間)
10	神経組織。	解剖 17-21，解剖 279-82(1 時間)
11	神経細胞の静止膜電位と活動電位。 神経細胞の興奮の伝導	生理 204 -11(1 時間)
12	消化管の構造。 機械的消化と化学的消化。	解剖 171，212，214，171-4，臨栄 15-7(1 時間)
13	唾液腺組織、咽頭、食道。 胃。	解剖 182-88，生理 85(嚥下:図 5-6)． 解剖 212，188-91(1 時間)
14	胃(続き)。	生理 80(下 5 行)，86-7(胃の運動),解剖 192(胃壁の顕微鏡的構造)，臨栄 23-5,34(表 3-5：消化酵素)(1 時間)
15	小腸。	解剖 192-8，生理 80-1(図 5-3：小腸の運動)， 臨栄 33-6(管腔内消化と膜消化、他)(1 時間)

テキスト	藤田恒夫著『入門人体解剖学』(南江堂) 彼末一之、能勢　博編『やさしい生理学』(南江堂) 高橋　徹著『よくわかる病理学』(金原出版) 後藤昌義、瀧下修一著『新しい臨床栄養学』(南江堂)
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	**解剖生理学Ⅱ**	担当者	齋藤　謙
区　分　等	1年次・後期［講義］2単位　必修／健康栄養専攻		
評価基準	定期試験（80%）、授業への取り組み・態度（20%）により評価する。		
課題に対するフィードバック	科目についての質問を随時受け付ける。学力が不足する学生に対しては、試験の間違い箇所の復習と訂正を指示する。復習後、個別に面談して訂正箇所を確認し、必要があれば補足の説明をする。		
目　　的	人体の構造と機能を学ぶ。		
到達目標	「解剖生理学Ⅰ」に続き人体の諸器官について学習し、それらの構造と機能を理解する。 (DP1、DP2)		
履修上の注意	特になし		
オフィスアワー	水曜日 13 時～14 時		

	授業計画	授業外学習
1	ＤＶＤ「眠りの科学」視聴。	感想文提出(1 時間)
2	大腸。 循環(血管)。	解剖 199-201，臨栄 36-7. 解剖 121-5，139，141，生理 40-2，47(1 時間)
3	循環(心臓)。	解剖 125-36(1 時間)
4	呼吸。	解剖 217-37，生理 56-65(1 時間)
5	泌尿器系の構成。	解剖 235-43(1 時間)
6	尿の生成。	臨養 147-51，生理 102-3(1 時間)
7	血漿浄化値、腎臓による体液の調節。	臨栄 150-2, 180-1(1 時間)
8	中間のまとめ。内分泌系(下垂体前葉)。	解剖 265-9(1 時間)
9	内分泌系(下垂体後葉、甲状腺、副甲状腺)。	解剖 269-70，271-3, プリント(サイロキシンの合成)、 生理 166-7，解剖 273，臨栄 193(1 時間).
10	内分泌系(副腎皮質・髄質)	解剖 274-6, 生理 163-4(1 時間)
11	内分泌系(レニン・アンジオテンシン・ アルドステロン系)。	臨栄 127，解剖 238-9，臨栄 149，解剖 274-50, 臨栄 181.
12	内分泌系(松果体、膵島)。	解剖 270-1，276-7，生理 164-6(1 時間)
13	卵巣、卵管、子宮。	解剖 252-8，生理 173-8(1 時間)
14	神経系の構成、自律神経。	解剖 279，334-40，生理 224，227(1 時間)
15	免疫。	解剖 167-9，臨栄 241-4, プリント(免疫学への招待)(1 時間)

テキスト	藤田恒夫著『入門人体解剖学』(南江堂) 彼末一之、能勢　博編『やさしい生理学』(南江堂) 高橋　徹著『よくわかる病理学』(金原出版) 後藤昌義、瀧下修一著『新しい臨床栄養学』(南江堂)
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	**生化学**	担当者	浅野純平
区　分　等	１年次・後期［講義］２単位　必修／健康栄養専攻		
評価基準	中間まとめの試験、定期試験で評価する(中間まとめの試験 50%、定期試験 50%)。		
課題に対するフィードバック	授業の中で中間まとめの試験に関する解説を行う。		
目　　的	生体物質の構造とエネルギー代謝、生体の恒常性維持機構を理解する。		
到達目標	生体を構成する物質、栄養素の代謝を理解できる。(DP1,DP2,DP3)		
履修上の注意	1.限られた時間では要点のみを扱うに留まるので、自主自学が基本である。 2.解剖生理学、栄養学、臨床栄養学と共通する内容が多いので、これらと関連付けて学習すること。 3.栄養学総論で使用した教科書「栄養科学イラストレイテッド『基礎栄養学』(羊土社)」を持参すること。 4.生化学は一朝一夕に理解できるものではない。時間をかけて学習する必要がある。 5.必要に応じてオフィスアワーの時間帯に補習を実施する。		
オフィスアワー	月曜日～金曜日 16:30 以降		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	序論 (細胞の構造と機能、有機化学の一般原理)	日頃から教科書･配付テキストを読み自学すること(2 時間)
2	糖質 (単糖類、少糖類、多糖類)	〃
3	脂質 (脂肪酸､単純脂質､複合脂質､複合脂質､誘導脂質)	〃
4	アミノ酸とタンパク質 (アミノ酸の構造と分類、タンパク質の構造形成) 第 1 回小テストの実施(中間まとめ)	〃
5	第 1 回小テストの解説 核酸(DNA、RNA、転写、RNA プロセッシング、翻訳)	〃
6	酵素 (酵素の働きによる分類、酵素の性質、補因子) 第 2 回小テストの実施(中間まとめ)	〃
7	第 2 回小テストの解説 ビタミンとミネラル (ビタミンの定義と種類、ミネラルの定義と分類)	〃
8	生体のエネルギー源と代謝 (エネルギーの種類、ATP の役割、電子伝達系)	〃
9	糖質代謝-(1) (解糖系、クエン酸回路) 第 3 回小テストの実施(中間まとめ)	〃
10	第 3 回小テストの解説 糖質代謝-(2) (酸化的リン酸化、グリコーゲンの分解･合成、糖新生)	〃
11	糖質代謝-(3) (ペントースリン酸経路、グルクロン酸経路、血糖値の調整) 第 4 回小テストの実施(中間まとめ)	〃
12	第 4 回小テストの解説 脂質代謝-(1) (脂肪酸、トリグリセリドの代謝)	〃
13	脂質代謝-(2) (ケトン体、胆汁酸、コレステロールの代謝) 第 5 回小テストの実施(中間まとめ)	〃
14	第 5 回小テストの解説 アミノ酸代謝 (アミノ酸のタンパク質の分解､アミノ基転移反応、尿素回路､炭素骨格の代謝､アミノ酸の生合成)	〃
15	核酸代謝　(プリン及びピリミジンの分解･合成)	〃

テキスト	健康・栄養科学シリーズ　『生化学』-人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（南江堂）
指定図書	あり（巻末参照）

科目名	食品学総論	担当者	熊谷昌則
区分等	1年次・前期［講義］2単位　必修／健康栄養専攻		
評価基準	小テスト(50%)、定期試験(50%)で評価。		
課題に対するフィードバック	小テストの結果にコメントをつけて返却する。		
目的	栄養士に求められる業務内容において必要不可欠な、食品についての幅広く、深く、かつ確かな基礎知識を身に付けさせ、食品そのものを理解させることを目的とする。		
到達目標	1.食品の成分について科学的に理解し、その特徴を正しく説明できる。(DP1) 2.食品の成分が調理や加工、保存によってどのように変化するのか理解し、その特徴を正しく説明できる。(DP1) 3.食品学の知識を、栄養学などの他の分野の学問とも関連付けて、健康の維持・増進のため役立てることができる。(DP2,DP3)		
履修上の注意	1.予習と復習をしっかりと行うこと。 2.毎回、前週の内容について、理解度確認のための小テストを実施する。 3.食生活論、食品学各論、食品衛生学などの関連科目とのつながりを意識して学習すること。		
オフィスアワー	12:30-13:00、16:30-17:00		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション 食品とその働き、食品の分類	テキスト　1～17頁の予習（2時間）
2	食品成分表 食品の一般成分　水分	小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 18～34頁の予習（2時間）
3	食品の一般成分　炭水化物	小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 34～39頁の予習（2時間）
4	食品の一般成分　炭水化物の変化、栄養	小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 40～47頁の予習（2時間）
5	食品の一般成分　脂質	小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 48～54頁の予習（2時間）
6	食品の一般成分　脂質の変化、栄養	小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 54～62頁の予習（2時間）
7	食品の一般成分　たんぱく質	小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 63～70頁の予習（2時間）
8	食品の一般成分　たんぱく質の変化、栄養	小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 70～77頁の予習（2時間）
9	食品の一般成分　ビタミン	小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 78～88頁の予習（2時間）
10	食品の一般成分　ミネラル	小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 89～96頁の予習（2時間）
11	食品の嗜好成分　色	小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 98～108頁の予習（2時間）
12	食品の嗜好成分　香り	小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 108～115頁の予習（2時間）
13	食品の嗜好成分　味	小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 115～125頁の予習（2時間）
14	食品の機能性成分	小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 126～129の予習（2時間）
15	食品の物性、官能検査	小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 131～158頁の予習と復習（2時間）

テキスト	『イラスト食品学総論第10版』（東京教学社） 『日本食品成分表2025（八訂）（医歯薬出版）
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	**食品学各論**	担当者	熊谷昌則
区　分　等	1年次・後期［講義］2単位　必修／健康栄養専攻		
評価基準	小テスト(50%)、定期試験(50%)で評価。		
課題に対するフィードバック	小テストの結果にコメントをつけて返却する。		
目　　的	栄養士に求められる業務内容において必要不可欠な、食品についての幅広く、深く、かつ確かな基礎知識を身に付けさせ、食品そのものを理解させることを目的とする。		
到達目標	1.個々の食品そのものを科学的に理解し、その特徴を正しく説明できる。(DP1) 2.食品を利用する立場からその食品がもつ性状や機能を把握し、正しく説明できる。(DP2) 3.食品学の知識を、栄養学などの他の分野の学問とも関連付けて、健康の維持・増進のため役立てることができる。(DP2,DP3)		
履修上の注意	1.予習と復習をしっかりと行うこと。 2.毎回、前週の内容について、理解度確認のための小テストを実施する。 3.食品学総論、食生活論、食品衛生学などの関連科目とのつながりを意識して学習すること。		
オフィスアワー	12:30-13:00、16:30-17:00		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	人と食べ物 植物性食品　穀類（米）	小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 1～19頁の予習（2時間）
2	植物性食品　穀類（小麦、他）	小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 19～28頁の予習（2時間）
3	植物性食品　いも類及、豆類、種実類	小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 29～44頁の予習（2時間）
4	植物性食品　野菜類、果実類	小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 45～63頁の予習（2時間）
5	植物性食品　きのこ類、藻類	小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 63～69頁の予習（2時間）
6	動物性食品　肉類	小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 74～91頁の予習（2時間）
7	動物性食品　魚介類	小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 92～111頁の予習（2時間）
8	動物性食品　乳類	小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 112～123頁の予習（2時間）
9	動物性食品　卵類	小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 124～133頁の予習（2時間）
10	油脂類	小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 136～150頁の予習（2時間）
11	甘味料	小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 34～36頁の予習（2時間）
12	調味料、香辛料、嗜好飲料	小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 150～167頁の予習（2時間）
13	食品の生産、加工	小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 170～182頁の予習（2時間）
14	微生物利用食品	小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 182～195頁の予習（2時間）
15	食品流通・保存と栄養	小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 196～209頁の予習と復習（2時間）

テキスト	『イラスト食品学各論第2版』(東京教学社) 『日本食品成分表2025（八訂）(医歯薬出版)
指定図書	あり（巻末参照）

科目名	食品衛生学	担当者	熊谷昌則
区分等	1年次・前期［講義］2単位　必修／健康栄養専攻		
評価基準	小テスト(50%)、定期試験(50%)で評価。		
課題に対するフィードバック	小テストの結果にコメントをつけて返却する。		
目的	食物中に含まれる生体にとって有害となる様々な微生物、物質について理解し、その危険性を防ぐために個人レベル、社会レベルで行う方法について習得する。		
到達目標	下記の5項目について理解し、その特徴を正しく説明できる。(DP1,DP2) 1. HACCPによる衛生管理 2. 食中毒（自然毒、微生物性、ウイルス性、感染症・寄生虫症など） 3. 環境から食品に取り込まれる可能性のある毒性物質 4. 食品添加物 5. 食品衛生行政と法規		
履修上の注意	1.予習と復習をしっかりと行うこと。 2.毎回、前週の内容について、理解度確認のための小テストを実施する。 3.食生活論、食品学総論、食品学各論などの関連科目とのつながりを意識して学習すること。		
オフィスアワー	12:30-13:00、16:30-17:00		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション 食品衛生の概念、食中毒の概念	テキストP.1～5、P.53～62の予習（2時間）
2	微生物学の基礎	小テストの振り返り、前週の復習 テキストP.35～50の予習（2時間）
3	細菌性食中毒（Ⅰ）	小テストの振り返り、前週の復習 テキストP.63～78の予習（2時間）
4	細菌性食中毒（Ⅱ）	小テストの振り返り、前週の復習 テキストP.79～88の予習（2時間）
5	動物性自然毒食中毒	小テストの振り返り、前週の復習 テキストP.89～100の予習（2時間）
6	植物性自然毒食中毒	小テストの振り返り、前週の復習 テキストP.100～109の予習（2時間）
7	食品による感染症・寄生虫症	小テストの振り返り、前週の復習 テキストP.115～140の予習（2時間）
8	食品中の有害物質（Ⅰ）	小テストの振り返り、前週の復習 テキストP.145～160の予習（2時間）
9	食品中の有害物質（Ⅱ）	小テストの振り返り、前週の復習 テキストP.161～176の予習（2時間）
10	食品の変質と防止（Ⅰ）	小テストの振り返り、前週の復習 テキストP.181～189の予習（2時間）
11	食品の変質と防止（Ⅱ）	小テストの振り返り、前週の復習 テキストP.195～197の予習（2時間）
12	食品添加物（Ⅰ）	小テストの振り返り、前週の復習 テキストP.201～214の予習（2時間）
13	食品添加物（Ⅱ）	小テストの振り返り、前週の復習 テキストP.215～218の予習（2時間）
14	食品の器具と容器包装	小テストの振り返り、前週の復習 テキストP.225～240の予習（2時間）
15	食品衛生管理、法規	小テストの振り返り、前週の復習 テキストP.243～266、P.7～31の予習（2時間）

テキスト	栄養管理と生命科学シリーズ「食品衛生学」第2版（理工図書）
指定図書	あり（巻末参照）

科目名	**栄養学総論**	担当者	浅野純平
区分等	1年次・前期［講義］2単位　必修／健康栄養専攻		
評価基準	中間まとめの試験、定期試験で評価する(中間まとめの試験 50%、定期試験 50%)。		
課題に対するフィードバック	授業の中で中間まとめの試験に関する解説を行う。		
目的	栄養学の基本概念を理解する。		
到達目標	栄養素が体内に吸収されるプロセス、各栄養素が身体に及ぼす影響を理解できる。 (DP1,DP2,DP3)		
履修上の注意	1.限られた時間では要点のみを扱うに留まるので、自主自学が基本である。 2.解剖生理学、食品学、生化学、臨床栄養学と共通する内容が多いので、これらと関連付けて学習すること。 3.必要に応じてオフィスアワーの時間帯に補習を実施する。		
オフィスアワー	月曜日～金曜日 16:30 以降		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	栄養の概念、消化・吸収と栄養素の体内動態-(1) (栄養の定義、消化器系の構造と機能、消化過程	日頃から教科書･配付テキストを読み自学すること(2 時間)
2	消化・吸収と栄養素の体内動態-(2) (管腔内消化の調節、膜消化・吸収)	〃
3	食物の摂取、栄養と健康・疾患 (摂食量の調節、欠乏症と過剰症、遺伝子多型) 第 1 回小テストの実施(中間まとめ)	〃
4	第 1 回小テストの解説 炭水化物の栄養-(1) (糖質の分類、血糖とその調節)	〃
5	炭水化物の栄養-(2) (糖質の体内代謝、食物繊維、生物学的利用度)	〃
6	脂質の栄養-(1) (脂質の分類、脂質の臓器間輸送、脂質の体内代謝) 第 2 回小テストの実施(中間まとめ)	〃
7	第 2 回小テストの解説 脂質の栄養-(2) (脂質の体内代謝、脂肪酸由来の生理活性物質)	〃
8	タンパク質の栄養-(1) (アミノ酸・タンパク質の構造・機能と体内代謝) 第 3 回小テストの実施(中間まとめ)	〃
9	第 3 回小テストの解説 タンパク質の栄養-(2) (アミノ酸の臓器間輸送と他の栄養素との関係)	〃
10	ビタミンの栄養-(1) (ビタミンの構造と栄養学的機能)	〃
11	ビタミンの栄養-(2) (生物学的利用度と他の栄養素との関係) 第 4 回小テストの実施(中間まとめ)	〃
12	第 4 回小テストの解説 ミネラルの栄養-(1) (ミネラルの構造と栄養学的機能)	〃
13	水・電解質の栄養学的意義-(1) (生体内の水、水の出納) 第 5 回小テストの実施(中間まとめ)	〃
14	第 5 回小テストの解説 水・電解質の栄養学的意義-(2) (脱水・浮腫、電解質代謝と栄養)	〃
15	エネルギー代謝 (エネルギー消費量、エネルギー代謝の測定方法)	〃

テキスト	栄養科学イラストレイテッド『基礎栄養学』(羊土社)
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	ライフステージ栄養学	担当者	浅野純平
区　分　等	１年次・後期［講義］２単位　必修／健康栄養専攻		
評価基準	中間まとめの試験、定期試験で評価する(中間まとめの試験 50%、定期試験 50%)。		
課題に対するフィードバック	授業の中で中間まとめの試験に関する解説を行う。		
目　　的	胎児期から成人期・更年期、高齢期までの各ライフステージの栄養学的特徴、妊娠、成長・発達、加齢に伴う機能の変化と状態の特徴を理解する。		
到達目標	ライフステージ別の身体状況や栄養状態を理解し、身体特性に応じた栄養介入、栄養管理ができる基礎的能力を身に付ける。(DP1,DP2,DP3)		
履修上の注意	1.限られた時間では要点のみを扱うに留まるので、自主自学が基本である。 2.解剖生理学、栄養学総論が土台になるため、これら科目の内容を理解しておくこと。 3.ライフステージ別の身体状況や栄養状態を理解 4.必要に応じてオフィスアワーの時間帯に補習を実施する		
オフィスアワー	月曜日～金曜日 16:30 以降		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	栄養ケア・マネジメント	日頃から教科書･配付テキストを読み自学すること(2 時間)
2	発育・発達・加齢と栄養	〃
3	日本人の食事摂取基準	〃
4	妊娠期・授乳期の栄養 第 1 回小テストの実施(中間まとめ)	〃
5	第 1 回小テストの解説 新生児期・乳児期の栄養	〃
6	乳児期の栄養	〃
7	幼児期の栄養 第 2 回小テストの実施(中間まとめ)	〃
8	第 2 回小テストの解説 学童期・思春期の栄養	〃
9	成人期の栄養(生活習慣の変化)	〃
10	成人期の栄養(更年期の生理的変化) 第 3 回小テストの実施(中間まとめ)	〃
11	第 3 回小テストの解説 高齢期の栄養(加齢による生理的変化)	〃
12	高齢期と栄養(嚥下・咀嚼・消化機能の変化)	〃
13	運動・スポーツと栄養、休養と栄養 第 4 回小テストの実施(中間まとめ)	〃
14	第 4 回小テストの解説 ストレスと栄養、特殊環境と栄養	〃
15	第 5 回小テストの実施・解説 授業のまとめ	〃

テキスト	栢下淳、上西一弘『応用栄養学』(羊土社)
指定図書	なし

科　目　名	**給食管理**	担当者	伊藤雅子
区　分　等	１年次・後期［講義］２単位　必修／健康栄養専攻		
評 価 基 準	①小テスト(50%)、②定期テスト（40%）③受講態度（10%）		
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスや提案をする等、学生にフィードバックする。		
目　　的	給食管理学は栄養士業務を支える根幹である。その知識、技術を専門的、体系的に学習できる力を養う。		
到 達 目 標	①栄養学、食品学、食品衛生学、調理学を基盤とし、総体的に給食管理が実践できる（DP1） ②大量調理施設衛生管理マニュアルに基づいた衛生管理を実践する事ができる。（DP1） ③施設に合せた給与栄養目標量の設定方法、アセスメントを知ることができる。（DP1.2） ④リスクマネジメントの重要性を学び、実務に生かすことができる。（DP1.2.3）		
履修上の注意	新聞・テレビ等　で報道される食関係のニュース内容を確認しておく。		
オフィスアワー	月曜日 16 時～17 時		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	給食管理の概念	ノートの整理と確認（2 時間）
2	給食経営のシステム	ノートの整理と確認（2 時間）
3	特定給食施設の種類と関係法規	指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）
4	給食施設における栄養管理・品質管理	指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）
5	メニュー管理　　小テストと解説	指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）
6	食材料管理	指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）
7	衛生・安全管理	大量調理施設衛生管理マニュアルを事前に読んでおくこと（２時間）
8	給食の原価管理	指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）
9	調理作業管理、給食の食材管理	指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）
10	給食の生産管理　小テストと解説	指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）
11	施設・設備管理・安全衛生	大量調理施設衛生管理マニュアルを事前に読んでおくこと（２時間）
12	給食委託会社の仕事　（外部講師）	指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）
13	給食経営におけるマーケティング	指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）
14	給食経営の組織管理とマネジメント	指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）
15	危機管理　小テストと解説	指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）

テキスト	髙城孝助編著『実践　給食マネジメント論』（第一出版） 佐々木 敏監修『日本人の食事摂取基準 2025 年版』（女子栄養大学出版部） 松本仲子監修『調理の基本　まるわかり便利帳』（女子栄養大学出版部）
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	**調理学**	担当者	豊嶋瑠美子
区　分　等	１年次・前期［講義］２単位　必修／健康栄養専攻		
評 価 基 準	定期試験（40%）、小テスト（30%）、提出物（20%）、受講態度（10%）		
課題に対するフィードバック	授業時に提出された課題は適宜返却する。		
目　　的	栄養士の実践活動に必要な調理理論を習得する。		
到 達 目 標	1.食品の調理特性、調理操作、調理機器の特徴を総合的に理解することができる。（DP1） 2.郷土料理を通して、自分の調査したこと、考えを表現することができる。（DP2）		
履修上の注意	特になし		
オフィスアワー	月曜日 11：00～12：00		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	調理の概念	予習：テキスト P2～P14 を読む（1 時間） 復習：講義のスライドを参考に授業内容を復習する。（1 時間）
2	基礎調理操作　(1) 調理と温度 (2) 加熱方式・伝熱・熱媒体 (3) 食品の保存	予習：テキスト P16～P25 を読む（1 時間） 復習：講義のスライドを参考に授業内容を復習する。（1 時間）
3	加熱調理操作　煮る・ゆでる・蒸す	予習：テキスト P26～P30 を読む（1 時間） 復習：講義のスライドを参考に授業内容を復習する。（1 時間）
4	加熱調理操作　焼く・揚げる	予習：テキスト P31～P36 を読む（1 時間） 復習：講義のスライドを参考に授業内容を復習する。（1 時間）
5	誘電加熱・非加熱調理操作　小テスト①	予習：テキスト P37～P53 を読む。日本食品成分表 P260～261 手ばかりの目安量を予習する。(2 時間) 復習：講義のスライドを参考に復習する。(1 時間)
6	基礎調理操作：調味操作、日本食品成分表	予習：テキスト P58～P64 を読む（1 時間） 復習：講義のスライドを参考に復習する。(1 時間)
7	調理機器と調理　小テスト②	予習：テキスト P233～P240 を読む。日本食品成分表 P262 手ばかりの目安量を予習する。(2 時間) 復習：講義のスライドを参考に復習する。(1 時間)
8	食品の調理特性と調理（1）植物性食品　米・小麦粉・いも類・豆類・種実類、	予習：テキスト P66～P91 を読む。(1 時間) 復習：講義のスライドを復習する。(1 時間)
9	食品の調理特性と調理（2）植物性食品　野菜類・果実類・きのこ類・藻類　中間まとめ等	予習：テキスト P102～P120 を読む。中間まとめテストに備える（2 時間） 復習：講義のスライドを参考に復習する。(1 時間)
10	食品の調理特性と調理（1）動物性食品　食肉類・魚介類、	予習：テキスト P121～P134 を読む。(1 時間) 復習：講義のスライドを参考に復習する。(1 時間)
11	食品の調理特性と調理（2）動物性食品　卵・牛乳・乳製品	予習：テキスト P134～P149 を読む（1 時間） 復習：講義のスライドを参考に復習する。(1 時間)
12	食品の調理特性と調理：成分抽出素材小テスト③	予習：テキスト P150～P174 を読む。日本食品成分表 P263 手ばかりの目安量を予習する。(2 時間) 復習：講義のスライドを参考に復習する。(1 時間)
13	郷土料理	予習・復習：指定図書を参考に秋田の郷土料理を調べる（2 時間）
14	郷土料理発表	予習：発表準備のため、郷土料理を調べる。(2 時間) 復習：他者の発表内容と自己の発表を振り返る（1 時間）
15	調理と嗜好性・おいしさの評価法、食事設計	予習：テキスト P215～P226 を読む（1 時間） 復習：講義のスライドを参考に定期試験に備える。(2 時間

テキスト	金谷昭子編著『食べ物と健康 調理学』（医歯薬出版）
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	**食品学実験**	担当者	塚本研一
区　分　等	１年次・前期［実験］１単位　選択／健康栄養専攻		
評価基準	実験技法・操作の習熟度（10%）、食品学基礎知識の習熟度（授業内小テスト）（10%）およびレポート（80%）評価。		
課題に対するフィードバック	レポートは随時コメントをつけて返却する。		
目　　的	食品学総論で学んだ食品成分の性質を、実験を通して理解する力を養う。 実験器具や装置の名称と取り扱い方法、食品試作・分析実験の基礎技術を学ばせる。		
到達目標	健康栄養専攻の学習成果の一番目に記載されている「栄養士としての基本的知識を身につける」ために、実験を通して、下記能力の獲得を目指す。 ・実験器具・装置の名称を覚え、実験の基本操作が正しくできる。(DP1) ・食品学と食品分析の理論を理解し、基礎技術が身につく。(DP1,DP2,DP3) ・実験結果を正しくレポートに纏めることができる。(DP2,DP3)		
履修上の注意	実験専用の白衣と防護メガネを必ず着用すること。科目の性格上、出席日数と実験操作の体得が重視される。		
オフィスアワー	講義終了後		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	実験に関する諸注意、実験の基本操作（Ⅰ）	実験器具の名称と基本操作を復習する（0.75 時間）
2	実験の基本操作Ⅱ（試薬取扱いと試験溶液の調製法）＆試作実験の基本操作	基本操作と試薬の特徴を復習する（0.75 時間）
3	炭水化物の定性実験（呈色反応・還元反応）	実験結果をレポートに纏める（0.75 時間）
4	たんぱく質の定性実験	実験結果をレポートに纏める（0.75 時間）
5	油脂の定性実験	実験結果をレポートに纏める（0.75 時間）
6	分析用食品試料の試作Ⅰ	実験結果を簡易レポートに纏める（0.75 時間）
7	分析用食品試料の試作Ⅱ	実験結果を簡易レポートに纏める（0.75 時間）
8	分析用食品試料の試作Ⅲ	実験結果を簡易レポートに纏める（0.75 時間）
9	水分と灰分の定量Ⅰ＆塩分測定（簡易）	実験結果をレポートに纏める（0.75 時間）
10	水分と灰分の定量Ⅱ＆塩分測定（沈殿滴定）	実験結果をレポートに纏める（0.75 時間）
11	ｐＨの測定と中和滴定	実験結果をレポートに纏める（0.75 時間）
12	水分活性とＢｘ（糖度）の測定	実験結果をレポートに纏める（0.75 時間）
13	酵素的・非酵素的褐変反応	実験結果をレポートに纏める（0.75 時間）
14	食品試作・分析実験の基礎技術のまとめ	実験全体を復習し、記録整理する（0.75 時間）
15	食品学実験総論解説まとめ	実験全体を復習し、記録整理する（0.75 時間）

テキスト	青柳康夫他編Ｎブックス実験シリーズ　食品学実験　（建帛社）
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	**食品加工衛生学実験**	担当者	熊谷昌則
区　分　等	1年次・後期［実験］1単位　選択／健康栄養専攻		
評価基準	レポート(90%)、実験姿勢(10%)で評価。		
課題に対するフィードバック	レポートは随時コメントをつけて返却する。		
目　　的	食品中などに含まれる細菌やカビ、化学物質による危険性を認識するため、実際に実験によってこれらを検出、定量し、防御のための方法を学ぶ。 身の周りの加工食品を取り上げ、実際に製造する過程で、原料の特性や製造方法を学ばせるとともに加工食品の栄養価、必要性、食文化としての側面にも目を向ける力を養う。		
到達目標	1.食品、飲料水、調理器具中の細菌検出試験法について理解する。(DP1,DP2) 2.水質検査法と飲料水の規格基準について理解する。(DP1,DP2) 3.加工食品の製造方法と原料の特性に関する知識が身につく。(DP1,DP2) 4.加工食品を正しい手順で効率よく製造し、製品を完成できる。(DP1,DP2) 5.実習内容をレポートにきちんと纏めることができる。(DP2)		
履修上の注意	材料費を徴収する。事前に加工食品について自学していると理解が深まる。		
オフィスアワー	12:30-13:00、16:30-17:00		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	食品衛生学実験を始めるにあたって 滅菌法、消毒法 実験器具の取り扱い 培地の調製法 顕微鏡の取り扱い	テキストの予習と復習(1時間)
2	細菌検査（1)空中落下細菌の計測	実験ノートの整理とレポート作成(2時間)
3	細菌検査（2)手指洗浄の効果	実験ノートの整理とレポート作成(2時間)
4	細菌検査（3)食品中の一般生菌数の計測	実験ノートの整理とレポート作成(2時間)
5	細菌検査（4)紫外線による殺菌効果	実験ノートの整理とレポート作成(2時間)
6	食品製造水の水質検査（1)外観検査・微生物試験	実験ノートの整理とレポート作成(2時間)
7	食品製造水の水質検査（2)化学成分の検出	実験ノートの整理とレポート作成(2時間)
8	第6回、7回の実験のまとめと発表	実験ノートの整理とレポート作成(2時間)
9	講義（あさづけ・こざき練り、チーズ・バター、木綿豆腐、うどん・中華めん、ところてん・コンニャク、バター餅・だんご)	テキストの予習と復習(1時間)
10	実習（あさづけ・こざき練り）	実験ノートの整理とレポート作成(2時間)
11	実習（チーズ・バター)	実験ノートの整理とレポート作成(2時間)
12	実習（木綿豆腐)	実験ノートの整理とレポート作成(2時間)
13	実習（うどん・中華めん)	実験ノートの整理とレポート作成(2時間)
14	実習（ところてん・コンニャク)	実験ノートの整理とレポート作成(2時間)
15	実習（バター餅・だんご)	実験ノートの整理とレポート作成(2時間)

テキスト	なし（プリントを使用)
指定図書	あり（巻末参照)

科　目　名	**基礎調理実習**	担当者	豊嶋瑠美子
区　分　等	１年次・前期［実習］１単位　選択／健康栄養専攻		
評 価 基 準	実習記録(50%)、 調理技術(30%)、実習に取り組む姿勢(20%)		
課題に対するフィードバック	実習記録は適宜確認し、返却する。		
目　　的	調理の基本となる理論に基づいて、その要点を会得し、より能率的、且つ的確に調理技術を身につけることを目的とする。		
到 達 目 標	1. 炊飯、出汁の引き方、様々な野菜の切り方等基本的な調理ができるようになる。(DP1) 2. 食材の特性をいかした献立作成ができ、グループでは自らの意見を発言でき、メンバーと円滑な合意形成を図ることができる。 (DP2・DP3)		
履修上の注意	材料費を徴収する。指定の調理着、帽子、コックシューズ、ハンドタオル、電卓を準備する。栄養計算の際は日本食品成分表を持参する。		
オフィスアワー	月曜日 11：00～12：00		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	調理実習の目的と諸注意・衛生管理について	予習：指定図書の場所を確認し、読む。(1 時間) 復習：実技試験のために各自練習する。(1 時間)
2	実技試験（きゅうりの輪切り・りんごの皮むき）	予習：実技試験のために各自練習する (1 時間) 復習：家庭でも調理を心がける。(1 時間)
3	炊飯、出汁の引き方、野菜の切り方指導	予習：テキスト P66、P150～153 を読む。(1 時間) 復習：配付レシピを読み、作り方を把握する。(1 時間)
4	日本料理（三色丼、みそ汁、千草あえ）	予習：テキスト P66、P150～153 のだしの引き方、炊飯方法を配付レシピに記入し、工程を確認する。(1 時間) 復習：実習記録を入力する。(1 時間)
5	日本料理（椿寿司、筑前煮、若竹汁）	予習：配付レシピを読み、工程を確認する。(1 時間) 復習：実習記録を入力する。(1 時間)
6	お菓子	予習：配付レシピを読み、工程を確認する。(1 時間) 復習：実習記録を入力する。(1 時間)
7	西洋料理（ドライカレー、オニオンスープ、コールスローサラダ）	予習：配付レシピを読み、工程を確認する。(1 時間) 復習：実習記録を入力する。(1 時間)
8	西洋料理（スパゲッティミートソース、ベジタブルスープ、キャロットケーキ）	予習：配付レシピを読み、工程を確認する。(1 時間) 復習：実習記録を入力する。(1 時間)
9	栄養計算	予習：配付レシピを読み、工程を確認する。(1 時間) 復習：実習記録を入力する。(1 時間)
10	中国料理（涼拌三絲、芙蓉蟹、麻婆豆腐、馬拉糕）	予習：配付レシピを読み、工程を確認する。(1 時間) 復習：実習記録を入力する。(1 時間)
11	自由献立立案（ワンプレートランチ）	予習：テーマの献立を探して持ち寄る。(1 時間) 復習：実習記録を 3～10 回目まとめてグーグルクラスに提出する。(2 時間)
12	自由献立立案、栄養計算	予習：買い物リストを作る。(1 時間) 復習： レシピを作成し、栄養計算する。(1 時間)
13	中国料理（冷拌麺、加爾比豆腐）	予習：配付レシピを読み、工程を確認する。(1 時間) 復習：実習記録を入力する。(1 時間)
14	実技試験（きゅうりの輪切り・りんごの皮むき）	予習：実技試験のために各自練習する (1 時間) 復習：家庭でも調理を心がける。(1 時間)
15	自由献立の実習	予習：レシピを読み、買い物リストを作る。(1 時間) 復習：実習記録と栄養計算をまとめる。(2 時間)

テキスト	松本仲子監修　『調理の基本　まるわかり便利帳』(女子栄養大学出版部)
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	**応用調理実習**	担当者	豊嶋瑠美子
区　分　等	１年次・後期［実習］１単位　選択／健康栄養専攻		
評価基準	実習記録・提出物(50%)、 調理技術（30%）、実習に取り組む姿勢(20%)		
課題に対するフィードバック	実習記録は適宜確認し、返却する。		
目　　的	調理の基本となる理論に基づいて、その要点を会得し、効率的且つ的確に調理できるようになることを目的とする。		
到達目標	1. 栄養バランスを考慮した献立立案及び実習ができるようになる。(DP1) 2. 自由献立ではグループで自らの意見を発言でき、メンバーと円滑な合意形成を図ることができる。（DP2・DP3）		
履修上の注意	材料費を徴収する。調理着、帽子、コックシューズ、ハンドタオル、電卓を準備すること。		
オフィスアワー	火曜日 15：00～16：00		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	栄養計算について	予習：自由献立レシピを見返し、持参する。(1時間) 復習：栄養計算ソフトを用いて栄養計算をする。(1 時間)
2	日本料理（鮭の香り漬け、みそ汁、キャベツとささみの和え物、みつ白玉）	予習：配付レシピを読み、工程を確認する。(1時間) 復習：実習記録を入力する。(1時間)
3	日本料理（かやくごはん、土瓶蒸し、春菊と菊の和え物、おしるこ）	予習：配付レシピを読み、工程を確認する。(1時間) 復習：実習記録を入力する。(1時間)
4	西洋料理（マカロニグラタン、アボカドサラダ、ババロア）	予習：配付レシピを読み、工程を確認する。(1時間) 復習：実習記録を入力する。(1時間)
5	郷土料理（きりたんぽ、さつまいもの花かご）	予習：配付レシピを読み、工程を確認する。(1時間) 復習： 2～4までの実習記録をグーグルクラスに提出する。(1時間)
6	郷土料理（きりたんぽ鍋、とんぶりの月見）	予習：配付レシピを読み、工程を確認する。(1時間) 復習：実習記録を入力する。(1時間)
7	西洋料理（かぼちゃのポタージュ、ポークソテー、オレンジサラダ）	予習：配付レシピを読み、工程を確認する。(1時間) 復習：実習記録を入力する。(1時間)
8	西洋料理（煮込みハンバーグ、コーンスープ、ジャーマンキャベツ、カスタードプデイング）	予習：配付レシピを読み、工程を確認する。(1時間) 復習：実習記録を入力する。(1時間)
9	中国料理（炒飯、鶏茸粟米、涼拌粉絲黄瓜、豆沙麻球）	予習：配付レシピを読み、工程を確認する。(1時間) 復習：実習記録を入力する。(1時間)
10	クリスマス料理（アクアパッツァ、コーンチャウダー、ツナブレッドカップ、パンチ、パウンドケーキ）	予習：配付レシピを読み、工程を確認する。(1時間) 復習：実習記録を入力し、5～10回目をまとめてグーグルクラスに提出する。
11	お正月料理（えびの甘煮、鶏もも肉のチャーシュー焼、岩石卵、たたきごぼう、祝かまぼこ、紅白寒天、）	予習：配付レシピを読み、工程を確認する。(1時間) 復習：実習記録を入力する。(1時間)
12	自由献立立案（日本料理・中国料理・西洋料理）	予習：テーマに沿った献立を調べて各自持ち寄る。(1時間) 復習：レシピ作成、栄養計算をする 。**(1時間)**
13	自由献立立案栄養計算、発注	予習：レシピ作成、栄養計算をする 。(1時間) 復習：レシピ作成、栄養計算をする 。**(1時間)**
14	自由献立の実習	予習：レシピを読み、工程を確認する。(1時間) 復習：実習記録、栄養計算を入力する。(2時間)
15	テーブルマナー	予習：インターネットや図書を使用し、洋食のテーブルマナーを調べる。（1時間） 復習：家庭でもテーブルマナーを心がける （1時間）

テキスト	松本仲子監修　『調理の基本　まるわかり便利帳』（女子栄養大学出版部）
指定図書	あり（巻末参照）

科目名	学校栄養教育論	担当者	大曽基宣
区分等	１年次・後期［講義］２単位　選択／健康栄養専攻		
評価基準	定期試験（70%）、課題（30%）		
課題に対するフィードバック	課題の返却と解説、試験結果の返却と解説をする。		
目的	栄養教諭の役割と職務内容、学校で食育をすすめるための、子どもたちの食生活や食環境について学ぶ。また、食に関する全体計画の作成や展開方法、学校給食を活用した食に関する指導の実践法を学ぶ。		
到達目標	①　栄養教諭の意義、学校における役割や職務内容を説明できる。(DP1) ②　現代の幼児・児童・生徒の栄養に係わる諸問題を理解し、食文化を含む現代の食に関する課題をふまえた、給食管理と食に関する指導の方法が理解できる。(DP1,DP2) ③　栄養教諭としての基本的な知識を身に付け・食に関する指導を実践できる。(DP2, DP3)		
履修上の注意	特になし。		
オフィスアワー	金曜の 16 時 20 分～16 時 50 分		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	保護者の気持ちから考える食育の意義 ―動画教材：はなちゃんのみそ汁―	予習：保護者に自身が子どもの頃の食嗜好を尋ねる(１h) 復習：授業目的に照らし、配付資料再読(１h)
2	食環境の実態から考える食育の意義	予習：テキスト第１章第１節[児童生徒の食生活を取り巻く状況等]を読む(１h) 復習：授業目的に照らし配付資料再読(１h)
3	子どもの発育発達から考える食育の意義	予習：近年の子どもの健康課題を調べる(１h) 復習：授業目的に照らし、配付資料再読(１h)
4	学校給食の教育的意義と役割	予習：テキスト第５章第１節[学校給食とは]を読む(１h) 復習：授業目的に照らし、配付資料再読(１h)
5	栄養教諭の役割と職務内容	予習：テキスト第６章第４節[栄養教諭の役割]を読む(１h) 復習：授業目的に照らし、配付資料再読(１h)
6	食に関する指導の全体計画と展開法	予習：テキスト第３章[食に関する指導に係る全体計画の作成]を読む(１h) 復習：授業目的に照らし、配付資料再読(１h)
7	給食の時間における食に関する指導	予習：テキスト第５章第２節・第３節を読む(１h) 復習：授業目的に照らし、配付資料再読(１h)
8	個別栄養相談指導のあり方	予習：テキスト第６章第1～6節を読む(１h) 復習：授業目的に照らし、配付資料再読(１h)
9	各教科等における食に関する指導の展開	予習：テキスト第４章[各教科等における食に関する指導の展開]を読む(１h) 復習：授業目的に照らし、配付資料再読(１h)
10	学習指導要領の理解と指導案作成	予習：テキスト第１章第４節[学習指導要領の改訂]を読む(１h) 復習：授業目的に照らし、配付資料再読(１h)
11	食に関する指導案の作成と教材研究	予習：指導案の作成を進める(１h) 復習：授業目的に照らし、配付資料再読(１h)
12	食に関する教材研究	予習：指導に用いる教材作成に必要な材料一覧を作成(１h) 復習：模擬授業の準備を進める(１h)
13	食に関する模擬授業・相互評価	予習：模擬授業の準備を進める(１h) 復習：模擬授業の自己評価・相互評価の結果考察(１h)
14	学校における食育推進の評価	予習：テキスト第７章[学校における食育の推進の評価]を読む(１h) 復習：授業目的に照らし、配付資料再読(１h)
15	学校における食育の再考	予習：これまでの授業を振り返り、学校における食育で今後実施したいと考える内容をまとめる(１h) 復習：授業目的に照らし、配付資料再読(１h)

テキスト	文部科学省『食に関する指導の手引』（第二次改定版）（健学社）
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	食と栄養の実践演習	担当者	熊谷昌則
区　分　等	2年次・通年［講義］1単位　選択／健康栄養専攻		
評価基準	レポート(70%)、演習姿勢(30%)で評価。		
課題に対するフィードバック	レポートの結果にコメントをつけて返却する。		
目　　的	生命科学分野、食品開発分野、栄養サポート・食育分野を中心に、より実践的な手法を身に付けることにより、健康維持に資する栄養士として社会に貢献できる人材を育成する。		
到達目標	1.生命科学分野の基礎知識と技術を学び、科学的リテラシーを身に付ける。(DP1,DP2,DP3) 2.食品開発分野の実践的技術を学び、食品業界での問題解決に応用できる。(DP1,DP2,DP3) 3.栄養サポート・食育分野における実践的技術を学び、人々の健康づくりに貢献できる。(DP1,DP2,DP3)		
履修上の注意	1.将来の栄養士・管理栄養士としての職業意識を明確にして取り組むこと。 2. グループワークの際は、自らの意見を発言し、メンバーと円滑な合意形成を図るよう心がけること。		
オフィスアワー			

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	栄養サポート・食育分野：成人期・高齢期向けのメニュー考案　（須磨）	対象のライフステージにおける栄養課題について予習・復習（1時間）
2	生命科学分野：遺伝子工学の技術習得（Ⅰ）　（浅野）	電気泳動法によるDNAの分析について予習しておく。(1時間)
3	食品開発分野：ＨＡＣＣＰ（Ⅰ）　（熊谷）	食品衛生学教科書該当部分の予習・復習（1時間）
4	栄養サポート・食育分野：学会分類2021と栄養補助食品　（伊藤・松田）	学会分類2021、事前に配布する資料を読んでおく（2時間）
5	栄養サポート・食育分野：ソフト食の作り方　（伊藤・松田）	事前に配布する資料を読んでおく（1時間） ソフト食の作り方をまとめておく（1時間）
6	生命科学分野：食物アレルギー　（栗森）	予習：食物アレルギーへの対応がなぜ必要なのか、その理由について考えておく。(1時間) 復習：学校などの公的機関は食物アレルギーにどのように対応すべきかをまとめておく。(1時間)
7	食品開発分野：ＨＡＣＣＰ（Ⅱ）　（熊谷）	食品衛生学教科書該当部分の予習・復習（1時間）
8	生命科学分野：疾病の理解を深める（心不全を例として）　（齋藤）	循環器の解剖生理を復習しておく（40分）
9	栄養士関連分野に係る問題演習　（秋山・阿部）	演習内容の復習（2時間）
10	生命科学分野：遺伝子工学の技術習得（Ⅱ）　（浅野）	DNAの酵素処理、サブクローニングなどの遺伝子工学の技術について学習しておく。(1時間)
11	食品開発分野：ヘルスケアビジネス　（熊谷）	演習内容の整理とレポート作成(1時間)
12	栄養サポート・食育分野：　米と小麦の食文化～人類の歴史に果たした役割　（佐藤光咲）	コメや小麦のルーツや歴史について予習(1時間)
13	食品開発分野：色、香り、味を表現する（Ⅰ）　（豊嶋・秋山）	予習：メディカルハーブの基礎知識を図書やインターネットで検索する。(0.5時間) 復習：演習内容を整理し、フレーバーホイールを作成してレポートとする。(0.5時間)
14	食品開発分野：色、香り、味を表現する（Ⅱ）　（豊嶋・秋山）	予習：メディカルハーブの基礎知識を図書やインターネットで検索する。(0.5時間) 復習：演習内容を整理し、フレーバーホイールを作成してレポートとする。(0.5時間)
15	食品開発分野：秋田の女性起業家　（熊谷）	演習内容の整理とレポート作成(1時間)

テキスト	なし（必要に応じて資料を配布）
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	社会福祉概論	担当者	伊藤雅子
区　分　等	２年次・後期［講義］２単位　必修／健康栄養専攻		
評 価 基 準	①小テスト(40%)　②課題レポート(20%)　③定期テスト（40%）		
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスや提案をする等、学生にフィードバックする。		
目　　的	健康で文化的な生活の方向性を社会的サービスと社会制度の体系の中から学ぶ。		
到 達 目 標	1 公共の福祉と地域福祉、国民の社会保障制度を理解することができる。（DP1） 2. 少子・高齢化社会、家庭機能の変化、障害者の自立と社会参加の時代を迎え、栄養士の視点から社会福祉を理解することができる。（DP1） 3. 社会福祉制度を理解し、栄養面も含め総合的に対象者にアプローチすることが出来る。（DP1.2）		
履修上の注意	社会福祉制度とその仕組みが日常どのように動いているかを毎日の報道でチェックする。（新聞・テレビ・ネットニュース等）		
オフィスアワー	月曜日　16 時～17 時		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	生活を支える「食」と「社会福祉」	指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）
2	社会福祉の意味と対象	ノートの整理と確認（2 時間）
3	公的扶助	ノートの整理と確認（2 時間）
4	母子保健	指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）
5	高齢者の福祉	指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）
6	児童家庭福祉　小テストと解説	参考文献・指定図書を読んでおくこと（2 時間）
7	障害者の福祉	参考文献・指定図書を読んでおくこと（2 時間）
8	地域福祉	参考文献・指定図書を読んでおくこと（2 時間）
9	介護保険について	事前に配布する資料を読んでおくこと　(2 時間)
10	社会福祉における援助の方法　小テストと解説	事前に配布する資料を読んでおくこと　(2 時間)
11	社会福祉実践の場	指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）
12	雇用保険について　外部講師	指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）
13	ACP,ナラティブブックについて	事前に配布する資料を読んでおくこと　(2 時間)
14	社会福祉の専門職	指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）
15	社会福祉の分野で働く栄養士　小テストと解説	指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）

テキスト	岩松 珠美・三谷 嘉明 編 六訂　栄養士・管理栄養士をめざす人の社会福祉（株式会社みらい）
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	**公衆衛生学**	担当者	塚田三香子
区　分　等	２年次・前期［講義］２単位　必修／健康栄養専攻		
評価基準	①定期試験(50%) ②レポート(50%)		
課題に対するフィードバック	レポートは授業内で返却し、解答・解説を行う。試験は終了後正解を配付する。		
目　　的	集団として健康を守るために行われてきた公衆衛生対策の歴史と方法、また現在の公衆衛生活動の現状を学び、自分自身のライフスタイルを振り返る。		
到達目標	1. 衛生行政の目的、内容、法令について理解する。(DP1) 2. 衛生統計の用語に慣れ、各種統計値と図表からその意味する所を導き出すことができる。(DP2) 3. 保健活動の内容を学び、国内、地域における具体的活動を挙げることができる。(DP2)		
履修上の注意	グラフ用紙、計算機を持参すること。 ①レポートの多くは衛生統計の資料をグラフや表に作成し、考察するものである。グラフの作成法の注意点（横軸、縦軸が何を示しているかを書き込む、単位をつける、時間軸を均一にする、グラフの表題を書くなど）を守ること。 ②公衆衛生学で衛生学の用語に慣れることによって、新聞のほとんどが理解できるようになる。逆に新聞を読むことにより、公衆衛生学に興味が湧く。暇な時間を見つけ、新聞を読むことを薦める。		
オフィスアワー	授業前後		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	公衆衛生の意義と課題	授業前後：教科書第１章、２章を読む (1 時間)
2	世界の人口、日本の人口 (人口問題に関する第１回レポート出題)	授業後：第１回レポート提出の準備(1.5 時間)
3	出生・死亡統計	授業後：第１回レポート提出の準備(1.5 時間)
4	疫学的方法による健康の理解 （疫学に用いる方法の具体例)	授業前後：教科書第３章を読む(1 時間)
5	日常生活環境と健康	授業前後：教科書第４、５章を読む(1 時間)
6	環境汚染と公害	授業前後：教科書第 5 章を読む(1 時間)
7	感染症とその予防１　感染症の種類、感染経路(感染症に関する第２回レポート出題)	授業前後：教科書第 7 章を読む(1 時間) 授業後：第２回レポート提出の準備(1.5 時間)
8	感染症とその予防２　主な感染症とその推移 社会経済的要因と健康	授業前：教科書第８章を読む(1 時間) 授業後： 第２回レポート提出の準備(1.5 時間)
9	母子保健 （母子保健に関する第３回レポート出題)	授業後：第３回レポート提出の準備（1.5 時間) 授業前後：教科書第 10 章を読む(1 時間)
10	学校保健	授業前後：第３回レポート提出の準備（1.5 時間) 授業前後：教科書第 11 章を読む(1 時間)
11	産業保健 （産業保健に関する第４回レポート出題)	授業後：第４回レポート提出の準備（1.5 時間) 授業前後：教科書第 12 章を読む(1 時間)
12	精神保健福祉	授業後：第４回レポート提出の準備（1.5 時間) 授業前後：教科書第 13 章を読む(1 時間)
13	成人保健 （成人保健に関する第５回レポート出題)	授業後：第５回レポート提出の準備（1.5 時間) 授業前後：教科書第 14 章を読む(1 時間)
14	災害と健康　地域保健　保健と福祉	授業後：第５回レポート提出の準備（1.5 時間) 授業前後教科書第 16 章～18 章を読む(1 時間)
15	医療制度と医療政策　国際保健	授業前後教科書第 19 章～20 章を読む(1 時間)

テキスト	コンパクト公衆衛生学（第７版）（朝倉書店）
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	**運動生理学**	担当者	齋藤　謙
区　分　等	２年次・後期［講義］２単位　必修／健康栄養専攻		
評価基準	試験（80%）、授業への取り組み・態度（20%）により評価する。		
課題に対するフィードバック	科目についての質問を随時受け付ける。学力が不足する学生に対しては、試験の間違い箇所の復習と訂正を指示する。復習後、個別に面談して訂正箇所を確認し、必要があれば補足の説明をする。		
目　　的	健康と運動について学習し、栄養士としての指導能力を高める。		
到達目標	運動の仕組み、エネルギー代謝、トレーニングについて理解できる。(DP1、DP2)		
履修上の注意	特になし		
オフィスアワー	水曜日 13 時～14 時		

	授業計画	授業外学習
1	健康増進とは。現代人の生活状況の問題点。 肥満。	運動生理 1-5(1 時間)
2	肥満度の判定、加齢、精神的ストレス。 運動の意義と栄養士の役割	運動生理 4-10, 12-15(1 時間)
3	骨格筋の構造と筋収縮のしくみ。収縮の様式。	運動生理 17-22(1 時間)
4	骨格筋収縮の神経系による調節。速筋と遅筋。	運動生理 22-5. 運動生理 25-8(1 時間)
5	骨格筋収縮時のエネルギー供給。	運動生理 28-32(1 時間)
6	身体運動と呼吸器系の働き。	運動生理 32-38(1 時間)
7	身体運動と循環器系の働き　1：心臓。	運動生理 38-41(1 時間)
8	中間のまとめ。身体運動と循環器系の働き　2： 血管。	運動生理 42-6(1 時間)
9	食物のエネルギー、エネルギー代謝率の測定、呼吸比、非蛋白呼吸比。	運動生理 49-54(1 時間)
10	基礎代謝率、食事誘発性熱産生、運動時のエネルギー代謝率、メッツ、身体活動レベル、推定エネルギー心要量。	運動生理 54-61(1 時間)
11	最大酸素摂取量、無酸素性作業閾値。	運動生理 61-67(1 時間)
12	トレーニング運動の種類と方法。	運動生理 69-73(1 時間)
13	トレーニングの原則。	運動生理 73-77(1 時間)
14	トレーニングの効果。	運動生理 77-82(1 時間)
15	肥満の解消。骨粗鬆症を予防するトレーニング。 トレーニング時の栄養・水分・電解質補給。	運動生理 83-4. 運動生理 102-5(1 時間)

テキスト	杉　晴夫著『やさしい運動生理学』(南江堂) 藤田恒夫著『入門人体解剖学』(南江堂) 彼末一之、能勢　博編『やさしい生理学』(南江堂) 高橋　徹著『よくわかる病理学』(金原出版) 後藤昌義、瀧下修一著『新しい臨床栄養学』(南江堂)
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	**臨床栄養学Ⅰ**	担当者	須磨亜沙子
区　分　等	２年次・前期［講義］２単位　必修／健康栄養専攻		
評価基準	中間まとめ（50%）、定期試験（50%）		
課題に対するフィードバック	1.　中間まとめについては、解説しながら返却する。 2.　授業毎に行う振り返りで得た質問に関しては、随時アドバイスや提案をする等、学生へフィードバックする。		
目　　的	傷病者の病態や栄養状態に応じた栄養管理の考え方を身に付ける。		
到達目標	1.　臨床栄養管理の意義と目的を理解できる。(DP1) 2.　各疾患及び病態時の栄養管理の必要性を説明できる。(DP1,DP2) 3.　各疾患別の身体状況や栄養状態を理解し、それに応じた栄養管理の基本を述べることができる。(DP1) 4.　各疾患に応じた適切な栄養素・エネルギーなどを提案できる。(DP1,DP2)		
履修上の注意	1.　解剖学、生理学、生化学の知識を身につけておくこと。(人はなぜ病気になるのか、どのように治療するのかを理解するためには、先に人体の構造、各器官、栄養素の代謝のしくみを学ぶことが大切である。) 2.　授業で学んだ知識を定着させるためには、復習が必須である。		
オフィスアワー	金曜日　15～16 時		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	臨床栄養学の意義と目的	予習：該当する教科書のページを読む（２時間） 復習：ノートの整理と確認（２時間）
2	糖尿病の栄養管理（１） 病態理解	予習：該当する教科書のページを読む（２時間） 復習：ノートの整理と確認（２時間）
3	糖尿病の栄養管理（２） 栄養ケア	予習：該当する教科書のページを読む（２時間） 復習：ノートの整理と確認（２時間）
4	肥満症・脂質異常症の栄養管理	予習：該当する教科書のページを読む（２時間） 復習：ノートの整理と確認（２時間）
5	消化器疾患の栄養管理（１）	予習：該当する教科書のページを読む（２時間） 復習：ノートの整理と確認（２時間）
6	消化器疾患の栄養管理（２）	予習：該当する教科書のページを読む（２時間） 復習：ノートの整理と確認（２時間）
7	肝疾患の栄養管理	予習：該当する教科書のページを読む（２時間） 復習：ノートの整理と確認（２時間）
8	膵臓・胆嚢疾患の栄養管理	予習：該当する教科書のページを読む（２時間） 復習：ノートの整理と確認（２時間）
9	高血圧・心疾患の栄養管理	予習：該当する教科書のページを読む（２時間） 復習：ノートの整理と確認（２時間）
10	呼吸器疾患の栄養管理	予習：該当する教科書のページを読む（２時間） 復習：ノートの整理と確認（２時間）
11	腎疾患の栄養管理	予習：該当する教科書のページを読む（２時間） 復習：ノートの整理と確認（２時間）
12	経口摂取法	予習：該当する教科書のページを読む（２時間） 復習：ノートの整理と確認（２時間）
13	経腸栄養法	予習：該当する教科書のページを読む（２時間） 復習：ノートの整理と確認（２時間）
14	静脈栄養法	予習：該当する教科書のページを読む（２時間） 復習：ノートの整理と確認（２時間）
15	総合学習	予習：該当する教科書のページを読む（２時間） 復習：ノートの整理と確認（２時間）

テキスト	友竹浩之、他編『栄養科学シリーズ NEXT　臨床栄養学概論』(講談社) 本田佳子編『新臨床栄養学　栄養ケアマネジメント』(医歯薬出版)
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	**臨床栄養学Ⅱ**	担当者	齋藤　謙
区　分　等	２年次・前期［講義］１単位　必修／健康栄養専攻		
評 価 基 準	試験（80%）、授業への取り組み・態度（20%）により評価する。		
課題に対するフィードバック	科目についての質問を随時受け付ける。学力が不足する学生に対しては、試験の間違い箇所の復習と訂正を指示する。復習後、個別に面談して訂正箇所を確認し、必要があれば補足の説明をする。		
目　　的	食物と人体のかかわりについて学ぶ。幾つかの重要な疾患を解説し、疾患と食物・栄養の関係について学ぶ。		
到 達 目 標	主要疾患の食事療法を理解できる。(DP1、DP2)		
履修上の注意	特になし		
オフィスアワー	水曜日 13 時～14 時		

授業計画		授業外学習
0.5	アレルギーの定義と分類。	臨栄 241-5(30 分)
1	食物アレルギー。	臨栄 245-7, 250-2(1 時間)
2	ヘマトクリット。赤血球。貧血。	臨栄 219-3, 229-37(1 時間)
3	血液凝固と線溶系。血栓症。	臨栄 226-8, 生理 22(表 2-5), 病理 49-54(1 時間)
4	糖尿病。	臨栄 67-76. 病理 244-7(1 時間)
5	中間のまとめ。脂質代謝。	臨栄 78-86(1 時間)
6	脂質異常症。動脈硬化症。	臨栄 86-91. 病理 135-8(1 時間)
7	蛋白質代謝とその異常	臨栄 92-5(1 時間)

テキスト	後藤昌義、瀧下修一著『新しい臨床栄養学』(南江堂) 高橋　徹著『よくわかる病理学』(金原出版) 藤田恒夫著『入門人体解剖学』(南江堂) 彼末一之、能勢　博編『やさしい生理学』(南江堂)
指定図書	あり（巻末参照）

科目名	スポーツ栄養学	担当者	浅野純平
区分等	２年次・前期［講義］１単位　必修／健康栄養専攻		
評価基準	中間まとめの試験、定期試験で評価する(中間まとめの試験 50%、定期試験 50%)。		
課題に対するフィードバック	授業の中で中間まとめの試験に関する解説を行う。		
目的	競技スポーツにおける栄養サポートの理論と実践力を身に付けさせる。また、身体活動による生活習慣病、運動器症候群の予防法を学ぶ。		
到達目標	ヒトの栄養素代謝、運動によって変化する生理機能・身体組成を学び、競技者に対する栄養指導方法を理解できる。		
履修上の注意	1.限られた時間では要点のみを扱うに留まるので、自主自学が基本である。(DP3) 2.解剖生理学、基礎栄養学、運動生理学の知識が必要不可欠なので、これらの科目を復習しておくこと。(DP1,DP2) 3.栄養学総論で使用した教科書「栄養科学イラストレイテッド『基礎栄養学』(羊土社)」を持参すること。 4.必要に応じてオフィスアワーの時間帯に補習を実施する。		
オフィスアワー	月曜日～金曜日 16:30 以降		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	運動の効用：身体活動、運動 (疾病との関わり、健康づくりの運動)	日頃から教科書･配付テキストを読み自学すること (2 時間)
2	運動によって変化する生理機能、身体組成 (骨・骨格筋、循環器、呼吸器、内分泌への影響)	〃
3	身体を作る栄養素、身体の機能調節をする栄養素 (タンパク質、脂質、ビタミン、ミネラル)	〃
4	スポーツ・運動のエネルギー供給系、運動と糖質の栄養･代謝 (身体活動のためのエネルギー、 糖質と運動パフォーマンス) 第 1 回小テストの実施(中間まとめ)	〃
5	第 1 回小テストの解説 運動と脂質およびタンパク質の栄養・代謝 (持久トレーニングと脂質代謝、 筋タンパク質の合成・分解機構)	〃
6	運動とビタミン、試合前後の食事内容 (身体づくりとビタミン、 食事によるコンディション調整方法)	〃
7	運動と水分、運動時の体温と循環調節 (体内の水分分布と体液量調節、脱水症、 暑熱順化、熱中症のメカニズム) 第 2 回小テストの実施(中間まとめ)	〃
8	第 2 回小テストの解説 運動と食事 (競技種目別エネルギー摂取量、献立の工夫、 ウエイトコントロール)	〃

テキスト	栄養・健康科学シリーズ『スポーツ栄養学』(化学同人)
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	**公衆栄養学**	担当者	伊藤雅子
区　分　等	２年次・後期［講義］２単位　必修／健康栄養専攻		
評 価 基 準	授業内の複数回試験(40%)、定期試験(60%)		
課題に対するフィードバック	試験結果の返却と解説		
目　　的	個人、地域社会や集団を対象とした、食と生活環境要因と関連づけた公衆栄養の展開を学ぶ。		
到 達 目 標	①　少子高齢化の進展と要介護の増大や生活習慣病の増加など、問題が生じている中、健康寿命を延伸させるまでのプロセスを理解できる。 ②「日本人の食事摂取基準 2025 年版」、の基礎理論を理解し活用できるようになる。 ②　わが国の栄養・食料政策についてその現状を理解できる。		
履修上の注意	新聞・テレビ等　で報道される食関係のニュース内容を確認しておく。		
オフィスアワー	月曜 16 時～17 時		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	公衆栄養学の概念	テキスト chapter1 をよく読み予習をしてくること（90 分）
2	公衆栄養活動	テキスト chapter1 をよく読み予習をしてくること（90 分）
3	わが国の健康・栄養問題の現状と課題	テキスト chapter2 と国民健康栄養調査結果を読んでくること（90 分）
4	わが国の健康・栄養問題の現状と課題	テキスト chapter2 をよく読み予習をしてくること（90 分）
5	公衆栄養マネジメント	テキスト chapter3 をよく読み予習をしてくること（90 分）
6	公衆栄養プログラムの展開	テキスト chapter3 をよく読み予習をしてくること（90 分）
7	栄養疫学（外部講師）	テキスト chapter4 をよく読み予習をしてくること（90 分）
8	食事調査の方法と活用	テキスト chapter4 をよく読み予習をしてくること（90 分）
9	日本人の食事摂取基準 2025 年版（1）	テキスト chapter7 と食事摂取基準をよく読み予習をしてくること（90 分）
10	日本人の食事摂取基準 2025 年版（2） 活用の基礎理論	テキスト chapter7 をよく読み予習をしてくること（90 分）
11	わが国の健康・栄養政策	テキスト chapter5 をよく読み予習をしてくること（90 分）
12	諸外国の健康・栄養政策	テキスト chapter6 をよく読み予習をしてくること（90 分）
13	公衆栄養関連法規	テキストの関連法規抜粋を読み予習してくること（90 分）
14	公衆栄養活動と行政栄養士の業務（外部講師）	地域の栄養活動を調べてくること（90 分）
15	行政栄養士の業務・これまでのまとめ	テキスト、プリントを復習すること（60 分）

テキスト	芦川修貳監修『エスカベーシック公衆栄養学概論』（同文書院） 佐々木敏監修　日本人の食事摂取基準 2025 年版（女子栄養大学出版部）
指定図書	なし

科　目　名	**栄養指導論**	担当者	伊藤雅子
区　分　等	２年次・前期［講義］２単位　必修／健康栄養専攻		
評 価 基 準	①小テスト(40%)、②グループ発表（10%）、③課題レポート(10%)④定期テスト（40%）		
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスや提案をする等、学生にフィードバックする。		
目　　的	健康教育の専門家として適切な指導能力を身につける。		
到 達 目 標	1.栄養指導の意義、歴史、制度、関係法令を理解することが出来る。（DP1） 2.栄養指導・カウンセリングの技術その専門能力を身につけ実践できる。（DP1、DP2） ３.グループワーク・発表を通じて栄養指導時のテクニックを養う（DP1、DP2、DP3）		
履修上の注意	新聞・テレビ等　で報道される食関係のニュース内容を確認しておく。		
オフィスアワー	月曜日 16 時～17 時		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	栄養教育・指導の概念 栄養指導とは、目標、目的	指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）
2	栄養指導の役割、歴史	指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）
3	栄養指導に関連する法令(1) 健康増進法、食育基本法、地域保健法	指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）
4	栄養指導に関連する法令(2) 高齢者医療、母子保健法等	指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）
5	栄養指導に関する指標 小テストと解説	指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）
6	各法令についてグループワーク	自分の担当の法令についてまとめる（2 時間）
7	各法令についてグループワーク	自分の担当の法令についてまとめる（2 時間）
8	各法令についてグループワーク・発表　(1)	自分の担当の法令について発表を充実させる工夫を考え、実践してみる（2 時間）
9	各法令についてグループワーク・発表　(2)	自分の担当の法令について発表を充実させる工夫を考え、実践してみる（2 時間）
10	日本人の食事摂取基準 2025 年版について（1）	日本人の食事摂取基準 2020 年版を事前に読んでおくこと（2 時間）
11	日本人の食事摂取基準 2025 年版について（2） 小テストと解説	日本人の食事摂取基準 2020 年版を事前に読んでおくこと（2 時間）
12	栄養指導に必要な基礎知識 栄養指導の教材・媒体の特徴	指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）
13	栄養指導とカウンセリング(1) カウンセリングの基本と理解	指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）
14	栄養指導とカウンセリング(2) カウンセリングの基本と理解	指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）
15	効果的な栄養指導について　小テストと解説	これまでの復習（2 時間）

テキスト	芦川修貳編著『栄養士のための栄養指導論』（学建書院） 佐々木 敏監修『日本人の食事摂取基準 2025 年版』（女子栄養大学出版部）
指定図書	あり（巻末参照）

科目名	ライフステージ栄養指導論	担当者	須磨亜沙子
区分等	２年次・後期［講義］２単位　必修／健康栄養専攻		
評価基準	1.　受講態度（質問及び回数、ノート記入等）(40%) 2.　定期試験(60%)		
課題に対するフィードバック	授業毎に行う振り返りで得た質問に関しては、随時アドバイスや提案をする等、学生へフィードバックする。		
目的	各ライフステージにおける生理的特徴を理解し、起こりうる栄養代謝の異常・栄養状態に応じた栄養管理・栄養指導法を身に付ける。		
到達目標	1.　ライフステージ、ライフスタイルに応じた栄養、食生活の諸問題、課題を説明することができるようになる。(DP1,DP2) 2.　ライフステージ、ライフスタイルに応じた栄養教育のあり方と栄養教育カリキュラムのポイントを理解できる。(DP1) 3.　ライフステージ、ライフスタイルに応じた栄養教育について効果的な方法を説明することができるようになる。(DP2) 4.　ヘルスプロモーションの考え方をふまえ、食環境づくりの関係及びその必要性を説明することができるようになる。(DP2) 5.　栄養指導を行う代表的疾患の特徴とその指導方法について理解できる。(DP1)		
履修上の注意	なし		
オフィスアワー	月曜日　9～10 時		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	ライフステージ別栄養指導の意義と目的	予習：該当する教科書のページを読む（１時間） 復習：ノートの整理と確認（１時間）
2	妊娠期の栄養管理・栄養指導①	予習：該当する教科書のページを読む（１時間） 復習：ノートの整理と確認（１時間）
3	妊娠期の栄養管理・栄養指導②	予習：該当する教科書のページを読む（１時間） 復習：ノートの整理と確認（１時間）
4	授乳期の栄養管理・栄養指導①	予習：該当する教科書のページを読む（１時間） 復習：ノートの整理と確認（１時間）
5	授乳期の栄養管理・栄養指導②	予習：該当する教科書のページを読む（１時間） 復習：ノートの整理と確認（１時間）
6	幼児期の栄養管理・栄養指導①	予習：該当する教科書のページを読む（１時間） 復習：ノートの整理と確認（１時間）
7	幼児期の栄養管理・栄養指導②	予習：該当する教科書のページを読む（１時間） 復習：ノートの整理と確認（１時間）
8	思春期の栄養管理・栄養指導①	予習：該当する教科書のページを読む（１時間） 復習：ノートの整理と確認（１時間）
9	思春期の栄養管理・栄養指導②	予習：該当する教科書のページを読む（１時間） 復習：ノートの整理と確認（１時間）
10	青年期・壮年期の栄養管理・栄養指導①	予習：該当する教科書のページを読む（１時間） 復習：ノートの整理と確認（１時間）
11	青年期・壮年期の栄養管理・栄養指導②	予習：該当する教科書のページを読む（１時間） 復習：ノートの整理と確認（１時間）
12	老年期の栄養管理・栄養指導①	予習：該当する教科書のページを読む（１時間） 復習：ノートの整理と確認（１時間）
13	老年期の栄養管理・栄養指導②	予習：該当する教科書のページを読む（１時間） 復習：ノートの整理と確認（１時間）
14	老年期の栄養管理・栄養指導③	予習：該当する教科書のページを読む（１時間） 復習：ノートの整理と確認（１時間）
15	総合学習	予習：該当する教科書のページを読む（１時間） 復習：ノートの整理と確認（１時間）

テキスト	友竹浩之、他編『栄養科学シリーズ NEXT　臨床栄養学概論』(講談社) 本田佳子編『新臨床栄養学　栄養ケアマネジメント』(医歯薬出版)
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	**解剖生理学実験**	担当者	齋藤　謙
区　分　等	２年次・前期［実験］１単位　選択／健康栄養専攻		
評価基準	レポート提出（80%）と実験態度（20%）により評価。		
課題に対するフィードバック	毎回、実習中に巡回して質問に答え、必要に応じて補足の説明を行う。		
目　　的	解剖生理学 I,II の講義で理解したことを、実際の観察によってより確かなものとする。		
到達目標	人体の構造および生理現象の実験を通して、各臓器・組織の構造と働きを理解できる。 (DP1、DP2、DP3)		
履修上の注意	特になし。		
オフィスアワー	水曜日 13 時～14 時		

	授業計画	授業外学習
1	顕微鏡の観察法、組織標本の染色法、 組織実習：大腸(消化管壁の 5 層構造)	プリント(顕微鏡の使い方、組織標本の染色法)、 解剖 171-2, 201(1 時間)
2	組織実習：大腸(粘膜下の小動静脈、筋層の 平滑筋細胞、粘膜下・筋間神経叢)	解剖 151,185,生理 42, 47,229-30, プリント(細動脈、細静脈の横断面)(1 時間)
3	NHK の DVD「人体 I-3（胃)」視聴 組織実習：胃（胃体部)	解剖 188-92, 生理 3(図 1-1), 臨床栄養 23-5(1 時間)
4	NHK の DVD「人体 I-3（腸)」視聴 組織実習：小腸（空腸)	解剖 192-8, 臨床栄養 35-6(1 時間)
5	組織実習：肝臓	解剖 201-6, 152-4（1 時間)
6	組織実習：膵臓（外分泌、内分泌)	解剖 208-10, 臨床栄養 33-5, 19-20(1 時間)
7	生理実習：味覚（塩味、甘味) HK の DVD「人体 I-3（歯の手入れ)」視聴	解剖 182-4, 179-82, 288, 347, 296(図 13-13)。 解剖 175-8(1 時間)
8	組織実習：心臓（左心室)	解剖 128-32, 15-6(1 時間)
9	組織実習：肺	解剖 221-31(1 時間)
10	組織実習：腎臓	解剖 235-46, 生理 102(図 6-3), 臨栄 151(図 7-5) (1 時間)
11	組織実習：副腎皮質・髄質	解剖 274-6, 生理 175(図 10-4), 解剖 266(図 12-1), 268, 臨栄 127(1 時間)
12	組織実習：末梢血塗抹標本	解剖 165-9, 臨床栄養 283
13	生理実習：視覚、嗅覚	解剖 353-9, 346(図 13-54), 218-20, 347 解剖生理学実験 141,143(1 時間)
14	DVD「アトピー性皮膚炎（皮膚バリアの保持)」 視聴。組織実習：皮膚	解剖 367-74, プリント(表皮の組織像)(1 時間)
15	生理実習：血圧測定	臨床栄養 126, 生理 41(図 3-12) 解剖 143(図 7-24), 解剖生理学実験 87-9(1 時間)

テキスト	青峰、藤田、他共著『イラスト解剖生理学実験』(東京教学社) 藤田恒夫著『入門人体解剖学』(南江堂) 彼末一之、能勢　博編『やさしい生理学』(南江堂) 後藤昌義、瀧下修一著『新しい臨床栄養学』(南江堂)
指定図書	なし

※実務経験のある教員による授業科目の担当教員の実務経験および、教育内容
実務経験：医師として病院勤務
教育内容：人体の構造および生理現象を人体の計測、生理実習、組織実習により実践的に学び、各臓器・組織の構造と働きを学習する。

科　目　名	**生化学実験**	担当者	浅野純平
区　分　等	２年次・後期［実験］１単位　選択／健康栄養専攻		
評価基準	1.複数回のレポート（50%） 2.実験に取り組む姿勢（50%）		
課題に対するフィードバック	実験の中でレポートに関する解説を行う。		
目　　的	生体物質の特性を理解し、実験技術を習得する。		
到達目標	1.タンパク質の定量法について学び、理解を深めることができる。(DP1,DP2) 2.酵素の諸性質について理解を深めることができる。(DP1,DP2) 3.尿・唾液等を用いて様々な生化学的検査を行い、検査値について理解できる。(DP1,DP2) 4.検体検査、生理機能検査を理解できる。(DP3)		
履修上の注意	1.実験中は白衣を着用すること。 2.レポートは実験毎に提出すること。 3.グラフ用紙、計算機、実験ノート、生化学の教科書を持参すること。 4.班毎の実験ではあるが、必ず各人が身体を動かし実験すること。 時間を有効に利用して実習時間内にレポートを作成することが望ましい。		
オフィスアワー	月曜日～金曜日 16:30 以降		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	官能基・アミノ酸の構造	第1回レポートの準備(1時間)
2	緩衝液の調製	第2回レポートの準備(1時間)
3	タンパク質の定量	第3回レポートの準備(1時間)
4	分光分析	第4回レポートの準備(1時間)
5	酵素反応―(1)	第5回レポートの準備(1時間)
6	酵素反応―(2)	第6回レポートの準備(1時間)
7	第1回から第6回目までの実験内容のまとめと解説	第1回から第6回目までのレポートの見直(1時間)
8	アルコール感受性試験およびヒト遺伝子に関する講義	第7回レポートの準備(1時間)
9	簡易血糖測定装置による食事前後の血糖値測定による耐糖能の観察	第8回レポートの準備(1時間)
10	唾液と尿を用いた生化学的検査-(1)尿を用いた酵素反応実験の応用	第9回レポートの準備(1時間)
11	唾液と尿を用いた生化学的検査-(2)ろ紙ディスク法による味覚実験	第10回レポートの準備(1時間)
12	唾液と尿を用いた生化学的検査-(3)尿中、唾液中の Na+濃度、K+濃度	第11回レポートの準備(1時間)
13	唾液と尿を用いた生化学的検査-(4)唾液アミラーゼの実験	第12回レポートの準備(1時間)
14	唾液と尿を用いた生化学的検査-(5)尿中クレアチニンの定量	第13回レポートの準備(1時間)
15	第8回から第14回目までの実験内容のまとめと解説	第7回から第13回目までのレポートの見直し(1時間)

テキスト	『2025年度版 生化学実験書』
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	**栄養学実習**	担当者	浅野純平
区　分　等	２年次・前期［実習］１単位　選択／健康栄養専攻		
評価基準	1.レポート（50%） 2.実験に取り組む姿勢（50%）		
課題に対するフィードバック	実習の中でレポートに関する解説を行う。		
目　　的	栄養学の意義を理解し、実験技術を習得する。		
到達目標	1.栄養素や酵素に関する実験を行い、それらの諸性質を理解できる。(DP1,DP2) 2.動物実験を行い、生体試料の調製方法を学びながら、生命の尊厳を考えることができる。(DP3) 3.パソコンを活用した栄養計算、栄養補正、栄養評価方法を理解できる。(DP1,DP2)		
履修上の注意	1.実験中は白衣を着用すること。 2.レポートは実験毎に提出すること。 3.グラフ用紙、計算機、実験ノートを持参すること。 4.班毎の実験ではあるが、必ず各人が身体を動かし実験すること。時間を有効に利用して実習時間内にレポートを作成することが望ましい。		
オフィスアワー	月曜日～金曜日 16:30 以降		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	体組成計を用いる自己の身体状況の評価 (BMI、筋肉量、骨密度などの測定)	第1回レポートの準備(1時間)
2	栄養価計算 (パソコンを用いる栄養価計算)	第2回レポートの準備(1時間)
3	自己の食物摂取状況の評価-(1) (食事調査、摂取エネルギー量の算出)	第3回レポートの準備(1時間)
4	デンプンのヨウ素反応 (粗デンプンの調製とヨウ素反応)	第4回レポートの準備(1時間)
5	等電点沈殿を利用した牛乳からのカゼインの分離 (カゼインの分離、タンパク質とリンの定性)	第5回レポートの準備(1時間)
6	脂質の定性とコレステロールの反応 (乳化反応、リーベルマン･ブルアルト反応)	第6回レポートの準備(1時間)
7	ビタミンＣの定量 (緑茶、紅茶中のビタミンＣの定量)	第7回レポートの準備(1時間)
8	第1回から第7回目までの実習内容のまとめと解説	第1回から第7回目までのレポートの見直(1時間)
9	動物実験に関する教育訓練	動物実験に関する教育訓練配付資料の通読(1時間)
10	ラットの解剖(摂食と絶食による臓器所見の比較、臓器所見の作成、血清と肝臓の採取)	第8回レポートの準備(1時間)
11	ラット血清中の血糖値の定量 (絶食が血糖値に及ぼす影響を調べる)	第9回レポートの準備(1時間)
12	ラット血清中のトリグリセリドの定量 (絶食がトリグリセリド量に及ぼす影響を調べる)	第10回レポートの準備(1時間)
13	ラット血清･肝臓タンパク質の定量（ローリ法) (絶食がタンパク質量に与える影響を調べる)	第11回レポートの準備(1時間)
14	肝グルコース-6-ホスファターゼ活性の測定 (絶食が酵素活性に及ぼす影響を調べる)	第12回レポートの準備(1時間)
15	自己の消費エネルギー量の算出 第9回から第15回目までの実習内容のまとめと解説	第8回から第12回目までのレポートの見直し(1時間)

テキスト	『2025年度版 栄養学実習書』
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	ライフステージ栄養学実習	担当者	豊嶋瑠美子
区　分　等	２年次・前期［実習］１単位　選択／健康栄養専攻		
評価基準	レポート(60%)、調理技術（20%）、受講態度(20%)		
課題に対するフィードバック	レポートは適宜確認し、返却する。		
目　　的	ライフステージに対応した栄養マネジメント能力を養う。		
到達目標	1. ライフステージの特性を理解した上で、対象者に応じた栄養計画、実施、評価ができる。(DP1) 2. グループで自らの考えを発言でき、メンバーと円滑な合意形成を図ることができる。(DP2・DP3)		
履修上の注意	1. 材料費は別途で徴収する。 2. 食品を取り扱うので、調理用白衣・帽子・コックシューズを着用し、衛生管理の徹底を心がけること。 3. 食品成分表と電卓を持参すること。		
オフィスアワー	月曜日 11：00～12：00		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション　(1) 実習の目標と内容 (2) 栄養アセスメントおよび栄養計画	予習：テキスト P33～P38　を読む（1 時間） 復習：自分の食生活についてレポートを作成する。(1 時間)
2	妊娠期、乳児期の栄養管理（1） 生後 5～6 か月 調乳・離乳食	予習：テキスト P172、P48～62 を読む（1 時間） 復習：実習後はレポートを作成する。（1 時間）
3	乳児期の栄養管理（2）生後 7～8 か月、9～11 か月、12～18 か月 離乳食	予習：テキスト P64～74 を読む（1 時間） 復習：実習後はレポートを作成する。（1 時間）
4	幼児期の栄養管理（1）4 歳女子の栄養アセスメント	予習：テキスト P76～81 を読む（1 時間） 復習：乳児期の課題提出（2 時間）
5	幼児期の栄養管理（2）献立作成	予習：テキスト P83～101 を読み、乳児期の献立作成を行い、授業時に持参する。（１時間） 復習：レシピ作成をする。（１時間）
6	幼児期の栄養管理（3）実施、評価	予習：レシピを読んで、工程を確認する。（１時間） 復習：実習後はレポートを作成する。（2 時間）
7	学童期の栄養管理（1）8 歳女子の栄養アセスメントと栄養計画	予習：テキスト P102～110　を読む（1 時間） 復習：学童期の栄養アセスメントを考える。（１時間）
8	学童期の栄養管理（2）献立作成	予習：学童期の献立作成を行い、授業時に持参する。（１時間） 復習：レシピ作成をする。（１時間）
9	学童期の栄養管理（3）実施、評価	予習：レシピを読んで、工程を確認する。（１時間） 復習：実習後はレポートを作成する。（2 時間）
10	思春期の栄養管理（1）16 歳女子の栄養アセスメントと栄養計画　3・1・2 弁当箱法	予習：指定図書の該当箇所を読む。（１時間） 復習：幼児期・学童期の課題を提出する。(2 時間)
11	思春期・青人期の栄養管理（2）実施、評価	予習：テキスト P134～159 を読み、レシピを読んで、工程を確認する。（１時間） 復習：実習後はレポートを作成する。（1 時間）
12	高齢期の栄養管理（1）70 歳女性の栄養アセスメント	予習：テキスト P178～194 を読む（1 時間） 復習：栄養アセスメントを確認する。(1 時間)
13	高齢期の栄養管理（2）70 歳女性の栄養計画	予習：高齢期の献立作成を行い、授業時に持参する。（１時間） 復習：レシピ作成をする。（１時間）
14	高齢期の栄養管理（3）実施献立	予習：レシピを読んで、工程を確認する。（１時間） 復習：実習後はレポートを作成する。（2 時間）
15	高齢期の栄養管理（4）スマイルケア食、嚥下摂食機能回復支援食の試食	予習：テキスト P196～199 を読む（1 時間） 復習：思春期・高齢期の課題提出（2 時間）

テキスト	東愛子・原田まつ子編『応用栄養学実習 ライフステージ別の栄養管理』 （講談社サイエンティフィク）
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	臨床栄養学実習	担当者	須磨亜沙子
区　分　等	２年次・前期［実習］１単位　選択／健康栄養専攻		
評価基準	受講態度（質問及び回数、ノート記入等）(40%)、課題（60%）		
課題に対するフィードバック	1.　課題について評価し、随時解説やアドバイスを行いながら返却する。 2.　授業毎に行う振り返りで得た質問に関しては、随時アドバイスや提案をする等、学生へフィードバックする。		
目　　的	傷病者の病態や栄養状態に基づき、適切な栄養管理を行うための栄養食事計画の技術を養う。		
到達目標	1.　常食から治療食への展開食の計画、調整ができるようになる。(DP1,DP2) 2.　各疾患の食事調整・献立計画・調理実習を通して、栄養管理の意義を理解できる。(DP1,DP2) 3.　成分別栄養管理および疾病別栄養管理について理解できる。(DP1) 4.　糖尿病・腎臓病交換表により献立作成ができ、活用方法を説明できるようになる。(DP1)		
履修上の注意	1.　調理の日は指定の白衣、帽子、コックシューズを準備すること。 2.　食品成分表・電卓を持参すること。 3.　材料費を徴収する。		
オフィスアワー	火曜日　11～12 時		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション 臨床栄養学実習の目標、食事療養の意義 治療食の種類（一般食と特別治療食）、献立の展開	予習：該当する教科書のページを読む（１時間） 復習：実習書の整理（２時間）
2	献立展開の実際 一般食の展開	予習：該当する教科書のページを読む（１時間） 復習：実習書の整理（２時間）
3	一般食（常食、軟食、流動食）の調理	予習：該当する教科書のページを読む（１時間） 復習：実習書の整理（２時間）
4	一般食から特別治療食への献立の展開 常食→塩分コントロール食	予習：該当する教科書のページを読む（１時間） 復習：実習書の整理（２時間）
5	特別治療食の食事計画　塩分コントロール食の調理	予習：該当する教科書のページを読む（１時間） 復習：実習書の整理（２時間）
6	一般食から特別治療食への献立の展開 常食→脂質コントロール食	予習：該当する教科書のページを読む（１時間） 復習：実習書の整理（２時間）
7	特別治療食の食事計画　脂質コントロール食の献立作成	予習：該当する教科書のページを読む（１時間） 復習：実習書の整理（２時間）
8	特別治療食の食事計画　脂質コントロール食の調理	予習：該当する教科書のページを読む（１時間） 復習：実習書の整理（２時間）
9	一般食から特別治療食への献立の展開 常食→エネルギーコントロール食	予習：該当する教科書のページを読む（１時間） 復習：実習書の整理（２時間）
10	特別治療食の食事計画　エネルギーコントロール食の献立作成	予習：該当する教科書のページを読む（１時間） 復習：実習書の整理（２時間）
11	特別治療食の食事計画　エネルギーコントロール食の調理	予習：該当する教科書のページを読む（１時間） 復習：実習書の整理（２時間）
12	食品交換表を活用した食事計画の考え方(1) 糖尿病	予習：該当する教科書のページを読む（１時間） 復習：実習書の整理（２時間）
13	食品交換表を活用した食事計画の考え方(2) 腎臓病	予習：該当する教科書のページを読む（１時間） 復習：実習書の整理（２時間）
14	特別治療食の食事計画　タンパク質制限食 治療用特殊食品を利用した献立の考え方	予習：該当する教科書のページを読む（１時間） 復習：実習書の整理（２時間）
15	評価を含むまとめ	予習：該当する教科書のページを読む（１時間） 復習：実習書の整理（２時間）

テキスト	芦川修貳、ほか編集『栄養士になるための臨床栄養学実習・食事療養実務入門』(学建書院) 芦川修貳、ほか編集『栄養士になるための臨床栄養学実習・別冊・食事療養実務実習書』(学建書院) 松本仲子監修『調理の基本　まるわかり便利帳』(女子栄養大出版部) 日本糖尿病学会編『糖尿病食事療法のための食品交換表』(文光堂) 浅野誠一他著『腎臓病食品交換表』(医歯薬出版)
指定図書	あり（巻末参照）

※実務経験のある教員による授業科目の担当教員の実務経験および、教育内容

実務経験：管理栄養士として病院勤務

教育内容：傷病者の病態や栄養状態に基づき、適切な栄養管理を行うための栄養食事計画の技術を、食事調整・献立作成・調理実習等の実践的教育により養う。

科　目　名	**栄養指導実習**	担当者	伊藤雅子
区　分　等	２年次・後期［実習］１単位　選択／健康栄養専攻		
評 価 基 準	プレゼンテーション（50%）、実習記録の提出(30%)、課題レポート(20%)。		
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスや提案をする等、学生にフィードバックする。		
目　　的	各対象者における栄養指導のあり方、方法について学習する。		
到 達 目 標	①行動科学やカウンセリングなどの理論を理解し、栄養指導の計画を立案できる。（DP1） ②実際の場面を想定して栄養指導ができる。（DP1.2） ③対象者に合わせてコミュニケーション方法を選択し効果的な栄養指導ができる。(DP12.3)		
履修上の注意	栄養学総論・各論、臨床栄養学、調理学、栄養指導論などの科目を基礎とし、演習方式で授業を行う。		
オフィスアワー	月曜日 16 時～17 時		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	話し方の基礎　パワーポイントの有効な活用（1）	指定した教科書を事前に読んでおくこと
2	話し方の基礎　パワーポイントの有効な活用（3）	事前に配布する資料を読んでおくこと
3	有効なプレゼンテーションの方法　外部講師	事前に配布する資料を読んでおくこと
4	教育・媒体の種類と活用　（1）	事前に配布する資料を読んでおくこと
5	教育・媒体の種類と活用　（2）	事前に配布する資料をまとめておくこと
6	1～5 回のまとめ　プレゼンテーション	発表内容をまとめておくこと
7	栄養指導の資料作成方法について （個別指導・集団指導）（1）	指定した教科書を事前に読んでおくこと
8	栄養指導の資料作成方法について （個別指導・集団指導）（2）	指定した教科書を事前に読んでおくこと
9	栄養指導における有効な資料について　まとめ	担当の対象者の栄養指導関連文献を読んでおくこと
10	栄養指導におけるコミュニケーションの取り方（1）	事前に配布する資料を読んでおくこと
11	栄養指導におけるコミュニケーションの取り方（2） 病態別栄養指導の方法	事前に配布する資料を読んでおくこと
12	病態別栄養指導案作り　（1）	担当の対象者の栄養指導関連文献を読んでおくこと
13	病態別栄養指導案作り　（2）	担当の対象者の栄養指導関連文献を読んでおくこと
14	病態別栄養指導実施（1）	担当の対象者の栄養指導関連文献を読んでおくこと
15	病態別栄養指導実施（2）	担当の対象者の栄養指導関連文献を読んでおくこと

テキスト	芦川修貳編著『栄養士のための栄養指導論』(学建書院) 佐々木 敏監修『日本人の食事摂取基準 2025 年版』(女子栄養大学出版部)
指定図書	あり（巻末参照)。

※実務経験のある教員による授業科目の担当教員の実務経験および、教育内容
実務経験：管理栄養士として病院勤務
教育内容：集団指導の実践を通して、食生活全般にわたる教育・指導に必要な企画力、教育・指導力を養う。

科　目　名	ライフステージ栄養指導実習	担当者	須磨亜沙子
区　分　等	２年次・後期［実習］１単位　選択／健康栄養専攻		
評価基準	実習態度（30%）、課題提出（30%）、発表内容（40%）		
課題に対するフィードバック	1.　課題、発表内容について評価し、留意点について授業内でフィードバックを行う。 2.　授業毎に行う振り返りで得た質問に関しては、随時アドバイスや提案をする等、学生へフィードバックする。		
目　　的	理論で学んだ基礎知識を応用して、食生活全般にわたる教育・指導に必要な企画力、教育・指導力を養う。		
到達目標	1.　ライフステージ別に栄養教育の課題を理解し、指導計画を立案できるようになる。(DP1,DP2) 2.　対象に応じた指導案を作成できるようになる。(DP1,DP2) 3.　指導内容にあった媒体を選択し、適切に活用できるようになる。(DP2) 4.　集団・個別指導技術を身に付け、指導を円滑に進めることができるようになる。(DP1,DP2) 5.　集団・個別指導の実践を通して対象者に効果的な指導方法とはどのようなものかについて理解できる。(DP1)		
履修上の注意	指導対象者の実態把握のための情報収集、栄養指導方法の検討、指導媒体の検討をするために図書館の図書を積極的に利用してほしい。		
オフィスアワー	火曜日　15～16 時		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	ライフステージ別栄養管理	予習:各ライフステージの特性を調べる。(１時間)
2	妊娠期・授乳期　栄養指導計画書作成	予習：該当するライフステージの特性を調べる。（１時間）
3	妊娠期・授乳期　栄養指導案作成	予習：該当するライフステージの特性を調べる。（１時間）
4	乳児期・幼児期　栄養指導計画書作成	予習：該当するライフステージの特性を調べる。（１時間）
5	乳児期・幼児期　栄養指導案作成	予習：該当するライフステージの特性を調べる。（１時間）
6	学童期・思春期　栄養指導計画書作成	予習：該当するライフステージの特性を調べる。（１時間）
7	学童期・思春期　栄養指導案作成	予習：該当するライフステージの特性を調べる。（１時間）
8	青年期・壮年期　栄養指導計画書作成	予習：該当するライフステージの特性を調べる。（１時間）
9	青年期・壮年期　栄養指導案作成	予習：該当するライフステージの特性を調べる。（１時間）
10	高齢期　栄養指導計画書作成	予習：該当するライフステージの特性を調べる。（１時間）
11	高齢期　栄養指導案作成	予習：該当するライフステージの特性を調べる。（１時間）
12	栄養指導媒体作成（１）	予習：該当するライフステージの特性を調べる。（１時間）
13	栄養指導媒体作成（２）	予習：該当するライフステージの特性を調べる。（１時間）
14	栄養指導の実際　模擬指導	予習：該当するライフステージの特性を調べる。（１時間）
15	栄養指導の評価	復習：これまでのまとめ（１時間）

テキスト	なし
指定図書	あり（巻末参照）

※実務経験のある教員による授業科目の担当教員の実務経験および、教育内容

実務経験：管理栄養士として病院勤務

教育内容：行動科学やカウンセリングなどの理論を理解し、栄養指導の計画を立案できるよう、実際の場面を想定したライフステージ・ライフスタイルに応じた栄養指導のあり方を実践的に学ぶ。

科　目　名	**給食管理実習Ⅰ**	担当者	伊藤雅子
区　分　等	２年次・前期［実習］１単位　選択／健康栄養専攻		
評価基準	レポート（50%）実習態度（40%）実技テスト（10%）		
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスや提案をする等、学生にフィードバックする。		
目　　的	各専門科目の学習で得た知識を応用して給食施設の特徴を知り、給食管理に必要な管理能力を総合的に身につけること。		
到達目標	4班編成にし各班で実習を担当 ①給食施設での栄養士の役割について知ることができる。（DP1） ②予算にあった献立作成ができるようにする。（DP1） ③大量調理施設衛生管理マニュアルに基づく調理作業管理ができるようにする。（DP1） ④発注業務管理ができるようにする。（DP1） ⑤集団調理での栄養士の役割、予測力、コミュニケーション力を養う。（DP1.2.3）		
履修上の注意	①『八訂日本食品成分表』、電卓準備。 ②調理の日は指定の白衣、帽子、コックシューズを着用。 ③材料費を徴収する。		
オフィスアワー	月曜日　16時～17時		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	給食管理実習オリエンテーション 給食管理実習の意義と目的、実習室の説明、作業と衛生管理の留意点。	シラバスの確認と指定した教科書を事前に読んでおくこと（2時間）
2	大量調理の基本	指定した教科書を事前に読んでおくこと
3	献立作成、発注・発注の基本・帳票管理	対象献立を考えておくこと
4	テーマ献立実習（1班） 2.3.4班：作業工程表・発注書作成　・検食 （2班：実技テスト）	作業工程表・作業指示書を作成しておくこと
5	テーマ献立実習（3班） 2.4班：作業工程表・発注書作成　・検食 1班　検食・原価計算・検食簿まとめ・献立作成 （4班：実技テスト）	作業工程表・作業指示書を作成しておくこと
6	テーマ献立実習（2班） 4班：作業工程表・発注書作成　・検食・ 3班　検食・原価計算・検食簿まとめ・献立作成 （1班：実技テスト）	作業工程表・作業指示書を作成しておくこと
7	テーマ献立実習（4班） 1.3班：作業工程表・発注書作成　・検食・ 原価計算 2班　検食・原価計算・検食簿まとめ・献立作成 （3班：実技テスト）	作業工程表・作業指示書を作成しておくこと
8	ランチ献立作成・作業工程表・発注書作成（1） 業務用製品を学ぶ	配布した資料を読んでおくこと
9	ランチ献立作成・作業工程表・発注書作成（2）	配布した資料を読んでおくこと
10	ランチ提供（1）	試作により改善すべき点を見出しておくこと
11	ランチ提供（2）	試作により改善すべき点を見出しておくこと
12	ランチ提供（3）	試作により改善すべき点を見出しておくこと
13	ランチ提供（4）	試作により改善すべき点を見出しておくこと
14	ランチ提供　まとめ	試作により改善すべき点を見出しておくこと
15	コンベクションオーブンの使い方（外部講師）	配布した資料を読んでおくこと

テキスト	藤原政嘉編著『給食経営管理実習ワークブック第3版』（株式会社みらい） 松本仲子監修『調理の基本　まるわかり便利帳』（女子栄養大学出版部） 佐々木 敏監修『日本人の食事摂取基準2025年版』（女子栄養大学出版部）
指定図書	あり（巻末参照）

※実務経験のある教員による授業科目の担当教員の実務経験および、教育内容
実務経験：管理栄養士として病院・福祉施設で勤務
教育内容：大量調理施設衛生管理マニュアルに基づき調理作業管理等を実践的に学び、給食管理に必要な管理能力を総合的に身につける。

科　目　名	**給食管理実習Ⅱ**	担当者	伊藤雅子
区　分　等	２年次・集中［校外実習］２単位　選択／健康栄養専攻		
評価基準	校外実習レポート（60%）、報告会の発表内容（30%）実習現場先の総合的評価（10%）		
課題に対するフィードバック	提出物については、随時コメントを付けて返却する。		
目　　的	給食施設における給食管理の実際を体験し、栄養士に必要な知識・技術・応用力を身につける。		
到達目標	①給食運営の実際を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントを行う能力を養う。 ②献立管理のポイントを知ることができる。（DP1） ③食数管理の方法を知る事ができる。（DP1） ④発注管理のポイントを知ることができる。（DP1） ⑤在庫管理の重要さを知ることができる。（DP1） ⑥事務管理のポイントを知ることができる。（DP1） ⑦衛生管理の重要さを知ることができる。（DP1） ⑧栄養士の実務に必要な総合能力を養う。（DP1.2.3）		
履修上の注意	『八訂日本食品成分表』、電卓準備。		
オフィスアワー	月曜日 16 時～17 時		

授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
①校外実習先の概要を学び、その施設について理解、指導者の計画に基づき実習訓練を受ける。 ②個人の目標として、その施設の事務管理、衛生管理、作業管理、栄養管理について目標を持って実習に入る。 ③対象者に合わせた食形態、病態に合わせた食事内容について確認 ④研究テーマの設定（１課題） ⑤校外実習時間　８０時間 ⑥報告会の発表準備 ⑦報告会の実施	大量調理施設衛生管理マニュアルを熟読しておく。 校外実習先対応の参考文献を読んでおく。 研究テーマについての関連文献を読んでおく。

テキスト	松崎政三編著『臨地実習マニュアル(給食経営管理・給食の運営)』第 3 版(建帛社) 藤原政嘉編『給食経営管理実習ワークブック第 3 版』(株式会社みらい) 松本仲子監修『調理の基本　まるわかり便利帳』(女子栄養大学出版部) 芦川修貳編著『栄養士のための栄養指導論』(学建書院) 佐々木 敏監修『日本人の食事摂取基準 2025 年版』(女子栄養大学出版部)
指定図書	あり（巻末参照）

※実務経験のある教員による授業科目の担当教員の実務経験および、教育内容

実務経験：管理栄養士として病院・福祉施設で勤務

教育内容：大量調理施設衛生管理マニュアルに基づき調理作業管理等を実践的に学び、給食管理に必要な管理能力を総合的に身につける。

科目名	**調理学実験**	担当者	豊嶋瑠美子
区分等	２年次・後期［実験］１単位　選択／健康栄養専攻		
評価基準	レポート(70%)、受講態度(30%)		
課題に対するフィードバック	レポートは適宜確認し、評価をつけて返却する。		
目的	調理過程における食品の変化を理解し、健康を考えた調理を再現できる応用力と想像力を養う。		
到達目標	1.　食品の性質を理解した上で、調理操作による科学的変化を説明できる。(DP1) 2.　科学的根拠を捉えて考察し、実験レポートを作成できる。(DP2) 3.　グループで協力し、実験を遂行することができる。(DP2・3)		
履修上の注意	1. 材料費は別途で徴収する。 2. 食品を取り扱うので、調理用白衣・帽子・コックシューズを着用し、衛生管理の徹底を心がけること。 3. フードスペシャリスト資格取得を目指す者は必ず履修すること。		
オフィスアワー	火曜日 15：00～16：00		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション：(1) 実験の導入と心がけ　(2) レポートの書き方	予習：図書館で指定図書を探す。(1 時間) 復習：配付された実験書の内容を確認する。(1 時間)
2	測定の基礎：(1) 食品の体積と密度　(2) 嗅覚～たまねぎのにおいの調理による変化	予習：実験書 P1～4 の内容を実験の目的、方法について理解した上で授業に臨む。(1 時間) 復習：実験後はレポートを作成する (1 時間)
3	栄養・健康性：(1) 汁物の調理方法と塩分摂取量　(2) 香ばしさ・油のコク・辛味・酸味の減塩効果	予習：実験書 P15～18 の内容を実験の目的、方法について理解した上で授業に臨む。(1 時間) 復習：実験後はレポートを作成する (1 時間)
4	調理による理化学的変化：(1) うるち米、もち米の浸漬による変化　(2) 米粉シフォンケーキの調理特性	予習：実験書 P19～21 の内容を実験の目的、方法について理解した上で授業に臨む。(1 時間) 復習：実験後はレポートを作成する (1 時間)
5	調理による理化学的変化：(1) 鶏卵の鮮度鑑別と各部重量　(2) 卵の起泡性と泡の安定性～添加物の影響～	予習：実験書 P43～46 の内容を実験の目的、方法について理解した上で授業に臨む。(1 時間) 復習：実験後はレポートを作成する (1 時間)
6	オリジナルハーブティーの作製 (1)	予習：指定図書を用いて調べる (1 時間) 復習：レポートを作成し考察する。(1 時間)
7	オリジナルハーブティーの作製 (2)	予習：指定図書を用いて調べる (1 時間) 復習：レポートを作成し考察する。(1 時間)
8	オリジナルハーブティーの作製 (3)	予習：指定図書を用いて調べる (1 時間) 復習：レポートを作成し考察する。(1 時間)
9	調理による理化学的変化：スポンジケーキの品質に及ぼす卵の影響	予習：実験書 P23～24 の内容を実験の目的、方法について理解した上で授業に臨む。(1 時間) 復習：実験後はレポートを作成する (1 時間)
10	調理による理化学的変化：(1) 野菜の色と調理変化　(2) 果物の変色・褐変	予習：実験書 P25～27 の内容を実験の目的、方法について理解した上で授業に臨む。(1 時間) 復習：実験後はレポートを作成する (1 時間)
11	調理による理化学的変化：(1) さつまいもの加熱調理と甘味　(2) あずきあんの調製と性状	予習：実験書 P31～34 の内容を実験の目的、方法について理解した上で授業に臨む。(1 時間) 復習：実験後はレポートを作成する (1 時間)
12	調理による理化学的変化：(1) ハンバーグにおける食塩や副材料の役割　(2) 湿式加熱による肉の硬さとスープの食味における加熱時間の影響	予習：実験書 P35～39 の内容を実験の目的、方法について理解した上で授業に臨む。(1 時間) 復習：実験後はレポートを作成する (1 時間)
13	調理による理化学的変化：切り身魚を調味液に入れる時期の影響	予習：実験書 P41～42 の内容を実験の目的、方法について理解した上で授業に臨む。(1 時間) 復習：実験後はレポートを作成する (1 時間)
14	調理による理化学的変化：砂糖添加がゲルの性状とテクスチャーに及ぼす影響	予習：実験書 P47～48 の内容を実験の目的、方法について理解した上で授業に臨む。(1 時間) 復習：実験後はレポートを作成する (1 時間)
15	物性試験について	予習：食品の官能評価鑑別演習 P79～88 を読む。(1 時間) 復習：実験後はレポートを作成する (1 時間)

テキスト	なし。別途実験書を配付する。
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	フードコーディネート論	担当者	豊嶋瑠美子
区　分　等	２年次・後期［講義］２単位　選択／健康栄養専攻		
評価基準	定期試験(30%)、小テスト（30%）、提出物（20%）受講態度(20%)		
課題に対するフィードバック	レポートは適宜確認し、返却する。		
目　　的	この授業では生活者としての視点とビジネスとしての視点を兼ね備え、「食のアメニティの創造」と「ホスピタリティ」をもって仕事をすることができようにフードコーディネートの基礎概念を学ぶ。		
到達目標	1. フードスペシャリストになるための知識を学ぶことができる。(DP1) 2. 食の演出ができるようになるための知識と技能を身につけ、自らの考えを表現することができる。(DP2) 3. グループの活動に積極的に参加し、自らの意見を発言できるとともに、他者への意見を傾聴することができる。(DP3)		
履修上の注意	特になし		
オフィスアワー	月曜日 15：00～16：00		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	フードコーディネートの基本理念	予習：自分の感性を豊かにするためにはどうすればよいか考える。(1 時間) 復習：フードスペシャリストの過去問を見直す（1 時間）
2	食事の文化（日本・諸外国の食事）	予習：テキスト P16～33 を読む。(1 時間) 復習：過去問を解く（2 時間）
3	フードスペシャリスト過去問題模擬試験	予習：過去問を解く（1 時間） 復習：正答率を把握し、直しをする。(2 時間)
4	食卓のコーディネート	予習：テキスト P36～54 を読む。(1 時間) 復習：模擬試験の直しをする。(1 時間)
5	食卓のサービスとマナー（日本・中国・西洋）	予習：テキスト P58～69 を読む。(1 時間) 復習：フードスペシャリストの過去問を 5 問解く（1 時間）
6	食卓のサービスとマナー（パーティー・プロトコル）	予習：テキスト P76～78 を読む。(1 時間) 復習：フードスペシャリストの過去問を 5 問解く（1 時間）
7	メニュープランニングの要件	予習：テキスト P81～86 を読む。(1 時間) 復習：フードスペシャリストの過去問を 5 問解く（1 時間）
8	料理様式とメニュー開発の基礎	予習：テキスト P87～98 を読む。(1 時間) 復習：フードスペシャリストの過去問を 10 問解く（1 時間）
9	食空間のコーディネート	予習：テキスト P100～118 を読む。(1 時間) 復習：フードスペシャリストの過去問を 10 問解く（1 時間）
10	フードサービスマネジメント	予習：テキスト P124～142 を読む。(1 時間) 復習：フードスペシャリストの過去問を 10 問解く（1 時間）
11	食卓の演出のための作品制作	予習：テキスト P16～33 を読む。(1 時間) 復習：祝い膳の箸袋を完成させる。(1 時間)
12	フードコーディネートの基礎①濃淡、構図	予習：テキスト P36～37 を読む。(1 時間) 復習： 指定図書を使用し、盛り付けのイメージを膨らませる。(１時間)
13	フードコーディネートの基礎②質感、総仕上げ	予習：テキスト P37～43 を読む。(1 時間) 復習：指定図書を使用し、盛り付けのイメージを膨らませる。(１時間)
14	テーブルコーディネートの基礎	予習：テキスト P43～45 を読む。(1 時間) 復習：優しい食卓からコーディネートを 1 つ選び描く。(1 時間)
15	テーブルコーディネート・発表	予習：演出したいテーブルコーディネートを計画する。(1 時間) 復習：すべての授業内容を資料やスライドを使って振り返る。(1 時間)

テキスト	日本フードスペシャリスト協会編『三訂フードコーディネート論』（建帛社）
指定図書	あり（巻末参照）

科目名	食品の官能評価・鑑別演習	担当者	熊谷昌則、豊嶋瑠美子
区分等	2年次・後期［講義］1単位　選択／健康栄養専攻		
評価基準	レポート(60%)、小テスト(30%)、演習姿勢(10%)で評価。		
課題に対するフィードバック	レポート、小テストの結果にコメントをつけて返却する。		
目的	フードスペシャリストにとって必要な食品の官能評価・鑑別についての知識や技術を習得し、食品の研究開発、製造、流通、販売などを担う食品産業をはじめとする、食と栄養関係の広範な分野で活躍できる人材を育成する。		
到達目標	1.食品の品質、化学的評価法、物理的評価法を理解した上で個別食品の官能評価・鑑別ができる。(DP1) 2. 食品の官能評価・鑑別技術を食の現場における問題解決に応用できる。(DP2,DP3)		
履修上の注意	1.フードスペシャリスト資格取得を目指す者は、必ず履修すること。 2.予習と復習をしっかりと行うこと。 3. レポートはていねいな作成を心掛け、期限を守って提出すること。 4.食品学、食品衛生学、調理学など、他の授業・実習科目とのつながりを意識して学習すること。		
オフィスアワー	（熊谷）12:30-13:00、16:30-17:00　　（豊嶋）火曜日 15：00～16：00		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	官能評価法の概要　（熊谷）	教科書該当部分の予習・復習（2時間）
2	官能評価演習（Ⅰ）2点・3点比較法　（熊谷）	教科書該当部分の予習・復習 演習内容の整理とレポート作成(2時間)
3	官能評価演習（Ⅱ）一対比較法　（熊谷）	教科書該当部分の予習・復習 演習内容の整理とレポート作成(2時間)
4	官能評価演習（Ⅲ）プロファイル法　（熊谷）	教科書該当部分の予習・復習 演習内容の整理とレポート作成(2時間)
5	演習：色、香り、味を表現する　（豊嶋）	予習：教科書P79を読む。(1時間) 復習：実施後はレポートを作成する。(1時間)
6	オリジナルハーブティー製作（Ⅰ）　（豊嶋）	予習：茶類P219～230を読む。(1時間) 復習：官能評価の結果をまとめる。(1時間)
7	オリジナルハーブティー製作（Ⅱ）　（豊嶋）	予習：茶類P219～230を読む。(1時間) 復習：紹介文を模造紙にまとめる。(1時間)
8	フードスペシャリスト資格認定試験問題（Ⅰ）（豊嶋）	予習：教科書P98～121を読む。(1時間) 復習：過去問を５問解く。(1時間)
9	フードスペシャリスト資格認定試験問題（Ⅱ）（豊嶋）	予習：教科書P126～153を読む。(1時間) 復習：過去問を５問解く。(1時間)
10	フードスペシャリスト資格認定試験問題（Ⅲ）（豊嶋）	予習：教科書P168～209を読む。(1時間) 復習：過去問を５問解く。(1時間)
11	フードスペシャリスト問題の模擬試験　（豊嶋）	予習：模擬試験に備え、過去問を解く。(1時間) 復習：模擬試験の直しをする。(1時間)
12	食品の状態、レオロジーとテクスチャー（豊嶋）	予習：テキストP70～74を読む。(1時間) 復習：過去問を１０問解く。(1時間)
13	個別食品の鑑別演習（Ⅰ）穀類、他　（熊谷）	教科書該当部分の予習・復習 演習内容の整理とレポート作成(2時間)
14	個別食品の鑑別演習（Ⅱ）野菜類、他　（熊谷）	教科書該当部分の予習・復習 演習内容の整理とレポート作成(2時間)
15	個別食品の鑑別演習（Ⅲ）飲料、菓子類（熊谷）	教科書該当部分の予習・復習 演習内容の整理とレポート作成(2時間)

テキスト	『五訂 食品の官能評価・鑑別演習』(建帛社)
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	**教職概論**	担当者	佐藤光咲
区　分　等	１年次・前期［講義］２単位　選択／健康栄養専攻		
評 価 基 準	①レポート（60%）、②履修カード(20%)、③授業参加態度、演習での貢献度（20%）		
課題に対するフィードバック	○毎時間の履修カードに記された課題や質問、感想について、コメントを付し返却し、必要に応じて授業で解説する。 ○レポートを課し、返却時に評価を付し解説する。		
目　　的	教職の意義、チーム学校の一員としての教員の役割、職務内容に関する理解を深めさせることで、教員を志願する者が教職に対する自らの適性を考察し、教職への意欲や一体感の形成を図る。		
到 達 目 標	(1)教員を志す者に理想とする教員像が明確になる。（ DP1） (2)教員に求められる資質能力やチーム学校の一員としての役割を理解し、活動において他者と協力しながら課題を解決しようとする。（ DP1、DP2） (3)教職に就くことについて多角的に考察することができる。（ DP2） (4)教職への意欲・適性等を熟考し、教員を目指して意欲的に進路選択を行うことができる。（DP2、DP3）		
履修上の注意	グループワークをできるだけ取り入れる。		
オフィスアワー	金曜日 15 時～16 時		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	ガイダンス―授業の概要と計画	教師を志す理由をまとめておく。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)
2	教職の意義、理想の教師像	理想の教師像等についてまとめておく。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)
3	法律の中の学校、教師―学校とは、教員とは何か	学校とは何か、教師とは何か、についてまとめておく。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)
4	教員の任用と服務―教員の義務と責任	教員の義務と責任についてまとめておく。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)
5	教師の役割と仕事１―学校における様々な教員等と役割（チーム学校の一員、組織と校務分掌）	学校にはどのような教員や職員がいるのだろうか、調べておく。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)
6	教師の役割と仕事２―学級担任、教科担任～専門家として教科、その他の指導（生徒指導、道徳教育、特別活動など）	学級担任の仕事の内容及び毎日の教科の授業はどのようにして行われているのか、まとめる。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)
7	教師の役割と仕事３―食育推進の中心を担う栄養教諭の仕事	栄養教諭の仕事について情報を収集しまとめておく。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)
8	職務の実際１―教師（栄養教諭）の仕事の実際（１日の仕事・多忙化と働き方改革）	教員の多忙化やその背景を調べておく。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)
9	職務の実際２―教師の力量形成と研修、教員評価	教員の研修とは何か、まとめておく。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)
10	職務の実際３―教員のライフサイクルと異動	教員のライフサイクルや異動について自分の考えをまとめておく。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)
11	職務の実際４―教師のおこなう教育評価（わが国における学習評価の特色）	わが国の学校における学習評価の特徴について調べ、まとめる。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)
12	国の教育施策と秋田県、市町村（学習指導要領、学校教育の指針等）	我が国及び秋田県の教育施策について、ネット等で調べまとめておく。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)
13	教教育実習の意義と心得―教育実習への期待と不安、子どもとの触れ合いと授業実践	教育実習に対する不安や期待、疑問についてまとめておく。((1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)
14	教職への進路選択と教員採用選考―全国・秋田県	栄養教諭採用選考試験に対する不安や期待、疑問についてまとめておく。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)
15	グループ討議―教職の魅力、教師になるということ	これまでの学修を振り返り、教職の意義について再度考え、まとめておく。(1 時間) 授業のまとめと確認、レポートの構想と執筆をする。(１時間)

テキスト	学習資料配付（毎時間）
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	**教育原理**	担当者	寺谷直輝
区　分　等	１年次・前期［講義］１単位　選択／健康栄養専攻		

評価基準	**本科目は学生による発表とディスカッションを中心とした授業ですから、予習・復習・報告・討論のいずれも十分にできない受講生は、学期途中でも今後の受講を遠慮してもらいます。**あらかじめご承知おきください。 **①発表（プレゼンテーション）内容とディスカッションの参加度［５０％］（到達目標①と関連）** ●文献の指定範囲の要点と論点提起を報告していただきます。 ●発表を全て行う・ディスカッションに参加することが単位認定の前提です。 **②予習課題の提出状況［５０％］（到達目標②と関連）** ●授業時間外で、テキストの指定範囲（各回の［準備学習の内容］で指示しています）を通読した意見・質問・疑問・反論等を 150 字以上で Google Form に記入していただきます。 ●予習課題は、（原則）授業日３日前を提出締切とします（授業準備上、締切後は受け取りません）。授業は皆さんが提出した課題のフィードバックを行う時間とします（反転授業）。 ●予習課題の遂行が授業参加の前提ですから、６回のうち５回以上提出することを単位認定の前提とします。
課題に対するフィードバック	①発表内容については、授業中に予習課題の意見を関連づけてディスカッションします。 ②予習課題（150 字以上の感想文）は、匿名化処理した上で、全員の記述をまとめた用紙を配付します。次回の授業時間を使って予習課題で書かれた内容をフィードバックします。
目　　的	教育の基本的概念は何か、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかについて、保育や福祉・文化などの社会的観点を含めながら、理解することが目的です。
到達目標	①保育・子ども家庭福祉・文化・社会状況等の観点を関連づけながら、教育の概念・歴史・思想・制度・実践に関わる基礎知識を理解した上で、論点に対する意見を発表できる（DP1,DP2）。 ②教育の概念・歴史・思想に関わる基礎知識を、積極的に獲得しようと努めている（DP3）。
履修上の注意	文献講読と議論を中心とした授業です。そのため、今後研究する際に必要となる資料を批判的に読む力や考察する力などを高めることができます。編入学・専攻科進学希望の学生は（最終的に免許を取得するか否かを問わず）受講することを推奨します。 ①レポーターを分担を行うため、受講希望者は第１回の授業から必ず出席すること。 ②下記［準備学習の内容］（テキストの通読と予習課題の提出）を取り組む時間を確保すること。 ③毎回、「赤・青・緑」のフリクションボールペンを持参すること。
オフィスアワー	火曜日昼休み（CB07 研究室） ★上記以外の時間帯で来訪を希望する場合、必ず Google Chat でアポイントを取ってください。

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	**授業全体のガイダンス** ●担当教員の授業方針について ●レポートのまとめ方 ●予習課題の内容と提出方法 ●「３色ボールペン読書法」の説明と試行	復習：「３色ボールペン読書法」を用いて、レポーターを担当している**文献の該当範囲**を読んでみること（２時間）。
2	教育を成り立たせる要素と相互関係	予習：全員、**指定した文献や論文の該当範囲**を読み、レポーターは文献の要点と論点を報告する準備を行い、レポーター以外は指定した期日までに予習課題を 150 字以上で提出すること（２時間）。
3	家庭や学習に関わる思想	予習：全員、**指定した文献や論文の該当範囲**を読み、レポーターは文献の要点と論点を報告する準備を行い、レポーター以外は指定した期日までに予習課題を 150 字以上で提出すること（２時間）。
4	子どもや学校に関わる思想	予習：全員、**指定した文献や論文の該当範囲**を読み、レポーターは文献の要点と論点を報告する準備を行い、レポーター以外は指定した期日までに予習課題を 150 字以上で提出すること（２時間）。
5	家族と社会による教育の歴史	予習：全員、**指定した文献や論文の該当範囲**を読み、レポーターは文献の要点と論点を報告する準備を行い、レポーター以外は指定した期日までに予習課題を 150 字以上で提出すること（２時間）。
6	教育学の概念・教育の目標と目的（本質）	予習：全員、**指定した文献や論文の該当範囲**を読み、レポーターは文献の要点と論点を報告する準備を行い、レポーター以外は指定した期日までに予習課題を 150 字以上で提出すること（２時間）。

7	現代の教育課題（教育と福祉の連携・協働）	予習：全員、**指定した文献や論文の該当範囲**を読み、レポーターは文献の要点と論点を報告する準備を行い、レポーター以外は指定した期日までに予習課題を 150 字以上で提出すること（２時間）。
8	半期の授業で学んだことの振り返り ●自己評価アンケートの実施	予習：半期の授業で学んだ内容を整理すること（２時間）。
テキスト	**二本柳覚編『図解でわかる障害福祉サービス』（中央法規出版）** ★その他、講読する文献や論文などは配付します。	
指定図書	あり（巻末参照）	

※実務経験のある教員による授業科目の担当教員の実務経験および、教育内容

実務経験：障害者総合支援法による障害福祉サービス事業や地域生活支援事業を活用して運営されているフリースクールで、主に発達障害や知的障害のある特別支援学校高等部段階に相当する生徒や大学生に相当する青年に対する学習支援や学習支援の在り方に関わる研究と実践に携わりました。また、文部科学省による「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究」で、NPO 法人や社会福祉法人が行政と連携協働しながら障害者の生涯学習プログラムを構想・開発する事業にも携わりました。

教育内容：担当教員が行ってきた経験を活かして、学生の教育的ニーズや理解度を丁寧に汲み取りつつ、教育と福祉の関連性や、自分自身が過ごしてきた学校・受けてきた教育の在り方について再考することを特に重視した授業を行います。。

科　目　名	**教育制度論**	担当者	栗森　貢
区　分　等	１年次・前期［講義］１単位　選択／健康栄養専攻		
評価基準	到達目標：小テスト（20%）、定期テスト(50%)、授業内提出物(10%)、授業に対する参加態度や姿勢（20%）		
課題に対するフィードバック	○毎時間の履修カードに記された課題や質問、感想について、コメントを付し返却し、必要に応じて授業で解説する。 ○定期テストを実施し、履修したことへの理解の定着を図るとともに、講義で使用したプリント類を毎時間回収し、コメントを付して返却する。		
目　　的	教育制度をめぐる課題について考察しながら、わが国の教育制度の特色や歴史的変遷とともに、チーム学校推進法の制定やその背景、学校と地域との連携について理解できるようにする。		
到達目標	教育制度に関する基礎知的知識を理解するとともに、チーム学校としての新たな動きなど種々の教育課題に対する自分の考え方を論理的に説明できる。(DP1・DP2)		
履修上の注意	必要に応じてグループワークを取り入れる。		
オフィスアワー	金曜日：5・6限		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	教育制度－その機能と歴史、子どもの権利	予習：わが国の教育は、何に基づいて行われているか、自身のこれまでの経験と照らし合わせて考えをまとめる。(1時間) 復習：授業の内容をまとめ、確認しておく。(0.5時間)
2	教育制度と法－憲法、教育基本法の理念など	予習：憲法で規定された教育を実施するためにはどんなことが必要かを考えてくる。(1時間) 復習：教育制度に関する法令の内容をまとめる。(0.5時間)
3	教育制度と学校－学校の設置、組織と編成など、認定こども園、コミュニティスクール	予習：学校とはどういうものか、予想しまとめてくる。(1時間) 復習：学校に関する法令の内容をまとめ、確認しておく。(0.5時間)
4	教育制度と教職員－教職員の身分と任用、服務規程、教員評価など	予習：教員と会社員の違いは何か、考えてくる。(1時間) 教員の身分や服務規定についてまとめ、確認しておく。(時0.5間)
5	学校を支える教育行政－文部科学省と地方教育委員会、学校評価、コミュニティスクールなど	予習：教育委員会は何のためにあるのか、予想し、まとめてくる。(1時間) 復習：教育委員会の役割と学校との関係についてまとめ、確認しておく。(時0.5間)
6	教育制度をめぐる教育的課題－特別支援教育、学校安全と危機管理（いじめや虐待などへの対応)、チームとしての学校および地域との連携	予習：いじめや虐待に関する法律にはどのようなものあるか、予想しまとめてくる。(1時間) 復習：いじめや虐待に対して学校や教員がとるべき対応についてまとめ、確認しておく。(0.5時間)
7	教育制度改革の動向と日本－学力の国際競争、全国学力・学習状況調査、教育費負担	予習：全国学力テストや教育の無償化の背景とその課題について考えをまとめてくる。(1時間) 復習：各課題のまとめと確認をする。(0.5時間)
8	わが国の教育制度の特色とその諸課題について〔学校給食法の改正及び食育基本法の制定について〕	予習：わが国の教育制度の特色と課題について、これまでの学習を振り返り、要点や疑問点をまとめてくる。(1時間) 復習：「学校給食法の改正及び食育基本法の制定について」再度確認しておく。(0.5時間)

テキスト	『小学校学習指導要領解説総則編』（最新版）（文部科学省著、東洋館出版社） 『中学校学習指導要領解説総則編』（最新版）（文部科学省著、ぎょうせい） 授業時に資料プリントを配付する。
指定図書	あり（巻末参照）

科目名	教育心理学	担当者	織田栄子
区分等	１年次・前期［講義］１単位　選択／健康栄養専攻		
評価基準	到達目標１　定期試験でのテスト（40%）、中間まとめ（30%） 到達目標２　受講カードの提出と内容（20%）、受講取り組み態度（10%）。		
課題に対するフィードバック	１　提出物（ワークシート等）は、随時、コメントを付けて返却する。 ２　提出物、中間まとめやテストは、随時、アドバイスなど学生にフィードバックする。		
目的	児童生徒の学習過程を踏まえながら、児童生徒一人ひとりの特徴に応じた教育的対応を身に付ける。		
到達目標	１　児童生徒の心身や人間関係等、発達的特徴や個人差に応じた教育的対応方法がわかる。（DP1,DP2,DP3） ２　自己理解を通して教師としての心構えができ、児童生徒や保護者等への理解が深まる。（DP2,3）		
履修上の注意	授業内でワークや心理テストを体験してもらいます。ＤＶＤや動画を適宜使います。		
オフィスアワー	火曜日昼休み		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	オリエンテーション 教育と発達１ ・教育心理学とは ・遺伝と環境の関係	・予習：教科書 p1～12「第 1 章教育と発達」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
2	教育と発達２ ・成熟と学習 ・発達課題と発達段階 学習の原理 ・学習とは ・行動の変化を重視する立場からの知見 ・内的システムを重視する立場からの知見 意欲と動機づけ ・やる気を高めるためには	・予習：教科書 p96～97「第 8 章パーソナリティと適応(4)集団生活の影響」、p13～27「第 2 章学習の原理」、 p 28～39「第 3 章意欲と動機づけ」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
3	知能と学力 ・知能の構造、知能測定、知能と学力の関係 教授―学習過程 ・教授-学習過程のモデル ・授業の計画と実施、授業の評価・分析	・予習：教科書 p40～53「第 4 章知能と学力」、p54～67「第 5 章教授―学習過程」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
4	教育評価 ・教育評価の意義、評価の問題点 教育測定と統計 ・教育測定の意義、教育測定の例 パーソナリティと適応 ・パーソナリティの捉え方、教育方法との関係 ・適応と適応機制	・予習：教科書 p68～83「第 6 章教育評価」、p81～92「第 7 章教育測定と統計」、p93～108「第 8 章パーソナリティと適応」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
5	学級集団 ・教師が学級集団に及ぼす影響 ・学級集団を捉える方法、学級が機能しない場合 ・学級をまとめるための教育プログラム ・中間まとめと解説	・予習：教科書 p109～123「第 9 章学級集団」を読む(0.75 時間) ・復習：中間まとめで課されたテーマ、授業時配付資料を読み、要点をまとめる (0.75 時間)
6	不登校・いじめ・暴力行為 ・気になる子どもたち	・予習：教科書 p124～141「第 10 章不登校・いじめ・暴力行為」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
7	発達障害を持つこどもの理解と対応 ・発達障害の種類と特徴、対応 これからの特別支援教育	・予習：教科書 p142～156「第 11 章発達障害を持つ子どもの理解と対応」、p157～173「第 12 章これからの特別支援教育」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)
8	教育相談の進め方 ・教育相談の歴史と今日的課題、役割 ・進路指導とキャリア教育 ・保護者対応と支援	・予習：教科書 p174～185「第 13 章教育相談の進め方」を読む(0.75 時間) ・復習：授業で配付した資料を読む(0.75 時間)

テキスト	本郷一夫、八木成和編著『教育心理学』（建帛社）
指定図書	『小学校学習指導要領解説総則編』（最新版）（文部科学省著、東洋館出版社） 『中学校学習指導要領解説総則編』（最新版）（文部科学省著、ぎょうせい） 『幼稚園教育要領および解説』（最新版）（文部科学省著、フレーベル館） その他（巻末参照）。適宜、参考図書等を紹介します。

科　目　名	**特別支援教育**	担当者	寺谷直輝
区　分　等	１年次・後期［講義］１単位　選択／健康栄養専攻		

評価基準	**本科目は学生による発表とディスカッションを中心とした授業ですから、予習・復習・報告・討論のいずれも十分にできない受講生は、学期途中でも今後の受講を遠慮してもらいます。**あらかじめご承知おきください。 **①発表（プレゼンテーション）内容とディスカッションの参加度［５０％］（到達目標①と関連）** ●文献の指定範囲の要点と論点提起を報告していただきます。 ●発表を全て行う・ディスカッションに参加することが単位認定の前提です。 **②予習課題の提出状況［５０％］（到達目標②と関連）** ●授業時間外で、テキストの指定範囲（各回の［準備学習の内容］で指示しています）を通読した意見・質問・疑問・反論等を 200 字以上で Google Form に記入していただきます。 ●予習課題は、（原則）授業日３日前を提出締切とします（授業準備上、締切後は受け取りません）。授業は皆さんが提出した課題のフィードバックを行う時間とします（反転授業）。 ●予習課題の遂行が授業参加の前提ですから、６回のうち５回以上提出することを単位認定の前提とします。
課題に対するフィードバック	①発表内容については、授業中に予習課題の意見を関連づけてディスカッションします。 ②予習課題（200 字以上の感想文）は、匿名化処理した上で、全員の記述をまとめた用紙を配付します。次回の授業時間を使って予習課題で書かれた内容をフィードバックします。
目　　的	保育や福祉・文化などの社会的観点を含めながら、幼児・児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解することが目的です。
到達目標	①保育・子ども家庭福祉・文化・社会状況などの社会的観点を含めながら、特別な教育的ニーズのある子どもへの支援方法や支援体制に関わる基礎知識を理解した上で、論点に対する意見を発表できる（DP1,DP2）。 ②特別な教育的ニーズのある子どもへの支援方法や支援体制に関わる基礎知識を、積極的に獲得しようと努めている（DP3）。
履修上の注意	文献講読と議論を中心とした授業です。そのため、今後研究する際に必要となる資料を批判的に読む力や考察する力などを高めることができます。編入学・専攻科進学希望の学生は（最終的に免許を取得するか否かを問わず）受講することを推奨します。 ①レポーターを分担を行うため、受講希望者は第１回の授業から必ず出席すること。 ②下記［準備学習の内容］（テキストの通読と予習課題の提出）を取り組む時間を確保すること。 ③毎回、「赤・青・緑」のフリクションボールペンを持参すること。
オフィスアワー	火曜日昼休み（CB07 研究室） ★上記以外の時間帯で来訪を希望する場合、必ず Google Chat でアポイントを取ってください。

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	**授業全体のガイダンス** ●教職課程における本科目の位置づけ ●担当教員の授業方針について ●予習課題の内容と提出方法 ●「３色ボールペン読書法」の説明と試行	復習：「３色ボールペン読書法」を用いて、レポーターを担当している**文献の該当範囲**を読んでみること（２時間）。
2	発達障害の障害特性の理解と支援方法	予習：全員、**指定した文献や論文の該当範囲**を読み、レポーターは文献の要点と論点を報告する準備を行い、レポーター以外は指定した期日までに予習課題を 150 字以上で提出すること（２時間）。
3	特別支援学校教育課程における自立活動	予習：全員、**指定した文献や論文の該当範囲**を読み、レポーターは文献の要点と論点を報告する準備を行い、レポーター以外は指定した期日までに予習課題を 150 字以上で提出すること（２時間）。
4	学校と地域・関係機関との連携	予習：全員、**指定した文献や論文の該当範囲**を読み、レポーターは文献の要点と論点を報告する準備を行い、レポーター以外は指定した期日までに予習課題を 150 字以上で提出すること（２時間）。
5	個別の指導計画や教育支援計画を作成することの意義と方法	予習：全員、**指定した文献や論文の該当範囲**を読み、レポーターは文献の要点と論点を報告する準備を行い、

		レポーター以外は指定した期日までに予習課題を150字以上で提出すること（２時間）。
6	特別支援教育の理念と仕組み（多様な学びの場・インクルーシブ評価システム）	予習：全員、**指定した文献や論文の該当範囲**を読み、レポーターは文献の要点と論点を報告する準備を行い、レポーター以外は指定した期日までに予習課題を150字以上で提出すること（２時間）。
7	特別な教育的ニーズを持つ子どもへの対応	予習：全員、**指定した文献や論文の該当範囲**を読み、レポーターは文献の要点と論点を報告する準備を行い、レポーター以外は指定した期日までに予習課題を150字以上で提出すること（２時間）。
8	半期の授業で学んだことの振り返り	予習：半期の授業で学んだ内容を整理すること（２時間）。
テキスト	**二本柳覚編『図解でわかる障害福祉サービス』（中央法規出版）** ★その他、講読する文献や論文などは配付します。	
指定図書	あり（巻末参照）	

※実務経験のある教員による授業科目の担当教員の実務経験および、教育内容

実務経験：障害者総合支援法による障害福祉サービス事業や地域生活支援事業を活用して運営されているフリースクールで、主に発達障害や知的障害のある特別支援学校高等部段階に相当する生徒や大学生に相当する青年に対する学習支援や学習支援の在り方に関わる研究と実践に携わりました。また、文部科学省による「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究」で、NPO法人や社会福祉法人が行政と連携協働しながら障害者の生涯学習プログラムを構想・開発する事業にも携わりました。

教育内容：担当教員が行ってきた経験を活かして、学生の教育的ニーズや理解度を丁寧に汲み取りつつ、特別支援教育だけでなく、保育や障害児・者福祉との関連性も重視した授業を行います。

科　目　名	**教育課程総論**	担当者	佐藤光咲
区　分　等	１年次・前期［講義］１単位　選択／健康栄養専攻		
評 価 基 準	①レポート（60%）、②履修カード(20%)、③授業参加態度、演習での貢献度（20%）		
課題に対するフィードバック	○毎時間の履修カードに記された課題や質問、感想について、コメントを付し返却し、必要に応じて授業で解説する。 ○レポートを課し、返却時に評価を付し解説する。		
目　　的	教育課程の意味やその編成の原理について理解し、学校における教育課程の編成の方法を学ぶ。とりわけ、学習指導要領の変遷を基軸として理解を深めさせる。さらに、教育課程編成における現代的な課題について、その背景を理解するとともに、その実践ができるような資質能力を養う。		
到 達 目 標	日本の学校教育における教育課程（カリキュラム）について、その成立過程やその意図、あるいは当時の学力観をもとに、説明することができる。（DP1、DP2） 現代的な課題に関するカリキュラム開発のあり方について、事例をあげて説明することができる。（DP1、DP2） グループワークでは、他者の意見を傾聴するともに、メンバーと合意形成を図りながら、よりよいアイデアを構築できる。（DP2、DP３）		
履修上の注意	テキストは必ず持参すること。		
オフィスアワー	火曜日 15 時～16 時		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	ガイダンス―学ぶとは何か、教育の目的	自身の経験と照らし合わせて、学ぶ意味や教育の目的について考えをまとめる。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)
2	教育課程、カリキュラムとは～その編成	全国すべての子どもに教育を実施するためには何が必要か考えをまとめる。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)
3	教育課程と学習指導要領、そして教科書	学習指導要領や教科書の役割をまとめておく。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)
4	学習指導要領の歴史的変遷①―戦後の教育と経験主義（コア・カリキュラムの展開）	テキストの指定ページを読み概要をまとめる。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)
5	学習指導要領の歴史的変遷②―高度経済成長期と系統主義（教育内容の現代化と子どもの学力）	テキストの指定ページを読み概要をまとめる。(1 時間)　授業のまとめと確認（1 時間）
6	カリキュラム改革とその背景―「ゆとり」と個性、「生きる力」と確かな学力、「知識基盤社会」	自身が受けてきたゆとり教育について振り返り、まとめる。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)
7	新しい時代に求められる資質・能力と「社会に開かれた教育課程」、カリキュラム・マネジメント―食育のカリキュラムの事例を通して	現行学習指導要領の趣旨や特色等について調べる。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)
8	わが国の教育課程の特色と課題－学力格差とその対応等	わが国の教育課程の特色と課題について調べ、考えをまとめておく。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)

テキスト	『小学校学習指導要領解説総則編』（最新版）（文部科学省著、東洋館出版社） 『中学校学習指導要領解説総則編』（最新版）（文部科学省著、ぎょうせい） 授業時に資料プリントを配付する。
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	**教育方法論**	担当者	佐藤光咲、佐藤　恵
区　分　等	１年次・後期［講義］１単位　選択／健康栄養専攻		
評価基準	①学習指導案作成と模擬授業（50%）　②プレゼンテーション・情報機器の活用力（40%） ③履修カード（10%）		
課題に対するフィードバック	○毎時間の履修カードに記された課題や質問、感想について、コメントを付し返却し、必要に応じて授業で解説する。 ○課題（レポート等）を課し、返却時に評価を付し解説する。		
目　　的	①よい授業とはどんな授業であるかを知り、授業のデザインにとって必要かつ重要な事項を理解させる。 ②授業デザインや教育効果を高める情報機器の効果的な活用の基礎的技能を身につけさせる。 ③授業デザインと模擬授業の実践を通して、基礎的な実践力を育てる。		
到達目標	①授業とは何かを理解できる。(DP1) ②小・中学生が授業を受けようとする動機づけを意識しながら教材を考えるとともに、指導案の作成、授業の運営など、教育の方法を身につける。(DP2) ③指導案作成、模擬授業の実践を通して、学習者（他者）の内面の理解を深めながら、学習者の願いに沿った学習指導に努めることができる。(DP2,DP3)		
履修上の注意	「説得力をもって相手に伝えるにはどうすれば良いか」という問題意識をもって、積極的に授業に参加すること。		
オフィスアワー	金曜日 15 時～16 時		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	ガイダンス、授業とは何かー授業の目標と授業を行う上で必要な準備と教材、児童生徒の実態把握の意義と方法など　（佐藤光咲、佐藤恵）	自身が受けてきた教育経験と照らし合わせてよい授業や思い出に残る授業についてまとめる。（１時間） 授業のまとめと確認をする。(1 時間)
2	児童生徒の発達に応じた教材とその活用法　（佐藤光咲）	授業における教材や資料がどのような働きをもつか、自身が受けてきた教育経験と照らし合わせてまとめる。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)
3	授業の形態と活用、指導言と発問　佐藤光咲）	教師が授業中に話す言葉や働きかけにはどんな働きがあるか考えをまとめる。(1 時間) 授業のまとめと確認をする（1 時間）
4	食に関する指導の授業展開と評価法　佐藤光咲）	食に関する授業について、自分の構想をまとめる。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)
5	情報機器とその活用法　（佐藤恵）	情報機器の授業における活用法について自身の経験をまとめる。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)
6	プレゼンテーションと評価・改善　（佐藤恵）	プレゼンテーション練習をする。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)
7	情報機器を活用した指導の構想と指導案づくり　（佐藤光咲）	授業の構想と指導案づくりをする。(3 時間)
8	模擬授業と評価・改善　（佐藤光咲、佐藤恵）	模擬授業の準備や練習をする。(1 時間) 模擬授業の評価及び授業のまとめをする。(1 時間)

テキスト	学習資料配付（毎時間）
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	道徳・特別活動及び総合的な学習	担当者	佐藤光咲
区　分　等	１年次・後期［講義］１単位　選択／健康栄養専攻		
評価基準	①レポート（60%）、②履修カード(20%)、③授業参加態度、演習での貢献度（20%）		
課題に対するフィードバック	○毎時間の履修カードに記された課題や質問、感想について、コメントを付し返却し、必要に応じて授業で解説する。 ○レポート（課題）を課し、返却時に評価を付し解説する。		
目　　的	学校教育の中で教科のほかに、子どもの成長や自己実現にとって重要な役割を担う「道徳教育」や「特別活動」、「総合的な学習の時間」の意義や目標を理解する。また、「道徳教育」や「道徳科」の指導、「総合的な学習の時間」及び「特別活動」の指導の実際を学びながら、これらの内容や指導方法の基本について理解を深める。		
到達目標	(1)道徳教育の意義と役割、ねらいについて学び、道徳的な実践意欲と態度を育てる「道徳科」の指導方法の基本を理解する。（DP1） (2)特別活動の意義と特質、ねらいについて学び、「学級活動」「生徒会活動」など４つの内容と指導方法の基本を理解する。（DP1） (3)「総合的な学習の時間」の意義と特質、ねらいについて学び、指導計画の作成、指導方法の基本を理解する。（DP1） (4)「道徳科」及び「学級活動」、「総合的な学習の時間」の意義を理解し、グループ等で「食に関する授業」の具体について他者との意見交換をとりれながらよりよいものにできる。（DP2） (5)「教育実習において子どもの実態や願いに耳を傾け、楽しく分かりやすい授業が実践できるようにする。(DP1､DP2,DP3)		
履修上の注意	講義と演習を併用しながら進める。		
オフィスアワー	金曜日 15 時～16 時		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	ガイダンス、「道徳教育」、「特別活動」及び「総合的な学習の時間」の意義と役割	自身の経験から道徳教育、特別活動及び総合的な学習の時間について特色をまとめておく。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)
2	学習指導要領における「道徳教育」、「道徳科」の目標と内容	テキストを読み、道徳教育、道徳科の目標のポイントをまとめておく。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)
3	「道徳科」の授業の実際、指導方法の基本～「手品師」の授業を通して	小・中学校における道徳の時間の授業を振り返り、授業の進め方のポイントをまとめる。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)
4	「総合的な学習の時間」の目標、及び全体計画と指導計画、特色ある実践事例	自身が受けてきた教育経験と照らし合わせて、総合的な学習の時間についての意義や活動の思い出をまとめる。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)
5	「総合的な学習の時間」の指導構想と評価、 秋田県のふるさと教育	総合的な時間の計画を構想し、ポイントをまとめておく。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)
6	特別活動の目標と内容、「学級活動」における指導の特色と実際	自身が受けてきた教育経験と照らし合わせて、特別活動についての意義や活動の思い出をまとめる。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)
7	「児童（生徒）会活動」、「クラブ（部）活動」、「学校行事」の目標、内容と指導の実際	テキストを読み、学級活動の授業（食に関する指導）の進め方についてポイントをまとめておく。（1 時間） 授業のまとめと確認をする。(1 時間)
8	特別活動における食に関する指導事例と授業づくり	学級活動の特質を生かした食に関する指導構想をまとめておく。(1.5 時間) 授業のまとめと確認をする。(0.5 時間)

テキスト	『小学校学習指導要領解説 道徳編』（最新版）（文部科学省著、東洋館出版） 『中学校学習指導要領解説 特別活動編』（最新版）（文部科学省著、ぎょうせい） 授業時に資料プリントを配付する。
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	**生徒指導**	担当者	佐藤光咲
区　分　等	２年次・前期［講義］１単位　選択／健康栄養専攻		
評 価 基 準	①レポート（60%）、②履修カード(20%)、③授業参加態度、演習での貢献度（20%）		
課題に対するフィードバック	○毎時間の履修カードに記された課題や質問、感想について、コメントを付し返却し、必要に応じて授業で解説する。 ○レポートを課し、返却時に評価を付し解説する。		
目　　的	生徒指導の意義や基本的な概念を理解し、学校教育における生徒指導上の諸課題とその解決に向けた考え方や対応についての基礎的な力を培う。		
到 達 目 標	(1)生徒指導の意義、目的、機能を理解し説明できる。(DP1) (2)学校教育における生徒指導上の諸課題とその解決に向けた考え方について考え、他者と意見を交換しながら、表現できる。(DP2､DP3) (2)学校における生徒指導の実際を学び、立場の異なる他者の考えや心情に配慮しながら課題解決のための具体的方策（指導及び対応）を考えることができる。(DP2､DP3)		
履修上の注意	講義を軸にグループディスカッションを適宜取り入れる。		
オフィスアワー	火曜日 15 時～16 時		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	ガイダンス、生徒指導の意義と役割	自身が受けてきた教育経験と照らし合わせて生徒指導について自分なりの考えをもつ。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)
2	生徒指導と教育課程との関連、生徒指導の組織と計画（学校における事例を通して）	テキストの指定したページを読み、予習する。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)
3	生徒理解の意義と方法－発達段階の特徴と課題	生徒理解とは何をすることか考えをまとめておく。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)
4	生徒指導の方法－集団指導と個別指導	集団指導と個別指導の特色、意義についてまとめておく。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)
5	問題行動とその対応（いじめその他）－チーム学校としての取り組み	いじめの起こりやすい状況、環境について自分の考えをまとめておく。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)
6	授業における生徒指導－生徒指導の３機能、教師の実践事例を通して	授業における生徒指導とは何か、自分の考えをまとめる。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)
7	生徒指導と法律－校則、体罰、懲戒と出席停止、青少年育成条例など	自己の学校生活を振り返り、校則について考えをまとめておく。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)
8	自己実現に向かう生徒指導―キャリア教育等との関わり、社会的スキルの支援等	児童生徒が自己実現に向かう態度を育てる生徒指導はどうあるべきか、自分の考えをまとめる。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)

テキスト	『生徒指導提要』（最新版）（文部科学省著、教育図書） 授業時に資料プリントを配付する。
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	**教育相談**	担当者	佐藤光咲
区　分　等	２年次・前期［講義］１単位　選択／健康栄養専攻		
評価基準	①レポート（60%）、②履修カード(20%)、③授業参加態度、演習での貢献度（20%）		
課題に対するフィードバック	○毎時間の履修カードに記された課題や質問、感想について、コメントを付し返却し、必要に応じて授業で解説する。 ○レポートを課し、返却時に評価を付し解説する。		
目　　的	教育相談の意義と役割を確認し、子どもや保護者の理解を促すために、教育相談の進め方として心理アセスメント及び各種相談技法について理解を深める。また、チーム学校としての教育相談の取り組みの実際を学び、子どもが自力解決できるための対応や支援の基礎を養う。		
到達目標	(1)教育相談の意義と役割、児童生徒理解の基本知識を説明できる。(DP1) (2)教育相談に必要なカウンセリングなどの技法の基礎を学び、教育相談の実際を通して理解を深める。(DP1) (3)不登校、虐待、発達障害等の問題を抱える保護者や子どもとの教育相談の在り方についてグループ学習を通して、考えを深め、自分の考えを表現できる。(DP2,DP3) (4)教育相談における開発的支援として、社会的スキル、グループエンカウンター等の意義を理解し、指導方法の基礎を身に付ける。また将来、支援の必要とする児童生徒に対し、意欲的に行おうとする態度を身に付ける。 (DP2,DP3)		
履修上の注意	グループワークやロールプレイングを取り入れる。		
オフィスアワー	火曜日 15 時～16 時		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	ガイダンス、教育相談(及びカウンセリング)とは何かー学校における教育相談の意義や目的など	自身が受けてきた教育経験と照らし合わせて教育相談について自分なりの考えをもつ。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)
2	教育相談に生かす子ども理解－一般的理解と個別的理解、発達理解（胎児期・幼児期・児童期・青年期）	教育相談において子ども理解はなぜ不可欠か考えをまとめ、理解の方法を予想する。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)
3	教育相談に生かす心理学的基礎－欲求・葛藤・自我の防衛機制など	前時に提示した防衛機能について種類、内容を図書やネットで調べ、まとめる。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)
4	教育相談の歴史とカウンセリング理論－フロイト、ロジャーズ等	フロイトとロジャーズのカウンセリング（療法）の特色を図書やネットで調べ、まとめる。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)
5	カウンセリングマインドを生かした教育相談－学校事例を通した演習	望ましいカウンセリングとは何か､相談者の立場からまとめておく。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)
6	問題行動（反社会的・非社会的）への対応と教育相談－チーム学校としての取り組み	テキストやネット等から不登校､虐待等の事例等についてまとめておく。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)
7	特別な支援を必要とする子どもと教育相談－育てる教育相談と支援	テキスト等から主な発達障害の概要についてまとめておく。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)
8	開発的教育相談－進路指導、キャリア教育、コーチングなど	自己実現に向かう相談、支援はどうあるべきか自身を振り返り、まとめておく。(1 時間) 授業のまとめとレポート作成を構想する。(1 時間)

テキスト	『生徒指導提要』(最新版)（文部科学省著、教育図書） 授業時に資料プリントを配付する。
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	**栄養教育実習指導**	担当者	須磨亜沙子、佐藤光咲
区　分　等	２年次・前期［講義］１単位　選択／健康栄養専攻		
評価基準	課題提出（50%）、報告会の発表内容（30%）、受講態度（20%）。		
課題に対するフィードバック	課題の返却と解説		
目　　的	栄養教育実習の事前・事後指導を主とする。事前指導は、教育実習生としての意識を高め、教育実習における自己目標の設定、研究授業における学習指導案・教材作成等の実践力を養う。事後指導では、設定した目標の達成度、研究授業実践における反省を含めて、教育実習を通して捉えた課題をまとめる。		
到達目標	(1) 栄養教育実習における目的や意義、事前・事後の準備について十分に理解する。（DP1） (2) 実習校や子どもたちについての情報収集を積極的に行い、事前・事後の準備に生かしながら、子どもが意欲的に取り組む授業について考え、その構想を表現できる。（DP2） (3) 学習におけるグループ活動を通して、他者の考えを受止め、自分の構想をよりよいものにしながら、栄養教諭の職務である「学校給食の管理」および「食に関する指導」を実践できる能力を修得する。(DP2,DP3)		
履修上の注意	日頃から、礼節、言葉づかいなど、学生としての品位を保つよう心がけること。		
オフィスアワー	月曜・木曜・金曜の 16 時 20 分～16 時 50 分		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	教育実習の意義と目的・実習内容、教育実習校の把握と確認　（須磨）	授業内容の整理・まとめ（2 時間）
2	学校および児童・生徒の実態　実習計画と目標設定（須磨）	授業内容の整理・まとめ（2 時間）
3	教育実習の形態と関わり方（観察実習・参加実習・授業実習・研究授業）（須磨）	授業内容の整理・まとめ(2 時間)
4	研究授業準備　教材研究と学習指導案作成（佐藤）	授業内容の整理・まとめ（2 時間）
5	研究授業準備　模擬授業と評価・改善（佐藤）	授業内容の整理・まとめ(2 時間)
6	教育実習終了後の必要事項の確認（須磨）	実習日誌の整理、課題レポートの作成(2 時間)
7	教育実習後の反省・教育実習報告会発表準（須磨）	実習報告会資料の作成・発表準備(2 時間)
8	教育実習報告会（佐藤）	実習報告会の反省・履修カルテの記載(2 時間)

テキスト	芦川修貳『栄養教諭のための教職実践演習・栄養教育実習ノート』（学建書院） 文部科学省『食に関する指導の手引』（第二次改定版）（建学社）
指定図書	あり（巻末参照）

科　目　名	**栄養教育実習**	担当者	佐藤光咲、須磨亜沙子
区　分　等	２年次・前期［実習］１単位　選択／健康栄養専攻		
評 価 基 準	実習校からの評価（60%）、実習日誌（20%）、受講態度（20%）。		
課題に対するフィードバック	課題の返却と解説		
目　　的	教育現場における栄養教諭の役割と職務「学校給食の管理」および「食に関する指導」を捉え、栄養教諭が行う、給食時間における食に関する指導や食に関する指導の授業の実践に取り組み、栄養教諭としての資質と実践力を習得する。		
到 達 目 標	(1) 教育実習の目的や計画を十分理解し、説明できる。（DP1） (2) 実習校の計画を理解し、授業の参観と活動を主体的かつ積極的に行い発表や実習日誌の記述を通して、取り組みの成果等を発表できる。（DP2） (3) 栄養教諭としての知識と教育方法を身に付け、他者との連携を図りながら学校現場で求められるコーディネータとしての役割を実践することができる。（DP1、DP2、DP3）		
履修上の注意	目的意識を持ち積極的に取り組むこと。 日頃から、礼節、言葉づかいなど、学生としての品位を保つよう心がけること。		
オフィスアワー	月曜、木曜、金曜日の 16:20～16:50		

授業計画	**準備学習（予習・復習）の内容および、時間**
実習校が指定した教育実習期間・時間帯に 5 日間（40 時間）の教育実習を行う。 ＜実習内容＞ 1. 学校組織・学校運営・学校行事、学級活動などの参加・観察 2. 学校給食管理の実践・観察 3. 給食時間における食に関する指導の実践 4. 食に関連した授業およびその他の授業の観察 5. 研究授業の教材研究・授業実践・授業の反省	実習計画に基づき自己課題研究、研究授業のための教材研究などの準備とふり返りをしっかり行なうこと。

テキスト	芦川修貳『栄養教諭のための教職実践演習・栄養教育実習ノート』（学建書院） 文部科学省『食に関する指導の手引』（第二次改定版）（建学社）
指定図書	あり（巻末参照）

科目名	**教職実践演習（栄養教諭）**	担当者	佐藤光咲、織田栄子、須磨亜沙子
区分等	２年次・後期［演習］２単位　選択／健康栄養専攻		
評価基準	①自己課題研究の発表とレポート提出（70%）　②授業参加態度、演習での貢献度（20%） ③履修カードの内容と提出（10%）		
課題に対するフィードバック	○毎時間の履修カードに記された課題や質問、感想について、コメントを付し返却し、必要に応じて授業で解説する。 ○課題やレポート等を課し、返却時に評価を付し解説する。		
目的	健康栄養専攻においてこれまで学んできた知識と教育実習との体験を統合し、栄養教諭として学校給食管理と食に関する指導を行うための実践力を養う。		
到達目標	(1) 教員に求められている資質・力量を振り返り、自らの課題を自覚できる。(DP1) (2) 課題解決のための方策や計画を積極的に構想し、日々の授業や学びの中に位置づけ表現できる。(DP2) (3) お互いの課題をグループの中での中で確認し合い､学びの交流を通して解決できるよう、意欲を持って取り組み、近い将来の自己実現につなげようとする。(DP2,DP3)		
履修上の注意	複数教員によるオムニバス形式の授業である。授業の形態として、講義、演習、発表、ロールプレイ等を組み合わせて用いる。		
オフィスアワー	火曜日 15 時～16 時		

	授業計画	準備学習（予習・復習）の内容および、時間
1	ガイダンス、授業の意義及び目標と内容 （佐藤・織田・須磨）	これまで短大で履修した教職科目の内容とそのポイントについて、まとめておく。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(0.5 時間)
2	望ましい栄養教諭とは？ 栄養教諭制度と世界の学校給食（佐藤）	自分の理想の栄養教諭像をまとめておく。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(0.5 時間)
3	秋田県における学校給食と栄養教諭（佐藤）	授業のまとめと確認をする。(2 時間)
4	地場産物を活用した学校給食と食に関する指導 （須磨）	課題をまとめてレポートを作成する（2 時間）
5	食育推進コーディ・ネータとしての役割（校内・家庭・地域)・栄養職員との関係づくり（須磨）	課題をまとめてレポートを作成する（2 時間）
6	幼児・児童・生徒の発達段階と食に関する指導 （織田）	授業のまとめと確認（1 時間）
7	個別相談指導における児童生徒：保護者への対応１ （織田）	授業のまとめと確認（1 時間）
8	個別相談指導における児童生徒：保護者への対応２ （織田）	授業のまとめと確認（1 時間）
9	学校の安全管理（食中毒対応を含む）　（須磨）	授業のまとめと確認をする（2 時間）
10	学校給食における食アレルギー対応　（須磨）	授業のまとめと確認をする（2 時間）
11	食育の大切さ、楽しさを育てる指導（給食の時間、教科などを通した授業づくり）（佐藤）	教科などにおける食に関する指導について、授業や教育実習で学んだことを振り返り、そのポイントをまとめる。（１時間） 授業のまとめと確認をする。(1 時間)
12	栄養教諭としての資質・能力向上のための自己課題研究　（佐藤・織田・(須磨）	これまでの授業や実習内容から自己課題を設定し、研究をする。（２時間）
13	栄養教諭としての資質・能力向上のための自己課題研究　（佐藤・織田・(須磨）	研究とそのまとめを行う。(3 時間)
14	栄養教諭としての資質・能力向上のための自己課題研究　（佐藤・織田・(須磨）	研究とそのまとめを行う。(3 時間)
15	栄養教諭としての資質・能力向上のための自己課題（発表）　（佐藤・織田・(須磨）	研究のまとめと発表の準備を行う。(3 時間) これまでの学修のまとめを行う（1 時間）

テキスト	各回の担当教員が適宜紹介する。
指定図書	あり（巻末参照）

◎教養教育科目　　全学共通

キリスト教学Ⅱ		マッテュ・フィリップ	
（書　　名）	（著者・編者）	（出版社）	（冊）
人間と聖書 1～3	ラシャペル・アンドレ	サンパウロ	各 1
パノラマバイブル 体験する聖書　　（2Ｆ聖書ｺｰﾅｰ）		日本聖書協会	1
イエス・キリストの生涯	三浦綾子	講談社	1
日本人にとってキリスト教とは何か	若松英輔	ＮＨＫ出版	1
すべてには時がある	若松英輔・小友聡	ＮＨＫ出版	1
知っているようで実は知らない世界の宗教	池上　彰	SB クリエイティブ	1
教皇フランシスコ　コロナの世界を生きる	教皇フランシスコ	PHP 研究所	1
みんなの聖書絵本シリーズ全 36 巻		日本聖書協会	各 1
＊絵本は保育コーナーにあり			

キャリアデザインⅠ・Ⅱ　（進学コース）		近藤清兄	
英文法ビフォー&アフター	豊永　彰	南雲堂	1
樋口裕一の小論文トレーニング	樋口裕一	ブックマン社	1
常用字解［第２版］	白川　静	平凡社	1
日本語力をつける　ことばと漢字のレッスン	日英社編集所	日栄社	2

情報システム論		米山修司	
30 時間アカデミック　Office2019	杉本くみ子ほか	実教出版	1
Microsoft Office 2019 を使った情報リテラシーの基礎	切田節子ほか	近代科学社	1
女子大生のためのコンピュータ教科書	齊藤　豊	電気書院	1
Word　2019　やさしい教科書	国本温子	SB クリエイティブ	1
PowerPoint　2019　やさしい教科書	リブロワークス	SB クリエイティブ	1
Excel　2019　やさしい教科書	門脇香奈子	SB クリエイティブ	1
Zoom　やさしい教科書	相川浩之	SB クリエイティブ	1
今すぐ使えるかんたん　Google　Workspace　完全ガイドブック　困った解決&便利技	田中友尋ほか	技術評論社	1
「そんなこともしらないの？」と思われたくない社会人のパソコンスキル大全	四禮静子	技術評論社	1
スペースキーで見た目を整えるのはやめなさい	四禮静子	技術評論社	1
エクセル方眼紙で文書をつくるのはやめなさい	四禮静子	技術評論社	1
VLOOKUP 関数のツボとコツがゼッタイにわかる本	立山秀利	秀和システム	1
いちばん詳しい Excel 関数大事典　増補改訂版	国本温子	SB クリエイティブ	1
Windows11 やさしい教科書　改訂第 3 版	リブロワークス	SB クリエイティブ	1
たった１日で即戦力になる Excel の教科書　改訂第 3 版	吉田拳	技術評論社	1
マンガ　たった１日で即戦力になる Excel の教科書	吉田拳	技術評論社	1

国語表現Ⅰ・Ⅱ		栗森　貢	
作文に強くなる	馬場博治	岩波書店	2
日本語を反省してみませんか	金田一春彦	角川書店	1
日本語練習帳	大野　晋	岩波書店	2
論文の教室	戸田山和久	日本放送出版協会	2
「超」文章法	野口悠紀雄	中央公論社	1
受かる小論文・作文模範文例		新星出版社	2
日本語教室	井上ひさし	新潮社	2
書くことが思いつかない人のための文章教室	近藤勝重	幻冬舎	2
思考の整理学	外山滋比古	筑摩書房	2
子育ては言葉の教育から	外山滋比古	ＰＨＰ研究所	2
頭のよい子は「ことば」で育つ	外山滋比古	ＰＨＰ研究所	2

サービスラーニング		寺谷直輝	
サービス・ラーニングのためのアクティビティ	山下美樹	研究社	1
市民参画とサービス・ラーニング	クリスティーン・M・クレス	岡山大学出版会	1
リベラルアーツとしてのサービスラーニング	立教大学 RSL センター	北樹出版	1
日本の祭り解剖図巻　最新版	久保田裕道	エクスナレッジ	1
47 都道府県ご当地文化百科　5　秋田県	丸善書店	丸善書店	1

◎専門教育科目

Basic English Skills Ⅰ・Ⅱ		近藤清兄	
Soup Should Be Seen,Not Heard	Beth Brainard ほか	Dell Publishing	5
What's What 英語図詳大辞典	ﾚｼﾞﾅﾙﾄﾞ=ﾌﾞﾗｺﾞﾆｱ=ｼﾞｭﾆｱ	小学館	1
スヌーピーの 50 年	チャールズ・M・シュルツ	朝日新聞出版	1
英語のしくみがわかる基本動詞 24	小西友七	研究社	1

Listening Ⅰ・Ⅱ		近藤清兄	
新版 英語音声学・音韻論入門	フィリップ・カー	研究社	1
初級英語音声学	竹林 滋ほか	大修館書店	1
チョーサーの言語入門	ウド・フリース	開文社出版	1

TOEFL Ⅰ・Ⅱ		菅野 薫	
英語ことば選び辞典	小野史子	学研プラス	1
キリスト教・ユダヤ教・イスラム教の知識と英語を身につける	石井隆之	ベレ出版	1
文章力の基本	阿部紘久	日本実業出版社	1
DVD「しあわせの隠れ場所」		ワーナーホームビデオ	1
DVD「エリン・ブロコビッチ」		ソニーピクチャーズ	1
＊DVDはAVコーナーにあり			
極めろ!TOEFL iBT テストスピーキング・ライティング解答力	山内勇樹	スリーエーネットワーク	1
極めろ!TOEFL iBT テストリーディング・リスニング解答力	山内勇樹	スリーエーネットワーク	1
世界を変えた 10 人の女性	池上 彰	文藝春秋	1
わたしは 13 歳、学校に行けずに花嫁になる。	久保田恭代	合同出版	1
ぼくは 12 歳、路上で暮らしはじめたわけ。	国境なき子どもたち	合同出版	1
わたしは 13 歳、シリア難民。	国境なき子どもたち	合同出版	1
ウクライナから来た少女 ズラータ 16 歳の日記	ズラータ・イヴァシコワ	世界文化社	1
山本美香という生き方	山本美香	オアシス文庫	1
Japan Times Alpha			
地図でスッと頭に入る世界の民族と紛争	祝田秀全	昭文社	1
外国語を使って働きたい！	小島さなえ	左右社	1
世界の視点を読む ニュース英語入門	倉林秀男	ジャパンタイムズ出版	1
「国境なき医師団」の僕が世界一過酷な場所で見つけた命の次に大事なこと	村田慎二郎	サンマーク出版	1
英語にないなら作っちゃえ!これで伝わる直訳できない英語		朝日出版社	1
最新世界紛争地図	パスカル・ボニファス	ディスカバー	1
社会人なら知っておきたい ニュースに出るキーワードがすっきりわかる本	池上 彰	KADOKAWA	1
沸騰大陸	三浦英之	集英社	1
消費される階級	酒井順子	集英社	1
池上彰の未来予想 after2040	池上 彰	主婦の友社	1

TOEIC L&R A・B		菅野 薫	
公式 TOEIC Listening&Reading 問題集 9		国際ﾋﾞｼﾞﾈｽｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ協会	1
公式 TOEIC Listening&Reading 問題集 10		国際ﾋﾞｼﾞﾈｽｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ協会	1
公式 TOEIC Listening&Reading 問題集 11		国際ﾋﾞｼﾞﾈｽｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ協会	1
はじめて受ける TOEIC L&R テスト 全パート完全攻略	小石裕子	アルク	1
TOEIC L&R テスト 文法問題でる 1000 問	TEX 加藤	アスク	1
TOEIC テスト 中学英文法で 600 点！	小石裕子	アルク	1
公式 TOEIC Listening&Reading 500+		国際ﾋﾞｼﾞﾈｽｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ協会	1
TOEIC L&R テスト リーディング 精読講義		アスク	1
TOEIC L&R はじめから超特急 金のパッケージ	TEX 加藤	朝日新聞出版	1

公式 TOEIC Listening&Reading Part 3&4 音声速解	ETS	国際ﾋﾞｼﾞﾈｽｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ協会	1
TOEIC L&R 英文法をひとつひとつわかりやすく。	冨岡 恵	Gakken	1
はじめての TOEIC L&R テスト 全パート徹底攻略	関 正生ほか	ジャパンタイムズ出版	1

Global Issues Ⅰ・Ⅱ		菅野 薫	
JICA×SDGs 国際協力でサステナビリティな世界へ		山川出版社	1
世界の視点を読む ニュース英語入門	倉林秀男	ジャパンタイムズ出版	1
思考力の地図 論理とひらめきを使いこなせる頭の作り方	細谷 功	KADOKAWA	1
「論理的思考」の文化的基盤 4 つの嗜好表現スタイル	渡邊雅子	岩浪書店	1
戦争にチャンスを与えよ	エドワード・ルトワック	文春新書	1
日本 4.0 国家戦略の新しいリアル	エドワード・ルトワック	文春新書	1
「ドイツ帝国」が世界を破滅させる 日本人への警告	エマニュエル・トッド	文春新書	1
第三次世界大戦はもう始まっている	エマニュエル・トッド	文春新書	1

ドイツ語Ⅰ・Ⅱ		横溝眞理	
メモ式ドイツ語早わかり	在間 進	三修社	2
メモ式ドイツ語早わかりチェックテスト	在間 進	三修社	2
標準ドイツ語 新訂版	常木 実	郁文堂	3

韓国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ		ジョン・サーロー	
ハングルの初歩の初歩	中村 完	大修館書店	1
朝鮮語のすすめ	渡辺吉鎔	講談社	1
ハンドブック韓国入門	松原孝俊	東方書店	1
NEW ポータブル日韓・韓日辞典	民衆書林編集局	三修社	1
朝鮮語辞典	油谷幸利ほか	小学館	1
コスモス朝和辞典	菅野裕臣	白水社	1

中国語Ⅰ・Ⅱ		周 業欣	
Why？にこたえる はじめての中国語の文法書	相原 茂ほか	同学社	1
簡明中国語文法 ポイント１００	馬 真 ほか	白帝社	1
こうすれば話せる CD 中国語	讃井唯允ほか	朝日出版社	1
中国語の文法と使い方 55	植田渥雄	三修社	1
現代中国語辞典	香坂順一	光生館	1
中日辞典 第３版	相原 茂	講談社	1
中日辞典 第３版		小学館	1
日中ことわざ辞典	金丸邦三	同学社	1

心理学A		織田栄子	
社会心理学	池田謙一 ほか	有斐閣	1
臨床心理学	丹野義彦 ほか	有斐閣	1
心理学 新版	無藤 隆 ほか	有斐閣	1
司法犯罪心理学	越智啓太	サイエンス社	1
Newton ゼロからわかる心理学（増補第 2 版）		ニュートンプレス	1
Newton 心理学実践編		ニュートンプレス	1
心理学大図鑑		ニュートンプレス	1
心のしくみと働き図鑑	黒木俊秀	創元社	1

心理学B		織田栄子	
認知心理学	箱田裕司 ほか	有斐閣	1
心理学ビジュアル百科	越智啓太 ほか	創元社	1
図説 世界を変えた 50 の心理学	ジェレミー・スタンルーム	原書房	1

Newton　ゼロからわかる心理学		ニュートンプレス	1
Newton　ゼロからわかる心理学（増補第２版）		ニュートンプレス	1
Newton　心理学実践編		ニュートンプレス	1
Newton　脳とは何か（改訂第２版）		ニュートンプレス	1
Newton　脳とは何か活用編（改訂第２版）		ニュートンプレス	1
Newton　睡眠の教科書（増補第２版）		ニュートンプレス	1

日本文学Ａ・Ｂ	栗森　貢		
新版　作品で読む宮沢賢治	宮沢賢治ほか	新典社	1
賢治から、あなたへ　世界のすべてはつながっている	ロジャー・パルバースほか	集英社ｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙ	1
集中講義　宮沢賢治	山下聖美	NHK 出版	1
芥川龍之介全集　全８巻	芥川龍之介	筑摩書房	１ｾｯﾄ

Web プログラミング	米山修司		
HTML5&CSS3 標準デザイン講座	草野あけみ	翔泳社	1
JavaScript 本格入門	山田祥寛	技術評論社	1
30 時間アカデミック Web デザイン	影山明俊ほか	実教出版	1
30 時間アカデミック JavaScript 入門	大川晃一ほか	実教出版	1
はじめての JavaScript　第３版	Ethan Brown ほか	オライリージャパン	1
HTML5＆CSS3 辞典	株式会社アンク	翔泳社	1
まとめて学ぶ　Python＆JavaScript	伊尾木将之	日経 BP	1
ｽﾗｽﾗ読める JavaScript ふりがなﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ増補改訂版	リブロワークスほか	インプレス	1
［コードの気持ちがわかる！］プログラミングの英単語	松元大地	技術評論社	1
作りながら学ぶ Web プログラミング実践入門　改訂版	掌田津耶乃	マイナビ出版	
これから Web をはじめる人の HTML&CSS、JavaScript のきほんのきほん	たにぐちまこと	マイナビ出版	

情報と社会	米山修司		
こども SDGｓ　なぜ SDGｓが必要なのかがわかる本	秋山宏次郎ほか	カンゼン	1
世界がぐっと近くなる　SDGｓとボクらをつなぐ本	池上　彰	Gakken	1
未来を変える目標　SDGｓアイデアブック	Think the Earth ほか	紀伊国屋書店	1
知っていますか？SDGｓ	日本ユニセフ協会	さ・え・ら書房	1
著作権のツボとコツがゼッタイにわかる本	三坂和也ほか	秀和システム	1
Society5.0 のキャリアを考える	保本正芳	noa 出版	1
持続可能な社会と生活	関　正雄	放送大学教育振興会	1
情報社会と国際ボランティア活動	山田恒夫	放送大学教育振興会	1
情報と法	児玉晴男	放送大学教育振興会	1
令和６年版情報通信白書	総務省	日経印刷	1

情報科学入門・ICT 基礎	米山修司		
教養のコンピュータサイエンス情報科学入門	小館香椎子ほか	丸善出版	1
情報処理試験の計算問題がちゃんと解ける本　第２版	坂下夕里	翔泳社	1
コンピュータ科学の基礎	田嶋拓哉ほか	共立出版	1
IT　Text　一般情報教育	稲垣知宏ほか	オーム社	1
コンピュータ科学序説	米村俊一ほか	コロナ社	1
情報セキュリティ読本　六訂版	情報処理推進機構	実教出版	1
高校生だけじゃもったいない 仕事に役立つ新・必修科目「情報Ｉ」	中山心太	PHP 研究所	1
情報処理教科書 イラストで合格!ITﾊﾟｽﾎﾟｰﾄｷｰﾜｰﾄﾞ図鑑	城田比佐子	翔泳社	1
ITﾊﾟｽﾎﾟｰﾄを受験する人のためのよくわかる疑似言語入門	ミューズの情報教室	インプレス	1
教養としての「情報Ｉ」 -大学入試導入で変わる IT リテラシーの基準-	松尾康徳	技術評論社	1
60 分でわかる！　情報Ｉ　超入門	リブロワークス	技術評論社	1
マンガ+図解で基礎がよくわかる　情報ｾｷｭﾘﾃｨの教科書	左門至峰	技術評論社	1
スパコン富岳の挑戦　GAFA なき日本の戦い方	松岡聡	文藝春秋	1

PythonⅠ・PythonⅡ		米山修司	
スッキリわかるPython入門	国本大悟ほか	インプレス	1
新・明解Python入門	柴田望洋	SBクリエイティブ	1
Pythonプログラミング逆引き大全　400の極意	金城俊哉	秀和システム	1
みんなのPython　第４版	柴田　淳	SBクリエイティブ	1
リーダブルコード（日本語版）	Dustin　Boswellほか	オライリージャパン	1
ｽﾗｽﾗ読めるPythonふりがなﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ　増補改訂版	リブロワークスほか	インプレス	1
独習Python	山本祥寛	翔泳社	1
よしもとプログラミング部と学ぶPython「超」入門教室	よしもとﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ部ほか	SBクリエイティブ	1
Python　チュートリアル　第４版	Guido van Rossumほか	オライリージャパン	1
徹底攻略　Python3 エンジニア認定［基礎試験］問題集	株式会社ビープラウドほか	インプレス	1
Pythonプログラミング逆引き大全 450の極意　改訂版	金城俊哉	秀和システム	1
そろそろ常識？マンガでわかる「正規表現」	森　巧尚	ｼｰｱﾝﾄﾞｱｰﾙ研究所	1

データサイエンス入門		米山修司	
Excelで学ぶ統計解析本格入門	日花弘子	SBクリエイティブ	1
はじめての統計学	鳥居泰彦	日本経済新聞社	1
完全独習　統計学入門	小島寛之	ダイヤモンド社	1
教養としてのデータサイエンス	北川源四郎ほか	講談社	1
データサイエンス入門	竹村彰通ほか	学術図書	1
Excel　データ分析の教科書	日花弘子	SBクリエイティブ	1
統計学図鑑	栗原伸一ほか	オーム社	1
よくわかる統計学　介護福祉・栄養管理データ編第２版	石村貞夫ほか	東京図書	1
やさしく学べる統計学	石村園子	共立出版	1
基礎統計学	鈴木良雄ほか	講談社	1
１歩前からはじめる「統計」の読み方・考え方	神林博史	ミネルヴァ書房	1
アンケート分析入門　Excelによる集計・評価・分析	菅　民郎	オーム社	1
わかる統計学	松村康弘ほか	化学同人	1
統計学が最強の学問である	西内啓著	ダイヤモンド社	1
管理栄養士・栄養士のための統計処理入門	武藤志真子ほか	建帛社	1
図解　アンケート調査と統計解析がわかる本新版	酒井　隆	日本能率協会ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄｾﾝﾀｰ	1
悩めるみんなの統計学入門	中西達夫	技術評論社	1
健康・栄養ﾃﾞｰﾀを読む力は「生活・仕事力」をｱｯﾌﾟさせる	宮城重二	光生館	1
統計学のための数学教室	永野裕之ほか	ダイヤモンド社	1
ふたたびの確率・統計　［１］確率編	永野裕之	すばる舎	1
ふたたびの確率・統計　［２］統計編	永野裕之	すばる舎	1
統計学×データ分析　基礎から体系的に学ぶデータサイエンティスト養成講座	浜松ウエジマ	SBクリエイティブ	1
はじめの第一歩　基礎からはじめるデータサイエンス	保本正芳	Noa出版	1
データの分析と統計的な推測が１冊でしっかりわかる本	佐々木隆宏	かんき出版	1
数研講座シリーズ　大学教養　統計学	丸茂幸平	数研出版	1
チャート式シリーズ　大学教養　統計学	丸茂幸平	数研出版	1
改訂版日本統計学会認定統計検定３級対応「ﾃﾞｰﾀの分析」	日本統計学会	東京図書	1
改訂版日本統計学会認定統計検定３級対応「統計学基礎」	日本統計学会	東京図書	1
マンガでわかる統計学	高橋　信ほか	オーム社	1
マンガでわかる統計学　回帰分析編	高橋　信ほか	オーム社	1
統計学入門	東京大学教養学部統計学教室	東京大学出版会	1

Webページ作成Ⅰ・Ⅱ		べ　ジンソク	
Dreamweaver　レッスンブック	関口和真	ソシム	1
html&cssとWebデザイン入門講座	Mana	SBクリエイティブ	1
HTML&CSSとWebデザインが１冊できちんと身につく本	服部雄樹	技術評論社	1
世界一わかりやすいAdobe　XD	北村　崇	技術評論社	1
世界一わかりやすいDreamweaver	中川正道	技術評論社	1

比較文化Ａ		横溝眞理	
現代ドイツにおける学校制度改革と学力問題	布川あゆみ	晃洋書房	1
現代ドイツを知るための67章　第３版	浜本隆志ほか	明石書店	1
現代ドイツ情報ハンドブック+ｵｰｽﾄﾘｱ・ｽｲｽ　改訂版	在間　進ほか	三修社	1
ドイツの学校にはなぜ「部活」がないのか 非体育会系ｽ	高松平藏	晃洋書房	1

ﾎﾟｰﾂが生み出す文化、コミュニティ、そして豊かな時間			
ドイツ文化事典	石田勇治	丸善出版	1

比較文化Ａ		近藤清兄	
沖縄語の入門（改訂版）	中岡　敏ほか	白水社	1
はじめてのハワイ語	木村由香	小学館	1
スワヒリ世界をつくった「海の市民たち」	根本利通	昭和堂	1
Concise Oxford Dictionary of English Place-Names	Eilert Ekwall	Oxford University Press	1

比較文化Ａ		米山修司	
わかるヨコハマ	横浜市教育委員会ほか	神奈川新聞社	1
港都横浜の文化論	小林照夫ほか	関東学院大学出版会	1
幕末・明治の横浜	斎藤多喜夫	明石書店	1
図説【横浜の歴史】	「図説・横浜の歴史」編集委員会	横浜市市民局市民情報室広報センター	1
横浜開港と境域文化	内海　孝	御茶の水書房	1

比較文化Ｂ		横溝眞理	
クリスマスの文化史	若林ひとみ	白水社	2
ドイツ クリスマスマーケットめぐり	見市　知	産業編集センター	1
きらめくドイツクリスマスマーケットの旅	久保田由希	マイナビ出版	1
クリスマス小事典	遠藤紀勝 ほか	社会思想社	1
キリスト教歳時記　知っておきたい協会の文化	八木谷涼子	平凡社	1

比較文化Ｂ		菅野　薫	
国際語としての英語	若本夏美 ほか	松柏社	1
日本語と英語 その違いを楽しむ	片岡義男	ＮＨＫ出版	1
国際共通語としての英語	鳥飼玖美子	講談社	1
社会人のための英語の世界ハンドブック	坂井志延	大修館書店	2
そもそも英語ってなに？	里中哲彦	現代書館	1
他言語とくらべてわかる英語のしくみ	宍戸里佳	ベレ出版	1

日本文化史Ａ		渡部育子	
図説 秋田市の歴史	秋田市	秋田市	2

日本文化史Ｂ		渡部育子	
元明天皇 元正天皇	渡部育子	ミネルヴァ書房	3

スポーツ科学Ｂ		渡邊和仁	
観るまえに読む大修館スポーツルール 2025	大修館書店編集部	大修館書店	1

ドイツ語圏文化Ｂ		横溝眞理	
ドイツ家庭料理		中央公論社	1
野田シェフのドイツ料理	野田浩資	里文出版	1
ドイツおいしい物語	大島楨子	東京書籍	1
西洋建築様式史	熊倉洋介	新集社	1
図説　西洋建築の歴史　カラー版	西田雅嗣	学芸出版社	1

食生活論		熊谷昌則	
マンガ秋田伝統野菜	杉山 彰	無明舎出版	

火の賜物　～ヒトは料理で進化した～	リチャード・ランガム	NTT 出版	1
日本食の文化　「和食」の継承と食育	江原絢子	ｱｲｹｲ・ｺｰﾎﾟﾚｰｼｮﾝ	1
日本食の文化　「原始から現代に至る食のあゆみ」	江原絢子	ｱｲｹｲ・ｺｰﾎﾟﾚｰｼｮﾝ	1

食品と調理		**豊嶋瑠美子**	
食品でひく機能性成分の事典	中村宜督	女子栄養大学出版部	1
一生役立つ　きちんとわかる栄養学	飯田薫子ほか	西東社	1
新・野菜の便利帳　健康編		高橋書店	1
おもてなしのヒントを大解説　大切な人を幸せにするテーブルコーディネートバイブル２	和田よう子	フォーシーズンズプレス	1
盛りつけの基本とアイデア	河合真由子	成美堂出版	1

調理演習Ｂ			**松田律子**	
初めての料理 肉と卵	(基本の基本シリーズ)	栄養と料理 家庭料理研究ｸﾞﾙｰﾌﾟ	女子栄養大学出版部	2
初めての料理 魚と豆腐	(基本の基本シリーズ)	栄養と料理 家庭料理研究ｸﾞﾙｰﾌﾟ	女子栄養大学出版部	2
初めての料理 野菜と芋	(基本の基本シリーズ)	栄養と料理 家庭料理研究ｸﾞﾙｰﾌﾟ	女子栄養大学出版部	2
初めての料理 ご飯とめん	(基本の基本シリーズ)	栄養と料理 家庭料理研究ｸﾞﾙｰﾌﾟ	女子栄養大学出版部	3
初めての手作り お菓子とﾊﾟﾝ	(基本の基本シリーズ)	栄養と料理 家庭料理研究ｸﾞﾙｰﾌﾟ	女子栄養大学出版部	3

基礎経済論		**熊丸博隆**	
落ちこぼれでもわかるミクロ経済学の本―初心者のための入門書の入門	木暮太一	マトマ商事；改訂新版	1
落ちこぼれでもわかるマクロ経済学の本―初心者のための入門書の入門	木暮太一	マトマ商事；改訂新版	1
経済学入門	奥野正寛	日本評論社	1

時事経済		**熊丸博隆**	
コア・テキスト公共経済学	板谷純一　ほか	新世社	1

食料経済		**佐藤　了**	
図説食料・農業・農村白書	農林水産省	農林統計協会	1
現代の経営 上・下（ドラッカー名著集２・３）	Ｐ.Ｅ.ドラッカー	ダイヤモンド社	各 1
わかりやすいマーケティング戦略 新版	沼上　幹	有斐閣	1
ドラッカー（経営学史叢書 X)	河野大機	文真堂	1
飢餓と飽食のマーケティング	小林富雄	ブイツソリューション	1
世界の農業と食料問題のすべてがわかる本	八木宏典	ナツメ社	5
農山村は消滅しない	小田切徳美	岩波書店	1
知っておきたい「味」の世界史	宮崎正勝	角川学芸出版	1
図解 知識ゼロからのコメ入門	八木宏典	家の光協会	1
食と日本人の知恵	小泉武夫	岩波書店	1
すごい和食	小泉武夫	ベストセラーズ	1
日本料理の歴史	熊倉功夫	吉川弘文館	1
日本人は何を食べてきたのか	永山久夫	青春出版社	1
イザベラ・バードの日本紀行 上・下	イザベラ･バード	講談社	各 1
水田農業と期待される農政転換	佐藤　了 ほか	筑波書房	1
戦争と農業	藤原辰史	集英社	1
日本人はなにをたべてきたか	原田信男	角川学芸出版	1

秘書実務Ⅰ・Ⅱ		**小林紀子**	
入門ビジネス文書　新訂	三沢　仁	産能大学出版部	2
ビジネス敬語に慣れる本	宮腰　賢	チクマ秀版社	2
秘書英語	田中篤子	有斐閣	4

ビジネス実務総論		**佐藤　恵**	
組織を動かすコミュニケーション力	高橋眞知子	実教出版	2

ビジネス実務演習Ⅰ		佐藤　恵	
集団コミュニケーション	浅井亜紀子	実教出版	2
日本人 礼儀作法のしきたり	飯倉晴武	青春出版社	2

国際開発ビジネス		佐藤邦子	
ストーリーで学ぶ開発経済学 ―途上国の暮らしを考える―	山形辰史	有斐閣	1

卒業研究		佐藤光咲	
世界食物百科	マグロンヌ・トゥーサン＝サマ	原書房	1
コメを選んだ日本の歴史	原田信男	文藝春秋	1
ジャガイモの世界史	伊藤章治	中央公論新社	2
肉食の思想	鯖田豊之	中央公論新社	2
世界の食べもの 食の文化地理	石毛直道	講談社	1
物語 食の文化	北岡正三郎	中央公論新社	2
世界史を大きく動かした植物	稲垣栄洋	PHP	1
食の歴史　～人類はこれまで何を食べてきたのか～	ジャック・アタリ	プレジデント社	1
食べる	西江雅之	青土社	1
世界の学校給食・食育の歴史	新村洋史	績文堂出版	1
給食・食育で子どもが変わる	新村洋史	新日本出版社	1

卒業研究		栗森　貢	
SDGｓのきほん	稲葉茂勝	ポプラ社	1
未来の授業　SDGｓライフキャリアＢＯＯＫ	佐藤真久	宣伝会議	1
世界がぐっと近くなる　SDGｓとボクらをつなぐ本	池上　彰	Gakken	1

卒業研究		近藤清兄	
秋田のことば	秋田県教育委員会	無明舎出版	1
解説秋田方言 その諸相を探る	北条忠雄	「解説秋田方言」刊行会	1
方言の地図帳	佐藤亮一	講談社	1

卒業研究		周　業欣	
ストーリーボードの教科書　伝える英城の設計図	グレッグ・ダヴィットソン	ボーンデジタル	1
映画表現の教科書-名シーンに学ぶ決定的テクニック 100	ジェニファー・ヴァン・シル	フィルムアート社	1
映画監督が教える　また観たい！と思わせる動画の法則	スティーヴ・ストックマン	ボーンデジタル	1
新版　映像カメラマンのための構図完全マスター	益子広司	玄光社	1
新版　映像制作ハンドブック	グラスバレー	玄光社	1

卒業研究		菅野　薫	
もうひとつの秋田	アートＮＰＯゼロダテ	アートＮＰＯゼロダテ	1
あきたをおしえて	こばやしたけし	くまがい書房	1
地方は活性化するか否か	こばやしたけし	学研プラス	1
やさしいデザインの教科書	瀧上園枝	ｴﾑﾃﾞｨｴﾇｺｰﾎﾟﾚｰｼｮﾝ	1
地域を変えるﾃﾞｻﾞｲﾝｺﾐｭﾆﾃｨが元気になる 30 のｱｲﾃﾞｱ	Issue＋design project	英治出版	1
デザインの基本ノート	尾沢早飛	SB クリエイティブ	1
全予測 2020 年代の日本　図解・未来の年表	河合雅司	講談社	1
勝平得之　創作版画の世界	加藤隆子	秋田魁新報社	1
AI 翻訳革命　あなたの仕事にもう英語学習はいらない	隅田英一郎	朝日新聞出版	1
データで読む地域再生		日経 BP	1
戦争は女の顔をしていない（岩波文庫）	ｽｳﾞｪﾄﾗｰﾅ・ｱﾚｸｼｴｰｳﾞｨﾁ	岩波書店	1
〃　漫画版１	小梅けいと	KADOKAWA	1
〃　2	〃	〃	1
〃　3	〃	〃	1
未来の地図帳	河合雅司	講談社現代新書	1
佐々木久春詩集	佐々木久春	土曜美術社出版販売	1
なるほどデザイン-目で見て楽しむ新しいデザインの本。	筒井美希	ｴﾑﾃﾞｨｴﾇｺｰﾎﾟﾚｰｼｮﾝ	1

卒業研究		米山修司	
Java で学ぶ自然言語処理と機械学習	杉本　徹ほか	オーム社	1
自然言語処理の基礎	奥村　学	コロナ社	1
IT　Text　自然言語処理	天野真家ほか	オーム社	1
実践入門 Word2Vec　自然言語処理活用ハンドブック	長崎俊紀	インプレス R&D	1
自然言語処理の基本と技術	奥野　陽ほか	翔泳社	1
Python で学ぶ　テキストマイニング入門	石田基広	ｼｰｱﾝﾄﾞｱｰﾙ研究所	1
Python・Colab・NLP　入門	井田昌之	近代科学社 Digital	1
コピペで簡単実行！キテレツおもしろ自然言語処理	Youwht	翔泳社	1
自然言語処理の教科書	小町　守	技術評論社	1
自然言語処理　三訂版	黒橋禎夫	放送大学教育振興会	1
はじめての自然言語処理	土屋誠司	森北出版	1
ことばの意味を計算するしくみ ―計算言語学と自然言語処理の基礎―	谷中　瞳	講談社	1
ことばのデータサイエンス	小林雄一郎	朝倉書店	1
IT 基礎教養　自然言語処理&画像解析	鎌形佳太	インプレス	1
“生成 AI”を生み出す技術 ゼロからわかる IT ほんき入門＋マンガ 精製 AI のなかみ	黒川なお	インプレス	1

Essay and Speech		菅野　薫	
相手を必ず動かす! 英会話のテクニック	清水崇文	アルク	1
英語で聴く世界を変えた感動の名スピーチ	平野次郎	KADOKAWA	1
セレブたちの卒業式スピーチ		朝日出版社	1
はじめての英語スピーチアクト	鈴木利彦	南雲堂	1
英語を話すために知っておきたい いらない英文法	Mami	KADOKAWA	1
イラストと図解でぱっとわかる 英文法図鑑	田地野彰	KADOKAWA	1
すごい言語化	小暮太一	ダイヤモンド社	1
言語化大全	山口拓朗	ダイヤモンド社	1
AI 翻訳革命　あなたの仕事にもう英語学習はいらない	隅田英一郎	朝日新聞出版	1
こあら式　英語のフレーズ図鑑	こあらの学校	KADOKAWA	1
英語で言いたい　日本語の慣用表現	柴田真一	アルク	1
こうやって頭の中を言語化する	荒木俊哉	PHP	1
ていねいな文章大全	石黒圭	ダイヤモンド社	1
一度読んだら絶対に忘れない文章術の教科書	辻孝宗	SB クリエイティブ	1

ドイツ語Ⅲ		横溝眞理	
ドイツ留学案内			
大学篇	山本浩司 ほか	三修社	1
語学学校・サマーコース篇	山本浩司 ほか	三修社	1
ワーキングホリデーｉｎドイツ	オセアニア交流センター	三修社	1

ドイツ語Ⅳ		横溝眞理	
トラブラないトラベル会話			
ドイツ語 ドイツを旅する	沖島博美	三修社	1
ドイツ語 スイスを旅する	鈴木光子	三修社	1
おいしく食べて楽しいドイツ語	祐子・タム	三修社	1

データベース活用		周　業欣	
よくわかる Microsoft Access 基礎	富士通エフ・オー・エム	富士通オフィス機器	1
よくわかる Microsoft Access 応用	富士通エフ・オー・エム	富士通オフィス機器	1

基礎デザイン論		周　業欣	
なるほどデザイン	筒井美希	ｴﾑﾃﾞｨｴﾇｺｰﾎﾟﾚｰｼｮﾝ	1
Graphic Design Theory -グラフィックデザイナーたちの〈理論〉	ヘレン・アームストロング	ビー・エヌ・エヌ新社	1
デザインのデザイン	原　研哉	岩波書店	1
誰のためのデザイン？増補・改訂版 -認知科学社のデザイン原論	D.A. ノーマン	新曜社	1

ノンデザイナーズ・デザインブック［第４版］	Robin Williams	マイナビ出版	1

色彩デザイン演習		周　業欣	
配色の設計-色の知覚と相互作用 Interaction of Color	ジョセフ・アルバース	ビー・エヌ・エヌ新社	1
配色の教科書　-歴史上の学者・アーティストに学ぶ「美しい配色」のしくみ	色彩文化研究会	パイインターナショナル	1
色の大事典　基礎知識と配色･カラーチャート･伝統色･慣用色名　DIGITAL COLORS for DESIGN	井上のきあ	エムディエヌコーポレーション	1
１枚デザインの構図とレイアウト	パイ インターナショナル	パイインターナショナル	1
冊子&折りパンフの構図とレイアウト	パイ インターナショナル	パイインターナショナル	1

保育学		石井美和子	
保育のまなざし	井桁容子	チャイルド本社	1
母親というものは	葉　祥明	学研プラス	2
赤ちゃん学で理解する乳児の発達と保育			
第１巻　睡眠・食事・生活の基本	池田輝久 ほか	中央法規	1
第２巻　運動・遊び・音楽	小西行郎 ほか	中央法規	1
第３巻　言葉・非認知的な心・学ぶ力	小椋たみ子 ほか	中央法規	1
新保育学	岡野雅子 ほか	南山堂	2

ビジネス実務演習Ⅱ		佐藤　恵	
コミュニケーション･スキルの学び	木下直子 ほか	実教出版	3

教育原理（生活こども専攻）		寺谷直輝	
教育原理	坂越正樹ほか	光生館	1
教育原理（新基本保育シリーズ２）	矢藤誠慈郎ほか	中央法規出版	1
シンガポールを知るための 65 章　第５版	田村慶子	明石書店	1
教育大国シンガポール　日本は何を学べるか	中野円佳	光文社	1
戦後幼児教育問題史	竹内通夫	風媒社	1
多様性がいきるインクルーシブ保育 対話と活動が生み出す豊かな実践に学ぶ	浜谷直人ほか	ミネルヴァ書房	1
日本における保育カリキュラム　歴史と課題	宍戸健夫	新読書社	1

教育心理学（生活こども専攻）		織田栄子	
こどもとむかいあうための教育心理学演習	会田元明	ミネルヴァ書房	1
こどもとむかいあうための教育心理学概論	会田元明	ミネルヴァ書房	1
発達心理学辞典		ミネルヴァ書房	1

教育方法論		栗森　貢	
子どもの才能を伸ばすモンテッソーリ教具 100	藤崎達宏ほか	三笠書房	1
専門家と作ったスキンシップ絵本　ぎゅ	はるな檸檬ほか	文響社	1
幼児理解に基づいた評価	文部科学省	ぎょうせい	2
幼児の思いをつなぐ指導計画作成と保育の展開	文部科学省	チャイルド社	2
指導と評価に生かす記録	文部科学省	チャイルド社	2

保育内容総論		石井美和子	
遊びと生活をひらく保育内容総論	太田光洋	ミネルヴァ書房	1
保育内容総論改訂版	横山文樹ほか	大学図書出版	1
学びの物語の保育実践	大宮勇雄	ひとなる書房	1

保育内容・言葉Ａ		栗森　貢	
保育内容 言葉	秋田喜代美 ほか	光生館	1
子どもとことば	岡本夏木	岩波書店	2
新版　保育内容・言葉	藪中征代ほか	教育出版	1
０～６歳児　言葉を育てる保育	福山多江子ほか	東洋館出版社	1

乳児保育Ⅰ・Ⅱ		石井美和子	
伝わる心がめばえるころ	神田英雄	かもがわ出版	1
子どもの発達と子育て・子育て支援	丸山美和子	かもがわ出版	1
赤ちゃん学で理解する乳児の発達と保育			
第1巻　睡眠・食事・生活の基本	池田輝久 ほか	中央法規	2
第2巻　運動・遊び・音楽	小西行郎 ほか	中央法規	1
第3巻　言葉・非認知的な心・学ぶ力	小椋たみ子 ほか	中央法規	1
育ちのきほん	神田英雄	ひとなる書房	1
保育のまなざし	井桁容子	チャイルド本社	2

こどもの音楽A・B		佐藤眞由子	
こどものうた200 正・続 ＊保育コーナーにあり		チャイルド本社	各2

保育実習指導Ⅰ		石井美和子	
乳児のあそび大図鑑	あそび編集委員会	かもがわ出版	3
幼児のあそび大図鑑	あそび編集委員会	かもがわ出版	3
小林雅代のかならずできる ベストパネルシアター	小林雅代	ひかりのくに	3
楽しいエプロンシアター	中谷真弓	メイト	3
楽しいエプロンシアター2	中谷真弓	メイト	3
楽しいエプロンシアター3	中谷真弓	メイト	3
保育の表現活動	植草一世	学文社	2
保育の基本用語	長島和代	わかば社	2
保育のマナーと言葉	長島和代	わかば社	2
保育に役立つ　言語・表現・教材	松本和美	みらい	3
これからの時代の保育者養成・実習ガイド	大豆生田啓友ほか	中央法規	3

保育実習ⅠB		石井美和子・寺谷直輝	
増補新版　障害児通所支援ハンドブック　児童発達支援　保育所等本門支援　放課後デイサービス	全国児童発達支援協議会	エンパワメント研究所	1
放課後等デイサービスハンドブック　子どもたちのゆたかな育ちのために	障害のある子どもの放課後保障全国連絡会	かもがわ出版	1
障害のある子を支える放課後等デイサービス実践事例集	全国児童発達支援協議会	中央法規出版	1
放課後等デイサービスの豊かなあそびと発達支援　個人支援の充実と地域での自立に向けて	亀井智泉	中央法規出版	1
インクルージョンを進めるために障害児の放課後活動を豊かにしよう　放課後等デイサービスを中心に	渡邊健治	ジアース教育新社	1

こども家庭福祉		寺谷直輝	
改訂版　施設実習パーフェクトガイド	守　巧　ほか	わかば社	1
保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典	中坪史典ほか	ミネルヴァ書房	1
母子生活支援施設の研究 高機能化・多機能化をめざして	横井義広	文化書房博文社	1
全国保育士会倫理綱領ガイドブック　改訂2版	柏女霊峰	全国社会福祉協議会	1
保育者のための専門職倫理ハンドブック	亀崎美沙子ほか	明石書店	1
施設実習必携ハンドブック	新川泰弘	晃洋書房	1
保育士等キャリアアップ研修テキスト　6 保護者支援・子育て支援	秋田喜代美ほか	中央法規出版	1

こども家庭支援の心理学		織田栄子	
子ども家庭支援の心理学	白川佳子 ほか	中央法規	1
子ども家庭支援の心理学	青木紀久代	みらい	1
子ども家庭支援の心理学	松本園子 ほか	ななみ書房	1

こどもの理解と援助		織田栄子	
こどもの詩	川崎　洋	文藝春秋	1
ほお…、ここが地球のほいくえんか	てぃ先生	ベストセラーズ	1
のっぽさんの「小さな人」となかよくできるかな？	高見のっぽ	小学館	1

こどもの食と栄養		松田律子	
図解でよくわかる 新･食育ガイドブック	堤ちはる	メイト	1
0～5歳児 食育まるわかりサポート&素材データブック		学研プラス	1
組み合わせが生きる！保育園の献立300	文京区保育園栄養士会	芽ばえ社	1
食育パワーアップ掲示板　天地人ベスト版	「月刊食育ﾌｫｰﾗﾑ」編集部	健学社	1

保育指導法		石井美和子	
実習における遊びの援助と展開	久富陽子	萌文書林	1
保育実習･教育実習の設定保育	片山紀子 ほか	朱鷺書房	1
おてて絵本入門	サトシン	小学館	3
ここがポイント！3法令ガイドブック	無藤　隆 ほか	フレーベル館	5
これからの時代の保育者養成・実習ガイド	大豆生田啓友ほか	中央法規	2

保育内容・人間関係		野内友規	
幼稚園教育要領	文部科学省	フレーベル館	1
保育書保育指針	厚生労働省	フレーベル館	1
幼保連携型認定こども園　教育・保育要領	内閣府ほか	フレーベル館	1

保育内容・健康		大曽基宣	
保育内容「健康」(新しい保育講座)	川邉貴子ほか	ミネルヴァ書房	1

保育内容・環境B		大曽基宣	
あそびワンダーブック20th　Anniversary	愛知県児童総合センター		1
0・1歳児クラス編 触れて感じて人とかかわる	宮里暁美	中央法規	3
2・3歳児クラス編 遊んで感じて自分らしく	宮里暁美	中央法規	3
4・5歳児クラス編 遊びを広げて学びに変える	宮里暁美	中央法規	3
あそびから学びが生まれる動的環境デザイン	大豆生田啓友	学研プラス	1

保育原理		大曽基宣	
子どもを「人間としてみる」ということ	佐伯　胖ほか	ミネルヴァ書房	1
驚くべき学びの世界　レッジョ・エミリアの幼児教育	佐藤　学ほか	TOKYO　CALENDAR	1
学びの物語の保育実践	大宮勇雄	ひとなる書房	1

保育内容・言葉B		栗森　貢	
遊んで学ぶ文字・言葉	中島千恵子	黎明書房	1
０～６歳児　言葉を育てる保育	福山多江子ほか	東洋館出版社	1
新版　保育内容・言葉	藪中征代ほか	教育出版	1
幼い子の文学	瀬田貞二	中央公論新社	1

英語Ａ・Ｂ		菅野　薫	
やさしい英語の相性図鑑	すずきひろし	ソシム	1
I spy letters	Jean Marzollo	Scholastic Inc	1
I spy animals	Jean Marzollo	Scholastic Inc	1
コアラ式英語のニュアンス図鑑	こあらの学校	KADOKAWA	1
もう一度始める英語入門	菅谷とも子	成美堂出版	1
ワードセンス　伝えるための単語力	大西泰斗ほか	桐原書店	1
高校　やさしくわかりやすい英文法	組田幸一郎	文英社	1
イラストと図解でパッとわかる英文法図鑑	田地野彰	KADOKAWA	1
Hunggy Kissy	Leslie Patricelli	Candlewick;Brdbk	1
Splash	Leslie Patricelli	Candlewick;Brdbk	1
Binky	Leslie Patricelli	Candlewick;Brdbk	1
Yummy Yucky	Leslie Patricelli	Candlewick;Brdbk	1
Baby Happy Baby Sad	Leslie Patricelli	Candlewick;Brdbk	1
Boo	Leslie Patricelli	Candlewick;Brdbk	1
Fa La La	Leslie Patricelli	Candlewick;Brdbk	1
Higher higher	Leslie Patricelli	Candlewick;Brdbk	1
Quiet LOUD	Leslie Patricelli	Candlewick;Brdbk	1

Toot	Leslie Patricelli	Candlewick;Brdbk	1
難訳和英オノマトペ事典	松本弘道	さくら社	1
12歳までに知っておきたい語彙力図鑑	齋藤　孝	日本能率協会	1
Dear Zoo A Lift-the-Flap Book	Rod Campbell	Little Simon;Brdbk Anv版	1
Twinkle, Twinkle, Little Star		Cartwheel Books;Illustrated版	1
Where's Spot?	Eric Hill	Warne	1
Excuse Me!		Grosset&Dunlap	1
Potty	Leslie Patricelli	Candlewock;Brdbk	1
Eating the Alphabet Board Book: Fruits &Vegetables from A to Z	Lois Ehlert	Clarion Books	1
I'm a Ballerina	Sue Fliess	Little Golden Book	1

教育課程総論（生活こども専攻）		寺谷直輝	
教育・保育カリキュラム論（新基本保育シリーズ１３）	千葉武夫ほか	中央法規出版	1
幼保小の「架け橋プログラム」実践のためのガイド	湯川秀樹ほか	ミネルヴァ書房	1
魅力的で特色ある園をめざして よくわかるカリキュラム・マネジメントの進め方	神長美津子	フレーベル館	1
０～５歳児子どもの姿からつくるこれからの指導計画	大豆生田啓友	チャイルド本社	1
保育士等キャリアアップ研修テキスト１　乳児保育	秋田喜代美ほか	中央法規出版	1
保育士等キャリアアップ研修テキスト２　幼児教育	秋田喜代美ほか	中央法規出版	1
幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立と変遷	民秋　言	萌文書林	1

教育制度論（生活こども専攻）		寺谷直輝	
新・教職課程演習第４巻(教育法規・教育制度・教育経営)	藤井穂高ほか	協同出版	1
幼児教育.保育制度改革の展望 教育制度研究の立場から	秋川陽一ほか	教育開発研究所	1
保育学講座２（保育を支えるしくみ　制度と行政）	日本保育学会	東京大学出版会	1
「共創の時代」の教育制度論	星野敦子	学文社	1
世界の保育の質評価	秋田喜代美	明石書店	1
保育士等ｷｬﾘｱｱｯﾌﾟ研修テキスト７　第２版　ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	秋田喜代美ほか	中央法規出版	1
保育士等ｷｬﾘｱｱｯﾌﾟ研修テキスト５　保健衛生・安全対策	秋田喜代美ほか	中央法規出版	1

幼稚園教育実習指導		藤田洋子	
日々わくわく	篠木 眞（撮影）	現代書館	1

教職概論（生活こども専攻）		藤田洋子	
世界中の子どもの権利をまもる30の方法	国際子ども権利センター	合同出版	1
日々わくわく	篠木 眞（撮影）	現代書館	1

教職実践演習（生活こども専攻）		寺谷直輝	
保育現場のICT活用ガイド　実践に役立つ・業務の効率化につながる	田中浩二	中央法規出版	1
ICT を使って保育を豊かに　ワクワクがつながる＆広がる２８の実践	秋田喜代美ほか	中央法規出版	1

SDGｓ実践演習		寺谷直輝	
SDGｓ時代の保育実践アイデア帳 一緒につくろう！持続可能な社会	小西貴士ほか	フレーベル館	1
今日から実践保育で取り組むSDGｓ	秋山宏次郎	新星出版社	1
SDGｓ時代の社会貢献活動 一人ひとりができることとは	前林清和ほか	昭和堂	1
絵本で読みとくSDGｓ	中川素子ほか	水声社	1
保育に活かすSDGｓ/ＥＳＤ	藤崎亜由子ほか	かもがわ出版	1
持続可能な社会をつくる日本の保育	冨田久枝ほか	かもがわ出版	1
教師のためのSDGｓアクティビティー・ハンドブック	香川文代ほか	玉川大学出版部	1
こどもSDGｓ達成レポート	秋山宏次朗	カンゼン	1
SDGｓと保育スタートＢＯＯＫ	青木一永ほか	みらい	1

やるべきことがすぐわかる今さら聞けないSDGsの超基本	佐和隆光	朝日新聞出版	1
SDGs〈持続可能な開発目標〉	蟹江憲史	中央公論新社	1
探してみよう！マークで学ぶSDGs　３巻セット	蟹江憲史	ほるぷ出版	1

教育相談		**織田栄子**	
カウンセリングの話	平木典子	朝日新聞社	1
カウンセリングを学ぶ	水島恵一 ほか	有斐閣	1
河合隼雄のカウンセリング入門	河合隼雄	創元社	1
河合隼雄のカウンセリング講話	河合隼雄	創元社	1
河合隼雄のカウンセリング教室	河合隼雄	創元社	1
心理臨床大事典	氏原　寛 ほか	培風館	1

健康栄養専攻共通			
Nブックスシリーズ		建帛社	各1
健康・栄養科学シリーズ		南江堂	各1
ヒューマン･ニュートリション	J.S Garrowほか	医歯薬出版	2
活躍する管理栄養士	田中浩子	文理閣	5
海を渡った栄養士たち		青年海外協力協会	1

英語Ａ・Ｂ		**近藤清兄**	
スヌーピーの50年	チャールズ･M･シュルツ	朝日新聞出版	1
A peanuts book featuring Snoopy (8)～(10)		角川書店	各1

解剖生理学Ⅰ・Ⅱ		**齋藤　謙**	
解剖学　1～3	森　於菟 ほか	金原出版	各1
解剖学　続巻	森　優	金原出版	1
図説 ヒトのからだ	中野昭一	医歯薬出版	2
図説 からだの仕組みと働き	中野昭一	医歯薬出版	2
からだの構造と機能	A.ｼｪﾌﾗｰ	西村書店	2
新入門解剖図譜	三井但夫 ほか	建帛社	1

生化学		**浅野純平**	
細胞機能と代謝マップⅠ	日本生化学会	東京化学同人	1
ホートン生化学	H.Robert Horton	東京化学同人	1
生化学辞典 第4版	今堀和友 ほか	東京化学同人	1
基礎の生化学 第2版	猪飼　篤	東京化学同人	1
図説 生化学	石倉久之 ほか	丸善	1
標準生化学	藤田道也	医学書院	1
基礎から考える化学	山崎昶	化学同人	1
有機化学概論	塩田三千夫 ほか	裳華房	1
基礎化学（栄養科学シリーズNEXT）	辻　英明 ほか	講談社	1
ステップアップ　大学の総合化学	齋藤勝裕	裳華房	1
ネオパルノート　化学講座		第一学習社	1
標準細胞生物学	石川春律 ほか	医学書院	1
もっとよくわかる！免疫学	河本　宏	羊土社	1

食品学総論		**熊谷昌則**	
食の本棚 栄養満点おいしい人生を与えてくれる７０冊	河合知子	幻冬舎ルネッサンス	1
基礎食品学　新版	遠藤泰志ほか	ｱｲ･ｹｲ･ｺｰﾎﾟﾚｰｼｮﾝ	1
スタンダート食品学	五明紀春ほか	ｱｲ･ｹｲ･ｺｰﾎﾟﾚｰｼｮﾝ	1
味のなんでも小事典	日本味と匂学会	講談社	1
食品の成分と機能第2版	日本ﾌｰﾄﾞｽﾍﾟｼｬﾘｽﾄ教会	建帛社	1
図解　眠れなくなるほど面白い炭水化物の話	山田　悟	日本文芸社	1
食品機能学への招待 生活習慣病予防と機能性食品新版	須見洋行ほか	三共出版	1
機能性食品の事典	荒井綜一	朝倉書店	1

食品学各論		熊谷昌則	
食品材料（エスカ･シリーズ）	五十嵐　脩 ほか	同文書院	3
食品図鑑 オールカラー版	芦澤正和 ほか	女子栄養大学出版部	2
日本食品大事典 新装 第二版	平　宏和 ほか	医歯薬出版	1
食べ物の履歴書	吉田宗弘	関西大学出版部	1
新編　標準食品学各論　食品学Ⅱ	澤野勉原	医歯薬出版	1
食品材料と加工、貯蔵・流通技術　第2版	日本ﾌｰﾄﾞｽﾍﾟｼｬﾘｽﾄ教会	建帛社	1

食品衛生学		熊谷昌則	
食品添加物の使用と基準便覧		日本食品衛生会	1
生食のはなし	川本伸一 ほか	朝倉書店	1
食品の安全性3訂第3版	日本ﾌｰﾄﾞｽﾍﾟｼｬﾘｽﾄ協会	建帛社	1
ノロウイルス食中毒・感染症からまもる！！改訂新版	野田衛執	日本食品衛生協会	1
絵でよくわかる食中毒の知識	伊藤　武ほか	講談社	1
よくわかる暮しのなかの食品添加物　第4版	日本食品添加物協会	光生社	1
食品添加物キャラクター図鑑	左巻健男	日本図書センター	1

栄養学総論		浅野純平	
基礎栄養学（栄養科学シリーズNEXT）	木戸康博 ほか	講談社	1
コンパクト栄養学	脊山洋石	南江堂	1
栄養の基本がわかる図解事典	中村丁次	成美堂出版	1
栄養の教科書	中嶋洋子	新星出版社	1
最新 基礎栄養学	吉田　勉 ほか	医歯薬出版	1

臨床栄養学Ⅰ		須磨亜沙子	
病気がみえる全14巻	医療情報科学研究所	メディックメディア	各1
カラー図解 人体の正常構造と機能Ⅰ～Ⅹ	医療情報科学研究所	日本医事新報社	各1
潰瘍性大腸炎とクローン病の栄養管理	中東真紀	講談社	1
人体の構造と機能	内田さえ	医歯薬出版	1
エッセンシャル 臨床栄養学	佐藤和人	医歯薬出版	1

給食管理		伊藤雅子	
介護食メニュー集	田中弥生	ニチブン	1
栄養食事管理のための施設別給食献立集	鈴木久乃 ほか	建帛社	1
メディカル栄養管理総説	田花利男 ほか	第一出版	1
新･実践給食経営管理論	藤原正嘉 ほか	みらい	1
給食の運営管理論（エスカベーシック）	芦川修貳 ほか	同文書院	1
給食経営管理論	日本栄養改善学会	医歯薬出版	1
たべることと出すこと	頭木弘樹	医学書院	1
香りや見た目で脳を勘違いさせる	坂井信之	かんき出版	1
「食を」をとおして育つもの・育てたいもの	堤ちはる	ぎょうせい	1
栄養士・管理栄養士ってこんな仕事しています	油井 陽	女子栄養大学出版部	1
おいしさの9割はこれで決まる！	西村敏英	女子栄養大学出版部	1
ピュイゼ　子どものための味覚教育食育入門編	石井克枝	講談社	1

調理学		豊嶋瑠美子	
料理の科学大図鑑	シュチュアート･ファリモンド	河出書房新社	1
からだにおいしい魚の便利帳	藤原昌高	高橋書店	1
新・野菜の便利帳　健康編		高橋書店	1
新・野菜の便利帳　おいしい編		高橋書店	1
旬の野菜の栄養事典	吉田企世子	エクスナレッジ	1
知っておいしい肉事典	実業之日本社	実業之日本社	1

食品学実験		塚本研一	
食品学実験	橋本俊二郎 ほか	講談社	3
食品学実験・実習	長澤治子	青山社	1
新・図解食品学実験	新美康隆	（株）みらい	1
最新食品学	甲斐達夫	講談社	2
新版 食品学実験	江角彰彦	同文書院	2

食品加工衛生学実験		熊谷昌則	
衛生試験法・注解	日本薬学会	金原出版	1
乳製品試験法・注解	日本薬学会	金原出版	1
初心者のための食品製造学	中島一郎	光琳	3
食品加工実習	浅利喬泰 ほか	樹村房	3
食品加工実習	相沢孝亮	地人書館	3
原色食品加工工程図鑑	小原哲二郎 ほか	建帛社	3
てがるにできる加工食品	峰下　雄 ほか	建帛社	3
新しい食品加工学	小川　正 ほか	南江堂	3
第７版 つくってみよう加工食品	仲尾玲子 ほか	学文社	1
図解 食品衛生学実験 第３版	一戸正勝 ほか	講談社	1
イラスト食品加工・食品機能実験第２版	太田英明 ほか	東京数学社	1

基礎調理実習		豊嶋瑠美子	
家庭料理技能検定公式ガイド３級	家庭料理技能検定専門委員会	女子栄養大学出版部	2
美しい盛りつけの基本	久保香菜子	成美堂出版	1
新装版 包丁の教科書	野﨑洋光	新星出版社	1
なぜ？からはじめるかんたん和食	野﨑洋光	ぴあ	1
土井善晴のレシピ 100	土井善晴	学研プラス	1
気軽に作れて、これ以上おいしいレシピを私は知らない	misa	KADOKAWA	1

応用調理実習		豊嶋瑠美子	
家庭料理技能検定公式ガイド筆記試験編 １級から２級	家庭料理技能検定専門委員会	女子栄養大学出版部	2
家庭料理技能検定公式ガイド実技試験編 １級から２級	家庭料理技能検定専門委員会	女子栄養大学出版部	2
一流シェフのレシピ大全 本当においしく作れる永久保存の 200 品	世界文化社	世界文化社	1
家庭料理で使えるプロのワザ満載 クラシル#シェフのレシピ帖	クラシル監修	KADOKAWA	1
手作りお菓子の教科書 プロが教える本当のコツ	中嶋咲絵	KADOKAWA	
学校栄養教育論		**大曽基宣**	
学校給食アレルギー事故防止マニュアル	赤城智美	合同出版	1
食育白書	農林水産省	日経印刷	1
ごはんがすすむ にいがた給食レシピ	新潟県学校栄養士協議会	新潟日報事業社	1
東京足立区の給食室	足立区教育委員会	泰文堂	2
組み合わせ自由 ３段式学校給食の献立	藤原勝子	群羊社	1

教職概論（健康栄養専攻）		佐藤光咲	
教職概論	佐藤晴雄	学陽書房	1
教師の資質	諸富祥彦	朝日新聞出版	1
教職概論（新・教職課程シリーズ）	高橋　勝	一藝社	1
教職論（Minerva はじめて学ぶ教職）	吉田武男	ミネルヴァ書房	1
日本の教育はダメじゃない	小松　光 ほか	ちくま新書	1
教育現場は困っている	榎本博明	平凡社新書	1

教育原理（健康栄養専攻）		寺谷直輝	
これからの教育学	神代健彦ほか	有斐閣	1
希望をつむぐ教育	行田稔彦ほか	生活ジャーナル	1
子ども食堂をつくろう！人がつながる地域の居場所づくり	豊島子ども WAKUWAKU ﾈｯﾄﾜｰｸ	明石書店	1
教育原理（よくわかる！教職エクササイズ１）	島田和幸ほか	ミネルヴァ書房	1
教育原理・教職原論（新・教職課程演習　第１巻）	平井悠介ほか	協同出版	1
地域で愛される子ども食堂つくり方・続け方	飯沼直樹	翔泳社	1

子どもの学習支援ハンドブック	地域における子どもの学びの支援協同研究会	かもがわ出版	1
地域に学びの居場所をつくる			
〈共生と自治〉の社会教育	辻　浩	旬報社	1
生涯学習のインクルージョン	津田英二	明石書店	1
障害をもつ人の「自立」と人権	小林　繁	現代書館	1
新・教職課程演習　第２巻（教育史）	尾上雅信ほか	協同出版	1

教育制度論（健康栄養専攻）		**栗森　貢**	
学力の経済学	中室牧子	ﾃﾞｨｽｶﾋﾞｧｰﾄｳｴﾝﾃｨﾜﾝ	1
学校法	佐々木幸寿	学文社	1
現代の教育制度と経営	岡本　徹 ほか	ミネルヴァ書房	1
教育の最新事情　現代教育の動向と課題		教育出版	

教育心理学（健康栄養専攻）		**織田栄子**	
いじめ、虐待、そして犯罪の深層	町沢静夫	丸善	1
池上彰が聞く「僕たちが学校に行かなかった理由」	池上　彰	オクムラ書店	1
非行少年の加害と被害	藤岡淳子	誠信書房	1
教職をめざす人のための教育心理学	藤田主一 ほか	福村出版	1
問題行動と学校の荒れ	加藤弘通	ナカニシヤ出版	1

教育課程総論（健康栄養専攻）		**佐藤光咲**	
実践に活かす 教育課程論・教育方法論	樋口直宏 ほか	学事出版	1
教育課程（教師教育テキストシリーズ）	山﨑準二	学文社	2
取り残される日本の教育	尾木直樹	講談社	1
「カリキュラム・マネジメント」の進め方	矢ノ浦勝之	小学館	1
「考える力」を伸ばす	久野泰可	集英社文庫	1
小学校と大学で未知に挑む力はこうして育つ	今泉　博 ほか	子どもの未来社	1

教育方法論		**佐藤光咲**	
教育方法論（新・教職課程シリーズ）	広石英記	一藝社	1
子どもに向き合う授業づくり	生田孝至	図書文化	1
新しい時代の教育方法	田中耕治 ほか	有斐閣	1
教育の方法と技術	樋口直宏 編	ミネルヴァ書房	1

道徳・特別活動及び総合的な学習		**佐藤光咲**	
小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編	文部科学省	東洋館出版	1
中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編	文部科学省	ぎょうせい	1
道徳教育論（新・教職課程シリーズ）	松下良平	一藝社	1
特別活動論（新・教職課程シリーズ）	犬塚文雄	一藝社	1
特別の教科 道徳Ｑ＆Ａ	松本美奈 ほか	ミネルヴァ書房	1

特別支援教育		**寺谷直輝**	
特別支援教育（よくわかる！教職エクササイズ５）	石橋裕子ほか	ミネルヴァ書房	1
障がい青年の大学を拓く インクルーシブな学びの創造	田中良三ほか	クリエイツかもがわ	1
障がい青年の学校から社会への移行期の学び　学校・福祉事業型専攻科ガイドブック	田中良三ほか	クリエイツかもがわ	1
特別支援教育（新・教職課程演習　第６巻）	米田宏樹ほか	協同出版	1
障害のある青年たちとつくる「学びの場」	伊藤修毅	かもがわ出版	1
ライフワイドの視点で築く学びと育ち	國本真吾	日本標準	1
障がい青年の自分づくり	渡部昭男	日本標準	1
障害をもつ人の生涯学習支援	小林　繁ほか	旬報社	1
知的障害の若者に大学教育を	ゆたかカレッジ	クリエイツかもがわ	1

社会福祉概論		**伊藤雅子**	
社会福祉概論	小田兼三ほか	勁草書房	1
わかりやすい社会福祉	阿部　實	同文書院	1
社会福祉概論	立花直樹 ほか	ミネルヴァ書房	1
新版 福祉のための家政学	中川英子	建帛社	1

「平穏死」のすすめ	石飛幸三	講談社	1
平穏死という生きかた	石飛幸三	幻冬舎	1
老人の美学	筒井康隆	新潮社	1
ひとりでも最後まで自宅で	森　清	教文館	1
母の家がごみ屋敷　高齢者セルフネグレクト	工藤　哲	毎日新聞出版	1
エンド・オブ・ライフ	佐々涼子	集英社ｲﾝﾀｰﾅﾁｮﾅﾙ	1
在宅ひとり死のススメ	上野千鶴子	文春新書	1
日本国憲法	松本弦人	TAC 出版	1
先生、どうか皆の前でほめないで下さい	金間大介	東洋経済新報社	1
８０歳の壁	和田秀樹	幻冬舎新書	1
コミュ障のための社会学-生きづらさの正体をさぐる-	岩本茂樹	中央公論社	1
思いがけず利他	中島兵志	三島社	1
ルポ食が壊れる	堤　未果	文春新書	1
母親になって後悔してる	オルナ・ドースト	新潮社	1
透析を止めた日	堀川恵子	講談社	1

公衆衛生学		**塚田三香子**	
国民衛生の動向　2024/2025	厚生統計協会	厚生統計協会	1
図説　国民衛生の動向　2024/2025	厚生統計協会	厚生統計協会	1
岩波ブックレッド			
アスベスト問題	宮本憲一 ほか	岩波書店	1
アメリカ産牛肉から食の安全を考える	岡田幹治	岩波書店	1
いのちの選択	小松美彦 ほか	岩波書店	1
介護認定	小竹雅子 ほか	岩波書店	1
学校給食	牧下圭貴	岩波書店	1
新型インフル ハンデミックを防ぐために	外岡立人	岩波書店	1
データでわかる世界と日本のエネルギー大転換	レスター･Ｒ.ブラウン	岩波書店	1
地球温暖化 ほぼすべての質問に答えます	明日香壽川	岩波書店	1
内部被曝	矢ヶ崎克馬 ほか	岩波書店	1
Ｂ型肝炎	奥泉尚洋 ほか	岩波書店	1
放射能汚染と学校給食	牧下圭貴	岩波書店	1
母乳と環境	本郷寛子	岩波書店	1
血液と健康	三浦恭定	裳華房	1
したたかなウイルスたち	生田和良	裳華房	1
アレルギーとアトピー	矢田純一	裳華房	1
糖尿病の本当のはなし	清野　裕 ほか	裳華房	1
動き出した遺伝子医療	松田一郎	裳華房	1
ヒトゲノムの光と影	佐伯洋子	裳華房	1
脳と心の化学	大木幸介	裳華房	1
現代の感染症	相川正道 ほか	岩波書店	1

運動生理学		**齋藤　謙**	
運動の仕組みと応用	中野昭一	医歯薬出版	2

臨床栄養学Ⅱ		**齋藤　謙**	
図説 病気の成立ちとからだⅠ	中野昭一	医歯薬出版	2
図説 病気の成立ちとからだⅡ	中野昭一	医歯薬出版	2
人体の構造･機能と疾病の成り立ち	奈良信雄	医歯薬出版	1
イラスト人体の構造と機能および疾病の成り立ち	加藤昌彦	東京数学社	2

スポーツ栄養学		**浅野純平**	
強くなるスポーツ栄養学	成田和子	日本文芸社	2
栄養と運動	跡見順子 ほか	杏林書院	3
スポーツと健康の栄養学	下村吉治	ナップ	2
これでなっとく使えるスポーツサイエンス	征矢英昭 ほか	講談社	1
これからの健康とスポーツの科学	安部　孝 ほか	講談社	1
実践的スポーツ栄養学	鈴木正成	文光堂	1
基礎から学ぶ！スポーツ栄養学	鈴木志保子	ベースボールマガジン社	2
アスリートのためのスポーツ栄養学	柳沢香絵	学研	1

スポーツ・運動栄養学（栄養科学シリーズNEXT）	加藤秀雄 ほか	講談社	1
新版 コンディショニングのスポーツ栄養学	樋口　満	市村書店	1

栄養指導論		伊藤雅子	
食事バランスガイド	第一出版編集部	第一出版	2
イラスト栄養教育・栄養指導論	城田知子 ほか	東京数学社	1
演習栄養教育	大里進子 ほか	医歯薬出版	1
医師の感情「平静の心」がゆれるとき	ダニエル・オーフリー	医学書院	1
食事摂取基準入門	佐々木　敏	同文書院	1
栄養指導論（エスカベーシック）	古畑　公 ほか	同文書院	1
イラストで学ぶ栄養士･管理栄養士の世界	末永美雪	学建書院	1
データ栄養学のすすめ	佐々木　敏	女子栄養大学出版部	1
栄養･運動で予防するサルコペニア	雨海照祥	医歯薬出版	1
高齢者を低栄養にしない20のアプローチ	吉田貞夫	メディカ出版	1
リハビリテーション栄養Q＆A＋症例7	田村佳奈美	メディカ出版	1
食品成分最新ガイド栄養素の通になる	上西一弘	女子栄養大学出版部	1
実践に役立つ栄養指導実例集	井川聡子	理工図書	1
私の患者になってくれてありがとう	井上義文	フジメィカル出版	1
基礎から学ぶ栄養学研究	村上健太郎	建帛社	1

ライフステージ栄養指導論		須磨亜沙子	
食物アレルギーAtoZ	中村丁次 ほか	第一出版	1
食物アレルギー診療ガイドライン	宇理須厚雄 ほか	協和企画	1
保護者と学校の先生に伝えたい食物ｱﾚﾙｷﾞｰの基礎知識	小林陽之助	診断と治療社	1
小児・思春期糖尿病管理の手引き		南江堂	1
摂食障害		金剛出版	1
嚥下障害の臨床	苅安　誠	医歯薬出版	1
小児思春期1型糖尿病診療ガイド	日本糖尿病学会	南江堂	1
保護者からの質問に自信を持って答える 小児食物アレルギーQ＆A	海老澤元宏	日本医事新報社	1
こどもの糖尿病と治療	浦上達彦	メディカ出版	1
おいしく食べたい食べさせたい	金丸晶子	インカーメディカ	1
そのまま使える！ｼｰﾝ別ｱﾚﾙｷﾞｰの栄養食事指導	海老澤元宏	南山堂	1
精神疾患の栄養指導	功刀　浩	講談社	1
摂食嚥下障害の栄養食事指導マニュアル	藤谷順子	医歯薬出版	1

生化学実験		浅野純平	
新生化学受験講座			
第1巻　タンパク質Ⅰ	日本生化学会	東京化学同人	1
第1巻　タンパク質Ⅴ	日本生化学会	東京化学同人	1
第2巻　核酸Ⅰ	日本生化学会	東京化学同人	1
栄養アセスメントに役立つ臨床検査値の読み方考え方 ケーススタディ	奈良信雄	医歯薬出版	2
ワラック検査値ハンドブック		医歯薬出版	1
タンパク質実験ノート 上・下	岡田雅人 ほか	羊土社	各1
標準臨床検査医学　第4版	高木康也 ほか	医学書院	1

栄養学実習		浅野純平	
基礎栄養学実験（Nブックス実験シリーズ）	木元幸一 ほか	建帛社	1

ライフステージ栄養学実習		豊嶋瑠美子	
高齢者の食介護ハンドブック	手嶋登志子	医歯薬出版	1
食物アレルギーの栄養指導	海老澤元宏	医歯薬出版	1
介護食ハンドブック	手嶋登志子	医歯薬出版	3
食べるのが好きになる離乳食	猪野雅孝	女子栄養大学出版部	1
食べない子が食べてくれる幼児食	加藤初枝 ほか	女子栄養大学出版部	1
これからの応用学演習・実習	渡邉早苗	朝倉書店	1
子どもが喜ぶ食物アレルギーレシピ	海老澤元宏	成美堂出版	1
病院・施設のための嚥下食	栢下　淳	医歯薬出版	1

ピラミッドによる咀嚼・嚥下困難者レシピ 100			
JISS 国立スポーツ科学センターアスリートレシピ	JISS 国立スポーツ科学センター	主婦と生活社	2
あんしん、やさしい最新離乳食オールガイド	堤ちはる	新星出版社	1

臨床栄養学実習		**須磨亜沙子**	
カラー版　一品料理 500 選	宗像伸子	医歯薬出版	2
カラー版 ビジュアル治療食 300		医歯薬出版	1
せんぽ東京高輪病院 500kcal 台のけんこう定食	足立香代子	ワニブックス	1
せんぽ東京高輪病院 日本一の減る塩定食	足立香代子	ワニブックス	1
国循の美味しい！かるしおレシピ	国立循環器医療センター	セブン&アイ出版	1
国循の美味しい！かるしおレシピ（続）	国立循環器医療センター	セブン&アイ出版	1
国循の美味しい！かるしおレシピ（続々）	国立循環器医療センター	セブン&アイ出版	1
塩分一日 6g の健康献立	香川達雄	女子栄養大学出版部	1
腎臓病たんぱく質 30g の献立集	宮本佳代子 ほか	女子栄養大学出版部	1
腎臓病たんぱく質 40g の献立集	宮本佳代子 ほか	女子栄養大学出版部	1
聖路加国際病院の愛情健康レシピ	聖路加国際病院	永岡書店	1
長寿一位の長野県式・減塩ごはん	長野県栄養士会	マイナビ	2
きよせの森総合病院の極上健康レシピ	土屋忠保	ソフトバンク	1
奥薗壽子の超かんたん！極うま減塩レッスン	奥薗壽子	ＰＨＰ研究所	1
奥薗壽子の超かんたん！糖尿病ごはん	奥薗壽子	ＰＨＰ研究所	1
女子栄養大学栄養クリニック 糖尿病バランスレシピ	女子栄養大学クリニック	西東社	1
東京医科大学病院のおいしい コレステロール・中性脂肪対策レシピ	榎本眞理	主婦の友社	1
「かる塩」「かる糖」料理帖	山脇リン	小学館	1
亀田総合病院の血圧が高めの人のための おいしい減塩レシピ	亀田総合病院栄養管理室	ＰＨＰ研究所	1
ホテルシェフと大学病院の管理栄養士が考えた おいしくやせる 480kcal レシピ	横山雅好 ほか	ＰＨＰ研究所	1
おいしい血圧対策レシピ	検見崎聡美	主婦の友社	1
透析を予防する！専門医が教える腎臓病の治療法と おいしいレシピ	金沢良枝	ナツメ社	1
100 歳まで元気！強い血管をつくる塩分カットレシピ	高沢謙二	角川マガジンズ	1
関西電力病院のおいしい糖尿病レシピ	清野　裕 ほか	主婦の友社	1
高血圧を下げる！ラクラクへるしお減塩レシピ	今泉久美	主婦の友社	1
長野県栄養士会の野菜たっぷり減塩レシピ	長野県栄養士会	マイナビ	1
京都医療センター メタボ外来の 3 か月で確実！やせるレシピ	京都医療センター	セブン&アイ出版	1
糖尿病専門病院が教える日本で一番おいしいレシピ	池田医院	世界文化社	1
おいしい＋予算内の病院食レシピと治療食への展開	武蔵裕子 ほか	瀬谷出版	1
臨床調理	玉川和子	医歯薬出版	1

栄養指導実習		**伊藤雅子**	
一分で一生の信頼を勝ち取る法	矢野　香	ダイヤモンド社	1
「話し方」に自信がもてる	秋竹朋子	ダイヤモンド社	1
会話力があがる 大人のはきはき「滑舌」上達ドリル	花形一実	メイツ出版	1
栄養管理プロセスを活用した栄養指導・実例集	中村丁次	日本医療企画	1
プレゼンテーション ZEN	ガーレイノルズ	丸善出版	1
佐々木敏の栄養データはこう読む！	佐々木敏	女子栄養大学出版部	1
CD　桂文我　上方落語全集第１巻（上）	桂　文我	パンローリング（株）	1
CD　桂文我　怪噺　5	桂　文我	パンローリング（株）	1
＊CD は AV コーナーにあり			
目でみるからだのメカニズム　第２版	境　章	医学書院	1
フリーランスで活躍したい管理栄養士の本	中田恵津子ほか	女子栄養大学出版部	1
聞く技術聞いてもらう技術	東畑開人	筑摩書房	1
栄養指導ステップアップ BOOK	北島幸枝	MC メディカ出版	1
国語辞典をたべあるく	サンキュータツオ	女子栄養大学出版部	1
行動栄養学とはなにか？	佐々木　敏	女子栄養大学出版部	1
食品でひく機能成分の事典	中村宣督	女子栄養大学出版部	1
話す力心をつかむ 44 のヒント	阿川佐和子	文藝春秋	1

ライフステージ栄養指導実習		須磨亜沙子	
たべもの・食育図鑑	井上幸子 ほか	群羊社	2
はじめよう食育	長嶋正實　ほか	東山書房	1
効果のみえる栄養指導の方法と実際	井上正子	南江堂	1
実践に役立つ栄養指導事例集	井川聡子 ほか	少年写真新聞社	1
応用栄養学 栄養ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ演習・実習 第5版	竹中　優	医歯薬出版	1
電子レンジを活用した調理 ―加熱特性を知り健康を支援する―	肥後温子	建帛社	1

給食管理実習Ⅰ・Ⅱ		伊藤雅子	
イラストで見る はじめての大量調理	殿塚婦美子 ほか	学建書院	1
給食施設のための献立作成マニュアル	赤羽正之	医歯薬出版	1
衛生管理&調理技術マニュアル（ﾃｷｽﾄｺｰﾅｰ）	文部科学省	学建書院	1
給食のための基礎からの献立作成	上地加容子 ほか	建帛社	1
学校給食調理従事者研修マニュアル	文部科学省	学建書院	1
改訂新版 大量調理	殿塚婦美子	学建書院	1
調理科学のなぜ？	松本仲子	朝日新聞出版	1
臨地実習･校外実習ハンドブック	藤原政嘉 ほか	みらい	1
めざせ！栄養士・管理栄養士 　まずはここからナビゲーション	小野章史	第一出版	1
栄養士課程実習ノート	熊沢明子 ほか	医歯薬出版	1
ステップアップ臨地・校外実習	長谷川輝美	建帛社	1
六訂大量調理施設衛生管理のポイント	全国食品衛生主管課長連絡協議会	中央法規	1
調理の基本　まるわかり便利帳	松本仲子	女子栄養大学出版部	1
衛生管理調理技術 Q&A	田中延子 編集代表	学建書院	
ピュイゼ　子どものための味覚教育　食育入門編	石井克枝	講談社	1
基礎から学ぶ栄養学研究	村上健太郎	建帛社	1
臨床栄養入門　レジデント	雨海照祥ほか	文光堂	1
食べもの重量早わかり	篠崎奈々 ほか	女子栄養大学出版部	1
「食」をとおして育つもの・育てたいもの	堤ちはる	ぎょうせい	1
記者ハンドブック　新聞用字用語集　第14版	共同通信社	共同通信社	1

調理学実験		豊嶋瑠美子	
健康を考えた調理科学実験	今井悦子	ｱｲ･ｹｲｺｰﾎﾟﾚｰｼｮﾝ	2
食品機能性の科学	平川研次郎	産業技術ｻｰﾋﾞｽｾﾝﾀｰ	1
調理科学	調理科学研究会	光生館	1
「こつ」の科学　調理の疑問に答える新装版	杉田浩一	柴田書店	2
新版　お菓子「こつ」の科学	河田昌子	柴田書店	2

フードコーディネート論		豊嶋瑠美子	
フードコーディネーター教本 2021	日本フードコーディネート協会	柴田書店	1
フードコーディネーター用語集	日本フードコーディネート協会	柴田書店	1
盛りつけの発想と組み立て	まちやま ちほ	誠文堂新光社	1
盛りつけ&セッティング55のポイント	落合なお子	ﾒｲﾂ出版	1
おもてなしの教科書（美人開花シリーズ）	山本侑貴子	ワニブックス	2
テーブルナプキンの折り方100パターン	浜　裕子	誠文堂新光社	1
テーブルコーディネートの発想と技法	浜　裕子	誠文堂新光社	1

食品の官能評価・鑑別演習		豊嶋瑠美子	
官能評価士テキスト	日本官能評価学会	建帛社	2
食の官能評価入門	大越ひろ	光生館	2
メディカルハーブ事典	ティエラオナ・ロウ・ドッグ	日経ﾅｼｮﾅﾙｼﾞｵｸﾞﾗﾌｨｯｸ社	2
日本食品大事典	杉田浩一	医歯薬出版	2
必読 官能評価士認定テキスト	日本官能評価学会	露出版社	1

生徒指導		佐藤光咲	
新･生徒指導 12 講	楠本恭久 ほか	福村出版	1
生徒指導の研究	高橋哲夫	教育出版	1
生徒指導・進路指導（新・教職課程シリーズ）	林　尚示	一藝社	1
いじめ、虐待、そして犯罪の深層	町沢静夫	丸善出版	1
問題行動と学校の荒れ	加藤弘道	ナカニシヤ出版	1
生徒指導の理論と方法	江川玟成	学芸図書	1

教育相談（健康栄養専攻）		佐藤光咲	
子どもの成長を支える発達教育相談	鎌倉利光 ほか	北樹出版	1
教育相談（新・教職課程シリーズ）	羽田紘一 ほか	一藝社	1
河合隼雄のカウンセリング入門	河合隼雄	創元社	1
河合隼雄のカウンセリング教室	河合隼雄	創元社	1
学校教育相談	丸藤太郎 ほか	ミネルヴァ書房	1
こころの科学叢書 教育相談入門	高野久美子	日本評論社	1
教育相談 その理論と方法	江川玟成	学芸図書	1

栄養教育実習指導 栄養教育実習		佐藤光咲・須磨亜沙子	
食の授業アイデア集－ワークショップでつくる	藤本勇二	全国学校給食協会	1
基礎からわかる･授業に活かせる食育指導ガイドブック	中村丁次 ほか	丸善	1
すぐにできるアイデア食育	京都食育キャラバン隊	東山書房	1
朝ごはん指導実践事例集	金田雅代	少年写真新聞社	1
給食＆食育だよりセレクトブック	橋本秀美	少年写真新聞社	1
食育早わかり図鑑 1～2	稲村　修	群羊社	各 2
入門･食育実践集	藤本勇二	全国学校給食協会	2
はじめての食育授業	江口敏幸 ほか	群羊社	1

教職実践演習（栄養教諭）		佐藤光咲	
新･教職リニューアル	篠原清昭	ミネルヴァ書房	1
よくわかる栄養教諭	藤澤良知	同文書院	1
給食・食育で子どもが変わる	新村洋史	新日本出版社	2
最新 教育動向 2025	教育の未来を研究する会	明治図書	1
世界の学校給食・食育の歴史	新村洋史	績文堂出版	1